ほ乳類最強の男藤田和之ド迫力に光臨!!

2000 27

# 紙のプロレス RADICAL

追悼 さらば怪物!! ジャンボ鶴田




ズバリ言って、凄ェもんを見たというか! ホイス完封記念インタビュー
## 桜庭和志 withサクラバマスク

無差別級王座陥落! ここからが始まりだ!!
## 田村潔司

満を持して登場! もはやこの男の出番!
## 金原弘光

オーちゃんに長州力を取られた邪道が「闘う国会議員」に直訴! 究極のハイテンション対談実現!
## 大仁田厚vs馳浩

掣圏道がマット界を掣圏する! 師弟対談です! 押忍(敬礼)!
## 佐山聡vs田中健一

驚! ドームで実際に被ったマシン風マスクを、サクが紙プロ読者にプレゼントしてくれたゾォォォ!!

リングス無差別級王者or悪ガキ『PRIDE』登場を咆哮三昧!!
## ギルバート・アイブル

ブラジル第三世代の驚異!!
## マリオ・スペーヒー ヒカルド・アローナ レナート・ババル

オクタゴンからWWFに、そして『PRIDE』へ アレクを返り討ちにした究極の振り幅男見参!
## ケン・シャムロック

真のグレイシー物語はいま始まった!!
## ホイス&ホリオン&エリオのその後

堀辺正史骨法創始師範が桜庭の勝利は四つあると断言!

4·20リングス→5·1桜庭完勝→5·5謎の白覆面→5·26『コロシアム2000』
# 「新プロレス」は連鎖する!

紙プロという場に強豪続々来襲!

驚愕! 人生、アレク相手に連戦デビューした平直行、36歳! この男にロング・インタビュー

I編集長こと、井上義啓がハイパー喫茶店トーク開陳です

斉藤彰俊に、せき詩郎が涙の邂逅

椎名基樹 inメヒコ! 本場・闘龍門に潜入!

インディー情報局「狂い咲きインディーロード」開局!

★オーちゃんよ、どこへ飛ぶ! 格闘連鎖座談会、ボッ発!!

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188


話題沸騰！　本書は、“燃える情念”石川雄規からの「挑発状」である。
「ザマァミロッ!!　読まない奴がバカなんだッ!!」(byイカレ社長)
情念
石川雄規著
～夢一途なり～
全国書店&プロレスショップにて
絶賛発売中!!
書いて 書いて 文字書いて
裸になったら見えてきた
本当の自分の姿
（アントーイ石川）
『紙のプロレスRADICAL』誌上で約2年半続いた、ドラマチックな自叙伝的連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！
さらに創作劇場も歴史的インタビューもある、『読まなっかたら、墓を掘り起こして骨壷に糞を入れられる』という情念の新刊！
この本を読んだら20世紀ももう終わっていい…
情念
石川雄規
ユウキが一番！
アントニオ猪木
3／26チャンピオン東京店でのサイン会も大盛況!!
これも期待！ 闘魂ベルト文
アントニオ猪木
何としても手に入れたい!! という情念溢れるアナタのために通販を行います!!
定価¥1700＋宅急便送料¥500を現金書留で下記住所まで送ってください
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
㈱ダブルクロス　「情念固め」係まで　℡03-3403-5188
四六判ハードカバー
定価1619円＋税
発売：ワニマガジン社　発行：ダブルクロス
問い合わせ：03-3403-5188(ダブルクロス)



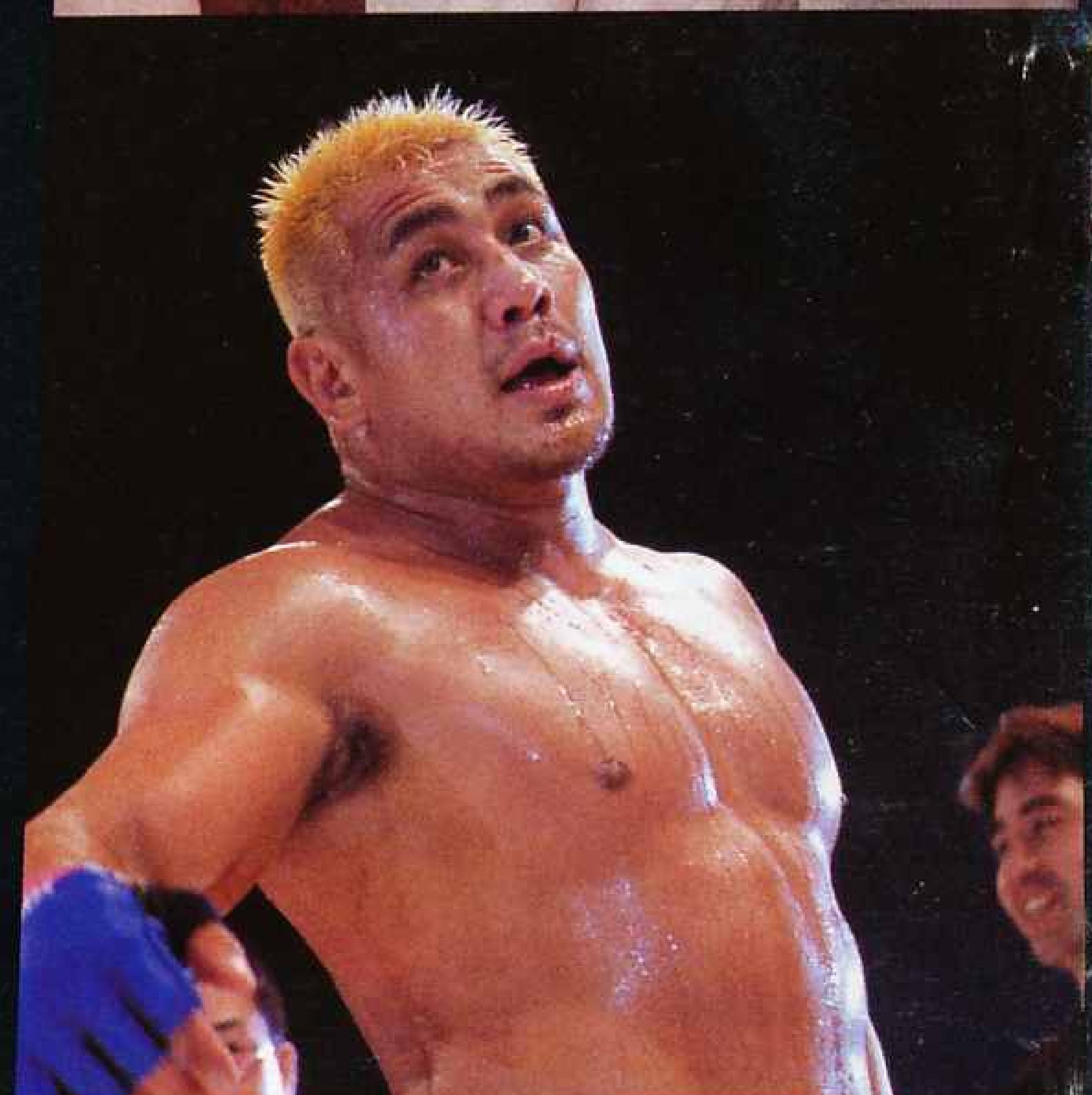


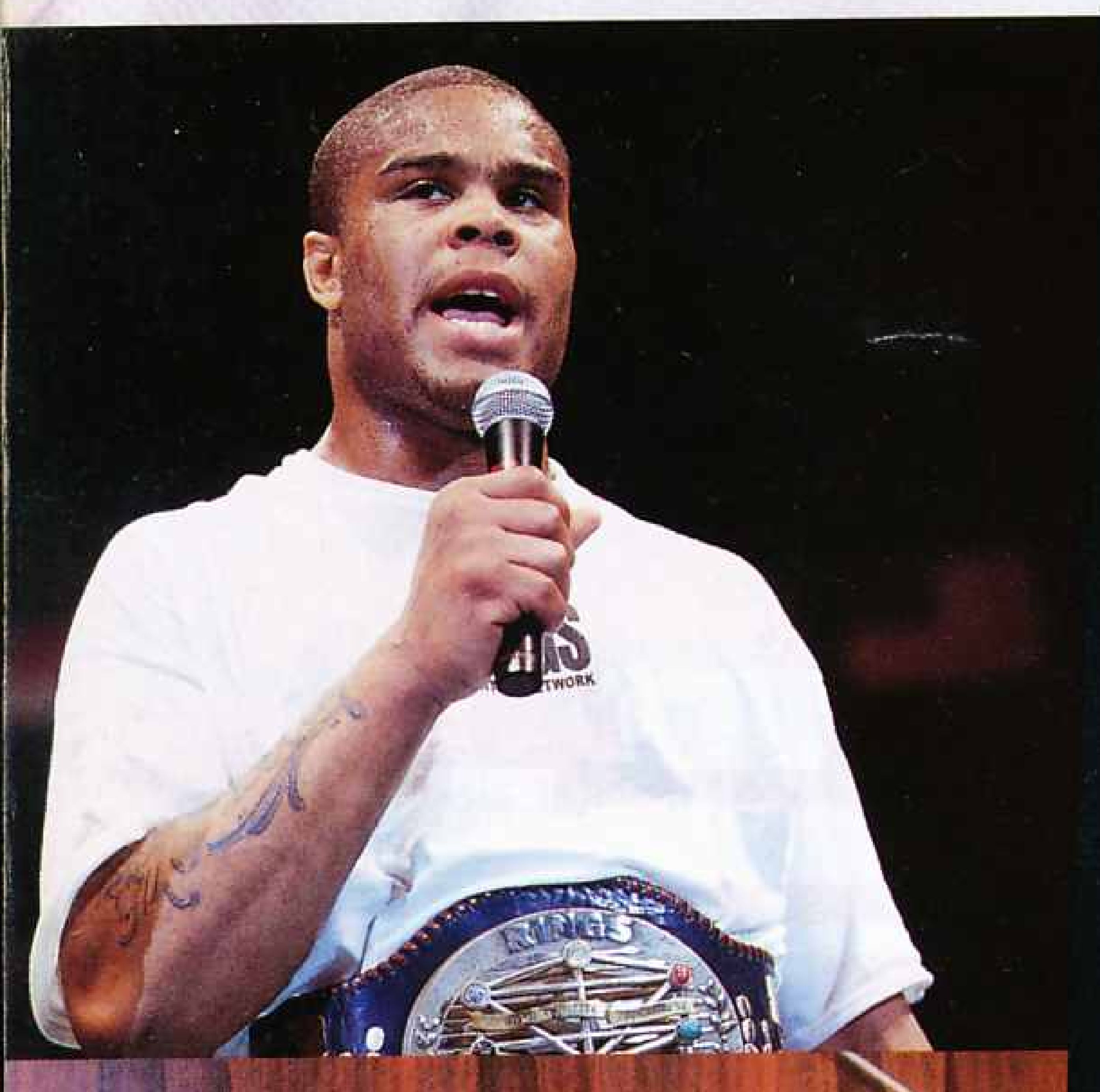
4・20、5・1、5・5、そして5・26……。

# 〝格闘連鎖〟続行ーッ

新プロレスが一直線につながった!!



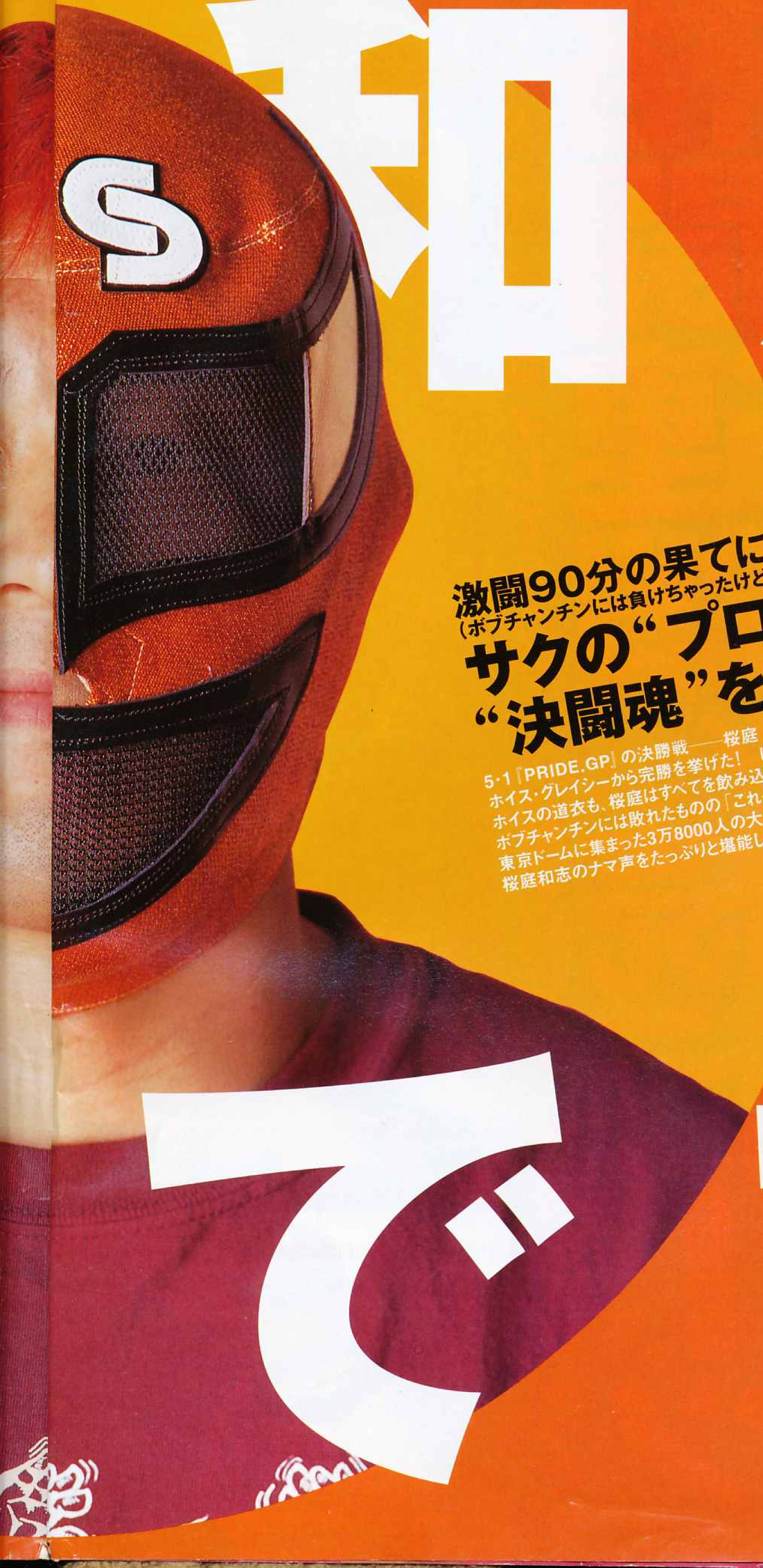












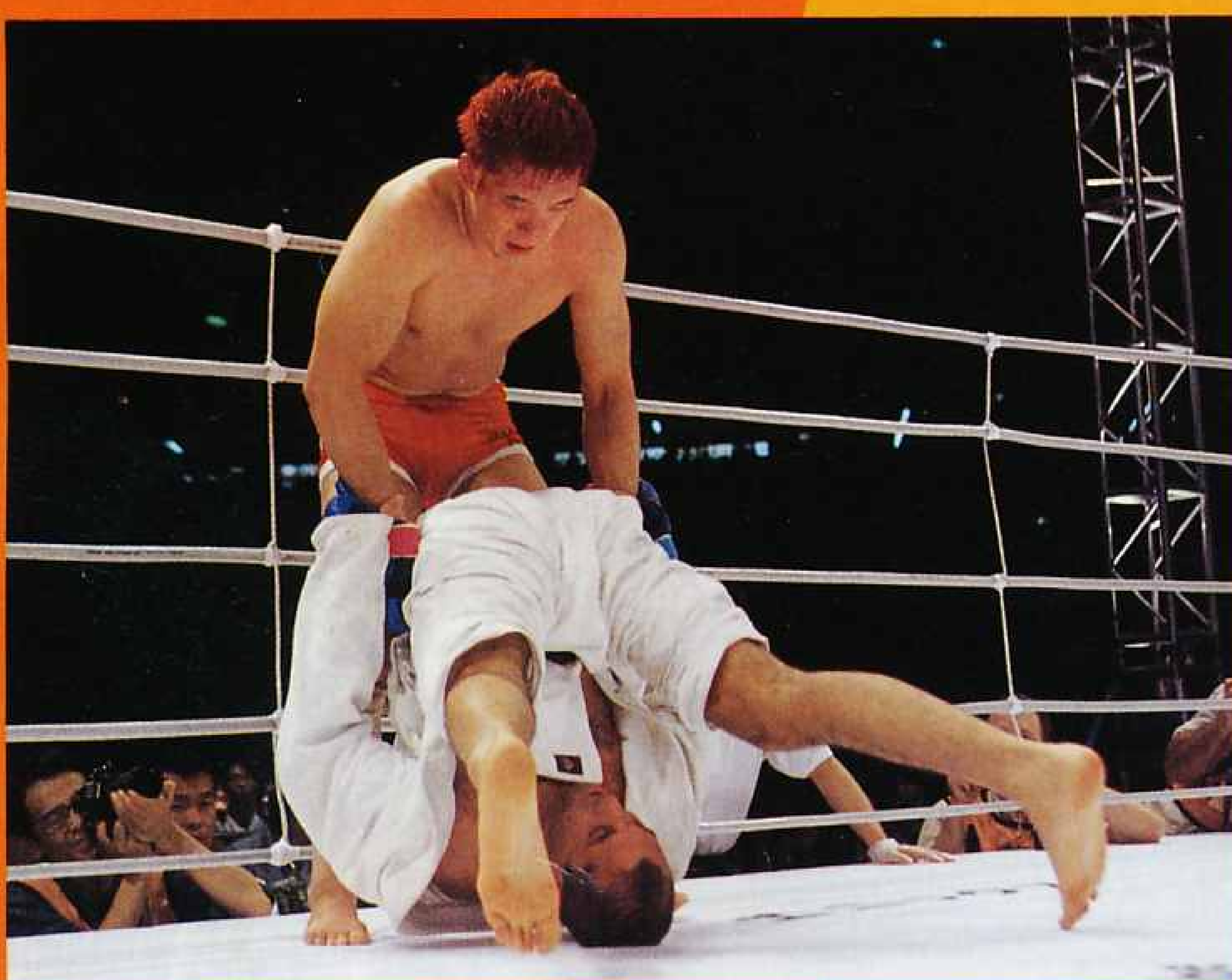
# 和志です!!

激闘90分の果てに、ホイス撃破!
(ボブチャンチンには負けちゃったけど)

## サクの"プロ魂"が"決闘魂"を粉砕したぞーッ!!

5・1『PRIDE.GP』の決勝戦――桜庭　和志は、グレイシー幻想の"震源地"である
ホイス・グレイシーから完勝を挙げた！　しかも、判定決着なしの"グレイシー・ルール"も、
ホイスの道衣も、桜庭はすべてを飲み込んだ上で90分間という時間の長さを感じさせずに完勝したのだ。
ボブチャンチンには敗れたものの「これぞ、プロ！」「これぞプロレスラー！」「VIVA！　桜庭！」という闘いを
東京ドームに集まった3万8000人の大観衆を揺さぶってみせた。
桜庭和志のナマ声をたっぷりと堪能してください。

# 桜庭



格闘連鎖2000

聞き手／山口日昇（久しぶりの失踪中）
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

構成／スモーノブ
text by Somo Nobu

本文構成／中村カタブツ君
text by Katabutsukun Nakamura



# 最高

――いやぁ、ホイス戦はホントに興奮しました（笑）。福永法源は捕まってしまいましたけれど、桜庭さん、いまの気持ちは最高ですかーッ！（笑）

**桜庭**　いやぁ、最高じゃないです。

――ガクッ！　なんでですか？

**桜庭**　ボブチャンチンに負けたからですよ。その日の夜は寝れなかったですからね。試合のときは、いつも興奮状態がずっと続いて寝れないんですけど、こないだのときはボブチャンチンの入場曲が頭から離れなくて。

――ガハハハ！　夢にまで出るような（笑）。

**桜庭**　でも、どうしても寝たいから、『サザエさん』の主題歌で打ち消そうとしたんですけど、それでも駄目で。

――なにをやってるんですか、天下のグレイシー越えをした男が（笑）。

**桜庭**　で、『笑点』も使ってみたんですけど、やっぱりボブチャンチンのは消えなかったですね（笑）。

――テーマ曲がトラウマになっちゃったんですか（笑）。だけど、ホイス戦勝利、おめでとうございます！

**桜庭**　ありがとうございます（笑）

――で、ホイス戦には、ボクなりに10個の驚きがあったんですよ。やっぱり"驚きその1"は入場なんですけど、予告どおり増殖してくれましたね（笑）。マスクを着けて出るっていうのは、いつ頃思い浮かんだんですか？

**桜庭**　それは、2ヶ月ぐらい前です。初め、冗談で「向こうがグレイシートレインで出てくるなら、こっちは飛行機にしよう」とかって話をしてたんですよ。誰か真ん中の人が羽根つけて。それで「結局、人数増えるんだったらストロング・マシーンしかねえよな」ってなって（笑）。

――あの入場は抜群でしたよ（笑）。しかも、猪木さんが花束渡すときも三人一緒で受け取ったりと芸が細かったですね（笑）。

**桜庭**　あの時、猪木さんが「誰？　誰に渡せばいいの？」って言うから三人で「お願いします！」って言ったんですよ（笑）。だって、そこでボクが貰ったらバレちゃうじゃないですか。まあ、最初からバレてたけど（笑）。とりあえず入場前には、「自分が試合するつもりでやってね」って松井と稔に言って。でも松井、足太いからすぐバレちゃう（笑）。

――それに、桜庭さんのヒザサポーターにだけDSEのサインが入ってましたからね（笑）。で、ちょっと試合を振り返ってみたいんですけど、1ラウンドで、開始のあとすぐにホイスがタックル来たじゃないですか。これは別に慌てなかったんですか？

**桜庭**　全然。ビデオ見たらあの人必ず先に仕掛けるから。

――先に仕掛けさせるのは作戦？

**桜庭**　先に仕掛けてもらったほうが、こっちもやりやすいです。

――"驚きその2"はホイスの引き込みを突き放したことですね。

**桜庭**　あ、そうですか？　ボクは付き合うのが嫌だったんで突き放しただけで。

## ボブチャンチンのテーマ曲がトラウマになってしまって（笑）



果てしなく続く"グレイシー・トレイン"で入場してきたホイス陣営。さすがに今回ばかりは、入場の段階からブーイングが飛び交う、見事なヒールっぷりだった。

――そりゃ、そうなんですけど（笑）。あれは、いままでホイスが見せたことないシーンじゃないですか。

**桜庭**　練習だったら引き込まれますけど、試合だから付き合わなくてもいいんじゃないですかね。ホントは、もう一つ考えてたんですよ。グラウンドから立ち上がって起こしてやろうって。彼は道衣着てるから、道衣の襟掴んで、無理矢理立たせてやろうかと思って（笑）。

――ガハハハ！　ただ、立たせるだけ。悪質だなぁ（笑）。あれは、グレイシーにとっては予想できないことだったんじゃないですかね、宙吊りにされるっていうのは（笑）。

**桜庭**　みんな、そのままグラウンド入ってますからね。

――ホイスなんか、特に引き込みに自信持ってると思うんですよね。

**桜庭**　軽かったですよ（笑）。自分で引き込んでるんじゃなくて、相手も「まあいいや」って思って付き合ってるから、いままで引き込めてただけじゃないですか。嫌だと思ってる相手を引き込めるほどの技術があったら、僕のこともそうできたはずだから。

――その辺はみんな勘違いしてたのかもしれないですね（笑）。1ラウンド開始早々、コーナーのところでアームロックを仕掛けてましたけど、あれは極まりそうだったんですか。

**桜庭**　初めは極まりそうだったんですけど、手が長くてやりづらかったんですよ。あと、道衣があるからポイントがずれちゃって。

――じゃあ、あそこでは「極まりそうもないかな」っていう感じだったんですか。

**桜庭**　初めのうちはいけそうかなって思ってたんですけど、向こうがコーナーんとこに押し付けてきたんで、どうしてもロープ際とかになっちゃって。あれが真ん中だったらひっくり返すことができたんですけど、あそこじゃ、ロープとか、コーナーが壁になるんで。無理矢理やろうとすると、僕が下になっちゃうんで。

――結局、そのアームロックの体勢になったままコーナーに押し付けられて、側頭部にパンチをいっぱいもらってましたよね。

**桜庭**　あれ、ちょっと痛かったです。効くっていうより「嫌だなぁ」って感じ（笑）。

――実況では「桜庭、嫌がってますよ」

格闘連鎖2000

って言ってましたけど。

桜庭　嫌がってました（ニコニコ）。

――それだけなんですか（笑）。チョークは怖くなかったんですか？

桜庭　チョークが来たら、そのまま場外に捨ててやろうかと思って（笑）。

――うしろから抱きつかれたときも全然問題なし？（笑）

桜庭　ただ押してるだけでした。「俺が女役かよ」って感じですよ（笑）。

――ガハハハ！　できるなら男役をやらせろよって（笑）。実際に組んでみて、1ラウンドで「これ、イケるな」っていう感触はあったんですか？

桜庭　最後の方ですね。アームロック取ったときは、まだスタミナが残ってたから、まだわかんなかったですけど、終わり際に膝十字やったときは「アレッ？」って思いましたよ。

――「え、こんな簡単に入っちゃうの？」って（笑）。

桜庭　はい（ニコニコ）。

――凄いなぁ（笑）だけど、試合後のコメントでは「あの膝十字はちょっとズレてた」って言ってましたけど。

桜庭　初めは入ってたんですけど、お尻を蹴られてズレちゃったんですよ。膝十字入ったときに、もっと密着してくると思ったんですけど、そういうのも全然なくて。

――膝十字に入ったところで1ラウンドが終わったんですけど、2ラウンドに入ると〝驚きその3〟があったんですよ。

桜庭　あ、話は戻りますけど、あの膝十字、ホイスが「2秒極まった」とか言ってたらしいですよ。「ケツ蹴ってエスケープした」って。「オーッ！　イチ、ニイ」って数えてたのかなぁ？（笑）

――グレイシーは数字好きですからね（笑）。

桜庭　数字で表せないものも、いっぱいあるんですよ。

――それが桜庭和志の怖さなんですよね。それで〝驚きその3〟なんですがコーナー際で、なんと道衣を被せにいったという（笑）。これは狙ってたんですか？

桜庭　狙ってましたねぇ（笑）。ホントはグラウンドでやろうと思ったんですよ、それで起き上がって被せて殴ろうと思ったんですけど。やっぱり厳しかったですね（笑）。



対する桜庭は、なんとマシンのマスクを被り3人に増殖して登場！
スクリーンにはサクマシーンが無限増殖したかのように映し出された。

――ところが、ホイスは試合翌日に「あれをするのはわかっていた、予想通りだ」って言ってたらしいですよ。

桜庭　あ、そうですか。悔しいな。

――ちなみに、あれは練習してたんですか？

桜庭　してましたよ、松井を相手に。結構イケますよ。道衣の端っこ掴んで引きずったりとか。松井の道衣の裾握って引きずったら、松井がゴロゴロゴロゴロまわっちゃて面白かったッスよ（笑）。

――それが決まったところは見たかったですね（笑）。ただ、つくづく桜庭さんは怖いなって思ったのは下の道衣まで脱がせにかかったことなんですよ（笑）。

桜庭　そんな失礼なことしないですよ（笑）。あれは、見た目は脱がしてるように見えますけど、僕は帯を取りたかったんですよ。それがズボンを脱がしてるように見えたんです。人間って腰浮かすと力入らなくなって移動できたりするんで、それで帯を掴んで身体を離したかったんですよ。

KAZUSHI SAKURABA

――タチの悪い心理戦術なのかなって思いましたけどね（笑）。

桜庭　さすがに下は脱がさないですよ。ボクも見たくないし（笑）。でもなんか、あのときポンポンッて叩いたのが、インターネットで「タップしたのがどうのこうの」って言われてたけど、あれはタップじゃなくて、ホイスが僕の急所を蹴って来たんですよ、膝で。それで「アイムソーリー」かなんか言ってきたから「大丈夫だよ、OK、OK」ってポンポンッて叩いたんですよ。「大丈夫」ってポンと叩いて「大丈夫だよ、OK」ってポンポンッって。一回言ってもわからないと思ったんで（笑）。

――その律儀さが誤解を生むことになったと（笑）。

桜庭　だけど、ビデオで見たら思いきり股間を蹴ってるんですよね（笑）。

――あれ、2ラウンドだったか、ちょっと忘れちゃったんですけど、島田レフェリーがブレイクかドントムーブかけたのをホイスは凄い嫌がってたじゃないですか。あれはなんだったんですか？

桜庭　スタンドでも、コーナーとかに押し付けて膠着があったら2分でブレイクするってルールだったんですよ。で、島田さんが「ストップ、ストップ」って言ってるのに「オレは攻撃してるだろ」みたいな感じで攻撃やめないから、だんだん腹立ってきて、一発バチーンってやっちゃったんですけどね（笑）。

――無制限ラウンドにしちゃったのが、逆に桜庭さんに有利になった部分ってあるんじゃないですかね？

桜庭　たぶん、そうだと思いますよ。スタミナはたぶん、ボクのがありますよ。10キロ走ったら、僕のほうが10分ぐらい早いんじゃないですか（笑）。

――ガハハハ！　数字で表すと（笑）。

桜庭　彼らには10倍とか、10分とか数字で言いあらわさないと、わかってもらえないから（笑）。

――それで意外なことに『格闘男』って写真集で桜庭さんはタバコ吸ってるんですよね。そんなタバコを吸ってる男になんでこんなにスタミナがあるんだって不思議で（笑）。

桜庭　ニコチンパワーですよ（笑）。

――ガハハハ！　もう「タバコ吸うわ、大酒飲むわ、なんでこの人スタミナあるんだろう？」と思って（笑）。スポーツ科学的には、やっちゃいけないことを結構やってるじゃないですか。なんでそんなに動けるんですかねぇ？

桜庭　練習してるからじゃないですか？　昔よりは落ちてますけど、落ちてる分、経験があるんで、スタミナを使わないようにセーブできる経験を生かして。自分の体力はどのくらいなのか、把握した上でやれば。……あと4ラウンドはできました（笑）。

――ガハハハ！　まさにプロレスラーの鑑ですね（笑）。それで3ラウンドでは今度は桜庭さんの膝蹴りがホイスの金的に入ったんですよね。

桜庭　はい、足が長いから、腹狙ったつもりが急所に入っちゃいました（笑）。

――ホントかなぁ？

桜庭　ホントですよ！　「届くかな？　でも急所に当たりそうだな」って思いながら「エイッ！」ってやったら急所に入りました（笑）。

――ガハハハ！　確信犯っぽいんですけどねぇ（笑）。

桜庭　でも、あれって芯から入ってる膝蹴りじゃないと思うんですよ。ちょっとは来たと思いますけど、ホントは休んでたと思うんですよ。アマレスでも、よく靴の紐ほどけて休む人とかいるから、ああいう感じで。ホントに入ったら、あんな状態じゃないですからね。

――でも一応、苦しそうな顔してたし、そのあとモンゴリアンチョップやったときに、スッゴいムカついてる顔してましたよ。

桜庭　でも、そのあと幸せにしてやったと思うんですよね（笑）。

――どういうことですか？

桜庭　モンゴリアンチョップやったあと、





## ボクはホイスを幸せにしてあげました（笑）。

"幸せチョップ"をやったから（笑）。

――モンゴリアンチョップをやると見せかけて両手を合わせて打つヤツですね（笑）。

桜庭　そう。もう思い切り、バチーンってやっても、心の中では「手と手の皺を合わせて、シアワセーッ！」ってやってたから（笑）。

――ガハハハ！　抜群です（笑）。そこで"驚きその4"なんですけど、ホイスがあんなにいろんな顔を試合中に見せたのは初めてなんですよ。ホイスがやっと喜怒哀楽を見せて、人間に戻った瞬間というか（笑）。だから、桜庭和志が引き出しましたよね。

桜庭　やっぱ幸せになったんですよ（ニコニコ）。

――で、そこからスタンドでも、ローをバッチンバッチン打ってったんですよね。グレイシー陣営が「桜庭和志はストライカーだ」って言ってる言葉通りに（笑）。

桜庭　それって、サッカーの選手ってことですかね？（笑）

――ガハハハ！　誰がそんなボケろって言ったんですか！（笑）

桜庭　でもホイスと比べたらボクのが打撃ができるから、ストライカーに見えるんじゃないですか？　で、ボクと比べたら、向こうのほうが寝技はうまいと思うんですよ。

――え、寝技うまいんですか？

桜庭　うまいと思いますよ。だから、そういう意味で「ストライカー」って言ってるんじゃないですか？　ただ、寝技全般がうまいって言うんじゃないですよ、だったら、1ラウンド目で膝十字かかる

わけないし。

――ただ、ホイスも殴られても、蹴られ

う状態だったじゃないですか（笑）。でも

# 桜庭和志 炎のバウトレビュー VS ホイス・グレイシー




…壁だった
…イスの
…ープに迫




試合開始早々、何とか組み付いて、グランドに引き込もうとするホイスだったが、桜庭はホイスをガッチリとキャッチして、ダッコちゃん状態でぶら下げてしまう。相手のペースには付き合わないサクであった。




猪木がマシン軍団に花束を渡す！　そんな夢のような光景が『PRIDE』のリングで実現した。「誰に渡そうか？」といった感じで猪木も戸惑ってみたり、「オレが！」「オレが！」とみんなでお辞儀するサクマシーンも"プロ魂"溢れまくっていた。



りました（笑）。

格闘連鎖2000

わけないし。

――ただ、ホイスも殴られても、蹴られても、すぐ立って来ましたね。試合翌日のコメントでは「昨日はアグレッシブに闘えた」って言って満足気だったらしいですよ。

**桜庭**　ボクよりもアグレッシブだったと思いますよ。ただ無制限ラウンドなんで自分の体力も考えて行かなきゃいけないじゃないですか。だから最後のほうでバテバテになったと思うんですよ。15分あるんだから、スタミナ配分しないといけないと思うんですよ。

――そういえば、試合前の怪我ってどうだったんですか？　猪木さんが高田道場に来て、痛い左足首を極められたときゾッとしませんでした？（笑）

**桜庭**　しましたね。あれはホンット痛かったです！（笑）

――ガハハハ！　桜庭和志が負けたら、猪木さんのせいだったかもしれませんね（笑）。

**桜庭**　いやぁ、そうは言いませんけど、試合中、左で蹴ったのは2～3回ぐらいですよ（笑）。

――そして4ラウンド。ダウンを取ってもいいぐらいの左フックやローキックとかがバンバン入って打撃で完全に有利になってましたよね。これが〝驚きその5〟だったんですよ。パンチでKO狙ってた部分はなかったんですか？

**桜庭**　それはないです。僕のパンチは威力ないんですよ、練習してないから（笑）。だから、あれは〝塵も積もれば山となるパンチ〟です。

――ガハハハ！　なんにでも命名しますね（笑）。

**桜庭**「塵も積もれば山となる！　パンチ、パンチ、パンチ！」ってやってれば、だんだんやられる方は疲れてくるんですよ（笑）。よく僕の動きを「アクションだ」とかって言ってくるじゃないですか。そのアクションも塵も積もれば山となるんですよ（笑）。

――〝塵〟って（笑）。

**桜庭**　ボクは相手にダメージを与えないアクションはしないんです（笑）。

――「理にかなったアクションだ」と…………ってアクションでいいんですか（笑）

**桜庭**　はい（ニコニコ）。

――それで、その時すでに60分近く試合してるんですけど、桜庭和志かホイス・グレイシーか、あるいは観客か、ドームの中で誰が最初に電池が切れるかっていう状態だったじゃないですか（笑）。でも一番最初に誰が電池切れたかっていうと、ボク発見しましたよ。

**桜庭**　誰ですか？

――島田裕二ですね（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ！

――だって「休め」の状態で突っ立ってんですよ。「なにしてんだ、このレフェリーは！」って（笑）。

**桜庭**　でも、試合終わってみて、あとの試合控えてた人に申し訳ないと思いますね。調子狂ったりすると思うんですよ。僕も前にそういう試合されたら「いつ終わるんだよ！」って思いますからね。

――終わりが見えない部分もありましたからね。4ラウンドに入っちゃうと、「あとは、どう仕留めるか」って感じだったんですか？

**桜庭**　いや、まだまだ（笑）。

――じゃあ、「そろそろイケるな」って感じたのは、何ラウンドぐらいですか？

**桜庭**「イケる」なんて思わなかったです。6ラウンド目終わった時点で高田さんが「向こうはタオル用意してるから、ガンガ



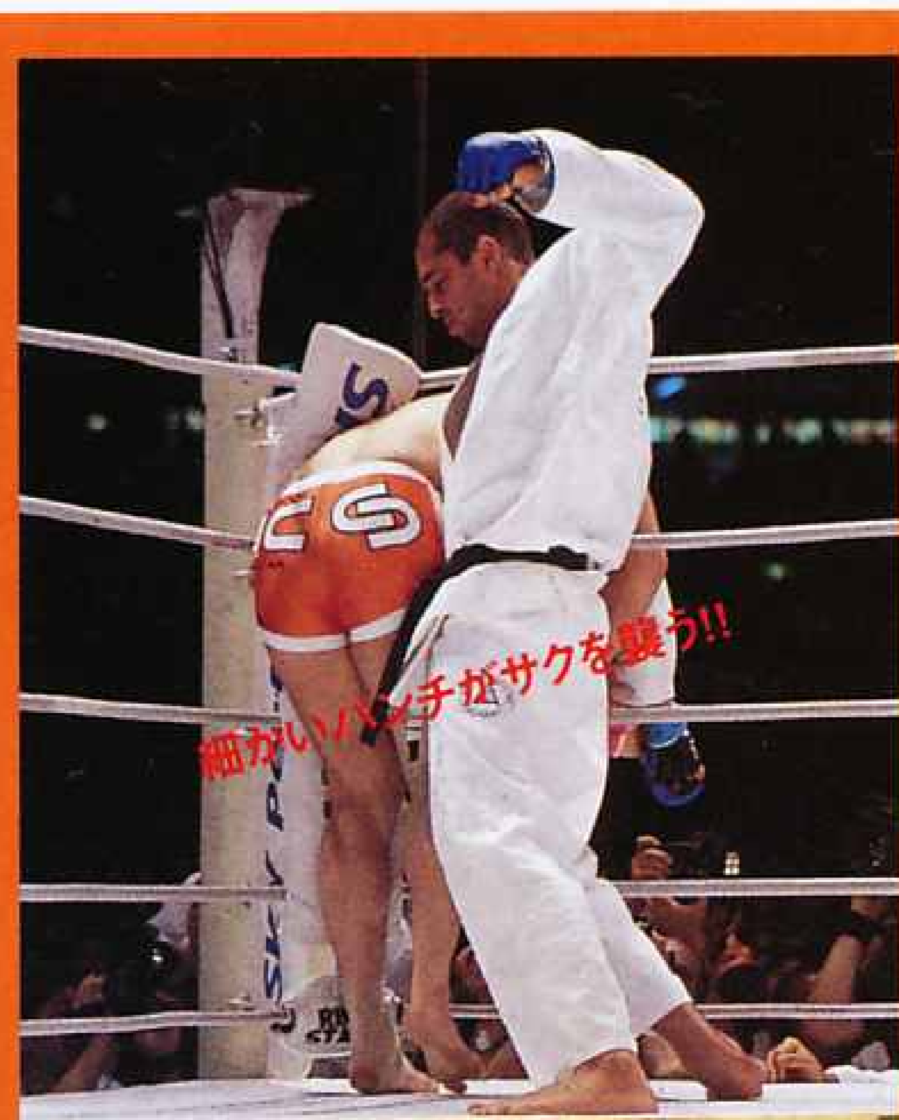




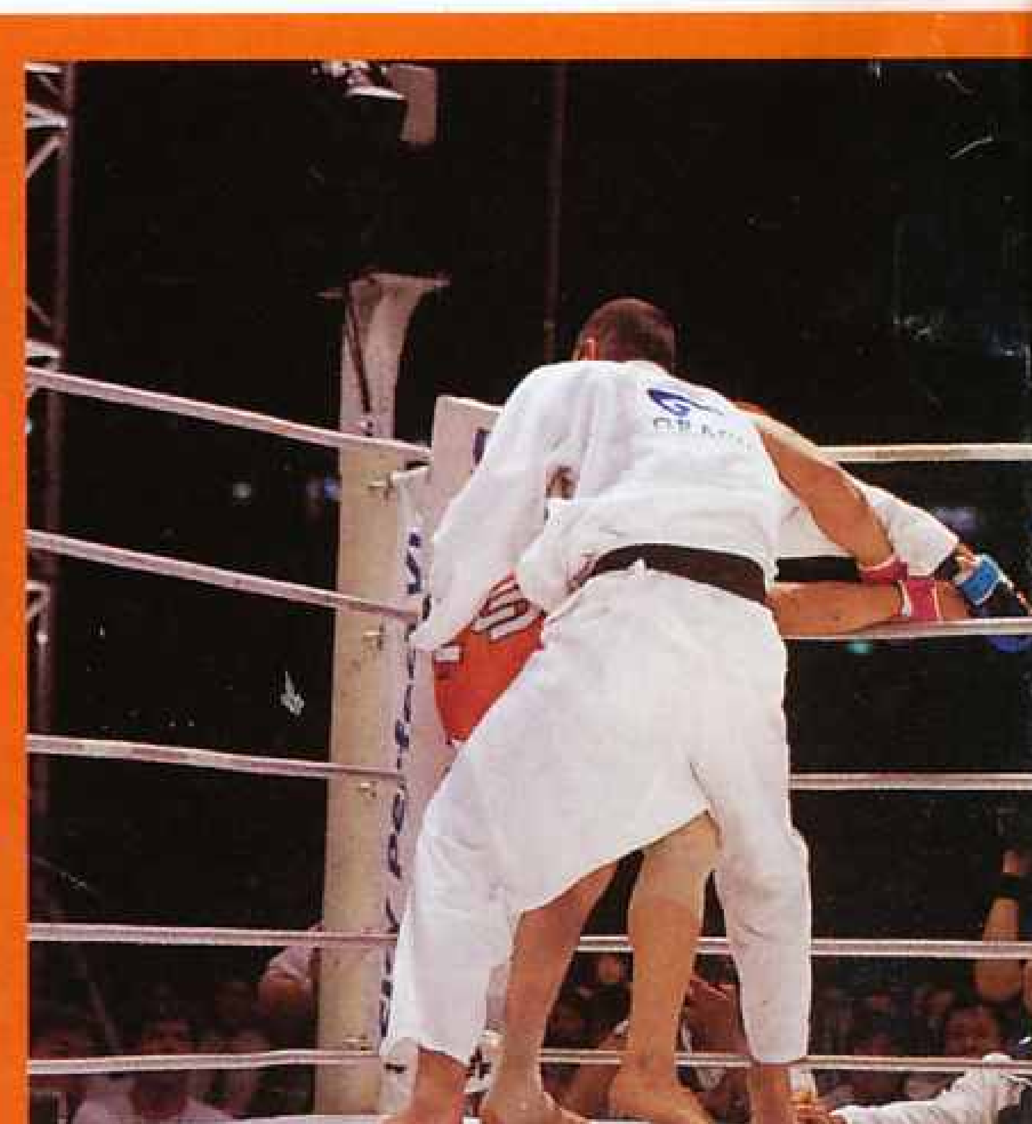

KAZUSHI SAKURABA




ホイスはバックを取ったが、あまり桜庭に対して意味のないことだ。鮮やかに上になったサクは、相手のロックを外して見事なヒザ十字固め！　苦悶の表情を浮かべたホイスだったが、1R終了のゴングに救われた。




なんとか腕を抜いたホイスは、サクをコーナーに押しつけて、コツコツと顔面や側頭部に細かいパンチを集めていく。こんな体勢からでも的確なパンチを打ち込めるのはグレイシーならでは。サクの顔が少しずつ腫れていく。



バックにまわられて、コーナーに押し込まれた桜庭だったが、慌てず、騒がず、お馴染みのアームロックでホイスの肘を伸ばしにかかる。ここで、カメラが桜庭のアップに迫るとサクは余裕の「ニヤリ！」場内大爆発！

ン行っていいんじゃない？」って言ってたんで、そこで「じゃあ、あと4ラウンドぐらい、行きますか」って言って。そしたら、そこで終わっちゃいましたね（笑）。

―「あと4ラウンドぐらいいきますか」（笑）。頼もしいですね。ただ、5ラウンドに入って初めて高田vsホイス状態というか、ホイス得意のガードポジションの状態になりましたよね。

**桜庭** ホイスも「そろそろ疲れたかなぁ？」と思ってグラウンドにいったんですよ（笑）。僕も疲れてきたから、ちょっと休もうと思ったし。

―ですけど、あれは俗に言うホイスの庭じゃないですか。そこに入った感触っていうのは、どうだったんですか？

**桜庭** 抱き心地、最高でした（笑）。

―ガハハハ！ 最高ですかーッ！（笑）

**桜庭** ヒャハハハ！ 思わず胸に頬っぺをスリスリして（笑）。でもちょっと毛深かったです。

―前回のホイスvs高田戦の時は高田さんが「こいつの道衣、臭いよ」とか言ってたみたいですけど、道衣は臭くなかったですか？（笑）

**桜庭** 大丈夫でした。「なんか綺麗な道衣着てんな」って思ったんで、髪の毛の色をつけて（笑）。

―汗まで拭いたりしてましたよね（笑）。で、ここで幸せチョップが出たんですよね。これは"驚きその6"だったんですよ。"驚きその7"は帯を持っての、AV用語で言うところの「まんぐり返し」ですか（笑）。しかも、あんな技が柔術の技だとはさらに驚きでしたね（笑）。

## ホイスの抱き心地は最高でした 思わず胸に頬っぺスリスリして（笑）

**桜庭** 柔道とかでもあるんじゃないですかね？ 帯取ってひっくり返すっていう。あれひっくり返して四つんばいにさせて、バック取ったりとか。

―でも、ひっくり返しただけならアレですけど、まんぐり返ししながら顔面にパンチ入れるっていうのがいいですね（笑）。

**桜庭** ちょうど顔があったんですよね。それでまた"塵も積もれば山となるパンチ"（笑）。

―だいぶ、積もらせましたよね（笑）。プロレスだったら、まんぐり返しのとき確実に3カウント入ってますし（笑）。考えてみると悔しいと思うようなことばっかりやってるんですよ、桜庭さんは。試合前のルール変更要求やそういうものをすべてぶつけて「こらしめてやろう」っていう気があったんですか。

**桜庭** いや、試合が始まったら、そういうのはないですよ。「どうやって極めようかな？」っていうのは、ありましたけど。

―普通、格闘技って見てるほうは自分で顕微鏡を用意して焦点を合わせなきゃいけないんですけど……。

**桜庭** フヘヘヘ。

―なに笑ってんですか？

**桜庭** ちょっと変なことを……。

―言ってくださいよ（笑）。

**桜庭** 思いつかなくて、その思いつかない自分がおかしくなって（笑）。

―ガハハハ！ わけわかんないな、この人（笑）。それで、格闘技って見てるほうが顕微鏡を用意して技術の攻防とかに焦点を合わせて見ないとわかりづらいところってあると思うんですよ。

**桜庭** はぁ。

―だけど、プロレスの場合って最初から拡大鏡がリングの周りに張り巡らされてる世界で、試合に至るまでのストーリーとか、選手の喜怒哀楽とか、技術の攻防にしても純粋な格闘技よりは大雑把なところもあるじゃないですか。聞いてますか、桜庭さん？

**桜庭** 聞いてますよ（笑）。

―で、桜庭さんの凄いところって、純プロレスの試合じゃなくて格闘技の試合で拡大鏡がついてるっていうんですかね、非常に緻密なんだけどもわかりやすいっていうか（笑）。

**桜庭** う～ん、よくわかんないです、数字で表してくれないと（笑）。

―ガハハハ！ もういいや（笑）。とにかく、格闘技の緻密な攻防なのにも関わらず、拡大鏡がついてるんですよ。見えやすくなってるというか。そこが凄いなって思いました。"驚きその8"は6ラウンドの最後のほうで、ホリオンとホイスが「やめようか」みたいに話してるところですね。あのときは、どう思いました？「そろそろタオルかな？」とか、そういうのは？

**桜庭** 全然見てなかったです。見てないから、あと4ラウンドやろうと思って。

―"驚きその9"はホリオンがタオルを持ったときなんですよ。それがオーロラビジョンに映し出されたんですよ。

**桜庭** ホイスと喋ってるときですよね。なんで盛り上ってんのかなって思いましたよ。「ケツ破けてんのかな？」とか思っ



唯一、ホイスが優勢になったかな？という2R終了間際、フロント・チョークでサクを捕らえるが、あえなくゴング。なかなか思うように試合を運ばせてくれない。



なぜかいきなり打撃を多用する場面も。極真のブラジル人勢のような（ハイキック（orカカト落とし？）に、場内も大きくどよめいた。



執拗にバックを取って組み付いてくるホイスだが、桜庭に切り替えされて、まったく自分のペースに引き込むことは出来なかった。

# 格闘連鎖2000

て（笑）。

——ガハハハ！　なんでそうなる！（笑）観客はホリオンがタオルを持っただけでドラマを感じちゃうわけですよ。「いよいよグレイシーが陥落する瞬間が見れる！」ってことで盛り上ったんです。決してケツが破れてるとか、そういうことじゃないんです（笑）。で桜庭さんが6ラウンド終わりにサクラバードキックに行くと見せかけて漫画『リングにかけろ』の必殺技ハリケーンボルトを敢行するわけですが（笑）。

**桜庭**　石松の技です（笑）。

——あれは、あの瞬間に思いついたんですか？

**桜庭**　そうですね。石松の顔が浮かびましたもん（笑）。

——浮かびましたか（笑）。6ラウンドで向き合ってる状態で、セコンドが「桜庭さん、道衣出たままですよ」って言ってたんですけど、あれはどういう意味なんですか？　確かに道衣の裾が出てたんですけどね。

桜庭　脱がす作戦とか、引きずりまわすとか、そういう意味で言ってたんじゃないですか？　裾が出たままだから、パッと手を伸ばせば、すぐ取れるんで、バァーッと取って転ばして、ゴロゴロゴロゴローッて。

——そうか、そういう指示だったのか。「なに言ってんだ？　セコンドは」と思って。

**桜庭**　あれやられたら悔しいと思いますよ。

——悔しいでしょうねぇ（笑）。悔しいと思うようなことばっかりやってんですよ、精神的には6ラウンドに入っても桜庭さん的には余裕があった？

**桜庭**　もっとやるつもりでしたから（笑）。

——ガハハハ！　桜庭さんはやるつもりでも、とうとうホイス陣営はタオルを投げてしまったわけですけど、試合が決まった瞬間っていうのは、どういう感じだったか覚えてます？

**桜庭**　瞬間は「やったぁ」って感じです（笑）。

——贅沢な一戦でしたよねぇ。何回見たことか（笑）。普通90分ていったら見てるほうはダレるんですけど、ダレなかったですもんね。それが凄いんですよ。

**桜庭**　ホイスも攻めてきてくれたから、面白くなったんでしょうね（笑）。

——立てますねぇ（笑）。

**桜庭**　向こうを立てといて、こっちの株が上がるという、そういう作戦に出てます（ニコニコ）。

——ガハハハ！　例えば「グレイシーのためなら死ねる」とか、ホイスが前々から言ってる言葉がありますよね。それとか「本物の闘い」とか、いろいろ言ってましたけど、闘いを終えてグレイシー陣営に言える言葉があるとしたら、どういうことですか？

**桜庭**「入場はどうでしたか？」です（笑）。

——ガハハハ！　その感想はぜひ聞いてみたいです（笑）

**桜庭**　その感想だけ聞きたいですねぇ（笑）。

**桜庭**　一応、試合が終わってから挨拶しに行ったんですけどね。そしたら前回とは違って入れてくれましたからね。それで「いい作戦だったんじゃないか」とかホリオンが言ってましたね。一人だけグチグチ言ってるヤツがいて、「なんで寝技でなにもしなかった」とか言ってたみたいなんですよ。そこで「寝技はホイスのほうがうまいと思うから、僕がもっと付き合えるように、もっと練習して来ます」って言ったら、納得してましたけどね（笑）。

——あ、納得しちゃったんだ（笑）。

**桜庭**　その人は納得してたんですよ。揉めてましたけどね（笑）。一人だけグチグチ言ってて、まわりでなんか言ってたから、通訳の人に聞いたら「あの人がなんか言ってるんだけど、他の人は『そういうことを、ここで言うもんじゃねえだろ』ってなだめてる」って言ってた（笑）。

——試合終わって、エリオと握手したじゃないですか。あのときは感慨深いものとか、なかったですか？　見てるほうとしては、桜庭さんとエリオ爺さんが握手する瞬間っていうのは、結構感動的なシーンなんですけど。

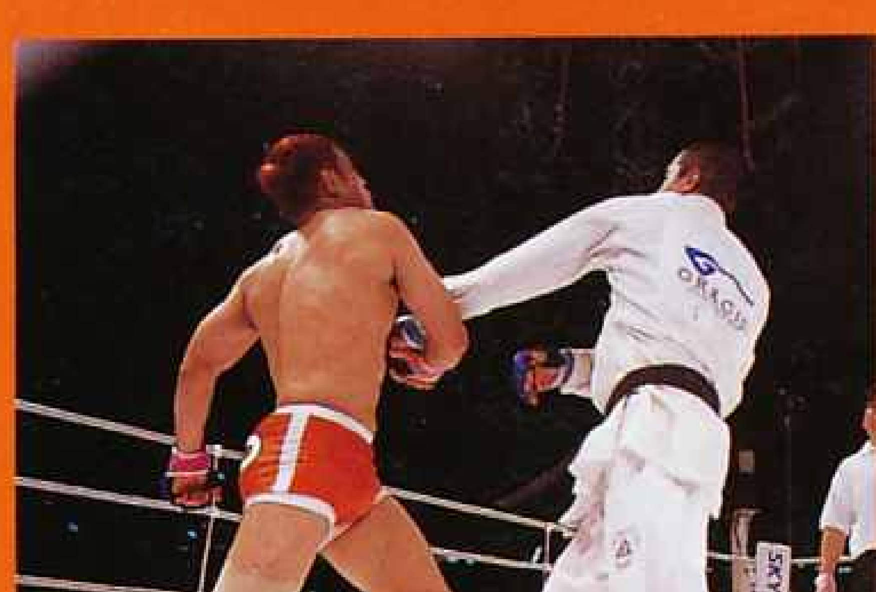
**桜庭**「お爺さん、長生きしてくださいね」って感じで（笑）。ボクのお爺さん、ボクが生まれる前に二人とも死んじゃってるから、会ったことないんですよ。「そのぶん長生きして下さい」って思って。

——ガハハハ！　十分長生きしてますからね（笑）。で、ホリオンが翌日のインタビューでタオルを投入したことを聞かれて「サクラバの蹴りによってホイスは足を怪我した。ということは、それ以上続行してもいい試合はできないのだから、タオルを投げるのは当然ということだ」って答えてるんですね。それで、ここからまた例え話なんですけど「車がパンクしたらそれ以上走ることはできないだろ。無理に走らせたら、車体を痛めるだけだ。パンクを直して次のレースにしたほうが懸

KAZUSHI SAKURABA



ガード・ポジションに入っても、モンゴリアン・チョップを叩き込んだり、見事に恥ずかし固め（＝マングリ返し）で固められてしまうホイス。もともとこれは柔術の技らしい。



スタンドでの打ち合いになったらサクの独壇場。まったくホイスを寄せつけずにパンチとキックでラッシュする。何とか打撃を出しながら組み付いていくホイスだが、そのたびに突き放されてしまう。



道衣の下に手を掛けたサクはホイスのパンツまで大公開！　このとき、スクリーンに大写しになったホイスの恥ずかしそうな、怒ったような表情に屈辱がにじみ出ていた。リングサイドのエリオも呆気にとられていた。



予告通りに道衣を脱がしにかかるサク、大歓声だ。まずは肩をはだけさせて、加藤茶の「ちょっとだけよ」の体勢にした後、頭から道衣をかぶせようとする。

## ボブチャンチンのパンチは気が狂うかと思うほど痛かったです

命だ』って、まるでパンクがアクシデントのような言いかたをしてたんですけど。

**桜庭**　パンクさせられる要因をバラ撒かれてることに気付かないんじゃないですか？　また同じことの繰り返しするかもしれないですよ。またブーンって走って「あ、またパンクした！」って。

——まずパンクしないようにしろ、と(笑)。あと驚きの番外編として、ホリオンが「この負けはグレイシー柔術にとって非常に重要だ」と前置きしながら、負けは負けで今回認めてるんですけど、このあとが凄いんですよ。「昨日の『PRIDE』では、全ての選手が柔術の技を使っていた。グレイシー柔術にとっては最高のデモンストレーションとなった」って(笑)。

**桜庭**　なんスかねぇ、柔術の技って。ガードですか？

——……ですかねぇ？

**桜庭**　あれ柔道の技じゃないですか。結局、もともと柔道じゃないですか。

——もうグレイシーを責めるつもりもないんですけど、よくこういうボキャブラリーが出てくるなぁと思って。「ホリオンは凄えぞ！」と思ったんですけど(笑)。

**桜庭**　それ、次の日のインタビューかなんかですよね。

——また家族会議？

**桜庭**　考えてるんですよ、その場で言えばいいのに。でも、どうでもいいや。僕がなんか言われてるわけでもないし。でも彼らに言いたいのは、ずっと格闘技やってきて、負けることによって勉強することはいっぱいあるんだから、それで勉強して、また次のときにもっとレベルアップしてやればいいと思うんですよ。それを勉強するか、勉強しないかの問題だと思うんですよ。また勉強しないで同じような闘いかたしたら、いまの時代について行けないし。

——スピードアップしてますからね、時代そのものが。で、トーナメントなんですけど、ホイス戦を終えて、棄権という手段もあったわけじゃないですか。実際問題90分闘ってるわけだし。そこで棄権しなかったのは？



**桜庭**　興奮状態っていうか、そういうのが続いてて、身体のダメージはまだガッと来てなかったんですよ。それに前から「棄権する」って言ってて、棄権したら「あ、やっぱり」って思われるじゃないですか。その「あ、やっぱり」っていうのが僕は嫌なんですよ！

——ガハハハ！　なるほど。人をビックリさせることが好きですからね。

**桜庭**　だから、マスクのときも「あ、やっぱり」って思われるのは面白くないから。髪の毛赤くしたのも、そういう気持ちがあったから。予想されるのが嫌なんですよ！

——ガハハハハ！　ところでボブチャンチンはどうでしたか？

**桜庭**　パンチがもの凄い痛かったですよ。我慢できなかったですね。終わり際にいっぱい叩かれたじゃないですか。あれには気ィ狂いそうになりましたね。下から殴られてんのに、痛いんですよ。

——ボブチャンチン戦の前は、「もうKOされたら、されたでいいや」って気持ちはあったんですか？

**桜庭**　ええ、やられたら、やられたでしょうがないし。でもあの試合は、あの試合で勉強になることいっぱいあったし。

——例えばどういうことですか？

**桜庭**　タックル。ボブチャンチンは正面タックルには強いと思うんですけど、片足タックルはペロッと取れちゃうから。「アレェ？」と思って。

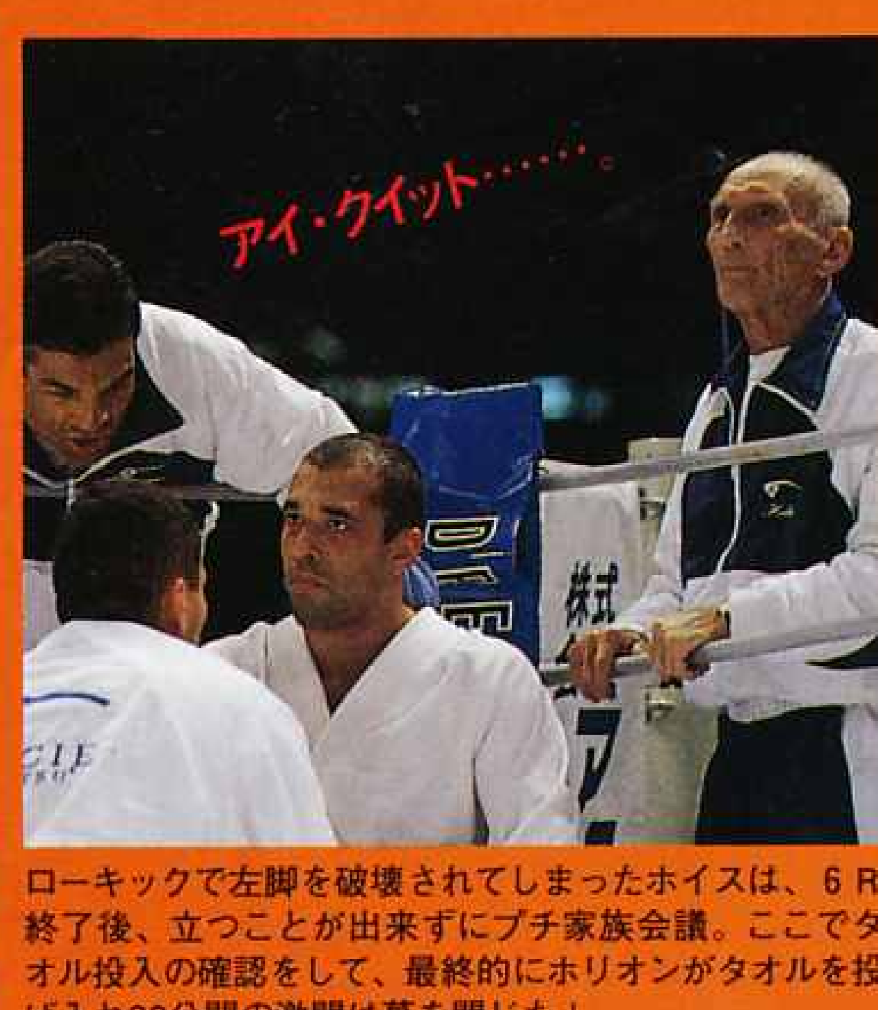
——ジャーマン気味に投げられたじゃないですか。

**桜庭**　あれ、効きましたねぇ。ガツーンと頭にきて。ボブチャンチンのパンチと同じぐらい強烈にきましたもん。「アー！痛ッタ〜！」と思ってたら、今度はバチバチバチーンって殴られて。

KAZUSHI SAKURABA



ドームの天井を突き破るような、聞いたこともないような大歓声が沸き起こった、オール・スタンディング・オベーションでドームの観客は桜庭の快挙を称えた！



ローキックで左脚を破壊されてしまったホイスは、6R終了後、立つことが出来ずにプチ家族会議。ここでタオル投入の確認をして、最終的にホリオンがタオルを投げ入れ90分間の激闘は幕を閉じた！



スキを見て、相手の足を飛び越えてパンチを叩き込んでいったサク。華麗な攻撃に、大きくどよめいたのは言うまでもない。この試合のハイライト・シーンだ。

格闘連鎖2000

──殺人投げみたいですね（笑）。

**桜庭**　変に力まかせに投げるから、また効くんですよね。タイミングで投げると、そんなに効かないですけど。

──でも90分闘ったあとに、あれだけやるんだから凄いですよ。90分やってなかったら、勝ってました？

**桜庭**　いやぁ、やってみないとわかんないですよ（笑）。

──2ラウンド目はタオル投入というかたちで、続行できなかったんですけど。

**桜庭**　高田さんには試合前から「ダメだったら言います」って言ってたんですよ。僕は最後やられたから、負けたと思ったんですけど、「引き分け」って聞いてガクーンとして（笑）。「もうダメだ！」と思って、セコンドのほうに行って「もうダメです！」って言いましたよ。

──ガハハハ！　でも桜庭vsボブチャンチン戦を見て、アレクがガクーンと来ちゃったんですよ。

**桜庭**　なんでですか？

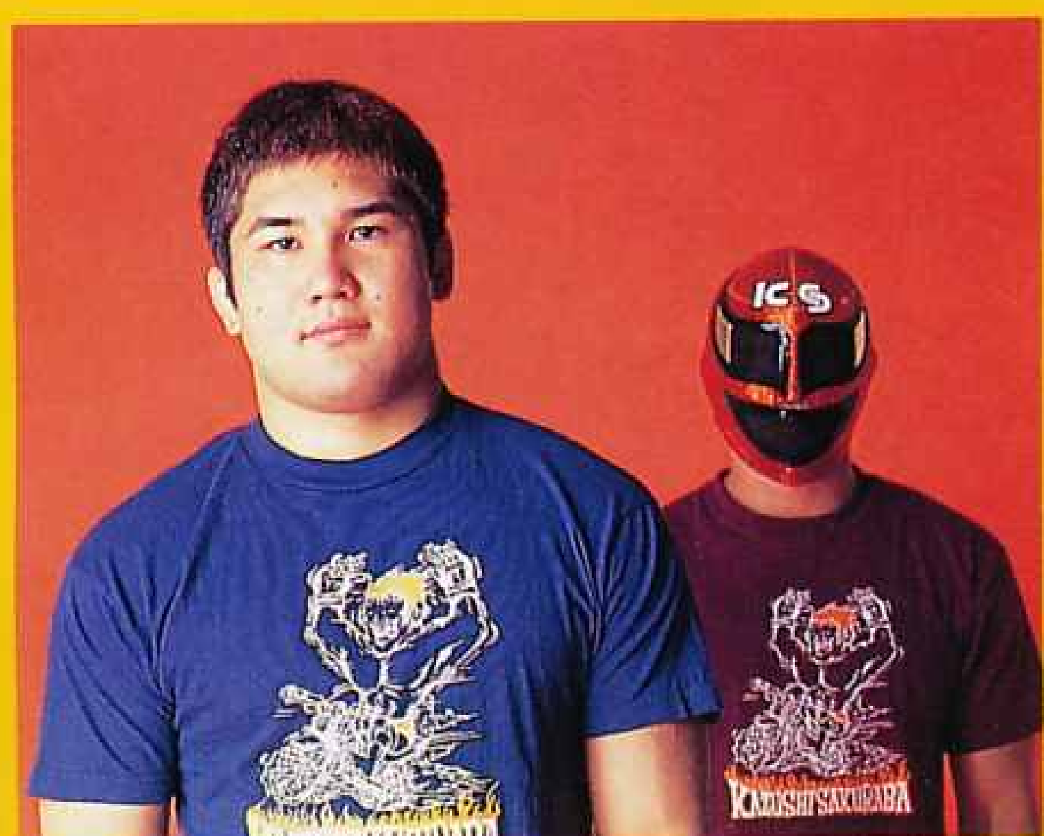
──1月のアレクvsボブチャンチン戦あったじゃないですか。あれ、結構「プロ根性ある」ってことでアレクも評価されて、面白い試合だったと言われてたんですけど、桜庭vsボブチャンチン戦を見て、ホイスとあれだけやったあとに、あれだけの戦術で、あれだけ闘えた桜庭さんとの差を痛切に感じたらしいんですよね。

**桜庭**　そんなに差なんてないと思いますよ。作戦がたまたま当たっただけで。あのときは、あのときで、ボブチャンチンが正面タックル強いってわかんないから。ボクの試合でたぶんわかったと思うんですよ「片足タックルだったら倒せるかも



# 豊永稔！ 6・4 『PRIDE.9』に出陣!!

## 対戦相手は未定



**豊永**　久しぶりの試合なんで嬉しいッス！　興奮してます! 絶対に勝ちに行きます!　一本か、KOを狙っていきます!

──凄い気合いが入ってますね（笑）。試合自体は久しぶりのような気がするんですが。

**豊永**　そうッス!　総合の試合は名古屋の『PRIDE』以来だから、10カ月ぶりです。怪我なんかどこにもないですから、思い切りいけますよ! 人を殴りたくて仕方ないッスから!

──いやホントに凄い勢いですね（笑）!　どうしたんですか？

**豊永**　やっぱりストレスが溜まってるんですよ。道場では強い先輩たちに囲まれて、可愛がられて。やり返したいんですけど、全然歯が立たないし、手っ取り早く知らない人を殴りたいんです!　それに自分、この試合でコケたらヤバイ!

──とりあえず、モチベーションの高さはヒシヒシと感じられていいですよ（笑）。5月1日は桜庭さんの試合でマシン軍団として、久しぶりにリングの感触を味わったわけですが、どうでした？

**豊永**　やっぱり、本当に嬉しかったです。あの会場の大きさ、熱気、桜庭さんの試合、すべてが興奮しました。心機一転頑張ります！

──ところで対戦相手は未定ですが、希望する選手っていますか。

**豊永**　いや、誰でもいいです！

──ともかくいい結果を期待してます。

# 桜庭和志 炎のバウトレビュー vs ボブチャンチン




ボブチャンチンがバックを取った次の瞬間、サクは腕を外そうとする。この後、再びバックを取ったボブは、いきなりぶっこぬきいて、ジャーマン気味にサクを投げ捨てるという荒技も披露した。




サクが上になってパンチを叩き込むシーンも！　だが、体重差があるのでボブチャンチンには比較的余裕があるように感じられるのは気のせいか？　ここから腕十字の体勢にもなるが、腕を力で抜かれてしまう。




スキを見合うサクとボブチャンチンだったが、相手のパンチをもらわないようにサクは素早い動きで超低空片足タックルでテイクダウンを奪う！



しれない」って。あの試合があったから、ボクの試合があったと思うんですよ。

——ま、アレクにはとことんまで落ち込んでほしいですね、いっそ（笑）。いまホイスとボブチャンチン、どっちと再戦したいですか？

**桜庭**　どっちもやらなくてもいいんですかね（ニヤニヤ）。

——ガハハハ！　いや、「どっちか」を選んでくださいよ（笑）。

**桜庭**　実際はどっちともやらなくていいんですよね。でも、選ぶならボブチャンチン。

——体調が万全の時ならやってみたいと。

**桜庭**　いや、「どっちともやらない」って前提で答えてるんで（ニヤニヤ）。

——ガハハハハ！　ホイスが再戦要求してきたら「お金の問題です」って言ってましたけどね（笑）。

**桜庭**　ファイトマネーを逆にしてもらう。いままでのグレイシーの分を僕にくれないと。

——ガハハハ！　普通に考えたら、そうですよね。グレイシーって、これから物語が面白くなりそうな気がするんですけどね。やっと人間らしくなったというか。

**桜庭**　何年後かに「ストライカー」って呼ばれてるかもしれないですからねぇ（笑）。モンゴリアンチョップやってるかもしれないし。手が長いから、威力あるんじゃないですか？

——ホイスに幸せチョップとかやられたら、どうします？

**桜庭**　どうしようかなぁ？　パチーンて払って「俺はもう幸せだよ！」って言いますよ。「十分幸せだぁーっ！」って（笑）。

——ガハハハ！　グレイシーっていうと、もう一人ボスキャラのヒクソンっていうのがいるんですけど、ヒクソンは今度ドームで船木選手とやりますけど、船木選手になにか言えることがあるとしたら、どういうことですか？

**桜庭**　頑張ってほしいですけど。

——これは仮定の話ですけど、もし船木選手が敗れて、ヒクソンが『PRIDE』に戻ってくる云々なんて話が出た場合には、自分から手上げるつもりはあるんですか？



**桜庭**　いや、特には。

——ガハハハ！　気が抜けるなぁ。

**桜庭**　ギャラの問題ですよ（ニヤニヤ）。

——逆に無制限ラウンド主張したりして（笑）。

**桜庭**　「1分1ラウンドで無制限にしろ！」って（笑）。それも面白いじゃないですか。「インターバルは2分だ！　ルールはアマレスルールだ！」あ、プロレスルールでもいいですよ。反則は5秒以内で。

——ガハハハ！　ヒクソンが3カウント入れられるシーンは見てみたいですねぇ（笑）。

**桜庭**　速攻で入れられるでしょ。自分から寝ちゃいますもん（笑）。

——桜庭さん、これから目標はなににするんですか？

**桜庭**　また次の試合でいい試合して。

——6月4日の名古屋は？

**桜庭**　「う〜ん」とだけ（笑）。正直、きびしいです。

（5月17日付の『東スポ』によると左足首のケガが完治しない桜庭は6月4日『PRIDE・9』（名古屋レインボーホール）への出場を辞退した様子。ちなみに桜庭は出場辞退の理由についてこう語っている。「足首を痛めて、いい試合ができない。絶対に出ない」とホイスチックなイタズラ心も感じられてグッド！）

——ホイス戦終えると「ひとつ大仕事やってのけたな」って感覚はあります？

**桜庭**　いや、特にホイスの試合に限らず、誰とでも試合が終わったら、とりあえずひと仕事終えたって感じで帰りの車の中で寝ます。

——力抜けますねぇ（笑）。

**桜庭**　それで喉渇いてコンビニ行ったんですよ（笑）。

——グレイシーも「こんなヤツに負けたのか」って思ったら悔しいしょうね（笑）。そのあとの『東スポ』に「新日本のジュニア戦線に出てみたい」って載ってましたけど、出るんですか？

**桜庭**　そういう話があったんですけど。いま「出ろ」って言われても出れないですけど。身体の調子がよくて、次の試合まで間があるときに出てみたいとは思いますけどね。怪我してしまう可能性もあ




「もっと練習して、いい試合を見せられるように頑張ります」と語った試合後のサク。試合に敗れたにもかかわらず、場内にはサクのテーマ曲が流れ、大歓声の中をサクは引き上げていった。ナイスな演出だった。







ボブチャンチンに圧迫されて、動けないサク。シンドさが痛いほど伝わってくる試合だった。やはり体重差のある相手と闘うのがいかに大変なのかよくわかる。「大きい相手とはやりたくないやりたくない」という言葉にも納得。




上になったボブはサクの頭部にガツガツとパンチを叩き込んでいく。桜庭も、試合後のコメントで「ガマンしきれないくらいっスね」と語った。

ホイスが再戦を要求したら
ファイトマネーを
逆にしてもらう（笑）




KAZUSHI SAKURABA




## WWFは全然頭に入ってないです。あそこまでいっちゃうとボクは無理ですよ

りますからね。あのぉ、今回の『PRIDE』はアメリカでPPVやったんですよね。アメリカではマシンマスクはどうだったんですかね？

——面白がられてたとは思いますよ。桜庭さん、WWFとか出たくないんですか？

**桜庭**　あれは無理ですよ。あそこまでいっちゃうと、僕は無理ですよ。

——そろそろWWFとかでも「僕でもできるかな？」とか思い始めてるかなって思ったんですけど。

**桜庭**　いや、WWFは全然頭に入ってないです。無理ですもん。

——ところで、ギルバート・アイブルが今度『PRIDE』に来ますよね。アイブルとはやってみたいですか？

**桜庭**　あの人、何キロなんですか？

——101キロです。

**桜庭**　無理ですね。ボブチャンチンと同じぐらいあるじゃないですか。よく田村さんやりましたね。

——何キロ差ぐらいあると厳しいんですか？

桜庭　大体5キロあったら力の差がありますからね。10キロになると、かなり違いますよ。

——今後、やってみたい選手とかは、いつも通り「特になし」？（笑）

桜庭　特にいないです（笑）。手が合うような強い人と、いい試合ができればいいと思いますね。

——『PRIDE』のチャンピオンてマーク・コールマンになるわけじゃないですか。コールマンに挑戦したりは？

**桜庭**　無理、無理。

——ガハハハ！「無理、無理」って（笑）

**桜庭**　殺されますよ、あんなの（笑）。

——ガハハハ！　じゃあ最後に読者になにかメッセージがあれば。なければないでいいんですけど（笑）。

**桜庭**　メッセージですか？　う〜ん……最近物忘れが激しいんですよ。

——前からじゃないですか！

**桜庭**　ますますひどくなったんですよ。ドランカーになってきてんのかなって思って。

——そんなに打たれてないですよ、桜庭さん。

**桜庭**　いや、何気に当たってますから。さっき、なんか言おうかなって思ったんですけど、忘れちゃいました。

——それはインタビューごとに毎回ですよ（笑）。

**桜庭**　そのインタビューで毎回忘れてることも忘れてるんですよ。ヤバいかなぁ？

——いや、それも忘れる才能ですね（笑）。じゃあ、最後に読者にメッセージを！

**桜庭**　最高ですかーッ！　ヤベエ、ヤベエ、捕まっちゃうよ（笑）。

【5月9日・六本木アートセンターにて収録】

天才アラーキー×11人のプロレスラーによる格闘写真集で魂を感じろ！



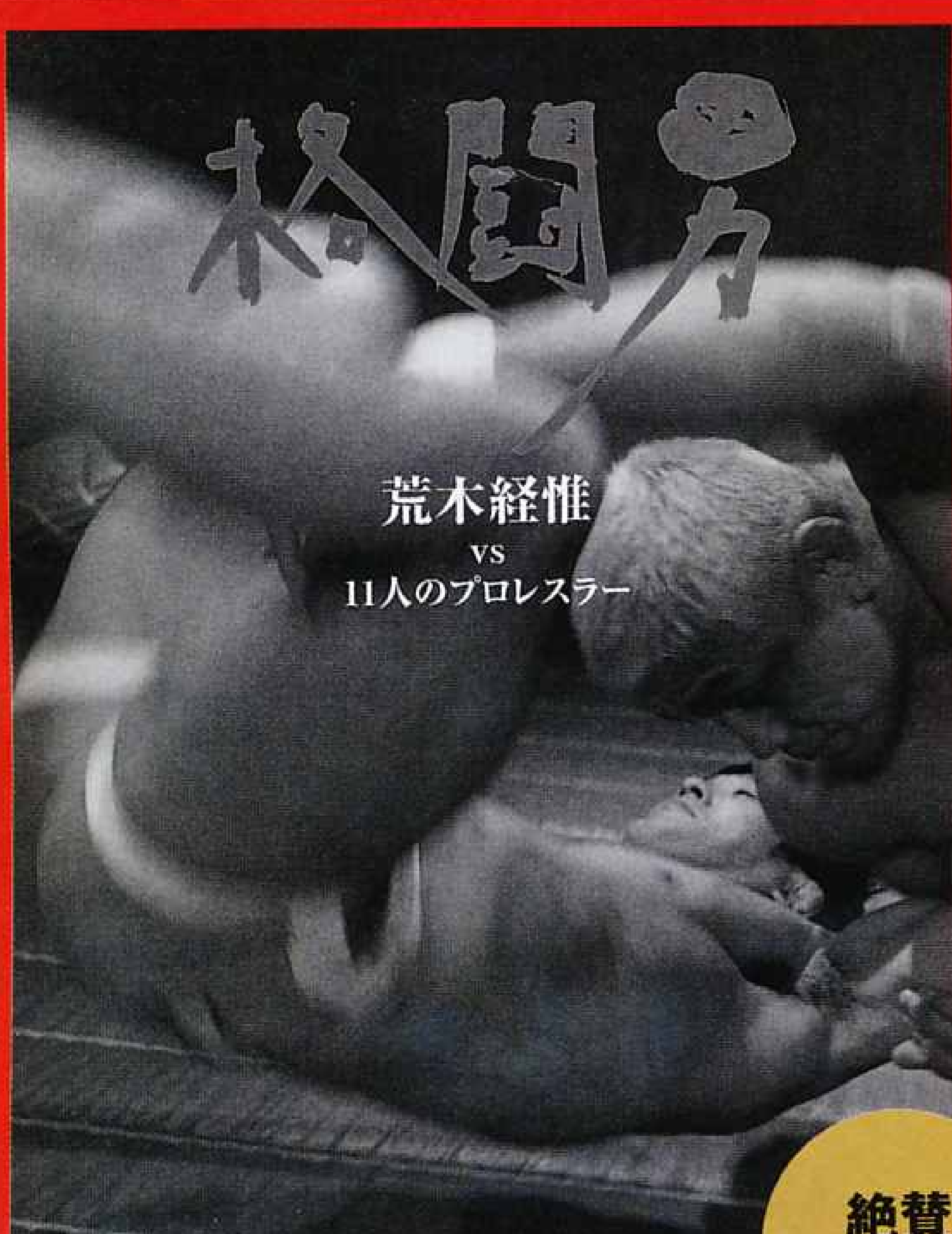
# 格闘男も連鎖する!!


天才アラーキー＆電撃プロデューサー南部虎弾


驚愕!! 桜庭が藤田にサソリ固め!!

「知性と知能は肉体のなかにあるんだよ」という天才アラーキーが激写した写真集『格闘男』が遂に、発売！ハッキリ言って〝素晴らしい〟という言葉しか出てこない。アラーキー写真に見られる芸術性。プロレスラーたちによる存在感。全てがうまく融合し凝縮された奇跡の作品なのである。

桜庭和志、藤田和之、アレクサンダー大塚、村上一成、石川雄規、ザ・グレート・サスケ、H（エイチ）、タイガーマスク、藤田穫、モハメド・ヨネ、田中稔という11人によるレスラーと天才が、サシで勝負したこの格闘フォトバトル。「知性」と「知能」そして「肉体の叫び」が、いま、ここでアラーキーの手により連鎖された。




絶賛発売中!!

¥2500（税別）
［発売］ワニマガジン社
［お問い合わせ］メインキャスト 03-5459-9199
ダブルクロス 03-3403-5188


衝撃！ アレク＆村上がヘアヌードに!!

# 野獣、覚醒

〝思考する野獣〟が隠していた牙を思いっきり剥いた!!



PRIDE.GP2000 5.1TOKYO DOME

## 快挙

霊長類最強の男
マーク・ケアーに
文句なしの完勝!!

格闘連鎖2000

# 〝ほ乳類最強の男〟襲名!! 藤田和之

## Kazuyuki Fujita

聞き手／原タコヤキ君
interview by Takoyakikun Hara
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda



**5・1、『PRIDE．GP』東京ドーム大会——〝思考する野獣〟藤田和之が、その眠っていた格闘本能を遂に全開した！バーリ・トゥード2戦目にして〝霊長類最強の男〟マーク・ケアーを力でネジ伏せて、圧勝この上ない判定勝ちをもぎ取ったのだ！**

**藤田の格闘センスはファン、関係者、レスラーの誰もが認めるところだが、今回に限っては相手が相手なだけに、戦前の予想は「藤田不利」という声が圧倒的だった。試合後に師匠のアントニオ猪木までもが「大金星」と発言したことで、いかにこの勝利が大変なものかおわかりいただけるだろう。果たして、どれほどの人がこの結果を予想していたのだろうか？**

**勝利が告げられた瞬間、東京ドーム中から、桜庭の試合に勝るとも劣らない大歓声が巻き起こったのは言うまでもない。この勝利で、間違いなく藤田の株は急上昇である。**

**こうした周囲の反応に藤田自身は、何を思うのだろうか？　今回のインタビューはものすごい勢いで進化する〝思考する野獣〟をいま一度掘り下げてみたい。**

**というわけで、今回はトークの相手を光らせることにかけては右に出るものがいない原タコヤキ君をインタビュアーに起用して、比較的寡黙な藤田選手に思う存分しゃべっていただける体勢を作った。**

**さあ、野獣のナマ咆吼をたっぷりと味わってください！**

●

——『PRIDE．GP決勝戦』が終わってから取材って他に受けられました？

**藤田**　初めてです。

——あ、ホンマですか？　じゃあこれは記念すべきインタビューですね。衛星放送だけじゃなくて、地上波でも放送されましたけど、反響は凄かったでしょう？

**藤田**　聞いてないですねえ。ずっと家にいたんで。

——でまあ、『PRIDE．GP』で今回マーク・ケアーに勝ったということで藤田さんを大絶賛したいんですけど、その前にナイマン戦が終わってから決勝にいたるまで、いろんなことがあったようですね、パンクラスとか高田道場に出稽古に行ったりされてましたよね。あるいはイノキアイランドに行ったってのもありましたし（笑）。でもその中で一番驚いたのが、なぜか『東スポ』だけに載ったっていう地下室マッチの話なんですけど、他の雑誌には写真とか載ってなかったですよねえ。

**藤田**　それ誰ですか？

——は？

**藤田**　それサイトーさんじゃないんですか？（笑）。

——それは猪木さんの白覆面ばりに白々しいです！（笑）。それでは、サイトー選手にもの凄く似ている藤田さんにお聞きしたいんですけど（笑）、普通ですねえ、『PRIDE．GP』の決勝戦というメチャクチャ大きな試合を控えてて、こういうことはしないと思うんですよ、どんな選手でも。何よりもまずケガする可能性も高いじゃないですか。この記事を見ると〝地下プロレス〟なんて書いてありますけど、どんなヤツが来るかもわからないし。そもそもこのプランっていうのは猪木さんから持ちかけられたんですか？　それとも自分で決められたんですか？

**藤田**　いろいろな選択肢がある中で、猪木さんからは「自分の好きなようにやりゃあいいんだよ！」って言われてたんで、最終的に自分で選びましたね。まあケガしたらまずいとかはありますけど、ここでケガしてダメになってしまうんだったら、はじめからやってもダメなんじゃないかなと思いまして。

——その辺の覚悟の決め方が凄いですよねえ。世の中に名前の知れた格闘家はたくさんいますけど、こういうことする人って藤田選手だけだと思います！（笑）。

**藤田**　まあ、しちゃいけないってことはないじゃないですか。

——それどころかその姿勢でずっと行ってほしいんですけど（笑）。

**藤田**　マーク・ケアーはホントに素晴らしい選手ですし、実績もありますから。それを考えると自分に一番足りないのは、技術とかよりもキャリアだったんで、その自分のたりないものを補うために（地下室マッチに）出たわけですから。

——こういう試合をやるっていうのは、『PRIDE．GP』に至るまでのいわゆる盛り上げというか、いい意味でのストーリー作りって意味もあったと思うんですけど、それにしては『東スポ』にしか掲載されてなかったわけで。それは藤田さん、いやサイトーさんの戦略の一つだったんですか？（笑）。

**藤田**　いや別に、負けたら『東スポ』にも出なかったですよ、きっと（笑）。

——そうなんですか（笑）。で、地下室マッチで2試合こなして『プライドグランプリ決勝戦』を迎えるわけですけど、藤田さんは試合前なんかは緊張する方ですか？

**藤田**　緊張する方かどうかはわからないですけど、でもするのはしますよ。

——試合前の評判では、正直ケアー優勢っていう声が圧倒的だったっていうのは、藤田さんの耳に入ってましたか？

**藤田**　いいんじゃないですか、それは（ムスッ）。やったことないヤツが評価するだけだし、言わせておけば。よく言うじゃないですか「やってみなくちゃわからない」って。それがこういうことなんですよ。頭で試合してるわけじゃないから。みんなはただ頭のなかでシュミレーションしてるだけですからね。

——ボクは当然会場でも観てましたし、今もビデオを観てきたんですけど、まず何よりケアーに気後れするところがなかったってのが凄いですね（笑）。

**藤田**　同じ人間じゃないですか。ライオンと闘ってるわけじゃないんですから。

――ワハハハ！　でも藤田さんはそう言いますけど、それができないんですよね。例えばグレイシーなんかにしたら、対戦相手はみんなグレイシー幻想に呑まれてしまって、本来の力を発揮できないっていうことが多かったわけですよ。それで、今はケアーなんていったら、ある種グレイシーよりも幻想がデカいわけじゃないですか。

**藤田**　日本ではまだそうでもないけど、アメリカなんかではね。

――ですよねえ。考えたら〝霊長類最強の男〟なんていうのは、これ以上の表現はもうないってくらいですもんね（笑）。

**藤田**　素晴らしいですよね（笑）。

――なんかあらゆる局面で藤田さんは「同じ人間じゃないか」って発想で切り抜けてるような気がしますね。

**藤田**　（ケアーと闘うということは）確かに怖いですけど、相手の選手が大きければ大きいほど、逆にいったら僕にとっては凄いチャンスですから。最初がナイマンで、それが終わって何があったか知らないけど（笑）、いきなり2回戦でケアーですからね。それはやっぱりビッグチャンスでしたし、練習もやって、結果も出ましたからね。向こうでトレーニングしてるときにも、ブライアン・ジョンストンとか、ドン・フライとかが、いつも僕にそういうことを言ってくれましたし。

――「大丈夫だよ。お前は勝てる」と。

**藤田**　みんなプラス思考ですからね。

――今回対戦するとかは関係なく、やっぱりケアーはいちばん意識してました？

**藤田**　やっぱりケアーっていうのは、レスリングのベースがあってこういう世界に入って、名を馳せた選手で、自分が将来こういう形で勝っていくだろうっていうスタイルだったから。彼が僕の未来形なのか、それとも僕が勝つことで彼が過去形になるのかっていう、そういう分岐点だったから、すごく大事な一戦でしたね。

――それで、結果的にはケアーをものの見事に過去形にしてしまったんですから、やっぱりとんでもないことをしでかしたんですよ、藤田さんは（笑）。ただ唯一最初にタックルで持ち上げられたときにちょっとヒヤッとしましたよね。

**藤田**　いや別に。もう持ち上げられて落ちるイメージはしてたんで、その時はすぐに左手が出てたと思うんですけど。こうきたからこういうふうにテイクダウンするだろうっていうのはわかってたんで、そうなったらすぐ押さえてガードしてっていうのはもう反射的に……そのために練習してたんですから（笑）。

――スタンドの攻防の後に、ケアーがカメになった状態でヒザをガンガン叩き込んでましたけど、あれ、凄かったですね！

**藤田**　それよりも俺の顔に入ったヒザの方が凄かったじゃないですか。

――あ、そうそう。あれ、スゲー音してましたよ！　びっくりしましたもん。

**藤田**　むしろ気持ちよかったですけど（笑）。

――ワハハハ！　やっぱり相当ダメージはありました？

**藤田**　ああいうのって、痛いっていうより気持ちいいんですよね。

――ちょっと意識が飛ぶ直前って感じなんですかね。

**藤田**　そうですね。

――でもその何倍もやり返したわけですからね。ケアーも相当気持ちよかったでしょうね（笑）。

**藤田**　でも最後まで気が抜けなかったですよ。「こいつ、いつ復活するんだろう」って。それだけの選手ですし。だから、自分が上になって乗っかってるときに、ずっとケアーの右足押さえてましたから。

――15分経って、判定になった段階で勝利を確信されましたよね。

**藤田**　はい。でも勝ったとかよりも「終わったぁ！」っていう方が強かったですね。15分長いですから。俺、プロレスでもめったに15分なんてなかったですからね（笑）。

――ほんなら桜庭選手の試合はどないなるねんって話ですよ（笑）。

**藤田**　凄いですよ。俺は絶対できないです。

――ちなみにですねえ、試合が終わった後にマーク・ケアーが「桜庭の試合が長すぎて、体の糖分が抜けてしまった」っていう、化学的な言い訳を言ってましたけど。どえらい霊長類ですね（笑）。

**藤田**　条件は一緒なんですから。（ムスッ）

――そんなもんねえ、藤田さんだって糖分抜けまくりですよねえ。

**藤田**　タンパクまで抜けちゃって（笑）。

――ワハハハ！　選手名鑑に書いてあった「抜かずにはいられない」っていうヤツですね（笑）。まあ、藤田さん的にも、あれだけ待ち時間が長かったっていうのはやりにくかったでしょうね。

**藤田**　いや、ほんとケアーと同じでしたよ。

――桜庭選手の試合は観てました？

**藤田**　はい。控え室のモニターで。

――長くなるという予想はしてました？

**藤田**　あそこまで長くなるだろうっていう予想はしてなかったですね。寒かったですよ、体冷えちゃって。あんだけ長いと。

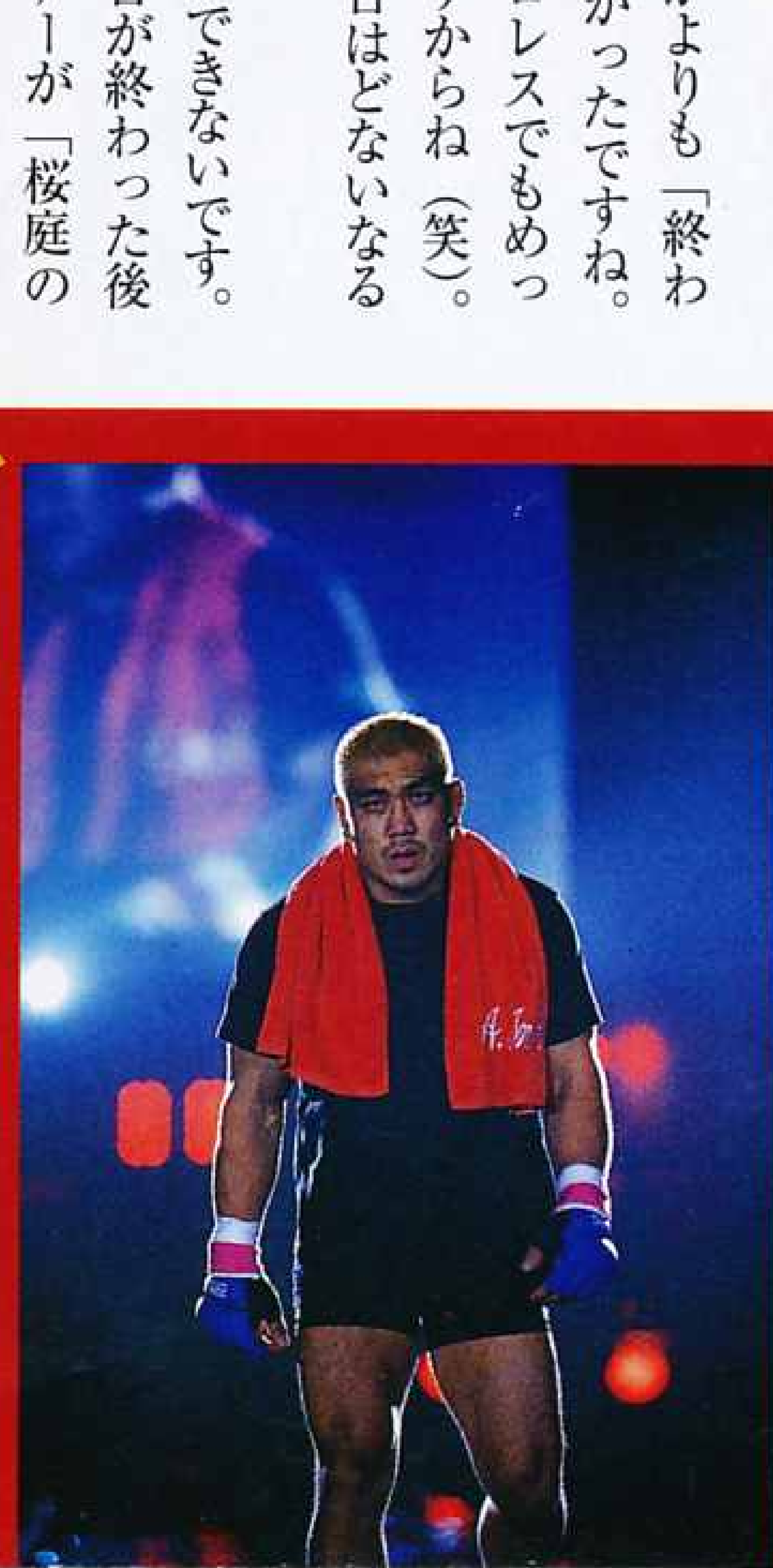
――まあ、試合が終わって場内は大変な


恐怖の地下プロレスに偽名で出場
藤田
1日で
KO2連勝
戦慄のシーンを本紙独占入手!!
ケアー戦用の必殺技試し斬り

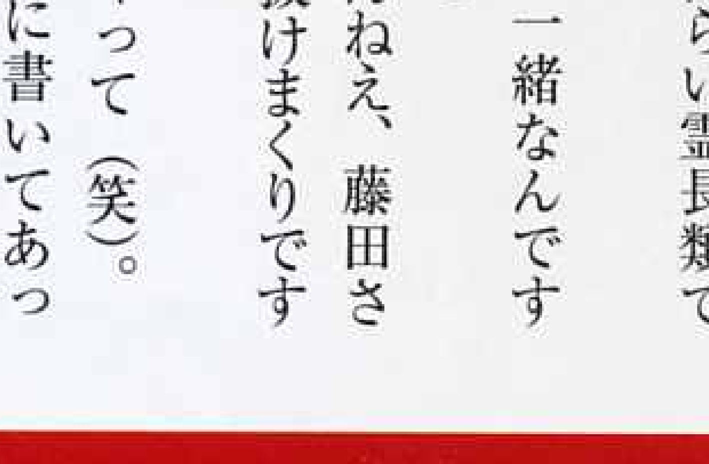
これが非常に藤田そっくりな「SAITO」さんが、「いつ、何時、誰にでも挑戦する！」の言葉通り、アメリカの地下プロレスに出場！　まさに有言実行。さすがは“A・猪木最後の遺伝子”である。（『東京スポーツ』より）

# 藤田和之 BOUT REVIEW

## 2回戦 vs マーク・ケアー戦



## ドームを揺るがす大歓声！『炎のファイター』で入場！





この２つ前の試合で桜庭がホイスを破り、「藤田も続け！」とばかりに、大歓声が湧き起こる。そんな中、藤田はアントニオ猪木のテーマ『炎のファイター』（スローバージョン）で堂々の入場！　しかも首からは真っ赤な闘魂タオルをブラ下げている！荘厳なテーマ曲の中、リングインするなり首のタオルをゴシゴシと擦るのも高ポイント！　思いっきり猪木を背負ってきた藤田に対する期待感が爆発寸前となったことは言うまでもない。対するケアーも、トーナメント優勝を狙い、スキンヘッドで登場。気合十分だ。しかもセコンドには盟友バス・ルッテンがついた。

そして試合開始。藤田はゴングと同時に殴り掛かって行ったが……。

格闘連鎖2000

興奮だったんですけど、それはわかりますよねえ。
**藤田** はい。
——そうすると、もちろんコールマン戦への期待っていうのも膨らんでくるわけですけど、残念ながら2秒でタオル投入という形になってしまいました。例えばケアー戦が終わった段階で棄権することもできたと思うんですが、それでもリングには上がろうと思ったんですか？
**藤田** お客さんがたくさん来てくれてるし、試合ができないならできないでも、誰かに言ってもらうんじゃなくて、自分で説明したかったですから。
——バーリ・トゥード2戦目にしてマーク・ケアーというデカい難関も越えてしまったわけじゃないですか。今後、『PRIDE』も含めていろんなリングが標的になると思うんですけど。新日本のリングに上がる可能性はあるんですか？
**藤田** 新日本？ ないです（キッパリ）。わかんないですけど。今はこっちの方が面白いですから。今度は僕がケアーの首を取ったことで、今度は狙われる側に回るわけですし。
——非常に狙われてると思いますよ。
**藤田** 国内に誰かいるんですか？
——国内に限らず世界中が狙いますよ。いっぱいいるんじゃないですかねえ。三段論法じゃないけど、あのマーク・ケアーに勝った藤田に勝ったってなるわけですから。今藤田さんに勝つってことはおいしいことですよ。勝てればの話ですけど(笑)。
**藤田** じゃあマーク・ケアーに勝ったら俺と勝負しましょう（笑）。
——それいいなあ！「俺と闘いたいならケアーを倒してからにしろ！」（笑）。今ちょっと新日本の話が出ましたけど、いわゆるプロレスとバーリ・トゥードの二刀流は考えられないですか？
**藤田** そんなにコロコロスタイル変えるわけにいかないし、やっぱり中途半端に終わりたくないから。今の段階では、プロレスを観ることはあるでしょうけど、やろうとは思わないですね。

# 国内に誰か（挑戦者が）いるんですか？ ケアーに勝ったら俺と勝負しましょう（笑）



——例えばアレク選手みたいに今日はタッグマッチで明日はバーリ・トゥードって選手もいますよね。
**藤田** それは僕の考えと違いますから。アレク選手はよく「いい試合がしたい」って言ってますけど、それ自体はいいことだと思うんですけど、僕はやっぱりバーリ・トゥードは勝負だし勝つことが前提なんで、後になって言い訳つけたくないから。常に万全の体勢で勝負していきたいですから。

## Kazuyuki Fujita

彼の考えは彼の考えで素晴らしいと思いますけどね。
——つまり藤田さんは勝つための最短距離を見つけだして、なおかつダッシュで駆け抜けたいっていうことですね。
**藤田** はい。
——でもやっぱり藤田さんはプロレスを通ってきたことで、お客さんを意識するっていうことを叩き込まれたと思うんですよ。例えば桜庭さんなんかも試合中にモンゴリアンチョップを出すとかは、やっぱりお客さんのことを考えてのことですよね。もちろん一つのやり方でしかないですけど。
**藤田** 俺はそこまで余裕ないッスよ。そんなことしなくても場内沸いてくれたからいいですよ。やっぱり一生懸命やってれば、自然とお客さんは理解してくれますからね。
——どんな派手な技を出すよりも、マーク・ケアーを倒すことがファンをいちばん喜ばすっていうことですね。
**藤田** エンセンさんも言ってましたけど、リングに上がったら相手の心を折るっていう、そういうつもりでリングに上がってるんで、もちろんお客さんは大事ですけど、最終的にそういう闘争心みたいなものを見に来てると思ってるんで。もちろん派手なことをやる人がいてもいいと思いますよ。
——バーリ・トゥードだと、結果がすべてかもしれないですけど、でもプロレスは、まあ難しいところもあって、結果以外の部分の比重が凄く大きいですよね。
**藤田** 前にドームでやった時に思ったんですけど、お客さんのことを考えすぎると、あんまり沸かないですね。人の顔色ばっかりうかがうというか、考えすぎたらダメですよ。いちばん大事なのは自分を出すことですから。
——今は〝ドームプロレス〟という言葉もあって、客席の奥の人にも届くような大き

藤田の突進をタックルで止めたケアーは、一気に持ち上げて頭から落とそうとする！ だが、藤田は、冷静に腕から着地。畳み掛けるケアーはヒザ立ち状態の藤田の顔面にヒザ蹴りを叩き込む！ カチーンという、金属音にも似た固い音にドーム中がどよめいたが、藤田にはダメージや動揺はまったく見られなかった。凄げえぞ！

上になったケアーは、マウント・パンチやアームロックを狙う。鬼のようなケアーの攻撃だったが、藤田は非常に落ち着き払った様子。じつはケアーのスタミナ切れを待っていたのだった。ケアーのタックルに対しても、強靭な足腰とバランス感覚で倒れることなく次第にタックルを切っていくようになる。






## いきなりの大ピンチ！ ヒザとパンチが襲いかかる！



い技だとかアクションをしなきゃいけないという考えにレスラーも縛られていると思うんですよ。でも、そういうんじゃなくて、ただ自分のことを考えて勝ちに行ったら、それがいちばん沸いたっていうのは、藤田さんにとっては今までプロレスラーとしてモヤモヤしていたものが吹き飛んだって感じじゃないですか？

**藤田**　どうなんスかね。みなさんのお好きなように考えてくれれば（笑）。

——いやいや（笑）。プロレス時代にはドームでも試合をやったことありますよね。その時は、どうやって沸かせるかみたいなことは当然考えてましたよね？

**藤田**　やっぱり考えましたよね。

——その時に藤田さんなりの答えが出たんですか？

**藤田**　出ないから（新日本を）出たんです（キッパリ）。

——じつは僕自身も一回会社を離れたことがあるんですが、けっこう考えたんですよ。なんか凄い自分を見つめ直したりして。新日本を離れた時にそういうことって考えたりしませんでした？

**藤田**　う〜ん、別に一大決心で出たわけじゃないですからね。

——あら、そうなんですか？（笑）。

**藤田**　早い話、思いつきというか勘で動いたとか、そんな感じですね。思いついたらすぐ行動するというか。だから、周りが言うほど考えたわけじゃないですね。まあダメだったらダメだったでいいじゃねえかっていう。だから思いっきりできるじゃないですか。一大決心とだと、失敗したらどうしようとか、いろいろ考えちゃうし、その時点でマイナスじゃないですか。もう思いっきりやればいいじゃねえかと。それで結果が出れば、どっちにしろ納得するし、納得すれば次も出てくるだろうし。

——それって「感じたら走り出せ！」っていうスポーツ平和党のコピーを思い出しますよ（笑）。でも、そういう考え方って、自分自身ちょっと周りから浮いてるかなって思ったりしません？

**藤田**　だってこの世界浮いてるヤツばっかりじゃないですか（笑）。僕より浮いてるヤツっていますよ。

——ワハハハハ！　誰ですか？

**藤田**　（即座に）中西！

——ワハハハハ！　出ました！

**藤田**　この間テレビで観てたんですけど、凄いですよね。僕がいた頃もやったけど、最後の決め技いくときに、いろんなアクションするんですよ。なんかこう手をグルグル回して、ダチョウが卵を産むみたいな。

——あれってダチョウが卵を産んでるポーズなんですか！（笑）。

**藤田**　この間なんか凄いことやってて、夜中の2時頃に友だちとTVで観てて大笑いしましたよ（笑）。あれは凄いパフォーマンスだったなあ。マネできないですよ。

——ある種、バカ負けするというか。（笑）。

**藤田**　ホント中西は素晴らしいですよね。彼なくしては日本のプロレス界は……やめた、あんまり言うと怒られちゃうから（笑）。

——ワハハハ！　しかし、新日本の藤田さんなんかの世代って、みんな中西さんの話をしたがりますよね（笑）。

**藤田**　だってみんなのアイドルですからね。

——例えばああいう中西さんのアクションってどこから来てるんでしょう？（笑）。

**藤田**　なんかイヤなことあったんじゃないですか。

——ワハハハハ！　合宿所時代も中西さんとは仲が良かったんですか？

**藤田**　まあ良くも悪くもないって感じですね。彼は何喋ってるのか全然わかんないんですよ。まあ個性的というか。

——メチャクチャ個性的ですよね。

**藤田**　最終的には中西と闘いたいですね。

——そうなんですか。新日本で？

**藤田**　どこでもいいですよ。僕の目標ですから。夢ですよ（なぜか遠い目で）。

——マーク・ケアーより中西学！　いいっスね。しかし好きですねえ、中西さんの話（笑）。

**藤田**　でもこれ以上言うと長州さんに怒られちゃいますから（笑）。

——中西さんのエピソードで、これは変わってる男だなっていうのはありますか？

**藤田**　まあやることなすこと変わってますからね。面白いですよ。

——今はG—EGGですからね。長州さん命名らしいですけど。

**藤田**　そうなんですか？

——なんかそうみたいですよ。最初はチーム・タマゴになるはずだったんですから。

**藤田**　へえ。卵のまま終わっちゃうんですか？

——卵で終わってどうするんですか！（笑）。〝グローイング・エッグ〟っていう意味だから、カラは破るんじゃないですか（笑）。

**藤田**　カラを破って外に出るけどカゴの中、と。

——うまい！　いや、うまいのか？（笑）。まあ藤田さんみたいに外に出る人からすると、残ってる人に「出てみるのもいいよ」って言いたくなったりしませんか？

**藤田**　それはしないですよ。それぞれの価

**人の顔色ばっかりうかがってたらダメですよ**
**いちばん大事なのは自分を出すことですから**






## ナチュラル・ボーン・野獣！ 藤田の猛反撃が始まった！








タックルを連発するケアーだが、ことごとく切られてしまい、次第にスタミナを失っていく。逆に藤田は、動きの止まったケアーの顔面や脇腹にパンチとヒザ蹴りを叩き込む！　特に脇腹へのヒザは、高々とヒザを振り上げて勢いを付けての強烈なものだった。一発入るたびにドームは天井に穴が開きそうなほどの大歓声！　バックに回った際には、スリーパーを仕掛けるところまでケアーを追い詰め、ケアー最強幻想を見事に打ち砕いてみせた。15分を戦い抜いた藤田は、判定での勝利を確信して両手を挙げてガッツ・ポーズ！　対するケアーはうなだれっぱなし。時代が動いた瞬間である。





# 格闘連鎖 2000

## Kazuyuki Fujita





値観があるわけですから。あの新日本っていう大きいワクの中でやっていくっていうのも大変なことですから。

――あのまま新日本に残っていたらどうなっていただろうなんて考えます？

**藤田** どうなっていたんでしょうね。どうなっていたと思います？

――たぶんＧ―ＥＧＧＳですね。きっと一緒に手をグルグル回してるんですよ。

**藤田** 良かった、出て（笑）。

――ワハハハ！ それで結局、新日本に在籍したのは何年でしたっけ？

**藤田** ３年ですね。「石の上に３年」っていうじゃないですか。

――振り返ってみて、新日本時代は修行だったなって思います？

**藤田** 修行でもあり、思い出もたくさんありますね。先日、福岡ドームに行った時もなんか家族のところに戻ってきたみたいでしたね。おじいちゃんがいておばあちゃんがいて、お父さん、お母さんみたいな……。

――ああ、なんかいいっスね。

**藤田** なんか懐かしくて、控室を一つ一つまわって話し込んでました（笑）。そしたらしまいにはジャマ者扱いされましたけどね（笑）。

――みんなけっこう『プライド』のことか気にしてくれてました？

**藤田** おめでとうって言ってくれましたよ。

――ところで藤田さんってそもそもプロレスは好きやったんでしたか？

**藤田** プロレスは親父が好きでしたねえ。

――藤田さんは一緒に観てたんですか？

**藤田** はい。

――印象に残ってる選手とかっていますか？

**藤田** やっぱりアントニオ猪木とタイガーマスクですね。

――世代的にはそうですよね。僕も藤田さんと同い年で30歳なんですけど、やっぱりそうですね。

**藤田** でもまさか自分がプロレスラーになるとは思わなかったですよ。

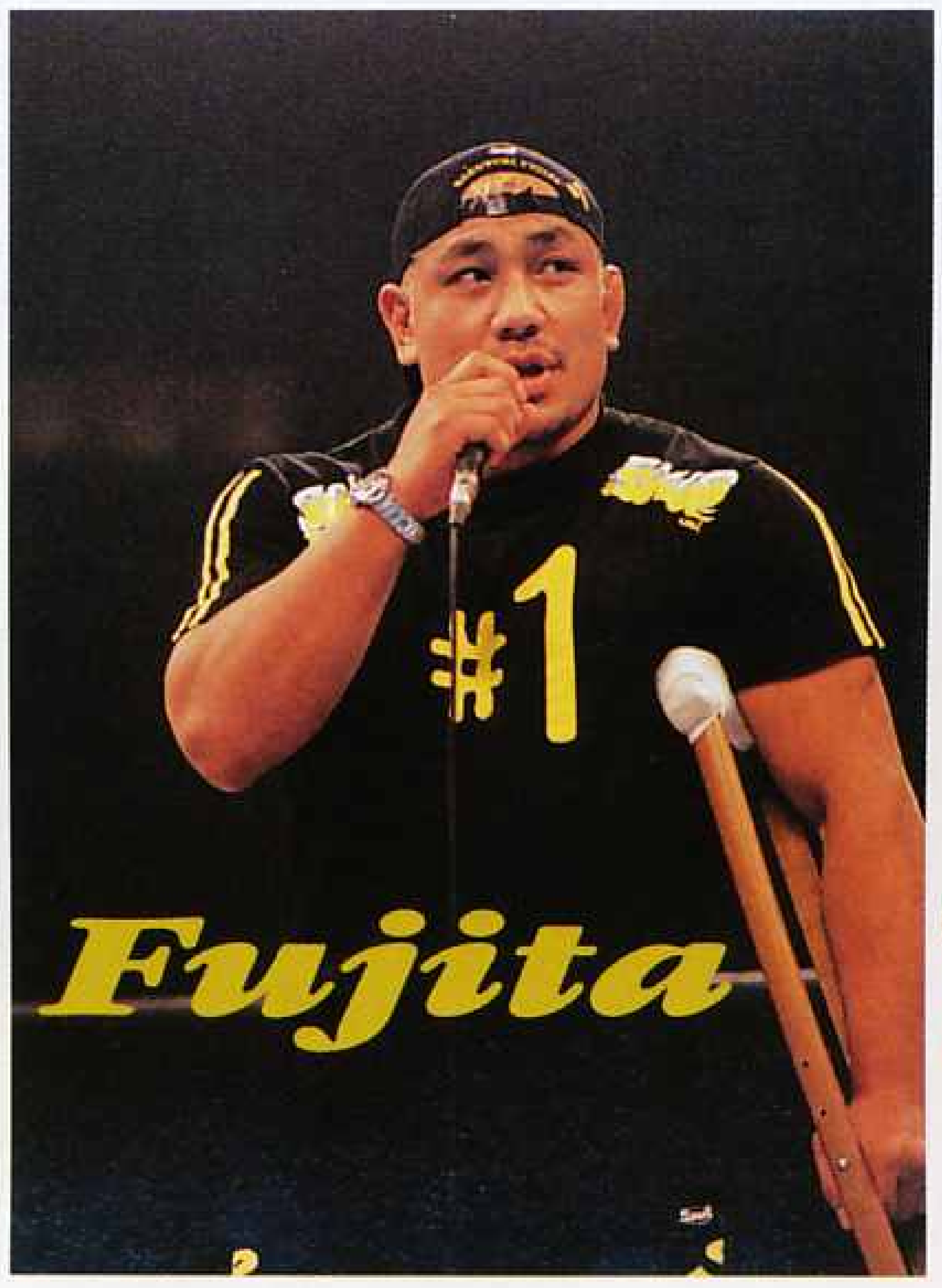
――なにがきっかけやったんですか？

**藤田** ４年前のアトランタ五輪で、選抜にはなったんですけど、オリンピックには出られなくて、次はどうしようかなあって思ってるときに、自分の持ってる力を活かせる場所があるんだったらっていうことで、やってみようかなって。

――でも、もし藤田さんがずっとアマレスをやってきてああいうリングに立つのと、プロレスを通過してから立つのでは全然違うと思うんですよ。やっぱりプロレスを通過してきたから藤田さんはケアーに勝てたんだと思いますけどね。

**藤田** それはそうですね。だから、いろいろ経験してきてよかったと思いますよ。やっぱり場慣れしますよね。さっきキャリアって言ってたけど、人前でリングに立ったことがあるのって、俺の方が多いですからね。





５月５日の新日本プロレス・福岡ドーム大会に凱旋した藤田。猪木とともに入場し、「プロレスファンの皆さんの期待に応えるよう頑張ってきました！ もっと強くなって、『いつ、何時、誰にでも挑戦』していきたい」とマイクアピール。

# Kazuyuki Fujita

――それこそドームだって経験してるわけですからね。それにプロレスラーって精神的にタフじゃないとやってられないじゃないですか。そういうのも藤田さんの強さになってるんですよね。

**藤田** 自分じゃわかんないですけどね。

――団体生活はどうなんですか？

**藤田** あ、別に大丈夫ですよ。というか、あんまり人に気をつかわないから（笑）。

――なんか今、取材してそれをひしひし感じるんですけど（笑）。ある本に、「試合より道場でのケガが多かった」って書いてありましたけど。

**藤田** そうですね。

――それはやっぱりプロレスの練習だけじゃなく、対バーリ・トゥードを想定していたものなんですか？

**藤田** そういうことは全然関係なくて、新日本の選手は全員練習してますからね。いつでもやってますよ。

――グレイシーがやって来てプロレス幻想が揺らいだ時に、「今の道場はダメだけど、昔の新日本プロレスは」みたいな言われ方もしましたよね。

**藤田** プロレス幻想がどうとかって、別に新日本のレスラーがやったわけじゃないですからね。ワケのわからない連中がやったわけでしょ。結局ケツ拭くの俺なんだから。

――ワハハハハハハハ！

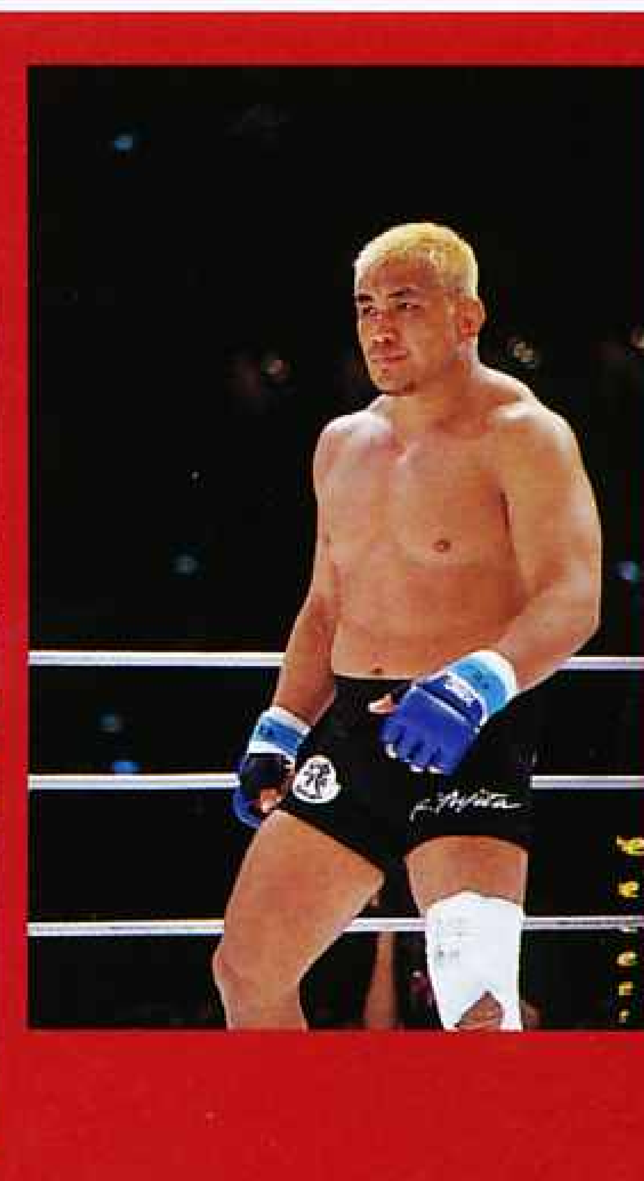
**藤田** 身の程知らずがってね。

――今回も見事に拭きましたね（笑）。

**藤田** ちゃんと拭きましたよ（笑）。ウォシュレットもかけて（笑）。まあ今の話は冗談ですけどね。

――いやいや、でもプロレスラーとしての責任を取ったっていう言い方ならいいですよね。

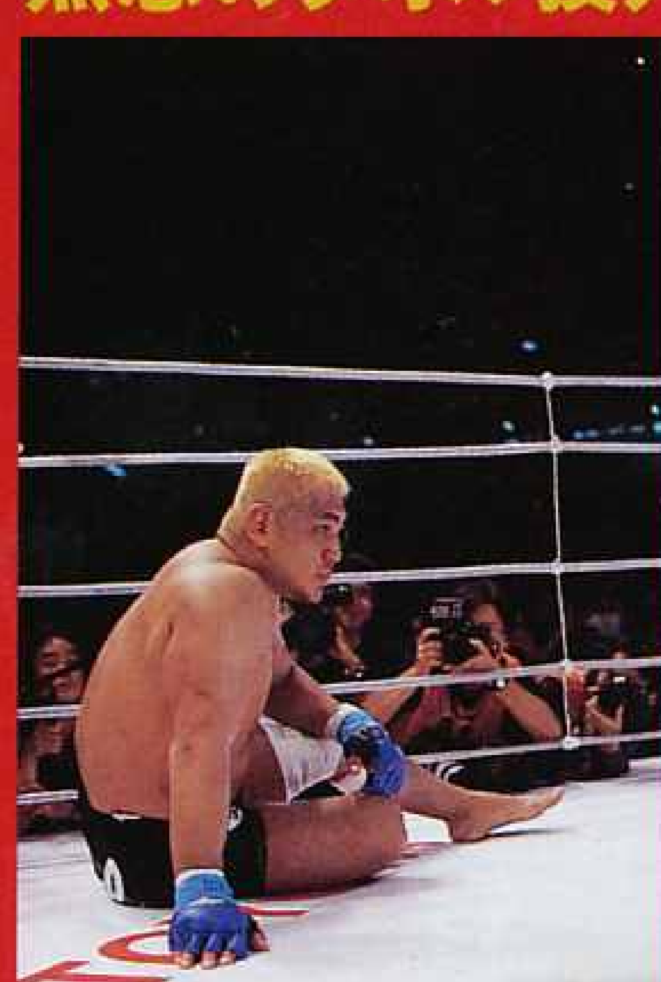
## 準決勝 マーク・コールマン戦

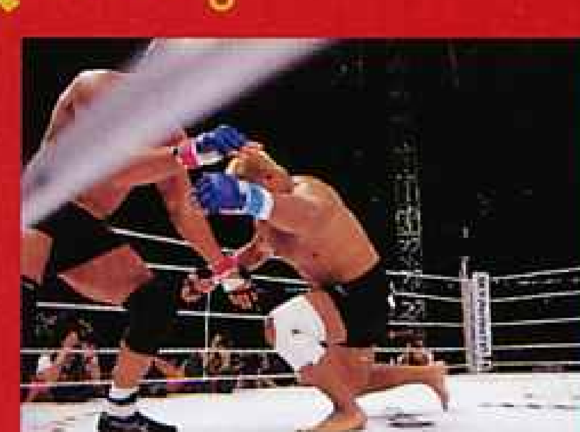


### 左ヒザの靭帯損傷！ 無念のタオル投入……。

入場の際、花道を歩くときから藤田の左足に分厚いテーピングが施され、足も引きずり気味だった。表情も晴れない。藤田は、ゴングと同時にコールマンめがけて猛タックル！ するとセコンドのブライアン・ジョンストンが丸めたタオルを投げ入れる。なんと開始２秒でＴＫＯ負け。

無念の表情でマイクを握った藤田は「さっきの試合で足を痛めてしまいました。痛み止めを打ってリングに上がりましたが、やっぱり出来ません」とアピール。観客からはブーイングは一切飛ばず、「よくやったぞ～」という声援が飛ぶ。インタビュールームで「応援に来てくれたプロレスファンのためにもリングに上がった」「ケガを直すのが第一」と語った。







**藤田**　最後はやっぱりそういうね、誰かが負けた時に、いつかやらなきゃいけないなって思ってましたけどね。

——それっていうのは、やっぱり新日本の中では藤田さんだけが思ってたんですか？

**藤田**　いや、みんな思ってますよ。そのためっていうわけじゃないけど、常に練習してますしね。

——そこでやっぱり今の新日本の練習が甘いって言われるのは腹立たしかったりするんですか？

**藤田**　腹立たしくはないですよ。まあ結果出せば黙ると思ってましたしね。そういうこと言うのはやったことないヤツばっかりじゃないですか。屁理屈並べるばっかりで。

——まあ僕らの仕事は屁理屈を並べることなんですけどね（笑）。

**藤田**　別に否定してるんじゃないですよ。

——いやいや、そこから言いたいのはですねえ、そういうファンとかマスコミっていうのは、藤田さんには気になる存在なのかってところなんですよ。

**藤田**　気にはならないけど、期待を裏切るのって面白いですよね。みんなケアーだと思ったでしょ？（笑）。

——ズバリ言ってボクも思いました（笑）。

**藤田**　それはいいんですよ。だからこそ僕もやりがいがあるわけですから。情報をひっくり返すっていう。

——でも猪木さんも「大金星だ」って言ってましたよね。

**藤田**　ということは、猪木さんも負けるって思ってたんですね（笑）。

——そうですよね。猪木さんですら「やる前から負けることを考えた」ってことですよね（笑）。その、ケアー戦に関して猪木さんと何かお話とかされました？

**藤田**　特にないんですよ。「お前の好きにやれ！」とは言われましたけど。でもそれっていちばん難しいんですよね。あれこれアドバイスされながらやる方が簡単ですからね。

——三銃士世代ですら、猪木の呪縛みたいなものってあるじゃないですか。無理矢理否定してみたり、肯定してみたり。そういうのって藤田さんにはないですよねえ。

**藤田**　ないですね。ただ後ろから見守ってくれてるっていう感じだし。ホントに自分の好きなようにやらせてくれるんで感謝してますよ。

——藤田さんって本当に猪木イズムの呪縛がないんですねえ。つくづくそう思うなあ。UFO入りは考えてないんですか？

**藤田**　それは考えてないし、関係ないですね。試合するのは僕だから。所属してる事務所がそこだっていうだけで、みんながバックアップしてくれて、なんのしがらみもないですよ。

——今のスタンスはいい感じですね。

**藤田**　いいですよ。楽しいし、僕に合ってると思います。

——ちょっと話違うんですけど、アレクサンダー大塚選手が試合が終わった後に泣いたんですよ。というのは、桜庭選手も藤田選手も素晴らしい試合をしたのに、自分はできなかったと。特に桜庭選手に関しては、ボブチャンチンとは自分も闘ったわけですしね。そういうなかで思ったのは、アレク選手も他人の試合なんて無視してりゃいいんですけど、アレク選手は真っ正面から藤田さんや桜庭さんの試合を受け止めたし、藤田選手は同業者をへこますほどの試合をしたわけですし。なんかこの世代はこの世代なりのいいキャッチボールができるんだなって思ったんですよね。



**結局、ケツ拭くのは俺なんだから。ちゃんと拭きましたよ、ウォシュレットもかけて（笑）**

**藤田**　みんなが頑張ってれば、自分も頑張ろうって思いますよ。でも泣くことはないと思いますけどね（キッパリ）。やっぱり全力で、勝とうと思ってやってれば、涙なんて出ないと思いますよ。

——ああ、それ、藤田さんの言葉って気がしますね。これを読んでまたアレク選手がどう思うか楽しみですけど。ただこう、桜庭選手の流れで、面白い試合でなおかつ勝つってのがあるじゃないですか？

**藤田**　大事なことですよ。

——例えばケアー戦なんかは動きもあって面白かったですけど、あれでもし、膠着が続いて判定で藤田選手が勝っても満足できますか？

**藤田**　それはありえないですよ。絶対に膠着はありえない（キッパリ）。

——その膠着しないっていうのは、観客に見せてるからという意味ではなく……。

**藤田**　いや、勝ちにいくためですよ。ただ、僕が寝技が得意だったら違うかもしれないですけどね。寝技は得意じゃないし。

——今の藤田さんはファイターとして理想的ですよね。自分のためにやっていることが、それがそのまま観客を喜ばせることに繋がってますから。

**藤田**　それをうまくコントロールできるようになったらプロレスに戻りますよ（笑）。

——ワハハハ！　まだそれはコントロールできないと。

**藤田**　そうですね。

——なるほど、わかりました。あ、これ最後に聞いておかないと。今回は〝炎のファイター〟で入場したじゃないですか。そういうのってどんな気持ちですか？　大変なもん背負ってるなあって感じですか？

**藤田**　やっぱりアントニオ猪木という人は、僕らの小さい頃のヒーローだったじゃないですか。そういう意味で、別に背負ってるとかじゃなくて。フザけてプロレスラーのテーマ曲を歌いながら入場のマネとかするじゃないですか。そういう感覚ですね。究極のプロレスごっこみたいな。

——究極のプロレスごっこ！　やっぱり藤田さんは凄いですわ（笑）。

**【'00年5月9日、東京・後楽園飯店にて収録】**

●

**今回の藤田から飛び出した言葉は、いままでの寡黙なイメージをブチ破るような、鋭く突き刺さるようなものばかりだった。結果を出したことによって、藤田の「言葉のダム」が少しずつ放水しているような印象を受けた。**

**そういえば、本誌5号（'97年）のインタビューで佐山聡が藤田を評して、「原人みたいなやつ」と語っていたが、その「原人みたいなやつ」は、ダーウィンも猪木も驚くほどのスピードで進化を遂げて「霊長類ヒト科最強の男」を飲み込み、一気に「ほ乳類最強の男」になってしまった。**

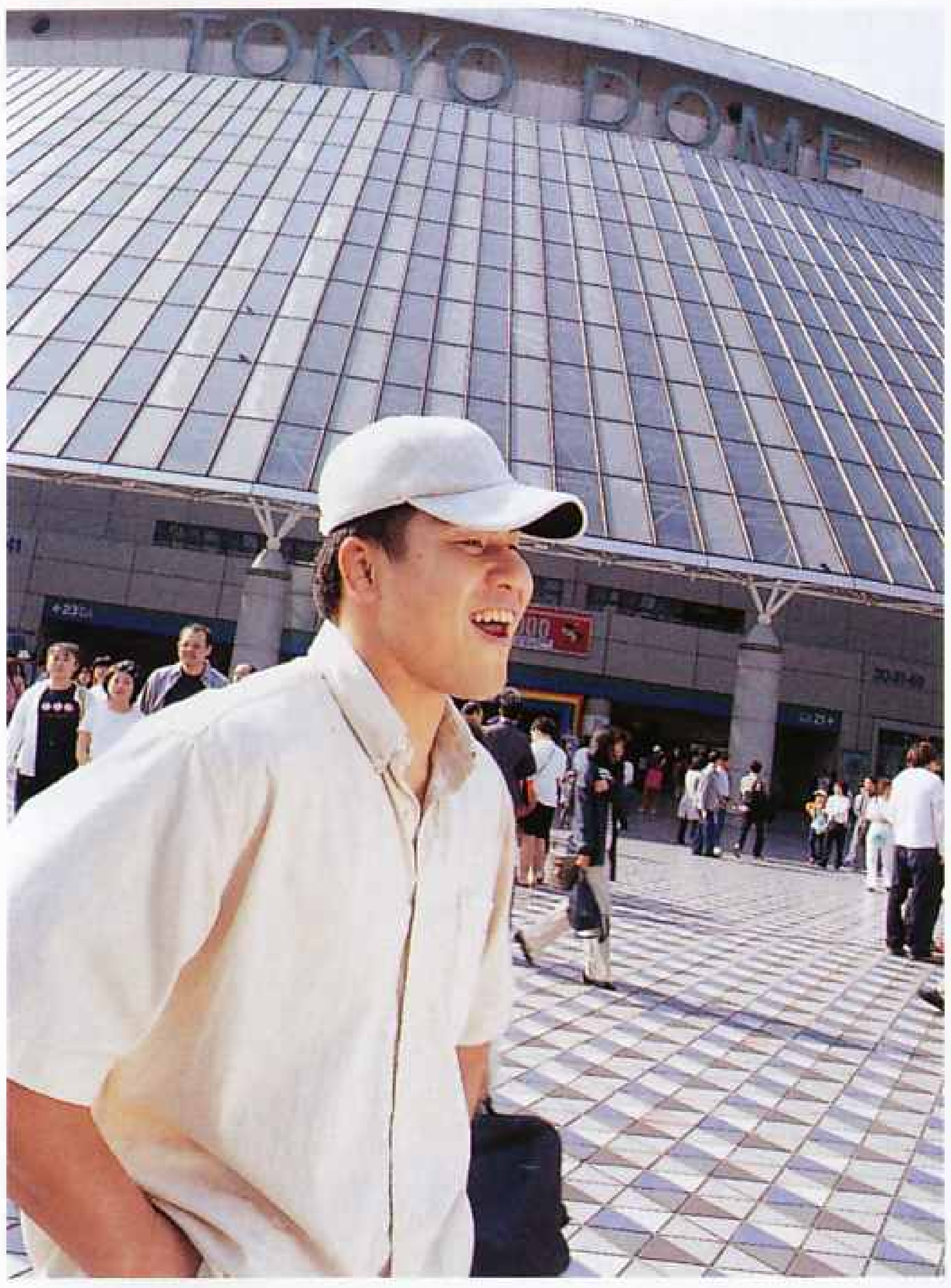
**さあ、こうなったら本誌25号で語っていたように、次のターゲットは爬虫類か？　それとも両生類か？　はたまた宇宙人か？　新たなるニンジンは、いまのところまだブラ下がっていないが、出来るだけドデカいニンジンがブラ下がることを期待したい。**

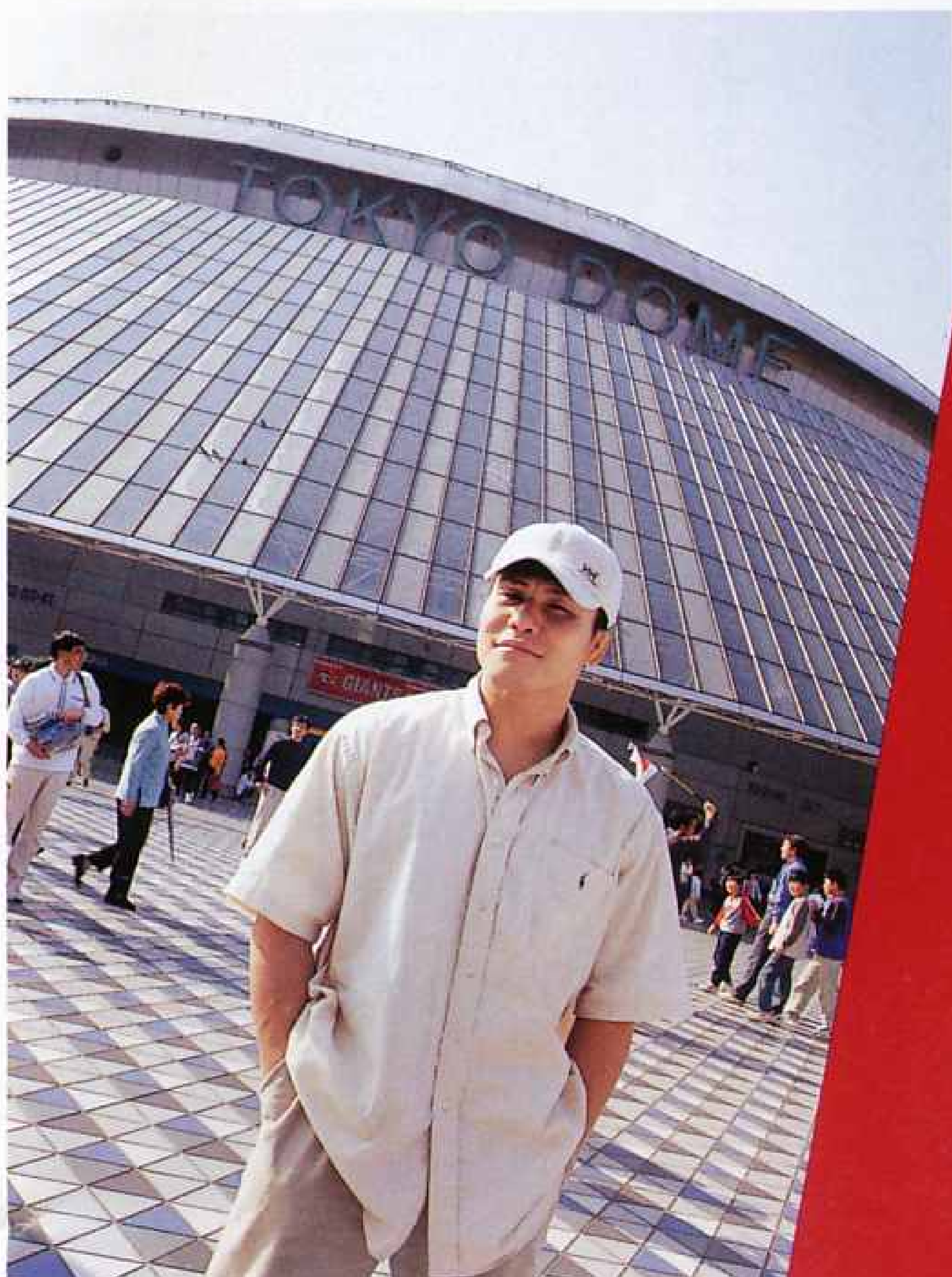
**この男、まだまだ進化する!!**

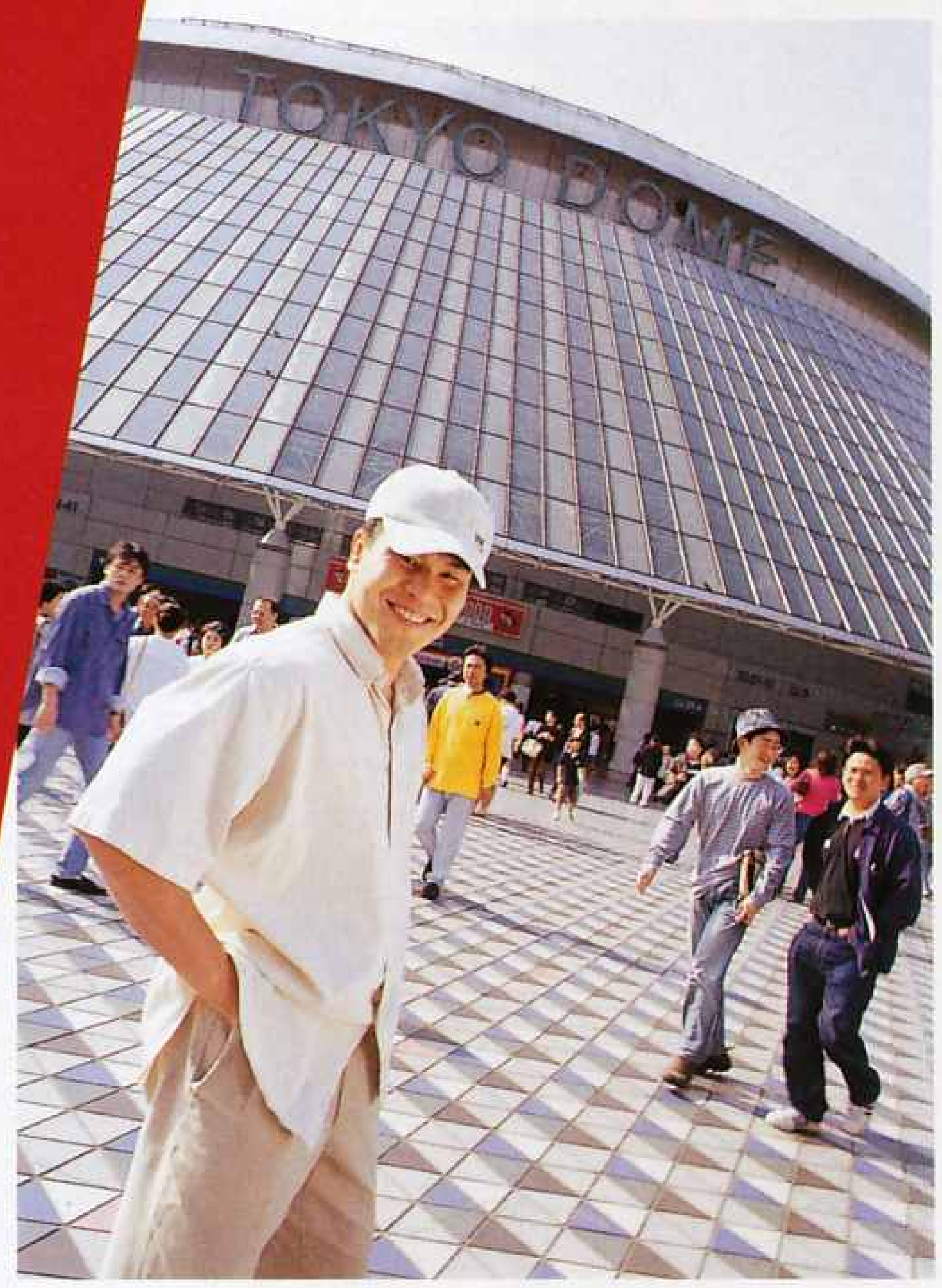
RINGS JAPAN

# 田村潔司 INTERVIEW

# タムタムは 元気です。



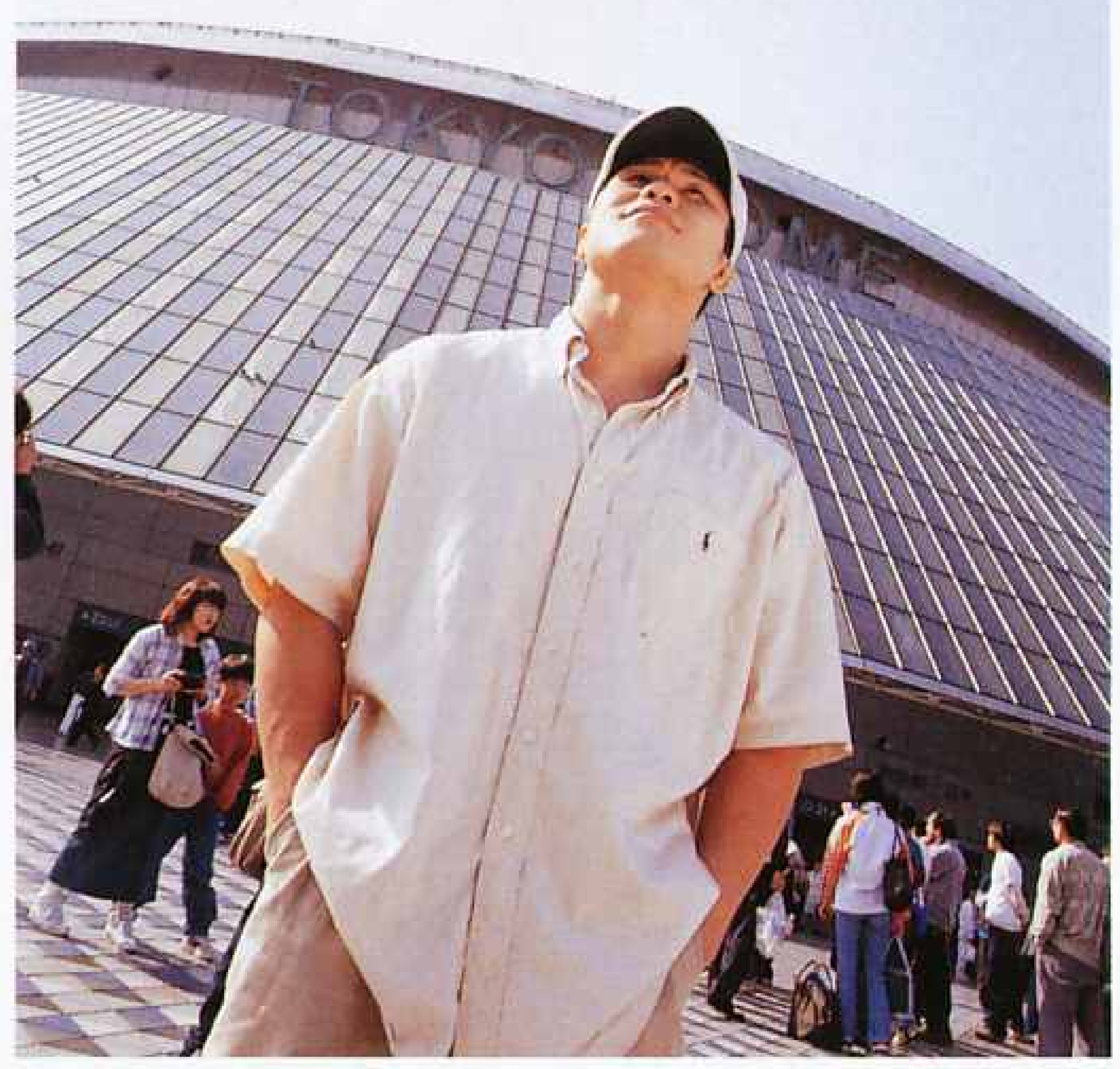



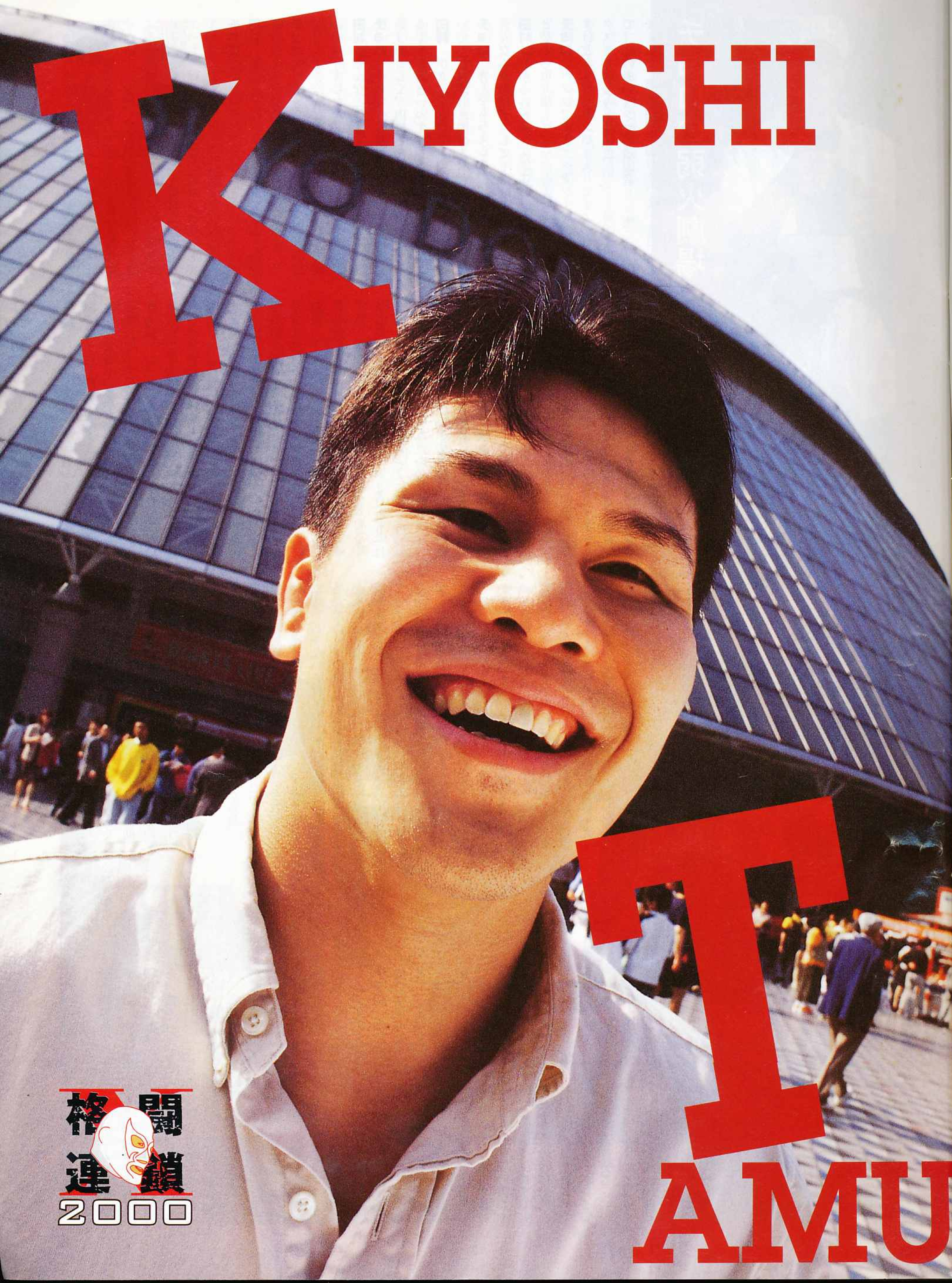




## 5・26東京ドーム『コロシアム2000』直前インタビュー

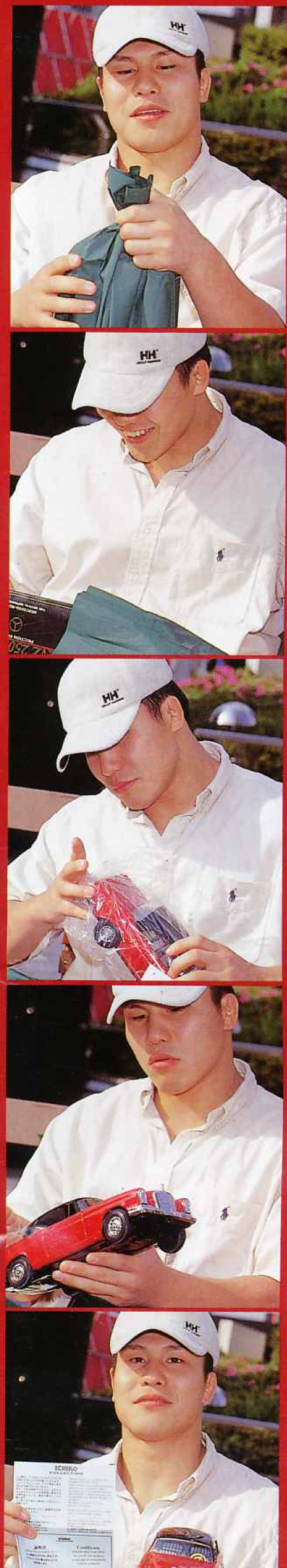
**4・20RINGS代々木で行われたKOKルールによる初のタイトルマッチ。田村は、挑戦者アイブルのすさまじい打撃の前に何度も倒されるも、その度、鬼の形相で立ち上がり観客の心を熱くたぎらせた。しかし最後は壮絶なTKO負けを喫した田村。次なる舞台となる5・26『コロシアム2000』出場も危ぶまれたが、田村本人はいたって元気！　不死身の男・田村潔司にとっての『コロシアム2000』とはいったい何なのだろう？**

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／森"モーリー"鷹博
photographs by Morry




KIYOSHI
T
AMUR
格闘連鎖
2000

# チョロの弱火劇場〜赤いベンツの頑固者編〜



「ベンツに勝ったら10万円下さい。負けたら坊主になります」という田村からの提案に乗ったチョロ。結果はご存知の通り田村の勝利。約束の10万円も払わず逃げ回っていたチョロだったが、この日は田村に真っ赤なベンツをプレゼント。「その気持ちが嬉しい」と喜んでもらいホッと一安心のチョロだったが、まさかインタビューの最後に田村からツッコミが入るとは……。次回に続く。

**チョロ**　あれ？　田村さん、ロレックスしてないじゃないですか！

**田村**　前田さんならともかく、君に言われたくない！（笑）。でもやっぱり毎回持ってきてると価値が無くなるんですよ。やっぱり小太刀みたいに"ここ一番"って時にしないと！　ぶっちゃけた話、今日ここにロレックスしてきたら、「またかよ」って感じしません？

**チョロ**　いやいや、そんなことないですよ。

**田村**　別に見せたいわけじゃないけど、毎回毎回はちょっとヤラしいじゃないですか。

**チョロ**　リングスのファンクラブ会報には「ロレックスより車の方が良かった」って書いてありましたね（笑）。

**田村**　そんなとこまでよく見てるわ（笑）。

**チョロ**　それで、今日はグレイシー撃破記念第3弾として、田村さんにプレゼントがあるんですよ（といってプレゼントを手渡す）。

**田村**　ボクに？（チョロの持ってきた袋を持って）これはいま開けるべきですよね？

**チョロ**　喜んでもらえるかわかりませんけど、喜んだふりだけでもして下さい（笑）。

**田村**　わかったわかった（笑）。（ごそごそと袋から取り出し）えっ、なんじゃこれ？

**チョロ**　ベンツですよ、ベンツ！　ブリキですけどシリアルナンバー入りですよ。ロレックスよりベンツの方がいいって言ってたんで。この赤いベンツの頑固者!!（笑）。

**田村**　ハァ？（冷たく）何言ってんの？　まあでも、これは嬉しい。ていうか嬉しくもないけど気持ちが嬉しい（笑）。でもシャレてますね。……あっ、これ貰ったでしょ？

**チョロ**　ひっどいなぁ、ちゃんと自分で買いましたよ。金額的には大したことないですけど、ボクの中では大したことですよ（笑）。

**田村**　でも金額の問題じゃないですよね。本当にありがとうございます。その気持ちが伝わって嬉しいよ。

**チョロ**　次もまた頑張ります……って毎号毎号ボクは何かするんですかね？（笑）。

**田村**　今度もなんか小物が欲しいなぁ（笑）。

**チョロ**　……は、はい。でも、この間の（ギルバート）アイブル戦での壮絶なKOシーンを見てるんで、『コロシアム2000』は出れないだろうなって思ってたんですけど、予想以上に回復が早いみたいですね。

**田村**　うん。回復は早いですね。でもあの後会社から、「早く病院行け！」って言われて大変だったんですよ。ボクは病院は行きたくないんですよ。例えCTで異常があったとしても、それを知らないで急にパタンって倒れたいんですよ。

**チョロ**　時期的に結構難しい話ですけど、リング上で死んだら本望っていう感じですか？

**田村**　まあ時期的にもそうですけど、会社では凄い心配して病院行くように言うんですけど、行くボクとしては「頭が内出血です。ハイ手術です」って言われても嫌ですからね。ボクはいままで新弟子の同期を一人亡くしてるんですよ。それに、もう一人は命は助かりましたけど頭を手術してるんです。その現場をボクは二回とも見てるから嫌なんですよ。そういうことがあったから、ボクは病院に行きたくなかったんですよ。

**ガンツ**　何か発見されたら怖いですからね。

**田村**　自分がそうなるのが恐かったですね。でも、結局病院に行ったんですよ。それでずっと待合室で待ってたんですけど、夜の病院は暗いじゃないですか？　それでボクは落ち込んでたんですけど、「じゃあCT取りますから」って言われて取ったんですけど、写真が出来上がったのを先生が4枚くらい並べてじーっと見てるんですよ。それでボクは「大丈夫ですよ」って言葉が欲しいがためにずっと待ってたんですけど、それなのにずっとその写真を見てるんで「何だか長いなぁ」と思って、不安だったんで「大丈夫ですか？」って聞いたら「う〜ん、大丈夫だね」って自信のない言い方するんですよ。

**ガンツ**　ますます不安になりますよね（笑）。

**田村**　でも医者は大丈夫でも大げさに言うじゃないですか？　その時はボクとしては「大丈夫です！」ってはっきり言って欲しかったんですよ。でも煮え切らない答えで、その後に「一人暮らしですか？」「ご両親は？」って聞かれたから、やっぱり何かあるのかなと思っちゃうじゃないですか？

## KIYOSHI TAMURA

**チョロ**　それは何かあると思いますよね。

**田村**　でしょ？　それで「一人暮らしだったら、頭を打ってるんで今日は寝ないで下さい。もし寝たとしても、誰か看病してくれる人を一人付けて二時間置きに起こしてもらって、意識がしっかりしてるかどうか確認を取って下さい。それを24時間やればとりあえずは大丈夫でしょう」って言われたんですよ。

**チョロ**　「とりあえずは大丈夫でしょう」って、これまた不安になりますよね（笑）。

**田村**　でも、その後にメシを食ってから帰ったんですけど、その後は普通でしたね。

**チョロ**　顔の腫れもすっかり引いてるし驚異的な回復力ですよね。でも、1ヵ月のスタンスで、またすぐ試合がありますけど、ぶっちゃけた話、大丈夫なんですか？

**田村**　全っ然大丈夫じゃないですよ！（笑）。でも決まっちゃってる以上は何かがない限り休まないようにしたいですよね。脳の方がやばかったら欠場しますけど、CT受けてOKだったから、あとは精神的なものと体力的なものだと思うんですよ。5月26日が終わったらボクの中ではしばらく休みます！　いま言ってもダメかもしれないけど（苦笑）。

**ガンツ**　実際、少し休んだ方がいいと思うん

格闘連鎖2000

ですけど。

**田村**　なんか年のせいか精神的なものかはわからないんですけど、最近、真面目に疲れが取れないんですよ。（突然）ボクは船木さんはヒクソンに勝ったら、やめるんじゃないかと思うんですよ。

**チョロ**　勝っても負けても引退するっていう話は噂話レベルではよく聞きますよ。

**田村**　マジですか？　やっぱりそう思いますか？　なぁんだ、じゃあ船木さんはやめると思ってる人も結構いるんですね。でも負けたら引退しないと思うけどなぁ。

**チョロ**　「船木誠勝31歳ヒクソン・グレイシーに負けたら即引退スペシャル」とかなったら、チケットの売れ行きもかなり変わってくるでしょうけどね（笑）。

**田村**　アッハッハッ。でも船木さんのインタビューって『紙プロ』ではやらないですね？

**チョロ**　うちはどうやら取材拒否されてるみたいなんですよ。ヒクソンからもされてるみたいで、『コロシアム２０００』のメインは２人とも取材出来ないんですよ。

**田村**　じゃあ、なに？　メインの２人が取材拒否じゃなかったら、ボクのところには来てないってことかな？

**ガンツ**　いやいや滅相もない（笑）。正味な話『紙プロ』では去年の秋くらいから、ほぼ毎号、田村さんのインタビューをやってるんですよ。それだけ毎月毎月色々なことが田村さんの周りで起こってるんですよね。

**田村**　いつまで続きますかね（笑）。でも、しばらくしたら、いいネタが提供できると思うんで期待してて下さい。

**ガンツ**　期待してます（笑）。でもよく考えたら、毎回メインで、しかも毎月しんどい試合してる選手は、田村さんぐらいしか、いなくなりましたもんね。

**田村**　はい、ありがとうございます（笑）。ボクは国内の試合は４年間で一回も休んでないですからね。マッチメーク外されたら仕方ないけど、後楽園も出てますから。だから、それはしっかり書いといてよ！

**ガンツ**　はい、書かせていただきます（笑）。でも、それが出来るのは俺だけだって自負するものはあります？

**田村**　そういう自負はないですよ。逆に自分だけ頑張りすぎてもダメなんですよ。じゃあボクがいなくなったらどうなるのかってことを考えていかないと。まあボクもそんなに露出する必要もないんで、試合の間隔はあけたいですけどね。年に３、４試合くらいでもいいと思うんですよ。あとは他の人にチャンスを与えてあげて、ちょっとずつでも選手を増やしていかないと、そういうことも出来ないですからね。自分が出来ることをコツコツとボクはやっていきます。

**ガンツ**　そうなると負傷者続出のリングスの新ルールもなかなか大変なところもありますよね。正直なところ、６月の興行はどうなっちゃうんだろうっていう気もしますよね。

**田村**　ねえ？　どうなるんでしょうね。

**ガンツ**　新ルールでやってみてどうですか？

**田村**　まあ、いまは試行錯誤で考えてるのも、生みの苦しみだと思うんですよ。まあルールに関しては落ち着いてくると思います。ただボクはホントに声を大にして言いたいのは、「怪我人が出てからじゃ遅いですよ」ってことです。ボクも試合中は大丈夫なんですけど、部分部分で過去の記憶が飛んでるんですよ。

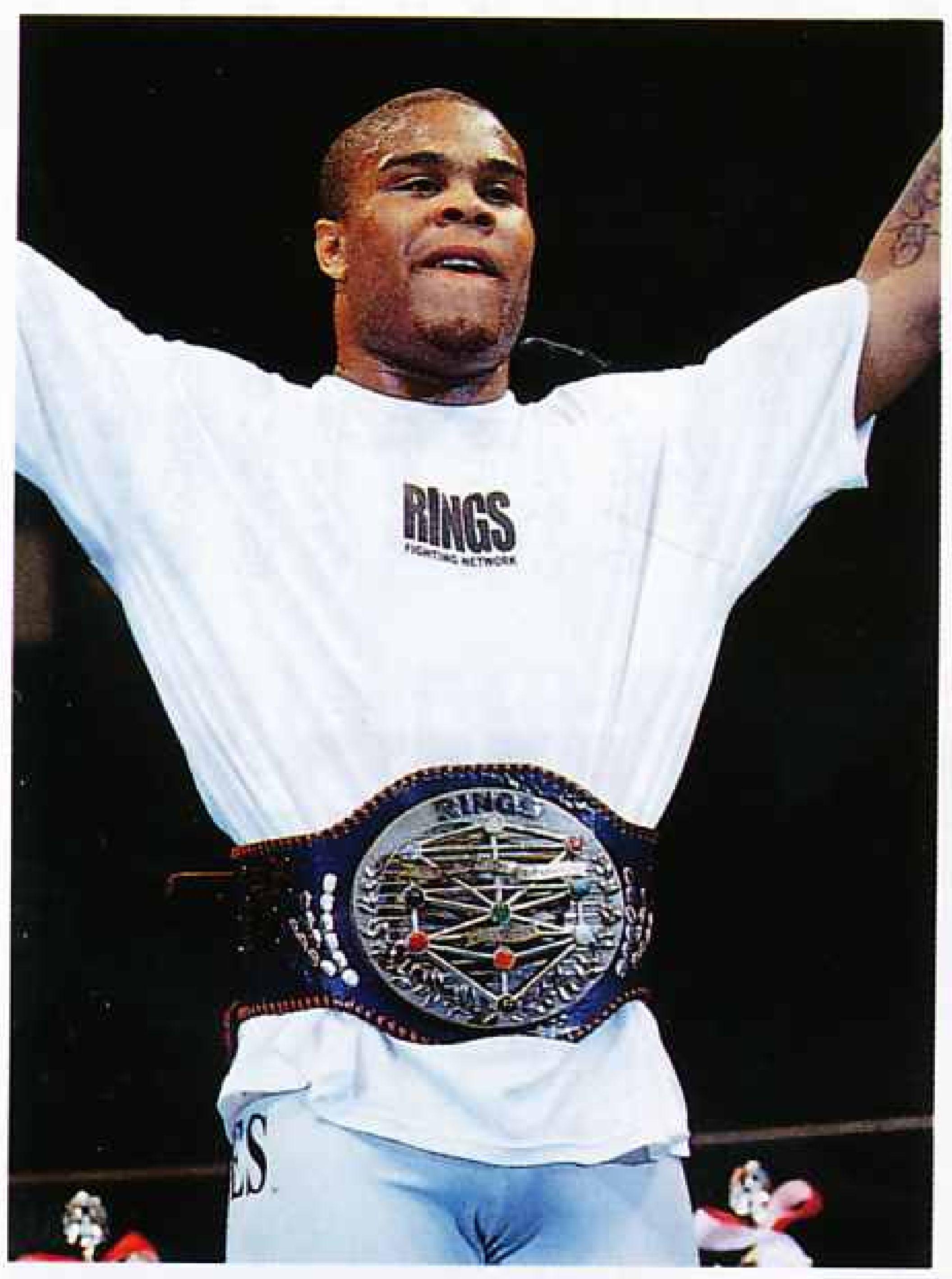
**ガンツ**　え〜、そうなんですか。でも、あのルールで一番理不尽だと感じるのはブレイク問題だと思うんですけど、それは感じませんでした？

**田村**　何かボクに愚痴を言わそうとしてる？（笑）。そういうモードの様な気がするなぁ。

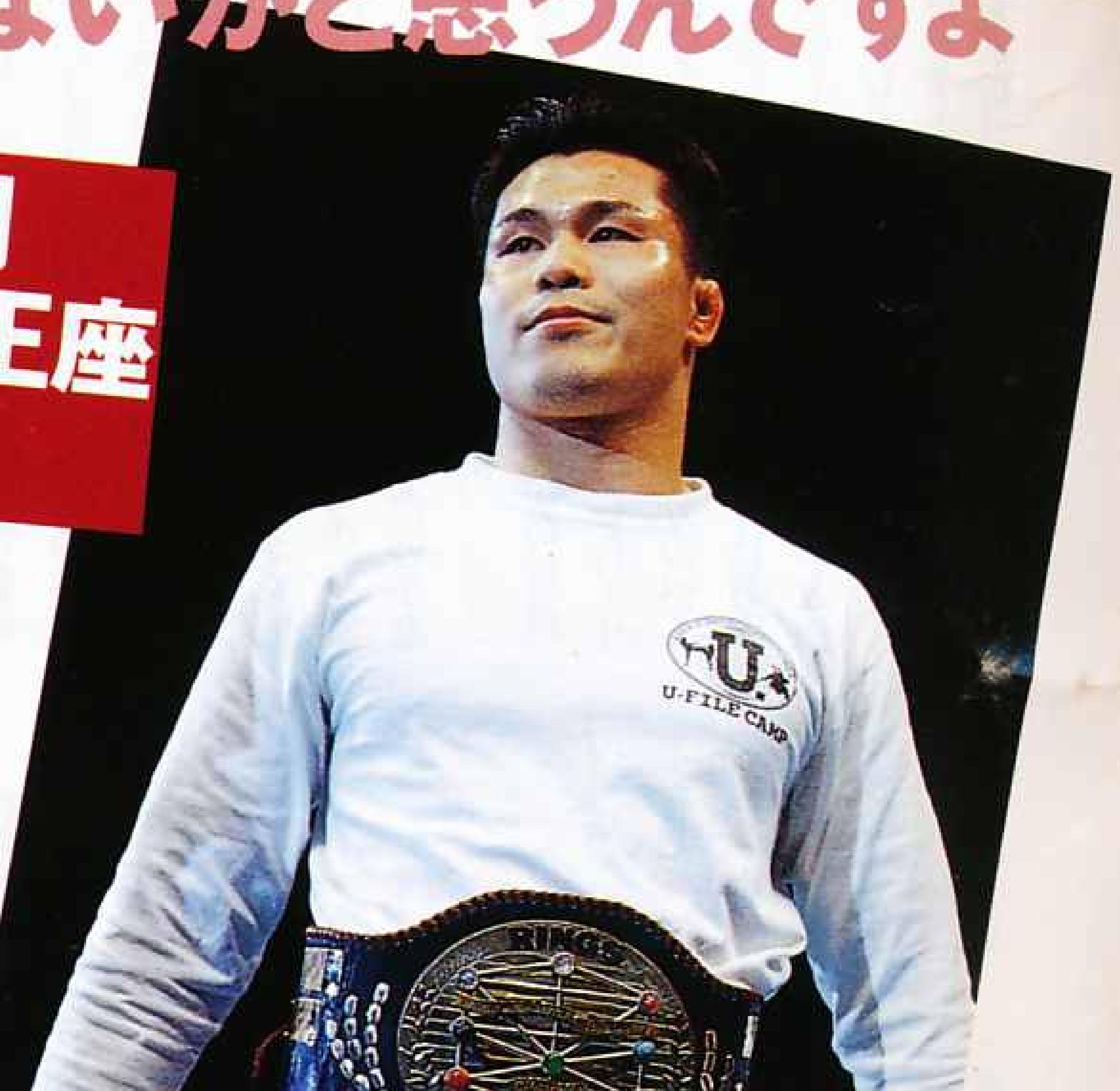
**ガンツ**　ち、違いますよ！　リングス改革案ですよ。

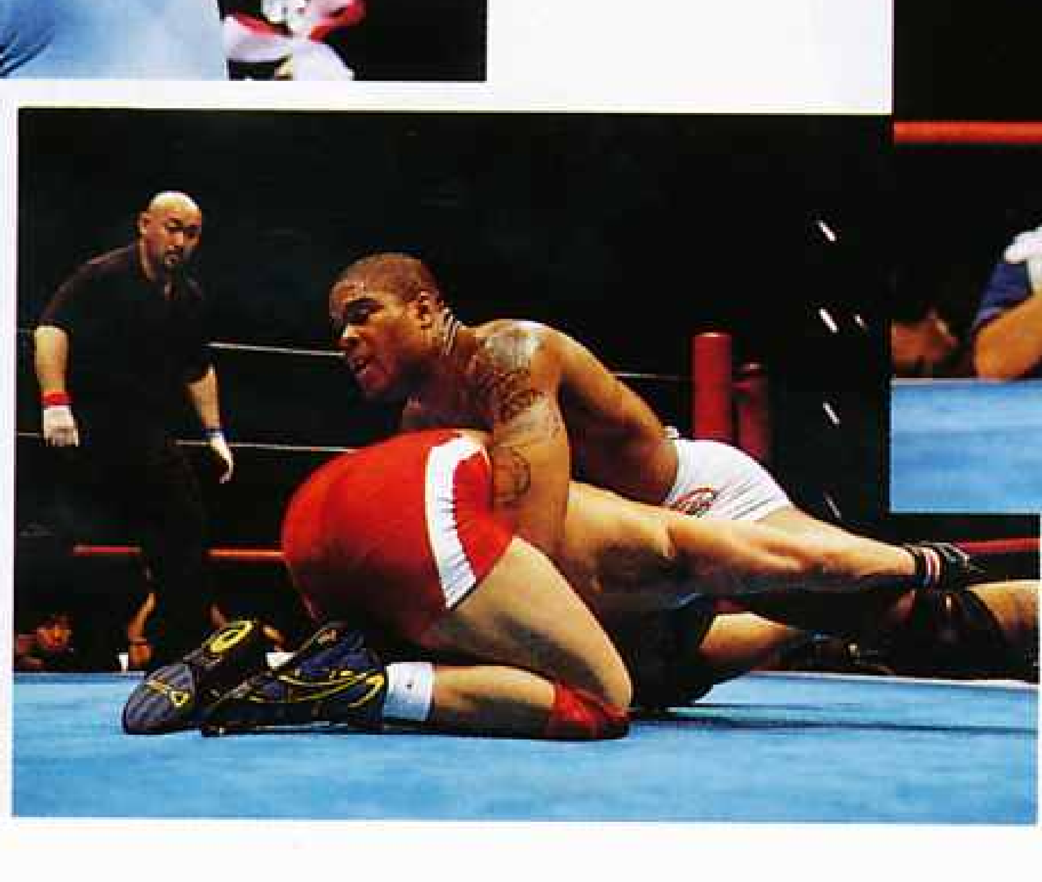
## ボクは、船木さんはヒクソンに勝ったら、やめるんじゃないかと思うんですよ

## 4.20田村潔司リングス無差別級王座から転落！

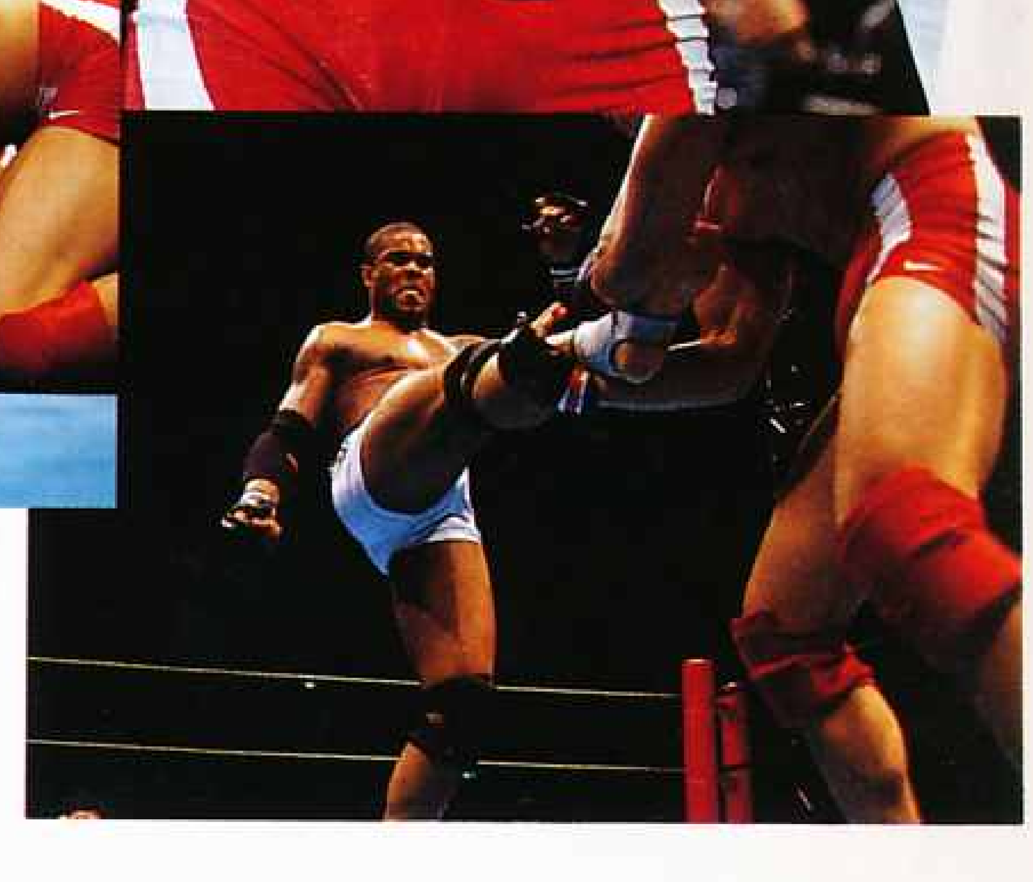








ハリケーン級のパンチ、ヒザを繰り出すアイブルに対し、タックルからのグラウンドで勝機を見いだそうとする田村。しかし13分過ぎ、アイブルのハリケーンパンチが田村を直撃、田村はTKO負けを喫し、無差別級王座陥落。試合後、ベルト姿でゴキゲンのアイブルが『PRIDE』の会場に姿を現すとは、お天道様でもわからなかったはずだ。

**田村**　だからKOKルールがひとつあって、例えば『PRIDE』のルールっていうのもあるけど、それぞれのルールがきちんと確立してて、そこの土俵で闘えるような選手が選べるんだったら、言い訳出来ないじゃないですか。そうなると、そのルールを知った上でやってるわけですから。それを選んで出れるようにした方がいいですよね。そしたらみんな平等ですからね。だって、KOKルールと『PRIDE』ルールは似てるようでも実際やってみると全然違いますからね。

**ガンツ**　やっぱりスタミナ配分の仕方とか全然違うでしょうね。

**田村**　スタミナ配分もあるし、ブレイクがなければ、立ち技が得意な選手でも寝かしちゃえば、それでいいじゃないですか。

**チョロ**　アイブルなんてKOKルールだと誰も止められないって感じですからね。

**田村**　そうそう！　アイブルはKOKルールが一番いいんですよ。『PRIDE』ルールだったら、やられちゃう可能性はあるんですよね。……でも正直言ってアイブルとはまたやりたいですよね。慎重になり過ぎて、結構仕掛けられるところを仕掛けなかったりしたんですよ。そこで仕掛けてれば、もうちょっと違った展開になってたかもしれないですから。まあこれは言い訳になっちゃうんですけど、もうちょっと勝負を掛けても良かったと思いますね。

**ガンツ**　『あしたのジョー』の実写版って感じでしたよ。田村さんはなんでここで立ち上がれるんだろうって何度も思いましたよ。

**田村**　ボクはまだビデオ見てないけど、負けは負けの試合でも、要は何かを伝えればいいわけですよ。たまたま昨日、知り合いの声優さんが安室奈美恵さんのコンサートを見に連れてってくれてたんですけど、安室ちゃんは凄い一生懸命で、手も抜かないし、口パクもないし、ちゃんと歌ってるんですよ。そういうの見てボクも凄い感動したんですよ。踊って歌って大声出して、本当に一生懸命やってたんですよ。だからそういうプロとしてしっかりしたものを見せられると、いまチケットを買ってない人も、例えばチケットを六千円で買ったとしても満足して帰れますからね。でも一生懸命歌ってる表情をそこで見れなかったら、お金払っても意味ないと思うんで。自分でビデオを見直してそういうのが伝われば、負けたとしてもボクは全然OKだと思うんですよ。あとは自分に負けないこと。……あっ、もうひとつあった！　あと坂田！　坂田の「あきらめるなっ！」っていう声だ。それが聞こえてて、その声で励まされたんですよ。でも試合終わったら恨みましたけどね（笑）。

**チョロ**　坂田さんの声に反応して立っちゃってたんですね（笑）。

**田村**　だからボクがもし入院したらアイツのせいだって思ってたんですけどね（笑）。

**チョロ**　でも、今回の敗戦でベルトを奪われてしまったわけですけど、それについてはどういう心境ですか？

**田村**　ベルトを取られたんで、いまのボクには発言権は全然ないですね。でもそれで多少気が楽になった部分もありますから。「いいことばっかり続いたから、たまにそういう大きい悪いことがある方がいいんだよ」って病院に連れてってくれた人に言われて、それを聞いてから、いままで張り詰めてた緊張感となくなりましたから。でも、まだ精神的な疲れは取れてなくて完全な肉体じゃないですけど、多少は楽になりました。やっぱり防衛すればするほど自分を追い詰めますからね。

**チョロ**　ここにきて、田村さんからベルトを奪ったアイブルが『PRIDE』に出るんじゃないかっていう話も出てますよね。

**田村**　アイブルとはもう一度やってみたいけど、出来ないんだったら仕方ないですよね。他のところに行くのもプロなんだからいいんじゃないですか？　やっぱり会社が選手を選ぶわけだし、選手も会社を選んでもいいと思うんですよ。だからボクはなんとも思わないです。ただあとは気持ちの問題ですからね。結局は、『PRIDE』がアイブルをそれだけ必要としてるってことですからね。だからいいことだと思いますよ。まだどうなるかわかんないんで、リングス側は大変ですけど。

**ガンツ**　アイブルは「リングスではTKと田村が強いと思ってたから、その二人を倒したから、他に倒さなきゃいけない選手はいない」って、すでにリングスでは目標達成したと思ってるみたいですけどね。

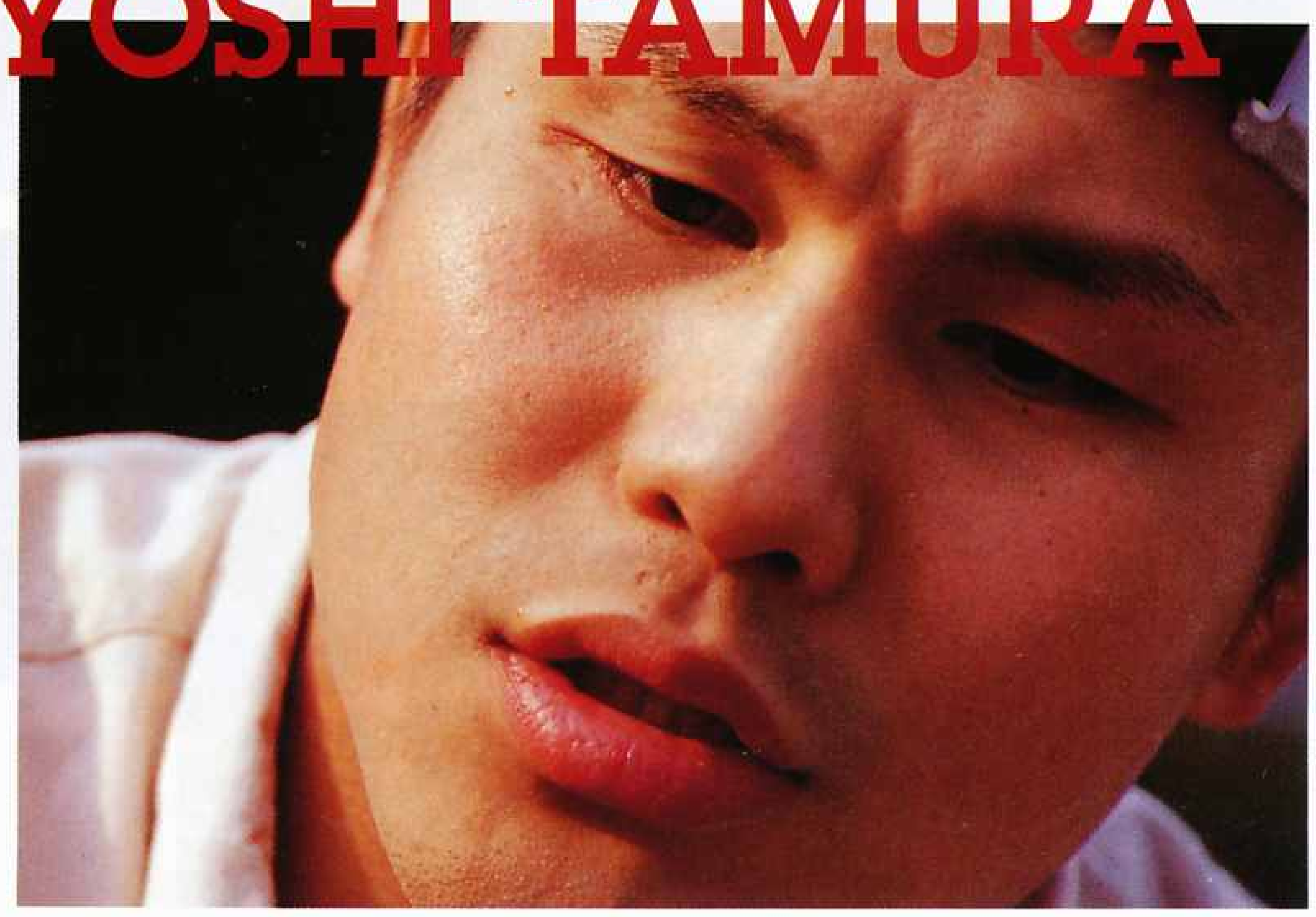
**田村**　ふ〜ん、なるほどね。でもやっぱりムカつきますよ。ムカつくけど、ボクは負けてるわけだし、向こうの方が強かったわけですから何とも言えないですけど、ただ逆に彼も年齢的にもそうですけど、まだこれからですよね。ただ向こうは「ヘンダーソンにも寝技で間接を極めさせなかったじゃないか」って言ってますよね。でもそこで極めさせなかったから、アイブルは自分がチャンピオンだと思って練習が多少疎かになると思うんですよ。だからここ1年の彼の試合ぶりを見ると、どういう気持ちで練習してるかってわかると思いますよ。ボクは30越えて自分のペースで練習してるんですけど、28くらいまでは追い込んでやってましたからね。だからレベル的には、この間ヘンゾ（・グレイシー）に勝って、やっと世界レベルになったのかなって自分で思ったりもするんですよ。

**チョロ**　今更ながら思いましたか（笑）。

**田村**　ボクはどうしても心配で練習しちゃうタイプなんで、いまは落ち着いて自分のペースで練習したいですね。でもアイブルは若すぎるチャンピオンですから、もっともっと悔しい思いとかした方がいいと思いますよ。

**チョロ**　でもアイブルは悔しい思いをすると、窓ガラスとか割っちゃいますからね（笑）。

# KIYOSHI TAMURA



あと、田村さんは、『PRIDE・GP』を観戦してたみたいですけど、どうでした？

**田村**　ちょうど桜庭の入場からいいタイミングで見てたんですよ。

**チョロ**　桜庭選手は、ストロングマシーンのマスクを被って入場してきましたけど、田村さんのヘンゾ戦のUのテーマとはまた別のインパクトがあったと思うんですけど。

**田村**　まあそれは別にいいんじゃないですか。もう彼は『世界の桜庭』になりましたから、それは素晴らしいことですよね。

**ガンツ**　桜庭vsホイス戦を見て、田村さんはどう思いましたか？

**田村**　桜庭の作戦勝ちじゃないですかね？　でもホイスがバカですよね！（笑）。なんで道着を着るんですかね？　道着を持って突っ

張ればタックルとか入ってこれないじゃないですか？　ボクだったら一本背負いで投げてますね（笑）。ちょっとサンボを習ってたんで、道着を持ってしまえばこっちが有利じゃないですか。だから振り回して振り回して相手を疲れさせてスパーンっと投げても、投げたあとに絞め技は出来ないけど、投げたあとに送り衿絞めは出来るんじゃないかなと思うんですよ。実際はちょっと難しいですけど、例えば桜庭が柔道三段だったとしたら、桜庭は掴めるところないですから、ポンポン投げてスリーパーとかも出来たと思うんですよね。例えばあれが柔道四段の高阪だったとしたら、全然、高阪の勝ちですよ。

**チョロ**　でも桜庭さんは、「ホイスは裸だったら全然恐くない」って試合前に言ってましたよ。

**田村**　それなら、ホイスにしてみれば道着があった方がやりやすいんでしょうね。下からも攻めることが出来るし。道着を着て何されるかわからないっていうのも、ホイスにとっては仕方ないんですかね？

**チョロ**　いいように道着を脱がされたり、まんぐり返しまでやってましたからね（笑）。

**田村**　（チョロを指差して）君の得意な奴でしょ？（笑）。

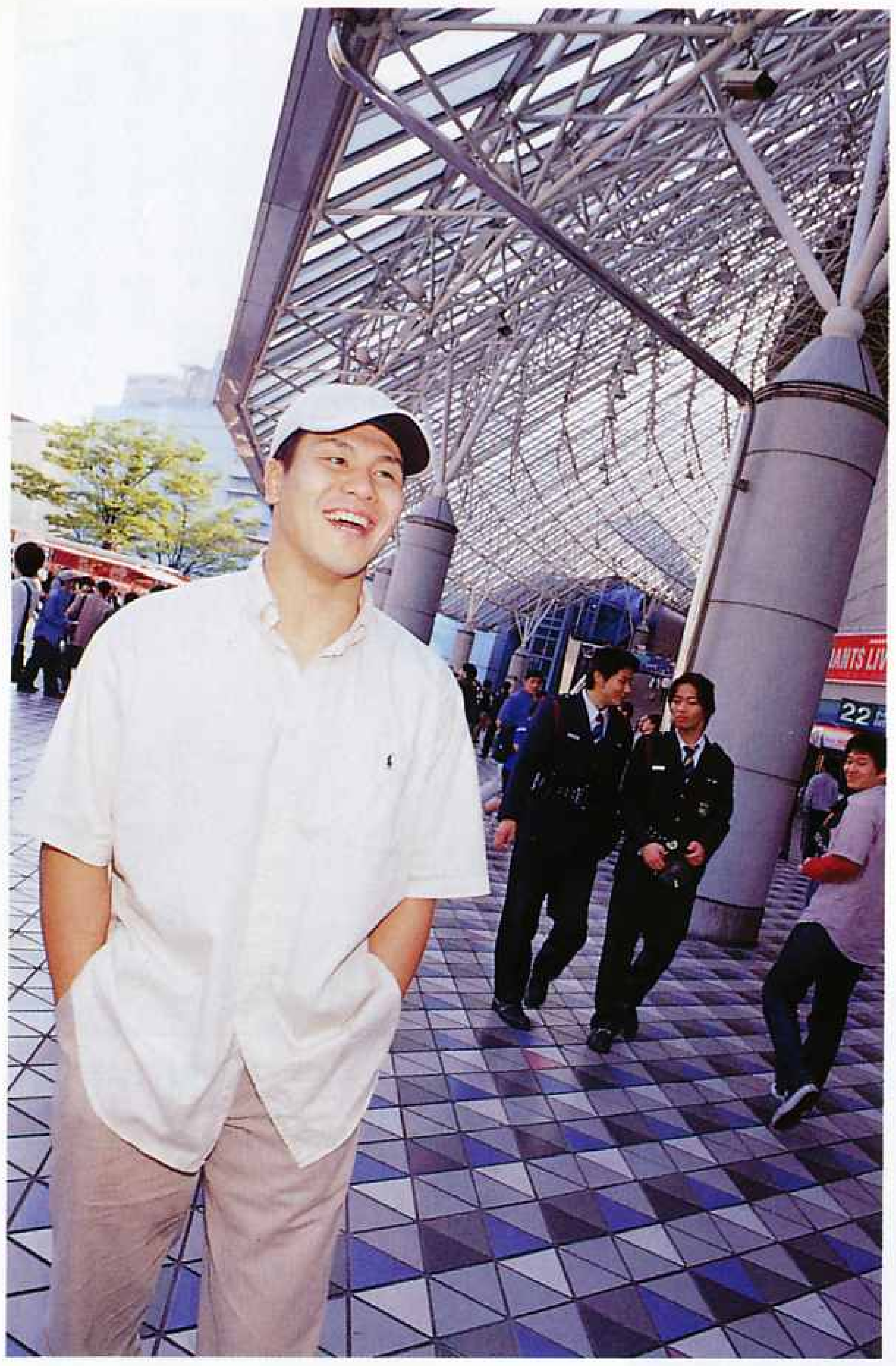
**チョロ**　そうありたいですね（笑）。

**ガンツ**　『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』は次の日にスポーツ紙5社が一面だったんですよ。まあ野球がなかったのが大きいんですけど、その辺は同じ『グレイシー狩り』を果たした男としてジェラシーは感じませんか？

**田村**　ジェラシーはありますよ。でも認めるものは認めないといけないですから。やっぱりいまの桜庭は結果を出してるんで絶対的な発言権がありますからね。だからボクに対して「弱い」って言っても、彼には絶対的な発言権があるからその通りだと思うんですよ。彼は『世界の桜庭』ですよ。ボクは国内でいいです。『日本の田村』でいいです（笑）。

**チョロ**　今日はいつにも増して控えめですね（笑）。藤田選手の試合はどうでした？

**田村**　藤田選手の第一試合目は、ボクは心の中で「すごいっ！」って絶賛したんですよ。本当に素晴らしかった。でも第二試合目は……あの試合は自分の中では見なかったことにしてますから。



**チョロ**　見なかったことにしますか（笑）。

**田村**　余計なこと言って……あんまり敵を作りたくないんで（笑）。この話は終わり！

**ガンツ**　『ＰＲＩＤＥ』見て感じたことは他に何かありますか？

**田村**　うーん……。リングスもそうですけど、『ＰＲＩＤＥ』もそろそろ重量級、軽量級っていう枠を作ってもいいんじゃないかなと思いますね。やっぱり見てて軽量級が可哀相ですよね。ボクもそうですけど、あの状態で、桜庭はボブチャンチンとかには勝てないですよ。絶対的な体力的な差がありますから。東洋人で日本人まるだしでしょ、ボクらは。やっぱり外人って、例えば１００Ｍの短距離走でも黒人とかアメリカ人とか速いじゃないですか。そういう根本的に肉体的な不利があるじゃないですか。それになおかつ10キロ20キロ30キロって違ったら、次元が違い過ぎますよ。だからもう軽量級とか分けてもいいんじゃないかなと思いますよね。

**ガンツ**　田村さんの場合は去年リングスのベルトを2本とも獲りたいって言ってましたからね。田村さんはこれからは中量級でやりたいっていう願望があるんですか？

**田村**　うん……（熟考）、願望で言えば中量級でやりたいですね。

**チョロ**　いまのＫＯＫルールの流れでいったら無差別級になっちゃいますけど、ある雑誌でケビン（ヤマザキ）さんが「田村選手が１００キロあって、いまの動きが出来たらとんでもないことになるのは目に見えてますよ！」って言ってましたよ（笑）。

**田村**　アッハッハッ！　とんでもないことって何が見えてるんですかね？（笑）。

**ガンツ**　とんでもない怪物になるんですよ（笑）。

**チョロ**　ケビンさんは「１００キロにして、いまの動きが変わらないのは断言出来る」って言ってるんですよ。

**田村**　う～ん……１００キロにしたいとは思うんですけど、やっぱり日本人ですからね。日本人はある程度筋肉のつき方とか見ても肉体的に限界がありますから、科学の力を利用するしかないのかなぁとか思うんだよね。ボクは20年肉体作りとして同じことをやってるんで。でもケビンさんがナチュラルで１００キロになるって言うんだったら、それを信じて……（熟考）、まあ理想は１００キロにしたいってことで。

## 桜庭は「世界の桜庭」ですよ。ボクは「日本の田村」でいいです（笑）

**ガンツ**　それで今度の『コロシアム２０００』の相手は現在１０１キロ、見事なヘビー級のジェレミー・ホーンですからね（笑）。

**田村**　でもそれはもういい試合をするしかないですね。いい試合をしてお客さんに納得してもらって帰ってもらって、理想な形はボクが勝てば文句はないです。

**ガンツ**　今回は負けられないっていうプレッシャーはかなり強いんですか？

**田村**　いや、負けてもいいとは思いますけど、そういう気持ちで行くのは良くないんで。逆に、いまは張り詰めたものがないですから、それを前向きに考えて、力を抜いて試合が出来ると思うんですよ。だけど、やっぱり東京ドームって言えば何万人もお客さんが来るわけですから手は絶対抜かないですけどね。やっぱり3万、4万と見に来て、1人でも何かを感じて帰ってもらえればいいですから。

**ガンツ**　でも、ジェレミーはネームバリューがない割にはメチャクチャ強いから、田村さんが勝って当たり前っていうように見られちゃう損なところはありますよね。

**田村**　そう！

**ガンツ**　アメリカでＮＨＢのトップを5人挙げろって言ったら、ジェレミー・ホーンの名前は必ず挙がるくらいの選手ですからね。

**田村**　そうそう！　それをもっと言って下さいよ！　だからこの間のコピィロフ（4・20代々木 vs ヒカルド・アローナ戦）のフォローをするわけじゃないですけど、コピィロフの相手はメチャクチャ強いでしょ。だから始めて見るお客さんは、コピィロフを見て

# 格闘連鎖2000

「あのハゲオヤジ弱えな」って映るんですけど、見方を変えると強い人にあんだけ接戦して頑張ってるんだから、コピィロフは凄いんですよ。だから前もって、「コピィロフの相手はこれだけ凄い」ってことを持ち上げてあげないと、コピィロフが可哀相ですからね。

**ガンツ**　アローナは若いし、体もしっかりしてて、金原選手も「今まで闘った中で一番力がある」って言ってましたし、それで柔術世界チャンピオンになるようなテクニックがあるわけですから、そりゃ強いですよね。

**田村**　そうそうそう！

**チョロ**　とにかくジェレミーはメチャクチャ強いって伝えないとダメなんですよね。

**田村**　そうなの！「田村が危ないっ！」って書いておいて下さいよ（笑）。

**チョロ**　アイブルに続いて、またもや田村がKOされてしまうのか！

**田村**　（冷たく）いや、それはいらない！

**ガンツ**　そういう意味では、山本選手もこの間の試合は可哀相でしたからね。

**田村**　そうそう。山本が弱いっていうイメージになっちゃうけど、相手がもの凄く強かっただけで、山本が弱いとかっていうことじゃないんですよね。

**ガンツ**　アメリカのNHBのファンが見たらジェレミーがローキックでヘロヘロになってる姿っていうのは驚きだと思うんですよ。

**田村**　そうそう！　そうなんだよね。

**ガンツ**　ウチでも、そういう外人勢の強さを伝えていく努力はもっとしていきますから。

**田村**　そうそう！　しっかり伝えて下さい。ボクにとってもそのイメージは必要だから。

**チョロ**　でも試合前から、田村さんのジェレミー戦後のマイクアピールを期待するファンも、たくさんいるみたいですね。

**田村**　何かメインの試合についてマイクアピールした方がいいですかね。どういう事をしゃべればいいですか？

**チョロ**　ボクたち若造に聞いてもしょうがないとは思いますけど（笑）、ベタなのは「船木vsヒクソン戦で、勝った方に「俺と闘え！」」とかですかね。

**ガンツ**　それとか、メインの両者にプレッシャーかけるために控室に戻らないで、無言でリングサイドから観戦するとかですかね。

**田村**　うん、それもいいよね。でもぶっちゃけた話ね、そういう「勝った方が俺と闘え！」みたいな、船木さんをからかうような言い方は本当にしたくないんですよ。船木さんは、いままでの15年間の集大成を賭けてやるわけですから、それを「船木が負ければいい」とかは微塵にも思ったことないですから。だから『ゴング』（NO815）には「田村は『コロシアム2000』出場も危なくなり、ヒクソン戦も消えるか？」とか書いてあったけど、それは船木さんに失礼な話なんで。船木さんがヒクソンに負けて、ボクと闘えるっていう図式が出来てるんであれば、ボクは「ヒクソンが勝たないかな」って思ってるように見られるんでしょうけど、そういう気持ちは一切ないんですよ。本当に純粋に船木さんに勝ってもらいたいし、負けたとしてもケガなく終わって欲しいと思うんですよ。だから船木さんが勝とうが負けようが、そういうことには一切興味ないんですよ。ヒクソンとやりたいとかも現時点では全然思わないし。船木さんが負けた時にそれは考えればいいことなんで、それは声を大にして言いたいですよね。



KIYOSHI TAMURA

**チョロ**　船木さんの試合は生ではだいぶ見てないと思うんですけど、船木さんがヒクソンに勝ったら、「船木さんと闘いたい」っていう気持ちが出てくるかもしれませんからね。

**田村**　あるんじゃないですかね。でも向こうが嫌がるんじゃないですか。ボクを恐れて！

**チョロ**　えっ、なんて言ったんですか？（笑）。

**田村**　いまのはジョークですけど（笑）。

**ガンツ**　アッハッハッ。でも田村さんのそういった発言をパンクラス側が信用してないようなふしもありましたよね。

**田村**　ボクが本当は船木さんの負けを望んでいるように思われているんですかね？　でもそういう風に思うのは仕方ないですよね。だって、もしもですよ、船木さんが負けたあとに、ボクとヒクソンの試合が決まったら、ボクが一番おいしいですから。逆にパンクラスにとっては一番屈辱的なことですからね。でもそういう戦略は嫌ですね。ボクはそういう計算するの嫌っ！

## 安室奈美恵さんのコンサートを見てパワーをもらったんで、まだまだ頑張ります！

**ガンツ**　その気持ちは良く分かります（笑）。田村さんにとって今回の『コロシアム2000』に参戦する意義っていうのはどういうものなんですか？

**田村**　リングスを広めたいっていうのがあったんですけど、ルールが変わっちゃったんで、リングス所属の田村潔司個人を一人でも多くの人に見てもらいたいですよね。

**ガンツ**　船木さんは「今度のドームは、もしかしたら俺にとっての理想的なUWFかもしれない」って言ってたんですけど、田村さんにとって理想のUWFはどういうものですか？

**田村**　理想のUWFは、僕が初めて山本宜久とやった時の試合の緊張感があり、桜庭とや




**田村潔司サイン入りフィギュアをプレゼントfor"U"**

毎回毎回、大好評の田村グッズ。今回は、バカ売れ状態の田村フィギュアをサイン＆「読者プレゼント用です。」という直筆メッセージ付きで1名様にプレゼント。今ならなんと、チャンピオンベルト付きです。応募方法はP159参照。

ったような技術の攻防がありっていうのが究極ですね。それが理想のスタイルなんですけど、それによってお客さんも付いてきてくれて、なおかつ感動してくれれば僕は引退しますから。そういう試合が出来るようになればやり残したことはないんで。それで何度も言うように基本的にUのスタイルっていうのはなくしてはいけないと思うんですよ。

**ガンツ** ジェレミー戦が終わったらしばらく休みたいってことでしたけど、ファンは「ドーム後の田村はどうなるんだろう」っていうのは非常に興味があると思うんですけど。

**田村** う～ん……、そうですね。例えば『PRIDE』に移籍するとか、そういった極端な話はちょっとわかんないですけど、そういうのがあっても全然いいと思いますから。それによって業界が盛り上がるんだったらいいと思いますしね。ただ、色々時代が移り変わっていくんで、ひとつの型に拘るより、もうちょっと自分なりに色々と考えてもいいかなと思いますね。例えば昔はリングスっていう中で頑張っていってましたけど、時代の流れによってそれも違ってきてるんで、ボクが『PRIDE』にリングスの所属として出るのも会社が許せば、それもOK。今回の『コロシアム2000』も会社側がOKだから、これもOK。基本的には契約と会社の方針にもよるんで、それは右にならえで付いていかなきゃいけないことなんで。

**ガンツ** これからはやっぱり年令的な面もあると思うんですけど、毎月のように出るっていうよりも、さっきの小太刀やロレックスの話じゃないですけど、ここぞという時に出ていきたいっていう感じなんですか？

**田村** そういうペースでもいいんじゃないかなとは思うんですけどね。でも安室奈美恵さんのコンサートを見てパワーをもらったんで、まだまだ頑張ります！（突然）あっ、そうだそうだ。うまいメシを食いながらインタビューするっていう話じゃなかったっけ？

**チョロ** （頭を抱え）あぁ～～、最後の最後で思い出されたかぁ（涙）。わ、わかりました。次回は豪華に行きましょう！

**田村** 絶対だよ！ それしっかり書いといてよ!!

【5月3日／東京ドーム前のビアガーデンにて収録】



5・26『コロシアム2000』田村潔司の対戦相手
## ジェレミー・ホーン大会直前独占コメント

タムラ戦はどう闘うかって？ ぜ～んぜん考えてないんだ（笑）。でも勘違いしてほしくないのは別にこの試合を軽くみてるわけじゃなくて、ボクは考えすぎない方が体が自然に動いて、いいファイトができると思ってるからなんだ。だから東京ドームみたいな大舞台に出られるのはホントに光栄だし、チャンスをくれたマエダには感謝しているよ。大勢の観客の前で闘うことになるけど、リングに上がってしまえばタムラしか目に入らないし、観客はどうせヒクソンとフナキの試合を見に来てるんだから（笑）、ボクが特別緊張することもないよ。だからいつも通りの闘いができると思うし、そうすれば自然に勝利も転がり込んでくると思うよ。

# Sammy Prezents コロシアム2000
## 2000年5月26日(金)東京ドーム 18:00開始

**田村潔司 VS ジェレミー・ホーン**
（リングス・ジャパン） （リングスUSA）

**船木誠勝 VS ヒクソン・グレイシー**
（パンクラス） （ヒクソン・グレイシー柔術センター）

**金原弘光 VS マリオ・スペーヒー**
（リングス・ジャパン） （カーウソン・グレイシー柔術アカデミー）

**近藤有己 VS サウロ・ヒベイロ**
（パンクラス） （グレイシー・ウマイタ）

**須藤元気 VS アンドレ・ペデネイラス**
（パンクラス・ビバリーヒルズ柔術クラブ） （ノバ・ウニオン）

**鈴木国博 VS ルシアーノ・バジレ**
（極真会館） （勢和会）

**魔裟斗 VS メルチョー・メノー**
（シルバーウルフ） （WCKムエタイセンター）

【チケット】RS32.000円～スタンドB5.000円
チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、キョードー東京他にて絶賛発売中！
【お問い合せ】コロシアム2000事務局　03・3432・1682
【公式HP】http://www.colossem2000.com




最後の最後までルール問題で揺れる5・26東京ドームでの船木誠勝vsヒクソン・グレイシー戦。焦点は頭突きとヒジを認めるか否か。4・30パンクラス横浜大会で尾崎社長は「主催者はヒクソンのいいなりだ」と涙の訴えを行い、それが功を奏したのか、5月12日に行われた会見では一転して、主催者側が「ヒジを認めるようヒクソンを説得する」と宣言。すった揉んだの末、頭突きは禁止となったが、ヒジについては試合当日までモメにモメそうだ。

――今日はですね、『金原弘光・大ブレイク
計画』のインタビューなんですよ（笑）。

グスに来てから意識的に体重増やしたのはい

**金原**　怖いなぁ（笑）。僕は1本も見てない

**金原**　ああいう選手がバンバン目立ってきて、



格闘連鎖2000

5・26東京ドームで柔術界の超大物マリオ・スペーヒーと激突！

不遇の実力者にようやく春が来た!!

# まもなく金ちゃん五月晴れ

日本格闘技界最強の秘密兵器

# 金原弘光 RINGS JAPAN

## ――ボヤキング・オブ・キングス――

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

**時は来た！　よ～やく来た！　専門家やマニアからは「実力者」として評価が高いものの、数々の不運が重なり「リングスの裏番」的存在に甘んじていた金原に、遂に大ブレイクのチャンス到来！　5・26『コロシアム2000』で柔術の超大物マリオ・スペーヒーとの激突が決定し、いよいよ満天下にその実力を示すチャンスが巡って来た。もう「ぼやきの金ちゃん」は返上！　全開の金原節を聞け！**

# 会社は昔からいる奴が可愛いんですよ。俺なんか人形も出ないし（笑）

—今日はですね、『金原弘光・大ブレイク計画』のインタビューなんですよ（笑）。

**金原** ホントにそろそろブレイクさせてよぉ～（笑）。

—ご自分でも「ブレイクしないのはおかしい」とは思いますか？

**金原** なにをもって「ブレイク」と言うか、俺にはわかんないけどね。それにしても雑誌でもモノクロページだし、表紙にもならないし……しょうがないよ（笑）。

—ファンの中でも、コアなファンには「実力者・金原」って浸透してますけど、たまにリングスを見るような人からは、中堅みたいに見られちゃったりするじゃないですか。そういうのって腹立ちませんか？

**金原** いや、好き勝手に見てくれればいいんだけど、会社がさ、「田村、山本、高阪」を売りにしてるでしょ。だいたい俺の人形も出てなかったし（笑）。

—アハハハハ！ 僕は金原フィギュアは欲しくてたまらないんですけどねぇ（笑）。

**金原** 会社としたら、昔からいるヤツが可愛いんでしょ。俺なんてリングス入ってまだ2年ぐらいだからね。これからじゃないの？

—「これからはオレの時代だ！」みたいな感じですか？

**金原** ようやくいいカードも組まれ始めたからね。KOKのジェレミー・ホーン、ダン・ヘンダーソンそして今度のマリオ・スペーヒー戦。これから与えられた課題をちゃんとパスしてりゃいいんじゃない？ だからとりあえずはスペーヒーを倒しとかないと。

—その前に足首の怪我の方は、もう大丈夫なんですか？

**金原** 毎日スパーリングやってるし、調子いいですよ。でも最近「太った」ってよく言われるんですよ。それで昔のUインターのビデオ見たら、確かに体は締まってるし、蹴りは早いし、脚は上がってるし、「これ、自分かなぁ？」って思うんですよ（笑）。ちょっと、身体締めないといけないですよね。リングスに来てから意識的に体重増やしたのはいいんですけど、お腹出ちゃいましたから。腰はもともと太いんですけど、いまは長州さんみたいな体型になってますからねぇ（笑）。「それじゃ蹴りは出ねえだろ」って。

—アハハハ！ ストンピングは上手くなりそうですけどね（笑）。

**金原** いまは何発か蹴ると息切れがするから、パンチのほうが楽なんですよね。

—最近パンチが上手くなったのは、パンチの方が楽だからだったんですか！（笑）。

**金原** そうそう、パンチのほうが、息が上がんないんですよ。一発ハイキック打つと、息上がるんですよ（笑）。

—ところで、ドームで闘うスペーヒーにはどんな印象を持ってますか？

**金原** 試合の映像を見たことないんですよ。アブダビでやった20分間の手の探り？ あれしか見てないから、どんな選手かわかんないですよ。

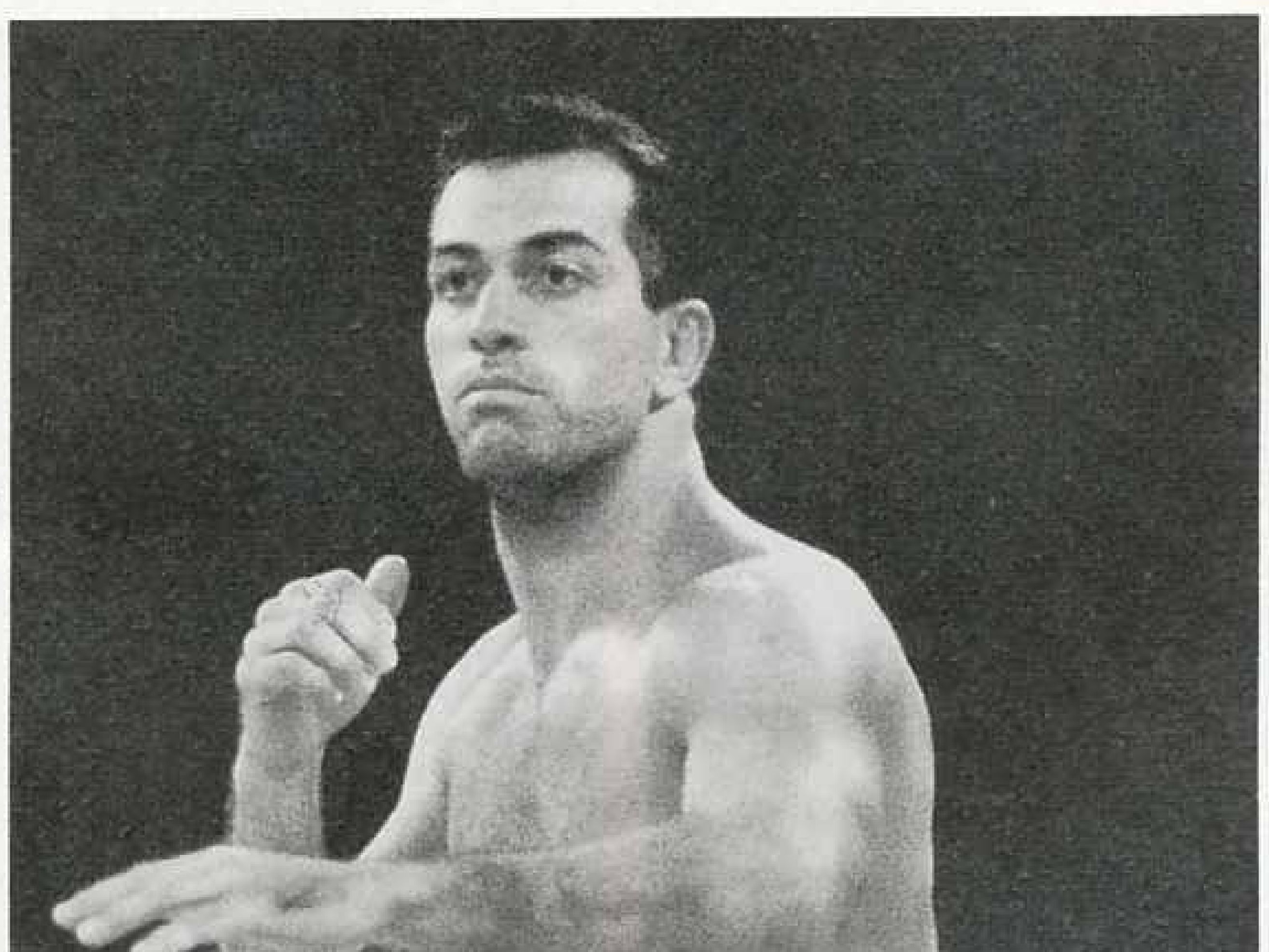
—スペーヒーって金原さんとかエンセンさんに話を聞いて、消極的な選手かと思ってたんですけど、インタビューしてみたら「KOKはオレに合っている。動き回る闘いは得意なんだ」って言ってたんですよ。

**金原** じゃあ、彼はルールに合わせて闘い方を変えるんじゃないですか、楽しみですねぇ。

—逆に言うと、ルールを凄く研究して、利用してくるかもしれませんね。

**金原** 僕のビデオとかも見てるんですかね？

—バンバン見てるらしいですよ。「カネハラのビデオはじっくり見た。これはいい試合になるよ」って不敵な笑みを浮かべていましたから（笑）。



金ちゃん大ブレイク（予定）の舞台である『コロシアム2000』での対戦相手、"超大物柔術家"マリオ・スペーヒー。先のUFC－Jで安生洋二を完封したムリーロ・ブスタマンチ同様、柔術のセオリーを熟知した曲者である。この強豪に対し金ちゃんは「スペーヒーはアブダビ王子のお抱えだから、勝って今度はオレがお抱えになりますよ」と早速得意の皮算用を開始。

**金原** 怖いなぁ（笑）。僕は1本も見てないですけどね。でもスペーヒーって強いんじゃないですか？ 人から聞くと「グレイシーも対戦を避けてる」とか「柔術やらせたら凄く強い」って言いますからね。そういう噂話を聞くだけで、よくわかんないですけどね。

—ホイラー・グレイシーから4分でタップを奪ってるくらいですからね。

**金原** だから柔術でも、グレイシーよりも強いヤツって結構いるんでしょうね。

—そうですね。とくにバーリ・トゥードなんかは、若くて立ち技もできる選手にはかなわないでしょうからね。この前の代々木（4・20）でコピィロフに勝ったヒカルド・アローナやリングス・ブラジル所属のレナート・ババルなんてホント強いですもんね。

**金原** ああいう選手がバンバン目立ってきて、客を呼べるようになったらいいですよね。そうしたら興行的にも盛り上るしね。だから選手のキャッチコピーみたいのは必要じゃないですか？「霊長類ヒト科最強」とか、いいコピーですもんね。リングスの外人だって実力的には負けてないと思うけど、そういうのがないじゃないですか。（イリューヒン・）ミーシャにしたって、ボブチャンチンに勝ってるでしょ？ そんなこと誰も知らないじゃないですか。もったいないですよね。

—それはリングスにも言っといたほうがいいですね（笑）。

**金原** 宮戸（優光）さんにリングス入ってもらって宣伝してもらったほうがいいですかね（笑）。

――アハハハ！　それは抜群です（笑）。

**金原**　だから「グレイシー」だと客の認知度もあるし、わかりやすいんですけど、他のヤツはどれだけ凄いかファンに伝わってませんよね。ヘンダーソンにしたって、UFCやブラジルのトーナメントで優勝してるってみんな知らないですもんね。ジェレミーなんかも、1年間で25連勝してたんでしょ？

――ジェレミーはこのまえ話を聞いたら、それは数え間違えで、実は年間34連勝だったらしいですよ（笑）。

**金原**　え!?　1年間で？　おかしいですよ、あいつ（笑）。だから僕が闘う選手って無名で強い選手が多いんですよ。

――そういう部分では、金原選手も損してる部分もありますよね。

**金原**　そういうの、多いッスもん。1・2回戦がジェレミーとヘンダーソンなんて決勝トーナメントよりキツいでしょ。それでイエローカード出てんのにマイナスポイントもなかったとか……あ〜、思い出したくないや。

――あのトーナメントも金原選手の大ブレイクのチャンスだったんですけどね。

**金原**　組織ぐるみで阻止されてますね（笑）。

――何故かランカーでもないですからね。

**金原**　でもランカーって言っても、俺に負けたヤツばっかりなんだよね。負けたら外さないとダメでしょ。ハンとかも。でもタリエルなんかも、ランキング入ってないけど、いきなりタイトルマッチやってチャンピオンになってますよね。だから俺もホントは次、アイブルと試合をしたかったんですけどね。

――いろんな報道がされてますよね。

**金原**　すんごいアイブルと試合したいですねぇ。ブン殴ってやりたいですね、あの若造！

――僕も田村選手とアイブルの試合見て、「アイブルにこのルールで勝てる選手って、日本人でいるのか？」って考えたんですけど「あ、一人いた！」って気づきましたよ（笑）。

**金原**　ねぇ、ここにいますよ（笑）。俺は（ヴァレンタイン・）オーフレイムもKOしてますからねぇ。でもKOKのルールはね、アイブルにはスッゴイ、いいルール。

――やっぱりそう思いますか。

**金原**　アイブルが一番実力を発揮できるルールだよね。だから『PRIDE』とか行ったら、逆に苦戦するだろうね。

――どんな点でですか？

**金原**　『PRIDE』はKOKと違ってブレイクがないでしょ。だから1回上に乗られたら、打撃系の選手は、やっぱりムリですよね。アイブルもボブチャンチンとやるぶんにはいいかもしれないけど、コールマンとかとやったら厳しいでしょう。だからアイブルが『PRIDE』に行くような話を聞いたときは「あ、こいつ頭悪いな」って思ったね。ま、若いからしょうがない。

――ちょっと痛い目に会え、と（笑）。

**金原**　でもホントにアイブルとは試合したいんだよね。5月にスペーヒーに勝って、6月15日にアイブルとタイトルマッチやらせてもらって、一気にチャンピオンになるつもりだったから（笑）。

――その皮算用が実現してたら、完全に大ブレイクですよ（笑）。金原さんはアイブルにスタンドでも負けない自信はあるんですか？

**金原**　アイブルもまだガードが甘い部分もあると思うんで。スタンドでやって、疲れたらちょっと倒して休んでってやろうかなって。でもヒザとスタミナはホント凄いですよね。とにかく運動能力が高いから。

――10分以上アクセル踏みっぱなしって感じですもんね。

**金原**　あれは凄いよぉ……あのスタミナは凄い！　それにあいつは上手いことKOKルールを利用するからね。倒されたらロープの近くに行けばいいとかさ。

――そのKOKルールっていうのは金原さんにとってはどうですか？

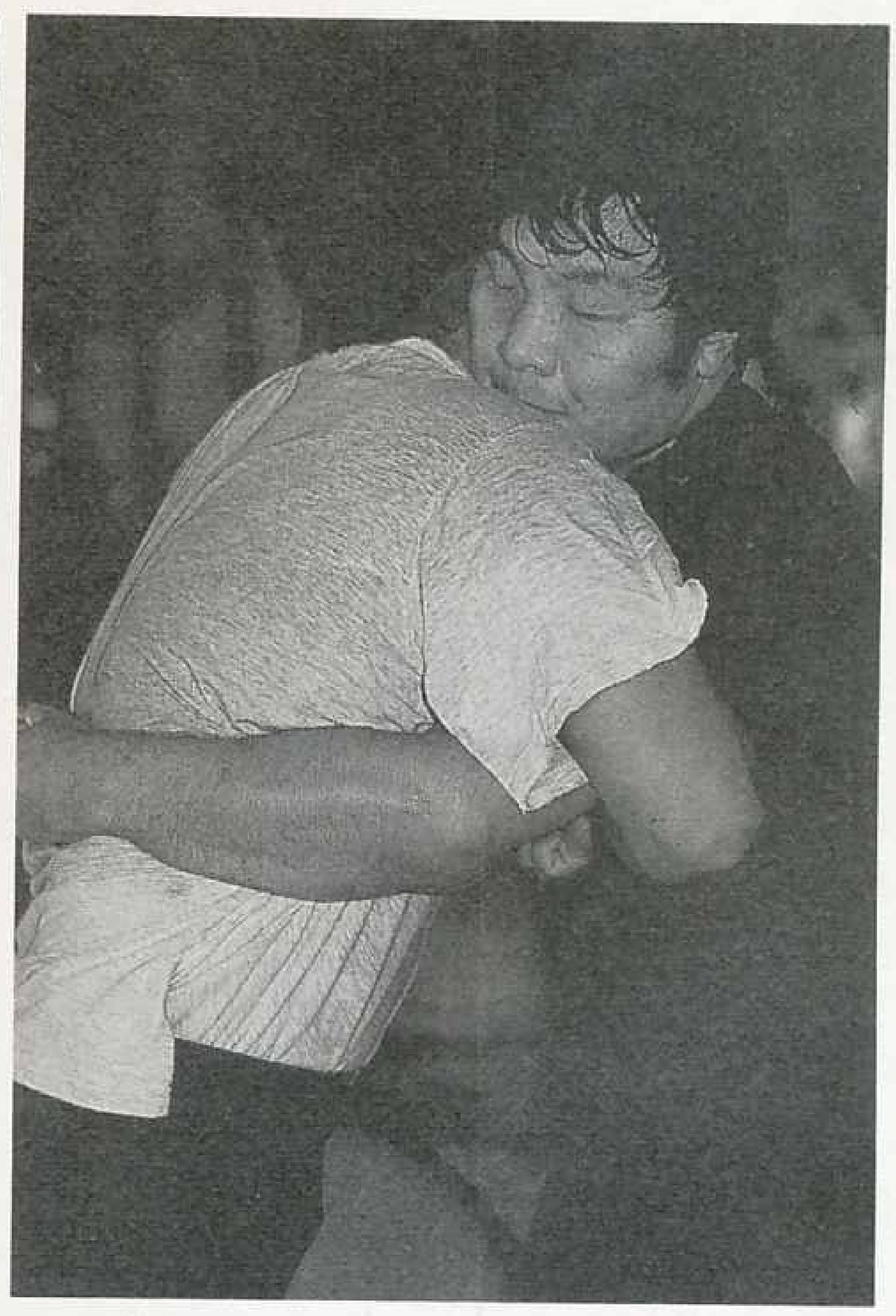
**金原**　お客さんがお金払って見てるもんだから、選手はキツいけど、面白いからいいんじゃないですか？　ずっと膠着してたらつまん



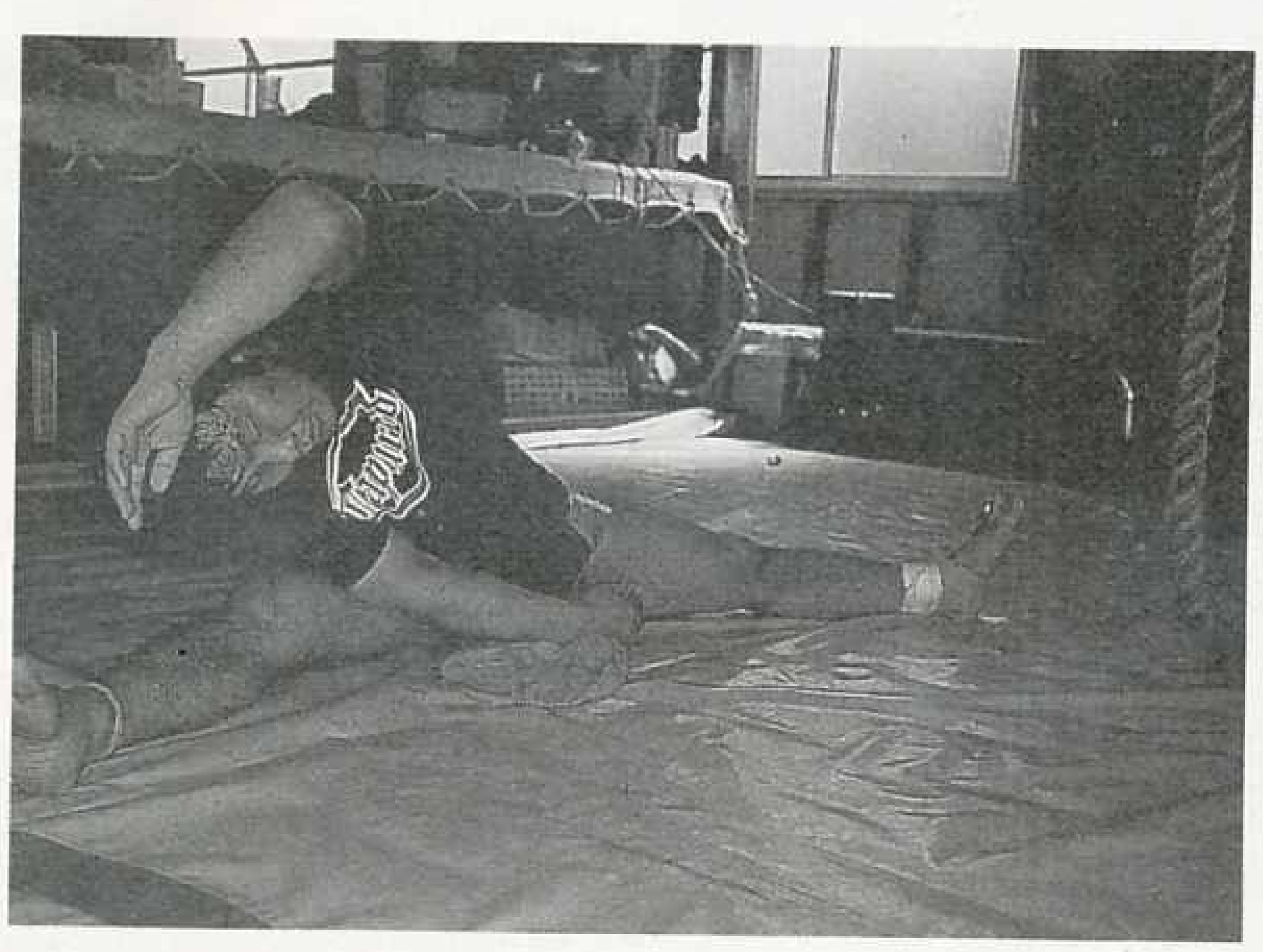


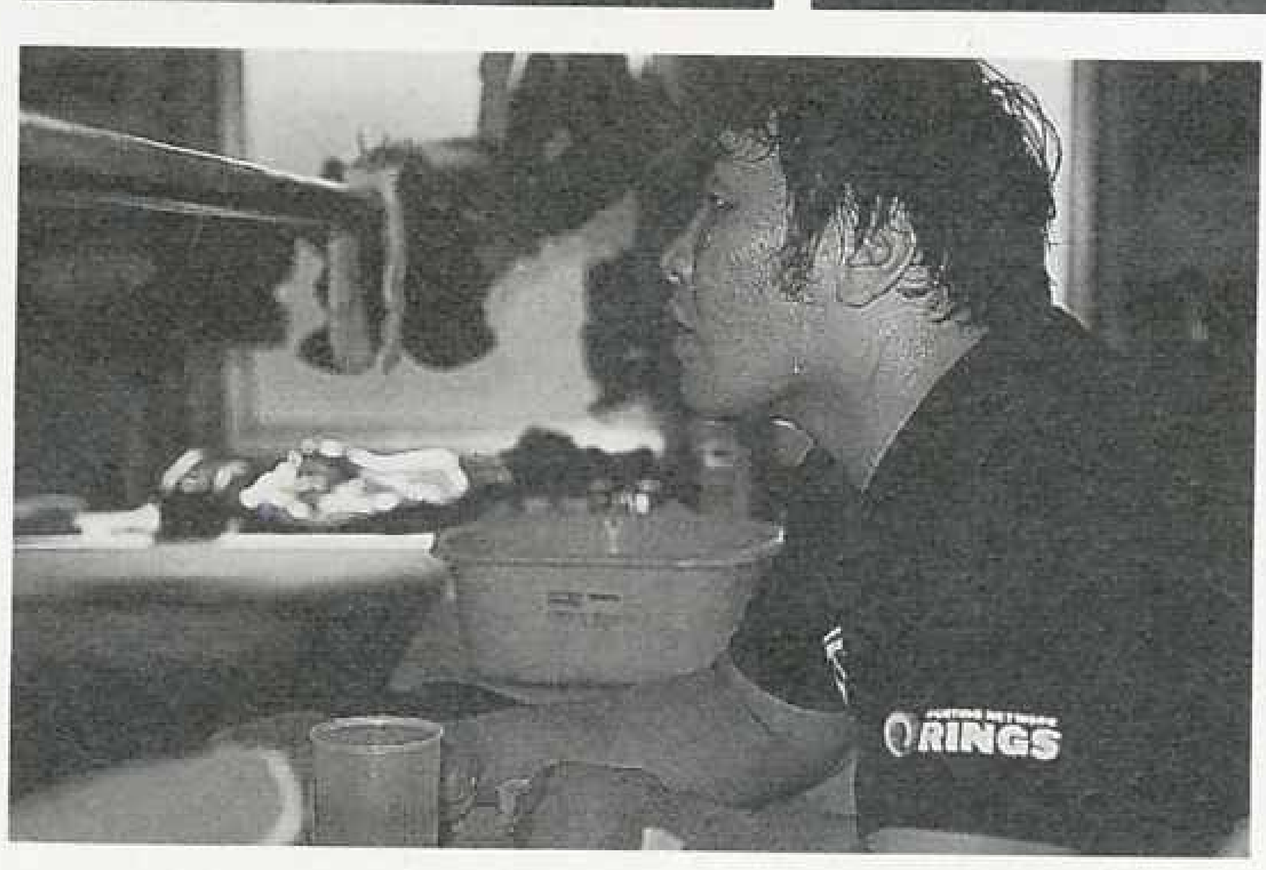






4・20代々木ではKOK準優勝のババル戦が組まれていたものの、足首の怪我が治りきらず無念の欠場となった金原。その怪我もいまはスパーリングができるまでに回復。この日は“ゴッチ流”とも言える器具を使わないトレーニング（余談だが前田道場では伝説のトランプ・トレーニングがいまも受け継がれている）と、滑川を相手に熱のこもったスパーリングをこってりと行っていた。「みんな金原さんを甘く見すぎッスよ！　金原さんは強いッス。オレは金原さんみたいになりたいんスよ」（滑川・談）。選手から一目も二目も置かれている男、それが金原だ。








# 長州さんじゃないけど、俺の人生にも一度位いい事あってもいいよね（笑）

ないでしょ。僕が見てもつまんないし。

——KOKは見てるほうにとっては、凄くいいルールですよね。

**金原**　そうやって割り切るしかないですよ。膠着してもいいルールのほうが楽だろうけど、見てるほうは面白くないからね。佐山さんがこの前言ってたでしょ「いつも抱きついて、膠着して、寝っ転がってばかりいる『PRIDE』の選手のみなさん」とか言って（笑）。でもその通りですよね。あれは笑ったけど。

——リングスの広告も、それに近いものがありますけどね（笑）。

**金原**　「膠着なし！」（笑）。あとは、『PRIDE』って、テレビ局が膠着した部分をカットして、動きがある部分だけ流して「面白いんだぞ」ってやってるでしょ。そういう意味で、ホントに動きがあって面白いリングスが注目されるようになればいいんですけどね。だって実力的に言ってもリングスの外人とか、みんな強いよ！　一番わかりやすいのは、対抗戦でもやるのがいいかもしれない。

——選手層から言っても、こんなに厚いところはないですからね。

**金原**　世界中にいますからね、へんなのが。

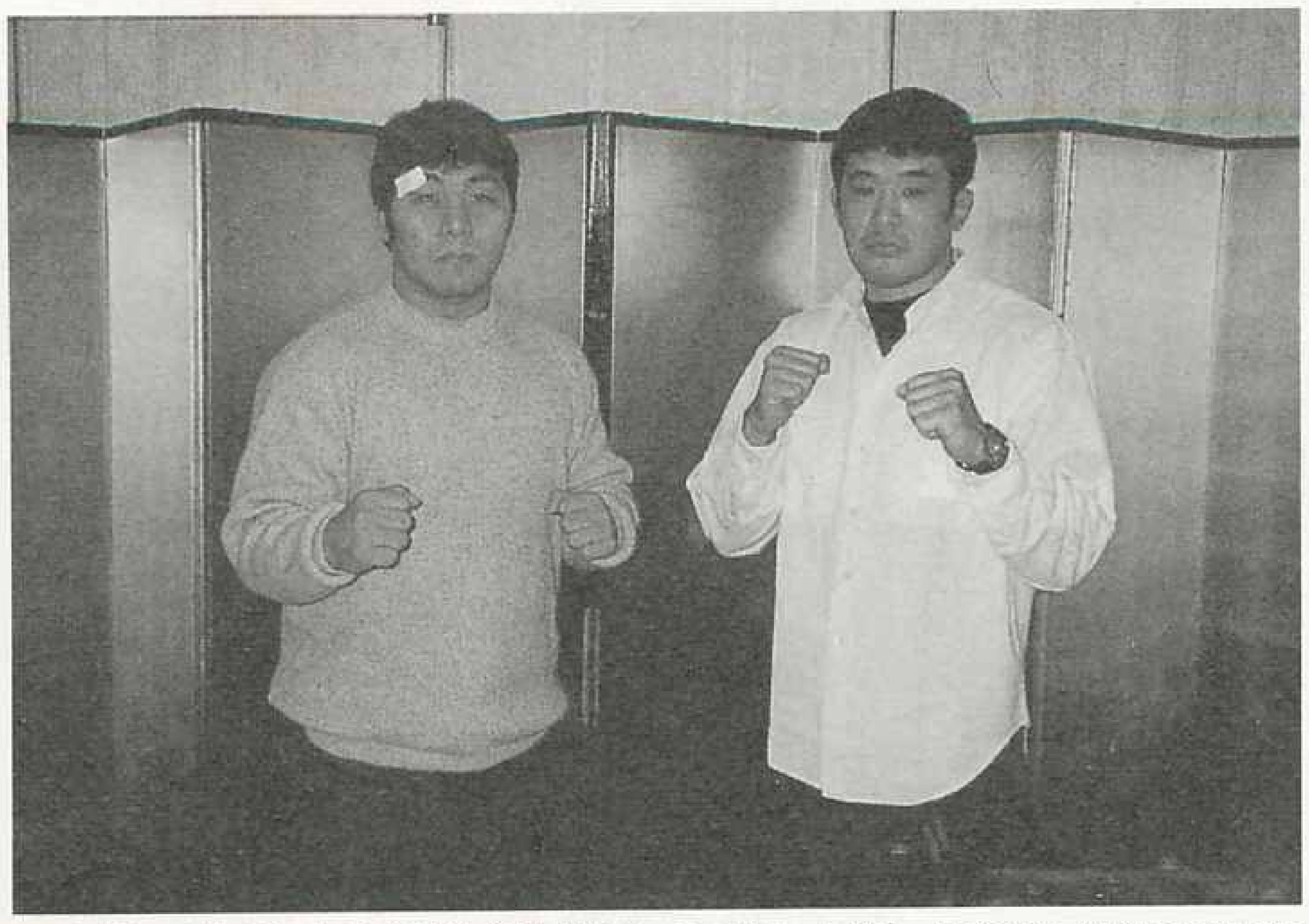
——アハハハ！　へんなのが（笑）。でも対抗戦は見たいですよね。そこで勝てば、しつこいようですけど金原さんも大ブレイク（笑）。

**金原**　でも、今度のマリオ・スペーヒーに勝ったところで、ハッキリ言ってスペーヒーってみんな知らないでしょ？　マニアだけでしょ、知ってるの。だって俺も知らなかったんだもん（笑）。そんなのブレイクもクソもないでしょ。

——ますますマニアの間での評価だけが高まりそうですよね（笑）。

**金原**　そうそう。でも、いま「コイツに勝てば上がる」っていうの、誰かいます？　ヒクソンか小川直也しかいないでしょ？　1試合で一気に上がるっていったら。桜庭とは試合しないだろうし。だから、地道にコツコツと安定して生活できればいいですよ。ボクは庶民派ですから（笑）。

——なんだかウチでも金原選手のコメントは毎号のようにチョコチョコ載ってますけど、いつもぼやき節になってますよね（笑）。



97年暮れ、高田がヒクソンに完敗を喫し沈みきっていたマット界で、当時のキングダムの2枚看板に成長していた金原と桜庭が立ち上がった。サクは柔術黒帯のマーカス・コナン戦、金原はV・イズマイウ戦が決定。結果はサクがコナンに一本勝ちをして「プロレス界の救世主」と呼ばれたのに対し、金原はイズマイウの敵前逃亡で貧乏クジを引いてしまった。

**金原**　ホントだよ！　だから藤波さんに勝ったときの長州さんじゃないけど、俺の人生もそろそろ嬉しいことあってもいいよね（笑）。なんか恵まれてないよね、みんなに美味しいとこ取られてさ。もう10年やってるから、1回ぐらいいいことあってもよさそうだよね。

——選手間の評価とかは凄く高いですもんね。昔からエンセンさんなんかは「金原さん、ホント強いよ」って言ってたし、最近、高阪さんも本で「見て勉強になる選手は、桜庭さんと金原さん」って言ってるんですよ。

**金原**　へ〜、彼はよくわかってるよ（笑）。そうだ！　桜庭とかが俺のこと宣伝してくれたらいいかもしれない。いまや国民的スターだから。

——「ホイスに勝てたのは、金原さんのおかげです」って感じですか（笑）。

**金原**　別にそれはないですけど、だってホイス戦の前も、俺が道衣着て一緒に練習したんだからさぁ。あいつも、そういう気遣いがあるといいんだけどね。

——金原さんも脱がされましたか（笑）。

**金原**　脱がされました（笑）。結構スパーリングやりましたよ。でもホイスがね、あんなにアグレッシブだと思わなかったから、展開的には違ってたけど。

——では、このへんで、その桜庭選手や金原選手の強さのルーツを探りたいんですけど。金原さんのベースというか、いまの強さを蓄えたのは僕なんかはUインターっていうよりも、キングダムって感じがするんですけど。

**金原**　そんなことないですよ、やっぱりベースはUインターですよ。僕は高田さんの付き人してたんで、高田さんと毎日スパーリングしてましたからね。Uインターの中でいろんな先輩とスパーリングしましたけど、その中で一番強かったのはやっぱり高田さんでしたからね。その人の付き人ですから、いろんな面で鍛えられましたよ（笑）。

——Uインターの選手ってみんな「高田さんは凄い」って言いますよね。

**金原**　うん。そりゃ、そうですよ。ランニングとかも平気で5キロとか走るし、体力ムチャクチャありますよ。いまでも僕よりあるんじゃないですか？　関節やらせても別格ですよ。いまでも桜庭と高田さんがやると、高田さんのほうが全然取るじゃないですか。

——そうなんですか？

**金原**　桜庭も言ってませんでした？　だから高田さんは別格なんですよ。僕もいまだに高田さんの前では直立不動ですよ。例えば用があって電話しなきゃいけないときに緊張するから、先に言うことをメモに書いてから電話しますもん。

——台本を書いて（笑）。

**金原**　そんなもんですよ。そういう存在ですからね。

——そのUインター時代、金原さんはムエタイにハマっていたんですよね。

**金原**　そうですね。当時、ボーウィー（・チョーワイクン）とかタイ人のコーチがいたんですよ。それが体は小さいのに蹴りは痛いし、俺の蹴りは当たんないしで、それでムエタイは凄いと思ってハマっていきましたね。それにやっぱり試合のときに相手をバーンって蹴って、痛そうな顔されると嬉しいじゃないですか（笑）。

——タチ悪いですねぇ（笑）。

**金原**　だから桜庭なんかも、なんで蹴りができるかというと、Uインターにタイ人のコーチがいたからしっかりできるんですよ。

——金原さんは練習だけじゃなくて、タイでムエタイの試合もしてるんですよね。その話を詳しく聞かせていただきたいんですけど。

**金原**　当時は道場だけじゃなくて、自費でタ

イに渡って練習してたんですよ。そのタイのジムで「試合したい」って言ったら、パタヤの見せ物小屋みたいなところだったらすぐできるっていうんで、そこで試合したんですよ。そしたら1回目は負け。悔しかったから、もう一度タイに渡って2度目が引き分け。そして3回目にオムノイスタジアムっていうラジャ、ルンピニーの次に有名なとこで試合して、初めて勝ったんですよ。

——ムエタイに勝っちゃいましたか（笑）。

**金原**　「勝ったから、もういいや」って。それで終わりにしましたけど（笑）。

——それって新日本に上がる前ですよね。

**金原**　そうそう。

——ボクは新日との対抗戦の頃、金原さんがチャンプア（・ゲッソンリット）とキックルールで互角に闘っているのを見て「金原凄いなぁ」と思ってたんですけど、その前にムエタイに勝ってたんですね。

**金原**　こっそり自腹で行って、全部自腹でやってましたから。

——でも、なんで隠してたんですか？「Uインターの金原が、本場タイでムエタイ狩りに成功！」ってなったら凱旋帰国みたいな感じで騒がれるじゃないですか。

**金原**　隠すもなにも、ムエタイは趣味みたいなもんですからね。会社もタイ人に勝っても「あ、そう」ぐらいだったし。だから、僕はそういうとこも損してるんですよ。

——今日は「金原弘光、後悔の歴史」をお送りしております（笑）。

**金原**　試合なんかもね、キングダムの時に（ヴァリッジ・）イズマイウ戦が流れたりとか、そういうの多いんですよ。

——あのときのイズマイウ戦っていうのは自信あったわけですか？

**金原**　自信ありましたよ。そしたらカーウソン・グレイシーっているじゃないですか。あいつが試合の数日前に「イズマイウとやるヤツは誰だ！」って道場に来て、僕のことジーッと見て「イズマイウじゃダメだ！　もっと強いヤツを連れて来るから」って言ったんですよ。そしたら結局試合の何日か前に事務所のヤツが空港に迎えに行ったら「飛行機に乗ってない」ってなって、中止ですよ。

——完全に敵前逃亡ですね。桜庭さんの本で読んだんですけど、UFC－Jのマーカス・コナンとの相手も最初は桜庭さんじゃなくて、金原さんの予定だったらしいですね。



96・3・1日本武道館　新日本とUインター対抗戦の最中、金原は対抗戦とは対極と思われる、キックルールの試合を敢行。相手は"帝王"R・カーマンを3度破った"巨像"チャンプア・ゲッソンリット。金原はこのムエタイの強豪に対して一歩も引かない試合を展開。判定で敗れたものの、判定にブーイングが起こるほどの接戦を演じた。

**金原**　だから、イズマイウが1回来なかったけど、次の後楽園で来るって話があって、「じゃあオレ、イズマイウがあるからUFC－Jはいいや」ってなったんですよ。そしたら潰れちゃうし。こんなのばっかですよ。

——ちょっと運命の歯車がかみ合ってたら、「プロレス界の救世主・金原弘光」になってた可能性が高いんですね。

**金原**　それはわかんないですけど。アホみたいな不運が多いんですよ。だからそろそろ俺の人生にもいいことあってもいいかなぁ？

——ホントにもっと注目されていい存在ですよ。金原さんは試合が地味とか、そういうことも全然ないですもんね。

**金原**　派手じゃないですか。老体に鞭打って、脚も上がんないのにカカト落としやって。昔は高山選手にもできたんですけどね（笑）。

——金原さんて、なんでもソツなくこなしちゃうのが、逆に強さを目立たせないのかもしれませんね。

**金原**　立ち技だったら立ち技だけにこだわって、アイブルみたいなファイトをしたほうがいいかもしんないですね。僕、相手がタックルに来たら寝技もやっちゃうじゃないですか。結局相手に合わせちゃうってことになるでしょ。もうちょっと自分のスタイルを確立したほうがいいですよね。

——金原選手ってこだわりっていうか、スタンドできなくて寝技が強い選手に「寝技で勝ってやろう」とか思うんじゃないですか？

**金原**　そこなんですよ！　寝技が上手い相手だと、ヘンに寝技やりたくなっちゃうんですよね。意地っ張りなんですかね？　打撃の上手いヤツとヘンに殴りあっちゃったり（笑）。でも、客を意識すると、そういうのが面白いと思うんですけどね。立ち技の選手にタックル行って、上に乗って極めても面白くないでしょ？　勝って当たり前じゃないですか。

——ハンス・ナイマンとかに勝って「当たり前」って普通思わないですけどね（笑）。

**金原**　相手のできない分野で勝ったって、優越感がないですよ。見てるほうも面白くないだろうし。そういう意味でオランダ人には思わず殴りに行っちゃう。

——ロシア人とはグラウンドやって（笑）。イズマイウとやってたら、グラウンド攻めてましたか？

**金原**　やってたかもしれないですね。

——「ダブルリストロック絶対取れる」って言ってましたもんね。

**金原**　狙ってましたよ（笑）。

——当時、金原さんが横四方に入ったら、絶対にダブルリストロックが極まるみたいな感じでしたよね。

**金原**　最近逃げられますけどね、みんなディフェンス覚えてきてるから。

——そのキングダム時代っていうのは、どんな感じだったんですか？

**金原**　あれは練習環境がよかったですよね。毎日みんなで集まって、スパーリングできるような環境だったから。それでみんなのレベルが高くなったと思いますよ。みんなでいろんな技研究して「こういう技がある、ああいう技がある」っていろいろやりましたからね。あの頃はキングダムってそんなに認知されてなかったですけど、いま考えれば3年ぐらい先を行ってたんですよね。既にグローブつけてマウントパンチとかやってましたから。

——でも、キングダムってネームバリューのある選手があまりいなかったから、見てるほうも強さを計る物差しがなくて、強さが伝わりきれてませんでしたよね。

**金原**　ただ「レベル高い」って言ってても、観客はわかんないですもんね。

——当時はグレイシーの幻想の真っ只中だから、キングダムの選手同士でマウント取っても「ブラジル人からマウント取れないだろう」っていうムードがありましたし。

**金原**　全然そんなことなかったんですよ。だから時代の先を行ってたんですよ。

——柔術の練習とかを取り入れたのはいつ頃からなんですか？

**金原**　Uインター末期ぐらいにエンセンとかと一緒に練習するようになってからですね。エンセンとスパーリングしたときに、「僕らのゴッチ式の流派と、柔術の流派が混じったら一番強いな」と思って、「これは取り入れよう！」と思ったんですよ。

——結構カルチャーショックを受けたんじゃないですか？

**金原**　そうですね。僕らは、ガードポジションを取るっていう概念がなかったですから。僕らにとってのガードポジションはカメにな

いつが試合の数日前に「イズマイウとやるヤツは誰だ！」って道場に来て、僕のことジーッと見て「イズマイウじゃダメだ！ もっ

いな不運が多いんですよ。だからそろそろ俺の人生にもいいことあってもいいかなぁ？

ることなんですよ。だからガードからの極めがあるのと同じで、カメからの極めもあるんですよ。最近はみんなガードを研究してるからカメの技術は有効だと思いますよ。

――では桜庭vsホイス戦なんか見てても、結構桜庭選手バック取られてましたけど、あれは金原さんは安心して見てたんですか？

**金原** あれはバックを取られてる桜庭が攻撃してるんですよ。バックを取って四つんばいだったらスリーパーに行かれる可能性もありますけど、立ってるときっていうのは安全なんです。あれから腕取れるし、膝も取れるし、向き合って投げることもできるし。

――これからは柔術テクニックは知られちゃったんで、ゴッチ秘伝の技術が生きてくる時代になるかもしれませんね。高阪さんも本の中で「金原さんは『エッ？』って言うような技を使う」って言ってましたよ。

**金原** だからボクらUインター系にはTKも知らない技があるんですよ。

――そういう技って常に考えてるんですか？

**金原** いや、考えるもなにも、ボクらの流派なんですよ。もともといろんなバリエーションがあるんですよ。

――でも、キングダムって練習環境はよくても、地方巡業もあって身体的にきつかったんじゃないですか？

**金原** 試合は多いわ、客は入らないわ、給料出ないわ、三拍子揃ってましたから。

――嫌な三拍子ですね（笑）。それはボヤきたくもなりますよね（笑）。試合数が多いのに、さらにワンナイト・トーナメント連発とかしてたじゃないですか。

**金原** あんなに多いと集中もなにもなくなりますよ。でも、いまとなってはいい通過点だと思いますよ。あれを経験しているから、月に2試合とか組まれても「昔はもっとやってたから、いいかな？」って思えますから。

――トーナメントは僕も会場で見たことなかったんですけど、あれってどんな感じだったんですか？

**金原** 当日リング上でボールで番号引いて、対戦相手が決まって、「じゃあ始め」って（笑）。ムチャクチャでしたよ。エスケープはなかったんで、そのへんは楽っちゃあ楽でしたけどね。エスケープあるルールは身体がキッいですからね。

――まさに早すぎたKOKですね。でもKOKトーナメントを地方で連発しちゃいけませんよね（笑）。

**金原** いま考えればあのメンツでね。だから先を行ってたんですよ。

――ちなみにあのトーナメントって「優勝賞金100万円」って言ってましたけど、実際に賞金出たんですか？（笑）。

**金原** いや、そのへんはノーコメントで（笑）。

――それで結局キングダムは短期間で崩壊してしまったわけですけど、あの頃は選手もバラバラになっちゃってたんですか？

**金原** そんなことないですよ。選手はまとまってたんですけど、お金がなかったんですよ。金の切れ目が縁の切れ目ですよ。結婚してる人もいるし、それはしょうがないですよね。

――どんな経緯で分裂に至ったんですか？

**金原** 最初は高田道場ができて、高田道場とキングダムの残ったメンツで対抗戦みたいになるのかなって思ったんですよ。でもそうならずに……。残ったのは安生さんと山本（喧一）か。結局それもお金が出ないもんだから、ダメだったんですよね。僕はとりあえず、みんなの行き先が決まってからどっか行こうかなって思ってたんですよ。当時、エンセンとも仲いいし、修斗とかも上がってみたいなって気持ちがあったから。そういうときに前田さんから誘いが来たんですよ。それで「リングスは『WOWOW』ついてるから安定してるし」って思ってリングスに決めたんです。安定してないとこにいたから（笑）。

――高田道場に行くっていう考えはなかったんですか？

**金原** それはなかったですね。いまみたいに『PRIDE』の興行が頻繁にあったわけじゃないし、練習場所がキングダムから高田道場に変わるだけだと思ってましたから。

――それでリングスに入るわけですけど、入るに当たって抵抗とかはなかったですか？

**金原** ありましたよ、やっぱり。いままで偉そうにしてたのが、また新人に逆戻りするわけじゃないですか。だからTKみたいな怖い

## 俺がオランダまで行って アイブルからベルトを 奪い返してやりますよ



顔の人に「オォ〜イ金原、いっちょ揉んでやるか！」とか言われて、みんなで僕をオモチャのようにするんじゃないかと思いましたけどね（笑）。入ったらいい人だったんで「イメージで人を判断しちゃいけないな」と思いましたけど。

——そうじゃなくても前田道場っていうのは、近寄りがたいイメージがありますよね。リングスでの扱いなんかはどうでした？

**金原** 僕なんかキングダムでメイン張ってたのに、第一試合からやりましたからね。

——キングダムの最後のほうは、桜庭、金原の2枚看板みたいな感じでしたもんね。

**金原** それがねぇ。山本（喧一）はなんか、いいマッチメイクで羨ましかったけど。僕は第一試合からコツコツやってましたよ。

——それで12連勝ですからね。

**金原** 偉い！

——アハハハ！ 偉いですよ！

**金原** あれで、疲労がだいぶ溜まりましたね。かなり疲れましたよ。10ヶ月で13試合やったから。まぁ「新人だから、しょうがない」と思って不平不満も言わずにやりましたよ（笑）。

——さて、金原さんはリングスに来て2年経って、これからが勝負だと思うんですけど、当面の目標っていうと何になりますか？

**金原** う〜ん……チャンピオンベルトがあるから、とにかくそれが欲しいですね。アイブルがリングス上がんないんだったら、オランダまで行って奪ってこようと思って。

——それは面白いですねぇ！ 海外に流出した〝日本の至宝〟を敵地で奪い返す。昭和プロレスみたいで最高ですよ（笑）。

**金原** ボクもこないだオーフレイムをオランダでKOしたから、向こうでも認知はされてると思うんですよ。だからアイブル戦も組めるんじゃないかなって思うんですよ。

——その可能性は十分ありますね。いい考えですよ！ 金原さんだったらアイブルをどう攻略しますか？

**金原** そうですね、僕のほうが背低いから、頭振って懐に入ってパンチ打ったら当たるかなって思うんですよ。ただ、膝蹴りがイヤですね。あとはブレイクが早いオランダルールなんで、寝技になった瞬間に極めに行かなきゃダメでしょうね。自分から引き込んでガードから極めるとか。アイツ、相手にガード取らせたりしないじゃないですか。いつも下になってるだけだから。

——アイブルはガード取られたら「チャンス！」と思って、殴ることだけに頭を集中させそうですもんね（笑）。

**金原** そうそう、そうしたら絶対隙ができるから十字でも三角でも極めてやりますよ。

——金原vsアイブル、オランダ大会。これは是非やって欲しいですねぇ。

**金原** でも、アイツみたいにスピード出世でチャンピオンになるのは一番羨ましい（笑）。羨ましいからこそ、腹が立つんですよね。

——アハハハ！ やっぱり。おいしいですもんねぇ。金原さんみたいに地道にしんどい相手と闘ってる選手もいるのに。

**金原** アイツ、リングスでそんなに闘ってないですからねぇ。

——オランダではヨープ・カステルやセーム・シュルトをKOしたりとか、ありますけどね。アイブルが言うには「タムラ、TKを倒したから、リングスではもうやることはない」ってことなんですけど。

**金原** 俺がいるだろ！ だから結局「リングスでは田村さんとTKが有名だよ」って教わってるからですよ。だから僕はコツコツとひとつずつ勝っていきますよ。まずはスペーヒーに勝って、オランダでアイブル倒して、そのあとはリングスのKOKトーナメントがまたあるんで、それを目標に。

——それが達成されたら、大ブレイク間違いなしですよ（笑）。

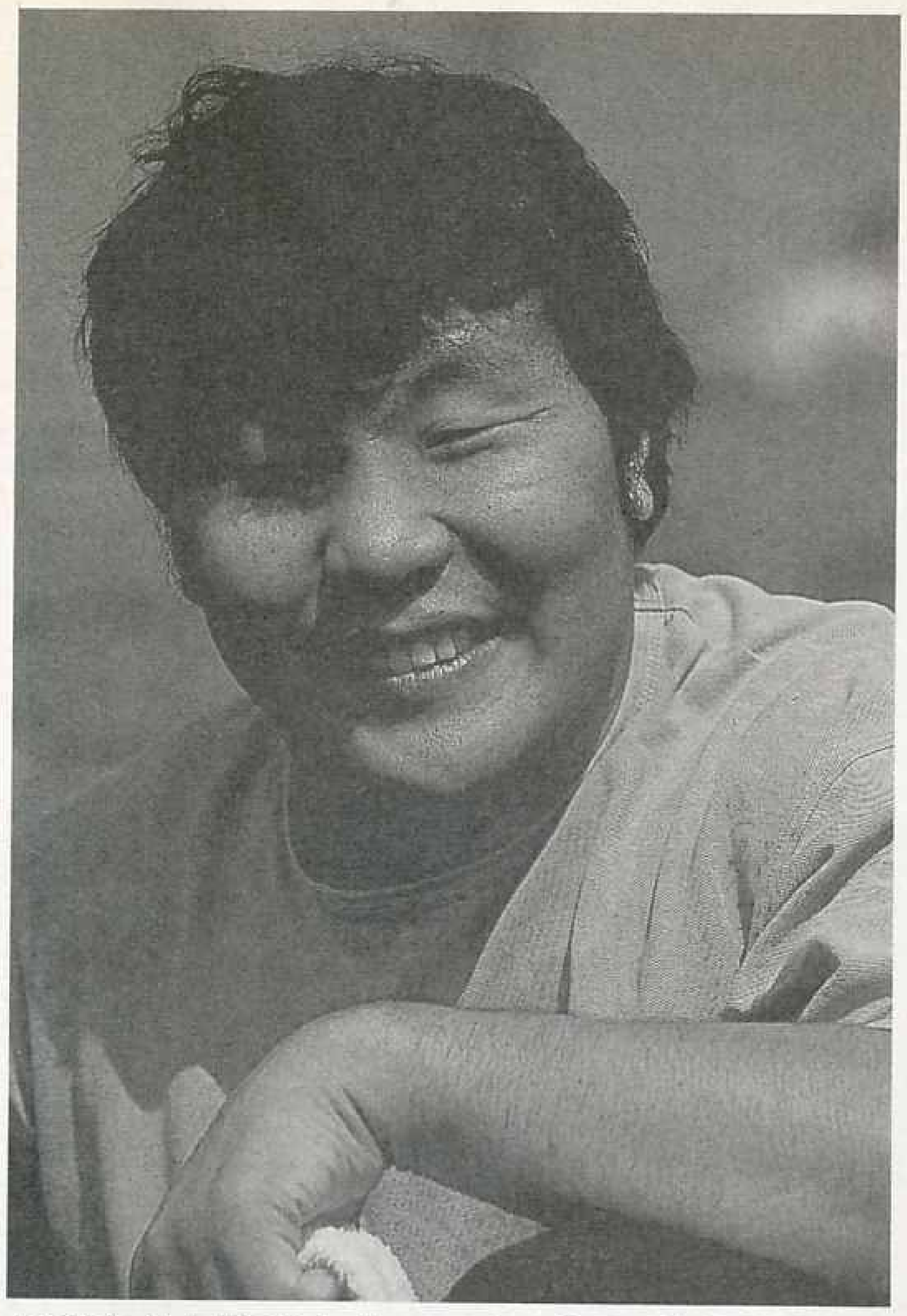
**金原** でも20万ドルを前にしたら、もうブレイクとか関係ないですよ。知名度よりも銭！（笑）。いまドルがねぇ、利息がいいんですよ。

——そういうのも研究済みなんですか（笑）。

**金原** そう。いま4．5パーセントぐらいだから。利息だけでも結構行くから。20万ドルだったらねぇ。ドルが欲しい！

——アハハハ！ これからは〝賞金稼ぎの鬼〟として大ブレイクして下さい（笑）。期待してます！

**【5月5日／前田道場にて収録】**

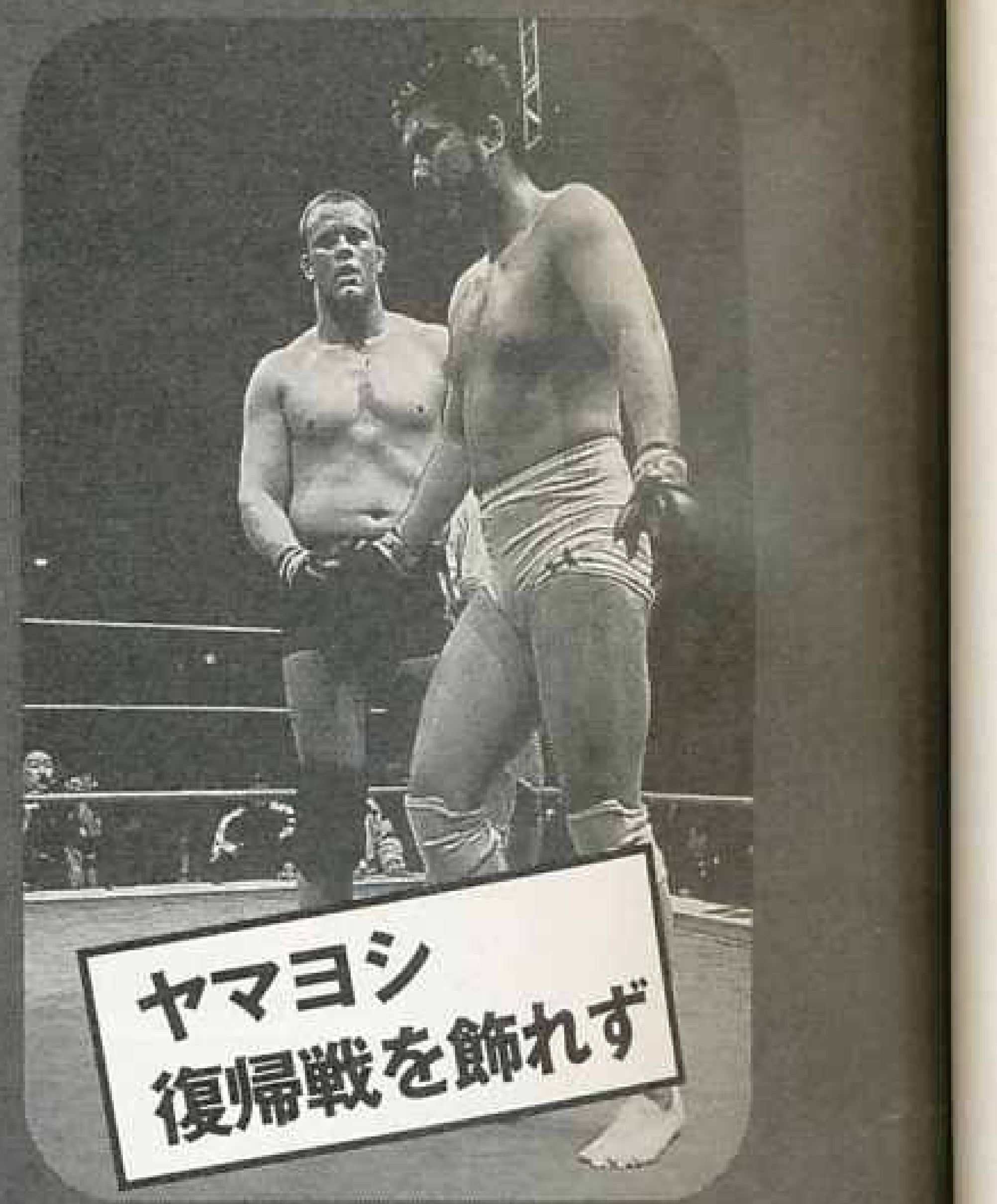


**金原弘光**【かねはらひろみつ】 1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。178cm 93kg。プロレスラーを志し「新日本プロレス学校」（同期に天山らがいる）に通い、その後UWFインターに入門。Uインター崩壊後はキングダムに参戦、メインを張り、98年3月にリングス入団。12連勝を飾るなど着々と実績を作る。先のKOKトーナメントでは優勝したダン・ヘンダーソンに僅差の判定で敗れ惜しくも2回戦負け。今後が大いに期待される。

リングス2000
Millennium Combine
4・20
代々木第2体育館


滑川秒殺


田村潔司
無差別級王座陥落


ヤマヨシ
復帰戦を飾れず

# リングス
# ジャパン最弱
## されど、そこから始まる“最強”への道

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

### いい味出してる脇役ガイジン 続々と登場!!



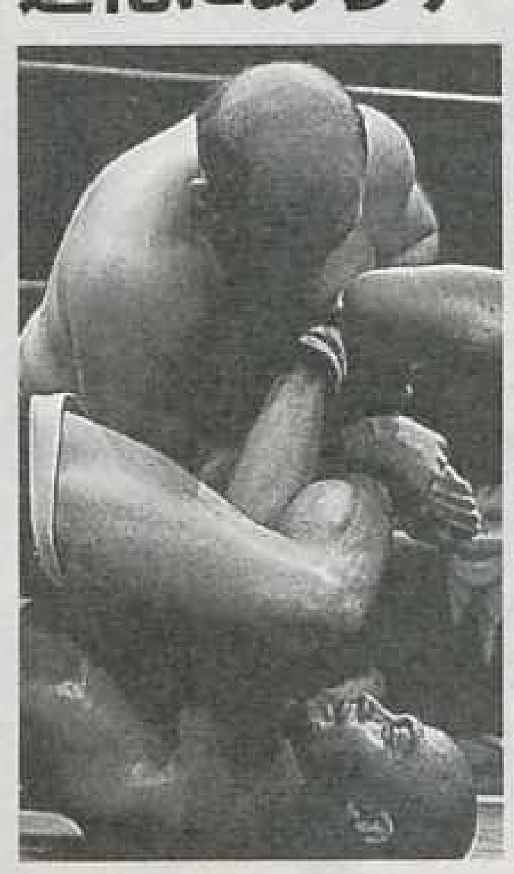

バツグンに面白い未知の強豪が、次々と来襲するのは、リングスの旗揚げ当初からの変わらぬセールス・ポイント。今回は金原の代打として、“NHBの鉄人”ことトラヴィス・フルトン（右）が初参戦をはたした。フルトンはアメリカでは毎週末VTを行うことで有名。ババルのテクニックの前に敗れたものの、「あっぱれ」の内山君を彷彿させる呑気な風貌は捨て難く、ゼヒ再来日を期待したいところだ。
2月の武道館でザザをKOしたホフマン（左）も再来日。今回も田村を苦しめたジュリアスコフを一撃でKO。こういう脳味噌まで筋肉でできているような奴が一番厄介なのかもしれない。

### 一人、気を吐く坂田 KOKで“回転体”を披露




ジャパン勢が次々と敗れる中、一人気を吐いたのが坂田。本誌スモーノブは「なんで坂田は勝つでごわすか！　全員負けた方が意味があるでごわす」などと失礼この上ないことをのたまっていたが、この日の“OBAKEの刺客”ブランドン・リー・ヒンクル戦は坂田のベストバウトと言えるほどの内容だった。グラウンドで一時も動きが止まらず、攻守が目まぐるしく変わる田村ばりの「回転体」をKOKで披露。ヘンゾ・グレイシー戦での屈辱の完敗を糧に一回りも二回りも成長した感がある。試合後はビッグマウスも復活、これからの坂田は要注意だ！

### “人気者”コピィロフは 道化にあらず




「コピィロフは全日本の悪役商会である」このターザンの的外れな一文に代表されるように、コピィロフの試合を見ても、その愛すべきキャラだけしか目に入らない人がいるようなので、ひとこと言っておきたい。コピィロフがへろへろになった相手って誰よ。柔術界のトップ、ノゲイラとアローナでしょ。この二十歳そこそこの若い二人を相手に、三十路をとうに越したオヤジが技術で渡り合い、スタミナが切れても決して極めさせない。そんなコピィロフの強さも見てほしいものだ。というわけでコピに変わってリングスにお願い「次はもうちょっと弱い奴とやらせてください」。

サク、ホイスに歴史的勝利！　アイブル電撃『PRIDE』参戦表明！　そんな2大事件があったため、印象は薄くなってしまった感はあるが、大好評の内に幕を閉じたKOKトーナメント後の最初の興行、4・20代々木はトーナメント以上と言っても過言ではないほどの盛り上がりを見せた。

この日は大会自体が「膠着なし！」といった感じで、第1試合からメインまで、館内沸きっぱなし。スピーディーかつアグレッシブな試合の連続で、リングスの進む道が間違っていないことを存分にアピールした。

しかし、残念なのはトーナメントに続きジャパン勢がほぼ全滅してしまったこと。ここは奮起を促す意味であえて、水道橋博士の言葉を借りて「ジャパン最弱」と言いたい。つい2・3年前「日本最弱」と言われたVT界も、その言葉をバネにいまやブラジルを追い越す勢いである。KOKは確かに瞬発力のある欧米人向きの競技ではあるが、これまで数々の逆境をはね返してきたリングス勢。「ジャパン最強」への逆襲に期待したい。

さらば最強伝説！"追悼ジャンボ鶴田"はP150です。

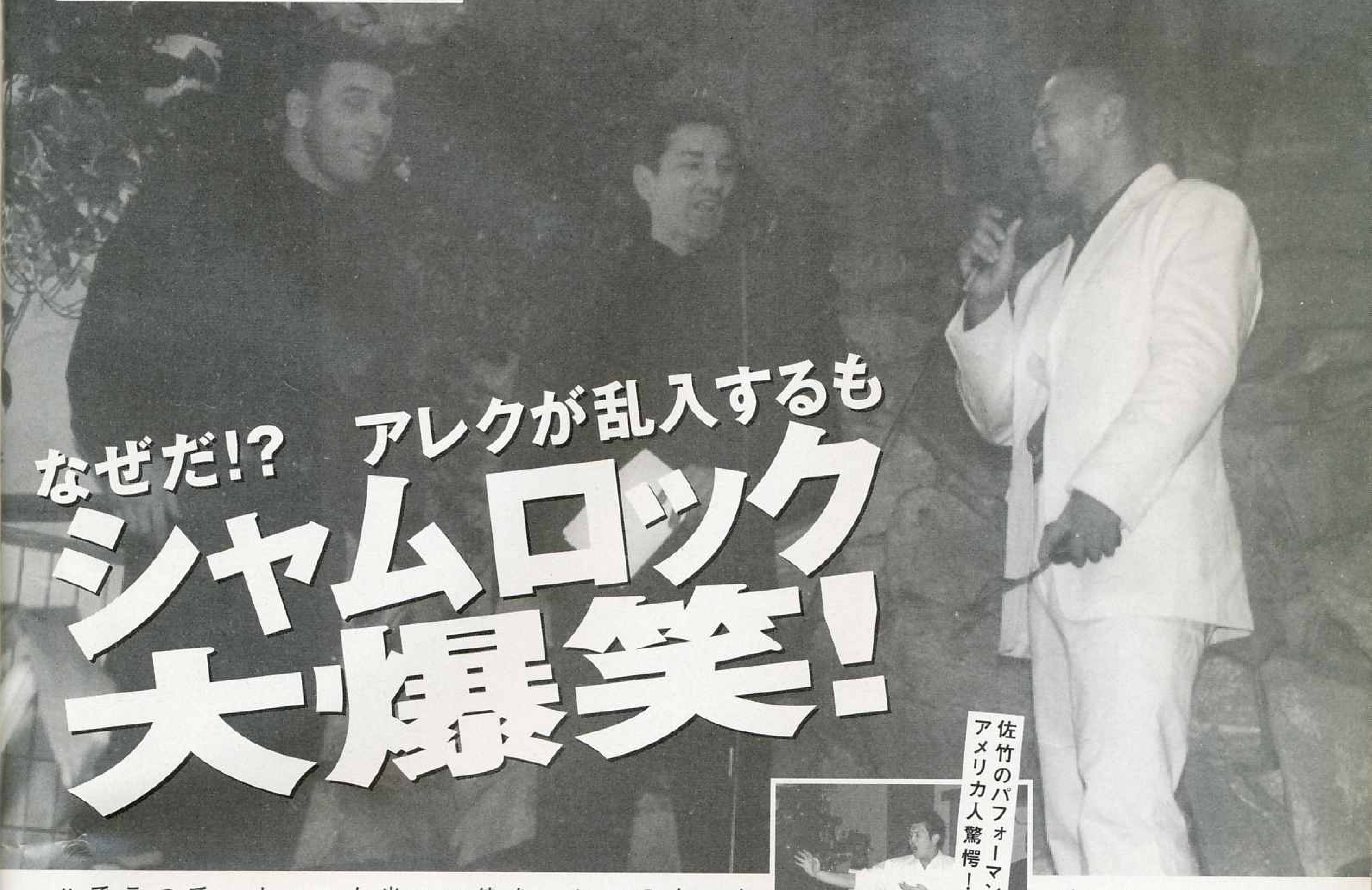
CIMAの連載は今回お休みです。次回をお楽しみに！

PRIDE FC 2000 FIGHTING CHAMPIONSHIP

㊗5·1『PRIDE.GP』P·P·V全米放送記念！
DREAMSTAGE ENTERTAINMENT USA PRESENTS
***THE PRIDE PREMIERE PARTY***
に本誌独占潜入!!



5月中旬、全米で『PRIDE.GP』がPPV放送された。その記念パーティーに本誌が独占潜入取材を決行！



# なぜだ!? アレクが乱入するも
# シャムロック大爆笑！



佐竹のパフォーマンスにアメリカ人驚愕！

なんと、5・1『PRIDE・GP』が全米でPPV放送されることになった。ハッキシ言ってこれは凄い！　もし、アレクがケン・シャムロックに勝利していたら、間違いなく夢のWWF戦士入り!?　であった。

実はこのページは入稿ギリギリで、ダメ出しになった。潜入してくれたYさん、苦労して写真を送っていたにもかかわらずすいません。ではなぜ、このページがダメになったのかというと、このパーティーにマット界の超大物X&XXが参加していたからだ。その2人が急遽参加したことにより、日本人マスコミにも情報がシャットアウトになったらしい（憶測）。そんなことでこのページを飛ばしメモなんかにしちゃったら、アレクの頑張り（&Yさん）が伝えられないと思い、敵が増えることを覚悟の上でアレク部分だけをお伝えする。

まず、どれくらいケン・シャムロックがアメリカで有名かご存じか？　このパーティーでも「次は説明不要のシャムロック！」と紹介されていたのだ。でも、ちょっとは説明しないとダメだろ？と思うのだが、これ、ホント、アメリカンジョークじゃないらしい。

シャムロックは5・1の長すぎるマイクでブーイングを浴びたことを気にし、「今日は短く終わるから」と招待客を笑わせた。その挨拶真っ最中の時、アレク乱入！　いきなりマイクを奪い取り、「I beat……I beat……（手元に持つメモをチラリ）あい・びーと・あっぷ」本当は"前回は負けたけど、次は殺してやる！"と言いたかったが、英語がおぼつかなかったらしい。そのちょっぴり意気込みが空回りした姿に、気難しい面構えだったケンも爆笑、会場内も爆笑、ついでにアレクもトホホホホと苦笑い。一気に和やかな雰囲気になった。

アレクはどん底、マイナスからのスタートと言い切っているが、この日の姿を見る限りケンも「オオツカ、いつかWWFに来れるといいな」とエールを送ってたし、このパーティーで一番人気を誇ったのはアレク、あなたです。今度はマイクじゃなくて闘いでアメリカンたちのハートを掴みとってくれ！　と願うのであった。

紙のプロレス RADICAL

2000 No.27 CONTENTS



さらば最強伝説！“追悼ジャンボ鶴田”はP150です。……CIMAの連載は今回お休みです。次回をお楽しみに！




**Art Director**
出田さん●San Ideta

**Design**
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
村松さん●San Muramatsu
セッキー●Sekky
グッチー●Gutty

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

**Cover Model**
桜庭和志 with サクラバマスク
●Kazushi Sakuraba with Sakuraba Mask

**Cover Photo**
斉藤ユーリ●Yuri Saito


※RADICALとは……まず最初に「根源的」、「根本的」って意味なんですか？（マサ斉藤調）




**4・20RINGS、**
**5・1『PRIDE.GP』、**
**さらには5・5新日福岡ドーム、**
**5・26コロシアム2000、**
**そしてグレイシー柔術まで**

# 6R90分座談会

やっちゃったね、サク記念！　今回の座談会は、6ラウンド計90分の長丁場を、観客を飽きさせないプロとして最高の闘いでグレイシー完全討伐に成功したサクにあやかり、6大格闘環境諸問題をラウンドごとにわけて語り尽くすことに決定！　全ての格闘環境は連鎖する！　6ラウンド90分座談会、いきますか——ッ！

## 座談会出席者プロフィール

**カリスマ司会者　原タコヤキ君■**藤田インタビューのためだけに上京。そして、悩みの相談も受け付けてくれ、ご飯も食べさせてくれる良きアニキ。そして、もちろんカリスマ司会者。

**山口日昇■**どこいったんだ!?　ノビー！　出てこい！　ノビー。5月17日現在ノビー絶賛行方不明中。サクインタビュー＆座談会に出席したあと一切姿を現さず。よって今号はスモー、チョロ、ガンツ、タマリンそして中村カタブツ君（37歳）により、血の気もなくなるツラで全力編集（進行形）。

**吉田豪■**本誌スーパーバイザー。この座談会の前に、「仕事で（本人強調）」キャバクラに行き、スタート時間を送らせた張本人。さんざん待たせた後、仕事帰りとは到底思えない程の満面の笑みで帰社。

**スモーノブ■**体はデブだが本誌プチ編集長。ジャンボ鶴田死去のニュースが錯綜し「なんでみんな呑気なんだ！（怒）」と頑なにジャン鶴愛を貫き通す。その後、なにを血迷ったか自ら自分の死亡記事を出筆しだす始末。

**松澤チョロ■**自他ともに認めるキャットファイター界期待の新星。恵比寿みるくでは堂々リングアナを務める。最近は恋人のレミちゃんに風俗通いをとがめられ、たまりっぱなし。

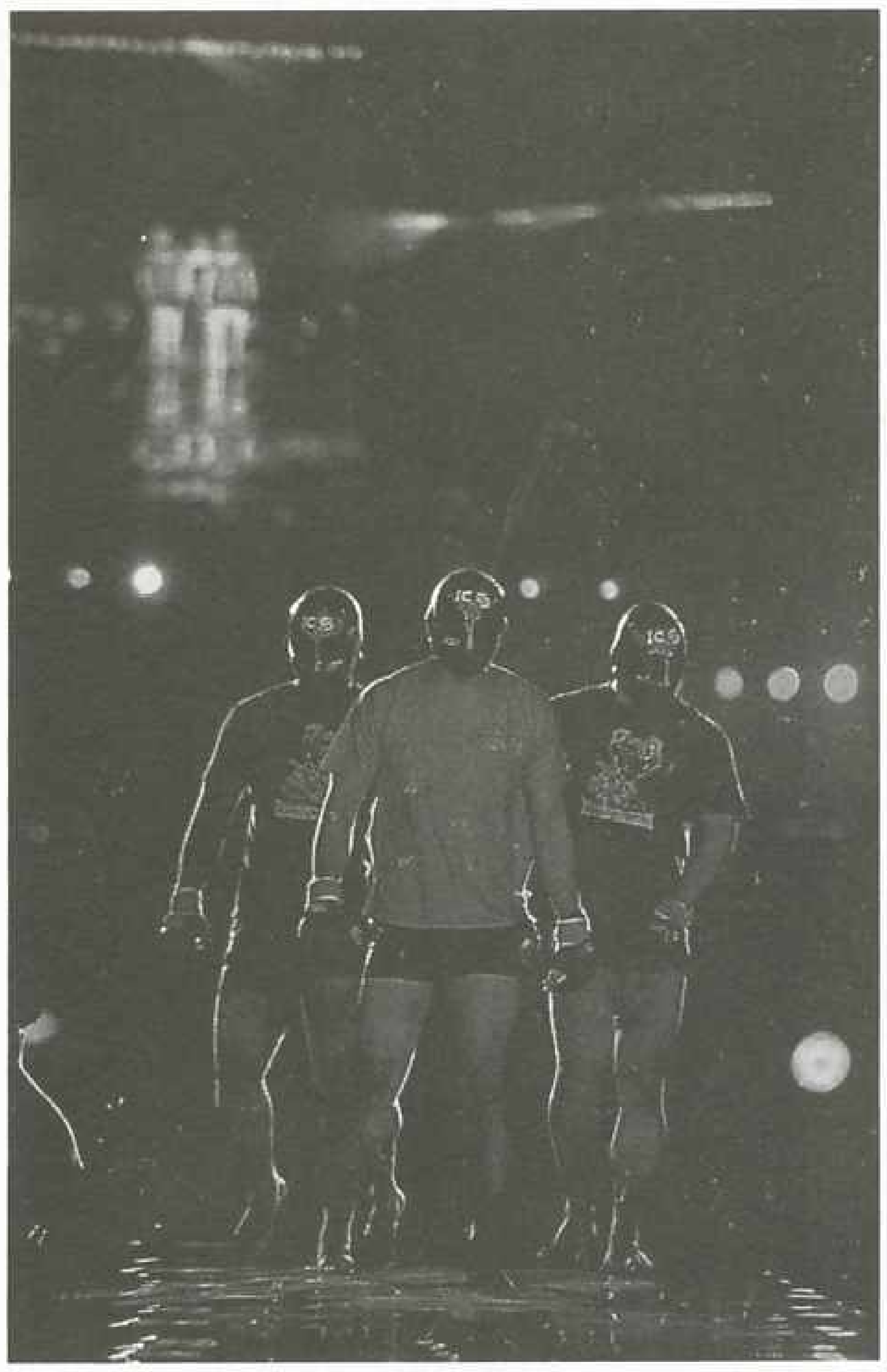
**堀江ガンツ■**絶賛入稿中のある日、突如、スーツ姿で外出。その姿はまるで一児の父のような風格。そこで、「ただ、老けてるってことでしょ」と金髪鬼吉田豪（もうすぐ30歳）の強烈なツッコミが炸裂。

**大西タマリン■**ネット上ではいろんな意味で人気大爆発中の本誌・紅一点。ミホカヨばりに本誌編集長からは「風呂に入れ！」と言われ続ける。タマリンファンの男性諸君、目を覚まして下さい！

# 格闘連鎖2000

## 1R 桜庭和志 VS ホイス・グレイシー

**山口** よっ、カリスマ司会者再び!
**タコ** ハイッ、それで今回はですね、桜庭がホイスと歴史に残る名勝負を繰り広げたということで、この座談会もそれにあやかります! 全部で1ラウンド15分×6で、90分やります! そして、この後、会長（山口の愛称）と風俗に行きま〜〜す!
**山口** 行きますかーーッ!
**タコ** 抜きますかーーッ!
**豪** （冷静に）で、誰が行くの?
**タコ** だって吉田さんが、なかなかキャバクラから帰ってこないから、ボクらの体の糖分がすっかり抜けきって…。
**山口** 吉田豪の女性ファンの皆さ〜ん! 吉田豪がなかなかキャバクラから帰ってこないため、この座談会が始まりませんでしたーッ!
**豪** （再び冷静に）俺のキャバクラはビジネスだからいいけど、原くんの会社的には、風俗は大丈夫なの?
**タコ** 風俗のことは、会社で『紙プロ』を読んでる人がいるので、原稿チェックしま〜す!
**山口** 花びら大回転にしとけば?
**タコ** そうしましょうか! トークも花びら大回転! イエーイ! それではさっそく行きましょう。第1ラウンドのテーマはこれッ!
**チョロ** 1ラウンドは、桜庭和志vsホイス・グレイシー!!
**山口** ていうかテーマになってねえよ! それってカードじゃん（笑）。
**タコ** ということで……（小声で）あのぉ、中村さんチャック開いてる。
**ブチ** （チャックを確認して）あっ、ホントだぁ。デヘヘヘ。
**山口** 座談会参加してないのに、おいしいとこだけ持ってきやがって! エリオ爺さんみたいだな（笑）。
**豪** でも、ブチより卑怯なのが、前号で勝敗予想してる時に、チョロだけ桜庭の決め技を〝魔神風車固め〟とかしてんですよ。明らかに最初からマシンのマスクを被る話とか聞いてんのに、「チョロ鋭い!」と言わせようとする、姑息な電波出しやがってさ。


見ない奴は一生後悔のすることこの上なしのスーパーストロングマシン風3人衆の入場シーン。本物は誰だ? そしてさらなる増殖はあるのだろうか? 頼むゾーッ、佐野さん!

## ホントにサクはジャンボ鶴田ばりに怪物だね（山口）

**チョロ** （無視して）え〜、1ラウンド残り時間は3分です!
**豪** おいおい、早いよ! 今日のメインはこれじゃねえかよ! 何でこれが一番時間が短いんだよ。この間の『PRIDE』と同じで、最初にメイン持ってきちゃダメだよ。
**タコ** で、サク対ホイスですけど、あんだけドームが爆笑で包まれることって今後もまずないでしょうね。
**山口** 『週プロ』には「笑いがグレイシーを駆逐した」みたいなこと書いてたけど、桜庭の笑い観とグレイシーの笑い観じゃ全然違うじゃん。
**タコ** グレイシーの笑い観って何ですの?
**山口** ホイスは「あの子はヘルシーだ。なぜなら、あの子の胸にはミルクがたくさんつまっているから」って、クラブに行った時に言ってたらしいよ（笑）。
**タコ** アハハハ。でも、ああいう場で笑いを出して、なおかつグレイシーに勝つという、ああいう闘い方が「平成プロレス」と呼ばれるんなら素晴らしいなと思いましたね。
**山口** だからつまりさ、グレイシーが『空手バカ一代』だとしたら、桜庭は『1・2の三四郎』なわけよ。漫画的な比較をすればだよ。グレイシー達がやってるのは劇画じゃん。それで桜庭がやってるのは漫画なんだよね。だから『1・2の三四郎』の主人公と、『空手バカ一代』の主人公が闘ってるようなもんだから。
**豪** ベニー・ユキーデをパロディにする『三四郎』みたいな感じですね。
**山口** そう。それは見てる方としてはたまらないよね。どっちの漫画が優れてるかって比較は出来ないけどね。グレイシーの表現方法と桜庭の表現方法は元から違うんだから。
**豪** それを同じ土俵に上げたらねぇ。
**山口** そりゃとんでもないことが起こるよね。タコもそうだと思うんだけど、『空手バカ一代』とか梶原劇画にインスパイアーされた者としては、グレイシーっていうのは絶対に気になる存在なわけじゃない?
**タコ** 絶対そうですよ!
**山口** ああいう劇画的な表現方法も、格闘技の世界には絶対にあって欲しいわけよ。
**豪** というか、格闘技にこそなきゃいけないわけですよ。
**山口** そうそう。ただ、いまの時代では『1・2の三四郎』の世界の方がリアルだと思う人達の方が、より多いということなんだよね。だから桜庭がやってることを、漫画と劇画の対決の中で考えて、どっちが表現方法が上かという比較は出来ないけども、漫画は劇画には劣らないよ。表現方法に貴賎はないということなんだよね。
**タコ** そういう見方で言えば、単純に漫画と劇画だったら劇画の方がちょっと上みたいな見方もあるでしょ。プロレスよりも格闘技が上みたいな。
**山口** そう。そうじゃないんだよってことを桜庭はこのマスクに託してたわけよ。素晴らしいな。一本ッ!!（笑）。
**タコ** でも漫画と劇画の話は、構図としてわかりやすい説明ですね。
**山口** そのものではないけどさ。だからその漫画の表現方法が、単に茶化してるとか、単にふざけてるわけじゃないんだよという部分は、必ず桜庭の中にはあると思うよ。
**タコ** 劇画っていうのがあれだけクソ真面目なものとしてちゃんとあるからこそ、漫画とかパロディとかって生きるわけじゃないですか。
**豪** そういうのが確立しているほどパロディも輝くわけですからね。
**山口** 現在のプロレスはシリアスな劇画のパロディばっかりになっちゃってるんだよ。WWFのパロディもそうだし、格闘技のパロディもそうだし、ただ単にパロディだけ。モノを作り出そうとしてないのよ。
**豪** サクは、パロディを織り混ぜながらモノを作り出してますよね。
**山口** ホントにサクはジャンボ鶴田ばりに怪物だね。でも怪物像が昭和と平


アッと驚く、サクのまんぐり返しがホイスに炸裂! これは柔術でよく見られる技だということだが、ここは是非、FMW所属のチョコボール向井に解説をお願いしたいところである。

成じゃ違ってるんだよね。桜庭を怪物だと思う人って、いままでいなかったけど、これで怪物だって証明したようなもんじゃないの。だって煙草吸ってるし、お酒も飲んでるし（笑）。そんな奴が、あれだけ摂生して、ヨガだなんだ取り入れてるグレイシーよりも、スタミナがあるって、どういうことよ（笑）。

**タコ** グレイシーなんか子供の時から宙に吊らされて、あれ見た時は凄えなと思ったもんなぁ。

**豪** 桜庭なんて子供の時はウンコ漏らしてるだけだからね（笑）。

**タコ** アハハハ。それが怪物像って言うのなら、それが平成プロレスならいいなって言ったけど、本当にそういう像が平成で当たり前になったら、それは面白くなりますよね。

**山口** ただし、いまの世代っていうのは証明しなきゃいけないからね。より一層、昭和よりもしんどいと思うよ。ただ幻想を与えるだけじゃないからね。幻想は自分たちで打ち消すわけじゃん、漫画チックにヘラヘラしながら。幻想は持たなくていいよって言いながらも、実証しなきゃいけないわけだからさ。

**タコ** 昭和の幻想は、そこにリアリティがあるかどうかっていうのは試合ではほとんど見られないわけで。あとはボクら見る側が、色々な手がかりを探しながら幻想をつくるしかないけど。

**山口** だから、ただリアルにやってるだけでもダメなんだよね。

**タコ** そうですね。昭和には幻想があって、いまは幻想がないっていう言い方は、いまは通用しないっていうだけで、平成なりの幻想はあるっていうことですよね。

**山口** あるある。それを必死に作ってきたのが、桜庭なりアレクなりっていうことでさ。それを俺は3年4年前から訴えてるんだよ！ 今頃になって、ようやくみんなが気が付いたんだよな。

**タコ** どう思う、ガンツ？

**ガンツ** ……え〜と、その通り。

**山口** 何でそこで言い淀むんだよ。

**タコ** 明らかに賛成してないな。

**豪** さすが元プレッシャーだね（笑）。お前、またプロレス界と世間との変な例え話はするなよ。

**ガンツ** 過去は蒸し返さない！（笑）。

**タコ** でも本当、平成の怪物像が確立されたって感じですよね。ここまでせんと確立されへんのやから、しんどいですよね。だってホイスに勝ってようやくですからね。

**豪** ホイスに勝って、ようやくサクがちゃんと評価され始めたんだよね。高田道場の見学が急に増えたり、サイン待ちの女の子もいっぱいらしいから。やっと世間に届いたっていう感じでしょ。

**山口** だからある意味グレイシーっていう幻想を作ってきてくれた人達には感謝しなきゃいけないんだよ。

**タコ** そうですよね。それを飲み込んだっていうことですからね。『格通』とかの功績も大きいでしょう。

**豪** 『格通』は凄いよね。新しいの（NO254）見た？「山の恵みをいっぱい受けて育った、グレイシー一族」ですよ（笑）。

**タコ** 自然食品みたいですね（笑）。

**豪** 「グレイシーの家系図も6年ぶりに登場！」って、どんな増刊だよ。かなりリセットしてるでしょ。また幻想作らなきゃいけないんですよね、ヒクソンのために。

**チョロ** 何だかわからないけど、新日の選手会長も再びマスク被りだしたら面白いんですけどね（笑）。

**豪** うわっ、そういう弱火なシメ？「お前マシンだろ？」って？

**チョロ** すみマシン（弱火）。

**タコ** うまいっ！ 1R終了!!

---

## 2R どうする グレイシー柔術



**チョロ** 第2ラウンドは柔術で充実ってことで、『グレイシー柔術』！

**山口** だからそれは流派の名前だよ、テーマじゃねえよ！

**タコ** ここでちょっと、グレイシー柔術を再評価しましょう！

**豪** もう各地でさんざん評価してるよ。

**タコ** あ、そう（笑）。

**山口** グレイシーについては、どこも書いてるだろうし誰もがわかってるんだろうけど、凄いのは70年だか75年だかの歴史だよね。コンデコマが……（大口を開けてあくびをするスモーを見て）オイッ、あくびをするな、デブ！ まあいいや。ブラジルに渡り、エリオ爺さんがバーリトゥード（以下VT）に向けて特訓しつつ歴史を積み重ねて来たわけだよ。その歴史が全て、あのグレイシートレインに詰まってるわけだよ。

**豪** （すでにさんざん聞いているため、しらじらしく）それって、もしかしてDNAですか？（笑）。

**山口** そう。DNAだよ、DNA！（笑）。塩基配列なんだよ、グレイシートレインは。塩基配列って習ったでしょ、小学校か中学校かで。蛙のDNAとか解剖したじゃん。（両手を広げて）こ〜う、なが〜いの。

**豪** は!? DNAの解剖!?

**タコ** DNAって、こうやって持てるもんなんですか？（笑）。

**豪** 会長、蛙の卵をDNAと勘違いしてるんじゃないですか？

**山口** ちっがうよ！ 見たことないの？ 蛙の卵の中だよ。透明な中に入ってるじゃん。

**豪** あれはDNAとは言わない！

**山口** あ、そうなの？ 俺ずっと、DNAをあれで想像してたよ（笑）。まあいいや、俺が言いたいのは、グレイシートレインは1人目から10何人出てきたでしょ。あれが、70何年の歴史がずっと続いてるのを表現してるの、あのトレインっていうのは。

**豪** あれは家族の繋がりですよね。

**山口** だから血なんだよ、血！「血の繋がりは、こんなに長くてしっかりしたもんなんだよ」っていう、「絶対に途切れないよ」という表現なわけですよ。それに対して桜庭はプロレスのDNAというかさ、プロレスの血を持ってきたわけだよ。

**豪** そっちが一族なら、こっちはマシン軍団増殖っていうね。

**山口** そうそう。要はマシン軍団として、ストロングマシン風って桜庭本人は言うんだけど、誰も想像しないって言うか、グレイシーも想像しないような姿で出てきたわけじゃない。今までグレイシーとかVTに出てくるプロレスラーっていうのは、一人で向かっていったわけよ。

**豪** 高田もそうでしたよね。

**山口** そう。高田も一人で出てったしさ、プロレス界って冷たいじゃん。打倒グレイシーに。そんな中、プロレスの血とは何かっていうところに、ストロングマシーンのマスクを思い浮べる桜庭っていうのが、やっぱり素敵なんだよ。マシーンのマスクというものでプロレスの歴史を表現してくれたんだよね。

**タコ** マスクマンなんて力道山の時代からあったコンセプトでしょ。

**山口** そうそう。それを否定せずに、桜庭がやってくれたということが嬉しいねぇ、やっぱり。普通、桜庭クラスになったらさ、格闘技側に寝返ったっておかしくないからね。

**タコ** 「プロレスです」って言いながら、格闘技側にコロっと寝返る奴なんてたくさんいるわけやし（笑）。

**豪** でも、グレイシートレイン幻想ってあったけど、よく見たらマッサージしてるだけだったんですよね。

**山口** なんだよ、それ！ .だから、あ

# 格闘連鎖2000

れはグレイシーの歴史だって言ってんじゃん！　血なんだよ、血！
**豪**　血って、マッサージで血行良くしてるだけですよ（笑）。
**山口**　人の表現方法にケチつけゃいけないよ（笑）。でもグレイシーの物語っていうのは、俺はこっから始まると思うけどね。
**タコ**　確かに、こっからが怖いと思いますけどね。
**豪**　でも正直言ってこれからの扱いは難しいと思いますけどね。グレイシーはキャラは立ってるんですけど、今後はテーマが作りづらいから。
**山口**　でもさ、ホイスが試合中にあんだけモンゴリアンチョップやられて、怒ったりとか、金的やられて悔しそうな顔したりとかさ、一つの試合のなかで、あんだけ色々な顔を見せたのは初めてでしょ。やっと桜庭との対決のおかげで人間に戻れたんだよ、グレイシーは。そこから人間グレイシーとして物語作れるんだもん。全然ＯＫだと思うよ、これから。
**豪**　ここで猪木さんが入ってきて、ホイスに断食させるとかね（笑）。
**タコ**　もう痩せんでええやろ（笑）。
**山口**　逆に、「これだけ凄い相手に勝ったんだよ」って証明してもらうためにも、これから立ち上がってもらわなきゃ困るよね。「え～っ、グレイシーってあんなもんだったんだ。」って思われるのもシャクじゃん。そんな程度の敵をプロレスは追っ掛けて来たんだって思われたらたまんないよね。でも精神的にはタフだと思うよ。あんだけ殴られて蹴られて、しかも極められかかって。それでも何度も立ち上がって、突進していくわけじゃない。本当にグレイシーに思い入れを持ってる人は、たまらないと思うよ。
**タコ**　でもプロレスファンは、一回グレイシーによって幻想を崩されるっていうのを味わってるじゃないですか。だから、いままで逆にグレイシーファンだった人が、これからグレイシーをどう見つめていくかっていうのも興味ありますよね。負けちゃったからって、そっぽ向くっていうのをやったら結局ダメですよね。
**山口**　それか「負けてない」ってムキになって言い張るかね。
**豪**　格闘技関係者はだいたい、あれはあれで満足だって言いますよね。負けはしたけど、みんなグレイシーの技術を学んで勝ったんだからって。
**タコ**　でもまあ、それはそれぞれの芸やと思うし、そういう強がりはグレイシーサイド含め、ファンもどんどん言っていくべきですよね。
**山口**　要はね、グレイシーの上がるリングがこれから『ＰＲＩＤＥ』になるのか、『コロシアム２０００』になるのかわからないけど、プロの世界でやっていくかっていうのが、これから重要なんだよね。プロの概念を今回の桜庭戦でよ～く理解して、「俺たちはプロのファイターとしてやっていくぜ！」っていうのを見せてくれれば応援する奴だってもっと増えるんじゃないの。いつまでもアマチュアかプロかっていう、宙ぶらりんの状態でいて、しかも高額のファイトマネーを要求して、ルール変更も要求してっていうワガママぶりを発揮してるからヒールになるんであってね。
**タコ**　今更ながらに問われますよね。グレイシーの存在意義っていうのが。それだけの体質とかキャラクターとか持ってる人らやから、そういうのをプロっていう芯で捉えたら、やっぱ凄いんじゃないですか。でも間違って今度ホイスがマスク被っちゃったらどうしましょ（笑）。
**山口**　「あれが、いまの流行なのか」って勘違いしてね（笑）。
**タコ**　「おいおい、違うよ！」って（笑）。まあだから、「これからのグレイシーは、プロっていうものをどういう風に捉えるかっていうのにボクらは凄い興味ある」ってシメだ！
**チョロ**　さすがカリスマ司会者っ！

## グレイシーの物語っていうのは、俺はこっから始まると思うけどね（山口）

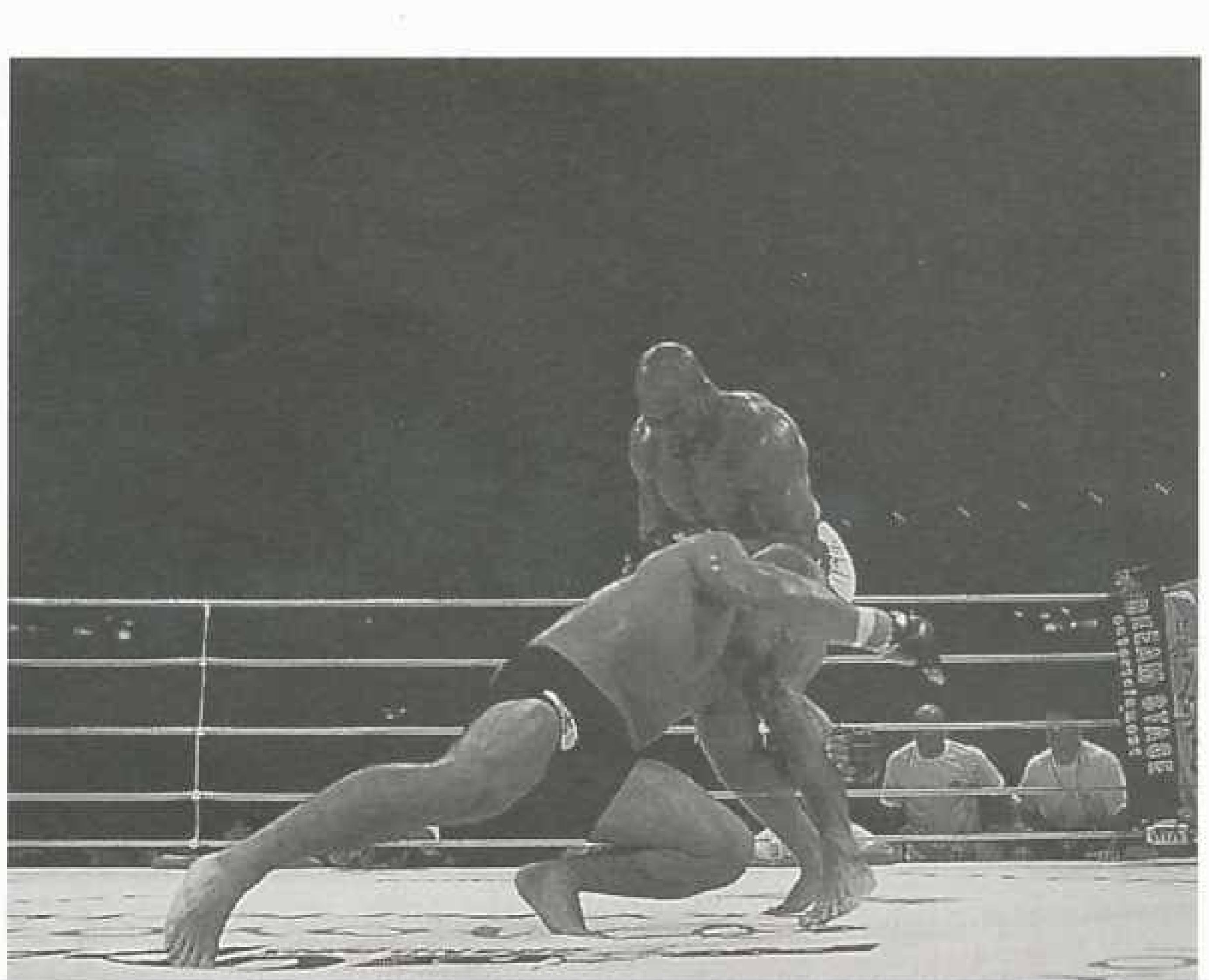


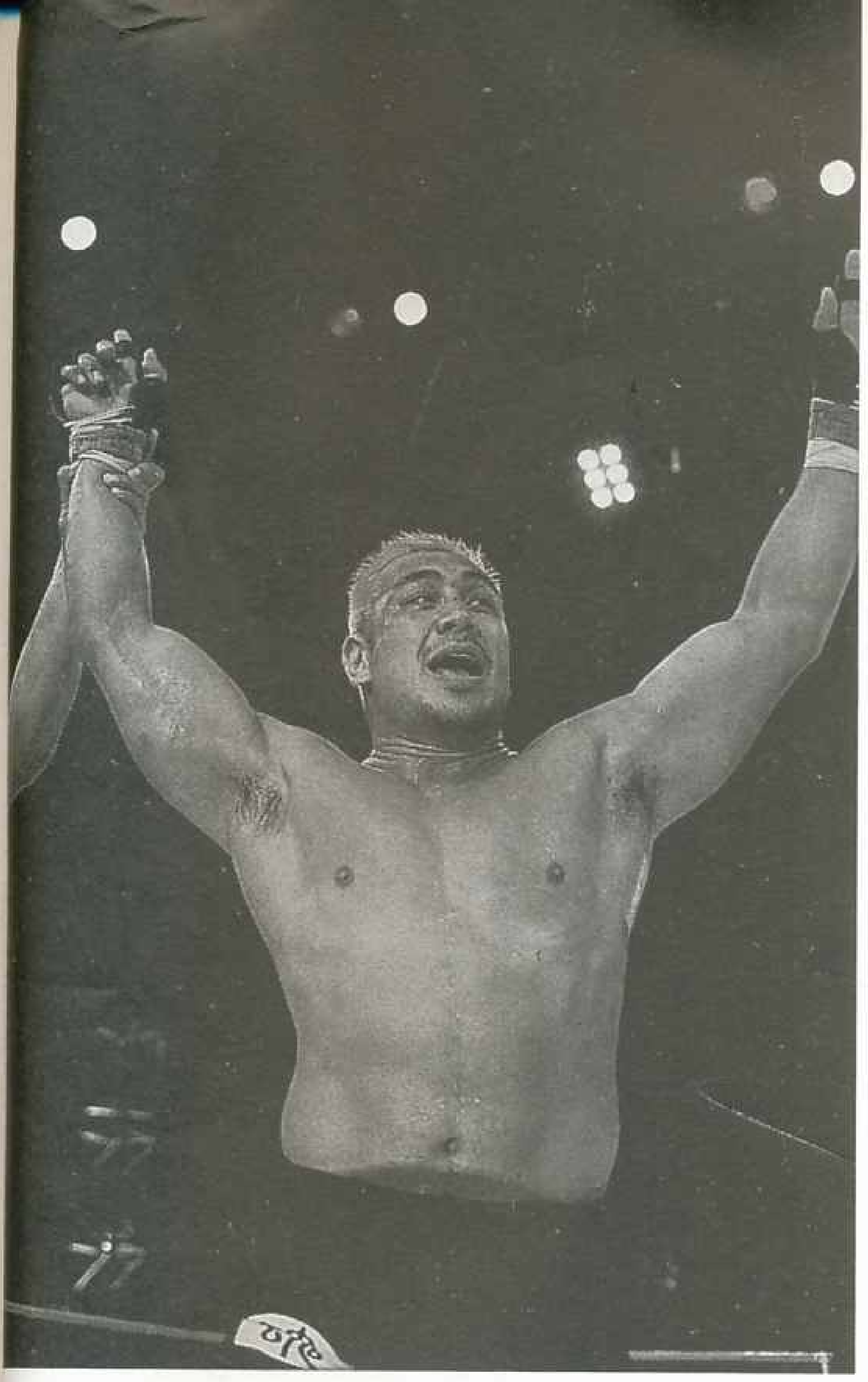
ヒクソンの試合前恒例の山篭りがホイラー、ホクソン、バヘット同行のもと長野県白馬村にて行われた。しかし「『紙プロ』と『ＳＲＳ・ＤＸ』の取材はダメ」とヒクソン本人の口から発せられたという。な～んでっか？

---

## 3R 藤田和之 VS マーク・ケアー

**タコ**　ラウンド3のテーマは？
**チョロ**　藤田和之対マーク・ケアー！
**タコ**　（元気よく）藤田対マーク・ケアーでボクが一番印象に残ってることっ！　藤田対ケアー戦の試合が終わってしばらくして、ボクはずっと2階席で見てたんですけど、ツッーッと山口日昇さんが階段上がって来ました！　それで「会長」って声掛けたら、バシッと肩を叩かれて「藤田強えなぁ～」って言ってきました！　山口日昇、か～なり興奮してました！　みたいな（笑）。
**豪**　「やったぞぉ！」みたいな（笑）。
**山口**　それは全然覚えてない！
**タコ**　ガハハハハ！　いつも熱くなるとそうなんですよね。
**山口**　でも藤田の勝ちは本当にビックリしたね、俺は。
**タコ**　ボクはアレク対マルコ・ファス戦を思い出したんやけど、そういうタフな勝ち方やったし、猪木さんでも「大金星だ」って言ってるくらいですからね。さすがの猪木さんも、やる前から負けることを考えてたんでしょうね（笑）。
**山口**　「皆さんは予想だにしてなかったでしょうが」とか言いながら、本人は予想してたような言い方してたけどね（笑）。でもあれは堀辺先生流に言うと、ＶＴ（以下バーリ・トゥード）の新しい闘い方だよ。藤田は「打・投・打」の「打」で勝ったわけだからね。
**豪**　極めなくてもいいっていうね。試合前は藤田は極めの技術がないからツライかなと思ったんだけど、極めなくても勝てるっていうことを実証してみせたという。
**山口**　でもあの勝ちは格闘技側もビックリしたんじゃないかね。敢えて分けるとすればだけど。
**豪**　それでもＵＦＯが絡んでくるってことだけでネットとかでは八百長説とかが流れちゃうんですよね。
**山口**　そんなのが流れてんの？　くっだらねえな！
**タコ**　でもやっぱり、藤田対ケアー戦もＶＴのセオリー通りじゃないですよね。
**山口**　そこだよ！　藤田もＶＴのセオリーじゃない勝ち方したんだよ。
**タコ**　サクはサクなりのＶＴのセオリー無視やしね。
**豪**　藤田はとりあえずヒザ蹴りをガンガン受けるっていうね（笑）。
**山口**　あのヒザ蹴りだって顔面受けて





首振っただけで治っちゃったんだろ。哺乳類最強の男は違うな（笑）。

**豪**　前田さんは、藤田が『PRIDE』に参戦する前に、「レスラーは技を受けるクセがあるから、用心した方がいいよ」って言ってたけど、レスラーのクセが抜けないまま勝つとは思ってなかったでしょうね（笑）。

**ガンツ**　でも、首振ったっていうのも、前田さんが「牛ってどれくらい強いんだろう？」って、牛のケツを「ガシーン」って思いっきり蹴ったら、尻尾を振られただけで終わったっていう話を思い出しましたね（笑）。

**山口**　あったね、そういう話が。でも藤田は本当にセオリーを打ち壊して勝ったっていうところが凄い！　それで藤田対ケアー戦は明らかに「新プロレス」だからね。

**タコ**　そうなんですよ。だから藤田もそれを言ってて、やっぱりサクのような客を頭に入れた試合っていうか客に見せるっていうことは一切考えないと。勝つための最短距離を行く中で、自分は膠着なんかしてたら最短距離で勝てないから、勝つために絶対膠着しないと。だから、それ自体が見せるプロレスになってるから、「それは凄く理想的ですね」って話してたんですよ。

# 前田もレスラーのクセが抜けてないまま藤田が勝つとは思ってなかったでしょうね(豪)

**山口**　まさにその通りだよね。だって実際問題、これはケナすわけでも何でもないし、事実として言っておくけど、5・5の新日本の福岡ドーム大会は、新日本のドームにしては全然客が入ってなくてね。でも、そこで藤田が出てきた時の歓声っていうのは凄かったもの。だから完全に藤田対ケアーや桜庭対ホイスに代表されるような「新プロレス」の方が、いまの時代にはピタっとしてるわけでしょ。それを作り上げてきたというかさ。

**タコ**　確かにそうですよね。

**山口**　従来のプロレスはもうダメだよ。新日とか全日とかの会社がダメっていうわけじゃなく、新日、全日に代表されるような試合スタイルそのものを根本的に考え直さなきゃいけない時期に来てると思う。

**豪**　でも会長、数ヵ月前に「新日本からは目が離せない」って言ってたばっかりじゃないですか？（笑）。

**山口**　そうだっけ？（笑）。

**タコ**　フォローするんやないけど、現状のプロレスからの脱皮っていうか、いまのプロレスを終わらして次にいけるのも新日ですよね。

**山口**　そうそう。だからそのチャンスをモノに出来るかどうかも新日本次第だと思うよ。ツボさえ掴んじゃえばどんどん面白くなる可能性も持ってるわけだしね。「新プロレス」の中においても。誰が気付かせるか、誰が気づくかが問題だよな。

**豪**　猪木さんが気づきを与えるのかと思ったら、白覆面被って出てきちゃいましたからね（笑）。

**山口**　ガハハハ！　でも何度も言うけど、サクと藤田は怪物だね。

**ガンツ**　藤田といえば、前に成田で猪木さんとオーちゃんと村上と一緒に会見した時に、猪木さんもオーちゃんもみんな藤田に気を使ってて、藤田がいちばん堂々としてるんですよ。「俺の会見だ！」みたいに。それが凄いなと思いましたね。普段から凄みがあるっていうか。

**チョロ**　「俺が藤田だ！」って感じなんですね。村田英雄ばりに（笑）。

**豪**　（無視して）モノが違うよね。

**タコ**　（小声で）中村さん……またチャック開いてる（笑）。

**ブチ**　（チャックを確認する）あっ、ホントだぁ。デヘヘヘ（笑）。

**豪**　ダハハハハ！　見事なボケッぷりだよね。

**タコ**　次いきますかーーーーッ！

---

# 4R　4・20 RINGS代々木大会 & G・アイブル移籍問題

（……静まりかえるテープ）。

**山口**　え〜、全国3千万人の『紙プロ』読者の皆さん、4ラウンドはチョロがテレコを回し忘れてました！

**チョロ**　す、すいません！

**タコ**　しゃあない。もう一度行きますよぉぉー！　リングス代々木大会！　そしてアイブル離脱問題！

**山口**　いや、代々木大会はメチャクチャ面白かったね。でも、日明兄さんは及第点を出してないんでしょ？

**豪**　ええ、ボクは大会直後に他誌でインタビューしたんですけど「日本人は負けるし、アイブルは引き抜かれるし、ろくなもんじゃない！　でも、♪そのうちなんとかな〜るだろぉぉぉ〜」って、歌ってましたよ（笑）。

**山口**　ガハハハ！　いいねぇ（笑）。

**チョロ**　それは『PRIDE』後のインタビューですか？

**豪**　いや、前だね。その時から引き抜きのこと言ってたんだよ。

**山口**　それなのに「『PRIDE』見にいかないんですか？」とか恐ろしい質問したらしいじゃない？

**豪**　「行ったら俺は暴れてしまうから行かない！」って（笑）。

**タコ**　こわ〜い！

**豪**　それでKOKとは関係ないんだけど、そのとき聞いたちょっといい話を一つ。前号のミスター高橋インタビューのことを話してたら「アンドレを焚付けたのも高橋さんでしょ？　でも、別に何も変な気持ちはないよ」って答えてましたね。

**山口**　なるほどね。まあリングスは、アイブルを引き抜かれたことでダメージを受けたと思ってる人もいるかもしれないけど、全然ダメージじゃないよ。むしろキックなったのは『PRIDE』でしょ。こんだけ色々な団体の選手に声かけて、ビッグマッチを連発しなきゃいけないわけだからね。

**豪**　それでヒールになってね。

**タコ**　『PRIDE』は出来合いの選手を集めてる。それに対してリングスは外人選手を育ててると。

**ガンツ**　まるで古き良き昭和新日みたいですね（笑）。

**豪**　それは、テープが止まってるときに俺が言ったことだろ！（笑）。

**ガンツ**　それに当てはめると、アイブルは新日のエース外人で全日に引き抜かれたハンセンなんですよ！

**豪**　それも俺の発言だよ！

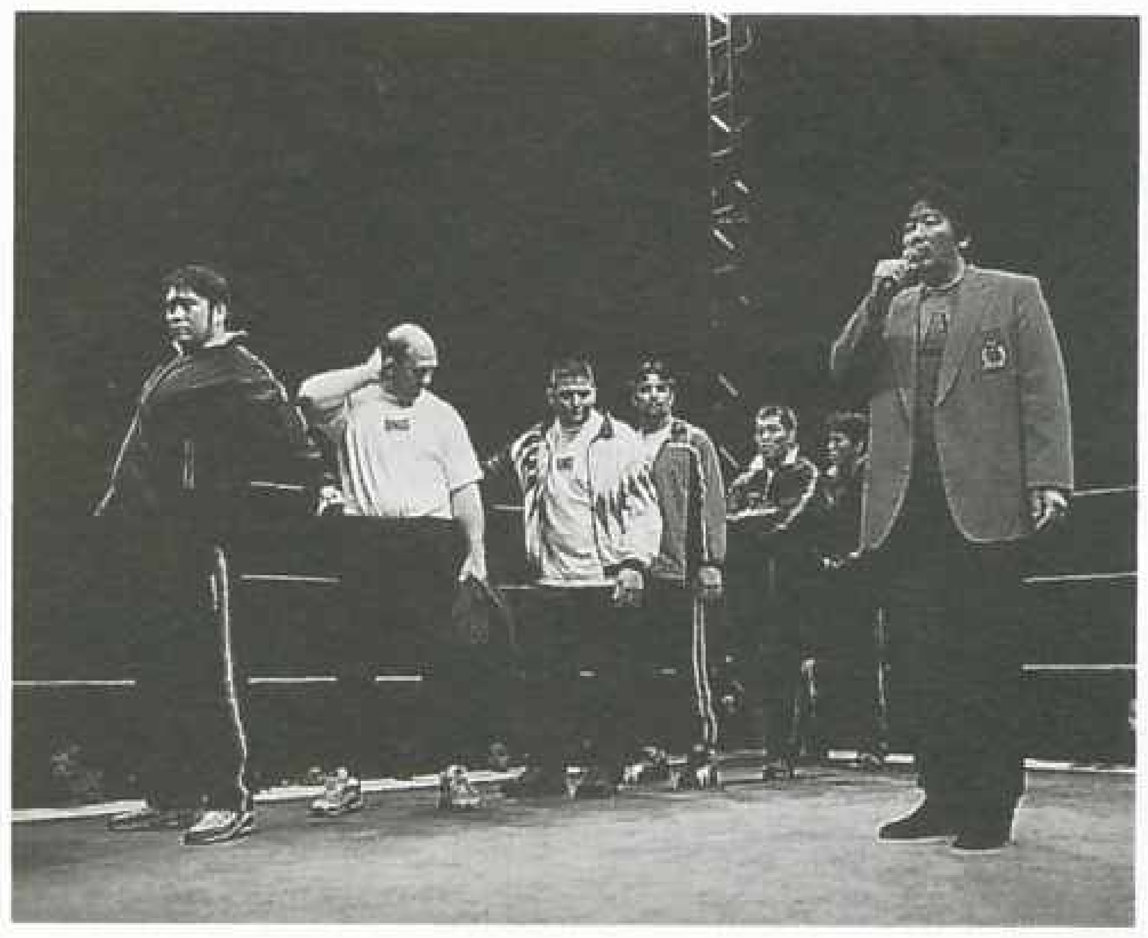
**ガンツ**　だからハンセン役のアイブルは『PRIDE』に行ったら、一騎打ちで馬場さんを復活させなくちゃいけない。というわけで、馬場さん役の高田とやって、高田を復活させて欲しい！

**豪**　高田は「俺の中で抹殺」した馬場さんなんだ（笑）。皮肉だねぇ。でもホント『PRIDE』が育てたのは、ボブチャンチンとグットリッジぐらいのもんだからね。

**山口**　だから『PRIDE』はどんどん団体化していってるんだよ。逆にリングスはこれから場として開放していくためには、団体を捨てていかなきゃいけないわけだよね。

**タコ**　そうですね。なのに『PRIDE』対『掣圏道』なんていわれて、一括りにされるわけじゃないですか。

**山口**　『PRIDE』なんて団体あってたまるかって思うけどさ。
**タコ**　僕らが『PRIDE』を新鮮に感じたのは、場として機能していたからなんですけどね。
**山口**　そうそう。だからリングスは団体を捨てるいいチャンスだよ。安生に殴られたときと一緒よ。ショックを与えられてるんだから（笑）。
**タコ**　でも日明兄さんはショックを与えられると、ちゃんとそれ以上のところにいくじゃないですか。
**豪**　いく。負けず嫌いだからね。
**タコ**　そういう意味では、リングスにとって逆にいいことですよね。
**山口**　だからやっぱり、いまの時代に団体が選手抱えて育てていくっていうのは、なかなか難しいよね。だからウチも編集者育ててる暇なんかねえんだよ！
**豪**　確かに、『紙プロ』から編集者は育たないですからね。『紙プロ』は場だから、外から来た人はまだいいんですけどね。
**山口**　そうそう。だからウチは今後は実力ある人しか採用しない！
**豪**　完全実力主義ですね。
**山口**　もう、ウチで一から育てるっていうのは一切しない！　出てこ〜ヒ、実力のある編集者!!　というわけでp47参照ーッ！『紙プロ』を頼むぞーッ!!
**チョロ**　ところで4・20の代々木大会は興行としては、どうでしたか？
**山口**　いや、メチャメチャ面白かったよ。『PRIDE』と、まったく系統は違うんだけど、同じマット界の出来事として面白い。
**ガンツ**　試合自体は本当に面白いですもんねぇ。
**豪**　「寝っ転がってゴロゴロやって固まってる」、『PRIDE』とは違ってね（笑）。
**山口**　でも佐山も誉めてたじゃん。KOKルールは。



**タコ**　誉めてますね。『ゴン格』に書いてありましたよね。
**山口**　だけどリングスのKOKが本当の意味で浮上するためには、「なぜこのルールじゃなきゃならないのか」という格闘技的な意味付けが絶対必要なんだよ。いまはまだ、VTはアメリカで衰退してるからとか、膠着は観客にはわからないとか、そういうビジネス的な説明だけでしょ？　そうじゃなくて、要は顔面パンチがなんでなくても「最強」を決められるのかという格闘技的なテーマが、前田日明の口からまだ打ち出されてないんだよ。
**タコ**　だから求心力じゃなくて、ゲームっぽく見えちゃうんですね。
**山口**　それをちゃんと言語化出来た時には、KOKは爆発すると思うよ。
**タコ**　そうですよね。きっと会長が言語化してくれますよ！
**山口**　いや、俺もよくわからない（笑）。

## 「KOK」はルールに格闘技的意味付けができたときに爆発するよ（山口）




新チャンピオンが10日後に他団体転出するという非常事態を迎えたリングス。6・15代々木大会ではどんな巻き返しを見せてくれるか、リングスの出方には注目である。

**タコ**　ガハハハ！　でも本当そうですよね。一発、言語化したら絶対にいけると思うんですよ。それこそ「田村の勝利が是か非か」みたいなことはもう言われないわけで。
**山口**　見る側にもKOKルールというものに、凄味がまだ付いてないわけさ。それは、さっき言ったようなビジネス的な理由だけでしか捉えられてないからでしょ。
**タコ**　そうですよね。消去法でそういうルールにしたっていうような印象がありますからね。
**山口**　何でこれにしたんだっていう格闘技的な裏付けが必要なんだけど、そのヒントになるのは、グローブを付けるのも外すのも選べるってルールだよ。この「選べる」ということがKOKルールの最大の魅力だよ。自分の裁量で自分の有利な方を選べるわけだから。逆に言えば自分の不利な方も選べるわけじゃん。やっぱ、人間性がガシッと絡んでくるんだよね。敢えて不利なルールでやってやろうじゃないかっていう選手も出てくるかもしれないしね。
**タコ**　それこそグローブ一つが試合のテーマになりうるわけですよね。
**山口**　そうそう。だから単なる勝ち負けを越えて、「俺は相手のルールに合わせてやるぜ！」ていう気概を見せる選手も出てくるだろうし。そういう意味で人間味がガチッと絡めるルールだと思うよ。もうVTって言ったら説明いらないんだもん。「これが何でもありです」って提示しちゃえばいいんだから。だから、KOKルールは、何でこのルールにしたのかっていう説明が必要なんだよ。だから前田日明はアイブルを引き抜かれたとか、そういうことだけに頭が行かずに、格闘技の方に頭をまず向けるべきだと思うね。
**チョロ**　（小声で）なんとかまとまりましたねぇ…。
**山口**　また落ち込んでるよ、コイツ。
**タコ**　カラ元気だせぇー！　こういう時こそ。まあええわ。

## 5R
### 5・5新日本プロレス 福岡ドーム大会

**タコ**　いよいよ佳境！　第5ラウンドは5・5新日本、福岡ドーム大会！　ここは会長の独演会ですよ！

**山口**　オーケー！　これはもう一言で言える！　さっきの4・20リングス、5・1『PRIDE』、5・5新日本、全て連鎖してる！

**豪**　「闘魂は連鎖する！」、と。

**山口**　闘魂というか、猪木さんの言葉で言うと『格闘環境』が連鎖してるんだよ。ただ悲しいのは新日本の中では連鎖してるのは猪木さんだけなんだよね。

**豪**　それはどういうことですか？

**山口**　わかりやすく言うと、まず4・20で田村を打ち破ったアイブルが5・1のドームに姿を現して、その5・1に桜庭がストロングマシーンのマスクを被ってきた。

**豪**　それが5・5新日本の選手会長・平田と繋がるんですか？（笑）。

**山口**　違う違う！　平田には連鎖してな～い（笑）。だから5・1でサクがマスクを被ってきて、ホイスは柔道着を着てきた。それを猪木さんがおいしいとこ取りというか、横取りというか（笑）、5・5で連鎖させせんだよ。

**タコ**　はいはい、白覆面ね（笑）。

**豪**　マスクと道衣という実に食い合わせ悪いやり方でね（笑）。

**山口**　でも俺なりにその謎掛けを解釈すると、猪木さんは、新日本にいま必要なのは『PRIDE』にあったような、「熱」と「格闘環境」なんだよということを白覆面を通して訴えたんだと思うんだよ。それに対して誰が答えてくれるかが注目なんだけど、長州力監督は白覆面とロックアップしちゃうし、メインはグレート・ムタ対パワーウォリアー、プラス北斗晶だからね（笑）。

**タコ**　連鎖もぶち切れました（笑）。

**山口**　そんな中で悲しいというか気になったのは、一番連鎖しなきゃいけないオーちゃんがこの『格闘環境』の中で連鎖されてないってことなんだよ。いま敢えて長州力と絡んでいくっていう意味が見えない！

**豪**　それは果たして、ファンのニーズなのか否かってことですよね。

**山口**　だからネットの書き込みとか見ると、「VTに出ていけ！」っていう声が凄く多いわけでしょ。

**豪**　猪木さんも『PRIDE』を見て「小川ならいけたはずだ」って言ってましたからね。

**山口**　そうそう。だから5・5を見て、オーちゃんだけがこの「格闘環境」の中から、一人ポツンと蚊帳の外っていうような印象は受けたね。

**タコ**　オーちゃんは本来ならその中心にいてしかるべき人ですよね。

**豪**　花束片手の乱入でもいいからもっと連鎖させて欲しいんだけど。

**山口**　だからわからないんだよ。オーちゃんは実力を持ってるのにも関わらず、いまの新プロレスの流れから敢えて純プロレス方面に向かうのは何なのかっていうのが。

**タコ**　だから新プロレスっていうのは、結果出した上での幻想の膨らまし方なわけじゃないですか。オーちゃんはその結果っていうのが心もとないですけど、やりゃ強いんだろうっていうことですよね。ただその純プロレスっていうのは、試合スタイルも含めてだけど、オーちゃんはそれが上手いのかなと思うんですよ。

**豪**　それなんだよね。だからプロレスだけで幻想を作れるかっていうと、そうじゃないからね。いまオーちゃんを支えてるのも1・4とグットリッジ戦の幻想なわけでしょ。

**山口**　だからプロレスは格闘技だってこだわりを持つ必要はないっていうスタンスは全然OKなんだけど、何かオ

## オーちゃんだけがこの「格闘環境」の中から一人蚊帳の外なんだよ（山口）



トレインにこそなっていないものの、全員道衣を着て入場してきたチームUFO。彼らこそが「格闘連鎖」の中心になって欲しいものだ。

## EX
### アレクがへこんだ？

**山口**　うちは今まで、アレク良くやったっていう記事を作ってきた手前、今回のアレクに関しては批判じゃなく、批評が必要じゃないかと思うんだよ。

**豪**　非常に同感です！

**山口**　今回の『PRIDE』はアメリカでPPVが流れて、しかもメインで放送するのがシャムロックvsアレクなんだよ。そこで、アレクがどういう勝負をしたかというと、ズバリ言って今回のアレクは頂けない！

**タコ**　もちろん試合はダメやなぁと思いましたね。

**豪**　アレクもサクも結果を出さないと評価されないスタイルですからね。

**山口**　だから、アレクはプロレスを勘違いしてるんじゃないかと思ったね。

**豪**　また、物騒な話ですね（笑）。

**山口**　あのね、ロープワークとかやってたでしょ。「プロレスやれ！」っていう歓声に反応したからなのかどうかはわからないけどさ。でも、あのリングでプロレスの技を見せるっていうことが、俺なんかの見たいプロレスというものじゃないんだよね。

**タコ**　そうですわ。だって、藤田vsケアーを見ても、ボクらは凄い興奮したやないですか。VTでプロレス技が出ればそれで満足するっていうことじゃないですからね。

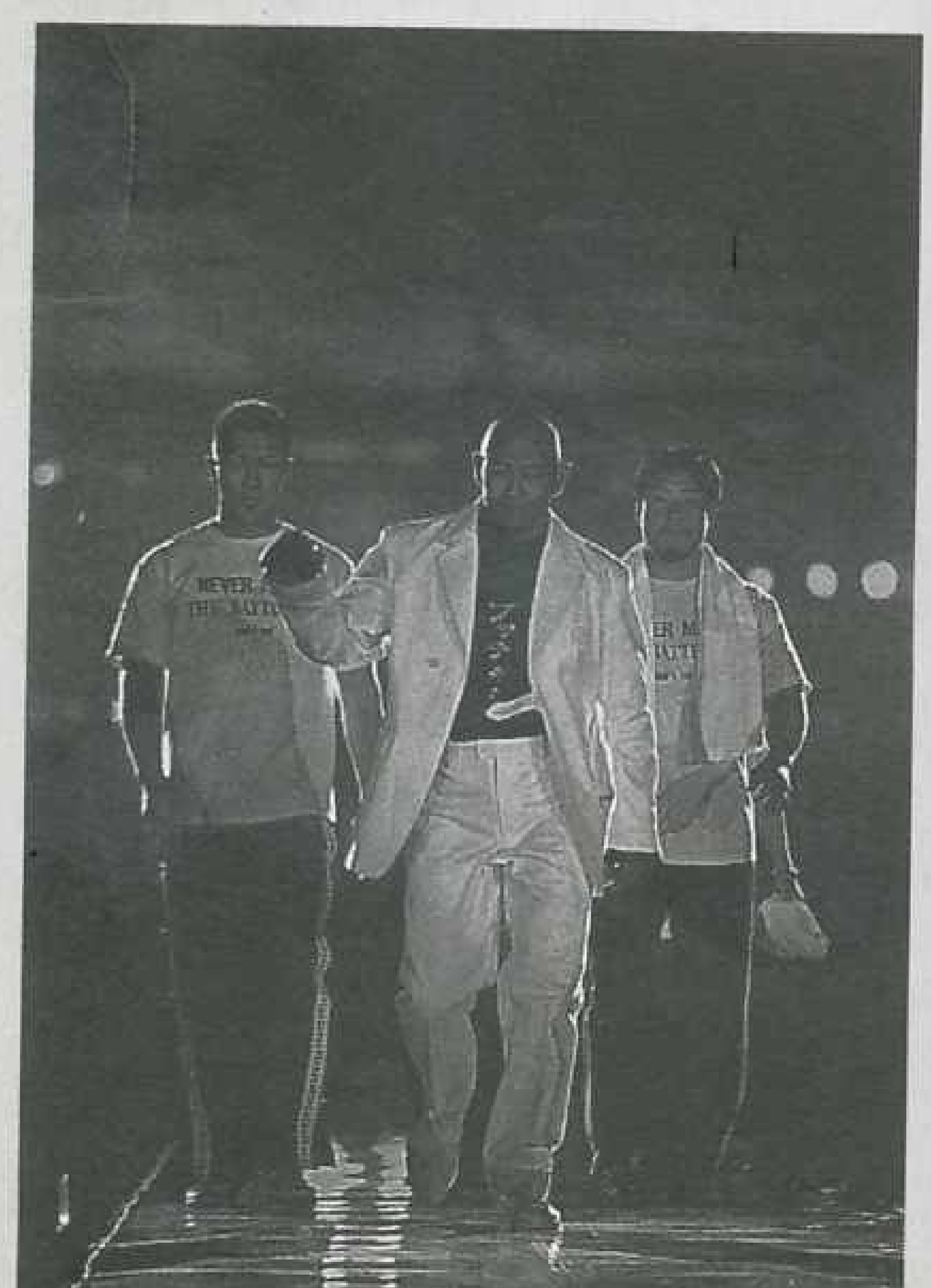
**山口**　それはアレク自身が一番わかっていると思うんだよ。桜庭vsホイス戦より桜庭vsボブチャンチン戦を見て、1月の自分のボブチャンチン戦であんなに喜んでいた自分が恥ずかしいって泣いていたわけだよね。

**豪**　だから、サクの場合は90分の試合をこなしたあとに、あれだけの試合をやっちゃったわけでしょ。結局、アレクが光ったマルコ・ファス戦にしても、プロレス技じゃなくてプロレスのハートで勝ったということですからね。

**タコ**　そう、マルコ戦の勝ち方って凄くプロレスラーのいい勝ち方だと思ったんですよ。

**豪**　それが何でプロレス技を出すことに重点を置くようになったのかなとは思いますね。それだと、負けが続いたり、いい試合ができなかったりしたら批判されるのは当然だし。

## 勝負論を土台にして闘わなかったアレクに疑問符がついたね。（山口）



ーちゃん自身がこだわっちゃってる気がするね。逆に純プロレスの方向にしか目が行ってないっていうか。

**豪** だから、みんながVTに行ってる時に、あえて行きたくないっていうのはわかるんですけどね。

**タコ** わかるんだけど、そこがただのヘソまがりで終わってしまうと、純プロレスっていう中で、オーちゃんがどんだけ出来るのかっていうのがありますよね。

**豪** ねえ。やっぱり猪木さんほどの求心力はないわけでしょ。掌に乗せて転がすまでには、いってないですからね。

**タコ** オーちゃんは自分の純プロレスとしての素質とか、そういうもんに対して自己評価っていうのは、どうなんですかね？

**山口** 純プロレスでは、やっぱり能力を発揮できないと思ってるでしょう。だからUFOスタイルとか、ああいうものになっていくわけで。

**豪** でも、UFOの自主興行ではいい試合はほとんどなかったよ。それは断言出来る。

**山口** だからオーちゃんが今後何を提示してくれるかの問題なんだよ。5・5みたいに右肩負傷してるからかもしれないけど、そんなに登場しないで試合終わってっていうことを繰り返してても、仕方ないわけだし。

**豪** それは落ちるだけですよね。

**山口** だから前号で「オーちゃん、もっと高度を上げろ!!」って書いてるんだよ。ひとつ考えられるのはオーちゃんは、猪木イズムもそうだし、新プロレスもそうだし、全部視界に入ってると思うんだよ。だから何をチョイスしたらいいのかっていうのが、見えにくくなってるんじゃないかな。

**タコ** それが純プロレスなのかどうかですよね。

**山口** まあでも福岡ドームを見ると、俺は個人的にだけど新日本、全日本に代表されるような、試合スタイルそのものがもう終わりを告げたと思う。これが営業妨害になるのかわかんないけど、俺は本当にそう思うよ。だからメインなんかも、WWFの方に針を振るんだったら思いっきり振りなさいってことだよ。

**タコ** やっぱり中途半端ですよね。WWFの方に針を振るんだったら。

**山口** だって、なんちゃってWWFだよ、アレは実際に見てたら。

**タコ** では、こんな感じですかね5ラウンドは。「終焉」っていう言い方を、変えんとあかんのかもしれないけど。

**山口** まあ終焉は終焉でいいと思うんだよね。

**豪** さらば純プロ、ですか！

**山口** だから脱皮しなきゃいけないっていうのは、間違いなく脱皮しなきゃいけないんだから。でも、それが長州対小川戦っていう脱皮の仕方でいいのかというのはあると思う。これ以上はこれからやることに水差しちゃうから、あれなんだけどね。

**豪** まあ、長州相手に1・4での橋本戦ぐらいのことをしてくれたら、文句なんてありゃしないんですけどね。

**タコ** ということで第5ラウンド終了！

**山口** 要はプロレス的な試合をして、勝っても負けても観客が沸けばいいっていう方にしか頭が転がってないわけでしょ。徹底的に勝負論に針を振らなきゃいけなかった試合のはずなのに。

**豪** 会長的にはやっぱりプロレスにも勝負論がないといけないと？

**山口** もちろん！

**タコ** 『PRIDE』という場では絶対、勝負論やと思いますわ。

**豪** 『PRIDE』ではそうだけど、「プロレス＝観客論」っていう考えがあるっていうのもわかるんだよね。

**山口** でも、今回は絶対勝たなければいけないわけであって、勝負論を土台にして闘わなかったアレクのセンスに疑問符がついたね。何かを疎かにしちゃったものを取り戻す気があるのかっていう。

**豪** 「失ったものは取り戻せばいい」と。

**山口** そう！　だからアレクは徹底的に落ち込んだほうがいいよ。

**チョロ** そのヘコんだアレクの気持ちは『PRIDE』のリングじゃないと取り返せないんですか？



IWGPタッグ戦に乱入し、中西をスリーパーで絞め落とした白覆面に長州が激怒！　1・4以来の大立ち回りを演じた。これによって小川vs長州が急浮上」。どうする大仁田！

## 6R 5・26 コロシアム２０００

タコ　そしていよいよ最後の６ラウンドがやってまいりました！
チョロ　テーマは、５・26『コロシアム２０００』です！　ワァ〜オ!!
タコ　桜庭がホイスに勝ったっていうことで、「船木、最後は頼むゾ！」みたいなノリは出てますか？
山口　一切出てないよ（キッパリ）。
豪　一部のピュアなファンが乗ってるだけで、やっぱり乗れないっていう気持ちの人の方が多いんだよね。
山口　だから、さっき言った『格闘環境』が、どう連鎖していくかだろうね。ただ『コロシアム２０００』っていうのは、その連鎖を断ち切るような打ち出し方を主にしてるんで、どうかなってところはあるよね。
豪　パンクラス側が『コロシアム２０００』側に対して色々と牽制してて、尾崎社長もそうですけど、高橋（義生）も「リングスが参戦するらしいですね」って聞かれて、「全然知らない。興味なし」って答えてるし。
山口　「知らない」ってことあるかよ、腹立つなあ。ホントに何でメシ食ってるか、よく考えろって！
タコ　本当に発想がシカトの発想なんですよね。でも船木って色々なものと絡んで、色々なものを吸収出来る選手なのになぁ。
山口　高橋だってそうでしょ。
タコ　そうですよね。やっぱりタマとしては凄いと思うんでよね。
山口　でもなんで、『コロシアム２０００』が盛り上がらないのかズバリ一言で言えるんだよ。桜庭対ホイス戦、藤田対ケアー戦からは、ＶＴじゃない、新プロレスが立ち昇ったでしょ。新プロレスが立ち昇る可能性が見えないんだよ、『コロシアム２０００』には。ＶＴのセオリーはこの興行の中でたくさん見られると思うよ。でも、それは凄くマニアックなものだからね。
豪　船木がそれを見せてくれたら文句ないんですけどね。
山口　船木がもし立ち昇らしたら爆発するよね。ドロップキックなんかやってくれたら最高だよ（笑）。しかもマッチョになって出てきてくれたら、そしたらもう大歓声でしょ。
タコ　それは盛り上がる！
山口　船木が勝ってくれりゃあ、それにこしたことはないんだけど、勝ち方も問われてくるわけだしね。
豪　勝ってから次にどう繋げるのかっていうのもあるし。
山口　でもさ、ヒクソンはこれで引退とか言われてるしさ。それで船木だって「終わったら海行きたい」とか引退するしないとか。繋がりが見えないわけよ、次の。
タコ　あとやっぱり流れ的にいうと、ホイスと桜庭っていうのはキャッチボールがあったわけじゃないですか、ルール問題に対して。そこでずっとボクらの興味も途絶える事なく大きくなっていったけど、やっぱりルール問題一つにしても、尾崎社長が出てきて、撤退するとかしないとか、泣いてみたり、そんなキャッチボールはないやろうって（笑）。
豪　デッドボールだよね（笑）。
山口　交渉は本当に大変だとは思うんだけど、プロなんだから仕方ないじゃん。「俺達は一生懸命やってるんだから、わかって下さい」っていう電波がビンビン出てるでしょ。
豪　「船木は命懸けなんですよ〜（涙）」っていう。
山口　そんなのみんなわかってるっつーの！　命懸けじゃない選手がどこにいるんだって。だから繋がりが見えないし、逆に狭い方向狭い方向に行っちゃってるイメージがあるじゃない。それをどう打破していくかってことだよね。やっぱり記者会見とかで船木と前田が握手するシーンがあるだけで全く違ったでしょ。



もちろん山篭りにはヒクソンのマネージャーでもあるキム夫人も参加。グレイシー勢総出で信州そばを食べたり、仲良くツーショット写真に収まったりと山篭りをエンジョイ。

タコ　そやなぁ。そんで船木ってストイックな、ある種ヒクソンみたいな像に憧れてると思うんですよ。
山口　それはあると思う。だから船木とヒクソンは同じ匂いがするって言ってたじゃない？　そういう同じ匂いを共有した人達だけが集まるだけだったら、それは〝場〟になりえないよな。
タコ　間違ってますよね。船木はヒクソンみたいにはなれないし、なる必要は全然ないし。
山口　そう。だから、被りそびれた、自分でデザインしたドラゴンのマスクでも被ってこいって言うんだよ（笑）。でもそれは桜庭の二番煎じになっちゃうから出来ないだろうけどね。
チョロ　Ｕのテーマでマシンマスク被って出てきたら凄いですよね（笑）。道衣まで着てきたら完璧！
山口　全部混合しちゃって（笑）。
チョロ　勇気いりますよね？
山口　はぁ？
チョロ　混合有己！（弱火）。
豪　（無視して）でも、サクが全部呑んだ上で勝った以上、相手の言い分を呑んだ上で勝たなきゃ同じレベルに立たないっていう凄い辛いことになってると思うけど、とりあえず泣いてる場合じゃないのは確かなんだよ（笑）。
タコ　ぼんやり思ったんですけど、ボクの一番好きだった頃の船木は桜庭みたいなもんやったなっていう。格闘技っていう括りがＵＷＦみたいな中にボーンと入った時に、最初につまんないって言ったじゃないですか。そんでプロレス技出したりして。
豪　サクのモンゴリアンチョップみたいなもんだったわけだよね。
タコ　そうそう。イタズラ心っていうか、サクがやってるようなナメた感じ
山口　アレクの場合はどんな〝場〟でも取り返せると思うよ。本人さえ自覚を持てばね。でも逆にいい機会だと思うしね。もっと大きなステージに行けるかどうかっていう。その辺、ＫＯで負けてアレクは運いいよ。判定だったら勝っても負けても印象にも残らなかったと思うしね。
タコ　ほんまに、運は強い男ですよ！
山口　アレクは「サクと藤田に負けた」っていうのも一番わかっているだろうし、敏感なのがいいね。それに比べて鈍感な奴が座談会で眠くなったり、目がとろ〜んとしたりするんだけど（チラッとスモーを見て）オイ、コラッ！　ノブタ!!
ノブ　グーグー、ブヒッ、グー……。
山口　あ〜、ダメだこりゃ（笑）。



アレクは初めて『PRIDE』のリングで全くいいところがなく撃沈。ハッキリ言って試合前、アレクに負ける要素はないと思った。シャムロックはVTにブランクがあり、現在進行形の闘い方をマスターするには時間がなさすぎる。これで、一気にアメリカンドリームか!?　と期待したのだが……マイナスからでも立ち上がれ、アレク！

# 本来、ヒクソン対船木って、本当に凄玉対凄玉じゃないですか(タコ)

とか、解放感とかを最初に見せてくれたのは、よくよく考えたら船木だったなというのが凄いあるんですよ。ただ、そういう人やったのが、あれから何年もたって、こういう風になったたっていうのは非常に残念やなぁと思いますよね。

**山口** 自分でカテゴリー決めちゃってるっていうことだよね。

**タコ** 絶対そっち側の人じゃないんですよね。だから一縷の望みっていう意味で言えば、あの人の体に眠ってるものがヒクソン戦で出て欲しいなっていうのがありますね。船木は全く期待に値しない選手じゃなくて、凄く期待して、それ以上の答えが返ってくるはずの選手なわけだし、本来、ヒクソン対船木戦って、本当に凄玉対凄玉じゃないですか。凄いことですもん。このカードは。

**豪** 5年前だったらね（笑）。

**タコ** もう大変！

**山口** だからあれじゃやない？ 純VT、純パンクラススタイル、純Uスタイル、純プロレスっていう〝純〟って言われてるものが今の時代の中では生き残れないんだよ。やっぱり色々なものとアクセスしていかなきゃいけないしさ。不純バンザーイ！

**豪** 商売っ気をなくすことが、純粋さをアピールすることと思ったら大間違いなんだって！

**タコ** 大間違い！『コロシアム2000』も客が一杯入ってこそ成功！もっと大きい流れにするべく、『コロシアム2000』も盛り上がりましょーーーッ！（とガッツポーズ）。

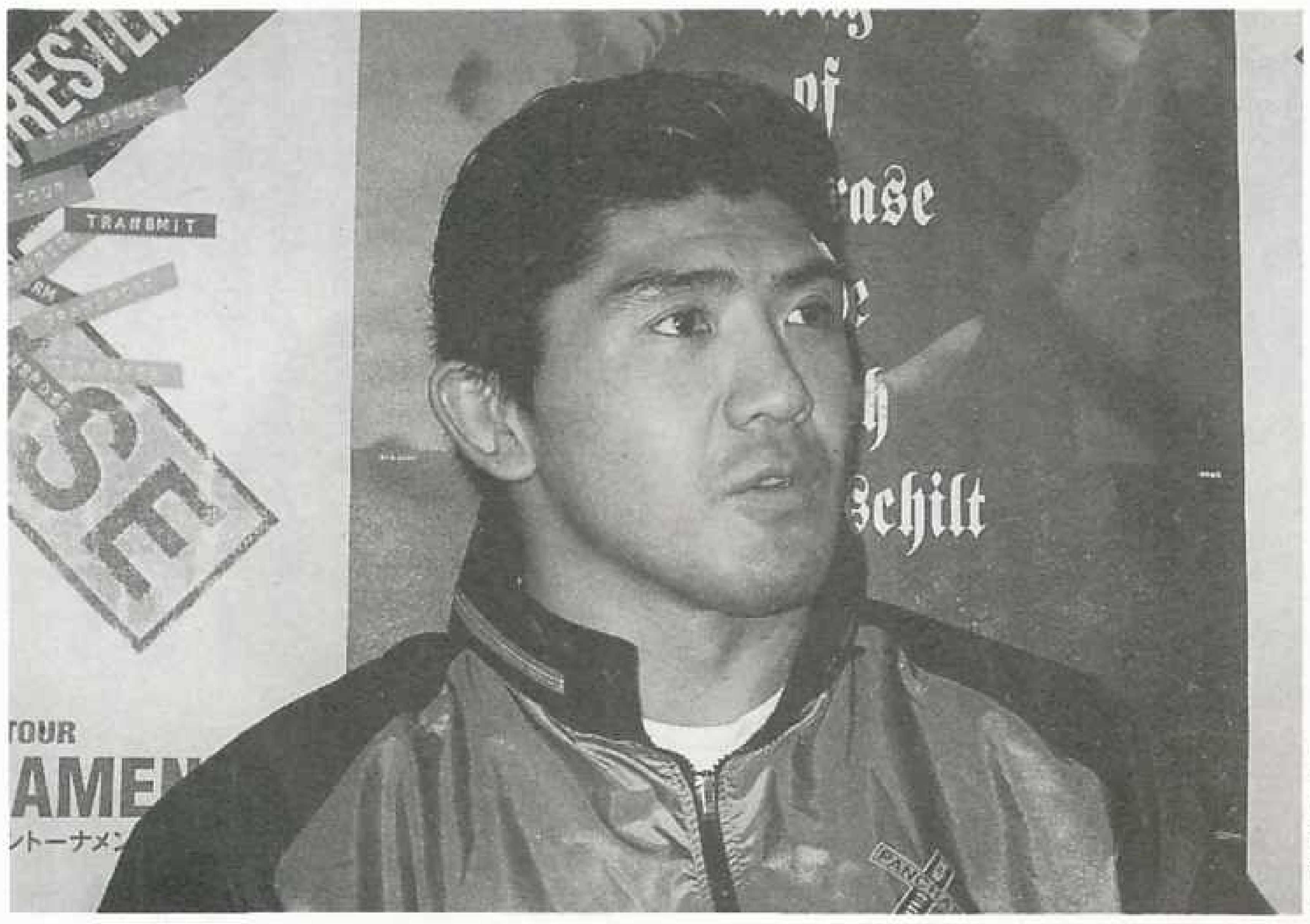
**山口** ガハハハハ！ 強引だな、お前！ しかも、まだ手上げてるよ。

**豪** マット界も花開け！ということで、花びら回転してきて（笑）。

※ちなみに、座談会が長引いたため風俗には行けませんでした。残念無念。

【00年5月9日／ダブルクロスにて収録】

※来日が内定していたアブダビのタハヌーン王子だが、政務多忙のため残念ながら来日は取りやめとなった。また船木vsヒクソンは勝者にはタハヌーン杯が送られることになった。



世紀の決闘まであと数日。ヨガに続き、ヒクソンの愛読書でもあるという宮本武蔵の『五輪書』を読みふける毎日の船木。当日どこまで読破できるのか？ そして勝敗はいかに？

格闘連鎖2000

## グレイシー一族の人生、あまりにもコク深くて劇画チック!!

# グレイシー柔術地獄変

文／中村カダブツ君
text by Katabutsukun Nakamura

**エゴを丸出しにして勝敗に執着したグレイシー一族が完璧に敗北した。日本のプロレス&格闘技ファンはその間に、彼らの醜い部分を十分以上に見せつけられてきたが、逆に、ファンの側も勝った負けたで選手たちを罵倒したり、涙目になったり、生身の気持ちを剥き出しにしてきた。すべてはグレイシーが己の醜悪さを、包み隠さず晒したからにほかならない。ここではグレイシー一族、特にホリオンの人生を追いながら、グレイシーが背負った、男らしき業を伝えていく。**

これまで「打倒！　グレイシー!!」が大きなテーマであったプロレス業界だが、いやぁ～、見事にやってくれました、サク!!

ホリオンの手からタオルが投げられた、その瞬間は興奮を通り越して、もう感無量というか、ある意味、当然の結果というか。しかし、だからと言って簡単に「さらば、グレイシー」と言い切るにはあまりにも、もったいない存在なのがグレイシー一族。

なぜなら、誰だって人に好かれて生きていきたいと思うはずなのに、どう考えたって反感を買うであろう主張を平気で口にする図太い神経と、なにより、その主張をまかり通してしまう力を持ってることが素晴らしいと思うのだが、どうだろうか？

例えば、ホイス。以前、インタビューした時のこと、ＵＦＣでキモにボコボコにされた話を切り出そうとしたら、即座に彼は、こう言い切ってくれたのだ。

「ＵＦＣでケガしたことは一切ない！」と。

〝お前、あの時、ケガで棄権しただろうが〟というツッコミを入れる隙間なしの歯切れの良さ。こんな負けず嫌いはターザン以外に知らなかったボクとしては、この時から本気でホイスに惚れたね。

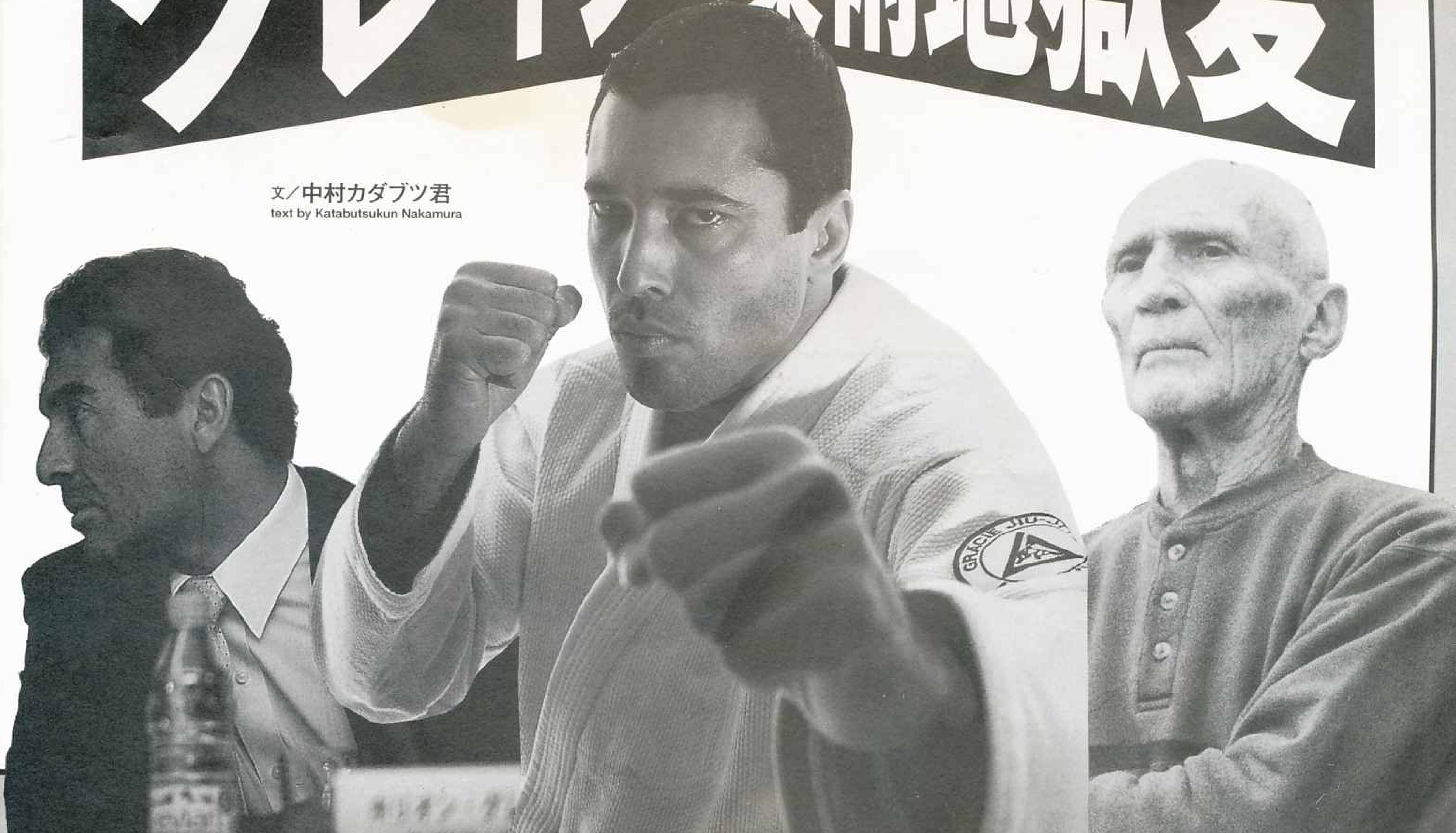
自分に不利になることは必ず否定してくれる。そういう意味で、非常に信頼に足る男である。

また、兄のホリオンも味がありすぎる。『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』のルール変更記者会見では、時間無制限の要求がいかに理に適っているかを説明する時に使った理論が素敵だったことは記憶に新しいところ。

「砂漠で一人置き去りにされた時、明日迎えに来ると言われたら誰でも我慢することができる。だが、いつ迎えが来るのかわからない状態ならば人はパニックを起こす」という、あれだが、さすがは〝アメリカに渡った当初は羽毛布団売りをしていた〟だけのことはある男。追い込みにかかった時の説得力は絶大だ。

そもそもホリオンの人生とは激しくコク深いもの。ここで『グレイシー柔術』（トランスワールド・ジャパン社刊）というムック本に掲載された、ホリオンの度胆を抜く半生記をかい摘んで紹介したい。

グレイシー柔術を世界に広めたいと考えた25歳のホリオンは、世界戦略の第一歩としてまずはアメリカに渡るのだが、知り合った柔道のインストラクターにいきなり騙されて所持金と航空チケットを盗まれてしまうのであった。もちろん、こんなことでおめおめ故郷に帰ることができるはずもないホリオン。工事現場の作業員などでエライ苦労して金を貯め、今度は新天地のハワイへ向かうのであったが、なんと飛行機の中に〝帰りのチケット〟と所持金を忘れてしまうというボケぶりを発揮するのだから、どうにもキュート。



2度に渡って無一文になった彼の
『ドラゴンボール』好きの桜庭の、人
ちの居場所を失ってしまうからにほ
エリオを取材した時の模様を伝えて
は命取りになりかねない。

２度に渡って無一文になった彼の落胆は激しく、一時は浮浪者同然の生活をするようになり、ついには海軍基地に茂るココナッツの木から実を頂戴したりとコソ泥まで働く落ちぶれぶりだ。しかし、ここで開き直ったホリオンの選択は乞食！　潔い男だろう。

　もっとも「乞食になるなら世界一の乞食になれ」という、猪木さんの祖父の言葉のごとく、稼ぎに稼いだホリオンはブラジルまでの旅費をこの稼業で捻出ししまったのだから、凄ェぜ、ハワイ一の乞食！

　さて、こんな過酷な日々すら生き抜いたホリオンに、もう怖いものはない。

　再度アメリカへに渡った彼の選んだ道は、華麗にも女のヒモであり、しかも、その女は無名ながらもハリウッド女優と言うからグレートだ。

　こんな男らしい生活を10年も続けながら、ベニー・ユキーデと対戦した時には、彼を10回以上も投げ飛ばしたりと柔術家としての魂をも決して失わないホリオン。さらには、映画『リーサル・ウェポン』に出演＆格闘技指導まで行い、柔術普及活動も手抜きなしだ。そして、この後はもうご存じの通り、『ＵＦＣ』を企画・成功させて世界中に名が知れ渡るというのだから、まさに実録『カラテ地獄変』。

　女優の股座をむさぼりつつ、金と名誉を掴み取るという、エゴ丸出しのすさまじい生きざまはまずないだろう。

　人間の性、悪なりである。

　『空バカ』世代というか、『地獄変』世代の僕としては、ホリオンあるいはホイスの貪欲さにたまらなく魅力を感じるのだ。

# グレイシーの性、悪なり!!

　『ドラゴンボール』好きの桜庭の、人の業みたいなドロドロしたものを敢えて背負わない闘い方も確かに面白いが、僕自身にとっては強欲さ剥き出しのグレイシー一族の方が気持ちが動くし、理解しやすい。

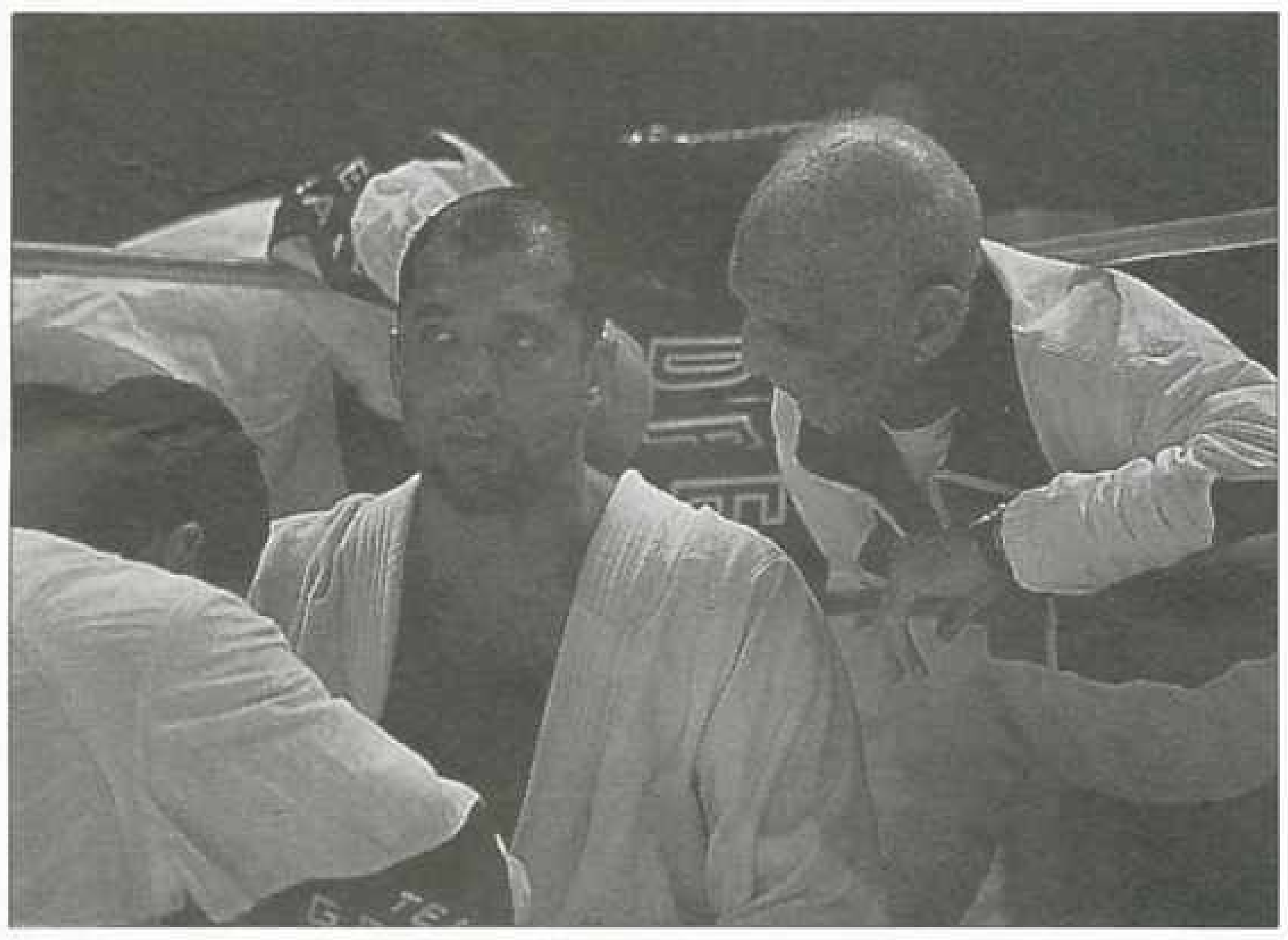
　もちろん桜庭もＵインターやキングダムの崩壊を経験してるわけだから、人生の襞がないわけがない。だが、そもそもプロレス自体はジャンルとして成立しており、桜庭はそこを足掛かりにすることができたのだ。その一方、グレイシー柔術は少なくともアメリカではたぶん誰も知らなかっただろう。



グレイシートレインで入場してくるだけで、怒りの感情が沸き上がるのだから、この一族はつくづく凄い！

　力道山にせよ、マス大山にせよ、ジャンルそのものを立ち上げなければならなかった男たちが〝敗北〟を嫌うのは、せっかく掴み取った自分たちの居場所を失ってしまうからにはほかならないし、だからこそ、どんな醜態を晒しても、掴んだ手を放そうとはしないのだろう。そのみっともなくもガムシャラな部分が最初は拒否反応を起こすが、次第にこちらの心を湿らせるのだ。

　桜庭のレベルの高いプロフェッショナルな闘いを楽しむように、グレイシー一族のレベルの高いみっともなさも十分に楽しめるはずである。実際、面白いし。



リアルな時代に４年も５年も幻想を抱かせ続けたグレイシー。これは第一幕の終演にすぎないはず

　そんな最中、桜庭戦の翌日、グレイシー陣営はなんときっちりと敗北を認める発言をしたのだから、その後に続くセリフは喜んで聞きたくなるのは当然のこと。

　では、ここからは『ＳＲＳ・ＤＸ』の御厚意により、ホイス、ホリオン、エリオを取材した時の模様を伝えていくこととしたいのである。

　まず最初に驚かされたのが、取材場所のホテルの部屋に入った瞬間だ。タオルを投げ入れるという、グレイシーにとっては屈辱的な敗北を喫した翌日だけに、ご機嫌ナナメかなって思っていたら、朗らかな笑い声。

　３人ともかなりの上機嫌だったのだ。

　「昨日の試合は自分でもアグレッシブだった」とホイスが語ればホリオン、エリオもすかさず頷いたりと満足気。それだけではない。柔術着を脱がしにかかった桜庭の戦法だけは怒ってるのかと思えば「彼があれをするのはわかっていた。予想通り！」と、即座にホイスは否定してくれて、こちらのイメージを決して崩さないでいてくれるから嬉しい限り。

　その一方、ホリオンはホリオンで、タオルを投げた理由をこう語ってくれて、お見事。

　〝サクラバの蹴りによってホイスは足をケガしてしまった。ということは、それ以上、続けても、いい試合はできないのだからタオルを投げるのは当然〟というわけだ。そして〝車がパンクしたら、それ以上走ることはできないだろう。無理に走らせても車体を痛めるだけだから、パンクを直して次のレースをした方が賢明な措置だ〟と素晴らしき解説を展開してくれる。

　確かに、車がパンクしたら砂漠では命取りになりかねない。

　だが、いくら素晴らしい解説であっても敗北は敗北であり、柔術普及にとっては手痛い事態であろうと思うのだが、やはり、そこはホリオンである。「この負けはグレイシー柔術にとって、非常に重要だ」と前置きしつつ、〝昨日の『ＰＲＩＤＥ』ではすべての選手が柔術の技を使っており、グレイシー柔術にとっては最高のデモンストレーションになった〟と自信溢れる物腰で語ってくれたのだ。

　嫌味でもなんでもなく、ボクは心の底から感動しました、ホント。

　詳しい内容については『ＳＲＳ・ＤＸ』第22号を見ていただきたいが、どんな時でもホイスはホイスであり、ホリオンはホリオンであるのだ。薄っぺらなキャラクター作りなんか軽く吹き飛ばす、生身のさらけ出しぶりとはこういうことを言うのだと断言したくなるってものだ。

　さて、最後に一つ。インタビュー中、エリオ爺さんは非常に疲れた様子で、ホリオンが長々と喋りだした時には居眠りし出して、まあ可愛い。50歳の時に18歳の女房を娶って６人の子供を生ませたハッスル爺さんですら、疲れ切ってしまった。その原因はなにかと考えたら、やはり家族会議か？　桜庭がかねてから主張する「グレイシーは絶対に試合のあとに家族会議してる」説を裏付けるかのような幻想の守りぶりなのだ。

　ホイスにしろ、ホリオンにしろ、エリオにしろ、こちらが勝手に思ってるイメージを、なぜだかきっちり守ってくれる。この幻想、幻想、幻想三昧ぶりには心から敬服する。

　彼らの、邪推が入る余地ありすぎる生きざまこそが世間を相手に闘ってきた格闘家の姿なのである。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

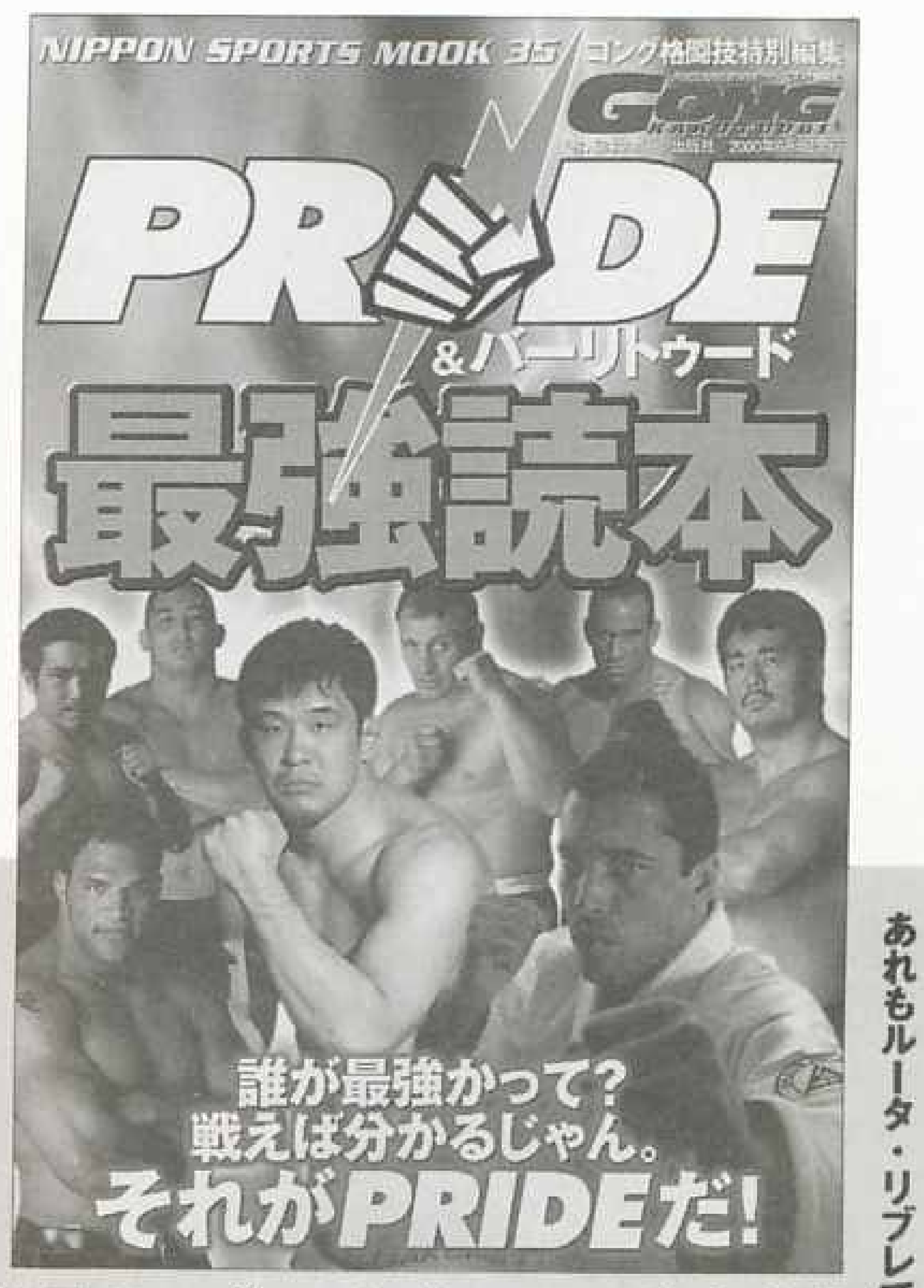
吉田文豪人生劇場

# 書評の星座

**PART2**

**相変わらずボクのアドレスに続々と送られてくる応援&タレコミメール。今回のヒットは「飯田橋のスポーツ事務で新間寿さんとトレーニングしてる会社員、31歳」からのもの。「『紙プロ』はけしからんっ！　編集長にヤキ入れた！」と吠える新間さんに「僕は素晴らしいところもあるとフォローしておきました。特に吉田氏は良いと」と言ってくれたそうですが、ヤキを入れられたのは編集長と間違えられたボクです。あの親子、まだわかってなかったのか……。というわけで、今後もそんな情報をひっそり受け付けている書評コーナー〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉。**

## PRIDE&バーリトゥード最強読本
（ゴング格闘技特別編集／日本スポーツ出版社）




近頃、『ゴング格闘技』の評判が一部で宜しいようである。確かに内容はともかく「頑張ってる感」がビンビン伝わってきて読者に「読みたい」と思わせる誌面になってきているのは事実だし、この別冊でもエンセン井上相手に**「西田（操一）さんとは友人関係にあったと聞いてますが」**と聞きにくいことでもズバリ追求している藁谷記者の仕事っぷりには目を見張ることも非常に多い。

しかも、それに加えて藁谷記者はブラジル在住ゆえかマスコミに登場したことのない柔道&実戦空手を学んだ日本人初のバーリトゥーダー・奥本芳徳という最高すぎる素材まで発掘してきているのだから、もう文句なし！　猪木や極真の磯部師範を見ればわかるように、ブラジルという国は日本人をいい意味でおかしくするということを、あらためて痛感させていただいた次第なのである。

なにしろ彼氏、殺し合いみたいなものでしかなかったバーリトゥードをグローブ着用にしてスポーツ化させ、**「グレイシーたちはそれを見ていまのスタイルをつくっていったんです」「僕らがあいつらのおじさんとかに（柔道を）教えてました」**というように現在のシーンのベースになる部分を作り上げた知られざる人物らしいのだが、そのためか他の発言もかなり飛ばしまくり。**「X（某有名プロレスラー）にも喧嘩売ってますよ。あいつがブラジル来たときに、『本当に強いなら俺と戦え』といって挑戦したんです。そしたら新聞社が飛びついて、『負けたら俺は腹を切る』といったんですが、結局奴は逃げとるんです」**などと豪語するのみならず、とんでもない新情報までブチ上げていくのであった。

まずは、柔術のライバル競技で古くはイワン・ゴメスに始まりマルコ・ファスやウゴなんかがやってるルタ・リーブリのことを、**「プロレスですね。昔、ボボ・ブラジルというのもいたでしょ。あれもルータ・リブレですよ」「ルータ・リブレは昔からあったんですよ。力道山も来てましたし」**と容赦なくキッパリ断言！　思わず「それってルチャ・リブレと混同してないか？」と誰もがツッコミたくなること確実だろうが、それでもなぜか藁谷記者は決してツッコみを入れることなく淡々と話を流していく。

挙げ句の果てには、この発言なのだ。

**「バリトゥードというのは、素手じゃなかったんですよ。刃物を持ったり、汚いことをしよったんです。（略）ホントのバリトゥードというのは懐にナイフを隠したり、いろんな物を持ったりするのが始まりだったわけです。（略）バリトゥードは筋書がなくて、いわゆる暗黒街でやるものです。（略）賞金を賭けたりします。飲み屋とか路地裏みたいなところでやったり」**

そう、どうやら本来のバーリ・トゥードとは上田馬之助やミスター・ポーゴやCZWがやってきたような武器片手の何でも許されるデスマッチみたいなものだったらしいのである！　凄え！

かくも衝撃的すぎる発言の数々を「（キッパリ）」などの『紙プロ』用語も駆使して見事に引きだしながらも、なぜか**「それじゃ。ただの喧嘩じゃないですか」「それは日本でいうと〝決闘〟という感覚ですか」「では、試合場もありませんね」**などと笑いもせずにやっぱり淡々かつ冷静にいちいち受け流していく藁谷記者。こうして相手の技を真正面から受けることなく適度にサバきながら核心を突いていくスタイルは、確かに格闘技的だと言えるだろう。

しかし、ここまでプロレス的な素材をお蔵出ししておきながら、ろくに相手の技も受けることなく取材しているのを見ると非常にもったいなさすぎて、思わずボクも「もっとしっかりバンプを取れ！」と叫びたくなってしまう次第なのだ。

相手の技を受けたら派手に倒れ込んで巨大な音を響かせるプロレスのように、インタビューだって受け身が重要。相手の技の威力をより効果的に観客へと伝えるためには、派手に笑ったり「ナイフですか！」「暗黒街ですか！」などと刺激的なフレーズをオウム返ししたりすることで分かりやすくしつつ、なおかつリズムを良くすることに務めるのがベストだとボクは確信しているのである。

まあ、日本初のバリトゥーダー・奥本芳徳の勇姿を確認するためにもこの本は必見だ！

## 熱血プロレス＝格闘技読本 オーバー・ザ・シュート弐
（監修〝Show〟大谷泰顕／メディアワークス）




扉ページと裏表紙にデカデカと書かれた**「心は死にますか？　愛が好きです」**というさだまさしイズム丸出しの不可解なフレーズだけでも〝世迷い人Show〟氏の世迷い言ぶりがウンザリするほど伝わってくる、相変わらずの狂った一冊。

**「心は死にますか？　そう聞いたところで誰も答えちゃくれない。ああ、絶対に本など開いて言葉のアラを探すより、果てしなく宇宙を見上げている方が賢くなれる……」**

そんな前書き部分にも、本のアラ探しどころか内容すらも一切紹介しないで自分の愚痴ばかりをさんざんこぼし続けて全読者に顰蹙を買っていた旧『紙プロ』連載の書評コーナー『世迷い人Showの　ああ、今夜も星がない……』を思い起こさずにはいられないのであった。

ちなみにこの『書評の星座』とは、もともとShow氏の書評があまりにも酷すぎるのでそれを反面教師として始まった、自分のプライベートは一切語らずに本の内容をキッチリ紹介するための連載だったりするものの、どうやら一部に誤解があるようなので念のため言っておく。

本書の読者コーナー『俺たちShow数派!?』に**「『紙プロ』の吉田クンは、自分より詳しくなくて文章も下手と判断した同業者を見下してボロクソに言う悪いクセがある。たとえ当たっていても、あれはプロのすべきことではない」**という投稿が掲載されていたのだが、とりあえず書評におけるボクのモットーは「レスラー名義の著書は基本的に批判せず、長所を探して褒めてさしあげる」という「良かった探し」が原点にある。

だからこそ、これまでにレスラー名義の著書ではプロレス道にもとるサンボ浅子本ぐらいしか批判なんてしなかったわけであり、そもそも余計な批判で敵を増やそうという気だって毛頭ない。

ただし、構成者のクレジットが入っているのならばボクも元編集者として同じ目線で技量を評論させていただくし、明らかにレスラーよりも裏方であるべき自分を殊更に売り出そうとしている不快な電波を感じる代物（辻アナ本など）に関しては、「俺が俺がじゃ駄目だっちゅうの！」と同じ原稿書きとして上田馬之助ばりにキッチリ糾弾させていただく。ただそれだけの話なのである。

Show氏の場合、殊更に自分を出しすぎるというのもそうだが、その自分というものに無自覚なまま不愉快なキャラを垂れ流しにしているのも非常に腹立たしくてしょうがないわけなのだ。

そもそも、こうしてわざわざ書名にするほどに「プロレス＝格闘技」だと断言しまくって、「なんでこんな当たり前のことを書かねばならないのか」と毎回のように一人で勝手に憤慨しているShow氏自身が、過去にどこの誰よりもプロレスと格闘技の間にハッキリとした一線を引いていたことをボクは絶対に忘れることはできない。

「バトラーツって、プロレスなんでしょ？」

「パンクラスは確かに面白くないかもしれないけど、真剣勝負だからしょうがないでしょ」

常日頃からそんなことばかり口にしていたのは誰なんだよ。そして、キャバクラでプロレス八百長論をブチ上げてばかりいたのが某団体の耳に入ってこっぴどく叱られたのは誰なんだよ！

山口日昇の影響で「プロレス＝格闘技」と言い出すのはいいが、それには過去を振り返ってしっかりと自己批判しなければ、借り物の発言に説得力が出てくるわけもないのである。

まあ、秋山準が**「馬場さんが点数で評価するならわかりますけど、馳さんくらいのレベルで僕らを点数で評価するなんて、まだまだだと思いますね。僕から言わせれば過信も過信、大過信ですよ」**と馳に噛み付いていたり、微妙にスイングしてないとはいえ中西学のインタビューもあったりと、Show氏の全方位外交による「幅」に関しては確かに評価にも値することだろう。

藤波の社長室に猪木の「道」ポエムと並んで相田みつをの「道」ポエムが額装されていることをスクープしたり、ゴング金沢編集長の独占インタビューを掲載したりしているのも、正直言ってボクには嬉しい限りではある。

**「あの人（長州）は『スカイパーフェクTV！』にも入ってるみたいで、結構（VT系の）その手の番組は好**

**きらしくて見てるみたいなんですよ。（略）選手たちが練習している中で、長州さんが中心になってそういう練習してますよ」**

ところが、そんなシビレるエピソードを語ってくれるGK金沢編集長に、なぜかShow氏は**「ついでに聞いておきたいんですけど、『紙プロ』についてはどう思ってますか？」**と脈絡もない質問をぶつけていきやがるわけなのだ。

**「あれはプロレスが大好きな人たちが作ってるんだなって思いますね。本当にプロレスが大好きなんだろうって、毎回思いますよ。（自分の似顔絵が出ることも）だから『どうぞ勝手に遊んで下さい』っていう感じですね」**

かくもカッコ良すぎるスタンスで『紙プロ』を語ってくれるGK金沢編集長に対して、**「ふ～ん。あ、それから、これは金沢さんに聞く話じゃないのかもしれないんですけど、この業界って誰ということではなくて、挨拶ができない人って多くないですか？」**と、これまた脈絡どころかもはや意味すらもないことを聞いていくのは一体何のつもりなのか。

山口日昇&谷川貞治編集長との座談会でも、**「ダブルクロスの『その他大勢』に比べれば、僕の方が全然必要だと思いますけどねえ」**だの**「あれ（吉田豪）も山口さんに比べたら、『その他大勢』以外の何者でもないけどね」**だのと、特に後者は現場で言ってもいないことを後からわざわざ付け足しているわけなのだが、文句があるなら直接言って来いって。

どうも「豪ちゃんは現場に来ないからダメ」だのとフリーライターという職業をまったく理解していない発言も過去に繰り返していたので言わせていただくが、ボクはダブルクロスの社員でもないし、わざわざ自分で言うのも馬鹿らしいがShow氏とは違ってプロレス専業のライターでもない。おそらく彼はボクをプロレス村の住人にさせたいのだろうが、面識のある人（門馬忠雄先生など）にはもちろん挨拶しても、こっちは村社会に入った憶えはないんだから知らない人にわざわざ挨拶なんてするわけがないのだ。でしょ？

ついでにShow氏がパンクラス道場でスクワット3000回を敢行したことに関してもちょっと言わせていただくと、あれはパンクラスの道場幻想が高まるわけでもない、無駄にプロレス幻想ばかり破壊するだけの行為であった。

「スクワットを3000回やらされたもんです。今、こんなことをやらせたら新人はすぐ逃げ出すでしょう。倒れると水をかけ、起き上がってまたやっては倒れ、流れ出た汗がたまった水たまりに顔をつける」

そんな馬場のスクワット発言のみならず、新日道場幻想すらも無にしてしまう誰も得しない自己満足の行為でしかないということに、せめて気が付いてほしいものなのである。

## 新世紀プロレスマガジン　凄玉

（福昌堂）




旧『紙プロ』というか『激本』というか『達人』というか、つまり近頃は商業的に苦戦を強いられているらしいコンパクトな判型の新雑誌が、あのフルコン増刊という意外な形で登場。

表紙や人選も悪くないので同じ判型の先達『達人』よりは好感が持てるものの、村松友視先生の造語から雑誌名を採り、ターザンの造語「プロ格」をテーマにして、そこに浅草キッドがネタを書いたり脚注を多用したりの旧『紙プロ』テイストも落とし込むという「借り物競争」っぽさが目に付くのはどうにも否定できないところだろう。

できたばかりの新雑誌ゆえ応援してさしあげたい気持ちは山々ながら、大道塾・東孝塾長インタビューの聞き手が**「大道塾出身で、プロレスラーになった人はいますか」**だのと質問し、**「黒木ってあの闘龍門JAPANのマグナムTOKYOの黒木ですか」「これ、書いてもいいんですか」**と派手に驚いてたりで、あまりにも調査不足な部分が気になってしょうがないのであった。

そんなのは本誌17号のインタビュー（聞き手・中村カタブツ君）でもたっぷり追求し、ついでに大道塾の機関誌でも大々的に紹介された有名なネタでしかないのだから、お話にならないのだ。

まあ、今回は編集長の青山英司氏からわざわざ送本していただき、「前田日明選手と採めた当時のフルコンタクトKARATE編集長・山田英司さんとはまったくの別人であることを、念のため申し添えておきます」という釈明や、「初期『紙のプロレス』の時代より、吉田様の文章に関しては、シニカルなところが非常に笑えて面白い、と個人的には思っておりましたので、もしできますれば吉田様御担当の『書評の星座』で当『凄玉』をご紹介いただき、鋭いツッコミのひとつでも入れていただければ光栄の至りでございます」というフォロー込みの丁寧な手紙まで一緒に添えていただいたので、個人的には非常に好感が持てる次第。今後も頑張っていただきたいというか。

できることなら前田日明が表紙を飾り、特集『ザ・ラリアート』といったプロレス技の実践講座（なんと合気道と比較したりする！）を当たり前のようにやっていた初期『フルコン』を大好物とするボクとしては、そういう発狂した自社のセンスも貪欲に取り込んでいただきたいと勝手に願うばかりなのである。

## 格闘ボーダレス

（ソフトガレージ）




本誌前号の読者プレゼント・コーナーに掲載された表紙の図版から桜井マッハ速人の名前が消えた（なぜかカラーグラビアには残っている）、聞き手のクレジットもない怪しげなインタビュー集。

修斗は消えたが、慧舟會とヘンゾ・グレイシーとPRIDEとリングスが残っているという人選に、ヘンゾと肩を組んだ記念写真が紙面でも使われている元リングス広報で現PRIDEブッカーであるK氏の影が見えるのはボクだけだろうか？

まあ、いい。おそらく短期間で作り上げているため一瞬で読むことのできる内容だったりもするんだが、新日道場幻想を**「それはグレイシーといっしょですよ」**と言い切る桜庭。その桜庭との再戦を**「今までの流れも含めて、極端に言ったらリップサービスでお互いの悪口を言ってどうなんだ、っていう状況でやってもいいですし」**と語る田村。**「対高田延彦に関しては、あれが僕の真剣な闘い方、真剣な仕事だったんです」**と語るアレク。**「みんなヒクソンのことを〝神様だ〟という。でも、神様に私が100回ヒザ蹴りを入れても効かないけど、ヒクソンは痛がるよ。彼は決して神様じゃない」**と語るエンセンなど、とりあえず資料的価値は十分にあり。

それにしてもPRIDEによるアイブル引き抜き問題で、ブッカー・K氏の命に別状が起こらないことを他人事として祈る次第なのである。

## ぼく。

（桜庭和志／東邦出版）

**「小難しい本なんて、ぼくには似合わない。試合も本も、やっぱりわかりやすくて楽しいほうがいいに決まっている。いろんな人に遊んでもらいたいから、シールをつけてみた。いろんな人に読んでもらいたいから、価格もできるだけ低く設定してもらった」**

そんなサクの希望通りに作られた、あっさり読める初版限定シール付の本書。元はと言えば山口日昇が構成を依頼されていたようだが、あの男に短期間で単行本を作ることなんて到底出来るわけもないので、今回は『週プロ』のファッションリーダー・藤本かずまさ記者が構成を担当している。

内容的には『紙プロ』読者には馴染みの、幼稚園の帰り道に表情も変えずにウンコをしながら歩いて友達にバレなかったというエピソードに始まり、それを**「ぼくは試合でフェイントをよく使う。人をダマす快感、人にウソをつく重要性を、このときのうんこで学習したのだ」**だの**「早めにギブアップしてしまえば、もうあとはスッキリ。この辺の潔さは、ぜひともホイラー・グレイシーにも学んでいただきたい」**と語ったりで、とにかくウンコ話とホイラー批判がしつこいぐらいにたっぷり詰めこまれているのであった。

その後もウンコ愛好家ぶりのみならず、**「うんこだけではない。寝小便も日常茶飯事だった。ぼくの寝小便歴はかなり長い。小学校の4年生ぐらいまでは、ほとんど毎日ふとんのなかでおしっこをしていた」**だの**「小学校の昼休みには、よくトイレでおしっこを飛ばして遊んでいた」**だのと、なぜかついでに小便への熱い思いまでもアピール開始！　Uインター時代、熟睡しているスタッフの布団に酔っ払って小便をかけ、やがて退社に追い込んだ（一部誇張あり）のも、ある意味では必然だったというわけなのである。

サクがなぜ『週プロ』で金村キンタロー&邪道と対談したのか、これでようやくボクにもわかった。要するに、ウンコや小便などのドリフ系ギャグに欠かせないアイテムを愛する精神が共通していたのに違いない。きっとそうだ！

高卒後すぐにプロレス入りするのを断念したときのことも、**「行動するのも早いが、ぼくは諦めるのも早い。この辺の潔さはぜひホイラーにも……。ま、その話はいいや」**と自分で落としていくのにもドリフばりの笑わせる技術（笑技）を感じるんだが、それよりもっと衝撃的なのは以下のカミングアウトだったのである。




**「ぼくは他人のウチに忍び込んでしょっちゅうお金を盗んでいた」**

**「（大学の寮では）寝る前には必ず〝ひと仕事〟やらなければならない。コレは思春期の男性には絶対に欠かすことができない、重要な任務だ。寮での集団生活において、コレをいかにして遂行するか。コレはコレで、大きな問題だった。ぼくは要領よく、みんなが寝静まってからコッソリと……」**

……正直、ボクはこれまで数限りないほどレスラーの著書を読んできたが、カツアゲや万引きなどを告白して自分のワルっぷりをアピールしたり、もしくは自分のモテっぷりをアピールする選手はいくらでもいたものの、「他人の家から金を盗む」だの「要領よくオナニーした」だのと告白してみせたのは、おそらくサクが初めてだろう。

ファンに「目が笑ってないので笑顔が怖い」などと言われがちなサクではあるが、確かにあらためて彼の人生を追ってみると大学の教師にブチ切れて電話で怒りをぶつけただの金を盗んだだのと、本当に怖いのはこういうタイプだと確信できるエピソードが確かに多いのであった。

なにしろ、あのヤマケンについても**「あんなにやかましい先輩がいたら最悪だ。アイツと長時間一緒にいるのはツラかった。だって話が長いんだもん。なんだかよくわかんない話を、ひとりで熱くなって語るのだ。ぼくは山本が口を開くたびに『わかった、わかった』といってはスッとどこかにいなくなっていた」**とキッパリ断言。

Uインター勢（とくに田村）が誰もが頭を悩ませた新日との対抗戦についても、話を持ちかけられた瞬間に**「テレビに出てた人と闘えるう！　はい、やりますやります。うれしくなったぼくは、思わず高田さんにこんなことを聞いてしまった。『長州さんとも試合できるんですか？』」**というほど場の空気も読まずにはしゃぎまくっていたというのだから、もう本物だろう。

さらに、U-JAPANでのキモ戦を前にして「全プロレスラーの代表として闘う」「レスリングでも負けないし喧嘩でも負けない」「あいつの知らねえショービジネスってものを教えてやる」と吠えていたバンバン・ビガロとスパーリングした際、**「ビガロに腕十字決めちゃって……。ビガロ、落ち込んでました（苦笑）」**と、大事な試合の前に余計な心の傷を与えていたことまで、ついでに発覚。

そんな小川直也が長州力のことを「外見は谷啓を長髪にしてゴツくした感じ」「動きはカブトムシのメスに酷似」などと『東スポ』で表現していたことにも匹敵する、サクのドリフ直系なギャグセンスと類稀なタチの悪さは、**「笑福亭仁鶴に似たホリオン」**という的確すぎる表現にすべて集約されているのであった。

# 紙のプロレス RADICAL Back Number Information

## No.26



★「プロレス」を頼むゾーッ!! やっちゃってくれサク!!

**桜庭和志**炎のロングインタビュー
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!**前田日明&田村潔司**
人間UFO、4・7ゴールデンタイムで破壊王を壊滅!!**小川直也**
プロレススーパースター外伝**ミスター高橋**/本誌独占!**斎藤彰俊**
遂に復活!**クラッシュ2000**/**大仁田厚**/**エンセン井上**
**TAKAみちのく**/**山本宜久**/**村浜武洋**
「4・7ドーム」&「格闘ドリームキャスト」座談会
女子総合格闘技**ReMiX**の全貌!



時は来た!

なるか?
橋本紙プロ入り(つーか再登場)
破壊王、頼んだゾーッ!!

## No.5

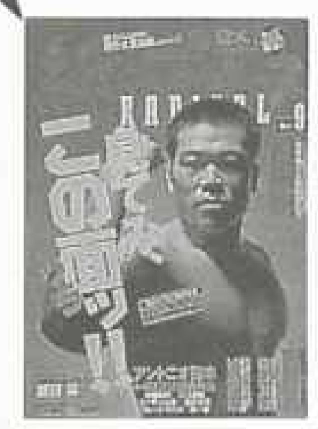
★すべてはここから始まった!



**高田延彦**ロングインタビュー
**猪木、Puffy**ほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
**ドン荒川vs藤原喜明**超過激対談!
**前田日明**の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす!
**佐山聡(タイガーキング)**
**長井満也**/**柳澤龍志**/**ディック東郷**
**愚乱・浪花**/**ザ・グレート・サスケ**
**長与千種**/**ライオネス飛鳥**/**ビクター・クルーガー**
**パンクラス旧合宿所誌上大公開!**

## No.9

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」



**前田日明**/**ザ・グレート・サスケ**
**高田文夫**/**春一番**/**ターザン山本**/**石川雄規**
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみぃ、この面ッ!!
**高阪剛**ロングインタビュー
**前田日明**ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB**吉村道明&ユセフトルコ**
**&遠藤幸吉&駿河海**
「格闘家からみたプロレス!」
**朝日昇★谷津嘉章**/**佐野なおき**
**下田美馬&三田英津子**

## No.10

★特集「灼熱の地殻変動'98」



大和魂は連鎖する!!
**前田日明vsエンセン井上**スクープ対談!
とにかく元気!**高田延彦**ロングインタビュー
またもや大爆発!
**谷津嘉章**インタビュー第2弾!
社長&会長対談・**ザ・グレート・サスケVS**
**松永高司**
「紙のプレイボーイ」発進!!**ダイアナ&宮内美穂**
**ターザン山本**のプロレスマスコミ表紙批評!!
「紙プロスーパースター列伝」
**北沢幹之★冬木弘道(金村ゆきひろ&伊藤豪)**
ロングインタビュー

## No.11

★特集「格闘Viagra'98」



**高田延彦vsエンセン井上**
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
**前田日明**ラストマッチ後初インタビュー
**ターザン山本**のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
**佐山聡**/**スーパー宇宙パワー(木村浩一郎)**
**福田雅一**
**★ザ・グレート・カブキ**/**ダンプ松本**
★バト両国進出記念**石川雄規**
**トンパチ・マシンガンズ**
★とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」**アポロ菅原**

## No.12

★特集「格闘TEPODON!!'98」



2度目のヒクソン戦直前!
**高田延彦**ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」**浅草キッド**
人気大炸裂!『S多重アリバイ』
第2弾**アポロ菅原**
**★桜庭和志**/**アレクサンダー大塚**
**山本喧一**/**神取&北尾**/**八木淳子**
**ダンプ松本**/猪木イズム世界一決定戦
**石川雄規&ザ・グレート・サスケ**
格闘王から相談王へ**前田日明**「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家?
**菊田早苗&郷野聡寛**

## No.13

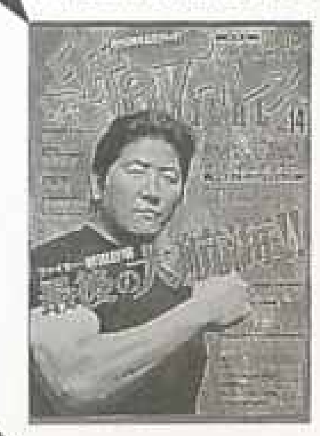
★特集「四角いジャングルRADICAL」



実写版『1・2の三四郎』降臨!
**アレクサンダー大塚**インタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
**高田延彦**がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
**前田日明・エンセン井上**が語る
「高田VSヒクソン戦!!」
**谷津嘉章・島田裕二・浅草キッド**が見た
『10・11 PRIDE.4』
大反響!『S多重アリバイ』第3弾
**ケンドー・ナガサキ**
**★ボブ・バックランド**/**松永光弘**
**リッキー・フジ**/**堀辺正史**

## No.14

★特集「格闘DREAM CAST」



**前田日明**独占ロングインタビュー
これが**カレリン**の発した言葉だ!!
**山本美憂・聖子vs父**・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中!**金原弘光**
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
**谷津嘉章**のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場1999!』**高田延彦**/**桜庭和志**
**佐野友飛**/**松井大二郎**/**豊永稔**
『S多重トンパチ』第4弾 **折原昌夫**
★『虎の尾を踏む男たち '99』**小路晃**
**4代目タイガーマスク**/**村上一成**/**宇野薫**

## No.15

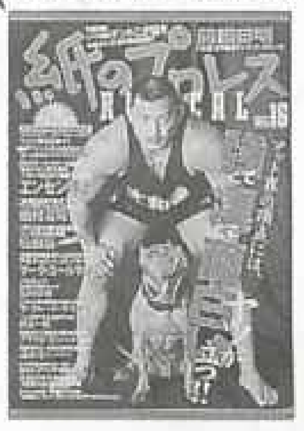
★特集1「格闘MARS ATTACKS!」



橋本戦の核心を語る
**小川直也with.S.S**インタビュー
**佐山聡**/**4代目タイガーマスク**
UFO襲来緊急座談会
★特集2「**格闘LAST VOYAGE**」
**前田日明**USA特訓を直撃!
**アレキサンダー・カレリン**
**浅草キッド**/**アニマル浜口親子**
**★ジャイアント馬場**追悼特集
本誌初登場!**SASUKE**
『語ろう**マサ・サイトー!**』
『S多重アリバイ』2連発!
**佐野友飛**&**Mr.W**

## No.16

★特集1「格闘ノストラダムス'99」



**エンセン井上**ロングインタビュー
**田村潔司**/**坂田亘**/**高阪剛**/**山本喧一**
**村上一成**/**マーク・コールマン**
**石川雄規**/**ザ・グレート・サスケ**
★特集2「**それぞれの旅立ち '99**」
**アントニオ猪木**ロングインタビュー
**前田日明**引退後初の独占インタビュー
大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
『語ろう**ジャンボ鶴田**』
『S多重アリバイ』第7弾**石川孝志**

## No.17

★特集1「格闘MAKE JUNGLE」



UFO襲撃三昧**小川直也**インタビュー
**桜庭和志**/**高田延彦**/**アントニオ猪木**
**豊永稔**/**マグナムTOKYO**/**池田大輔**
**宮戸優光**
★特集2
「**新生リングスBone&Blood**」
**前田日明**/**山本宜久**/**成瀬昌由**
**R・クートゥアー**
**★タイガー・戸口**/**矢口壹琅**/『**怪物通信**』
「**ターザン山本さん、目を覚ましてください!!**」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

## No.18

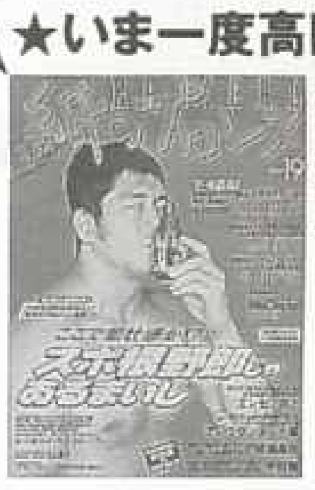
★特集「格闘STAR WARS」



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
**桜庭和志**VIVAVIVAロングインタビュー
**小川直也**e-mailインタビュー/**高田延彦**
**エンセン井上**/**イーゲン井上**/**小路晃&宇野薫**
格闘STAR WARS座談会
★『S多重アリバイ』第8弾**将軍KYワカマツ**
「外人さん、いらっしゃ~い」
**F・シャムロック**/**G・グッドリッジ**
**R・グレイシー**
「怪物通信」**G・アイブル**
「**闘魂猪木塾とは何か?**」

## No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ!



マーク・ケアー戦直前**高田延彦**インタビュー
リングス、パンクラスにも咆吼三昧!!**小川直也**
マット界の今後を**前田日明CEO**が激白!
『紙プロスーパースター列伝』**ドン荒川**
**佐山聡**/**エンセン井上**/**成瀬昌由**
**TARU**with AYAKA/**宇野薫**
**アレクサンダー大塚**
『怪物通信』4連発!
**M・ケアー**&**G・グッドリッジ**&
**E・F・ブラガ**&**G・メッツアー**
**上田馬之助**/**井上貴子**/**川口健次**

## No.20

★人間UFO吠えまくる!小川直也インタビュー



独占!! 公開インタビュー**前田日明**
**アレクサンダー大塚**
**高田延彦**爆炎記者会見/**佐山聡とは何か?**
『**語ろう藤波辰爾**』/**バス・ルッテン**
『S多重アリバイ』第10弾**ドン荒川**
**滑川康仁**/**カール・マレンコ**/**高阪剛**
**山本宜久**/**成瀬昌由**/**小路晃&宇野薫**
**ケビン・ヤマザキ**/**内藤恒仁**
**ティト・オーティズ**
**敗者『紙プロ』追放試合!**
ジャイ子vsトイレの大西さん(仮)

## No.21

★恐怖のプロレス大魔王降臨!



**小川直也**ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ!
**大仁田厚**/**前田日明**総帥激白!
本誌独占! 発見**八木淳子**
『S多重アリバイ』第11弾**鶴見五郎**
**G・アイブル**/**R・フィエート**
本誌先取り**B・コーラー**
**桜庭和志**IN青空プロレス道場
**エンセン井上**/**山本喧一**/**高瀬大樹**
**アレクサンダー大塚**/**モハメド・ヨネ**
**CIMA**/**田中健一**/**平直行**
**コーラ・パワーズ**/本誌独占**G・サスケ死す!**

## No.22

★サク、グレイシーに完勝この上なし!



**桜庭和志**ロングインタビュー
**前田テロ事件サプライズ座談会**
ヤマケン?…俺は逃げる!**田村潔司**
俺は逃がさない!**山本喧一**
スモーノブ初土俵!**大刀光**
好評につき第2弾!**田中健一**/**馳浩**/**小川直也**
**ゴールドバーグ**/**坂田亘**/**木村浩一郎**/**長井満也**
**池田大輔**/**B・コーラー&A・ウォリアー**
**佐藤耕平**/**渡辺千景**
**ヒクソン&ホイラー**兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

## No.23

★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!



ホイス戦直前!**高田延彦**インタビュー
超異次元対談**大仁田厚VSエンセン井上**
つっぱれ**大刀光**
スモーノブがっぷり四つインタビュー**佐々木嘉則**
**ヒクソン・グレイシー**/**W・ウィリアムス**
**ジャイアント馬場**1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念**ザ・グレート・サスケ**
**★「リングス『KOK』大特集!」**
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー**前田日明**
**ヘンゾ・グレイシー**他
刺青女**多和田初美**/**木口宣昭**

## No.24

★頭打ちすぎたかアレク!!



**アレクサンダー大塚**
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
『**新プロレス**』**とは何か?緊急座談会**
5・1ホイス狩りに王手!**桜庭和志**
グレイシー討伐を公約!**田村潔司**
VTの見方全て私が教えます!**堀辺正史**
『柔道多重アリバイ』**守山竜介**
KOK大予想大会!/**中西百重**
語ろう**船木VSヒクソン**座談会
『紙のプロレスAMERICAN』
ブチ抜き17ページ**WWF**大特集
**ザ・グレート・サスケ×矢追純一**UFO対談

## No.25

★「新プロレス」へ突き進めーッ!格闘ロマン、続行ーッ!!



猪木イズムを携えた『思考する野獣』誕生ーッ!!
**藤田和之**ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念!**田村潔司**
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!**前田日明**
**椎名基樹**のいい日アブダビ紀行文!
「UWF」が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突 **小川直也**
UFOの特攻隊長、爆進!!**村上一成**
**石川雄規&小路晃**対談
**ミスター高橋**の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秩父合宿リポート

## 【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります(バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154 (株) ダブルクロスまで。代金はNO.5~NO.10=680円 NO.11~NO.19=780円 NO.20=880円 NO.21=840円 NO.22~NO.23=880円 NO.24~NO.26=840円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊~4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・パティスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンピカロ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店)

※『紙のプロレスRADICAL』創刊号から NO.4、NO.6~NO.8は完売しました。 どもども。

その名も 紙のプロレス

本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み！

**本日の講義**

○ホイスがイエス・サクラバに喫した四つの敗北

○ホイス敗戦によって引きだされるヒクソンの本性



サク、歴史的勝利!!

# 黒船轟沈！

ヒクソンはグレイシー柔術のために死ねるか？




どうなる!? 船木vsヒクソン

青春の大発見シリーズ第3弾!!

日本武道傳骨法創始師範

# 堀辺正史の活字バーリ・トゥード講座

ド素人たちに大好評（前回のターザン参加は大不評）の活字バーリ・トゥード講座。3回目の今回は、ホイスがサクの軍門に下り、崖っぷちに追いつめられた「グレイシー」をメッタ切り！　ホイスが喫した4つの敗北と、船木戦を直前に控えたヒクソンの本性を解き明かした。それでは命懸けの講義、始め！　ドン！（太鼓の音）

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成&撮影／堀江ガンツ
text & photographs by Gunts Horie

――先生、桜庭vsホイスはよかったですね!

堀辺　面白かったですよ。最高ですよ! スポーツ新聞の一面ではこういう構図（サクがホイスに『ハリケーンボルト』を打ち下ろす写真）が多かったですよね。桜庭が天から降ってきたという感じでね。まさに「イエス・サクラバ降臨」ですよね（笑）。

――先生の説が具現化してますね（笑）。先生、それにしてもグレイシーの敗北というのはでかいですよね。

堀辺　これはでかいです! これを抜きにしては語れないんじゃないですか。

――「桜庭の勝利」というのもでかいんですけど、まずは「グレイシーの敗北」について聞きたいんですよ。

堀辺　そうですね、結果は「桜庭のTKO勝ち」ということになったんですけど、このTKOにはグレイシーの隠された四つの敗北があるんです!

――四つですか! 今日は多いですね（笑）。

堀辺　だから桜庭は1試合で4回も勝ちゃったんです（笑）。逆に言うとTKOの中にグレイシーの四つの敗北があるというのが、この試合を見た私の感想です。

――うわぁ～、それは興味深いですね。では「クイズその1」なんですけど、僕はその四つのうちのひとつ目は入場だと思うんですけどいかがですか?

堀辺　それを入れたら五つになっちゃうな（笑）。

――では、ハズレと言うことですね（笑）。

堀辺　その話を先に言うと、まずは心理作戦で勝ちましたよね。できたらマスクマンが三人じゃなくて、五人とか、あるいはグレイシートレインと同じくらいの数が来てくれたらもっと凄かったんじゃないかなと思います。ただ高田道場としてもマスク代とか予算もあるでしょうからね（笑）。

――ダハハハハ! 高田道場からは例の現金書留は送られて来てないんですか?（笑）。

堀辺　送られて来なかったんです（笑）。でもね、入場で一発かましましたよね、だからこれは兵法を使って勝ってるわけですよ。

――あんなことはグレイシーは予想だにしないことでしょうからね（笑）。

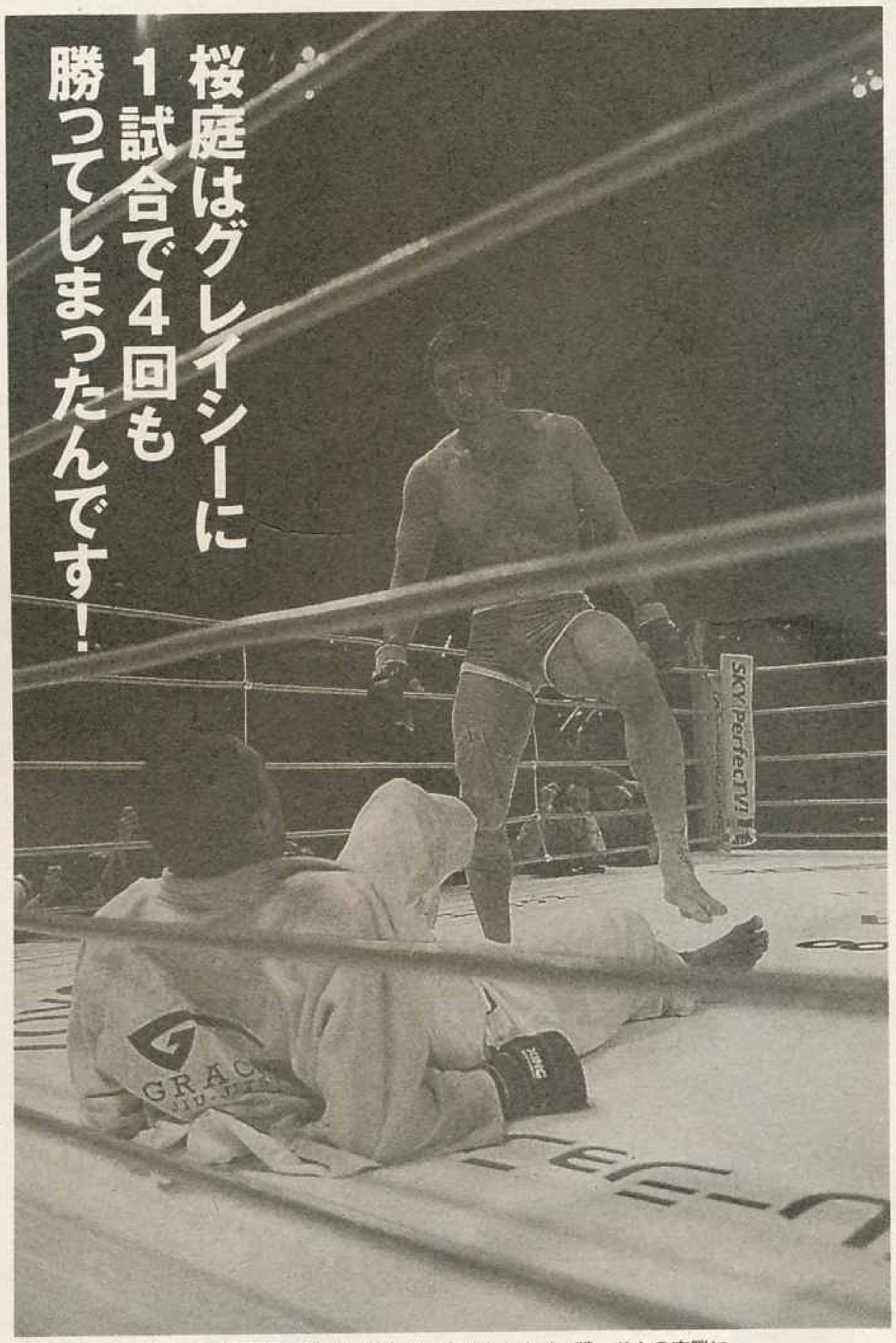
堀辺　そうです。ホイスも桜庭の入場を見ないようにはしていたけど、実際には見てるんですよね（笑）。あの辺から勝負はついていたような気がするんです。だから入場を入れたら五つになっちゃうんですけど、それを抜かして、実際の勝負の中で起きたことと言うと四つあるんです。

――まず第一になんですか?

堀辺　前回の講義でもお話したように、ホイスの戦法っていうのは「G戦法」（P61の表参照）ですよね。倒して引き込んでガードポジションから極めるという、「G戦法」のサブ戦法ですね。あの試合はまず、ホイスが一番得意としているこの戦法が全く封じられてしまったということなんです。

――桜庭選手が引き込まれたときに突き放したりとか、落としたりとかしてましたよね。

堀辺　そうです、それが多かったんです。特に象徴的だったのは何ラウンドかは忘れましたけど、ホイスが引き込みにいった時に桜庭が四股立ちみたいな形になって耐えて見せましたシーンです。あのシーンはホイスが最も得意とする「倒」「極」の「倒」が封じられた象徴的なシーンだったと思います。もうひとつは今度は「極」の部分ですけども、確か5ラウンドだったと思うんですけど、ガードポジションはホイスが一番得意なポジションですよね。でも、桜庭はガードをとられながらもお尻を持ち上げて、上から打撃を浴びせていきましたね。



文字どおり「世紀の一戦」だったサクvsホイス戦。サクの完勝によって、バーリ・トゥード旧約時代に遂にピリオドが打たれた。

――「まんぐり返し」ですね（笑）。

堀辺　これはガードポジションから「極」が破られた象徴的なシーンなんですよね。だからホイスは自分が最も得意とする「引き込みによる倒し」と、「ガードポジションから極め」というふたつのものが完全に桜庭によって封じられたんです。これを言葉を換えて言うと、ホイスが33年間の人生で築き上げてきた彼の持ち味、彼の得意としてるものが全部封じられたということなんですね。これはグレイシーが負けただけじゃなくてホイスが持っている技術そのものが桜庭に通用しなかったということなんです。

――それがひとつ目の敗北ですね。

堀辺　もうひとつは彼は自分の得意とする「G戦法」サブ戦術を使ったけども、それがうまくいかないということが試合中にわかってきたので、今度は彼の中にお兄さんが出てきたわけです。

――お兄さんというのはホリオンですか?

堀辺　いや、ヒクソンです。そのヒクソンの得意とする戦法を使いだしたんです。ホイスが立ち上がって打撃をしながら何度も突っ込むシーンがありましたよね。あれは何を狙っていたのかというと、もう『紙プロ』読者ならわかってるけど、「倒」「打」「極」を狙っていたんです。タックルに行って自分が上になって極めたいという、

その名も

**本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!**

グレイシー柔術の最高の戦法である「G戦法」のメイン戦術を持ちだしたんです！　ところが倒しに行くと桜庭の打撃に全部封じられたんです。特にローキックでだんだん踏み込めなくなってきましたよね。ですから自分の得意とする戦術が封じられて、そしてヒクソンの得意としているグレイシー最高の戦術も試みたんですけど、それも封じ込められてしまったんです。つまりグレイシーの得意とする「G戦法」のメインとサブの二大戦法が通用しなかった。つまり「グレイシー柔術」が通用しなかったということなんです！

——至極簡単にいうとグレイシー柔術が完封されてしまったわけですね。

堀辺　そう、グレイシー柔術が全く桜庭に通用しなかったということが、この「ＴＫＯ負け」という結果の中に含まれる第一の敗北です！　言葉を換えて言うと、グレイシー柔術の70年の戦術が完全否定されたということです！　70年ですよ！

——70年の歴史が封じられたわけですね。

堀辺　70年の「グレイシー柔術」が桜庭によって封じられたこと、これが第一弾ですよ。彼らは、特に親父さんのエリオ・グレイシーは「グレイシー柔術は完璧じゃ」と言ってきましたよね。

——「完璧じゃ」ですね（笑）。

堀辺　「柔術をやってればボクシングだとかキックとかの他の格闘技を学ぶ必要はない」と、ずっと言ってきたはずなのに、今回ホイスが海籠りして何を見せたかというと、キックボクシングを見せてるんですよね（笑）。

——カカト落としとかをやってましたね（笑）。

堀辺　試合でも随所にそれを出してきましたよね。つまり彼ら自身が打撃技を学んで、今回の試合の中で下手ながら使って見せた。これは自らバーリ・トゥード（以下ＶＴ）の中では柔術だけで戦い切れないということを試合前にすでに誇り高いエリオも含めて、グレイシー一族が認めてたということなんですよ！

## 桜庭によってグレイシー柔術70年の戦術が完全否定されたんですよォ!



まさに一族を挙げて戦場に向かうグレイシー・トレイン。ならばタオル投入は、「グレイシー一族」が白旗を挙げたことになるのだろう。

——自ら証明してしまったわけですね。

堀辺　しかもそれを認めてただけでなく、その学んだ打撃で桜庭に対抗しようとしたわけですね。だから今回の試合を見てるとホイスが「ホントに柔術家なの？」って感じを受けてしまうような闘い方をしたでしょう。

——確かにそうですね。

堀辺　今までのグレイシーの試合展開と違って立ち技が多いんですよ。打撃を主体にして、まるで桜庭とホイスが入れ替わったような展開になったんです。これはＶＴの中で柔術が不完全だということを、自ら今回の試合を通して証明してしまったんです！

——逆に言うとそれだけＶＴのレベルが上がってるということですね？

堀辺　そういうことです。これがＴＫＯに隠された二番目の敗北です。自分たちの技術的主張を自ら捨てたということです。

——いや～今日の話は緊張感が漂って、喉が乾きますね（笑）。

堀辺　では次に行きますよ。三つ目はどっちがプロ格闘家として優れていたかということがこの試合は問われたんです。

——それはボクも一番大きなテーマだと思いますね。

堀辺　例えば2ラウンドでせめぎ合いがありましたよね。あの中で桜庭は道衣を脱がしにかかったり、さらには下まで脱がしにかかりましたよね。それでホイスは「なにをやるんだ！」みたいな顔をしてましたよね。エリオの親父の顔も画面に映し出されたら、最初は笑ってましたけど、あれが繰り返されていくうちに笑いが消えました。つまりあの行為には重要なものが含まれていたと思うんですよ。それはあの緊張感の中で桜庭は観客を喜ばせようとしていたことなんですよ！　道衣を脱がして背中を半分むいちゃったり、あんなことをしてくれたらこれは……面白いです（笑）。あの緊張感の中でそういうことをやれるだけのゆとり！　そしてそれをやったらお客さんが喜ぶだろうということを当然理解している桜庭！　「金を払って来てくれた人に退屈させない」というプロ根性があの道衣を脱がすという行為の中に見られるんですよ。

——しかも道衣を吊り上げてパンチを打ち込むとか、有効に使ってますよね。

堀辺　そう、桜庭の魅せる技っていうのは決して実のない花じゃないんですよォ！　ここがポイントです！

——なるほど！

堀辺　プロとして何が優れていたかと言うと、魅せる技をやる人はプロレスラーの中に桜庭以外にもいくらでもいます！　でも桜庭は魅せてなおかつそれが相手に対して有効な技を使ってるんです。勝負論と観客論が見事に融合してるんです。ここが桜庭の方がホイスよりプロ格闘家として数段上まわっていたところです。ホイス達も自分達のことをプロ格闘家だと言ってるんですよね？

——言ってますね。

堀辺　でも彼らは勝つことだけで精一杯で、遊び心がないんです。だから桜庭は観客を意識してなおかつその観客を意識した技が、対戦相手にプレッシャーをかけていけるような実のある行為をしてるんです。この部分はプロとしてどんなに誉めても誉めすぎじゃないくらいの見事な融合を果たしている。

——本当にこれはものすごいことですよね。

堀辺　単なるＴＫＯ負けという結果だけでなく、プロとしての優劣の部分でも、ホイスは完全に負けてるんです！

——その道でお金を稼ぐということで言えば、桜庭がやったことは格闘家としてもプロレスラーとしても一番目指すべきところですよね。

堀辺　だからこれはプロレスとか格闘技とかを超えたような、ある何ものかを生み出してるんです。

——本質的なものですよね。

堀辺　そうです。この「遊び」と

いうのは、現代の日本人からすると無駄なことと考えるかもしれないけど、本来日本人が持っていた「遊び」というのは芸術として至高のものを言っていたんです。宮廷文化でも「遊ばせ言葉」というものがあって「なんとか遊ばせ」という言葉が使われてますよね。それは物事にゆとりがなかったら「遊ぶ」という行為は出てこないということなんです。だから「遊び」は人間として最高の人だけに許された特権だと昔の日本人は考えてたんです。日本文化の中には「遊ぶ」ということは非常に高級なものという考えがあったんです。我々現代人が理解している「労働は尊くて、遊びはダメ」というその「遊び」じゃなくて、その最高のものを「遊び」というんです！　桜庭にはあの厳しい真剣勝負の中にその「遊び」があるんですよ。そこがプロとしてホイスよりも数段上回っていたんです！

――江戸弁で言う「粋」ですよね。

**堀辺**　このTKOの敗北の中の第三番目としてはプロフェッショナルとしてもホイスは桜庭に負けたということなんです。では、いよいよ最後の四つ目なんですが、これが凄いんですよ（笑）。

## あのタオル投入によって、グレイシーの精神が死んだんです！

――ちょと待って下さい、また喉が乾いてきましたよ（笑）。

**堀辺**　グレイシーは試合前に「我々はゲームをしたいんじゃない。決闘をしたいんだ」と言ってね。当日のスクリーンにも「これは競技か決闘か！」って出てましたけど、彼らは決闘をやりにきたんでしょ？

――彼らの主張からするとそうですよね。

**堀辺**　だから「時間無制限とかレフリーストップを無しにしてくれ。これはゲームじゃないんだ、決闘なんだ！」と。しかもホイスは「僕はグレイシー柔術のためなら死ねる」と前から言ってきたんですよね。

――「愛と誠」という梶原一騎の有名な漫画にも出てきますけどね「僕は何とかのためなら死ねる」って（笑）。

**堀辺**　だからみんなこれはエライことになると思ってましたよね。もし桜庭が腕の一本折っても、チョークで失神させても、彼らは途中でタップすることなんかありはしないと思っていたわけですよ。そういう気持ちを持ちながらあの試合展開を1ラウンドから6ラウンドまで見ていったわけです。

――だから恐怖感はありましたよね。

**堀辺**　そうでしょ。6ラウンドが終わった時点でも「まだまだ勝負はついてないんだ」と。でも見事に期待は裏切られた。それは何故かと言うと、タオルを投入して試合放棄したからですよォ！　しかもホイスは自分で歩いていた。なんだかんだ言っても意識もしっかりしてるんですよ。失神KOじゃないんですよ。それにも関わらず試合を続行しなかったんです。これはハッキリ言って彼らが従来から主張してきた「これは決闘だ！」とか「レフリーストップは必要ない！」とか「俺達はタップなんかありえない！　腕を折られても闘うんだ！」というグレイシー最大の主張を自ら放棄したんですよ！　これが最大の敗北なんですよォォォ!!

――はっはぁ～、だからあのタオル投入はドラマチックだったんですね。

**堀辺**　そうです。もしホイスが負けたとしても、関節を極められて折られてもタップしない、タオル投入もない。こういう姿を見たら「敗れてなおグレイシー恐るべし」となるわけですよ。現実の試合は負けたけど、彼らの主張は放棄してなかったというものが敗北の中に残ったはずなんです。ところがピンピンとまでとは言わないけれども、ちゃんと椅子に座って目もしっかりしているのに試合を放棄してしまった。そのことによってグレイシー柔術が築き上げてきた信仰と哲学を自ら放棄したんです。自分たちの教義を自分たちで捨てたんです！　タップしないと言っていた人間が試合を放棄したんですから。これが最大の敗北なんです！　いいですか、あのタオル投入によってグレイシーの精神が死んだんです!!

――グレイシー信仰とグレイシー哲学、これを全部無くしてしまったということですね。

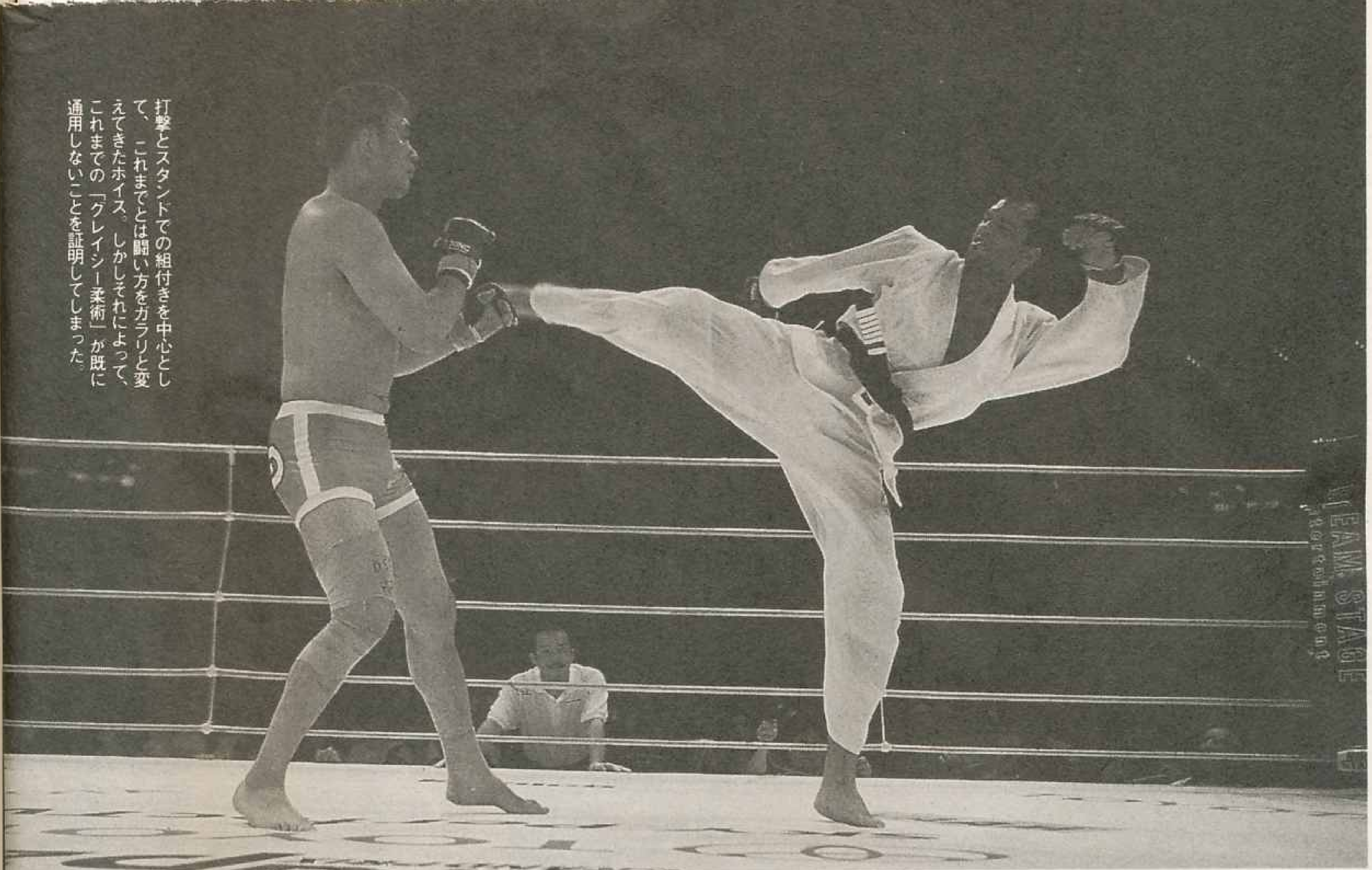
**堀辺**　その通りですよ！

――ということはグレイシーは取り返しのつかない敗北を喫しましたね。

**堀辺**　そう、ただ負けたんじゃないんです。そして桜庭はこの試合で四つの勝利を得たんです。

――70年の歴史に勝ったわけですからね。すごいなぁ～、サクは。

**堀辺**　そのことを知らなければいけないんです。ただの「タオル投入によるTKO勝ち」、「桜庭よく



打撃とスタンドでの組付きを中心として、これまでとは闘い方をガラリと変えてきたホイス。しかしそれによって、これまでの「グレイシー柔術」が既に通用しないことを証明してしまった。

その名も

本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!

やった」では、この試合の本当の意味は掴んでない!

――単なるスポーツの勝ちじゃないですからね。ましてや単なるプロレスの勝ちでも、単なる格闘技の勝ちでもないですからね。

**堀辺** グレイシー70年の威信を賭けた戦いでこれが起きたわけですから、凄いことですよ。

――僕が一番初めに入場シーンのことを言ったと思うんですけど、あのグレイシートレインというのはグレイシーの70年の歴史というか、グレイシーのDNAだと思うんです。遺伝子そのものを再現してると思うんです。高田延彦が出ていったとか、ある一介のプロレスラーがVTに出て行ったときにみんなひとりで出て行ってますよね。それはすれで素敵な事ではあるんですけど、「プロレスの遺伝子は一体どこにあるんだ?」ってなったときに、桜庭選手にあのマスクを持ち出されたんで驚きましたね。

**堀辺** そこに最後のグレイシーが自分たちの信仰を捨ててたということと対峙すると、桜庭はマスクを被って自分がプロレスラーであることを強烈にアピールして出てきたんです。四つの敗北と桜庭との立場を比較すると精神面においても勝っていたということなんです。グレイシーはグレイシーの立場に立つのは当たり前で桜庭はプロレスの立場に立つのは当たり前なんです。しかしホイスがグレイシーに徹しられなかったのに対して、桜庭はプロレスに徹しましたよね。そしてそれは入場シーンにおいてマスクを被ることもそうですけど、自意識においても勝っていたということです!

――スタンスにおいても勝っていたということですね。それで高田延彦は今まで負けてたんですね。格闘技の土壌に出て行くときにプロレスラーという一切臭いを出さなかったですから。

**堀辺** だから桜庭は、プロレスラーという形をそのまま出しながら勝てたというのも、珍しいんじゃないですか。

――では同じプロレスラーの藤田の試合はどうでしたか?

**堀辺** いや、驚きましたよ。『PRIDE』では小川ではなく藤田が猪木の継承者になっちゃったね。ケアーのあの膝蹴りをもらっても平然としていたのにはホントに驚きましたよ(笑)。

――ただ首を振っただけでしたよね(笑)。

**堀辺** 普通はあれで延びますよ。でも、彼は首が太いし、えらが張ってるからパンチをもらっても首が動かないんですよ。だからフックとかもらってもすごく効きにくい顔をしてるんですよ。ボクサーはこういうのを一番嫌うんですよ。藤田はパンチが効かない顔をしてるんです!

――パンチの効かない顔!(笑)。

**堀辺** だから彼が打撃を覚えていったら凄く強くなるね。藤田の肉体と精神も含めての頑丈さとプラスして、打撃をもらわない技術を持ったときに、藤田はヘビー級の中で最強になるなというものが見えましたね。桜庭とはまた違った意味でいい選手が出てきたなと、日本にもいい選手がいるなと。

――それにしても先生によって明かされた四つの敗北というのは、見てる方としてもたまらないものがありますよね。

**堀辺** この試合は会場で見たでしょ、それからビデオで見たでしょ、そしてもう一度見ても興奮しますよね。これは最近にはないことですよ。だいたい一回見たら、後はビデオで確認するぐらいなんですけどね。三回見てまだ興奮するというのは近来まれにないですよ。

――ひとつの試合の中には歴史とか哲学とかが全て詰まってないと興奮できないですよね。それも証明しましたよね。ただ単に誰と誰が闘ってどっちが強いかというのを見たいわけじゃないんですよね。

**堀辺** だから最後の決勝よりも、桜庭の試合の方が見ていて興奮するわけですよ。

――それが先生の言っている「新プロレス」だと思うんですよ。

**堀辺** それともうひとつ、今回の『PRIDE』全体を通して感じたことを言っておくと、前にも言ったとおりボブチャンチンの戦法である、「打」「倒」「打」の「K戦法」が完全に主流になってきましたよね。つまり先ほど三番目に言ったグレイシーが打撃学んでそれを使いだした。これひとつ取っても今後のVTはポジショニングと打撃を中心の試合展開になるとハッキリ私は言える!

――決勝戦なんかはまさにそうでしたよね。

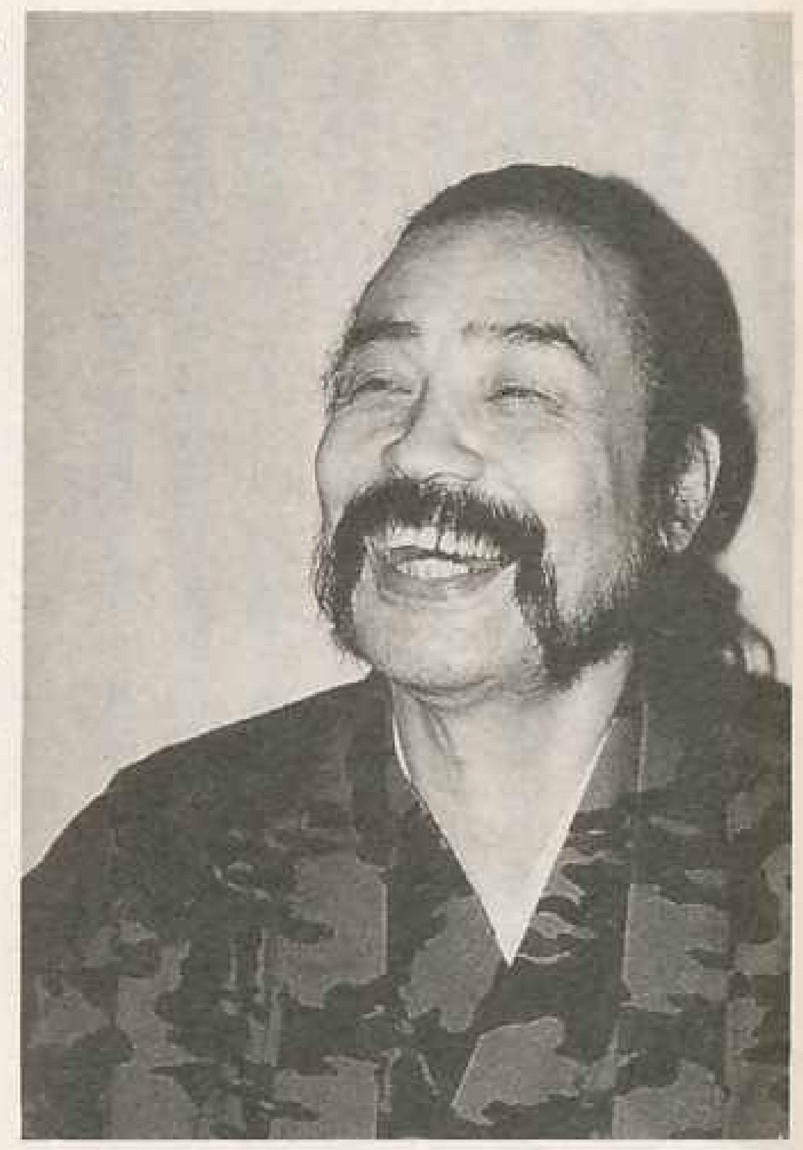
**堀辺** でも、ボブチャンチンの「打」「倒」「打」とコールマンの「打」「倒」「打」は同じ「打」「倒」「打」でも、ひとつだけ違いがあるんです。コールマンはまず打撃で脅威を与えておいて、打撃の後に自分からタックルで倒して上に乗って勝っちゃうんです。ボブチャンチンはどちらかというと打撃で相手を苦しめてタックルを誘っておいて上に乗って勝つんです。同じ「K戦法」でも、「倒」の違いの部分でボブチャンチンは負けたんです。

――単純な疑問なんですけど、これから「打」「倒」「打」の「K戦法」の時代に突入したときに桜庭とかはどうなるんですか?

**堀辺** 桜庭はそれに対応します。ホイラー戦と今回のホイスとの試合ですでにその兆候が出ています。

――確かに見事な「K戦法」に

## 今後のVTはポジショニングと打撃が中心になるとハッキリ言える!



サクの歴史的快挙を自分のことのように喜ぶ堀辺師範。93年にグレイシーが表舞台に立って以来、誰よりも打倒グレイシーに取り組んでいただけあって、それを成し遂げた桜庭の素晴らしさも人一倍わかるのだろう。

### ★もう一度復習してみよう! グレイシーとサクの戦術の違い★

| | K戦法 イエス・サクラバ ボブチャンチンのVT新戦術 | G戦法 グレイシーのVT必勝方程式 |
|---|---|---|
| ベスト・メインの戦術 | 例:イゴール・ボブチャンチン(vsアレク)<br>打 → 倒 → 打<br>●ノックアウト ●打撃で追い込みタックルを誘う → ●ガブってテイクダウン → ●倒れている相手をKO | 例:ヒクソン・グレイシー(vs髙田)<br>倒 → 打 → 極<br>●タックルによるテイクダウン → ●マウントパンチ → ●マウントからのサブミッション |
| ベター・サブの戦術 | 例:イエス・サクラバ(vsホイラー)<br>打 → 倒 → 極<br>●打撃で追い込みタックルを誘う → ●ガブってテイクダウン → ●サブミッション | 例:ホイス・グレイシー(vs髙田、vsスバーン)<br>倒 → 極<br>●引き込み → ●ガードポジションからのサブミッション |

なってますよね。

**堀辺**　ホイス陣営がマスコミからの「桜庭はどういう選手か?」っていう質問に「彼はストライカーだ」と言った。これは「え～」と言った人がいるけれども、ホイラー戦以降の桜庭は以前の状態の桜庭を知らない人が見たら「K戦法」の使い手なんですよ。だから彼らが桜庭をストライカーだと言ったのは間違いじゃないんです。そういう風に桜庭は新しいVTの時代に適応してるんです。

――行っちゃってるんですね。

**堀辺**　それとこれはもう一回絶対に見て欲しいんだけど、ボブチャンチンとやったときの試合で桜庭は猪木ーアリ状態で下になったんですよね。いつもの桜庭とは逆にボブチャンチンが立って蹴ったんです。その時の桜庭のかわし方を一回ビデオで見て下さい。でも、それがね、テレビにあまり映ってないんですよ。テレビ局は分かってないから!　あんな凄いものをカットしやがって!

――本当ですか!

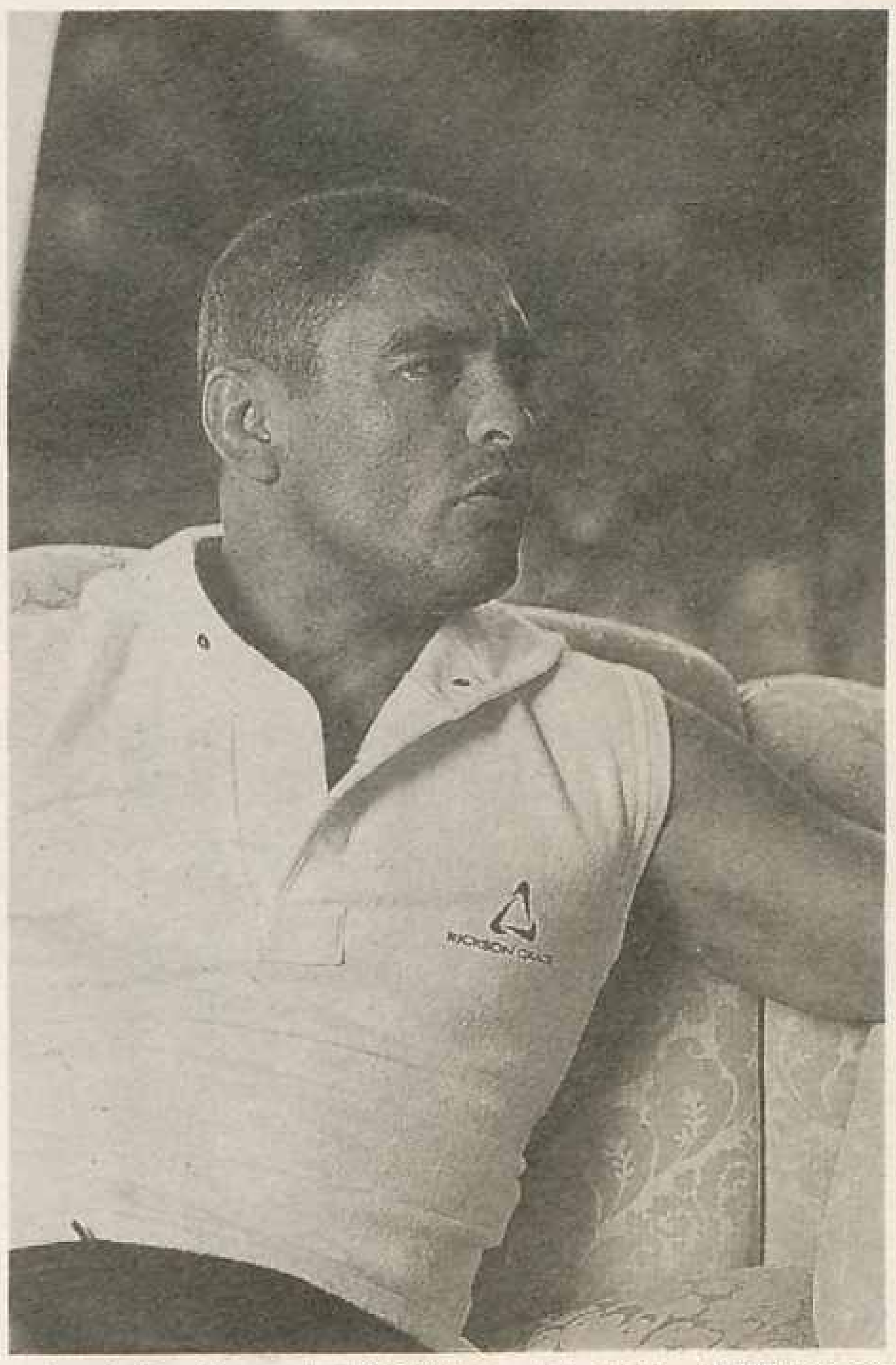
**堀辺**　蹴りを受けるんじゃなくて全部スカして空振りさせちゃうんです。その技術は素晴らしいですよ。誰も使ってない技術です。あれをもしホイスが使えたらかなり流れが変わります。

――なるほど、そうですね。

**堀辺**　わかりますか?　いいですか、桜庭は猪木ーアリ状態で上から攻めるだけが上手いってわけじゃないんです。もし自分が下になった時でも上から蹴らせない力を持ってる。

――全てに対応してるということですか?

# 追いつめられたヒクソンはエゲツない部分を出してくる!



いよいよグレイシー一族最後の砦となったヒクソン。年齢的なものもあり、ラストファイトの噂もある今回、グレイシーの隠された本当の恐ろしさをみせることができるか?

**堀辺**　つまり攻めることが上手い奴は防御をどうしたらいいのかが分かるんです。それがボブチャンチンとの試合の中で見事に出てるんです。あのシーンはもう一度拡大してファンに見せて上げなきゃいけないんです!

――見せましょう(笑)。

**堀辺**　いかに彼が柔術家よりも自分が倒れたときの戦い方が上手いかということです。ホイラーもホイスも出来なかったことをちゃんと試合の中でやったんです。誰もこれを見てないんです。これは見なきゃダメですよ!　これは『紙プロ』で伝えて下さい。

――それは気が付かなかったですね。帰ったらすぐにビデオを見なきゃいけないですね。ところで率直に言って、先生的にはグレイシーの敗北というのは、今後のマット界にとってどういう影響を与えると思いますか?

**堀辺**　マット界全体ということに関して言えば、グレイシーというひとつの追い越さなければならないものが崩れたことで、目標を見失うという点が生じた思います。

――そういう懸念はありますよね。でも、その前に「グレイシーは死んだのかどうか?」という問題があると思うんですよ。

**堀辺**　ホイスに関して言うと立ち上がろうとする努力は当然するだろうけど、ハッキリ言ってもう立ち上がれないと思います!

――それは四つの敗北があまりにも重すぎるからですか?

**堀辺**　それもありますが、あの歳になって、柔術という面目を捨てて勝つために新しい技術とか、あらゆることをやったとしても、これからのホイスには無理だと思います。精神構造はそうは簡単には切り替えられないものなので、何かを学んだとしても「俺はグレイシー一族の人間でここまでやってきたんだ」っていうプライドが新しいものをどこまで本当の意味で吸収できるか。彼にはつまみ食いはできないと思いますよ。

――その点サクは「ながら族」ですからね(笑)。いや～、グレイシーの敗北にはいろんなことが含まれてますね。

**局長(堀辺先生夫人)**　ホイスって肉体的にも欠陥がない?

――また局長は言うなぁ～、それはどういうことですか(笑)。

**局長**　足が出てきたらぶよぶよでしたよね。

――そういえば桜庭が道衣を脱がしたときに出てきたホイスの体っていうのは非常に軟弱ですよね。

**堀辺**　あれはエリオのおっさんはそれがいいと言ってきたんです。「ホイスは普通の人間じゃないか、それでも俺達は勝つことが出来る。だからグレイシー柔術は素晴らしい」って言ってきたんです。果たしてその考えそのものがが通用するのかどうか考えてほしいんですよ。いまやどんなスポーツの分野だってひとつの成績を残そうとしたら、その競技に合った体作りをするということは当たり前のことなんです。その肉体改造を無視して技術をあまりにも尊重しすぎていると思いますよ。

――つまりグレイシーというのは技術過信なんですか?

**堀辺**　そうです。それが日本武道の欠点というのは技術をあまりにも重んじすぎることなんです。弱者が強くなれるのが技だっていうことを強調し過ぎるために体を鍛えない。これは武道という伝統の欠陥なんです。小さな者でも体が弱い者でも屈強な男に勝てるのが武道の技だいう理想を尊重しすぎるんです。

――柔よく剛を制すですね。

**堀辺**　そのために体を鍛えるということをどこかで軽視してしまうんです。日本の柔道の歴史を見てもそうでしたよね。ベンチプレスをやったりダンベルを使ったりするのは柔道界でも長いあいだ邪道視してきたんです。「そういうものをやらなくても勝てるのが柔道なんだ」と。

――それで近代スポーツ化した柔道ではへーシンクに負けたわけですね。

**堀辺**　グレイシーは純粋培養の形で70年前の日本の武道を守ってきたから、未だにそれが抜けないんです。体を鍛える暇があったら柔術をやれと。

――つまり技術信仰というのは日本人の労働信仰と全く一緒で、真面目でなければならないという部分ですよね。それを桜庭はうち砕いたというか、「本当の意味で真面目でいようとするならば遊びもやらなきゃダメだよ」という桜庭の言葉が試合中に聞こえてくるような感じがしましたけどね。

**堀辺**　あの凄い勝負の中で、最高のテンションが要求される中で遊

その名も

紙のプロレス

**本誌『紙のプロレスRADICAL』がデジタル界に殴り込み!**

べるというのは、それこそ昔の言葉を使えば、桜庭は達人の域に達しつつあるということですよね。

——達人ですか！ それは具体的にはどういった点ですか?

**堀辺** 桜庭には「型」がなくなって、どんな状況にも対応できるようになったんですよ。つまり桜庭の試合というのは相手が変わると、その都度変わるんですよ。今回もホイスは桜庭vsホイラー戦をよく研究してきたんですよ。だから猪木ーアリ状態になったら桜庭が蹴ってくるので、すぐに立ってしまったんです。でもね、そのことによって余計にグレイシー柔術が出来なくなったんですよ。

——ドロ沼状態ですね。

**堀辺** それとよく「桜庭がバックを取られた」と言ってる人がいるんですよね。でもあれは違うんですよ、わざと取らせてるんですよ！ 今回の桜庭は最初は自分から攻めないで相手に攻めさせて、それをしのげるだけの自信があるんで、ホイスがどういう闘い方でくるのかを見てたんです。だからウチの弟子も「1ラウンドは負けてましたね」って言うから、「馬鹿、お前は何を見てるんだ」って言ったんです。攻めさせて相手がどのレベルかを判断してたんだよって。もうひとつは何度も後ろから攻めさせて桜庭が何を狙ってたというと、腕関節を取ろうと思ってたんです。ウチで言う立ち関節を極めようと思ってたんです。彼らは寝技重視を言ってるから、ここで立った状態で関節でも極めたら東京ドームが爆発すると思って狙ってたんです（笑）。

——ダハハハハ！ サービス精神で（笑）。

**堀辺** だから不利なように見えるけど、わざとそれを取らしてやってたんですよ。その狙いは上手くいかなかったけれど、あれは攻めさせていたんですよ。その技を出そうと思って。だから彼はその場の即席で技術を組み立てるんです。

——アドリブですね。

**堀辺** 全部アドリブです。他の選手達は全部アドリブが出来ないんですよ。

——それは凄く強く感じますね。

**堀辺** 唯一アドリブが出来て、「型」がなくなって無形になっているのが桜庭なんです!

——高田選手ももう少しアドリブができればよかったんですけどね（笑）。

**堀辺** 桜庭というのは習うときには素直に習ってひとつひとつの型をちゃんと練習するんだけども、試合のときには全部いったんそれを忘れて、全て自分のオリジナルでやるんです。だから他人に習って吸収した技が、闘う時には桜庭という人格によってオリジナルな技に変わる。相手との関係の中でその場に最も適した技を、瞬時に判断して出すようになった。これが先ほど言った桜庭は達人の域にいってるんじゃないかというものの根拠なんですよ。普通の人にはできない芸当なんです。

——それはまさに天才ですね。

**堀辺** これからのVTが「打」「倒」「打」になるよという風に言うと、普通は相手がどうこようが、なにがなんでも自分の「打」「倒」「打」の戦術の中に当てはめようとしてしまうんです。普通の人は自分の型に相手をはめさせようとするんだけども、はまんない人は当然いるんですよ。だからその時は自由に考えてアレンジすればいいのに、それが出来なくなるんです。

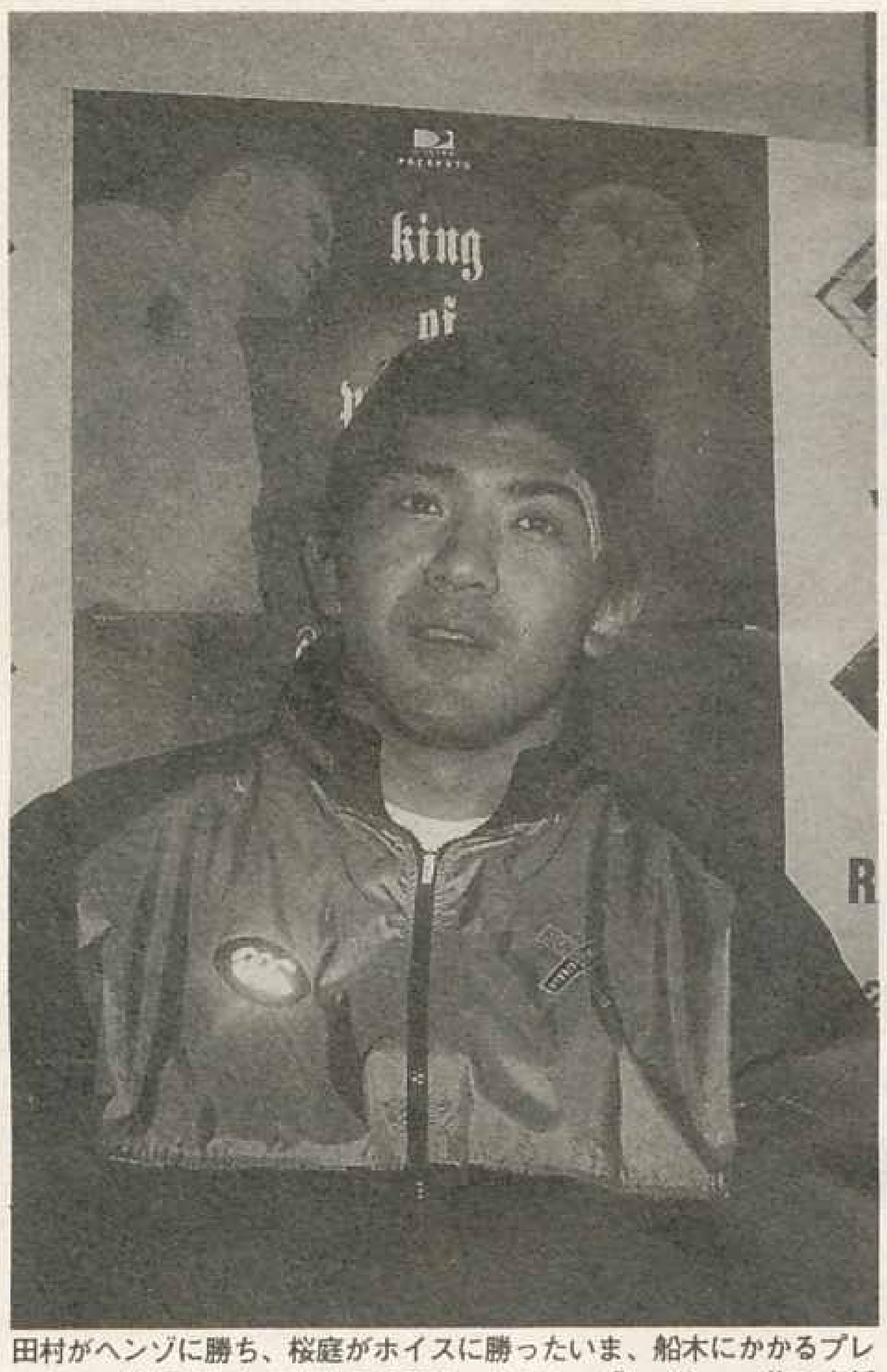
——そういう人間がたくさんいますよね（笑）。

**堀辺** リングでは習った上で、習ったものを全部捨てる必要があるんです。

——でも基礎は大事ですよね。

**堀辺** 基礎があってそれが出来るんだけども、究極においては習ったものを全部捨てるってことが武道の極意なんです。武道の極意は昔から、名人が書いた物でも達人が書いた物でも「習いを離れて習いをたがわず」というものなんです。桜庭はそれが出来てるんです。それがグレイシーとかを翻弄出来る秘密ですよ。だから対戦相手は桜庭のビデオを見て研究してくるけれども、桜庭にはそれが通用しないんですよ。過去の闘い方から桜庭を捉えようとすると全部失敗するんです。二度と同じ様なことをやらないから。

## 船木が勝つには ヒクソン以上の 「覚悟」が 必要になる!



田村がヘンゾに勝ち、桜庭がホイスに勝ったいま、船木にかかるプレッシャーは相当なものがあるだろう。UWFvsグレイシー一族の大将戦、勝っても負けても「本当の船木誠勝」を見せて欲しい。すべてをさらけだせ！船木！

——今回はグレイシーが桜庭に「お受験」してきたんですね（笑）。

**堀辺** そこで負けてるんですね。もういままでとは立場が逆転してるんですよ。桜庭を研究してくるというのは柔術が破綻してるということの証明じゃないですか。だって桜庭がお手本なんだから（笑）。

——でも桜庭選手のような闘い方は、誰でもまね出来る事じゃないですよね。

**堀辺** これは出来ないです。だから桜庭のとこに150人の弟子が行こうが300人行こうが、桜庭が一生懸命教えても、桜庭にはなれないんですよ。

——桜庭の道場は流行らないでしょうね（笑）。

**堀辺** 宮本武蔵も強かったんですけど、武蔵も弟子を育ててないんですよ（笑）。宮本武蔵の弟子で強いのがいないんですよ。これでもわかるとおり、達人の極意というものは、その人の一代限りのものなんですよ。

——では、今回ホイスは桜庭選手に敗れたわけですけど、もうひとりグレイシーにはヒクソンというボスキャラがいるんですけど（笑）。5月26日に行われる船木vsヒクソンというのは、桜庭vsホイス戦を受けてどう変わってくると思いますか?

**堀辺** 桜庭がヒクソンに与えた衝撃というのは計り知れないですよ。まず去年の11月にヒクソンは桜庭vsホイラー戦で桜庭の強さを目の当たりにしたわけですよね。世間ではだから「ヒクソンは桜庭から逃げた」とか色々言われてますよね。事実はどうか知りませんけども、そう思わせるものがホイラー戦での桜庭の勝利にはあるわけですよ。それと今回桜庭がホイスをああいう形で破った。これは当然ヒクソンも危機感を感じてますよ。彼らからすると最初は桜庭なんてのは「まさか、あんなおちゃらけたやつが俺達に勝てるわけがないんだ」と思っていたはずなんです。

# 桜庭の勝利で今度はヒクソンがプロレスラーに幻想を持つ可能性がある!

でもハッキリ言って認識を改めたと思うんですよ。桜庭があゝいうことをしたことによって、いろんな格闘家に対して「プロレスラーはなめるものじゃないな」と。だからこれまでヒクソンは、日本に来て試合をしたときは「美しく勝つ」みたいに格好付けてたんです。でもヒクソンは別の残忍な顔を持ってるわけですよ。安生が道場破りに乗り込んだ時にえげつないことをやってるわけですよ。だから今回の試合は負けられないから、美しい勝ち方を放棄してヒクソンのえげつない部分を出してくる可能性がある!

——それは実に楽しみですね(笑)。

**堀辺** 美しい勝ち方なんて言ってられないんですよォ!「勝つことが全て」という気持ちになってると思うんです。これは間違いない! そういう意味では船木 vs ヒクソン戦は面白い試合になると思います。

——それに対して船木はどう対処していけばいいんですか?

**堀辺** 船木はヒクソンを上回る覚悟が必要ですね。ヒクソンは今回は美しく勝とうなんて思ってこないだろうと想定しなきゃいけないね。だから以外と今回はヒクソンが柔術戦法で来ないかもしれない。いままでは打撃は崩すぐらいの打撃しかしてないんですよね。でも今度は極めに来ないで、殴りっぱなしに来る可能性がある。別にマウントだけじゃなくて殴れる可能性があるところでは絶対に殴ってくるということが予想されるんです!

——では、先生から見て、サブ戦法とメイン戦法は別にしてホイスとヒクソンの違いはどこにあると思いますか?

**堀辺** はっきり言ってヒクソンは老獪。人格そのものが。ホイスと比べると三倍や五倍ぐらいは老獪ですよォ!

——ホイスは負けん気が強いですよね。

**堀辺** 負けん気が強いけども単純なんです(笑)。だからあるところでは対応しやすかったと思うんです。ヒクソンはもっと老獪なんです。だからまだまだヒクソンには我々が知らない部分があると思うんですよ!

——ヒクソンの本当に凄いとこを見たことがないですからね。

**堀辺** 今回はヒクソンは格好いいところをかなぐり捨てて早い時期で勝負を付けようとすると思います。何故かと言うと船木とは年齢差があるんです。ヒクソンは40歳と言ってるけど、実際の年齢は42歳ぐらいでしょ。あれは偽ってるんですよ(笑)。だから1分間のインターバル変更を要求したのも、船木との年齢差を考えると2分間の休みが欲しいんですよ。だから船木が勝つとしたらこのスタミナを奪うような戦法を考えなきゃいけない。

——ヒクソンの本当の凄さを見てないと同時に船木の本当に凄いところも我々は見てないですよね。

**堀辺** だからこの試合はすごく予測が立ちにくいんです。ただいずれにしてもヒクソンの方はテンションが高くなってる。

——逆に怖いですね。まだグレイシー幻想はありますもんね。

**堀辺** こう言ってはなんですけど、最初はヒクソンも船木だったら組み易しと思ってこの試合は受諾した部分は少なからずあると思うんです。でも桜庭がホイスに勝ったことによって、ヒクソンの考えは絶対に変わったはずです!「ひょっとして船木も俺達が知らないところで変身を遂げてるんじゃないか」ということを恐れてますよ。今度はヒクソンの方がプロレスラーに幻想を持ってしまう可能性があるんです!

——それは面白いですねぇ!

**堀辺** だからこそ、いままで見せなかったヒクソンの怖い部分が見られるかもしれない。

——それは見たいですよ(笑)。先生はグレイシーそのものはこれからどうなって行くと思いますか?

**堀辺** たとえヒクソンが船木に勝ったとしても、追いつめられたような試合を見せると「グレイシー柔術」の普及はストップすると思います。だってハッキリしてるじゃないですか。桜庭が勝った翌日に高田道場に150人の入門者があったということを考えてください(笑)。世間の人がいかに移ろいやすいかということをね(笑)。今、日本でヒクソンあるいはホイスが柔術セミナーを開いてみて下さいよ。もう行きませんよ(笑)。世間とはそういうものですよ。

——弱肉強食ですね。勝たなければ全ては無になるんですね。逆にヒクソンやホイスがこれからどうするかが興味深いですよね。



Masashi Horibe

1941年茨城県水戸市生まれ。日本武道傳骨法創始師範。50年間に渡って命懸けで「喧嘩」を追求し、路上の現実を直視した末に、98年に武者相撲、骨法柔術、骨法98手という武道制試合のシステムを完成。現在は野試合に向けて、さらなる喧嘩道を追求している。プロレス界とも親交が深く、これまで猪木、ライガー、船木、コブラ、飛鳥など、錚々たる面子に技術を伝授している。VT評論の第一人者でもあり、著書も多数。

**堀辺** 追いつめられた時に彼らが握手するのか、あるいは柔術というものを根本的に見つめ直そうとするのかということですよね。これこそまさにグレイシー柔術がVTの中で最善じゃなくなったということなんです。それを彼らが見直して新しい柔術として形を変え出すのか、その辺が見物ですね。ただヒクソンというのは合理主義者で必ずしも柔術にこだわってないんです。だから早くからウェートトレーニングをやっていたんです。表向きはやってないってことになってますけど、彼のところに遊びに行った人の話だと家の中に立派にちゃんと器具があったらしいですから(笑)。

——そうなると逆にヒクソンには「幻想」以外で「実像」の部分でも、ヒクソンは怖いってことになりますね。

**堀辺** そうです、だからヒクソンにはホイスにはない、まだ我々が目にしていない恐ろしい部分が隠されていそうなんです。追いつめられたヒクソンは、その部分を出してくると思う!

——それはゼヒ見たいですね。いままで全然気分が盛り上がってなかった船木 vs ヒクソンが、なんだかようやく見たくなりましたよ(笑)。先生、今日はありがとうございました。

**堀辺** また、いつでも話を聞きに来て下さい。今度はリングスのOKを解き明かしましょうか(笑)。

——それは楽しみこの上ないですね(笑)。またよろしくお願いします!

【00年5月13日東中野・割烹「大はし」で収録】

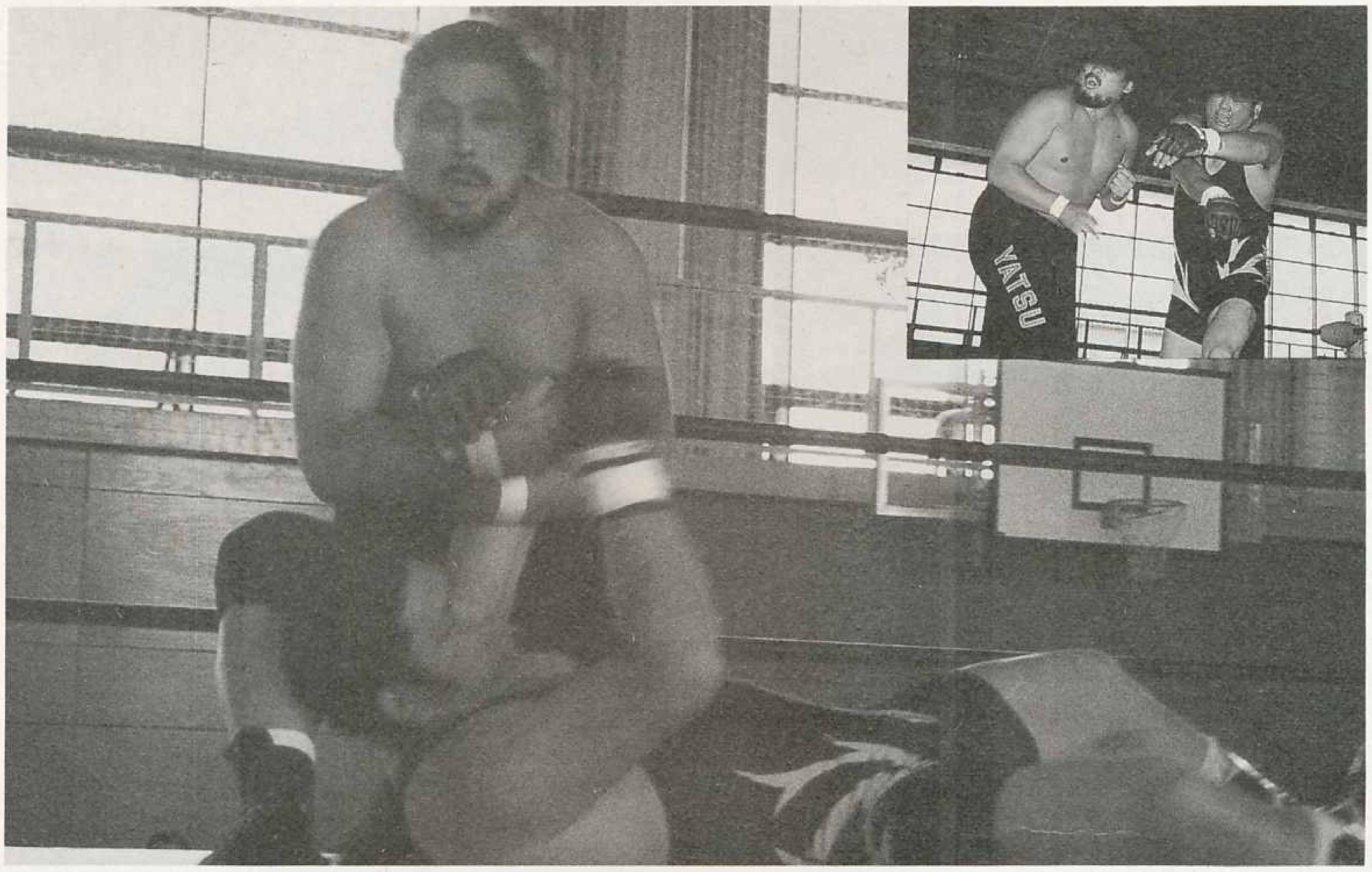
# バウトレビュー2000



マット界にサクラバ前線が吹き荒れるなか、『紙プロ』的観戦記復活！ 前号から1ヶ月間で記憶に刻まれたものをバウトレビュー。今回、奇しくもSPWF、DDT、大阪プロレス、そしてFMW、インディーと呼ばれる団体が揃ってしまったが、この4団体に見たものとはなにか、確かめてくれェエエ！

## SPWF ［4・29 埼玉・川本町トレーニングセンター］

### 『バトル2000未来予感』




## セメントの街でセメントマッチ!? 谷津vsタチ関が闘った緊張の5分間とは？

はぁ～、どすこ～い！ どすこい！ オッス！ スモーノブでごわす。ゴールデン・ウィークの初日に電車に4時間も揺られてタチ関（＝大刀光）vs谷津嘉章のオープンフィンガーグローブ・マッチを見に行ってきたばい。

会場のある埼玉県川本町は秩父の麓ののどかな町でごわした。秩父――そう、言わずと知れたセメントの名産地でごわすな。まさかセメントの町で、セメントマッチでごわすか？ そんなダジャレも、いまのSPWFなら実現してくれそうな勢いがあるでごわす。

なにしろ、この日はグアム合宿で鋭気を養った谷津は気合十分。この勢いでデビュー20周年を突超でごわす。

ひとつ前の試合に出場したにも関わらず嵐関までもがセコンドに付くなど、いつも以上に緊迫感が漂っていたこの試合。いつもなら素早くタックルでテイクダウンを奪うはず谷津も、さすがにタチ関のパンチ（張り手？）を警戒して睨みあい。しかし、隙をついてタックルに入った瞬間、タチ関がァア見事にィイイ!!

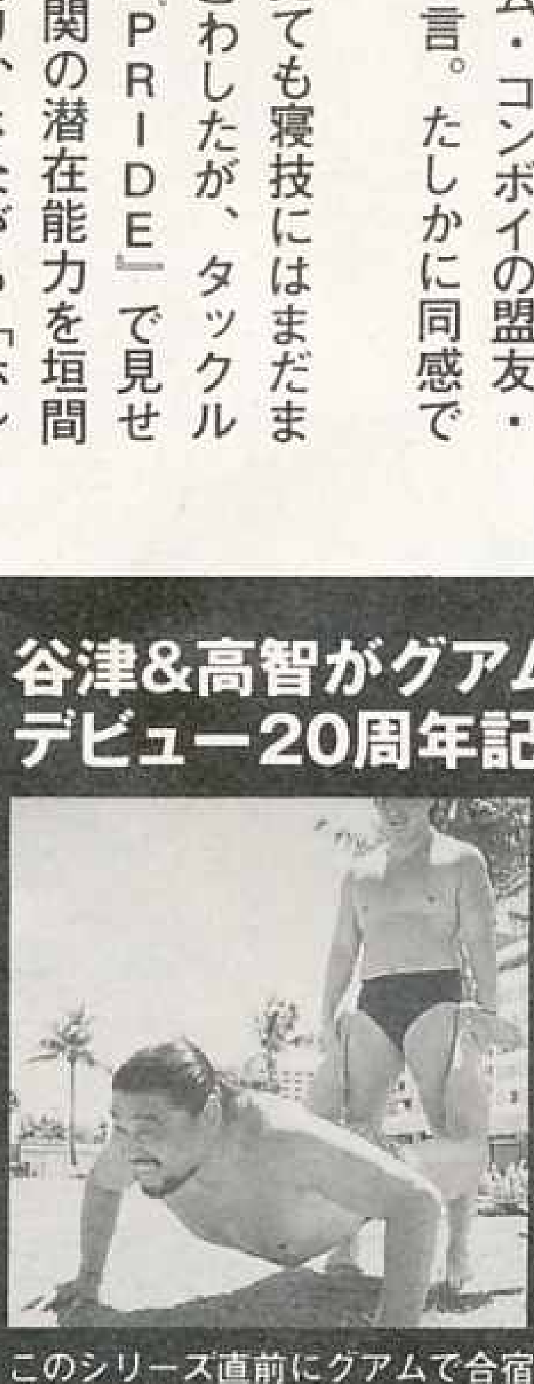
……そのまま倒されたでごわす。「次の試合が決まったら練習するよ（笑）」と試合後にタチ関は語ってくれたでごわすが「いや、それじゃ遅い！ こないだもそれで失敗したんだから！」とチーム・コンボイの盟友・嵐関が横でキツ～い一言。たしかに同感でごわすな。

ワシがヒイキ目で見ても寝技にはまだまだ課題が多い内容でごわしたが、タックルをガブって堪えたり、『PRIDE』で見せたツッパリなど、タチ関の潜在能力を垣間みれるシーンも多々あり、さながら「ホントにセメントなのか？」という展開が開始から5分間までは続いたでごわす。

その5分過ぎた頃には、セコンドの嵐関もいつの間にか姿を消し、試合もいつものテンションに戻っていたでごわす。ただ、そんな中でも、STOをカマしたり、バズーカパンチが炸裂したりと、タチ関に『PRIDE』での体験が少しずつフィードバックされている模様。何度でも書くけど、『PRIDE』はん！ タチ関にリベンジのチャンスはないんでごわすか！「相撲部屋に行って1から鍛え直す！」とタチ関は燃えとるばい！ vs掣圏道要員として、スタンドでは無類の強さを誇るタチ関はいかがでごわすか!? まあ、その横で嵐関が「ダメだよ！ 相撲だけじゃダメだったんだから、いまある技術を活かして次のステップに進めよ！」とキツ～い一言も忘れとらんばい。次のセコンドは嵐関にもぜひついていただきたいでごわすなぁ～。

（スモーノブ）

### 谷津&高智がグアム合宿!! デビュー20周年記念イヤーが始まる!!

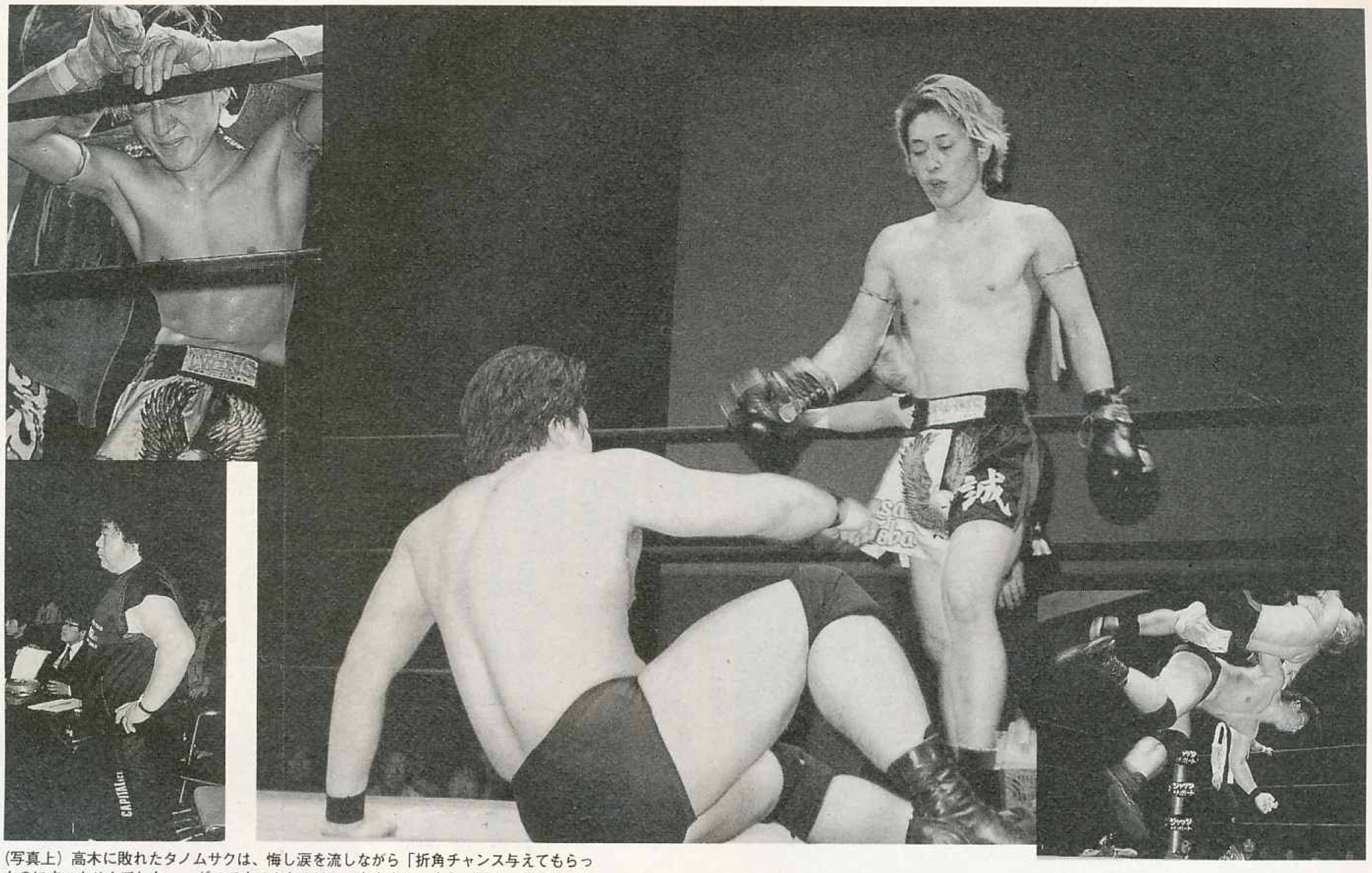




このシリーズ直前にグアムで合宿を張った谷津。ちなみに「20番勝負」は来年の夏ぐらいまでかけて消化していくとのこと。

# DDT ［5・1北沢タウンホール］

## 『DDTの裏番組をぶっとばせ!』



（写真上）高木に敗れたタノムサクは、悔し涙を流しながら「折角チャンス与えてもらったのにすいませんでした……ダメですこんなんじゃ。高木さん、もう一回やって下さい！お客さんすいませんでした！」と反省しきりだった。ゼヒ再戦を組んでもらいたいところだ。（写真下）人気マネージャー・ナオミちゃんの大会ごとのコスプレもDDT観戦の楽しみの一つである。しかもこの日は、コーナポストを挟んで、鶴見五郎（もちろんCAPITALウェア着用）とナオミ・スーザンとの夢のセコンド共演が実現！



## インディー界の誇りグランプリ タノムサク、プロレスを頼むぞ！

『DDTの裏番組をぶっとばせ！』
コント55号でもギターウルフでもないが、これが、5・1DDT北沢大会の興行タイトルである。この日の裏番組と言えば、ズバリ『PRIDE・GP決勝戦』であるということは言うまでもない。

DDTでは、この日の強力な裏番組に対抗すべく、DDTマットでの桜庭vsホイス戦とも言える高木三四郎vsタノムサク鳥羽戦をぶつけてきたのだ。

インディー事情に疎いファン、もしくは全く興味のない人からは、「桜庭vsホイス戦と高木vsタノムサク戦なんかを並べてくれるな！　つーか、誰だよ、タノムサクって‼」との声も挙がるだろうが、そんな人達のために〝タノムサク鳥羽とは誰だ？〟ということを簡単に説明しよう。

キックボクシング、ムエタイに打ち込んでいたタノムサクがプロレスマットデビューを果たしたのが平成10年の1月というから、まだキャリアは2年ちょっと。よっぽどのエリートでもない限り、まだまだグリーンボーイ扱いがお似合いな時期である。

タノムサクは、大阪プロレスで活躍中の村浜武洋のように格闘技で輝かしい実績があるわけでもなく、前座で若手レスラーとの異種格闘技戦を黙々とこなしていた。70キロそこそこの体格もあって、失礼ながら「このまま前座戦線を賑わす一選手で終わるのかな」と思っていたが、タノムサクはそれだけで終わる〝タマ〟ではなかった。

そのフットワークの軽さが幸いしてか、所属する二瓶組の興行以外にも、DDT、キャプチャー、キングダム、国際プロレスなど様々なリングで揉まれ続けるうちに驚異の成長を遂げ、出場団体を問わず気がつけば「タノムサクの行くところ常にベストバウトあり」と言われるまでになったのだ。

ムエタイ仕込みの打撃技は当然として、そこにプロレスエッセンスを注入し昇華させることに成功（スワンダイブ式のヒザ蹴り、ウラカンラナからのマウントパンチ等々）、さらに「これ以上やったら死ぬだろ！」と、猪木さんじゃなくても言いたくなるほどのクレイジーバンプをとり続け、プロレスだ格闘技だという枠を超越してしまった不死身の男がタノムサク鳥羽なのだ。

結果だけ言えばタノムサクは三四郎に負け、試合内容にも満足できずリング上で号泣。決して落ち込むほど悪い内容ではなかったが、それだけ自分に厳しいのだろう。

普段は中華料理店で働くタノムサク。中華もそうだが、熱いウチに味わいやがれ！　で、この日の興行が「裏番組をぶっとばせ！」たかというと……んなこぁどうだっていいんだよ！（お約束）。（チョロ）

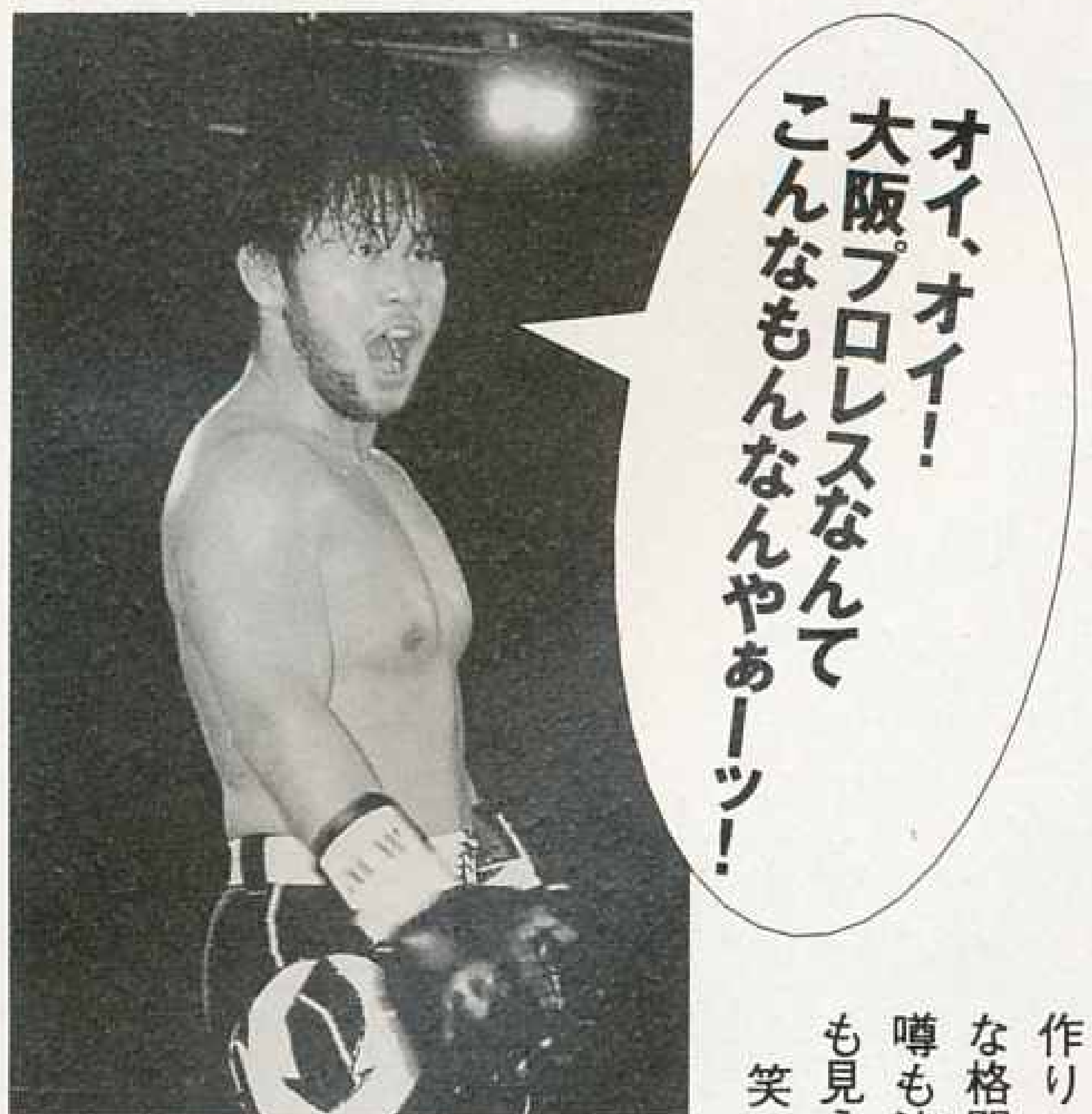


# 大阪プロレス

## [5・5大田区体育館]

## 『スパイシーシリーズ』

## 大阪から逆輸入大成功!! 頂上対決を制したのは、なんと村浜だ!!




伝統に重んじると伝統に負け、笑いに徹すると笑いに負ける――。

おこちゃまたちがリアルヒーローマスクマンを羨望の眼差しで見守るのが、いつもの大阪プロレスの会場。しかし、今日はおこちゃま滅。そして、メインは村浜武洋VSスペル・デルフィンの異種格闘技戦ときた。もちろん、メイン以外にも、くいしんぼう仮面VSえべっさんの大阪名物世界一(?)決定戦やディック東郷率いるL・O・Vによる6人タッグ(みちのくザ・ベスト!)など"ザ・大阪プロレス"というカードも組まれているが果たして「大阪プロレス」らしさが見せられるのかは不安であった。この日のパンフには「今日、勝ってこの1年をしめます」とデルフィン直筆の文字が……オイ、オイ、オイ! デルフィンさんよぉ～、まだ5月じゃあねえのか!?

結果、デルフィンは十分にこの格闘技路線を爆進し、グランドにこだわり、お笑い一切なしのデキル・デルフィンを見せつけた!……が、最後は村浜の打撃ラッシュに撃沈。大切なベルトを村浜に持っていかれることになった。

試合終了後、最近恒例の"村浜劇場"開始。「オイ、オイ! こんなもんなんやぁ。これが、これが、これが! 大阪プロレスの実力なんやぁーーーッ!!」と会場内大ブーイングに巻き込んだ。だが、ここは東京。村浜支持者もたくさんいる。それに驚き「ありがとうございま～す(笑)」と結局、村浜はヒールになりきれない男なのだ。

村浜武洋は大阪プロレスのリングに上がるようになり、「異種格闘技戦というスタイル」、「格闘技は好きだけどできない」、「プロレスも好きだからこそ、中途半端な実力ではできない」、「金とは言うものの本当に強い人と対戦できるのならそんなことどーでもいい」と悩んだゆえに1人で格闘し、何かを捜していたように思う。だから、口から出てくる言葉も全く素直ではない。でもこの日、やっと自分探しが終わり、自分作りへと前進したのだ。ここへきて、大きな格闘技の大会に出場するのでは?という噂も流れ、プロレスラー村浜武洋という姿も見えてきたはずである。

笑いに徹しず大田区体育館を満員にし、村浜がベルトを持ってるという大阪プロレス。確かにいつもの大阪プロレスではなかったがいい意味で裏切られた興行であった。

さて、今後、再戦してデルフィン激勝! なんてことにでもなればまさに映画のようなプロレスだが、大阪プロレスの本領が見られるのはまだまだこれからなのだ。

(タマリン)


疑惑のサミング!?




ギャラ10倍くれるんやったら大阪プロレス出たるわ!!

# FMW ［5・5　東京・駒沢公園屋内球技場］

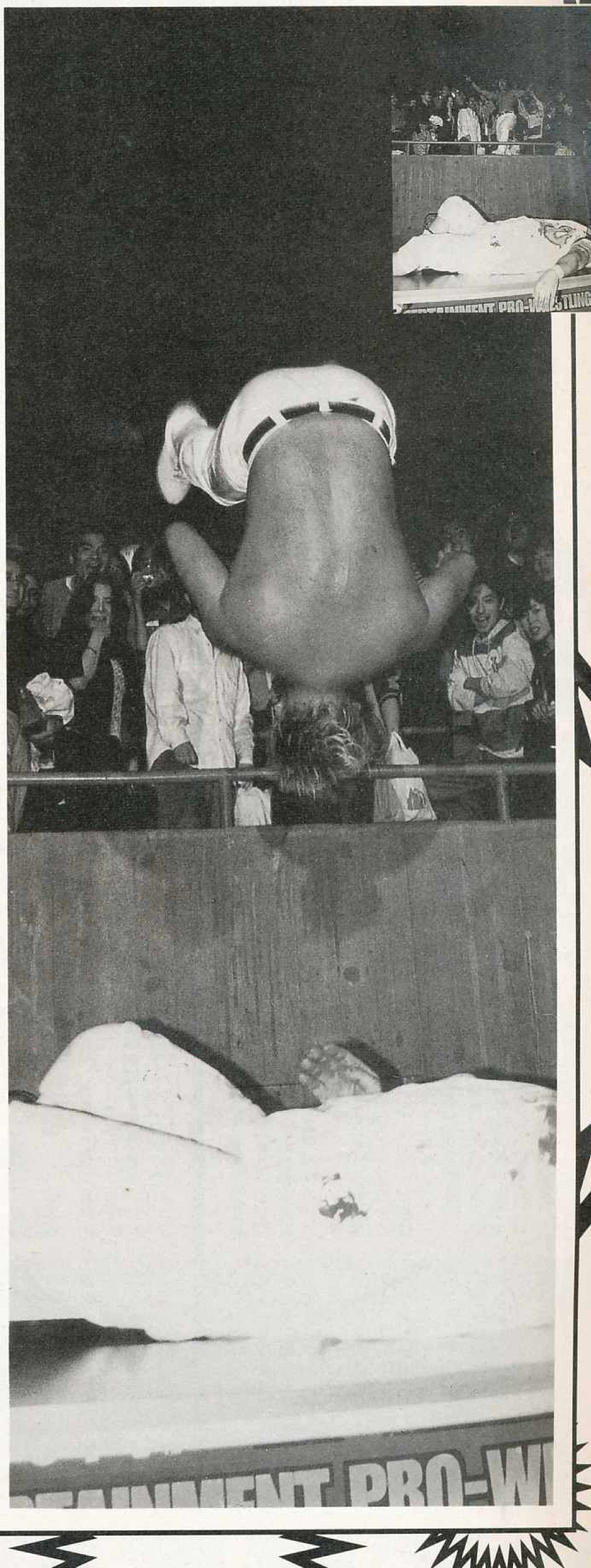
## 『BACK DRAFT』



カッコ悪い自分もさらけだすスーパースターH、復活!!



冬木「エイプリルフールだ!」と引退を撤回!!



### 白熱の好勝負続出!! 開場も超満員!! だがFMWよ、もっともっと突っ走れ!!

毎年恒例となったFMW・子供の日のビッグマッチだが、今回はいくつもの難題を抱えていた。まず、4月に勃発したディレクTVの年内消滅問題。荒井社長によるリストラ発言。大会直前になって、ECW勢がほぼ全員ドタキャンしてしまいカードが二転三転。これだけマイナス条件が揃うと興行的にも苦戦か……と思われたがフタを開けてみたら超満員! 10年の歴史を持つFMWの底力はさすがである。

だが、気になる点がいくつかあった。たしかに、ひとつひとつの試合は非常にテンションの高いものだったのだが、いわゆる〝ハードコアスタイル〟の試合が続き、試合順が進むに連れて、観客のリアクションが小さくなっていったのがまずひとつ。

第2試合の佐々木嘉則&保坂秀樹vsサモアンズの試合が、やぐらからのダイブや机を使った攻撃（机に寝かせてボディープレス等）で大いに観客を沸かせたのだが、これに続くはずの金村vs山川と雁之助vsサブゥーの試合がかなり割を食ってしまった。ちょっとやそっとでは沸かなくなった会場を相手に、延々と机を破壊しながら試合が進んでいくのは肉体を酷使するプロレスラーもつらいはずだ。

セミの冬木弘道vs黒田哲広、メインのハヤブサvs田中将人は、FMWが「エンターテイメント・レスリング」になる前の〝新生〟時代のような白熱の好試合だったが、これも2試合連続でラインナップされてしまったのが惜しまれる。惜しいといえば、草凪純ちゃんのヌードがなかったことも……。

全体的な試合のレベルの高さに加え、スクリーンとド素人を駆使したエンターテイメントな部分など、他団体にはない武器を持っているのだが、それを最大限に活かす方法に試行錯誤の跡が見てとれた。

誤解を恐れずぶっちゃけた話をしてしまえば、現在のFMWは、新生FMWと完全なるエンターテイメント・レスリングの中間点にいる。メイン終了後にゴミが飛び交った頃のようなえげつないビッグ・サプライズが減ったのは寂しいがまだまだFMWには驚かせてほしい。どういう方向性にせよ、もっともっと針を振り切って、突っ走ってしまえば、またFMWは新しいステージに突入するはずだ。

たしかに難しいのはよくわかる。前田日明が生み出したKOKルールは、旧UWF～新生UWF～RINGS～バーリ・トゥードを経たからこそ誕生したものであるように、FMWも古いものと新しいものを混ぜながら、少しずつ進化を遂げている。結局、新しいものを生み出すときの苦しみは、格闘技もエンターテイメントも同じである。（ノブ）

トーク・イベント名言集

# 格闘トークバトル

プロレスラートークイベントの殿堂『渋谷ロックウエスト』が出現してからというもの、トークイベントが大急増！
1ヶ月に何度となく熱い格闘バトルが繰り広げられるのだが、数々の名語録が発生！ これを紹介しないことには始まらない。
というわけで、この言語カンフル剤を服用すると、違う視点でマット界を楽しめるのは間違いないのだ！



## 4・21 島田裕二プロデュース『PRIDE』とは何か？

（渋谷ロックウエスト）

### 「猪木さんは本当に強いよ！」

【お言葉発言者】谷川貞治（『SRS DX』編集長）

【使用時】
4月16日高田道場にて行われたアントン総帥＆桜庭和志＆藤田和之参加のUFO型記者会見（前号参照）。アントンがサクに魔性のチョークを指導した現場を取材したサダハルンバ編集長の実感型言語である。ちなみに、この記者会見の時、アントン総帥からは「ちょっと遅れる」という一報が入った。その瞬間、サクに向かって「なんかやってよぉ〜」と道場内にあるエアロバイクをニコニコ乗りがらお願いするサダハルンバ編集長。ホント、悪意なんか微塵もないことをお間違えなく。

【副作用】
山口本誌編集長曰く「あなたプロレスバカにしてるでしょう（笑）」と言いたくなるらしい。

【使用後】
アントン総帥は否定するものの、5・5福岡ドームでは白覆面が現れ、中西学を魔性のチョークで絞め落とす事実がある。

【主旨】
この『PRIDE』とは何か？ というイベントは毎回、『PRIDE』前の恒例行事になっている。『PRIDE』ルールディレクター島田裕二氏による催しであるが、ドリームステージエンターテインメント森下直人社長はこの鬼畜編集長2人と鬼畜レフェリーに囲まれ、どんなツッコミを入れられても終始ニコニコ笑顔を絶やさない凄玉である。



## 4・24 紙のプロレスPRESNTS『暗闇プロレス道場』

（新宿ロフトプラスワン）

### 「女子プロレス界をブッ潰すつもりでやりますよ！」

【お言葉発言者】篠泰樹（NEO代表）

【使用時】
篠社長に本誌編集長が提言し、それに返答した言葉である。だが、篠社長は井上京子率いるNEOの社長でもあるのだが……。しかし、この女子総合格闘技『ReMiX』は女子の闘いの場としては大注目なのだ。

【副作用】
山口本誌編集長曰く「篠社長はこんな顔してますけど凄いよく、考えてますすねぇ」と全く失礼ではあるが、しっかり誉めたくなるらしい。

【使用後】
ゴールデンウィークは『PRIDE』から大阪プロレスと数々の団体を観戦した篠社長。そして、美少女キックボクサー、バンビちゃんを獲得！ 日本人では浜口京子出場への期待が膨らむ。

【主旨】
暗闇プロレス道場とは素晴らしいゲストを迎え、マット界をブッタ斬る本誌流トークバトル。第1回目はリングス『KOK』直前にTK＆坂田亘をゲストに大興奮！ そして、2回目である今回は八木淳子＆篠社長を迎えたのである。だが、篠社長超多忙のためなかなか姿を現さない。そこで、篠社長登場まで八木淳子の独壇場と化した舞台上は女子プロレスの謎が解き明かされたのだった。（爆弾発言多しのため各自調査！）



格闘男発売記念

## 5・1『プロ格祭り』

（後楽園プリズムホール）

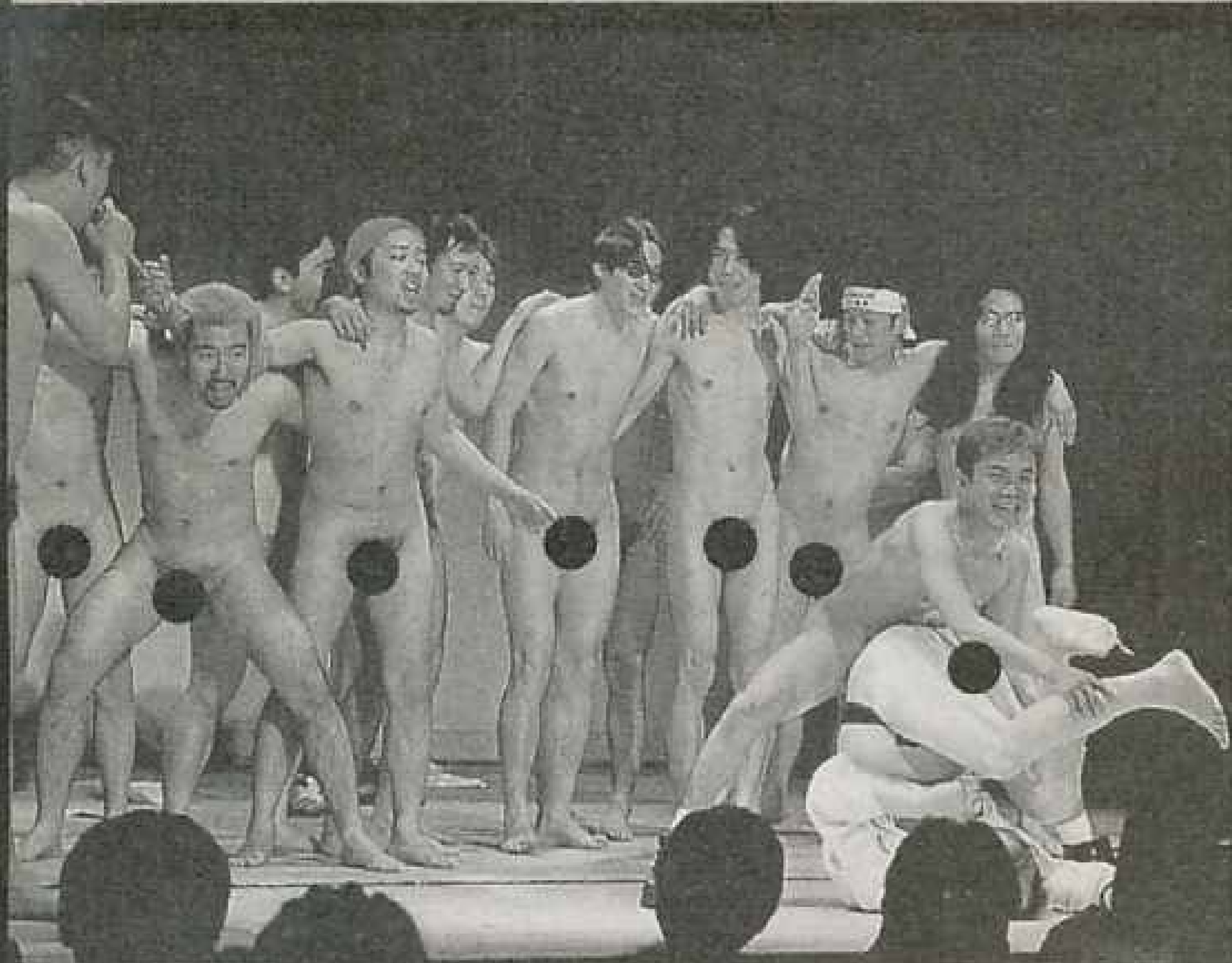
【使用時】
司会はサムライキャスター三田佐代子。ゲストは『PRIDE』ルールディレクター島田裕二、そして谷川貞治、山口日昇。4人4様で桜庭和志 vs ホイス・グレイシー戦の予想が始まった。その時、本誌編集長山口日昇の両編集長が予想した結末である。サダハルンバ編集長はホイス勝利。その理由は「サクちゃんは自分でタオル投げるんじゃあないかなと思って」だそうである。ちなみに、試合時間が長引くとトイレに行きたくなるために、解説席にタオルを投げ『ゴング格闘技』熊久保編集長にバトンタッチしようとしていた事実はあまり知られていない。

【副作用】
島田レフェリー曰く「今からルールミーティングやるんでOKにしましょう、は〜い！」と援護射撃を打ちたくなるらしい。

【使用後】
もちろん、結果はご存じの通り、ホリオンがタオル投入。サク完勝、この上なし！ である。

【主旨】
そもそもこのイベントは天才アラーキー vs 格闘家11人によるフォトバトル写真集『格闘男』の先行発売のためのものである。試合直前のアレクサンダー大塚、村上一成、石川雄規、モハメド・ヨネの4選手がサイン会を開催。そこで、『PRIDE・GP』当日ということもありトークショー3連発というホイスもビックリの長丁場であった。
第1部はアレク＆村上一成のSAM（S不在）。終始、余裕を見せていたアレクと写真集で前人未到のふとん圧縮パックに閉じこめられた村上秘話など、

#### イベント速報



5月10日、最後の『浅草お兄さん会』。その珍事はエンディング間近に起こった！　突如、キッドの手により大物（？）芸人と化したターザン山本が乱入！　よ～く、見ると全裸（正確には全裸に帯＆白スパッツペイント）である。こんな50代には断じてなりたくないなぁなどと思っていると、キッド含む11人の芸人たち＆ロマンポルシェ（いいのか？）までも服を放おり投げ、全裸祭りもとい全裸地獄。そこで、水道橋博士がターザンに殴りかかり、サクよろしく“はずかし固め”（通称まんぐり固め）を！　ターザンはその姿勢でピクリともしないという、サクvsホイス戦とは毛色の違うすげえ終焉を目撃したのであった。

※この模様はもかしたら次号で詳しく掲載するかもしれません！

#### サスケ芸能界入り!?




な、な、なんと、ザ・グレート・サスケ文字通り芸人になる!?　社長！　マジでプロレスラーは芸人なんだよ！　を突き進むの？　このお笑いイベントで真意を知れ！　そして笑え!!

## 6・6&7
## 下北沢タウンホール
### “笑いは高齢化社会を救えるか？”

出演　コントゆーとぴあ
友情出演　マギー司郎、斉木しげる、九十九一、石倉三郎
スペシャルゲスト　ポール牧
19：00スタート
前売￥2500　当日￥3000
★6日に
**ザ・グレート・サスケ**
**電撃参戦決定！**
［お問い合わせ］メインキャスト☎03-5459-9199

#### プロレスラートークショーイベントの殿堂『渋谷ロックウエスト』

## 5・25
**島田裕二プロデュース**
## “コロシアム2000とは何か？”
ゲスト　谷川貞治（SRS　DX編集長）、山口日昇（本誌編集長）
19：00スタート　入場無料

## 6・15
## “田中稔トークショー”
『格闘男』サイン会　18：00　トークショー19：00
前売り￥2000　当日￥2500（1ドリンク付）
［お問い合わせ］ロックウエスト☎03-5459-7988

## 7・10
## 新宿“歌舞伎町”プロレス勃発！
南部虎弾（電撃ネットワーク）率いる「プロレスをおもしろがる会」が写真集『格闘男』に続いて、月イチ新宿でプロレス興行を行うこととなった！　詳しいことは次号を待て!!

東京大飯店大会場　19：00スタート
入場料　特別席￥12000　指定席￥6000
大飯店ジート￥4000　立ち見￥3000
［お問い合わせ］東京大飯店☎03-3203-0121
チケットぴあ☎03-5237-9988　ロックウエスト☎03-5459-7988
メインキャスト☎03-5459-9199　リングスタッフ☎0489-66-3222
5・28　チケット発売！

# 「ボクはホリオンがタオルがわりにエリオを投げると思います！」

【お言葉発言者】山口日昇（本誌編集長）



基本的には写真集撮影の際に起こった珍事を披露していたのである。最後にアレク「今日、ケン・シャムロックに勝つとWWFも夢じゃないですから、勝ちます！」と豪語。しかし、夢叶わずサクラチル。試合後、アレクは恐ろしいくらい落ち込んでいるらしい……口を揃えてみな厳しい発言をしているが、立ち上がれ、アレク！　どんなに道は険しくとも、笑いながら歩こうぜ！　この言葉を贈る。

第2部は問題発言＆今日のお言葉が発生したトークショーである。まず、司会である三田さんに向かって「三田さんをサムライに出演させたのはボクなんですよ！　そんなボクは首になりましたけど」とサダハルンバ編集長が奇襲をかける。しかし、サムライを首になったからこそ、今フジTV格闘番組の顔になれたと納得する。そして、両編集長がリングスでトロフィー授与をしていることから人気者か否か？という話へ移行。リングスのリング上では圧倒的な支持者を持つ山口に「ヒールにならなければいけない山口さんが、リングスの会場ではベビーフェイスじゃないですかッ！」とサダハルンバ編集長が攻撃。「っていうかサダハルンバ好きな奴なんて誰もいないんですよ！（笑）。本当はボクもベビーフェイスは嫌ですよ」とのこと。ここで、三田さんが「『SRS　DX』ってどんな雑誌なんですか？」との問いに「よくわかんないですぅ（笑）」のお答え。凄いぞ！　サダハルンバ編集長!!　この気の抜け具合はステキすぎるのである。絶好調のサダハルンバ編集長はホリオンの秘話やエリオの仰天結婚バナまで大放出、「エリオは27歳で初婚なんですけど、相手の女性は50歳なんですよ。そこでヒクソンまで産ましてるんですよ！で2回目に結婚したのが、エリオが50の時で相手が18歳なんですよ。ロリコンからマザコンまで振り幅広いですよねぇ」これまたグレイシー血族をもたらしたエリオの微笑ましい事実が発覚!!　だが、ここで「だから三田さんも高齢出産大丈夫ですよ」と締めたサダハルンバ編集長に三田さんは「それってどういうことですか!?」とちょっとお怒りモードであった。最後に出演者全員『PRIDE』がいろんな磁場を狂わしているのだろうと意見が一致した。「爆弾投下する佐山聡が出現したり、前田日明が激怒したりマット界を揺るがす存在なんじゃないか」と山口本誌編集長がまとめようとした。その瞬間「ボク、前田さんにとんかつご馳走になったことありますよ」と言うサダハルンバ編集長にはもう、狂わされっぱなしである。

最終ラウンドはゲストに念願のプロレスデビューを果たした平直行とモハメド・ヨネ。そして両編集長であるのだが、ここでも、もちろんサダハルンバ編集長のステキな暴走機関車ぶりは発揮されたのであった。



## 仁義なき引き抜き、ダブルクロスぼっ発!!

# アイブル（リングス無差別級王者）、リングス離脱

# 激白



2000年4月20日




2000年5月1日




何処へ行こうと
オレは、オレだよ!

# ギルバート・アイブル

## Gilbert “HURICANE” Yvel

衝撃のダブルクロス勃発！　4・20リングス代々木大会で、王者田村潔司を破り、第4代リングス無差別級王者になりたてほやほやのギルバート・アイブルが、突如5・1『PRIDE』ドーム大会の会場に出現。『PRIDE』電撃参戦を表明した。81年暮れに起こった全日本プロレスのハンセン引き抜き事件以来のこの衝撃。はたしてアイブルの『PRIDE』参戦は是か非か？90分フルタイム激白のインタビューを読めェェェェ！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

格闘連鎖2000

# タムラは負けたんだから、ロレックスもオレに渡すべきだ（笑）

**驚愕の『PRIDE』参戦表明をはたした翌日、本誌では渦中のアイブルを都内某所でキャッチすることに成功した。ドームでは「DSEと6試合契約を結んだ」とアッケラカンと契約内容まで明かしたアイブルだが、今回の移籍問題に関してはデリケートな諸問題を含んでいるため、一夜明けてアイブルがどの程度話をしてくれるかは未知数。ヒクソンばりに決まり切ったことしか言わないインタビューになることも懸念された。**

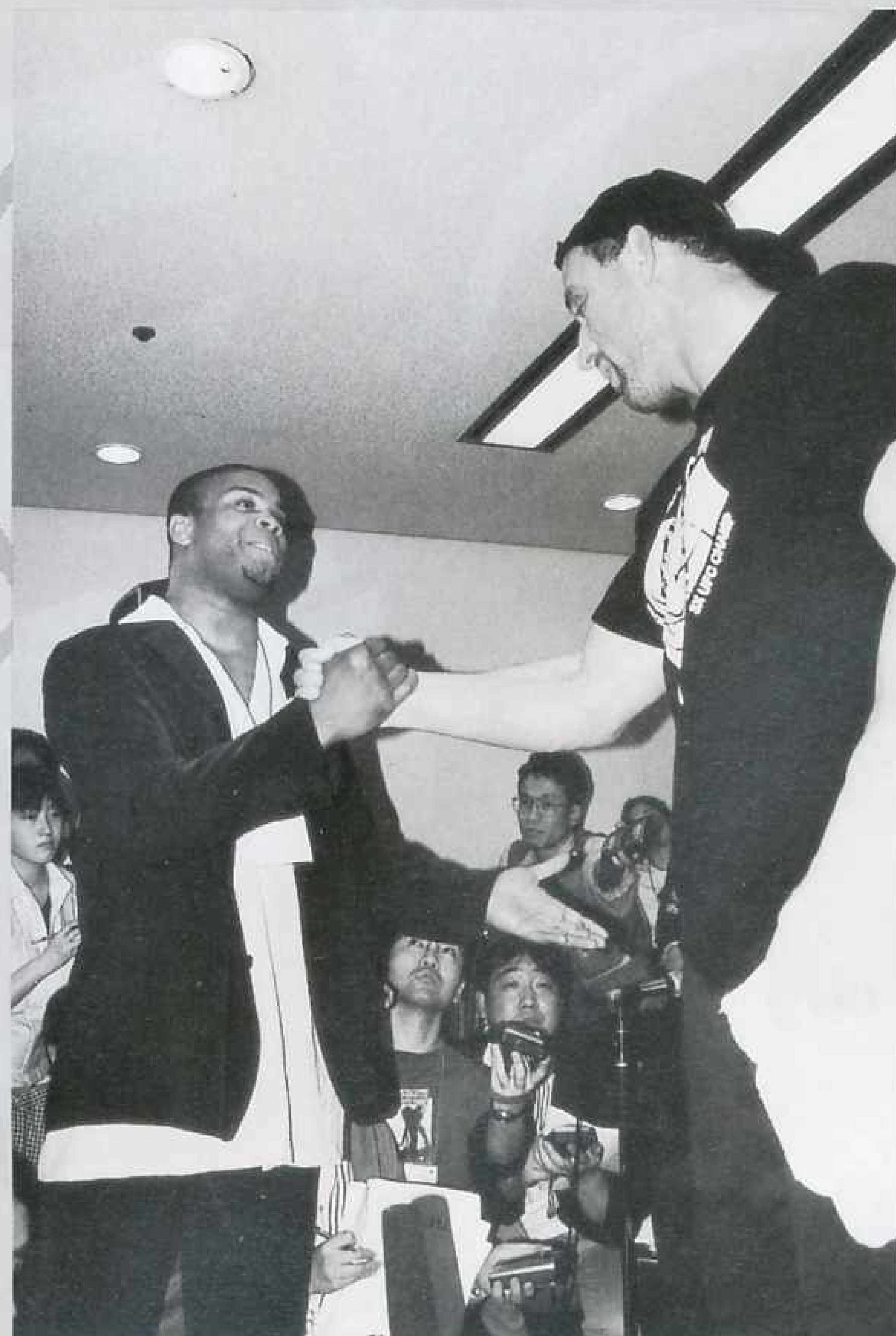
**しかし、そこは人間の欲望、本能のままに動くアイブル。中華料理を食べさせ、食欲を満たさせればすっかり饒舌になって、結果的には必要以上にアイブルの内面に迫ったインタビューに成功した。これを読めば上がるリングが変わっても、アイブルが好きになることこの上なし！　では、衝撃であり、笑劇であるアイブルの90分ロングインタビュー、スタートです。**

**アイブル**　腹減ったよ。ヤキトリ食わせろ！ヤキトリ～！　ヤキトリ～！（と店内で絶叫）。

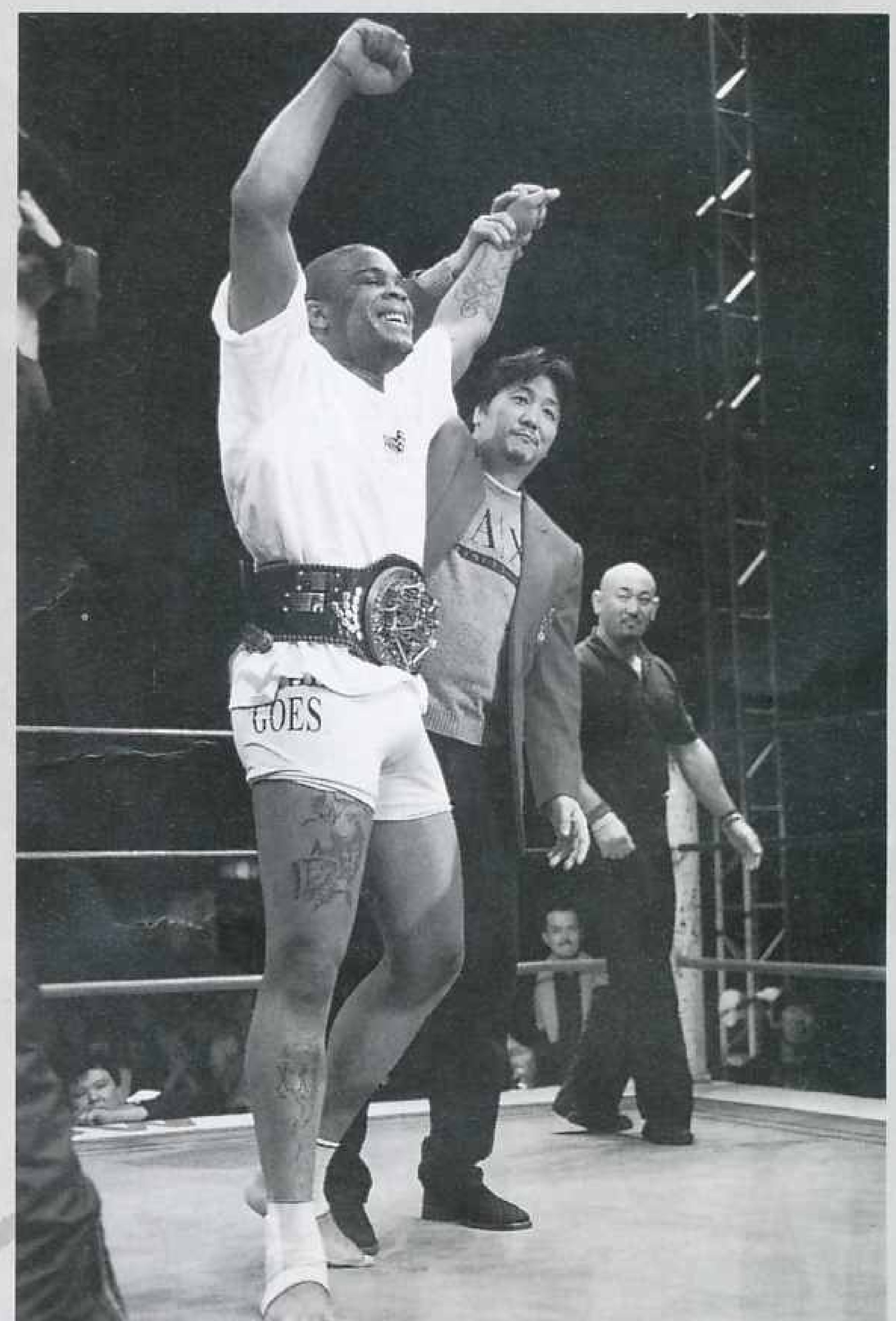
——中華料理店なんだからヤキトリはないですよ（笑）。とりあえずインタビューを始めますから。まずは、リングス無差別級タイトル奪取おめでとうございます！

**アイブル**　（日本語で）アリガト——ッ！ドーイタシマシテ——ッ！　コニチワ！　コンバンワ！　ガハハハハ！

——相変わらず日本語好きですね（笑）。こんな感じで、ホントは「ニューチャンプおめでとうインタビュー」になるはずだったんですけど、アイブル選手がベルト奪取以上の大事件を起こしてしまったんで、急遽内容



5・1ドーム。コールマンが優勝の喜びを語る中に突如現れたアイブル。リングスの王者の突然の出現にコメントルームは騒然。このあとアイブルは報道陣に対し、DSEと6試合契約を結び、6・4『PRIDE・9』に出場することを発表。どうなってんだ！



4・20代々木。オランダの暴れん坊が田村をTKOで下し、、遂にリングスの頂点に立った。ベルトを腰に巻き子供のようにはしゃぎするアイブルを前田総帥も祝福。まさか、この10日後に『PRIDE』移籍を表明するとは、この時点では予想だにしなかっただろう。

を変更していこうと思います（笑）。

**アイブル**　（まったく悪気はなさそうに）アイム・ソ～リ～（笑）。

——でも、ぶっちゃけた話、『PRIDE』参戦は以前から考えていたんですか？

**アイブル**　（とぼけた顔して）いや、タムラに勝ってからだよ。

——ホントですか？

**アイブル**　ホント、ホント。『PRIDE』のことはチャンピオンになったあと、マネージャーと次の対戦相手を相談したときに、もっと上を目指すべきだという結論に達したんだ。タムラとTKを倒しちゃったから、もうリングスで倒したい奴もいないしね。

——でも昨年のKOKトーナメントの前にも、アイブル選手が『PRIDE』に移籍するという噂があったんですけど、その頃はまだ考えてなかったんですか？

**アイブル**　ぜ～んぜん。それはたぶんその頃にリングスとの契約が切れたんで、ミスター・マエダはオレが『PRIDE』に行くんじゃないかと勝手に心配してたんだろう（笑）。

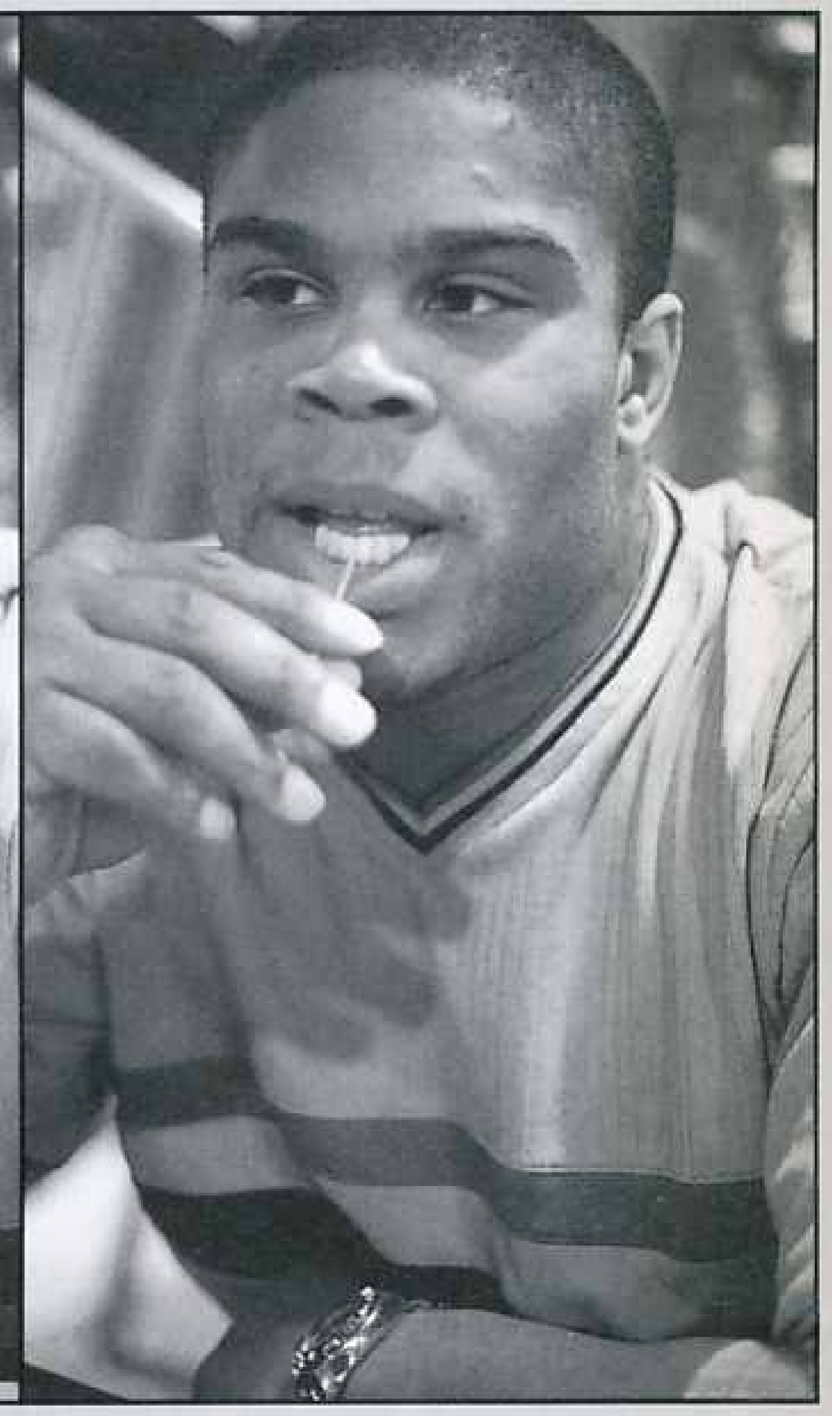
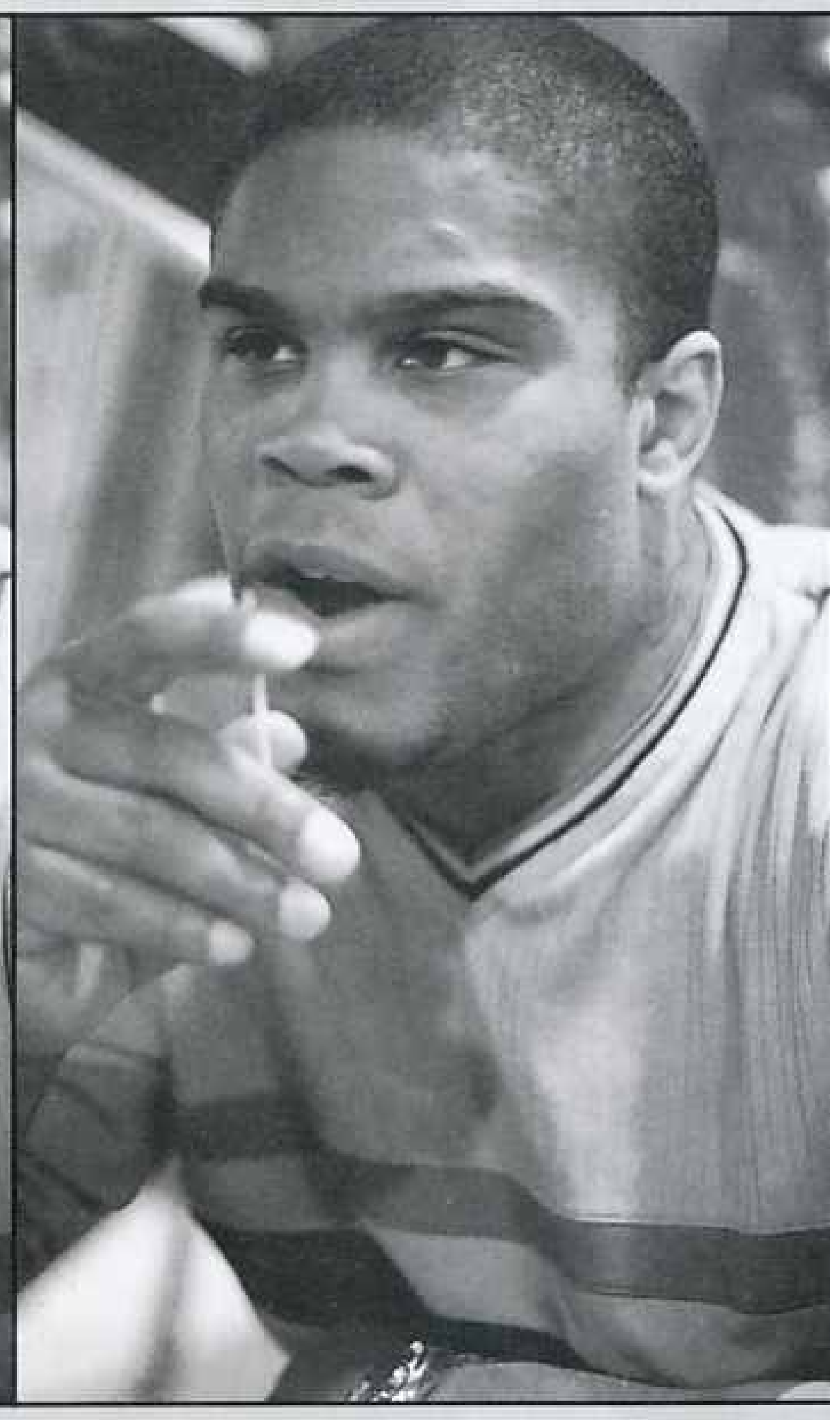
——KOKの前に契約が切れてたってことは、それ以降のトーナメントや田村戦はワンマッチ契約だったんですか？

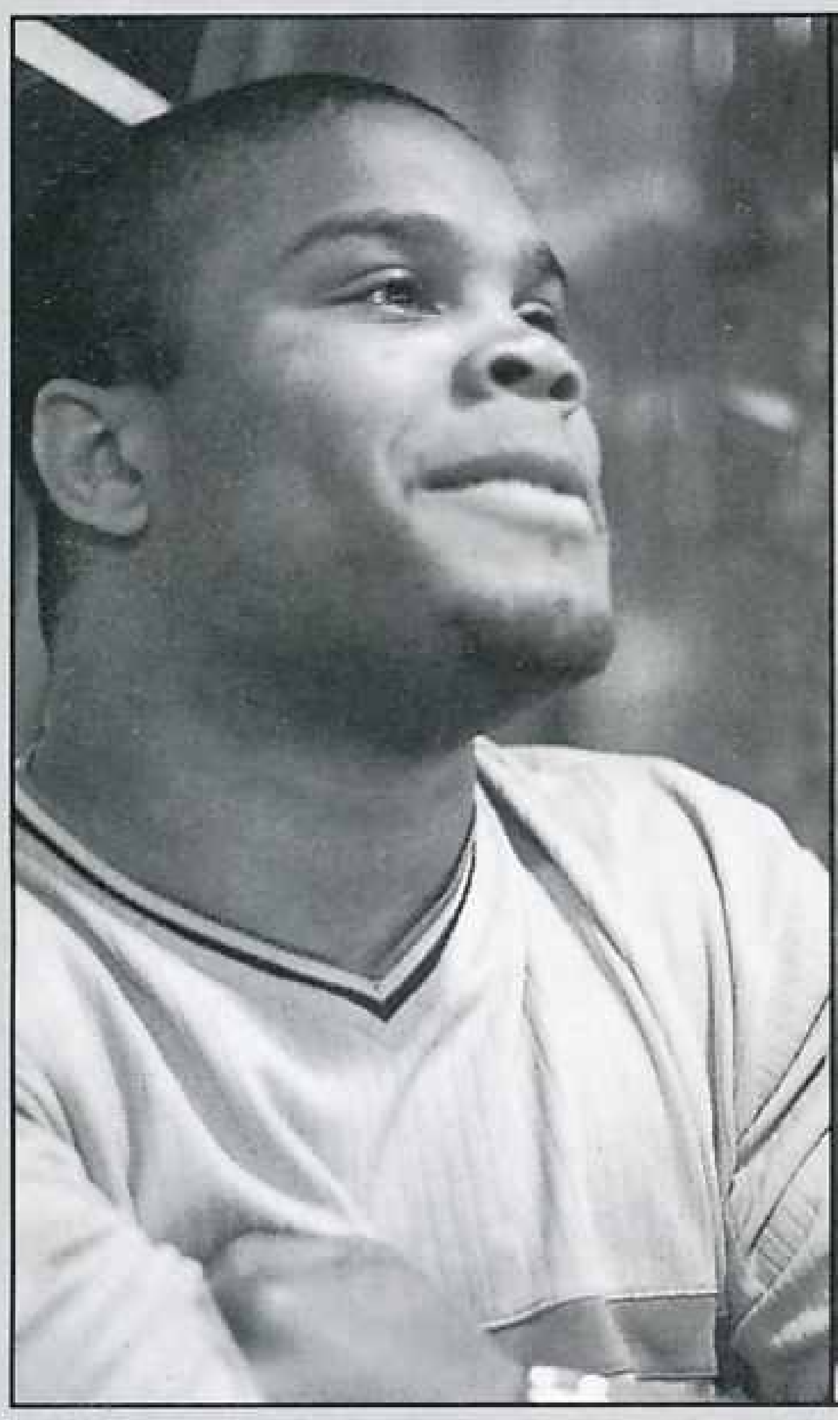
**アイブル**　いや、契約なんてしてないよ。カードを組んでくれたから闘っただけ。サインもしてないしね。（面倒臭そうに）まぁ、正直言って契約ってよくわかんねぇんだ（笑）。だからその辺のことはマネージャーに聞いてくれよ。

——では、アイブル選手は昨日の東京ドームでは「リングスのベルトは返上しない」って言ってましたけど、まさか本気で返上しないつもりなんですか？

**アイブル**　当たり前だよ（笑）。じゃあ聞くけど、なんで返さなきゃならないんだ？オレは別にタムラからベルトをプレゼントしてもらったわけじゃなくて、タムラをKOして奪い取ったんだから、ベルトが欲しかったらオレをKOして奪い返すべきだよ。

――そうは言っても……。
**アイブル**　それよりタムラはオレに負けたんだから、マエダからもらったロレックスもオレに渡すべきだよ（笑）。
――アハハハ！　あの金無垢を（笑）。それこそロレックス争奪戦でもないのに、なんでアイブル選手に渡さなきゃならないんですか！（笑）。
**アイブル**　オレの方が似合うからさ（キッパリ）。あの時計はオランダで買うとたぶん400万円ぐらいするぞ。ベルトやトロフィーは持ち歩けないから、ロレックスをみんなに見せびらかして自慢するんだ（笑）。
――なんて理不尽な（笑）。それはともかく、チャンピオンになって、他のリングスの選手の挑戦を受けようとは思わなかったんですか？
**アイブル**　まぁ、それも少し考えたけど、もう移籍を決めちまったんだからしょうがないだろ。もう、オレは『PRIDE』の人間だからね。そんなこと知～らない（笑）。
――なんと勝手な（笑）。
**アイブル**　みんなオレがリングスにいるころはオレとの対戦を避けてたのに、いまごろ闘いたいなんて言っても遅いよ。
――では、もし田村選手に負けていたら、まだリングスに上がっていましたか？
**アイブル**　（あまり考えてなさそうに）そうだね。たぶんタムラに勝つまではやっていたよ。まぁ、負けるとは思ってなかったけど。
――『PRIDE』でもチャンピオンのマーク・コールマンに勝ったら、また別の団体に移るつもりですか？
**アイブル**　それはわからないな。いまは『PRIDE』が世界一の舞台だと思うからね。だから『PRIDE』のチャンピオンになったら今度はヒクソンの野郎みたいに、1年に1・2試合しかしないで、ファイトマネーだけはガッポリもらって優雅に暮らすよ（笑）。
――もう、リングスに未練はないんですか？
**アイブル**　う～ん、オレはリングスで育ったから、ちょっと悲しいけどね。でも、もっと



ビッグになるためにはしょうがないよ。
――そうなると、リングスは〝卒業〟って感じですか？
**アイブル**　（握手を求めてきて）イエ～～～ス！　その通り！　オレはそれが言いたかったんだよ（笑）。
――でも、リングスのファンはやっぱりアイブル選手が移籍して凄く悲しんでると思うんですよ。
**アイブル**　（悲しそうな顔を一瞬して）でも、どこへ行こうとギルバートはギルバートだから……オレはオレのまんま変わらないよ。試合ではこれまで通り相手をブン殴って勝つし、性格だってこのままだし、舌のピアスだって取らない。ちょっと上がるリングが変わるだけさ。
――でも、リングスファンっていうのは、サッカーのサポーターみたいなところがあって、「リングス」というチーム自体が大好きで、「リングスのアイブル」が好きなんですよ。
**アイブル**　うん、それはわかるよ。でもオレはサッカーならロマーリオが好きだな。オレも彼みたいになりたいんだ。彼は移籍を繰り返して、いろんなところで試合してるだろ？　オレもロマーリオやロナウドみたいにいろんな場所で活躍してやるんだ。だからファンもホントにオレが好きならステージが変わってもオレを応援してほしいよ。
――まぁ、きっとファンも納得してくれると思いますけど、最低限〝リングスのチャンピオン〟として、『PRIDE』の選手には負けてほしくないと思ってるはずですよ。
**アイブル**　オーケー！　それなら安心してくれ。オレは『PRIDE』の連中なんかには絶対負けない。みんなブッ潰してやるから。
――それが聞けただけで十分ですよ。ところでアイブル選手は昨日『PRIDE・GP』の全試合をリングサイドで観戦したわけだけど、初めて『PRIDE』を見て、率直に言ってどう思いましたか？
**アイブル**　まぁ、オレが出てたら優勝してたな、と。
――アハハハ！　強そうな選手は誰もいなかったんですか？
**アイブル**　いや、確かにみんな強いのかもしれないけど、オレを倒さないで「最強」だなんて、それはおかしな話だよ。
――では、昨日一番印象に残った選手っていうと誰になりますか？
**アイブル**　う～ん、ボブチャンチンだな。ボブチャンチンはオレみたいな闘い方するからね。他の連中は寝っ転がって抱き合ってばかりでつまらないよ。
――でもそのボブチャンチンはコールマンにタックルで倒されて負けてしまったんですけど、同じような闘い方をするアイブル選手としてはショックじゃありませんでしたか？
**アイブル**　いや、タックルされる前にオレならブン殴るよ。それでもタックルに来るんだったらヒザ蹴りを顔面にぶち込んでKOしてやるさ。それにコールマンは倒したら強いけど、倒せなきゃ何にもできないから、オレにとっては難しい相手じゃないよ。
――同じタイプでもボブチャンチンは倒せなかったけど、アイブル選手だったら倒せるってことですか？
**アイブル**　その通り。いくら闘い方が似てるからってオレとボブチャンチンを一緒にはしてほしくないよ。オレはアイツよりスピーディーだし、身体も柔らかいし、蹴りも強いし、何と言ってもオレの方が顔がいい（笑）。
――それは関係ないでしょ（笑）。
**アイブル**　（無視して）ボブチャンチンはディーゼルカーみたいな奴だから、最初にペースさえ掴んだら、どんどん調子をあげて手が付けられないくらいになるけど、最初にペースを掴めなかったらダメなんだ。それに引き替えオレと来たら最初からエンジン全開！（笑）。ターボが体に内臓されてるから、ゴングと同時にババババババ――ンッ!! と相手をブン殴れるんだよ。ババババババ――ンッ!!　ガハハハハ！

# 「ケンカに時間制限はない」と言うなら完全なノールールでやれよ

——ノー天気だなぁ（笑）。でも、いくらタックルされる前に殴ると言っても、もし一度でもコールマンみたいなでかいレスラーにタックルされて上に乗られたら、ブレイクのない『PRIDE』だったら逃げるのは難しいと思うんですけど。

**アイブル** まぁ、乗られたら逃げるのは難しいけど、オレはまず倒されないもん（キッパリ）。

——そんなに倒されない自信があるんですか？

**アイブル** 倒されるかもしれないけど（笑）。

——あらあら（笑）。

**アイブル** でもオレがグラウンドで負ける可能性より、コールマンがスタンドでKOされる可能性の方がずっと高いのは事実だよ。

——なるほど。ところで昨日のドームで一番驚いたことってなんですか？

**アイブル** そうだな……2時間以上やる馬鹿げた試合にはビックリしたね。2時間45分（実際は1時間30分）もやってるんだからな。（鼻歌を歌いながら）あ～くだらねぇ。

——くだらない（笑）。あの試合が見たくて3万人以上の観客が集まって、観客はみんな興奮したんですけど、アイブル選手は見ていて面白くありませんでしたか？

**アイブル** ズバリ言って、クソつまんない！ トイレに6回も行っちゃったよ。

——アハハハ！ いくらなんでも行き過ぎでしょ（笑）。

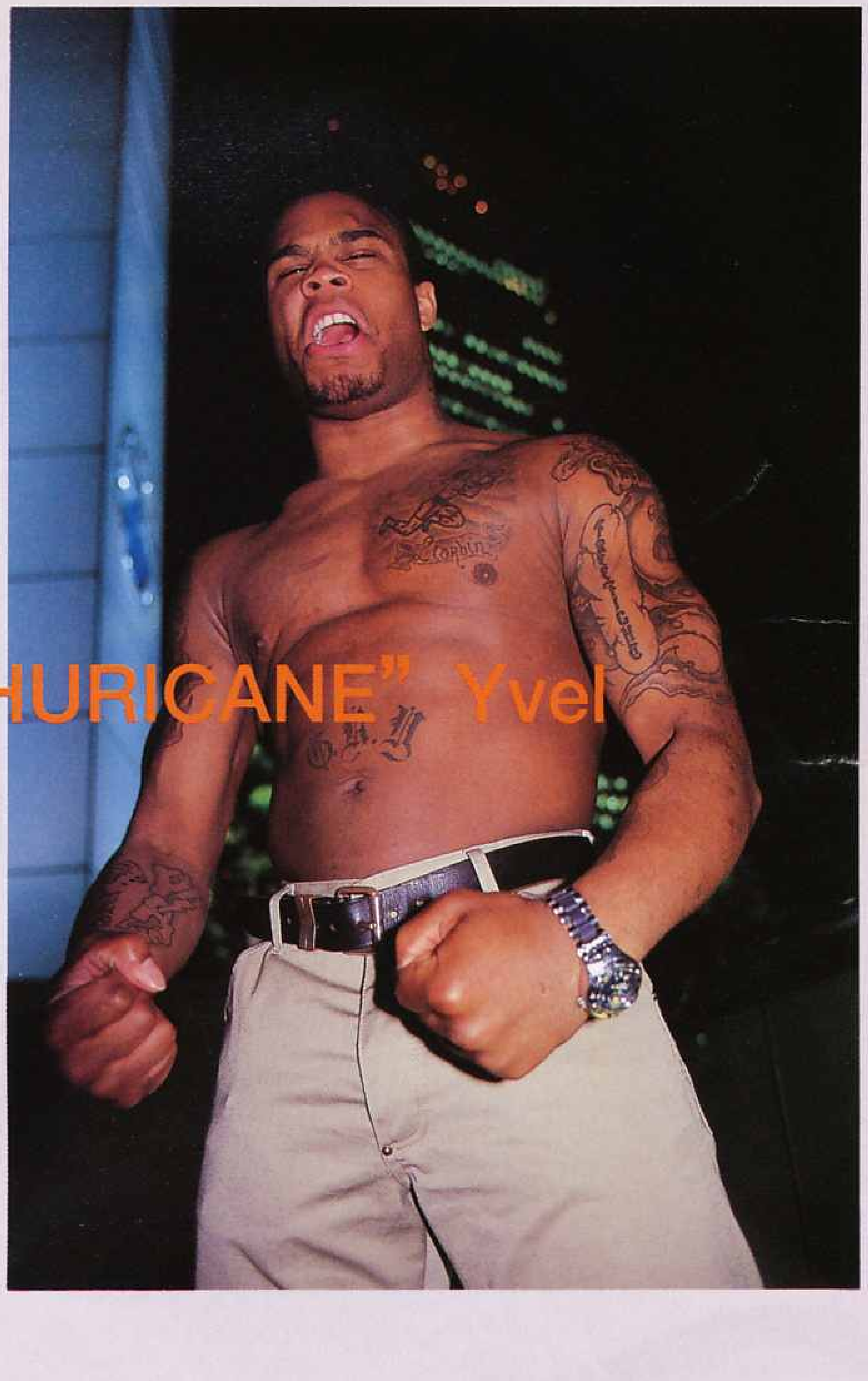
**アイブル** 1回は一人で行ったけど、あとの5回はオランダから連れてきた彼女と一緒に行ったよ。

——アハハハ！ 聞くだけ野暮だと思いますけど、なにをしてたんですか？（笑）。

**アイブル** （恍惚の表情を浮かべて）すげ～良かったよ。デヘヘヘ～（いやらしい笑い）。

——世紀の一戦の最中に何をしてるんだ、この男は（笑）。でもKOKのときはアイブル選手もヘンゾ・グレイシーを意識したコメントを出してましたけど、やっぱりグレイシーには特別な感情があるんですか？

**アイブル** オレはヘンゾなんて意識した覚えはないよ。あんなタムラに負けるような奴、これっぽっちも興味ナシ！



Gilbert “HURICANE” Yvel

——後出しジャンケンも甚だしいな、この男だけは（笑）。

**アイブル** ホイスやヒクソンはこらしめてやりたいけど、2時間も闘うのはオレはまっぴらゴメンだね。あんなのは信じられないよ。

——桜庭vsホイスは、ホイス側のゴリ押しで無制限ラウンドになったんですけど、その要求についてはどう思いますか？

**アイブル** バカバカしい！

——バカバカしい（笑）。アイブル選手だったら、もっと早くしとめてましたか？

**アイブル** いや、そもそも無制限ルールなんてオレは受けないよ。10分か15分なら殴り続けてやってもいいけどね。まあ普通のルールなら10分かからずにKOできるよ。

——グレイシーは「ホントのケンカだったらレフェリーもいないし、時間制限もない」と言ってますけど、ケンカ1000勝のアイブル選手的にはその辺どう思いますか？

**アイブル** あの試合のどこがホントのケンカなんだよ。ホントのケンカだったらオレはナイフも使うし、石も使う、場合によっちゃあ銃だって使うかもしれない。凶器を使わなくてもまず間違いなく目は潰すし、のど笛も噛みちぎるよ。それが本当のケンカだからさ。

——恐ろしい（笑）。

**アイブル** 本当の闘いをするって言うなら「時間無制限」だけをオーケーにするのは都合のいい話だよ。どうしても時間無制限にしたいなら、武器だけ禁止にした完全なノールールで受けてやるよ。ホイスやヒクソンの耳や鼻やノドを全部噛みちぎってやるから。

——アイブル選手の言うことはもっともですけど、まずTV放映は不可能ですね（笑）。でもアイブル選手ってそんなに凄いケンカを経験してきたんですか？

**アイブル** ああ、ケンカの話ならいくらでもしてやるよ。それを聞いたら「本物のファイト」ってもんがどんなものか、少しはわかるから（笑）。

——じゃあ、いままで一番凄かったケンカの話を聞かせてもらえますか？ 雑誌に掲載できる範囲で（笑）。

**アイブル** オーケー（笑）。ある日オレは二人のトルコ人とケンカになったんだ。まぁトルコ人の一人や二人、目ェつぶってても倒せるけどさぁ。

——目ぇつぶって30秒！（笑）。

**アイブル** いや、10秒だな。

——谷津嘉章以上だ（笑）。

**アイブル** それでそいつらをブン殴って倒したんだよ。そうしたら気付いたらいつの間に

か30人のトルコ人に取り囲まれてたんだよ（笑）。

──30人！　絵に描いたような絶体絶命ですね（笑）。

**アイブル**　囲まれちまったもんはしょうがねぇから（身振り付きで）バーン、バーン、バーンって片っ端から殴ってやったよ。でも、なんせ30人だから殴っても殴っても倒しきれないんだ。だからなるべく1発で立ち上がれなくなるように、みんな石でおもいっきり殴ってやったよ（笑）。幸運なことにひとりも殺さないで済んだけど、結局10人以上は病院送り（笑）。

──間違ってもアイブル選手とだけはケンカしたくないですね（笑）。結局そのケンカはどうなったんですか？

**アイブル**　オレが一人をマウントポジションに取ってボコボコにしてたときに、ものすごい勢いで後ろからブン殴られたんだ。誰だ！と思って振り返ったらポリスマン（笑）。そのあとは大勢のポリスにこん棒でメッタ打ちにあったよ（笑）。楽しかったなぁ～。

──それを「楽しい」と言えるのはどうかしてますよ！（笑）。

**アイブル**　もう一つ！（もう誰も止められないアイブル）これもトルコ人相手なんだけど。

──またトルコ人（笑）。

**アイブル**　そのときは3人に取り囲まれて、最初はオレがボコボコにされたんだ。3人いっぺんだと分が悪かったから、まずは3人の内の一人をとっ掴まえて半殺しにしてやったんだ。そしたらそれを見た他の二人が逃げやがったんだよ。オレは大急ぎでとっ掴まえて、結局は目が開かないくらいに顔面をボコボコにして、トドメに倒れたところをサッカーボールみたいに蹴っ飛ばしてやったよ、バーンって（笑）。あ～、楽しかったなぁ～（笑）。

──だから楽しかったじゃないって（笑）。その額の傷もその頃のケンカで負った傷なんですか？

**アイブル**　ああ、これか？　これは子どもの

## トルコ人30人に囲まれた事があるんだ。幸運にもひとりも殺さずに済んだよ（笑）



頃だよ。12歳ぐらいのときにケンカになって、スコップでバーンって殴られたんだ。ちょっとずれてたら失明してたよ。オレってラッキー！（笑）。

——とんだラッキーボーイだ（笑）。

**アイブル**　そのスコップ野郎も当然仕返しに骨を折ってやったけどね（笑）。オレは体中がケンカの跡で傷だらけだよ。背中の傷はナイフでやられて、お腹の傷はボールペンで刺されたもので……（以後、大仁田ばりの傷自慢が延々と続く）。

——いや〜、身体をよく見ると、ホント歴戦の傷跡だらけですね。

**アイブル**　体中傷だらけ、歯形だらけ（笑）。ちなみに拳が腫れちゃってるのはタムラを殴り過ぎちゃったから（笑）。

——アイブルのケンカ話を聞くと、VTとケンカはつくづく別ものだと感じますね。

**アイブル**　そう。ストリートファイトは時間制限がないというなら、その通りだけど、それならノールールにすべきだ。スポーツをしたいんだったら、時間制限をつけないと。

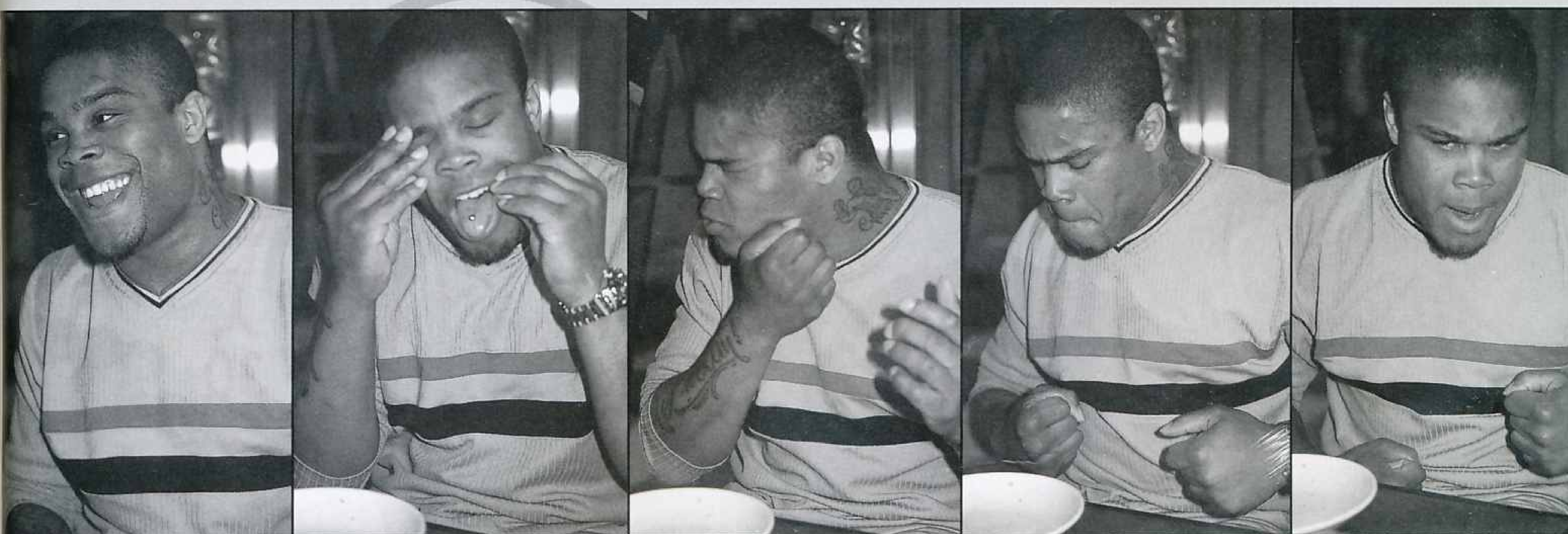
——じゃあホイスに勝った桜庭選手の闘いはどう感じましたか？

**アイブル**　5・6ラウンドのローキックがよかったよ。でも、アイツはリングの上でおふざけが過ぎるんじゃないかな。

——あれは観客へのサービスのためにやってるみたいなんですけど、アイブル選手はああいうのは気に入りらないですか？

**アイブル**　オレたちファイターにとって闘いとはまず勝つこと、相手を叩き潰すことが大事なんだ。だから「おふざけ」なんかしないで、勝つことによって観客を楽しませればいいことさ。パフォーマンスは試合後にやればいいんだよ。つまり試合で相手を叩き潰して、試合後はパフォーマンスで観客を楽しませる。そう、オレこそが真のエンターテイナーだよ。ガハハハハ！

——また「オレがオレが」ですか（笑）。いま桜庭選手はホイラーやホイスを倒したことによって、「世界最強」という声も出てますけど、それについてはどう思いますか？



**アイブル**　あれで世界最強？　グレイシーに勝っただけで最強になるなら、ヘンゾを破ったタムラも世界最強じゃないか。そうなるとそのタムラを倒したオレはもっと最強！　やっぱりオレがイッチバ〜ン！　ガハハハハ！

——しょうがない人だ（笑）。アイブル選手は桜庭選手のことをいままで意識したことはありませんか？

**アイブル**　リングスにいたときは闘う可能性もなかったし、雑誌で見たくらいだから特に興味はなかったよ。まぁ、サ・サキー……なんだっけあいつの名前？

——サ・ク・ラ・バ！（笑）。

**アイブル**　そのサクラバとタムラはどっちが強いんだ？

——どっちが強いかはわかりませんけど、田村選手と桜庭選手はいまの日本格闘技界の2大スターですから、田村選手を破ったアイブル選手が桜庭選手と闘ったら、凄く注目されると思いますよ。

**アイブル**　まぁ、タムラはオレに負けたからもうスターじゃないな（笑）。サクラバともいつ闘っても問題ないよ。タムラとサクラバではファイティング・スタイルが違うけど、実力的にそう大差はないだろうから。

——アイブル選手は田村選手と桜庭選手はどちらが強いと思いますか？

**アイブル**　う〜ん、サクラバかなぁ。

——それはどのへんでですか？

**アイブル**　サクラバのローキックがもの凄く強いからだよ。それ以外は差がなくても、あのローキックだけはズバ抜けている。まぁ、オレの次に強い（笑）。

——まだ（笑）。マーク・ケアーに勝った藤田選手はどう思いますか？

**アイブル**　ケアーがちょうど調子を崩してたから、ラッキーな男だよ。ケアー本来の調子なら結果は逆になっていたよ。

——強いとは思いませんか？

**アイブル**　強いとは思うけど、ケアーの方が強いだろう。

——藤田選手は日本で人気があるんで、きっとアイブル選手との対戦も組まれると思いますよ。

**アイブル**　もし組まれたらオレが勝つから、せっかくケアーに勝ったのに彼の人気は落ちちゃうよ。あ〜かわいそう（笑）。

——どこまでも自信満々ですね（笑）。アイブル選手は以前ウチのインタビューで「リングス、パンクラス、K—1のチャンピオンになりたい」って言ってましたけど、K—1の日本チャンピオン、佐竹選手の闘いはどう思いましたか？

**アイブル**　サタケってK—1チャンピオンなのか？　ウソだろ？　K—1ファイターがメッツアーなんかの蹴りを何回も頭に食らうわけないだろ。K—1ファイターっていうのはキックボクサーよりも遥かに強い選手のことを言うんだよ。あいつはK—1ファイターなんかじゃない！（キッパリ）。ストライカーなのに、蹴ることを考えないで、相手の組技のことばかり考えてるから、ああなるんだ。守ることばっかり考えて勝てるわけないよ。

——手厳しいですねぇ。ところでアルティメット・ボクシングって知ってますか？

**アイブル**　なんだそれ？　金網の中でボクシングするのか？

——いや、キックボクシングにプラスして、タックルやグラウンドでのパンチが認められて、関節技がない新しい競技なんですけど。

**アイブル**　オオォ〜〜!!　オレにピッタリのルールじゃないか！　蹴って、殴って、倒れた相手も殴っていいんだろ？　それ、サイコー！　ガハハハハ！　サタケもそれなら結構勝てるんじゃないか？

——今度の『PRIDE』名古屋大会の1週間後にアルティメット・ボクシングの大会があるんですけど、興味はありますか？

**アイブル**　そりゃあるさ。だってオレのため

# オレはいつも美人と一緒に歩いている。ブスとは絶対に歩かない！

格闘連鎖2000

に作ったルールだからな（笑）。

——さっきまで知らなかったくせに（笑）。

**アイブル**　これぞリアルファイトに近いルールだよ。バーリ・トゥードよりずっとストリート・ファイトに近いよ。

——この競技を作った佐山サトルさんも同じことを言ってましたよ。

**アイブル**　だってそうだろ？　ストリートでアームロック掛けるバカはいないよ（笑）。オレとこのルールで闘ったら、みんなバーン、バーン、バーンってブン殴られて、タムラみたいになっちゃうよ（笑）。まぁ、オレはハリケーンだから、ハリケーンが来る前は平和に暮らしてても、一度ハリケーンに巻き込まれたら一巻の終わり。ババババババ〜ってなにもかもブッ壊されてジ・エンド。アーメン（笑）。タムラ、TK、みんなハリケーンに巻き込まれて終わり。そのアルティメット・ボクシングでオレと闘ったら、みんなタムラやTKと同じことになるよ。オファーがあれば『PRIDE』のあとに出場したいね。連戦は慣れっこだから全然問題ない。ケガしなけば毎週でもオーケー。

——アイブル選手は打撃はバッチリですけど、サブミッションの練習はしてないんですか？　以前は柔道家のフレッド・オーストロンと練習してると言ってましたけど。

**アイブル**　いまでもやってるよ。フレッドとはやってないけどね。いまはキース・ヒーリングという22歳で110キロのメチャメチャ強い奴と練習してるんだ。

——そのキースは何の選手なんですか？

**アイブル**　カレッジ・レスリングとアメリカン・フットボール。

——オランダ人？

**アイブル**　いや、アメリカ人。テキサス出身だよ。フットボール・チームはテキサスレンジャー。

——え!?　NFLの選手なんですか？

**アイブル**　ウソ（笑）。

——くっそ〜。

**アイブル**　ガハハハハ！

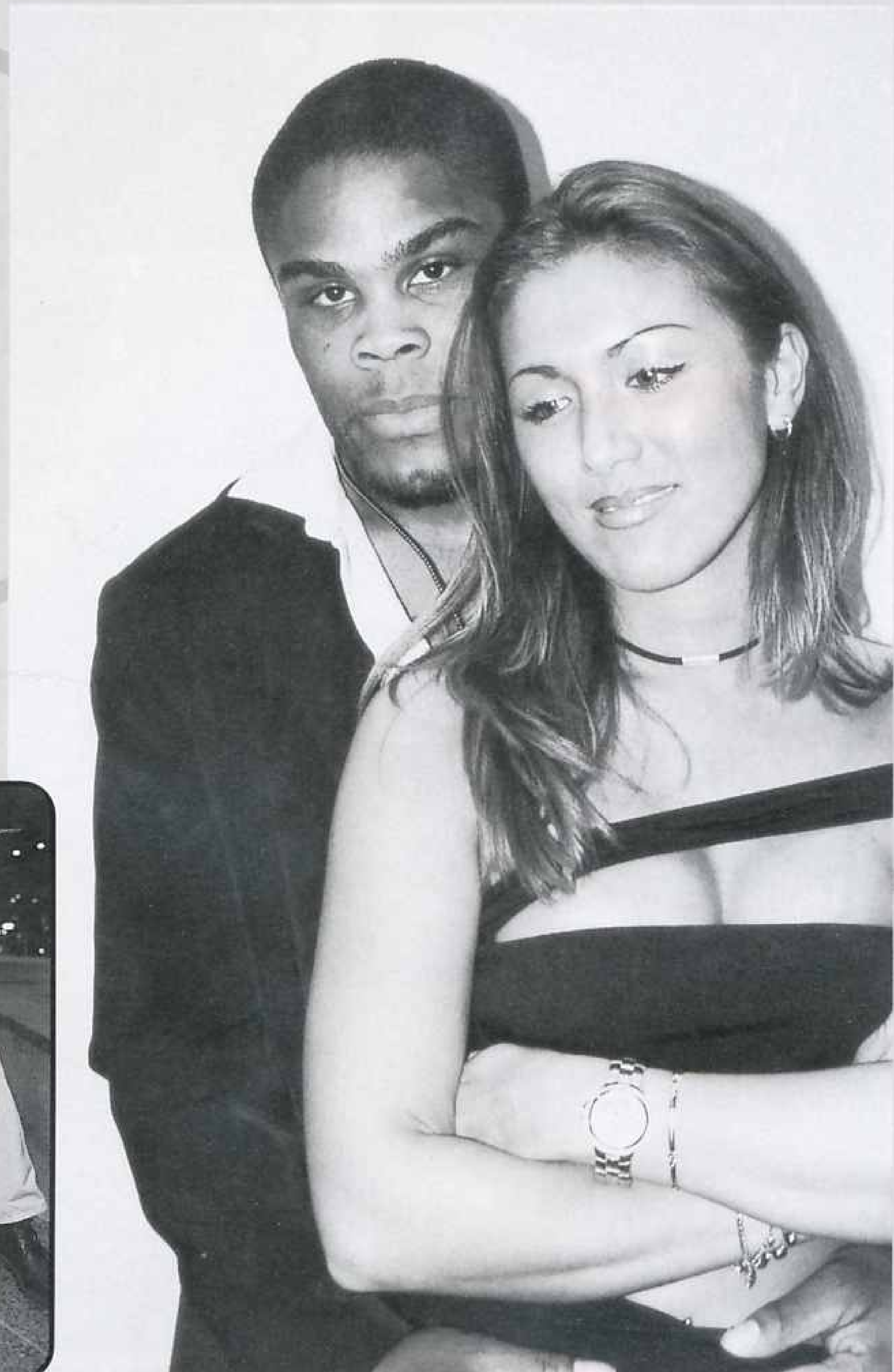
——話は変わりますけど、5月26日のヒクソンvs船木には興味はありますか？

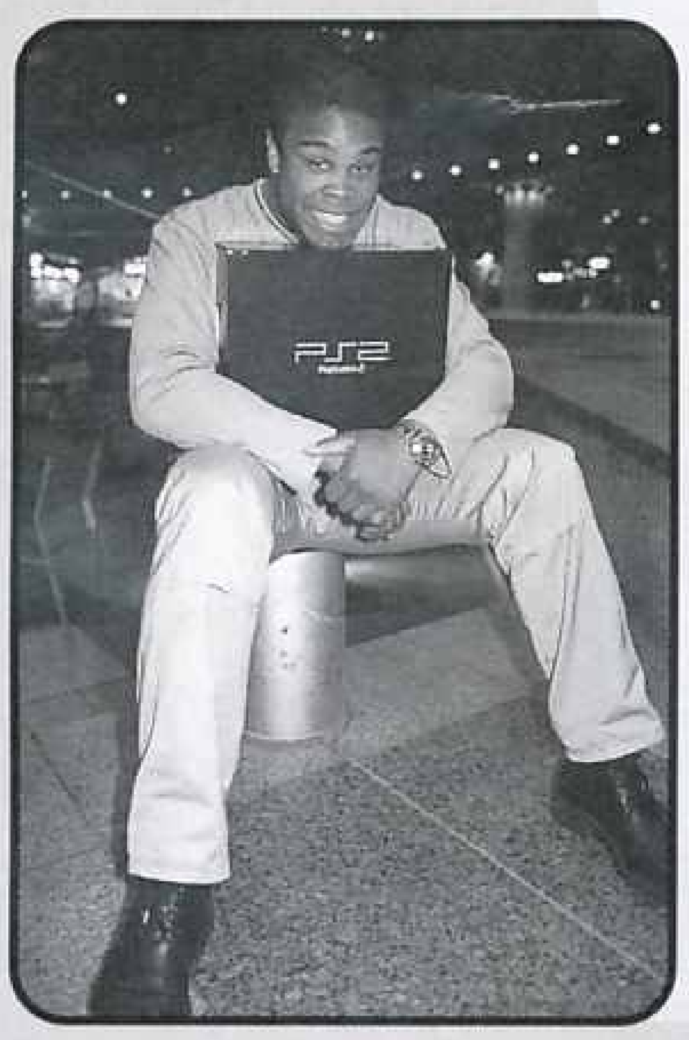
**アイブル**　そりゃ興味はあるよ。でも、ヒクソンはそんな奴とやらないでオレと闘わなくちゃダメだよ。フナキなんてオレ知らねぇもん。ガハハハハ！

——じゃあ当日、リング下からヒクソンを挑発してみたらどうですか？（笑）。

**アイブル**　でも、『コロシアム2000』はリングサイドにミスター・マエダがいるだろ（笑）。

——アハハハハ！





見てみ、この色っぽさ！　女と金と名誉、男の欲望を思いのままにバンバン達成するアイブル。よく雑誌広告に載っている「幸運のペンダント」でもつけているかのような、見事な願望達成っぷりだ。ちなみに写真小はプチ願望であったプレステ2を手にいれお満悦のアイブル。

**アイブル**　そこでヒクソンとマエダの二人を倒せばオレも世界最強って言われるかなぁ（笑）。（でかい声で）ジョーク、ジョーク、ジョーク！（笑）。

——じゃあ、世界最強になったら、次の目標はなんになりますか？

**アイブル**　当然ムービースターだよ！　オレはムービースターになるために生まれてきた男だから（笑）。

——それは初耳です（笑）。では、格闘技界のトップはムービースターへの通過地点でしかないと（笑）。

**アイブル**　そういうこと（笑）。まあ、『PRIDE』のチャンピオンになったあと、アルティメット・ボクシングのチャンピオンになって、そのあとムービースターだな。そうして金も名誉も女もぜ〜んぶオレのもん！　ガハハハハ！

——〝男の憧れ〟ギルバート・アイブルですね（笑）。そういえば昨日連れていた綺麗な彼女が見当たりませんけど、彼女はどうしたんですか？

**アイブル**　昨日連れていた女？　どの女だろ？（笑）。

——アハハハ！　何人もいたんですか（笑）。東京ドームに連れてきてた女性ですよ。

**アイブル**　あぁ、イレイナのことだろ？　彼女はオランダのロック・グループのマネージャーで、このあとロスで撮影があるんでいったんオランダに帰ったよ。

——彼女はアイブル選手の昔からのガール・フレンドなんですか？

**アイブル**　（何とも言えぬ笑みを浮かべながら）グフフ、5日前に会ったばかりだよ（笑）。オランダの空港で出会って「日本においでよ」ってナンパしたんだ。ガハハハハ！

——アハハハ！　そっち方面でもいきなりラッシュですか（笑）。女性に対してもいつもそうなんですか？

**アイブル**　そう、「行こうぜ」この一言で十分（笑）。美人にはこれがイチバ〜ン！　ガ

ハハハハ！　イレイナとは5日間ずっと一緒に過ごしたんだ。（恍惚の表情で）よかった～（笑）。

――「よかった」（笑）。それにしてもアイブル選手がもの凄い美人を連れてたんで、みんな驚いていたんですよ。

**アイブル**　なんで驚くんだ！　オレはいっつっつも美人と歩いてる！（キッパリ）。ブスとは絶っっっ対に歩かない！　ブスは近寄るな！　ガハハハハ！

――格闘家の奥さんはみんな綺麗なんですけど、その人たちと比べても美人だから驚いたんですよ。

**アイブル**　他のブサイクなファイターとオレを一緒にするなよ（笑）。オレが選んだんだから美人で当然！（キッパリ）。さらにオレにはもっと綺麗なガールフレンドも他にいる！（またもやキッパリ）。

――そんなに力強く浮気を公言しなくてもいいですよ（笑）。アイブル選手はいったい何人ガールフレンドがいるんですか？

**アイブル**　人数か？　ちょっと待て、数えてみる。まず、いまの同棲相手だろ。

――まず一人！

**アイブル**　そして娘の母親だろ。

――娘の母親！（笑）。

**アイブル**　それから息子の母親。

――別ですか！（笑）。

**アイブル**　昨日連れていたイレイナだろ。それからロッポンギで引っかけたふたりだろ。それから……ちょっと数えきれないよ（笑）。

――同棲してる彼女はアイブル選手が浮気してないか、心配しないんですか？　ボクなんかすぐバレちゃう方なんですけど（笑）。

**アイブル**　家では一切そんなそぶりは見せないんだ。バレそうになっても完全に否定すればいいだけだよ。か～んたん。ガハハハ！

――じゃあ、日本でもそうとう遊んでるんじゃないですか？（笑）。

**アイブル**　ロッポンギ、イッチバ～ン！

――アハハハハ！　やっぱり六本木（笑）。

**アイブル**　日本に来る度に、ロッポンギのスポーツカフェに顔をだすんだ。「ジョニーが帰ってきたゼ！」って（笑）。

――アハハハ！　誰がジョニーだ（笑）。やっぱり六本木でもモテモテなんですか？

**アイブル**　そりゃも～う（笑）。（ニヤケ顔で）だってオレは黒人だし、カッコイイし、話も面白いだろ？　もうバッチリ（笑）。ガンツゥ、今晩一緒にロッポンギに行こう！　4・5人の女の子は絶対手配できるよ（笑）。

――アハハハ！　グッド・アイディ～ア（笑）。

**アイブル**　ガンツゥはどんな女の子が好みなんだ？　金髪か？（笑）。

――う～ん、やっぱ巨乳ですね（笑）。

**アイブル**　ガハハハハ！　さすがマイ・フレンド（笑）。

――アイブル選手はどんな娘が好みなんですか？

**アイブル**　とにかく顔と体！　性格なんて、どうでもいい！（笑）。

――この獣！（笑）。イレイナはどうなんですか？

**アイブル**　彼女は特別だよ。彼女は顔がよくて、ナイスバディで頭もいいんだ。ずっと一緒に住むなら性格が良くなきゃダメだけど、一晩だけの女ならとにかく顔と体！（笑）。ガンツゥ、もうインタビューなんかとっとと終わらせて早くロッポンギに行こう！　レッツ・ゴー！　ガハハハハ！

――じゃあ、いちおうシメでファンにメッセージをお願いします。

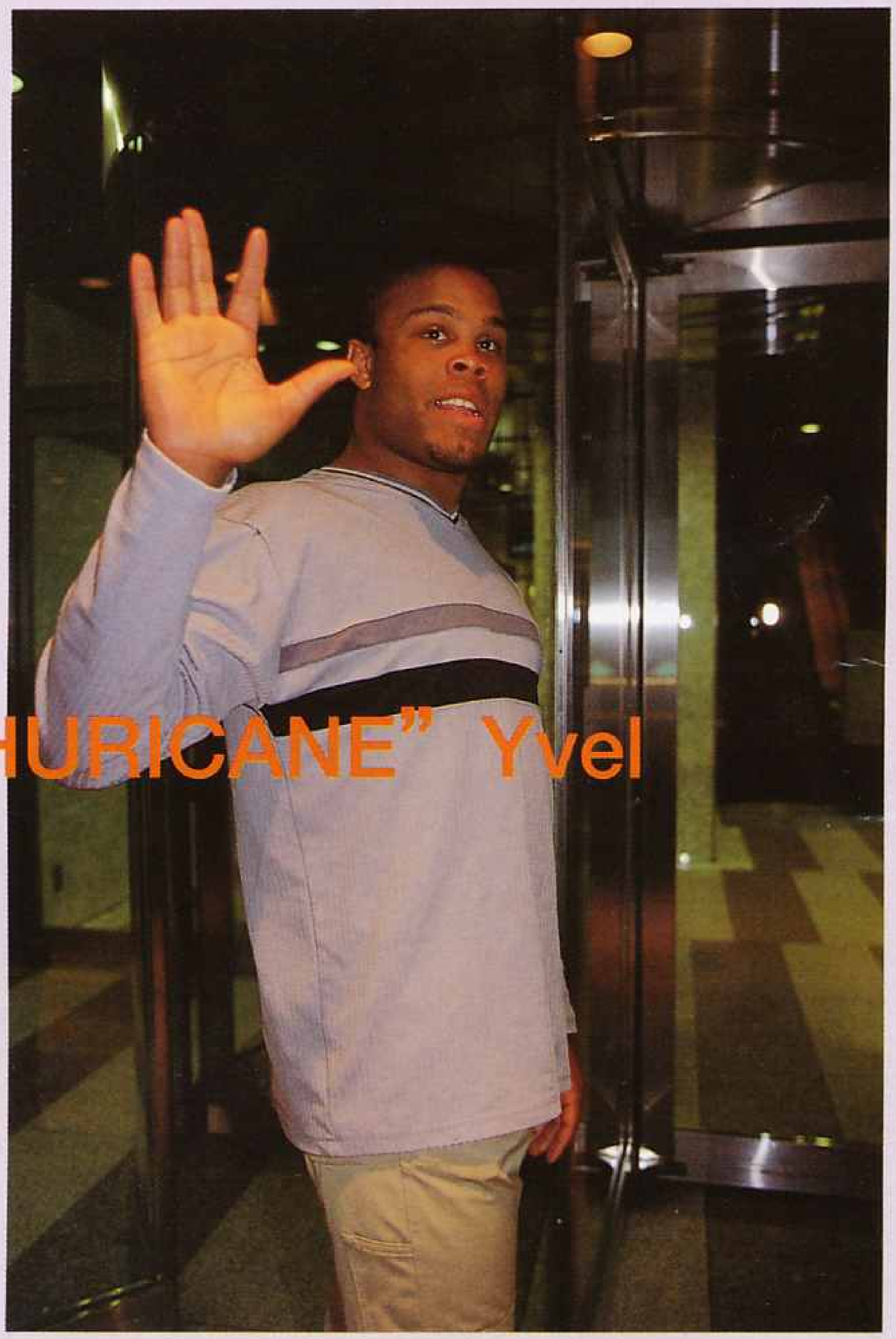
**アイブル**　イレイナはオレの女だ！　欲しかったらオレを倒してみろ！　ガハハハハ！

――アハハハハ！　どんなファンへのメッセージだ（笑）。まぁでもアイブル選手らしくていいからノー問題！　それじゃあ行きますか――ッ!!（笑）。

**アイブル**　（日本語で）イッテキマ～ス（笑）。

**【5月2日　都内中華料理店にて収録】**

**ノー天気この上なし！**
**リングス王者が『PRIDE』に移籍という、ことの重大さをまったく理解していないアイブル。しかし、この野生児を殻に閉じこめておくのは、遅かれ早かれ不可能だったのだろう。どこへ行こうとアイブルはアイブル。ボーイズはボーイズなんである（フミ斎藤調）。アイブルを「裏切り者」というリングスファンもいるだろうが、ハンセンが全日本に移って不動の外人エースになったように、アイブルも『PRIDE』のトップに立って欲しい。アイブルのピュアなバカ話を聞いて、ボクはそう思った次第なのだ。**



## Gilbert “HURICANE” Yvel

1976年6月30日、オランダ・アムステルダム出身。187cm、101kg。アムスの危険地帯で生まれ育ち、ケンカに明け暮れる中トレーナーに拾われて格闘技の世界に入るという、「あしたのジョー」そのまんまの経歴を持つ。97年からリングスに参戦。遂に無差別級王者となるもその10日後に離脱を表明した。

格闘連鎖2000




### “リングス・オランダ” アイブルTシャツ プレゼント!!

アイブル本人も大のお気に入りの、お馴染み中川画伯制作アイブルTシャツを2名様にプレゼント。背中に「リングス・オランダ、ギルバート・アイブル」と書かれているので、貴重になることこの上なし。宛先はP159参照。




# 激突する師弟！ 火花散る恋愛相談!!

# 田中健一 VS 佐山 聡

【格闘結社「田中塾」代表／修斗初代ライト級王者】　【「掣圏道」代表】

## “恋も格闘技も実戦派”師弟対談

本誌21&22号で「自分はミネラルウォーターしか飲まないッス。最近、付き合いでコーラは飲みますけど」など、ご機嫌なセリフを連発してくれた武骨な日の丸格闘家、田中健一。そして本誌ではもちろんお馴染みの邪悪なイタズラ好きの佐山聡がついに対談！

修斗時代はもちろん、現在も『掣圏道』の佐山代表、田中大佐というビシッとした上下関係を保つ二人が師弟の絆を超えて語りあった、そのテーマは意外にも「恋と格闘技」。衝撃の内容をおくる。

司会／中村カタブツ君（37歳）
interview by Katabutsukun Nakamura

撮影／田中“ハナミックス修業中”花海
photographs by Hiromi Tanaka

**5月9日、後楽園ホールでの掣圏道の興行前に、掣圏道代表・佐山聡と格闘結社田中塾代表・田中健一の白熱の師弟対談が実現。対談前、「佐山代表には言いたいことがある」と語っていた日の丸男タナケンだが、やはりそこは佐山。その語りのテクニックは格闘技同様、卓越したものを持っていたのである。というか、ほとんど反則だったのであるが……。**

**佐山** 押忍！（敬礼） 今日は甘いものは一切要らないですからねぇ（笑）。甘〜い"恋の話"をしますのでよろしくお願いしま〜す（笑）。

——恋話なんですか？（笑）

**田中** 自分そんな話は聞いてないですよ！ 実践格闘技の話じゃないんですか！ もうちょっとトイレ行ってきます（と、いきなりトイレに行ってしまう、タナケン）。

——なんか、慌ててましたけど、どうしたんですか？

**佐山** うふふふぅ（笑）。トイレ行ってるから言っちゃうけどぉ、いま、サボテン（佐山命名によるタナケンのあだ名）、恋にはまっちゃってんの。アハハァ。肥にはまっちゃってるわけじゃないですよぉ（笑）。

——え！ ホントですか？（笑）

**佐山** 「絶対、先生には相談出来ない」って言ってますね。「危ない」って言われて（笑）。

——全部喋っちゃうから（笑）

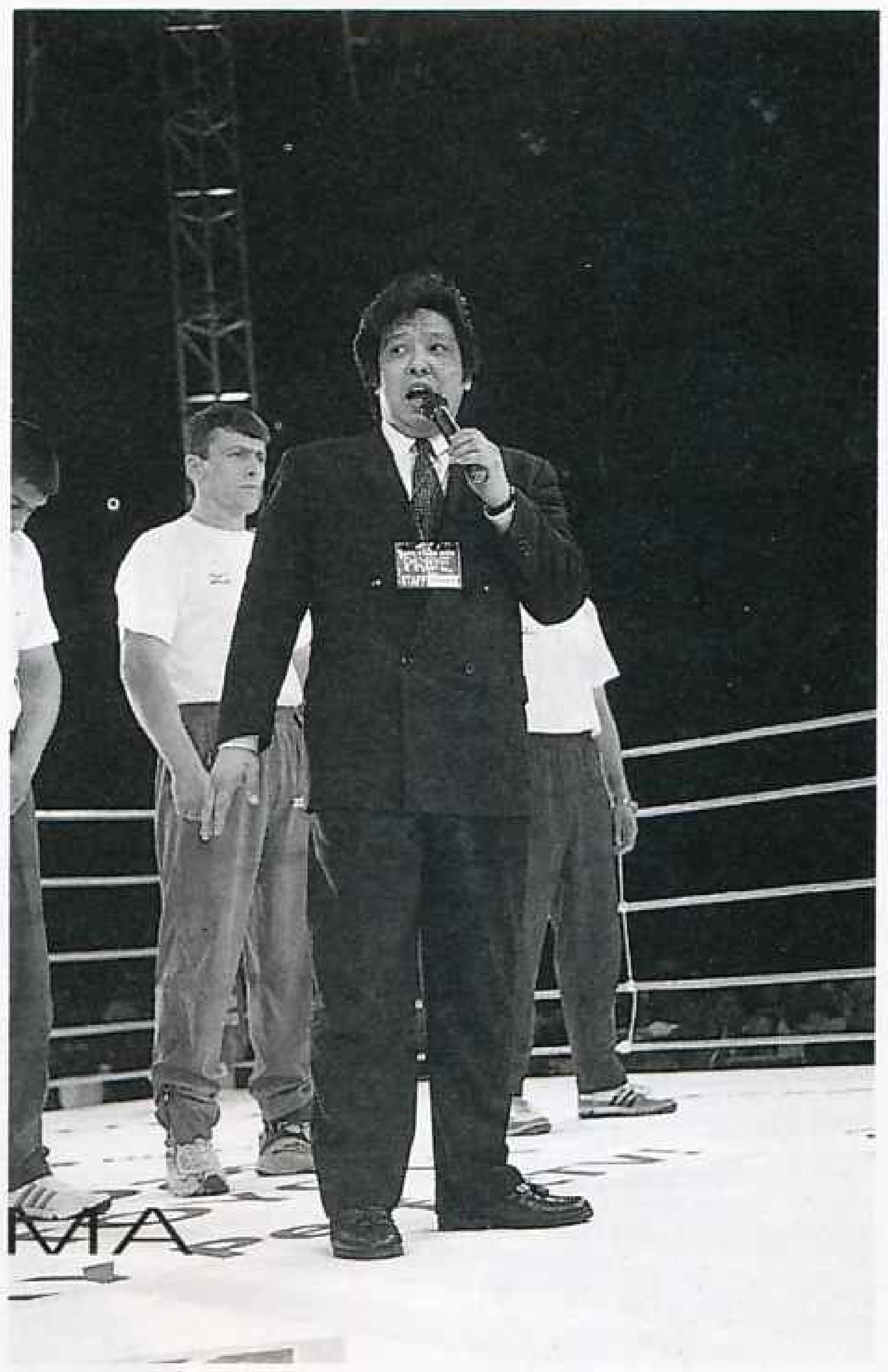
**佐山** はぁい、喋っちゃいま〜す（笑）。

——ヒドイなぁ（笑）。あ、田中さんが戻ってきましたね。今日はですね、非常にざっくばらんにお話していただきたいなと思ってまして。で、いまチラッと聞いたんですけど、田中さんはいま恋をしてらっしゃるんですか。

**田中** いやぁ、その話はあんまり触れないで下さい。

——え！ ちょっと待ってください。佐山さんの悪い冗談じゃなかったんですか!?

## 今日はサボテンの恋の話をしま〜す（笑）（佐山）



5月1日、『PRIDE』のリングに上がった佐山代表は「リングの上でゴロゴロ転がってるプライド選手のみなさん」とリップサービスに見せかけて、タチの悪いイタズラ心を爆発

**田中** いやぁ、ここ1、2年、自然に女性と出会う機会がなんかやたら滅多ら多くなったんですよ（笑）。でもそのあとは別になんともないですよ。相変わらずのサボテンっスよ！（笑）佐山代表、自分のイメージが崩れるようなことは言わないで下さい！

**佐山** もし誌面で「I LOVE YOU」なんて言ったらねぇ（笑）。

——うまくいくんじゃないですか（笑）。そういえば、「I LOVE YOU」ってタチの悪いコンピューターウィルスが問題になってましたね（笑）。

SATORU SAYAMA

**佐山** （机を叩きながら）アハハハァ！ ひっどいな、タチの悪いウィルス（笑）。もう、ウィルスみたいな顔してるからねぇ。もうれしいなあ。こいつにはワクチンが必要だよねぇ（笑）。俺ね、こんだけこいつのことバカにするのも初めてよ、普段、怖くて口聞けないんだから。うふふぅ（笑）。

**田中** え〜、宮本武蔵だって、やっぱり女を我慢すること出来なかったし、……でも俺なら出来ると思ったんですけど。

**佐山** アハハ！ だってサボテンの木はね、あれは棘があるからみんな嫌がるけど、棘がなくなっちゃったらねぇ、ちょっとまずい形ですからねぇ（笑）。

**田中** ……俺みたいな考えの人間が、日本にも何人かいると思うんですよ。だから、俺の中でも自分の"田中像"を崩してはいけないんですよ！

**佐山** （司会に向かって）信用出来る人間でしょう、ねぇ（笑）。

——いや、それは絶対間違いないところです（笑）。

**佐山** サボテンも昔はすっごい堅かったから、いまはもう……やっぱ堅いけどぉ（笑）。本当にいい人材なんですよぉ。

**田中** でもやっぱり芯残ってますよ。ゴマすりとか出来ないッスよ、自分。

**佐山** （司会に向かって）ねぇ、いいでしょう（笑）。

——だからこそ、モテると（笑）。

**田中** やぁ、ですから、ここ1、2年ですよ。やたらめったら女性が集まってくるんですよ。

**佐山** それは掣圏道のおかげ？

**田中** 掣圏道は関係ないですね！

**佐山** もう怖いんですよねぇ（笑）。でね、やはり、人間的な部分がそれだけ大きくなった分だけ、人が寄ってくるんですよ。女の子だって、格好良くてもスケベったらしくてどうしょうもないのよりは、ビシっとしてて信用を置ける奴の方が、最終的にはある程度モテるんですよ。

——最終的にある程度（笑）。

**佐山** ある程度ってそれはサボテンに失礼だけどぉ（笑）。でも、それが今ちょうどいいところになりかけてるんですね。だけど、年取ってから、覚えちゃうとすごい方向に行っちゃいますからねぇ。それが怖いですねぇ（笑）。

——ヘタに実戦積んじゃうと（笑）。

**佐山** そうそうそう。「千人切りします」とか言い出したりとかさ（笑）。

**田中** そうなったら自分は一人を守りますよ！

**佐山** こいつの性格はやっぱねオンリーワンだと思うよ。で、騙されるか捨てられるか（笑）。失恋して失恋して何回も繰り返して、強くなっていかなくちゃいけないと思うの。やっぱりそのくらいでないと男の度量っていうのも広がらないから、やっぱりいっぱい経験……いっぱい経験したら怖いかぁ（笑）。

**田中** 自分、イランに行ったときにもやったらモテたんですよ。考えられなかったですよ。あれはどういうことですか？

**佐山** それはイランだからだろう（笑）。

**田中** 本当考えられないッスよ！

**佐山** メキシコもそうだけど、日本人はモテるんですよ。ある地域ではすっごいモテるの。多分イランのある村とかは、トカゲを食ってたりとかさ（笑）。

**田中** いや、だけど、凄かったですよ。イラン人の女性は昔の日本人女性のような

ってきましたね。今日はですね、非常にざ

淑やかさがあるんですよ。だから厚底サンダルやあんなのとんでもないですよ！

**佐山** とんでもないで〜す（笑）。

——ところで、どうしてモテたと実感されたんですか？

**田中** それが佐山代表のお陰も絡んでくるんですけど。

**佐山** うん！（笑）

**田中** 外国人って一つ何かあれば認めてくれるじゃないですか。元シューティングのチャンピオンだったということで、すごい認めてくれて。それでどこの馬の骨だかわかんない自分を家に泊めてくれて、メシも食わせてくれて。アメリカ行ってる時なんか、ほとんどそうでしたよ。

**佐山** それがモテたって言うの？

**田中** モテたのは別ですけど。

**佐山** まぁね、チャンピオンっていうのは一生のモノだからねぇ（笑）。

**田中** そうですよ。日本じゃ考えられないですよ。こういう話になったから言いますけど、もし自分が結婚することになったとしたら、外国人でしょうね。日本人じゃないですよ。

——大和撫子じゃなくていいんですか？

**田中** もちろん大和撫子はいいですよ。でも自分の力だけじゃ限界があるじゃないですか。だから日本人ってことは多分ないと思いますよ。

——えっ？ 今付き合ってるのは外人女性の方なんですか？

**田中** はい、そうです！

——カァー！ これ書いちゃっていいですか！

**佐山** 書いちゃってくださ〜い（笑）。

**田中** いっ、いやぁ〜……まあ、一旦、口にした以上はいいですよ！

——さすがは日本男児！（笑）ほかの国

タチの悪いコンピューターウィルスが問題

でもモテたんですか。

**田中** アメリカでは身振り手振りで。それ以上は言いません。

**佐山** え！ 何、それ？ アメリカでもあったの？ 何だ、結構やってんな、こいつ（笑）。俺はそういうの全然ないから。

**田中** 佐山代表は、一応四ヶ国経験してます（笑）。

**佐山** な〜に、言ってるんだよ。もうやめよう、対談やめよう！（笑）今日は「田中はストイック」っていう話をしようと思ったのにさぁ（笑）。

**田中** 何を言ってるんですか！ 自分がせっかく実戦格闘技の話をしようとしてるのに話をはぐらかしてばっかりなのは佐山代表の方じゃないですか!!

——まあ、とりあえず、お二人の出会いからお聞きしたいんですけど、田中さんに以前お話をお伺いしたときに、「佐山さんからはほとんど習ってない」っていうことをおっしゃってたんですけど。

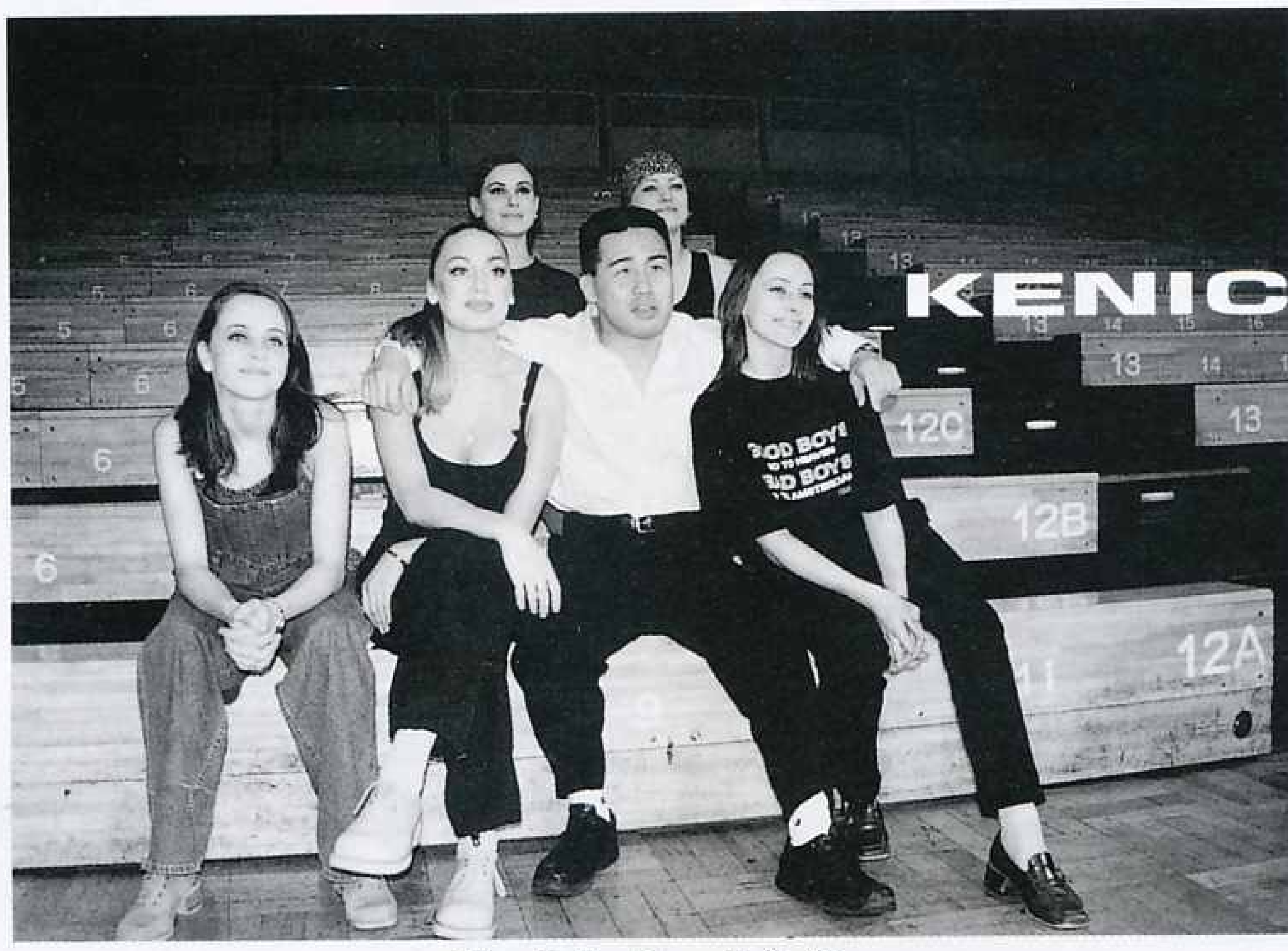
**田中** ぶっとばされたことは一杯ありますね。それが百の技術より一の経験ッスね（笑）。

**佐山** やっぱり、恋も格闘技も厳しい中から入らないとねぇ（笑）。そこを通ってくる人間と、通ってない人間って実戦が違うわけですよね。そこを通ってない人間っていうのは、やっぱり試合でもすぐ諦めたりするね。でも、サボテンは諦めなかったよ。闘う為に生まれた、犬で言えば闘犬ね、そういうような素質を持ってるから。最初あんまり印象なかったんだけど（笑）。うふふふぅ。だけど、

**田中** 掣圏道は関係ないですね！

あんまりにもあーんまりにもストイック過ぎるんで、やっぱり印象に残ってくるわけですよね。喋らないし、チョコレートも食べないし、ジュースも飲まなかったよなぁ（笑）。

**田中** 自分、本当にミネラルウォーターと牛乳とお茶。飲んだとしても100%ジュースかスポーツドリンクですね。これしか本当に飲まなかったですから。



## KENICHI TANAKA vs SA

これが、『掣圏道』にやってきたロシア美人をも魅きつける日本男児タナケンの実力だ。"最終的にはある程度"モテるなどとんでもないモテっぷりである

# 失礼ながら佐山代表への憧れは全然なかったです！（田中）

**佐山** で、ある日ね、道場に入ったんですよ。そしたらサボテンが「わーん」とか泣いてるんですよぉ。なぁ（笑）。

**田中** もう何回も聞いてるんでやめましょうよ、その話は。

**佐山** 普通はこいつ、狼の目をしてますけど、その時は少女漫画の主人公みたいな

ラン人の女性は昔の日本人女性のような

目になっちゃってて、「先生、練習終わって我慢出来なくて…炭酸ジュース飲んじゃったんですよ」って泣いてるんですよ、道場の隅で（笑）。

**田中** あの時はなにかに取り付かれたみたいに格闘技に燃えてたんですよ（笑）。

**佐山** 僕はそれを聞いた瞬間、笑い堪えることしか考えてないから「早く、表に出よ」って思ってぇ（笑）。アハハハァ！

**田中** （司会に向かって）ですから、前にも『紙プロ』さんで話しましたけど、もともと格闘技を始めた理由が二人組にカツ上げされて、それで強くなりたくて、本屋で立ち読みしてシューティングを知って。で！ そのときに失礼ながら佐山代表については知らなかったんですよ。元タイガーマスクってぐらいしか知らなかったですよ。それで、また失礼ながら佐山代表への憧れも全然なかったんですよ！ 大山倍達には憧れましたけど。その格闘技がたまたま佐山代表がつくられた格闘技だったんで。

——憧れもなくたまたま入ったところがシューティングだと（笑）。

**佐山** ヒドイよねぇ（笑）。

**田中** パンチ、蹴りもあって寝技もあって、これは完璧だと思ったんですよ。

——初めての佐山さんとの出会いはいつくらいだったんですか？

**田中** 初めて佐山代表と会ったのは、津田沼ジムですね。津田沼道場の前の津田沼ジム時代に佐山代表が教えに来てくれたんですよ。あのときが初めてですね。

**佐山** 全然覚えてないなぁ。最初の出会いはどの選手も覚えてないんだよ。

——佐山さんを一番初め見たときは「これが総帥だ」みたいな身体が震えるものとかはありました？

**田中** また失礼ながら、それもなかったたん

ですよ（笑）。

**佐山**　尊敬の念がなかったの、俺のこと？

**田中**　いや、ふつーうの先生かなって（笑）。いきなり「俺はそんなに優しい人間じゃないから」って言いながらも本当に優しかったですよ。ですから、怒りの中にも意味がある怒りじゃないですか。

**佐山**　本当はね、それがバレちゃいけないの。今だから言えるけど、本当はね、選手をぶん殴ってた、あの竹刀は一番硬い紐を抜いて、ブランブランにしておいて「バチーン」と音が出るようにしておいたんですよ。音は凄いけど、すぐ折れるでしょ（笑）。そうやってアドレナリンを上げさせてやんないと、いざ闘うって時に続かないでしょ？　アドレナリンを上げることを覚えた人間はもう大丈夫なんですよ。だけど、そういうことも知らない人間が偉そうなこと言ってるから、おかしくなるんですよぉ（笑）。テクニックがどうのこうのとか言って。こっちはテクニックがあるから喋るだけですからねぇ。

**田中**　テクニックはあとから付いてきますからね。







インタビュー後に行われた『掣圏道』の大会の様子。路上で使える技術の数々をロシア人たちが過激に披露

**佐山**　だからそういう気持ちを持ってる人間は、素質もあると思うけどね、最初から。だけど、サボテンはホント、最初は堅かったの。あのね、シューティングって最高位にシューティストっていう位があるんだけど、こいつも次の候補なんだけど。で、ある日、こいつが「メモリー機能付きの腕時計買いました」って言うんですよ。「この腕時計１００人まで入るんですよ。バカにしないで下さい！」って。だから「お前なぁ、１００人全部、女の子の電話番号を入れたら、シューティストにしてやる」って言ったの（笑）。アハハハァ！

**田中**　不可能です。自分が持ってる経験を全部出しても全然役に立たないって言うか。

――トライはしたんですか？（笑）

**田中**　しないッスよ、別に。

**佐山**　１００人入れたら、50人位はコピーしちゃおうかなと思ったんだけどぉ。いまは……うふ（笑）。これは言わないでとっておこう。うふふふぅ（笑）。

**田中**　……ですから、今日は佐山代表に、いろいろ格闘技のことで言いたいことがあるんですよ！

**佐山**　おまえ失敗したよなぁ、俺に弱み握られてぇ。うふふふぅ（笑）。

**田中**　全然、気にしないッスよ。

**佐山**　そぉんな怖い顔しなくていいよ、サボテン（笑）。

**田中**　じゃあ、何喋ったらいいスか。

**佐山**　（即座に）実戦とは？

**田中**　（すかさず）実戦とは寝技よりも投げ技ですよ。現代社会はコンクリートですから投げて叩き付ければ決着つきますよ。（声を大にして）だけど投げよりも蹴りですよ！　道が砂利道だったり砂浜だったりした場合は、投げよりも蹴りです。でも蹴りよりも膝蹴りですよ！

**佐山**　（タナケンが実戦論を力説する中、店のメニューを見出す佐山代表）

**田中**　でも膝蹴りよりもパンチですよ！　トイレの中でも使えるパンチですよ！　ヒジ打ちは当てるのが難しいし、頭突きは石頭じゃないと。だからやっぱり実戦だったらパンチですよ！

――佐山さん、聞いてますか（笑）。

**佐山**　聞いてますよぉ、やっぱり「さすがだなぁ」って思いますねぇ（笑）。ホント、やっぱり実戦っていうものは、場数踏まないとダメですよね。場数を踏んでない奴は、あせっちゃって何にも対処出来ないんですよ、そうだろ？

**田中**　負けちゃいます。

**佐山**　そうだろ、そうだろ。うふふぅ（笑）。例えば恋と一緒（笑）。

**田中**　例えれば、それはそうですけどね（笑）。あとはその時の条件反射ですね。

**佐山**　要するにパンチもキックも全てそうなんですよ。田中クラスになれば全部わかってますけど、要するに全てバランスですね。投げにしてもパンチにしても膝蹴りにしても、全てバランスを備えてこそ。それがとにかく実戦でしょうね。ポ～ンと抱きつかれて、ポ～ンとひっくり返るような格闘家じゃ、これはもう喧嘩出来ないわけですよ。

――日本人で初めてヒクソンと闘ったのって田中さんじゃないですか。佐山さんは田中さんから、その時の話は聞いてらっしゃいます？

**佐山**　聞いたっけ？

**田中**　言ってないですね。そんとき自分、佐山代表に文句ばかり言って仲が悪かったんですよ。

**佐山**　シューティングのポスターに「漢字使え」とか、「日の丸入れろ」とかね（笑）。

**田中**　〝SUPER　SPORTS〟とかアルファベットばっか使ってましたから。日本で生まれた格闘技だから漢字を使ってほしかったんですけどね。もちろんインターナショナル的にしなきゃいけないっていうことで、アルファベット使ったんでしょうけど。まあ自分もいまはアルファベット使うようになりましたけど（笑）。

**佐山**　こういう人たちがいるからね、疲れるわけですよ、私も（笑）。

**田中**　だけど、格闘技は絶対立ち技ですよ。立ってる人間が強いんですよ。大体、試合が始まるのだって立った状態からスタートするじゃないですか。人間は普段立ってるわけですから一番理想的なのは、足の裏以外マットに付けないで闘って、終えることでしょうね。

**佐山**　だから、藤原敏男先生の酔っ払ったときの強さ！（笑）10人くらいふっとば

からね。
いろいろ格闘技のことで言いたいことがあ
（笑）。あとはその時の条件反射ですね



## 佐山代表の口から“押忍”は合わないッスよ！（田中）

**KENICHI** TANAKA vs **SATORU** SAYAMA

しちゃうからねぇ。だから酔っ払っても、バランスだけはしっかりして、急所だけはしっかり守ってててって、そういうふうな人間になってほしいなと思いますよぉ（笑）。

**田中**　そうですよ！　自分も今だに外を歩くときは警戒して歩いてるんですよ。だから風邪ひいたときとか体調悪いときとかは、あんまり外に出ないですもん。何かあって対処できなかったら嫌ですから。

**佐山**　俺も風邪ひいたときは外に出ないですよ。こじらしちゃうからね。うふふふぅ（笑）。

**田中**　日本だけなんだよね、夜に女性が一人で歩けるのは。

――さすがは世界各国の女性を知ってるだけあって（笑）。

**田中**　日本人にしようか外国人にしようか悩んでるんですけど。それは冗談ですけど（笑）。

――ワハハハ！　ところで、田中さんは敬礼式押忍についてはどう考えてるんですか。

**田中**　自分は普通の空手式の押忍のほうが好きスっね。道場でもこっちですし。失礼ながら佐山代表の口から『押忍』は合わないって言うか。

**佐山**　「合わない」って、お前は恋の相談者に対して失礼だよぉ（笑）。

**田中**　いつも思ったことベラベラ喋りますけど、今日はこれでもちょっと考えながら喋ってるんですよ（笑）。

**佐山**　そぉ（笑）。〝押忍〟って言うのは相手に敬意を表してやるんですよ。でも、サボテンがやりだしたらちょっと危ないほうの意味に取られちゃうんですよねぇ（笑）。

――どうも右っぽいと（笑）。

**佐山**　誤解されちゃうんですよねぇ（笑）。

**田中**　ところで、佐山代表、昔、マスク被ってたころのシューティングがありましたよね。

**佐山**　うん。

**田中**　自分、あの時代が大好きだったんですよ。寝技のブレイクの仕方とかが理に適ってましたから。実戦っていうことを想定して佐山代表も、あのルールをつくったと思うんですよ。それで、自分はあの頃のシューティングよりブレイクを早くしたいんですよ！

**佐山**　う～ん、なんだかわかんないけどぉ（笑）。とにかく自分としては街の中で対面した場合に、倒れるまでのシュチュエーションを何回も何回も経験して、それで強くなってもらいたいんですよ。中途半端な寝技や、中途半端に立ち技をやるんだったら、徹底的に足腰の練習したほうが一番いい状態になっていくよ、と。そうしないとバーリトゥードという、あのルールで勝てなくなってくるわけですよ。だから最初のバリジャパはシューティングのトーナメントにするつもりだったんですよ。だけど、ヒクソンがシューティングトーナメントに出たら勝てないでしょ？

**田中**　勝てないですね。

**佐山**　ヒクソンもそれをわかっててね、「これを変えろ、あれを変えろ」って言うから、「ならバーリトゥードにしましょう」って。それで大会を大きくしていこうと思ったから。って言うことは反対に言えば、シューティングばっかりやっているとバーリトゥードで勝てなくなってくるっていう、そういうニュアンスなんですよ。だったら自分が欲しいのは、立ち技で本当にバランスを持ってる人間ですね。相撲取りって強いですよ、あの強さでパンチやキックがあって、倒せるような人間を僕は作りたい。そういうスーパースターを見てみたい。

――その辺は一緒ですか？

田中　いや、また佐山代表に文句っぽい言い方になっちゃうんですけど（笑）。ヒクソンが来日した時とか、柔術が最高みたいな空気になって、それで佐山代表がシューティングのルール変えましたよね。寝技のブレイクがほとんどなくなって、寝技になったら、ずっと寝技になるルールになりましたよね。

佐山　そうだね。

田中　自分それで、こんなの実戦的じゃないと思ったんですよ！「佐山先生何を考えてるんだ」と怒りを感じて、それでキックのほうに行ったんですよ。そんとき俺二年くらいシューティング去ってましたからね。シューティングの会場にも行かなかったし。あの時、佐山代表は何であっち方面行っちゃったんですか！

佐山　あのね。寝技のポイント制って、試合用とかって意味じゃないんだ。寝技の場面のどこを取るかっていうことだから。例えば5秒でも10秒でもいいから切り取って、それが街中での闘いの場面を想定してるの。例えば、これは名前を出さないでもらいたいんだけど、●●っているよね。彼は打撃もできるし、寝技も強い。じゃあ彼に、何が足りないの？

田中　う〜ん……。

佐山　途中だよ。レスリングの状態が足らないんだよ、寝技に頼っちゃったりして。これは当時の殆どのシューターがそうだったのね。それを一封したくてとにかく足腰だけでも作りたいと。

田中　でっ、ですけど！

佐山　ちょっと待ってね（笑）。なぜかと言うと、寝技の押さえてるポイントを作ることによって、足腰の部分が出来てくるわけよ。だから、あのルールを作ることで、あいつらは必死で「レスリングやらなくちゃいけない、いけない」って思うわけよ。そうしないと打撃も中途半端。関節技も中途半端ってなっちゃうんだよね。

田中　でも、自分はそのもっと前にタックルっていう技術ありますよね。自分、タックルなんてほとんど練習したことないんですけど、打撃が出来ればタックルはやる必要ないと思ってるからですよ！　もちろんタックルを切る技術は必要ですよ。

佐山　それでいいのよ。

田中　アマレスの合宿行って、タックル切る技術は学びましたよ。でも、タックルは自分から行くってことは一回もないですよ！　練習メニューにもないです！

佐山　それでいいの。無理してタックルに行く必要もないのよ。それは選手のタイプによってだから。ね。例えば、それはサボテンの攻め方だと思うんだ。タックル行かなくたって、そこで潰せばポイントだから。わかる？　で、これは名前出さないでほしいんですけど、例えば●●（笑）。

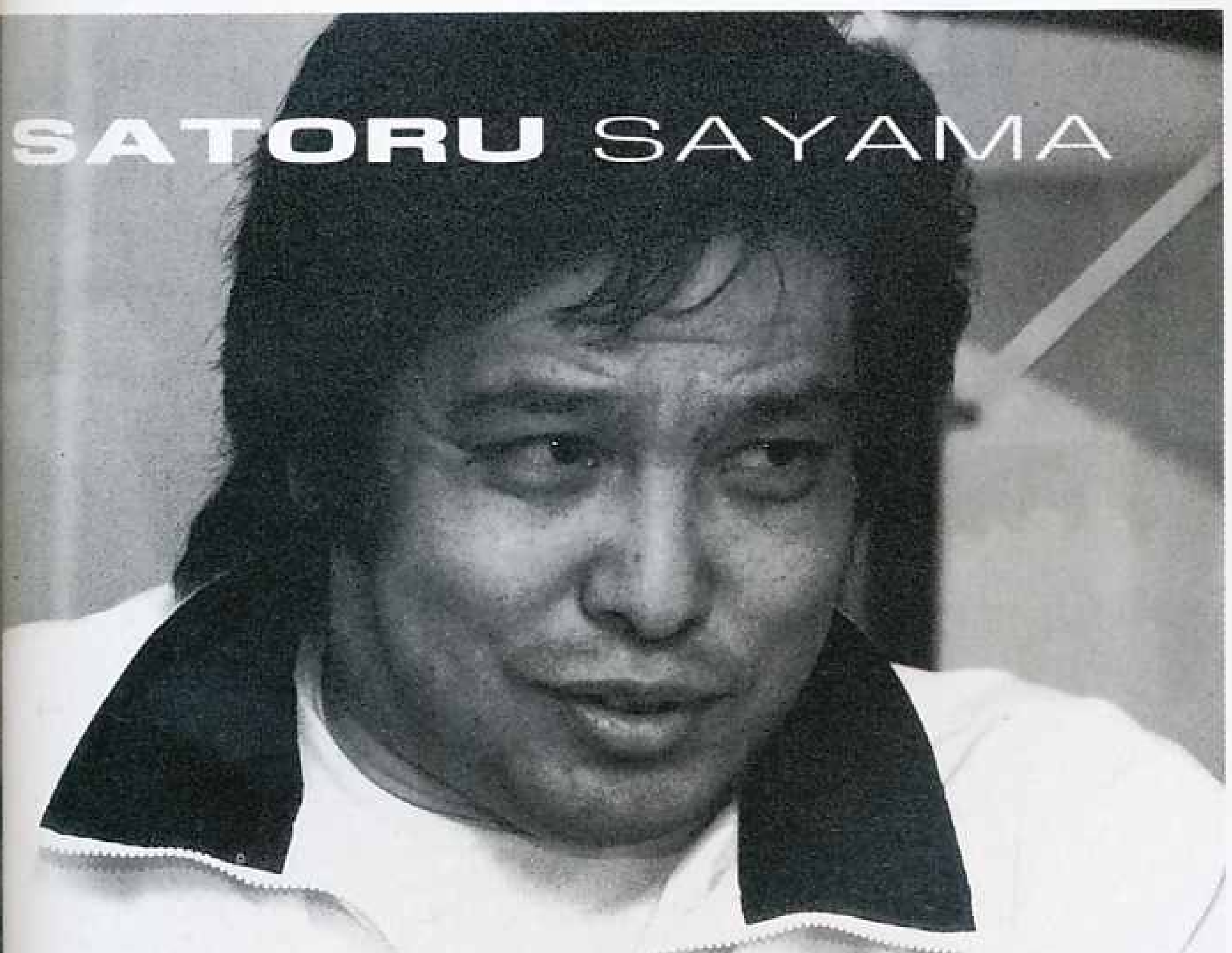
——すいません、名前を出した方がいいんですか（笑）。

佐山　もちろん、ダメですよぉ（笑）。で、●●にアマチュアレスラーがタックル入ったらポイントになっちゃうわけよ。これ負けじゃん、今のバーリトゥードでもなんでも。ところが、サボテンみたいにタックルをやらなくても、タックルを外して上に乗っかっちゃったりしたら、これ、サボテンのポイントじゃない。だからそうなれば一緒なんだよ。

田中　だから、自分はこっちだったんですよ。

佐山　それでいいの。あのポイント制っていうのはタックルを切る場合でもいいの。上になればいいんだから。

## サボテンは可愛いですよ。可愛いって言ったら失礼だけど、可愛くないけど（笑）（佐山）




田中　その前に立ち技で決着つけるんですよ！

佐山　それが難しいけどね、それは非常に難しいことだけど。あの時は、そういうことも可能になるテイストをつくっておかなきゃダメだったんだよ。そうしないと強くならないから、選手が。

田中　でも、あの時、打・投・極ルールを残していって、「アルティメットがどうのとか、グレイシーがどうのとか」って言って来たらうちのルールでやってみろとか、そういうのはなかったんですか！

佐山　だからねぇ（笑）。やってくれないと思ったもん、ヒクソンは絶対に。あのね、俺はヒクソンと交渉してるんだから（笑）。最初のバリジャパもシューティングトーナメントでやるつもりだったの。だけど、ヒクソンは「あのルールはやめてくれ」とか、「それはやめてくれ」とか、全部言うんだもん。それで俺は面倒くさいから、「じゃあ、バーリトゥードのルールで何でもありのルールにしましょう」って言って、そこからヒクソンに対しては「シューティングルールを通すのはやめよう」って思ったの。

——田中さん、どうですか。ルール問題とか、もやもやしたものは解消しましたか？

田中　結局、自分の考えた方は喧嘩になっちゃうんですよね。やっぱり今の自分が作り始めた実戦格闘技大会は新空手や空手の選手がエントリーしても勝てますし、相撲やレスリングや柔道の選手が出てもポイントは取れますよ。そういう風にルールを作ったんですよ。ポイント制は、佐山代表から聞いたアドバイスで作ったんですよ。

佐山　もうね、僕の意志継いでくれてるから、全〜然何も文句ないですよぉ（笑）。

田中　だけど、来てくれないんですよ、会場に！

佐山　そんなことないですよ、たまたまですよぉ。

田中　（大会パンフレットをバックから出しながら）ちょっと見てくださいよ、これ、金かかってますよ！　アマチュア大会でこんなの作るなんてないですよ、佐山代表！

佐山　ないねぇ（笑）。

田中　非公開入れて三回ですよ。三回もやってるんですよ！

佐山　だぁって仕事なんだもん、しょうがないですよ（笑）

田中　俺とはもうかかわりたくないんですよ。

佐山　それはありますよぉ（笑）。でも、すごい可愛いですよね。可愛いって言ったら



失礼だけど、可愛くないけど（笑）。
田中　心にもないこと言ってくれてますね
に教えてることですよ。
人には教えられないで
AKA
うのこうのっていう問
題じゃなくて、自分の
佐山　こいつは本気で言うけど、僕はリッ
プサービスですからねぇ（笑）。

失礼だけど、可愛くないけど（笑）。
**田中**　心にもないこと言ってくれてますね（笑）。
**佐山**　心にも思ってますよ。パンフレットの言葉だってちゃんと気合い入れて書いてますもん。
——「田中はかなり正確にこの競技をまとめるであろう」って書いてありますね。
**佐山**　もう見てればわかりますよぉ（笑）。
**田中**　一回も見たことないじゃないですか！（笑）
——ワハハハ！　さらには「シューティストの称号を与えたい」って、また言ってますね（笑）。
**佐山**　本当はもうシューティストにしてもいいんだけどねぇ（笑）。
**田中**　自分、シューティストの意味がよくわからないんですよ。全然知らないし。
**佐山**　シューターの最高位だよ。ホント、ヒドイよなぁ（笑）。でも『掣圏道』の大佐でもう十分でしょう（笑）。
**田中**　ここだけでいいから読んでください！（とパンフのタナケンの挨拶を見せて）
**佐山**　え〜と、「少年の頃、僕はカツアゲをやった」。ダメですよぉ、カツアゲしちゃあ（笑）。
**田中**　そんなこと書いてないッスよ（笑）。はぁ、なんか、今日は70％くらいセーブしてますよ。
——ワハハハ！　ですけど佐山さんにここまで言えるのは田中さんだけですよ（笑）。
**佐山**　う〜ん、さすがだね（笑）。
**田中**　また腹の底じゃバカにしてるんッスよ！（笑）
**佐山**　そんなことないですよぉ（笑）。サボテンさんの前でホント（笑）。うふふふ。一番こいつが成長してるっていうのは、人に教えてることですよ。人には教えられないですよ、成長してないと。それでこういうことを言えるようになってきたんだと思いますよ。
**田中**　いつも自分の道場生に言ってるんですけど、一つ何かないとダメですよ。総合的に技術を覚えて、それから一つ飛び出てないと絶対に勝てないと思うんですよ。チャンピオンなんか絶対なれないですよ。パンチだったら当たれば必ずダウンを取れるとか、寝技だったら必ず一本取れるとか。もしくはベンチプレスやスクワットで何百キロも持ち上げるだけの力を持ってるとか、一つ人より飛び出たものがないと、絶対試合では勝てないですよね。だって、チャンピオンになってる奴って、変わってるじゃないですか、性格も。
**佐山**　アハハァ！　変わってるよねぇ（笑）。
**田中**　だから、なんか変なところ持ってるじゃないですか。自分も含め、何か変わってるんッスよ！
**佐山**　変わってる、変わってる。間違いないで〜す（笑）。
——え〜（笑）。では、最後に今回の『PRIDE』参戦に関してですけど、『掣圏道』対『PRIDE』は今後どのように展開していくんですか。
**佐山**　長い目でみれば、『PRIDE』どうのこうのっていう問題じゃなくて、自分の理想格闘技に世界が付いてきてくれてる……っていうのは失礼だねぇ（笑）。なんて言うのかな、そういうふうに世界がなってくれるのがいいですね。
——世界が付いてきてくる（笑）。
**佐山**　一刻も早く、掣圏道でいうところの立ち技とか、本当に強いパンチが出来て全部が出来てっていう、そういうスーパースターを見てみたいじゃないですか。それで『PRIDE』は一つの利用っていうわけじゃないですけど、いい試合してくれればいいと思ってるだけだから。
——そういえば『PRIDE』のリングでもいいマイクアピールしましたよね。「リング上でゴロゴロしてる『PRIDE』の選手の皆さん」って（笑）。
**田中**　なんか、言われたみたいですね（笑）。
**佐山**　結構言ってきたね。ああ言わないと、お客さん来ないと思って（笑）。
**田中**　自分もやっぱり同じこと言ってると思いますよ。自分も同じ立場だったら絶対、同じこと言ってると思いますよ！

## また腹の底じゃバカにしてるんッスよ！（笑）
（田中）




**佐山**　こいつは本気で言うけど、僕はリップサービスですからねぇ（笑）。
**田中**　結論としては、いつまでも正義の心を持った人間でいると。"正義"の気持ちを持って生きていきましょう、佐山代表‼
**佐山**　申し訳ありませ〜ん（笑）。
——ワハハハ！　抜群のコンビですね（笑）。
**田中**　いや"正義"ですよ。佐山代表も"正義"ですよ。やっぱり、綺麗な純白な真っ白な中に、真っ赤な赤ですよ（笑）。
**佐山**　決まりましたね。理想は国旗！（笑）

**【00年5月9日ビッキーズにて収録】**



**【正義の味方のプレゼント】**
まずは日本一のUFOプロキャッチャー・田中大佐からデビルマン・フィギュアをプレゼント。まさに田中大佐からの贈り物としては、これ以上ない極上のチョイスであろう
●宛先は本誌編集部「悪魔の力と顔を身につけた正義のヒーロー係」まで（住所は読プレに同じ）

――え〜、プロレスデビュー戦を終えた

**本当にプロレスやって**

ですよ！「アレ？おいおい、天井じゃないよ。客だよ、客！」って（笑）。

**平** れないですね。チョークであれだけ沸くんですもんね。

### 平直行36歳、5・4みちのく岩沼大会にて

# 遂に夢叶ってプロレスデビュー!!




ある時は指導者

ある時はプロレスラー

ある時は格闘家

# 平直行

**RtoR**

本誌21号でもプロレスデビューを宣言していた平直行が、遂にみちのくプロレスのリングでデビュー！　格闘界の大御所が初心に戻り、一から猛特訓をし挑んだデビュー戦。その闘いぶりは実に感動を呼んだのである。指導者、格闘家、そしてプロレスラーという三種の神器を持つ男、平直行36歳デビュー戦直後即インタビュースペシャル！



プロレス界に革命を起こします!!

聞き手&撮影／松澤チョロ
interview by Choro Matuzawa

構成／大西タマリン
text by Tamarin

試合写真／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo



# 本当にプロレスやって良かったですよ！

――え～、プロレスデビュー戦を終えたばっかりなんですけど、"プロレスで充実"できましたか？

**平** メチャクチャ楽しいですよ！ いやぁ～、帰りのバスでパッと横見たら、ふわ～っと●●がいるんですよ。これだよ、これ！ オレが求めてたのは（笑）。

――ヒャハハハ。バック片手にコスチュームひとつで世界を放浪するわけですね。

**平** そうです、そうなんです！ 今日、試合前アパッチェさんにルチャを教えてもらったんですけど、すげぇおもしれぇ～って。またもや師弟関係ができました。前田日明兄さんに続いて、アパッチェ先生と呼ぼうかなと（笑）。

――ルチャでも充実しましたか（笑）。

**平** 結局、どんな格闘技でも、多分プロレスも決まった法則ってあると思うんですよ。「これを決めるためには」っていうのがルチャにもあるんですよ。それがわかればできるんでしょうね。

――ルチャだと特にそういう法則があるんじゃないかとは思いますね。

**平** 体の使い方ですよね。わかんない奴が飛んでも落ちるのが、体を振り子のようにしたら落ちないとかいろいろあるんですよ！ それをアパッチェ先生に教えてもらって、もう～、ボク自分の試合のこと一瞬忘れましたね（笑）。

――今日は平さんの実家の近くの会場だったわけですけど、やっぱり会場の雰囲気は温かかったですしね。

**平** （嬉しそうに）お客さん入ってましたよね。メインでお客さん怒ってなかったし。あっ、それでボクはこれが言いたい！

――な、なんでしょうか？

**平** ボク、試合は負けたけどみなさんが帰りを待っててくれて、本当にプロレスやって良かったですよ（ニコニコ）。ああいう雰囲気はいいですね。

――あの会場の雰囲気はみちのくプロレス独特の良さでもありますからね。

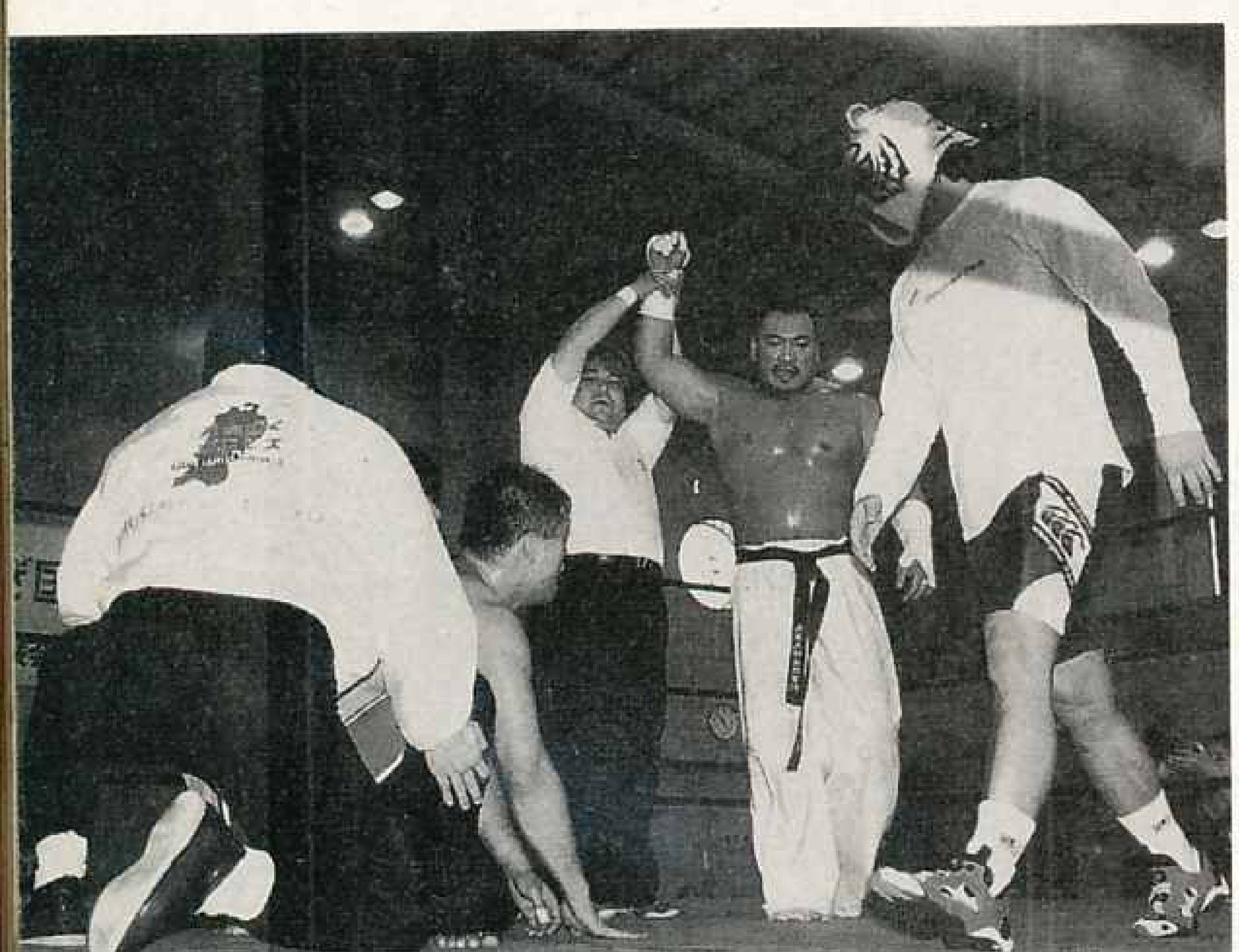
**平** 勝ち負けだけっていうのも楽しいですし悪くはないんですけど、やりたいことができない時があるじゃないですか？ プロレスはいかに人より凄いことができるかっていう勝負ですから。

――今日はその凄さは見られましたよ。

**平** ボク、可哀想でしたよね（笑）。本当に痛いと「ギブ」って言えないですもん！（極楽固めを）2回目かけられた時で本当はギブだったんですけど、声が出なくて「ギ、ギ、ギ、ギブゥ」って（笑）。

――ヒャハハハ。まさに極楽な感じで（笑）。

**平** ほんとに極楽でしたね（笑）。でもやっぱりプロレスは厳しいですから。ボムも喰らってしんどかったですよ。あれ、反対側見えたんですよ！「アレ？ おいおい、天井じゃないよ。客だよ、客！」って（笑）。



5・4宮城岩沼体育センター■サスケ社長が「出し惜しみはしませんよォ～」と言うだけあって、相手に新崎人生を迎えたデビュー戦。12種類の必殺技のうち、"タイラ・トルネード""一本足四の字"を披露したものの、人生の念仏なしパワーボムから極楽固めで成仏。平にとってこの約13分は極楽浄土であった。その瞬間、平の目に涙。格闘界の大御所にして、36歳でプロレス入りを果たしたステキでかっこいいデビュー戦は、こうして終わった。「実はプロレスが一番好きでした」というリング上の叫びに大歓声が沸き起こり、この日、平は誰もが共感できる闘いをやってのけたのである。ちなみに、地元仙台ということで家族も来場。ご子息もさぞかし感動しただろうと思いきや「全く理解してなかったです（笑）。それよりもサスケさん見てキョロキョロしてましたよ。スタンザマン見た時はベロベロに泣きましたから、大人になったなぁ～って、キスもできるようになりましたから（笑）」と親子揃って成長の日だったようである。本日のサスケ採点95点！

――さすがに、格闘技の試合ではなかなかそういった体験はできないですからね。

**平** ホントあれは『K―1』とか総合格闘技の大会では味わえないですよ。やれるもんならヒクソン（・グレイシー）、やってみろ！（笑）。

――念仏パワーボムを喰らうヒクソンは是非、見てみたいです（笑）。試合前、平さんは「新崎人生さんの違った面を引き出せればいい」って言ってましたけど、実際闘ってみてどうでしたか？

**平** 結構、えげつない人です（笑）。

――やっぱり、アマレスのバックボーンがある人なんで、いつもよりバックの取り合いとかも多かったし、そっちの方も引き出せたと思うんですよ。

**平** そうですね。でも、躊躇しちゃったんですよ。そのままいけば、バック取ってチョークって感じの普通の試合じゃんってね。そこで、自分のムーブはあるんですけども、やっぱり初めてだから出ないんですよ。

――結局、チョークは極めてましたけど、試合後「プロレスの試合でチョーク極めても面白くない」って言ってましたもんね。

**平** 極めときゃ良かったですけどね（笑）。でも、グレイシーとかがやることをプロレスでやっても面白くないですから（キッパリ）。

――逆に、みちのくのお客さんとかには、ガチガチの格闘技路線でいっても伝わるっていうのはあるかもしれないですね。

**平** チョークであれだけ沸くんですもんね。逆にみちのくの会場で『PRIDE』は見れないんで、相手によってそういうのもアリかなっていうのは思いましたよ。だって凄い得ですよ！ チケットも安いし。

――みちのくと『PRIDE』では、リングサイドの値段はケタが違いますからね。

**平** そのくらいじゃないと見たい子は来れないですよ。3千円だったら見れるじゃないですか。お父さんがプロレス好きだったら子供を連れて来れるでしょ。みちのくはそういう意味で、昔ながらのプロレス会場の雰囲気というか、いい感じですよね。

――それこそ、みちのくの会場に『K―1』とか『PRIDE』みたいにリングサイドに芸能人とかいたら大変ですけど（笑）。

**平** カルチャーショックですよ（笑）。

――そういえば、サスケ社長がデビュー前の会見で「平さんはプロレス界に革命を起こします！」って言ってましたけど、しかも既に12種類の必殺技まで持ってるんだから驚異の新人（36歳）ですよね（笑）。

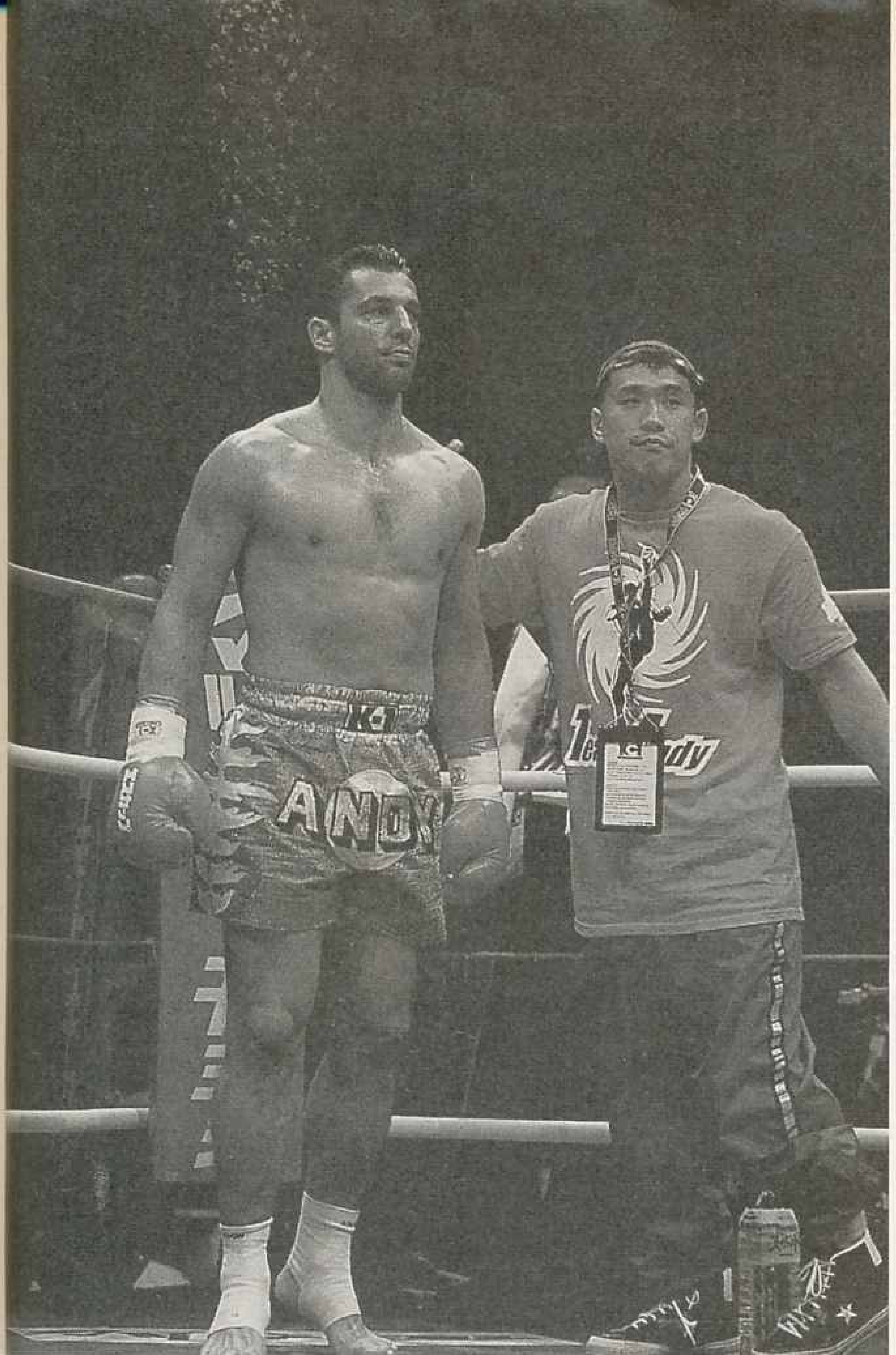
**平** だ、出せなかったなぁ～。そんな甘くはないですね。「アキラ兄さんゴメンなさい」っていう（笑）。

――前田日明さん公認の"新キャプチュード"は出せなかったですからね。人生さんにはどのようなフィニッシュを考えてたんですか？

**平** もちろん"新卍"から"新キャプチュード"ですよ！

――基本的には「ギブアップさせたい」ってことですか。

**平** ギブアップしかけたところを、いじめっ子のように外して、「なんでぇ～」っていうところをもう1回っていうのを狙ってたんですけど、無理でしたね（苦笑）。



# 本当にすんげえ嬉しかったから、ボクにとってデビュー戦は本物のリアルなんですよ！

——試合後も「一番好きなのはプロレスです！」って涙ながらに語ってましたよね。

**平**　っていうか格闘技も全部好きなんですけど、ボクは一番やりたかったのはプロレスなんです（キッパリ）。

——それが、36歳になってデビュー戦を迎えての涙に繋がるんですか？

**平**　ボク若い頃、悪かったんでいろいろ親に迷惑かけっぱなしだったんです。それでお母さん死んじゃったんですよ。そういうのとかいろいろ蘇ったりして、同級生とかも来てくれたりとかもしたんで「あ～、すげえな」と思って感動して。

——小さい頃の夢がようやく叶ったって感じなんですか？

**平**　もう子供もいるのに好きなことやっちゃってっていう感じですね。実際、勝ち負けなんか関係ないですよ。別にプロレスがリアルとかリアルじゃないとかそういうことじゃないと思うんで。本当にすんげえ嬉しかったから、ボクにとって今日のデビュー戦は本物のリアルなんですよ。

——なるほど。平さんの中で勝ち負けはプロレスをやる上では、それほど重要視しないっていうことですよね。

**平**　こういう気持ちになりたいなぁって思ってプロレスを始めたんです。「オレは格闘技側の人間だから」って言うのもアリなんですけど、「そんなのいいじゃん別に」って。格闘技やっても同じように感動したいし、お客さんにも感動して欲しいし。例えば飯食っても感動したいんですよ（笑）。いい練習すれば飯食っても感動するだろうっていうね。

——やっぱり、現状のプロレス界は平さんは「昔好きだった頃のプロレスとはちょっと離れている」って言ってましたよね。殺伐とした雰囲気が感じられないというか。

**平**　そうですね。自分が散々喰らってから言うのもなんですけど（笑）、「大技あんな連発しなくてもいいじゃん」っていうのは思いますね。もっと、これっていう一つの技が出たら終わりだという攻防を見せたいし、もっとワクワクしたいんですよ！　ジェットコースターみたいなのじゃなくて。

——まぁ、ジェットコースタープロレスというか、2・9プロレスとかってよく言われますからね。

**平**　今の社会的な問題も全て含めて、刺激が多すぎるから犯罪が多いんだっていうところはありますからね。サスケさんじゃないですけど（笑）。

——それこそ、人生さんじゃないですけど〝間〟を大切にするプロレスをしたいわけですよね。

**平**　やっぱり、一つの技で決めるようにした方がいいと思いますね。とか言いながらボク、12個持ってますけどね（笑）。

——デビュー前から12種類も必殺技を持ってる選手って、まずいないですよ（笑）。

**平**　我ながら凄いですよね（笑）。でも使うときはフィニッシュに持っていくような使い方をしない限り、封印しようかなと思ってるんで。

——プロレス技は下手したら格闘技以上に危険な技もたくさんありますからね。

**平**　そうですよ。パワーボムを柔術のチャンピオンが受けられるかって！　オイ、ホイス・グレイシー受けてみろ！（笑）。

——〝まんぐり返し〟はかけられましたけ

（左ページ端）
どね（笑）。
ですよね。アマチュアだって、家が裕福な
『KOK』に出たら面白いと思うんですけどね。

## 12種類の必殺技（のうち3つ）完全公開!!



参謀役 ザ・グレート・サスケ

どうも、どうも、参謀役のサスケですよォ～。今日はみなさんのために12個ある必殺技の中からなんと、3種類お見せします！　三種の神器なんですよ。グフフフ。これは『紙プロ』さんだけのスクープ！　じゃないか（笑）。ハッキリ言って凄いです。間違いなく、プロレス界に革命を起こします!!

### その1 新卍!!



も～う、猪木さんも越谷の石川さんも驚くでしょうねぇ。関節という関節全てを極めるんですから。まぁ、卍というのは片方の腕はどうしても極められないもんなんですけど、新が付くだけあって極めれるんですよ。このご時世、す～ぐ、技を盗まれる時代ですから……って言いながら実はこっそり私も使おうなぁなんて思ってるんです（笑）。（サスケ談）

### その2 1本足四の字!!



この技は凄いんですよ！　友達が考えたんですけど（笑）。渋谷で3人のヤンキーに絡まれて、「1つ提案があるだけど、一本足四の字でギブ取ったら1万円くれ！」って言って、ホントに取ったんですよ！　ケンカでリスク背負ってまで使いたくなる技なんです。しかも道玄坂のホテル街で（笑）。だから一応路上で使えるからって、公認でもらいました！（平談）

### その3 新キャプチュード!!



これぞ究極の必殺技と申しましょう！　前田日明さん公認です!!　モノ凄い破壊力なんですよォ～。この技は危険すぎるんで、ワタシ止めますからギリギリ投げる前でお見せしますよォ～！（サスケ談）

どね（笑）。

平　ボク、次はつぼ原人とやりたいんですよ。顔にタ・イ・ラとかペイントして（笑）。でも、みんなが期待してるのは新日本ジュニアとかかもしれないんですけどね。

――どうせプロレスをやるんだったら、つぼ原人からミックスドマッチまで。

平　いいですねぇ（笑）。やっぱり、いろんなことやったら自分にも還ってくるし。ボクはボクがやっていることをアマチュアに還元しないと意味ないと思うんですよ。

――今日来ていた道場のお弟子さんたちも「平さんかっこいいですね」ってみんな言ってましたもんね。

平　ボクの勝利です！（笑）。「平さん強いですね」って言われてもそんなに嬉しくないから。他の道場ではプロレスやったら怒る生徒とかいたり、しかも「なんで負けるんだよ」とか言うと思うんですよ。でも、うちの場合は「いい仕事しましたね」ってみんな言ってくれるんで（笑）。

――今日の試合を見せたらアンディ（・フグ）さんも喜ぶんじゃないですか？

平　喜ぶと思いますよ！　実はアンディはプロレス詳しいですから。これはすべて平化現象です！（笑）。

――桜庭（和志）さんに続いて平さんも増殖してたんですね。

平　そうなんですよ（笑）。好きなことをやって一生懸命やったらそこにウソは1つもないですから！　逆に本当はやりたいんだけど格闘技しかできないから、プロレスの悪口を言うって人は悲しいですよね。やってることはハッキリ言ってかわらないですよ。

――本質的な闘いっていう部分は格闘技もプロレスもかわらないですよね。

平　だから、その小さい心が成功を阻むんですよね。アマチュアだって、家が裕福な人が勝つ時代じゃないですか？　それだったらかっこ悪いと思うんですよ。

――やっぱり、アマチュアは裕福なほうが強いわけですか？（笑）。

平　すんごいダサいんですけどね（笑）。本当に魂ないよ。でも、うちのジムは自分のやりたいことを一生懸命やってる子たちが集まってるんで、そこからプロレスいってもいいですし、ホストナンバー1になってもいいんですよ（笑）。

――その辺が〝柔術で充実〟に繋がってくるんですね。

平　そうですよ！　格闘技だけだと小さくなる奴が多いですからね。

――プロレス界って新弟子とかもなかなか入ってないのが現状ですけど、単純にプロレス界に夢がなくなってきてるのが原因ですかね。

平　やっぱり、ゴールデンタイムにテレビでやらないからじゃないですか？　今ってプロレスごっこをしている子も少ないでしょ。「ミドルキィーック！」とか叫んでる子はいるかもしれないですけど（笑）。

――それこそ『K―1』の影響で踵落としとか『K―1』ごっこをやってる子はたくさんいるでしょうね。そう考えるとテレビっていうのはデカイですね。

平　でも、やり方次第だと思いますよ。テレビで見れないからっていう戦略もアリだとは思うんですよ。やっぱりプロレスっていうのはなくなりはしないと思うんですよね。時代を察知したプロレスができればリンクするんじゃないですか。

――安全面っていうのも大きいと思うんですよ。この前の福田選手のことといい、「新日本プロレスはこれからどうなるんだろう？」って考えちゃいますからね。

平　危ないからって減らしたらダメなんですよね。だって「大技乱発したら軽いじゃん」って簡単に言っちゃってますけど、じゃあ、それより凄いのをできるかっていったらできないと思うんですよ。

――実際、そうかもしれないですね。

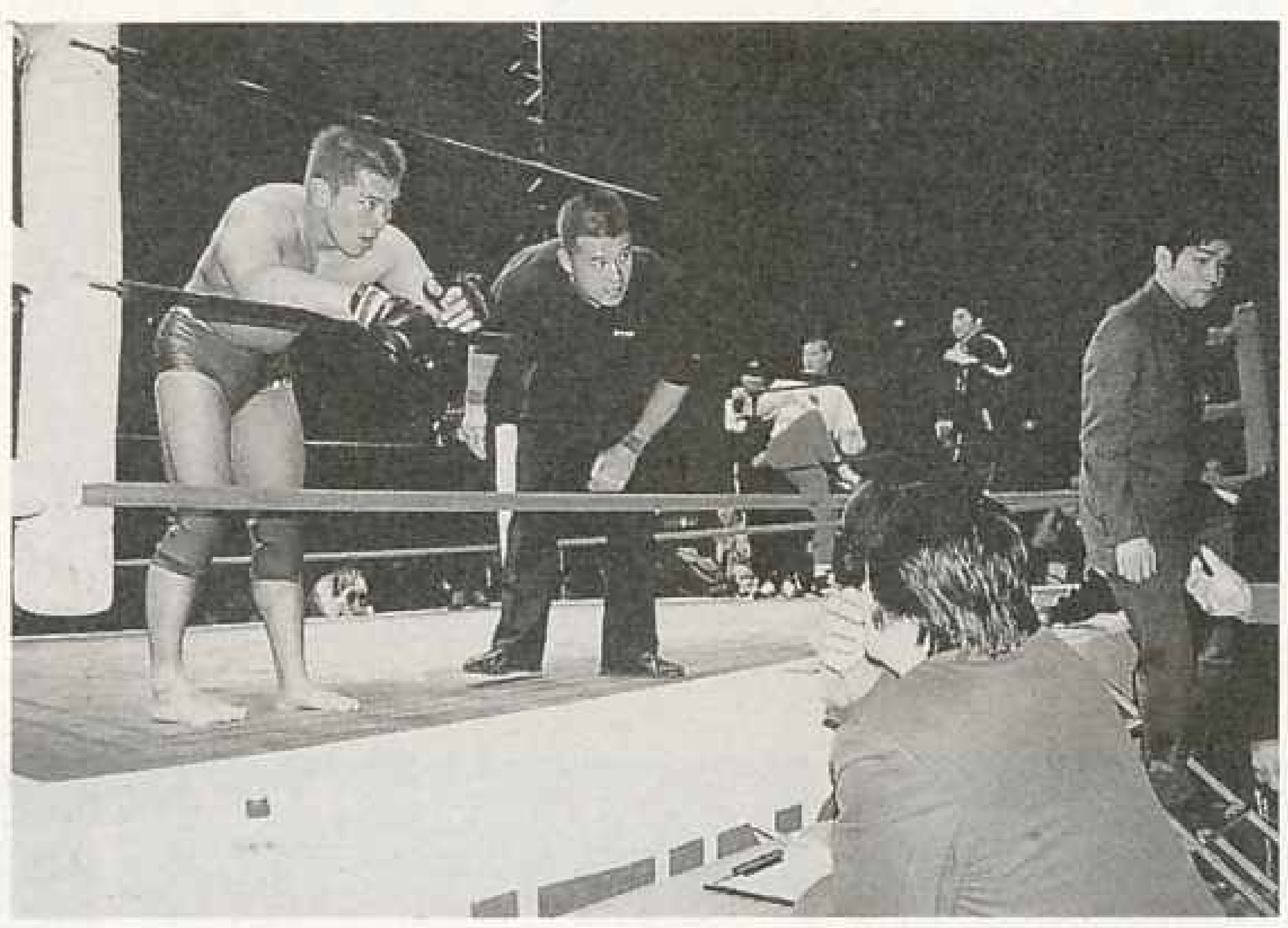
平　でも、ボクは36歳ながら一番下なんで、みんながやらないことをやるしかないんですよね。だから大技乱発はしたくないですし、受けたくもないです。今日はキャリアで受けちゃったんですけど（笑）。みんながボムで沈むならオレは沈まないよ！　逆にヘッドロックとかで沈むかも（笑）。

――それはそれでかっこいいですよ（笑）。

平　別にスーパースターになって業界引っ張っていこうとは思ってないんで（笑）。試合やったらガッツンガッツンやって「すんげえやられちゃったよ」みたいなのでもいいし。キップがよくないと！

――前田さんも「30歳くらいまで格闘技をやって、30歳越えたらエンターテインメント方面に行ってもいいんじゃないか」という循環システムをよく言ってますよね。

平　凄いですよ！　アキラ兄さん（笑）。だって「プロレスやるんです」って言ったら「裏切り者！」って言われましたからね（笑）。「好きなんですよ」とか言って。もう36歳だから「好きなことやればええやん」って感じなんでしょうけどね。まぁ、循環システムの先駆けとしては今度は並行して『KOK』に出たら面白いと思うんですけどね。



――それは絶対、面白いですよ！　これから平さんみたいな選手って格闘技界から続いていくと思いますか？

平　存在価値がなくなるんでボクだけにして欲しいんですけど（笑）。でも、やりたい子っていうのはすっごいいると思うんですよ。

――たくさんいるでしょうね。

平　ただ、できるかできないかってことですよね。ボクは今ここでニコニコしてますけど、そんなに甘くなかったですから。今日、石井館長に電話して「プロレスやってみたい」って言ってみろよ！　前田さんに報告してみろよっていう（笑）。

――表にはそんなに出てないですけど、平さんはプロレスの練習を新弟子としてかなりしてたみたいですからね。

平　バンプとか何度も繰り返してやりましたよ。石井館長はなかなか人を慰めないですけど「最初はなんでも大変だから頑張れよ」って慰められましたし（笑）。それに実は格闘技の大きな大会からオファーがきてたんですけど、「今、プロレスの練習をしていバンプで体痛くて無理です」って断りましたもん（笑）。

――大きな大会と言えば、ここにきてグレイシーはバタバタと負けちゃってますよね。

平　ぜ～んぜん関係ないですよ！

――関係ないんですか!?　平さんはグレイシー・ダイエットの第一人者じゃないですか。

平　グレイシーの日本で唯一の付き人ですから（笑）。でも、ボクがグレイシーを習ったのはグレイシーを倒すためなんですよ。ただ、ボクの先生（カーリー・グレイシー）になんかあったら怒りますけど、あとはヒクソンもホイス

もただの親戚ですもん（笑）。それにボクは今日からプロレスラーだから負けても関係ないです！（笑）。その辺、ヒクソンは寂しいなぁ。ヨガとかやってるんですよね。

――船木（誠勝）さんもやってますからね。

**平**　するなよそんなこと（笑）。もっと、はじけなきゃって思いますよね。

――中井（祐樹）さんも言ってましたけど、「プロレスファンからすると単純にプロレスラーがグレイシーを倒したからプロレスが強いっていう報道は面白く思わない。たとえヒクソンとホイス倒したからって終わりっていうのは寂しいんじゃないの」っていう。

**平**　いや、それは負けちゃった方が悪いんですよ！　だって、勝つための努力はグレイシー以上にして、きれいに勝ったわけですから。それって凄いステキなことですよ。負けたんだから「終わった」って言われてもしょうがないんじゃないですか？　ボクだってハッキリ言えば柔術が一番得意なわけじゃないですからね。

――実は打撃が一番得意なんですよね（笑）。

**平**　そうなんですよ（笑）。でも、道場としてのスタイルで一番ステキだなぁと思うのが柔術なんですね。だから、アメリカっていう国柄もあるんですけど、お互いをリスペクトするっていいじゃないですか？その中で練習してやっていけば、スポーツクラブよりも他の格闘技よりも柔術はいいものだと思ってるから。それに別に柔術が負けたってわけでもないですからね。

――それはホリオンも言ってましたね。

**平**　ボクの先生はカーリー・グレイシーであって、ホリオンとかは教えてくれなかったですから関係ないんですよ。だから彼らは柔術ってものを教えてくれて凄い有り難いと思ってるし。

――端から見てるとグレイシーの言い訳やルール問題で揉めてるのも面白いんですけど、どう思います？

**平**　侍の恥を取るより、そっちを取っちゃうんですよ。だから、誰か教えてやって下さい！　「ダサイよそれは！」って（笑）。「果たし合いやるんだったらきっちりやれ！」っていうね。

――平さんも、桜庭 vs ホイス戦じゃないですけど、無制限ラウンドやってますよね。むかつきながらも条件を飲むタイプだと思うんですけど。

**平**　飲まない時って負けるんですよ、実は。ボクの場合、時間無制限で頭付きとかなんでもOKだったんですよ。ブラジルの時はそれにグローブつけたんですよ。かっこいいかなぁと思って。あのときはさすがに負けれなかったですね。このミサイルがある時代にかっこ良くないのはイカン！（笑）。

――かっこつけろってことですか？

**平**　前田さんだって、命がけでかっこつけてるところってあるじゃないですか？

――本人が自信を持って「かっこいい」と思えば他人から見て「ちょっとなぁ」と思うことでも「かっこいい」っていうのはありますよね。

**平**　逆に真剣にやっていて「ダセェ～」っていうのもありますよね。

――それもありますねぇ。そういえばバーリ・トゥードをやるのはあと1、2回ってよく言ってますよね。

**平**　これ、成功するまではやったらダメだと思いますよ。その時、やりたいことを一生懸命やればいいんですよ。ボクは今、プロレスですけど、この後『PRIDE』行くかもしれないですし、『K―1』かもしれないですしね。

――今、バーリ・トゥードが全盛なんで逆に「ボクは打撃が結構うまいんで『K―1』とかに上がったほうがいいんじゃないかな」って言ってましたけど。

**平**　昔のファンはすごい喜んでくれるとは思いますよ。多分、今出てもいい試合はする自信もありますしね。ここで、プロレスデビューしたらずぅ～っと定着すると思うじゃないですか？

――期待したいのは『KOK』のレフェリーをしながら、いろんな団体にも選手として登場してっていう。

**平**　またアキラ兄さん大激怒！（笑）。でもいつも『KOK』のレフェリーやってて思うんですけど、ホント面白いですよ！

――やってる選手もファンもみんな言いますよね。

**平**　やっぱ、『PRIDE』とかってお金高くて総合だから負けないようにするじゃないですか？　『KOK』出てる選手はみんなとりあえず勝ちにいきますから。最近、選手もわかってきて動かないといけないっていうのもあるし。

――でもある程度、年齢がいった人には過酷なルールですよね。

**平**　コピィロフとかスタミナはないですけど、面白いですからね。新たなキャラっていうか。でも、コピィロフは強いですよ！

――逆に階級制とかって言いますけど、年齢制にしたら面白いんじゃないですかね。

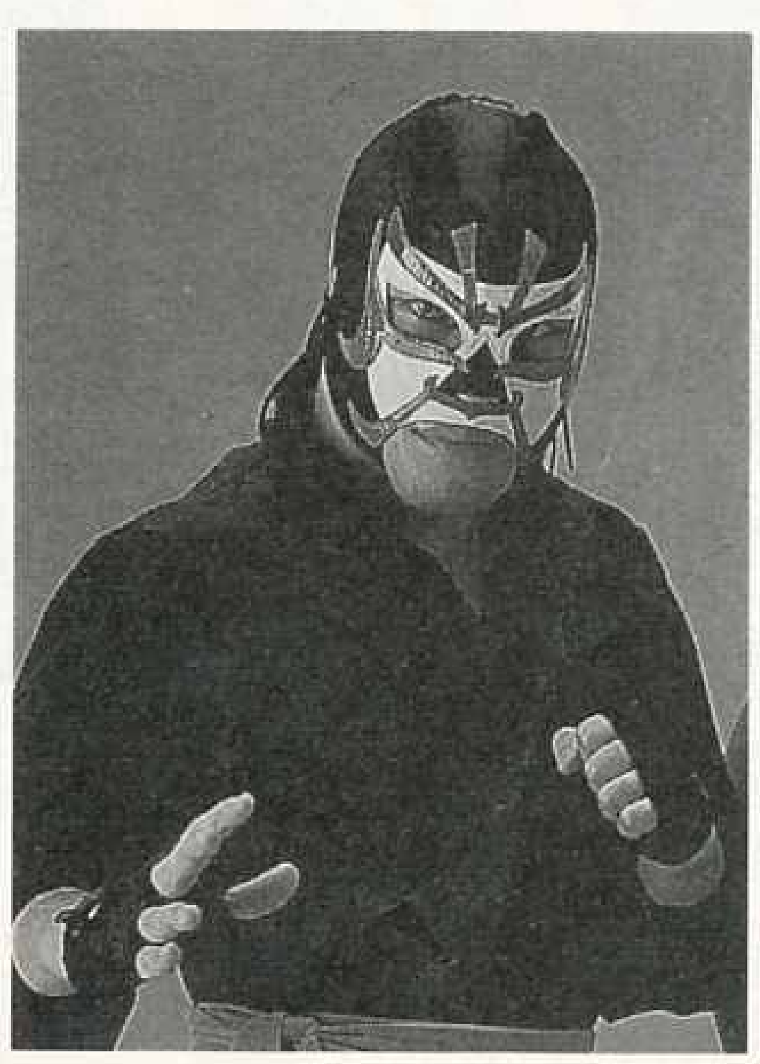
**平**　柔術で年齢制ってあるんですよ。そっちの方がテクニックがうまいから試合が面白いんですよ。

――リングスとか『PRIDE』とかもそうですけど、セコンドとかやたらと豪華じゃないですか？

# 負けちゃったグレイシーが悪いんですよ! ボクはヒクソンもホイスも ただの親戚ですもん（笑）

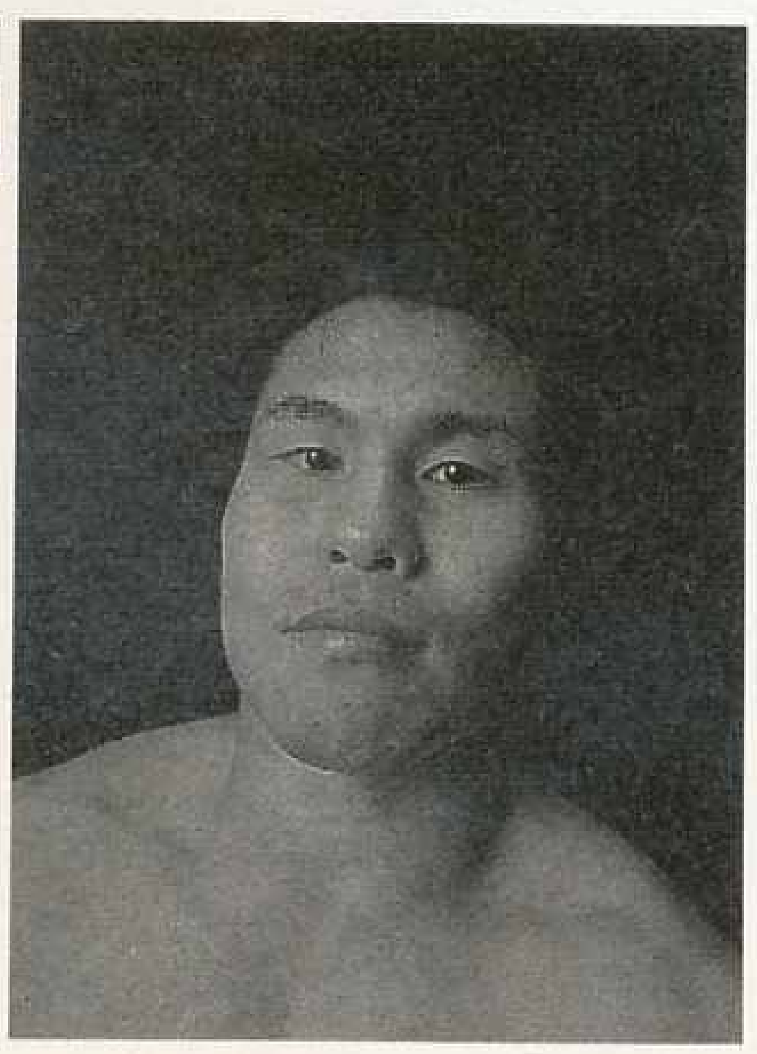
## 平直行のプロレス転向は是か非か？

### ザ・グレート・サスケ
*The Great Sasuke*



平さんは新しいスターですよォ～！　格闘技の分野で一時代を築いた人が、こうやってゼロからスタートしてるんだから。オレも見習いますよ！　イヤイヤ、全人類が見習わなければいけません!!　だって、人生、アレクと2試合やりましたけど、勇気をもらいましたから！　だからねぇ、オレはこれが言いたい！　バスを乗っとったクソガキなんかオレと平さんでボッコボコにしてやりますよ（怒）。この病んでる日本に、絶対明るい未来をもたらすと思いますよォ～。

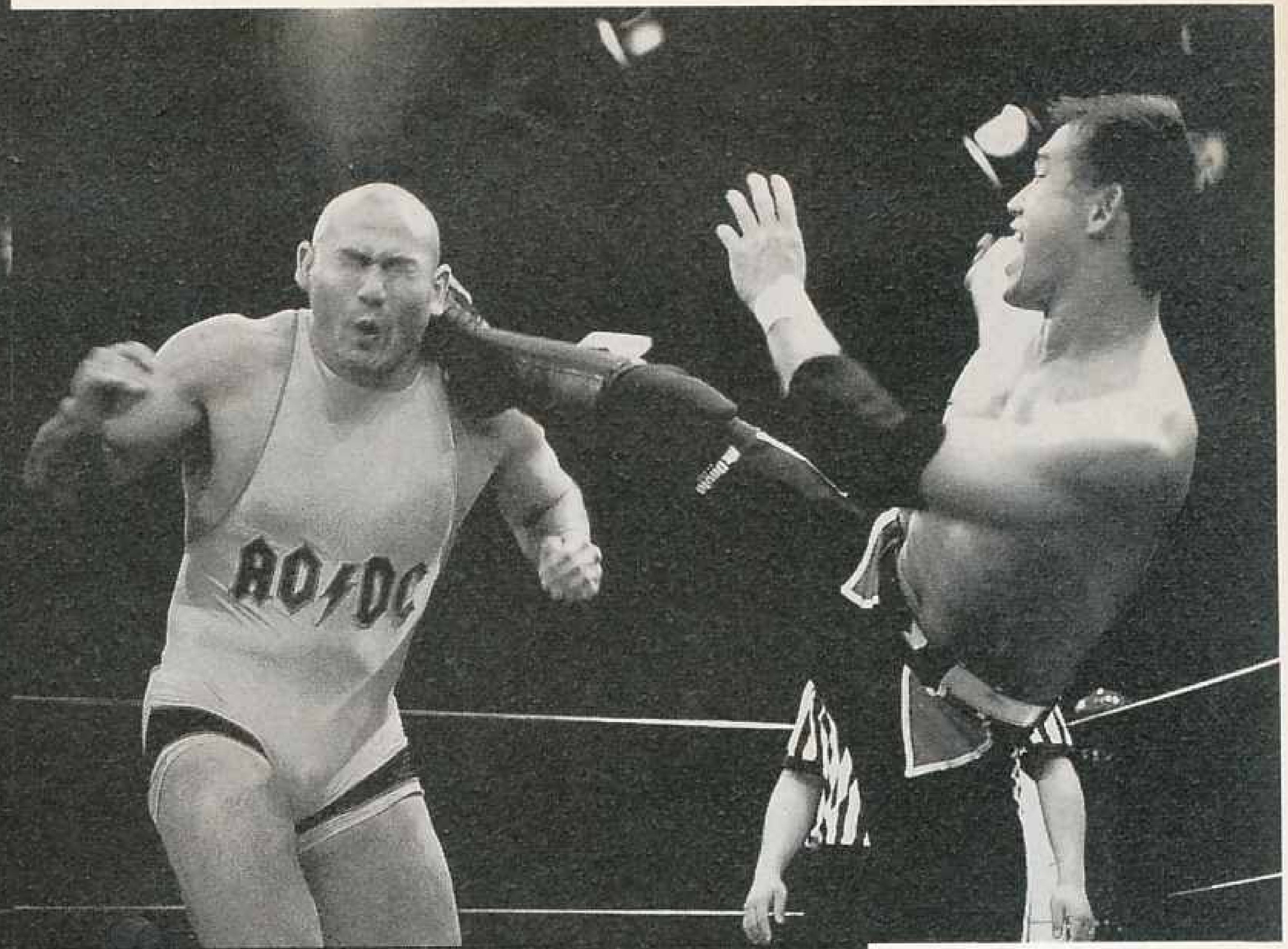
### 田村潔司
*Kiyoshi Tamura*



平さんは、お客さんを喜ばせるっていう意味で、プロ向きだと思うんですよ。だから基本的にそういう試合をやって自分も楽しんで、お客さんも楽しんでくれればっていう人だと思うんで、そういう気持ちがある人はいいんじゃないですか？　平さんはプロレスをバカにしてる人じゃないんで。だから逆に、プロレスをバカにしてる奴がやると気に入らないんですけど……平さんはＯＫです。

# 年が年なんで いきなりタイトルマッチを 組んで下さい!!







5・11後楽園ホール■プロレスデビュー2戦目は『K－1』（98・10・23代々木大会）でエキシビジョンながら対戦したことがあるアレク。今回はアレクが自分の土俵で迎え打つ形となった。平直行36歳、開始早々、いきなり蹴りまくり必殺技12種類のうちのひとつ〝ハーフムーン〟（オーバーヘッドキック）なる技を繰り出す。だが、アレクのジャイアントスイングにぐるんぐるん回され、パワーボムを喰らい足関節で撃沈。しかし、口から血が溢れてても満面の笑みで「ボク、もうヒザも悪いですし、年も年なんでいきなりタイトルマッチ組んでください！」と要求。次回〝平直行36歳デビュー3戦目にして即タイトルマッチスペシャル！〟なるか？　この闘いで5・1ケン・シャムロック戦でかなりご傷心気味のアレクも、36歳新人プロレスラーから勇気をもらったことは間違いない。本日のサスケ採点99点！

**平**　西（良典）さんも出たがってましたよ。ステキだなぁ（笑）。まぁ、ボクも面白かったらなんでも出たいですよね。で、翌日「あっ、テッドさんから電話が……みちのく行きますわ」っていう（笑）。

――それはステキですね（笑）。

**平**　そういうサスケ社長を越えるってことを、格闘技部分ではしないとね。私生活では到底越えれないですから（笑）。

――ヒャハハハ！　まだ、2試合ですけど、理想的にはどのようなスタンスでプロレスをしていくつもりなんですか？

**平**　月に何試合かやって、あとは道場での指導をやるっていうのが理想ですよね。年に1回くらいは長いシリーズにも出てみたいなぁと思いますね。

――とりあえず、みちのく、バトラーツだけじゃなく、平さん的にはオファーがくればどこでもって感じなんですか？

**平**　も～う、どこでも呼んで下さい。でも、ボク的にはWWF！　もちろん、ファーストクラスで（笑）。

――インディーとかはちょっとなぁっていう部分があるんですか？

**平**　そんなことないですよ！　面白ければオッケーです。インディーもデスマッチもやりますよ！

――平さんがデスマッチやったら凄い衝撃ですよね。

**平**　やんないですけど（笑）。やっぱりルチャに凄い興味あるんですよね。もちろんみちのくでルチャはアリなんですけど、本場メヒコに1ヶ月行くとか。あとは昔、憧れたテキサスにも行きたいですねえ。テリーファンクの牧場で牛を引っ張りながらトーホールド練習して（笑）。

――ヒャハハハ！　やっぱり年齢的なものって感じますか？

**平**　感じますよ！　でも、逆に30歳ぐらいだったらもっと感じると思うんですけど……今は36歳なのにこんなことやって「オレ楽しい！」って思いますよ。社会的に考えたらやんないほうがいいじゃないですか？（笑）。でも、あと30年やろうとか考えてないんで。楽しくやれて自分が納得できる動きをやって、本当にリングで「キツイなぁ」と思ったら相手にも失礼ですし、みちのくがどうとか言うよりも本当に格闘技も辞めるし。あんまり、セコイことやりたくないんですよ。

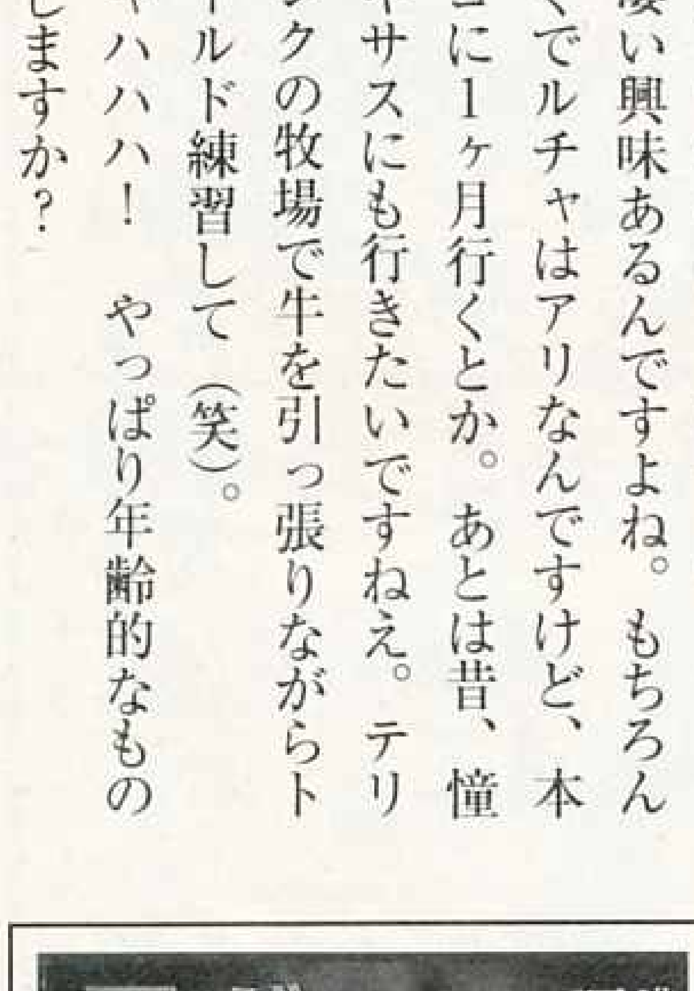
――実現の可能性はともかくプロレスのリングで闘ってみたい選手っていますか？

**平**　（すかさず）ノーフィアー!!（笑）。新日本も出たいですけど、それはありがちなんで、意表をついて全日本プロレスに出たいですね。チーム2000よりノーフィアーにラブコール！（笑）。

――そういえば高田（延彦）さんからもエスペランサの肩書をもらいたいとか言ってましたよね。

**平**　言いそびれてしまいました（笑）。

**平直行特別監修**
**『グレイシー秘伝　最強肉体改造術』5名様にプレゼント！**




グレイシー・ダイエットの第一人者、平先生特別監修ということだけあって内容も充実しまくった1冊です。応募方法はp159参照！

# 全日本に行きたいですね。タッグでノーフィアーと髙田さんと闘いたい!!



たいらなおゆき■1963・12・15生。身長175センチ体重88キロ。宮城県仙台市出身。中学生の時にプロレスに憧れ空手を習い、高校卒業とともに上京しシューティングに入門。その後シュートボクシングでプロデビューし、バーリ・トゥードに対応するためグレイシー柔術を習い茶帯を取得。ちなみにこのお酒は、全国各地にいる平の教え子たちがプロレスデビューを祝い仙台まで駆けつけ、プレゼントしたもの。まさに師弟愛♥

——高田さんも年齢的には同年代ですしタッグでvsノーフィアーとか刺激的ですけどね。

**平**　高田さんと全日本に行ったら世間はブッ飛ぶますよね。そ、それだ!!

——インパクトは凄いですよね。

**平**　今、高田さんが高山（善廣）選手とやれば面白いですよ！　「高山、オレが鍛え直してやる！」っていう（笑）。そんな高田さんが見たい（笑）。高田さんもそういう風にはじけたいんじゃないですか？

——飲んだらメチャクチャはじけてるって噂なんですけど（笑）。

**平**　アハハハ。だって高田道場には桜庭和志がいるんだから。逆に高田さんは好きなことをやれると思うんですよ。桜庭選手も小路選手もみんな新日本に目が向いてるじゃないですか？　だからボクはあえて「全日本に行きたい」って言うタイプですから。みんなと競い合って勝つのは面倒臭いんで嫌です。行かないところ行かないところへ行って、おいしい目に合うっていうのがベスト！

——全日本は新崎さんも出てましたからね。

**平**　それだ！　一緒に行ったら面白いですよね。

——まぁ、オチャメな藤波さんスタイルを目指すって言ってましたけど。

**平**　そうだ！　助けないと（笑）。

——藤波社長はカウントダウンも始めましたし、最近、写真で見る限り目が死んでますから助けてあげて下さい（笑）。

**平**　ボクとやれば元気と明るさを取り戻せますから！　いろんな意味で（笑）。

【2000年5月4日　仙台・珈琲苑ばらーどで収録】



## バトラーツ5・11後楽園大会

# マイナスから始めますんでこれからのアレクサンダー大塚に期待して下さい。



### *PETIT REVIEW*

この日は平vsアレク戦はもちろんのこと、『P★MIX　GP』トーナメント1回戦や石川雄規vs長井満也（復帰後、初勝利）など、てんこ盛りの内容ではあったが、しかし！なんと言っても注目は臼田である。『J－CUP』出場、新日本参戦で臼田ブーム到来の兆しの中、田中稔からインディペンデントワールドＪｒのベルトを奪取！　このバチバチファイトは臼田に言わせると臼田式だそうだ。ちなみに、ころころ髪の色を変えるのも臼田式なのであろうか？　控え室でも記者陣に「オレがなぜ金髪にしたか聞いてくれないんですか！」とボヤいていたし、まったくもって臼田に変化なし。「ベルトを獲ったからって言っても獲られたら獲りかえせばいいんだし」とあまり喜びは見せないところも臼田式。その淡々とした闘志で新日本でも臼田は臼田式を披露するのであろう。



臼田がチャンピオンだ!!

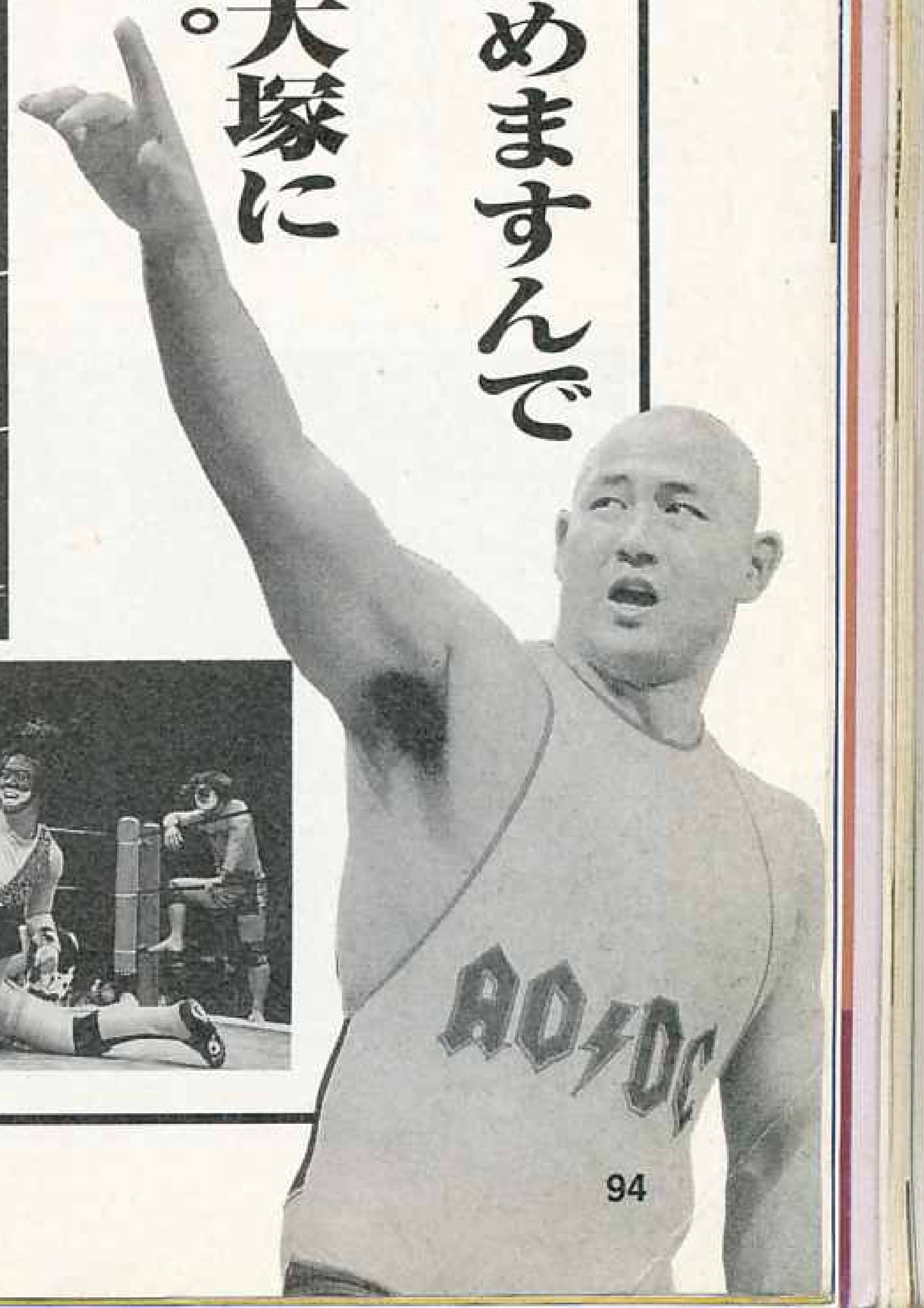


♪パッパッパ～ラパラッパ～とパンチDEデートソングで休憩中入場してきたサスケ社長。今日は平のセコンドのはずなのに、リングを掃除機で清掃した！





『P★MIX GP』トーナメントも開催!!



アメリカの薬局「メイジファーマシー」の協力により、一部大幅値下げ！

# 健康食品よりも効果のあるワンクラス上の商品を！

## アンドロステジオン 筋肉増強薬

—ホームラン王マグワイアも愛用—




究極の筋肉増強薬として有名。米国内では補助栄養剤として市販されている。法律的に購入、使用は全く問題ないが、I.O.C(国際オリンピック協会)が禁止薬物として指定する筋肉増強剤なのでドーピング検査のある人は使用できない。

100錠(約3ヵ月分)
1個 16,000円
2個 30,000円
3個 42,000円
(税込み)

## プロザック 脳内薬

—全世界で二千万人以上が愛用する抗うつ剤—




塩酸フルオキシンを原料としたうつ病の薬。欧米では健康な人にも気軽に処方されている。考え方をプラス指向にし集中力が高まり積極性が増す。又、自信を持って行動し、性格が変わり、明るくなるといわれている。

20mg/30錠(1ヵ月分)
1箱 13,000円
2箱 22,000円
(税込み)

## ロゲインエキストラストレングス 育毛促進薬

—育毛に革命を起こしたベストセラー—




「効き目がなければ返金します」というキャンペーンを行ったが返金を求めた客はいなかったという。1日に2回、頭に直接すりこむ。

2%・5%
男性用・女性用
(ホワイトタイプ)
3本(3ヵ月分) 14,500円
6本(6ヵ月分) 28,000円
12本(1年分) 53,000円
(税込み)

## プロペシア 飲む育毛促進薬

—世界初の経口タイプ—




試験では服用の83%の人が髪を増やす効果があったという。アメリカ国内で購入するには処方箋が必要で、それだけ効果が期待できる。

1mg/30錠(約1ヵ月分)
1個 15,000円
3個 40,000円
6個 75,000円
3個+ロゲイン 3本 50,000円
6個+ロゲイン 6本 95,000円
(税込み)

## ザンドロックス 育毛促進薬

—ミノキシルズ12.5%配合—




ミノキシルズ12.5%配合の超強力発毛剤。必ずロゲインなどのミノキシルズ配合の商品で3〜6ヵ月頭皮を慣らして、次の段階で使用するようにして下さい。

※生え際に特に効果があると言われていますので、生え際に使用するようにして下さい。頭頂部にはロゲイン等の商品を使用し、生え際にはザンドロックスを使用(併用可)して下さい。ロゲイン等の商品で頭頂部に効果のなかった方のみ、頭頂部に使用して下さい。

約4ヵ月分 38,000円
(税込み)

## ゾロフト 抗うつ薬




プロザック以上の効果があると言われる知る人ぞ知る抗うつ薬。プロザックより早く効果が現れ、プロザックが効かなかった人にも効果があった例もある。依存性もなく早漏の治療薬としても有名。

50mg/28錠 1個 15,000円
2個 28,000円
100mg/28錠 1個 18,000円
2個 34,000円
(税込み)

## ゼニカル ダイエット薬




98年に大手医薬品メーカー、ロシュ社が開発したやせ薬。従来のやせ薬が食欲抑制や下剤効果に重点を置いていたのに対し、ゼニカルは体内に脂肪を吸収させないことを主眼を置いています。アメリカでは99年4月に認可されました。

84食分 26,000円
(税込み)

## ジンク(亜鉛) ミネラル




ケガを早く直す。精力アップ。髪の毛や筋肉の成長を促進すると言われる。低アレルギー性商品なので、アレルギー体質の方にもご使用いただけます。

50mg/100錠(3ヵ月分) 6,000円
(税込み)

## Cal.Mag.Zinc 180錠 栄養剤




カルシウム1000mg
マグネシウム400mg
亜鉛15mgを1日で摂る総合栄養剤。
(上記の数字は1日の必要摂取量です。)

180錠(2ヵ月分) 7,000円
(税込み)

## DHEA 栄養剤




成人病予防、細胞の衰えを防ぎ、活力・精力を高めると話題のDHEA。人体に必須の代謝物に作りかえられ、老化により崩れていくホルモンバランスを整える働きがあります。

25mg/90錠 6,000円
(税込み)

## ピラセタム 頭が良くなる薬




頭が良くなる薬で記憶力が増し、学習能力もアップすると言われている。この薬はコリン(100錠3,000円)と一緒の服用をおすすめします。

400mg/150錠(約2ヵ月分) 12,000円
+コリン 14,000円
(税込み)

## パワープレイニュートリションプログラム

5本セット〈筋肉増強+体重増加セット〉




1〜2ヵ月分 17,000円
(税込み)

4本セット〈筋肉増強セット〉




1〜2ヵ月分 11,000円
(税込み)

① B.C.A.A.(100錠) 筋肉の疲労を回復させアミノ酸の合成を促進します。

② スーパーステロールアナボリックコンプレックス(90錠) 電解質、ビタミン、アミノ酸、植物栄養素、ハーブ(花粉、朝鮮人参、ロイヤルゼリー)肉体成長因子が豊富で脂肪のない筋肉を増やし、エネルギーが長く続くように働きかけます。

③ アミノマックス1500MG(180錠) 100%ナチュラルな20種類のアミノ酸が1錠1500MGも入っています。プロテインパウダーより早く吸収されます。

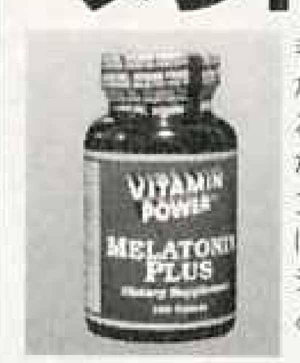
④ ニュートラクロムミュームピロリネイト(100錠) 日本人に大変不足しがちな微量栄養素です。筋肉を成長させるために細胞に栄養を吸収しやすく余分な体脂肪を燃焼させます。

※①〜④を一緒に飲むことによりアマチュア、プロを問わず、危険な薬に頼ることなく全く安全に誰にでも筋肉増強ができます。

⑤ プロテインパウダー(1.8Kg) 炭水化物が多く含まれており、体内に多くのエネルギーを作ります。体重をもっと増やしたい方、食事の不規則な方は1〜4のセットと一緒に飲んで下さい。1.8Kgと大変お得な質のよいプロテインパウダーです。

※5本セットの方がプロテインパウダーの効果により4本セットよりも体重が増加します。

## メラトニン 体内時計調整




老化防止。子供のような自然な睡眠が得られる。習慣性のない安全な睡眠誘発剤。また、コレステロール値を下げたり、女性にはシミ、シワに大変有効であると言われています。

100錠(約3ヵ月分) 4,800円
(税込み)

## ニコパッチ 禁煙用処方薬




体内にパッチで害のないようにニコチンを取り入れ、ニコチンの禁断症状を緩和する。自分自身の意志の強さももちろん大事だが、この商品があれば、12週間で無理なく禁煙できるといわれている。日本では処方せん薬となっている。

12週間分
完全禁煙プログラム 40,000円
(税込み)

## テグサトリム ダイエット薬




ダイエットしたい方、体重制限のある方に。脳に命令して食欲を減退させる薬。約3週間で効果が出るという。

40錠(40日分) 10,000円
(税込み)

## セント・ジョンズ・ワート 脳内薬

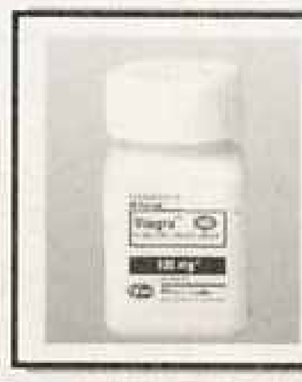



プロザックと同程度の効果を持ち、副作用の少ない健康食品。精神的スランプ、うつ状態にどうぞ。研究結果によると症状の50〜80%が減少し、うつ病患者に使用される処方せん薬と同程度の効果があると報告されている。

450mg/100錠 4,800円
(税込み)

## バイアグラ 勃起不全治療薬

—不能治療薬のベストセラー—




ライフスタイル・ドラッグ(生活改善薬)の大ベストセラー。しかし、強精剤・精力剤ではないので、何もしなければ(性的な興奮・刺激がなければ)効果はありません。

50mg 100mg 共 4錠 12,000円 8錠 20,000円 30錠 40,000円
(税込み)

## ハーバルV 性欲覚醒 栄養補助食品



ハーバード大学の研究者により開発された、天然成分による精力増強・性欲覚醒健康補助食品。

男性用・女性用共 30錠 8,000円
(税込み)

※表示料金は全て税込み。お支払いは代金引替か現金書留、銀行振込みにて。商品のお届けは2〜10日、ご不在がちの方は希望の日時を指定して下さい。送料は一律1,000円

お申し込み・問い合せは
フリーダイヤル 0120-680-214
夜12時まで電話受付中・年中無休

### 「個人輸入」について

上記の商品は海外で医薬品として開発・販売されており、日本では個人の責において輸入・使用できるものです。第三者への転売・譲渡はできませんのでご注意下さい。個人輸入のため発注後のキャンセルはできませんので、事前によくご検討のうえお申込み下さい。

### 1.電話・FAXによるご注文

フリーダイヤル 0120-680-214
TEL(078)643-2349
FAX(078)643-2597
年中無休 AM9:00〜PM24:00

### 2.ハガキによるご注文

50
〒653-0803
神戸市長田区前原町2-5-22
ケイトレード
紙のプロレス

①商品名
②個数、金額
③住所
④氏名㊞
⑤年齢
⑥TEL 番号
⑦職業
⑧18才未満 保護者名㊞

### 3.前払いによるご注文

前払いの場合は
**送料無料！**

必要事項を記入の上、商品代金と一緒に左記住所までお送り下さい。現金書留もしくは、銀行振込にてお願いします。

銀行口座：富士銀行 神戸支店
普通2076446 ケイトレード

**ケイトレード**
〒653-0803 神戸市長田区前原町2-5-22
フリーダイヤル 0120-680-214
TEL(078)643-2349
FAX(078)643-2597

# WWF WORLD WRITING FEDERATION

## 次号からリニューアルのコラム陣!! これが終ったら海を見に行きたいですね（船木調）

**最終回スペシャル**

- ●花くまゆうさく『リングの汁』
- ●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）『業☆勝ちます』
- ●杉作J太郎『プロレスを見て女にモテろ』
- ●プナニ酒井『もうひとつの大和魂』
- ●わかおはるか『THE ジョージ秘宝館』
- ●梵婆家の店長『魁！　裏ビデオ御開帳』
- ●井上義啓インタビュー連載『井上用語の基礎知識』
- ●イナズマ★K『実録　最狂プロレスファン列伝　ゆらゆら帝国　亀川千代さん』




イラスト◎キャプテン名倉

**モー娘。の市井脱退とミスターデンジャー水道橋店閉店を悲しむ作文**

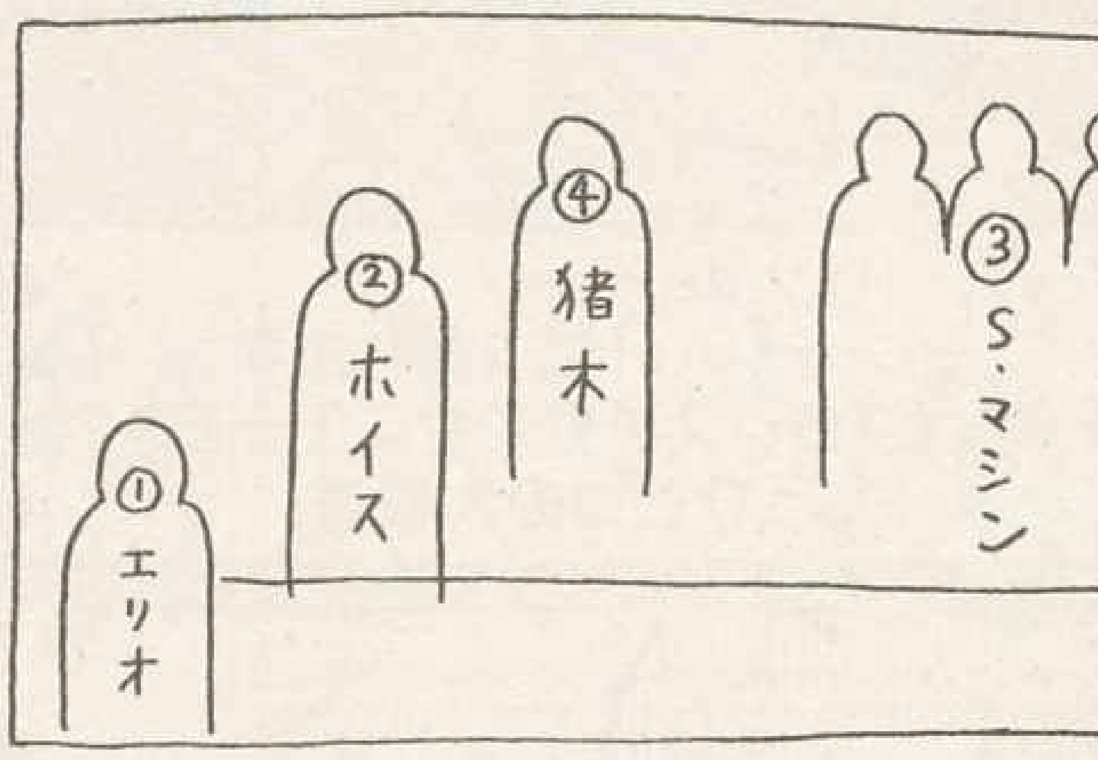
# 花くまゆうさく リングの汁 RADICAL




今年の日本の春は、あちこちでタイマン祭りと子供犯罪のラッシュだ。まずは代々木のUFC―J。

会場全体で祝福される菊田の晴れ姿がうれしい。やっと菊田に追い風が吹いてきたのか？ パンクラスで一番になってほしい。ブスタマンチの強さが一部の客にしか伝わってなかったのが安生の悲しいとこ、でもそれが安生の行く道。K―1もVTも小細工せずに真っ向勝負する安生にイバラの道は続くと思うが頑張ってほしい。そして美濃輪がまたも見せた〝底力〟。大道塾でのvs山崎進戦で見せた美濃輪の底力には度肝を抜かれた。あれがプロレス団体に身を置く者の底力なのかと。プライドでの松井にもよく感じるが、一部のプロレスラーが見せるあの〝底力〟は凄い。格闘家は技術はあるが、逆に足りないのがあのグヴァーと出る得体の知れない底力ではないだろうか。あの底力と技術の二つを持った者がプロ格ではないか。そしてそんな奴ばかり集まるリングがあったらK―1も吹っ飛ばせるかも。

そんで爆発したプライドグランプリ。この日私は初めてドームのアリーナに行けて見たのですが、当然寝技になったらまったく何も見えない。しかし、凄い絵がバッチリ見えた。それは桜庭vsホイスのゴング前、図で説明すると私の正面に映るそれは、①エリオと②ホイスの先に③3人のストロングマシーン、そして対角線上には④猪木だ。構図的にもバッチリでもの凄い絵ヅラだった。おもわず写真撮ってポストカードやポスターにしたいと思った。なにかもの凄いムーブメントが起こせるのではないかと思う、今まで見たことのない凄い絵ヅラだった。そして手元の『東スポ』見れば我らがマサが桜庭vsホイスや藤田vsケアーを予想してるし、連載漫画『必殺やわら忍法プロレス武闘王伝』では忍法柔術の主人公とゴッチモデルが闘っていた。それら全部ひっくるめてまさに格闘芸術空間。ホイスじゃなくヒクソンだったらパーフェクトだった。格闘芸術もまんざらでもないなと思わされてしまった。




桜庭が3R以内にキッチリ勝つと思っていたのであんなに長引いて意外だった、桜庭相手にホイスが健闘したと言っていいのかな？ それともじわじわ痛ぶるキラー桜庭作戦だったのか。しかし入場からすべてにおいてパーフェクトな桜庭はズバ抜けている。大一番でもあの余裕の入場は、見事に突き抜けていた。カッコイイとはあーゆーことだろと思った（でも道着はともかくパンツ脱がしは×）。棄権すると思ってた準決勝も出てきて闘ったしホント感動した。凄すぎる。それにひきかえ高田は……と思ったりしたいとこだが、謙虚に桜庭を立ててる姿や、ゴン格での素直な発言、NHKの番組で小学生にレスリングやらせてる姿を見て、高田への好感度はUPしてるのでもう文句言うこともないと思う。

ゴン格での高田発言は、Uインター時代なら考えられないくらい正直でうれしかった。よくそこまで言ってくれたと思う（柔術らが出てくるまで、我々にはあそこまで寝技の考えがなくグランドになればすぐにサイドを取れて簡単だった。タックルもまともにやれなかった……など要約するとこんな感じ）。

みんなが柔術嫌うのは、それはそれでかまわないし、ホリオンやヒクソンらのおかげで嫌われるのも仕方がないと思う。しかし、柔術が出現したおかげで、総合格闘技での寝技と、見る側の寝技の理解度、この二つがアップした事は事実だということは判ってほしい。

今回でグレイシー一族も現実に目を向けてくれるだろうか？ ヒクソンは目の前で桜庭vsヒクソー戦を見たのに、無謀にも軽量のホイラーを桜庭にやらせた。そして誰が考えてもメチャ強の桜庭に、今回ホリオンは、イズマイウ戦でブラジルの柔術大会ではなんの実績もない黒帯の1人でしかないことが判明されたホイス（昔、猪木の兄が「あれぐらいの選手はいっぱいいるよ」と言ってたのは正しかった!?）を時間無制限でやらせる。ブラジルと縁が切れてるホイスの回りには弟子しかいないし、ブラジルから奴らはオールドスタイルだと言われてる。今回も一緒に来てんのはホリオンの身長がでかいだけの息子（まだ青とか紫帯）。そんな自分より弱い奴としか練習してないここ数年なのに、なんであんな自信あるのか？ 堀辺先生言うとこの僕らド素人でも、そんなんじゃ桜庭に勝てないだろと思うのだが、あの自信は不思議でしょうがなかった。それともなにも考えてないのか。今はみんなが柔術を取り入れる前の1995年じゃないのに……。

エリオが、みんなに笑われてたので少し悲しくなった（たしかに悪魔のいけにえのじいさんみたいで、見た目で笑うのは判るが）。ホリオンに振り回されてる犠牲者に見えるのだが、本人はどう思ってるのだろうか。ここらで、ホリオンとヒクソンをひっぱたき、「もういーよ。お前らもう金、金言うな！ 金なんかもういい。（漫画『銭っ子』最終巻を見せ）ほらっ、わしらも一からやり直すんだ。金持ちになる前の兄弟に戻るんだ！」と金のためにバラバラになった兄弟を改心させ、「さあヒクソン、お前は船木とやんだろ。甘く見るなよ、さあブラジル戻って練習じゃ」そして船木戦では、第1回UFCの時のようにホントの一族そろって入場……てならんかしら。

藤田も底力を出して勝った。vsボブチャンチン戦の再現となったケアーの急な失速が気になるが、ここはやはり藤田の底力に脱帽するべきか。

あとプライド話だと、アレクとシャム兄でゴング後いきなり暗くなった時、音楽が鳴って誰か登場するのか!? とマジで2秒間思った。それと桜庭のまんぐり返しだが、あれは柔術ではパスする時によくある光景だとつぶやいておきたい。珍しい事ではないと。しかし桜庭がとっさに思いついてやったのならさすがです。

さて次はヒクソンvs船木のタイマン勝負！〝底力〟があるのは、どっちだ!?




**花くまゆうさく**■こないだ柔術の大会ではじめて優勝しました。やったね♡（でも30才以上の部……）あとマグノリアのサントラ最高。

すべての罪深き男たちよ、幸多かれ!

# 船☆勝ちます

## フナキ記念日の巻

掟ポルシェの
(ロマンポルシェ)



# 「ヒクソンと闘いたい!!」そう思った瞬間から船木誠勝の逆・実績作りが始まった!!

みんな船木が好きだった……。'96年NKホールでのvsルッテン戦、柳澤が戦前「船木さんに打撃? そんなの絶対当たりませんよ!」と言っていたにもかかわらず、不用意なタックルの連発で再三ルッテンの掌打とヒザをアッサリ喰らっていた船木。肉を斬らせすぎて、骨を断つ前に出血多量で自滅したような試合ぶりだったが、そんなことはどうでも良かった。今思えば新日で教わった「タックルもどき」だけでどうにかなる相手じゃなかったとも思うが、そんなことも気にならなかった。何度倒れても立ち向かっていく折れない心に俺達はプロレスラーの魂を見、「明日からまた生きるぞ!」の一言に勝敗を超えた強さを感じとったのだ。あの時流した涙にウソはつけない……ねぇ? ガンツ。

みんな船木が好き「だった」……オイ、なんで過去形なんだよ、みんな! 対外的なバーリ・トゥードで結果を出してない? そのクセ最近は言い訳番長に成り下がっただと? ハァ～、おまえら全然わかってねぇよ!! 悪戯な妄想と無闇な感情移入なくしてプロレスは楽しめねぇだろ!? 長嶋美智子になんの前触れもなく一方的に婚約指輪を送りつけてビビられたお前の妄想パワーをちったぁ船木にも向けてみろってんだよ!! バーリ・トゥードと女子プロレスを一緒にしないで下さいって差別的論法では船木の壮大なる計画は見えてこない。船木のここ数年のトチ狂った言動は、ヤスカクの異常な愛情まで含めて、全てヒクソン戦へ向けての大いなる助走であったのだと!!

宮本武蔵を敬愛してやまないヒクソンの〝400戦以上無敗〟のための秘訣が「勝ち目のない試合はうまいことゴマかして逃げる」ことだというのは既に周知の事実。グレイシー最強最後の砦となったヒクソンに対戦を受諾させるためには「コイツなら全然イケるだろ～」とナメられなければならんのである。つまり今やヒクソンが対戦OKのサインを出す者イコール「そんなんでもない奴」と認識されるのであって、最強の称号とはじつは対極にあるのだ。船木vsヒクソンにイマイチ乗れない奴が多いのも、その意味ではしゃあないという話。だが船木はこのリスクだらけの勝負に乗った。それはただ無敗を謳う者が本当はどれほど強いのかを知りたいがため。コンデ・コマと同郷の戦士の純粋な好奇心故なのだ。

「ヒクソンと闘いたい!」そうと決まれば、後は逆・実績作りのスタートである。パンクラチオン・マッチでブラガ相手に防戦一方になっても天国の長谷川に「マイッタしなかったよ」と報告して、観客にマイッタしなかっただけでいいのかよと思わせてみたり、試合後に顔面ボッコボコに腫らしながらも「ブラガのパンチは全て見えてました」と訳のわからない強がりを言ってみせたりするのも、全ては己の価値を敢えて貶める作戦に他ならない。ブラガ相手に既にもうその時からヒクソンとの闘いは始まっていたのだ。船木のものの考え方はいつも非常にスパンが長い。

「なんでもアリに出るには最低あと2年下準備がいる」「あと6年待って下さい。謙吾を一人前の選手にしてみせます」など、気長すぎるようでいて、じつは現実的な発言も多い。事実、パンクラチオンマッチはその発言の2年後に実現させている。やはり策士である。

こうして順調に「もしかして船木、そんなに強くないんじゃ……」というカンジを長い時間をかけてプロレスファンの間に浸透させながら、ついに5・26対戦が決定! だが、いつドタキャンするかもわからんグレイシー。油断させ続けるための逆アピール戦法は続行。その最たるものが『週プロ』誌上での〝アマレス発言〟である。

「レスリングは新日の時にもどきの両足タックルを教わっただけ」と口走り、旗揚げ当初からパンクラスを見続けた俺達にまで多大なショックを与えたのだった。その程度のレスリング技術で勝ち続けられていたのかと思うとパンクラス全体の力量を疑いたくもなるし、高橋や鈴木といったアマレス出身者との技術交流さえなかったのかと思うとどこがハイブリッドなんだよとも思いたくなるってもんだ。ハンバーガーをガツ喰いするベタな写真も折り混ぜながら、コンスタントに不用意と思える発言を続け、順調にヒクソンを安心させっぱなしだ。

これだけ思い切りのいい前フリを続けた以上、もし負ければ船木はナンボ弱いかわからんようになってしまう。逆に言えば絶対に負けの許されない状況に自らを追い込んだとも言える。しかし、いや、だからこそ断言する! 船木は勝つ! 200%勝つ! 三度目はない! もう一丁もない! 「お兄さんこの次は僕と勝負して下さい」とホリオンに向かって言うことも絶エ～～ッ対にな・い!! だから、5・26は誠勝記念日だ! 頼んだぜ、船木!!




おきて・ぽるしぇ■6月18日、大阪・十三ファンダンゴでロマンポルシェ・ライブ出演決定! 問い合わせはTEL03―3369―4229掟プロモーションまで。




掟ポルシェがヴォーカルと説教を担当する"ロマンポルシェ"のCD『暴力大将』(¥1600・税抜/ch-68)は絶賛発売中! メシがまんして買え!!

## 今月の オトコラム プレッシャーズ

先日、東京は人形町辺りをステロイド一発キメてバーベルかつぎながら一輪車でブッ飛ばしていたところ(一部嘘)、駅前の交差点角に「オレたちの鮨屋」なる店を発見! 中村雅俊にインスパイアされた青春鮨ならノー問題だが、長州、天龍、鶴田、藤波の「オレたちの世代」シンパでそのネーミングだとしたら……!? パワーホールが大音量で流れる落ち着かない店内、丁度肩あたりで揃えた男臭い長髪をなびかせた板長が握る妙に力の入った固めの握り……。独特の息使いと作為的な痙攣をまじえて客を一気に昭和へと引きずり戻すプロレス寿司屋の存在確率。まぁ、そんなとんでもない事態になってるかどうかは知ったこっちゃあないんだが、オレはかませ犬じゃない! と叫びつつ腕をグルグル回してあがりでも出された日にゃあたまったもんじゃないので、そのうちぜひ行ってみようと思っている。テイクアウト鮨チェーンの『京樽』の2Fに店を構えてるのも気になるところだ。腐りきったフランチャイズ方式に反旗を翻した京樽維新軍が心の寿司道を求めて開店した自由への闘いなのか? それとも単なる『京樽』の新しいキャッチコピーなのか? 謎は深まるばかり……。待て、次号!

エンターテイメント・レスリング・コラム

# プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

**四十八手の十『イフ・ユー・スメェエエエエル・トーキョー・ボンクラスクール？』の巻**



イラスト・中川雅博

俺の作ったホームページ『東京ボンクラ学園』でＷＷＦ登場人物の人気投票を開始しました〜！　なんのために？　さあ。なんのためなんだろね。結果がでたからどうだって話でもないし。ビンスに報告するわけでもなんらかの形で反映されるわけでもない。ま、近い感覚としてはホットドッグとかでやってるセックス特集みたいなもんやろな。初体験年齢とか感じる場所とかアンケートで数字がでたところで、結局のところそんなもんは個人差があって当然なのであり、

「あっ、そー」

でしかないわけだ。お前はそうか、でも俺はこうだ。そこ止まりの話ですよ。

「ああ、そんな奴もいるのか。スキだね〜」

参考になるとはいっても自分には自分の性癖があるわけであり、

「みんながやってるから俺も今夜あたりライトＳＭやってみっか！」

ってな具合に、即、自分のナイトライフに反映されることはないだろう。が、反映はしないにしてもみんなこんなことやってんのかと思ってムラムラすることはあるだろね……そしていつしか手は自分の股間に……おっと、脱線脱線。でもそのムラムラにしたところで、そのアンケートがホンモノかどうかの確証はないわけですからな。

「ひょっとして、このアンケート結果、スモー・ノブみたいな野郎が鼻クソでも食べながら捏造したガセなんじゃねえの？」

そんな考えがふと頭に浮かんで、握り締めた手の力がスーッと抜けたなんて記憶、諸君にもあるはずと断言したい今日の俺。

だが、そんな葛藤の中で男はタフなインテリとして成長していくのであります！

ホンマホンマ、本間千代子です……ノー・リアクション・イン・ヘル！

さて。そんなわけもあり存在意義がぐらつくＷＷＦ人気投票ですが、実際問題、いろんな人がいるもんだという印象は得ることができた。俺が投票ページを立ちあげたのが朝6時だったのだが、立ちあげた瞬間に！　プリンス・アルバートに1票入れた人がいたよ！　信じられんよな？

いや、いろんな人がいてもいいが俺は驚いたよ。ＷＷＦを知らない人は好きな芸人人気投票にいきなり平泉成が現れたよーなもんだと想定してもらってもいいのではないか。いや、失敬しました。誰かは知らんがその人にはアルバートがすごくカッコよく見えてるんだろね。

で、昨晩。仕事先のパソコンで、ほらほら見てよ、アルバートが5位なんだよ、と仕事先の人間に見せたら、

「うわー、バッカじゃないの！　ミディオンだって。ミディオンに入れてるバカがいる。世の中にはやっぱりバカがいるわ！」

吐き捨ててましたが。

「ほんとだよねー」

力なくリアクションしながらも、それは俺が投票したんだとは言えなかった。

**すぎさく・じぇいたろう**■素敵なイラスト、ありがとー……俺はまだ見とらんけど。ＷＷＦ登場人物人気投票はそれでも続けます。杉作Ｊ太郎の『東京ボンクラ学園』URL：http://rawiswar.tripod.co.jp/

賢い野蛮人のマネージャー日記

# もうひとつの大和魂

プナニ酒井（E-FORCE JAPAN）

**最終回　また会う日まで！**

さあ、今回は最後なので、エンセンと神様の話を書きたいと思います。ご存知のようにハワイにいた頃のエンセンは、かなり暴れていました。あるとき、そんな自分の生活に悩んだエンセンは、「神を信じれば救われるはず」と思い、キリスト教の教会に行くようになりました。

毎週日曜日には教会に行ってお説教を聞き、自分でいろんなことを考え始めたエンセンは牧師さんにいろんな質問をするようになりました。例えば、こんな感じです。

①キリスト教の存在を知らずに大勢の人を殺して生きてきた人が、最期の1年で神の存在を知って一生懸命お祈りをして死んだ場合。

②ずっと正しい暮らしをしたままだが、まったく神の存在を知らずに死んだ場合。

この①と②の場合では、どちらの人が天国に行けるのか？　両方とも行けるのか？



真剣に悩んで考え抜いたエンセンは、牧師さんにそんな質問をぶつけたそうです。すると、牧師さんは怒りだし、「屁理屈を言うな！」と怒るだけで、ちゃんとした答えを出してくれなかったのです。真剣に悩んでの質問だっただけに、エンセンはショックだったようで、「もう信じられない！」と、そのまま教会は辞めてしまいました。

いまでは、そんな悩みはすっかり忘れてしまったらしく、もっぱら興味は「死後の世界はあるのか？」ということに移ってしまったようです。死んだらどうなるのか？　どこに行くのか？　天国は本当にあるのか？　そんなバカ話ばかりしています。そこでエンセンは私や他の友人たちと、ひとつの約束をしました。

「もし、誰かが先に死んだら、必ずこの世に戻ってきて、〝死後の世界〟がどうなっているのか教えなくてはならない」というものです。そんなこと、実際に出来るのかどうかわかりませんけどね。この先も、私とエンセンとの関係は続いていくと思いますし、いつかは必ず死ぬときも来ることでしょう。こんなことが出来るなら、寂しくならないから、いいんですけどね。

思い返してみると、私がエンセンと知り合ってから、もう10年以上経ちます。知り合った当時は福島県の郡山にいたものですから、遊びに行くのも少しさびれたバーみたいなところだったのを覚えています。バーに行くんですが、2人とも照れて何にも出来ずに帰ってくるなんてこともありました。

時は流れて、エンセンが修斗のトップ選手になって、『ＰＲＩＤＥ』で活躍しているいまは、各地にイベントで呼ばれて、キレいなおネエさんのいる店で接待を受けるというありがたい体験もしました。そんなとき、エンセンとは、「郡山にいた頃からは考えられないヨ」なんて話をします。エンセンがいたから、私がここで原稿を書いているわけです。エンセンが昔、言っていた「ワタシと一緒にいるとエキサイティングでしょ？」は嘘じゃなかったですね。これで連載は終わりますが、またエンセンのみんなが楽しめるような話があるときは書かせて下さい。きっとすぐあると思います。では、みなさん生のエンセンを見に、是非一度会場に来て下さい。

**ぷなに・さかい**■今年の8月、ラケットボールの世界大会に出場します。最近は『PUREBRED京都』の年内オープンに向けて、忙しく動き回っています。

# 魁！裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

## 最終回　千客万来!!の巻

いや〜、このコラムも最終回ですか。ここで書くようになってから、ボクの持ってない裏ビデオを持ってきてくれるお客さんが増えて、とてもありがたい限りです。お陰様で、私の裏ビデオコレクションも非常に充実したものになりました。

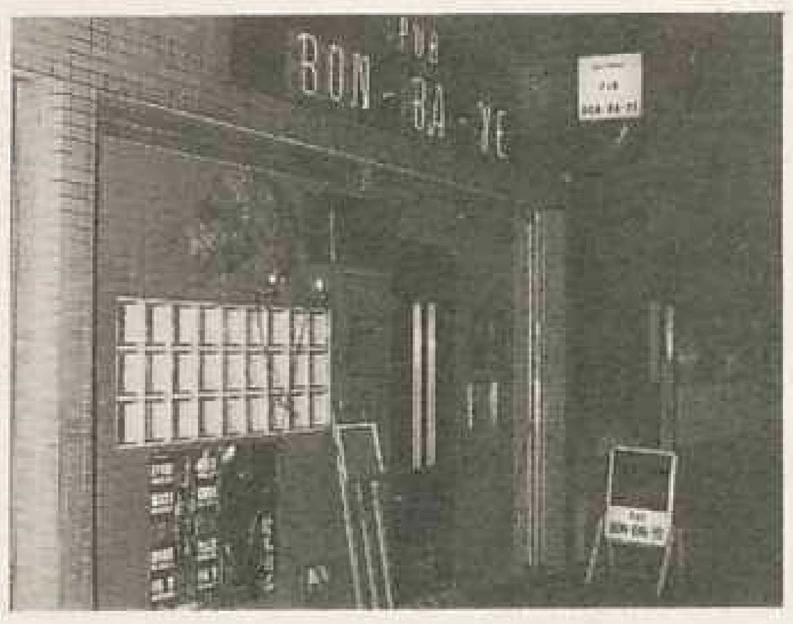
そんな感謝の意味も込めて、最近お店に設備投資をしました。スカイ・パーフェクTVに加入したのです。先日の『PRIDE』のときもお店でPPV生放送を流したら、会場に行けなかった人たちが大勢お店に来てくれました。みんな口をポカンと開けて、テレビに釘付けになってしまい、なかなか注文が来ないのは困りましたけどね。ただ、ラウンドごとのインターバルには、みんなが注文しだすので、厨房はテンテコ舞いでした。私もゆっくり試合を観ていたかったんですが……まあ、とにかく桜庭選手、そして藤田選手の勝ちは、「素晴らしい！」の一言に尽きますね。この勝利を記念して、カクテルに桜の花を沈めた『カクテルDE桜庭』を作りました。これはソフトで口当たりはいいけど、強いという桜庭選手のようなお酒です。女性にオススメですかね。

次は、船木選手の番です。前々号でも書きましたが、もともと私は船木選手には期待していたので、ヒクソンに勝ってくれたら、もう商売抜きで大騒ぎしたいと思います。もし船木が勝ったら、お店に来てる人たちには生ビールを振る舞っちゃいます！　5月26日、会場に行けない人は、是非、梵婆家に来てください。

さて、話はガラッとかわりますが、最近お店に西村修選手が遊びに来てくれました。いきなりだったもので、ビックリしましたねぇ。何よりも、あんな病気の後なので、心配だったのですが、非常に元気そうでした。それどころか、以前よりも、逞しく、精悍になってましたね。身体もブ厚いし、日焼けした肌はつやつやしてるし、非常にいろんな元気にお話ししてくれました。そんな中で印象に残ったのは、

「たった1人になっても、『無我』を守る！」

そう力強く語ってくれたときです。もう、一発で西村ファンになってしまいました。他のお客さんも、カウンターに西村選手が座ってたら、チラチラ観ますよね？　そしたら西村選手は「どうですか？　こっちに来て、一緒に飲みませんか？」と気さくに声をかけて、いきなり自分の横の席に呼び、「いまの新日本プロレスってどう思います？」と西村節が炸裂してました。ファンにとっては幸せな空間でしたね。



これからも『梵婆家』は、プロレスファンと、そしてボクが幸せになれる空間を作っていきたいと思います。というわけで、最後になりましたが、ボクが幸せになるために以下のビデオをお持ちの方は、是非観せて頂きたいのでお店に遊びに来てください。

①旧UWF大阪大会で行われた佐山vs藤原で、藤原が腕を折ってしまった試合
②安生vsヒクソンの道場破りマッチ
③イワン・ゴメスが前座の試合で藤原や木戸と闘っている試合
④日本プロレス時代の大木金太郎vsボボ・ブラジル
⑤ブラジルで行われたイワン・ゴメスvsウイリエム・ルスカ

お持ちの方はスペシャルなサービスでおもてなししちゃいますのでよろしくお願いします。

**ぼんばいえのてんちょう■**『藤田』、『小川』、『STO』など独自のメニューが増殖するプロレス居酒屋『梵婆家』を今後もヨロシク！
東京都世田谷区松原1─39─16（京王線明大前駅から徒歩5分）
TEL、03─3323─5629

ジョージ高野復活した最終回

# わかおはるかの THE・ジョージ秘宝館

Mulatto Arts H.I.T

「http://www.remus.dti.ne.jp/˜naoti/」の巻

プロレス大賞の授賞式、ジョージさんは唐突に東京に現れた。従兄弟の高野十座を誘いに来たのだ。十座はいなかったが、後日、色々なことがあったと電話して来てた……。SWS以来、日本が誇るミスター・プロレスの天龍さんと再び握手が出来たこと。ジョージさんは天龍さんがいかにビッグハートであるかということを懇々と語ってくれた。

そして『PRIDE、GP』開幕戦で、あの最強の遺伝子、ホイス・グレイシーを破った高田道場の桜庭選手が自ら挨拶に来てくれた……と嬉しそうに語ってた。桜庭選手にしてみたら、別に深い意味もなく、Uインターからの付き合いのジョージさんに新年の挨拶をしに来ただけなのだろうけど、こうした先人に対する礼を忘れない謙虚さが、桜庭選手が日本のNO．1バーリトゥーダーである所以なのだなと思った……。力は心から発せられるものだ……。

さて、今年、ジョージさんは紙プロのお陰もあって、見事復活しました。先月（4／22）のキングダムの試合も週プロに掲載された通り、大成功に終わりました。ファンの皆様ありがとう！ということで、3・9UNW大会のお話。

都市伝説、セッド・ジニアスさんは、突然連絡して来た。その頃、既に週プロ誌上では〝遺恨を清算するために対戦を迫っている〟旨の記事が小さく出ていたのだが、従兄弟の十座はその辺のところをセッドさんに問いただしていた。「遺恨って何スか？　互いの信頼なくして試合なんて出来るんスか？」セッドさんとジョージの間に挟まれて、私たちはそれは大変でしたが、セッドさんの話す遺恨が、1人の人物による誤解であったこと、ジョージさんの、自分の非も認め、UNWを助けたいといった男らしい部分とで、この大会は実現したのです。少なくとも、すばらしい試合であったことは事実です。試合の最後に……セッドさんは遺恨を乗り越えて、初めて「ジョージさん」と呼びかけました。感動でした……。そして後日、セッドさんから十座宛てに手紙が来て、こう書かれていたのです。

「初めて本物のプロレスラーと闘った気がします。」

セッドさんも立派なレスラーです。ジョージさんがそう認めていたのですから……。

そんなこんなで、次はジョージさんと意外に接点のある、全日が世界に誇る偉大なプロレスラー三沢光晴選手の話、編集者に圧力をかけるプロレスラーの話、立場を利用して新参者を潰すプロレスラーの話、大嘘を正当化するために嘘の物語を創作するプロレスラーの話等を、『紙プロ』での連載は終わりだから、どこかの雑誌で書きます。雑誌という媒体で無理だったらH．P．でね。アドレスはタイトルの下にあります。先月、間違ってたけど、優秀なノブさんのことですから、意図的じゃない限り、2度間違えることは絶対にありません。皆でアクセスして下さい。

それでは、紙プロ読者の皆様、最後にジョージさんが従兄弟の十座に宛てたこの言葉でお別れです。

『お前が出世という階段を登る時、途中で出会う人に誠実でありなさい。何故ならお前がその階段を降りる時、途中でその人達に、また出会うのだから……。俺は次は気を付けるゾ!!』

**わかおはるか■**ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムを担当させられた漫画家。「本当にあった愉快な話」他でも連載中。尚、F．S．R．（093─619─3933）はムラトー・アーツ・ヒット（03─3559─3358）に東京での連絡先を置いている。生徒も募集中。コブラジムTシャツあります。お電話下さい。

グランドマスター・オブ・活字プロレスが遂に降臨!!

元週刊ファイト編集長 連載インタビュー

# I（元）編集長 井上用語の基礎知識

『週刊ファイト』の名物連載『喫茶店トーク』が帰ってきた!!



**井上義啓プロフィール**

1934年、岡山県出身。言わずと知れた『週刊ファイト』の偉大なる元・編集長。「活字プロレス」の始祖であり、その後のプロレスマスコミに大きな影響を与えている。

いま、井上義啓さんが大爆発している！　賢明なる『紙プロ』読者なら、とっくにご存知のこととは思うが、『週刊ファイト』で絶賛連載中の「Y・INOUEのファイト直言」というコラムが今年に入ってから大変なことになっているのだ（もちろん去年までも凄い原稿だったけれども）。「『iモード』みたいなものなんだな」（1月13日号、今年の1・4新日の東京ドーム大会を見て）。「裏原宿……それがY2Kプロレス」（1月20日号、正月に裏原宿を訪れて）。「ヒクソン・グレイシーだのマーク・ケアーだの桜庭和志だの試合を見るたびに思うのだが、全盛期のカール・ゴッチであれば、まず負けないだろう」（3月16日号、「ゴッチは格闘技最強者だったのか!?」とのタイトルで）。

どーですか、読者のみなさんッ!?

いま、理不尽きわまりないターザンのイカレっぷりばかりが様々なメディアに露出しているが、これら原稿を読む限りターザンの師匠である井上さんの「活字プロレス」は、もはや次元が違うのだ！　その鋭すぎる言語感覚で、いままでにも「平成のデルフィンたち」「プロレスとは、底が丸見えの底なし沼」など数々の歴史的名言を残してきた井上さん。

だが、その原稿は非常に感覚的で、難解なことも多い。というわけで、井上さんの原稿の中に登場する"井上用語"を、今回からトークで解説してもらうことにした。

それを引き出すのは、前号で惜しまれながら終了した『紙プロWEST』の原タコヤキ君だ!!　一部ではトークの魔術士とまで言われるナイス&スムースなトークで、井上さんのプロレス観を見事に引き出してみせまっせ!!

聞き手／原タコヤキ君

## 井上用語その1 「プロ格」って何？

（訝しげにテレコを見つめる井上さん。しまいにはなぜかつつき始める）

**井上**　……（コンコン）。

——何してはるんですか？

**井上**　これじゃダメだろ？

——へ？　このテレコですか？　どこも故障してないですよ。

**井上**　関東の機械を関西で使ったらちゃんと動かんだろ。

——動きますよ！（爆笑）。

**井上**　動かんはずだけどな。

——誰がそんなこと井上さんに吹き込んだんや（笑）。それでですね、なんでボクが今回こういう連載を始めることにしたかというと、今のファンが井上さんの凄さを知らなさすぎると思ったんですよ。それをボクが世間に知らしめようと思いまして。

**井上**　まあオレはもう（プロレスマスコミ界の）力道山だからな。力道山いうても、もう名前も知らんファンもおるんじゃないの？

——いるでしょうねえ。

**井上**　プロ野球にしてもそうだよ。巨人の川上、阪神の○○な。知らんって言うんだから、今のファンは。その○○は、そりゃあ大きいオチンチン持っててねえ。

——突然なんですか！（笑）。

**井上**　まいったねえ、あれにゃあ（と頬を赤らめる）。昔は控室も気軽に入れたからね。オレらもヒマだからじっと○○のオチンチンを眺めててね。○○も自慢なもんだからみんなに見せるように歩いとったな（笑）。

——何言ってんですか（笑）。そういうネタを拾えたのも控室に気軽に入れる時代だったからですね。それで井上さん、今回のテーマは「プロ格」なんです。まずは先日の『PRIDE GP』の感想を聞きたいんですけど、一番印象に残ったのはどの試合ですか？

**井上**　そら桜庭VSホイスだろうな。グレイシー陣営が桜庭を読み切れなかったのがグッときたな。でもその前にキミに聞くけど、グレイシーの不敗神話ってなんだ？

——へ？　それは49年前、エリオ・グレイシーが木村政彦に負けてからはバーリ・トゥードで負けなしっていう……。

**井上**　そこ！（ドンとテーブルを叩く）。負けてるじゃない！　一敗してるじゃないか。不敗神話じゃないだろうが！

——ま、まあそうですね（笑）。一敗神話に訂正しないと。でもそこにこだわりますか。

**井上**　だって不敗じゃないんだもん。木村政彦なんていうのはね、バーリ・トゥーダーだよ、ハッキリ言って。小川とか山下とかあんなのと一緒にしちゃダメなんだよ。言うちゃ悪いけど。木



『紙プロ』本誌の編集長（ダミー）だったタコヤキ君は19号で井上さんとの対談（in嵐山）もやったことがある他、『SAMURAI!!』でもレギュラー番組をやっていた仲である!!

PRIDE大爆発&コロシアム2000直前企画!!

# 頑張れニッポン!!頑張れ船木!!

村政彦は殺し合いに近い試合を何度もやってるんだよ! あの時代にプロ柔道を旗揚げしたっていうね、色んなヤクザとのもめ事もあった中でだな、あの男は地獄の修羅をくぐり抜けてきたんだよ! それは大山(倍達)さんもそうだし猪木もそうだよ。バーリ・トゥードなんて大昔からあったんだから。パク・ソンナン戦なんかもそうだろう。あれはパク・ソンナン側から猪木側に八百長を持ちかけて猪木が怒ったんだよな。

——そうらしいですね。

**井上** じつは猪木に八百長を持ちかけた数人の中にオレの親戚がいたんだよ(キッパリ)。

——えーっ! マジっスか? 衝撃の事実だ! 井上さんの親戚が猪木に八百長を持ちかけたなんて!(笑)。

**井上** そういうのに比べたら今のバーリ・トゥードやK—1なんていうたらねぇ。昔のプロ空手なんか凄かったぜ、言うたら悪いけど。オレがね、人生で心底殺気を感じたのは、新開地でドスを持ったヤクザに「殺したろか!」って言われた時と、寛水流の水谷会長と初めて会った時、そしてプロ空手を見た時だな。あれは殺し合いですよ!

——プ、プロ空手ですか……(当時のプロ空手が殺し合いだったか知りたい方は中村カタブツ君の『極真外伝』を読めェェェ!)。

**井上** 格闘技なんていうのはねぇ、言うたら悪いけど、結局は殺し合いですよ。その、桜庭がホイスとやった前の試合で……。

——ガイ・メッツァーですか?

**井上** いやいや、ガイ・ミッチェルの前。

——メッツァーです、井上さん。ホイラーですか?

**井上** そう! あの時揉めただろ? グレイシーと。あれはグレイシーが正しい。本当の格闘技にレフェリーストップなんかあるわけないんだから! でもあのサクという男は面白いな。グレイシーも読み切れなかったもんな。グレイシーというのは相手をとことんまで研究するんだよ。今までのストリート・ファイトも全部書き残しているんだから。

——えーっ! 『グレイシー喧嘩日記』なんてあるんですか?

**井上** 全部残してるから、彼らは(キッパリ)。

——初めて聞いた。そのグレイシーでも桜庭は規格外だったんですね。

**井上** でもホイスもヒクソンも年だからね。じーっと見とってごらん。彼らはそんなに強くないよ、絶対(キッパリ)。

——そういえば最近の『週刊ファイト』で、井上さんは「あんな弱いオッサン(ヒクソン)に何で高田は手もなく2回もひねられてしまったのだろう」って書いてましたよね。あと「全盛期のゴッチ、ロビンソン、猪木ならグレイシーに簡単に勝っていた」とも。

**井上** ロビンソンも猪木もそう言ってるしね。グレイシーなんか話にならない! 断言する。

——井上さんは桜庭並にグレイシー幻想がないですね(笑)。さて、井上さん、今のファンにプロ格とは?何かを教えてあげてください。

**井上** それは簡単ですよ。格闘技のいい部分とプロレスのいい部分の融合体。プロレスの匂いを十分に取り入れた格闘技ですよ。

——ふむ。それはガチンコであるかどうかは問われないんですか?

**井上** まあ、ガチンコでないとダメだわな。ただ、格闘技だなんだと言ったって、そこにプロレスの華を入れなさいということなんだよ。オレはUWFの時、前田に言うたよ。「7色スープレックスを使え」と。

——直接おっしゃったんですか?

**井上** 言うたし原稿に書いたし。でも前田は聞かんかったな。別に相手も無理に前田のスープレックスにかかることはないんだよ。でも絶対不可能なわけでもないんだから。そういうことで華を見せて欲しかったんだよ。だからバーリ・トゥードのマウントポジションとか、UWFの腕ひしぎ逆十字とか、観てる者には面白くないんだもん。美しくないんだから。

——格闘芸術ではないと。ということは今サクがモンゴリアン・チョップとかプロレス技を試合中に出すのは、井上さん的にはプロ格指数は相当高いわけですね?

**井上** まあそうだな。とにかく、今はプロ格の端境期だから。今年中にプロレスがプロ格に移行できなかったら、アンタ、プロレスは生き残れないから。今年中にプロレスの悪いところを排除しろと。ただプロレスを全否定するなと。オレはそう言いたいんだよ。オレはね、「食わんがため」っていうのは否定せんから。格闘技で客なんか入らないんだから! そこにプロレスの華を入れればいいんだよ。でもダメな部分は入れちゃいけないんだよ。

——なるほどぉ。では最後に井上さんが考えるプロ格のお手本ってどんな試合ですか?

**井上** うーん……。

——最近で言うと。

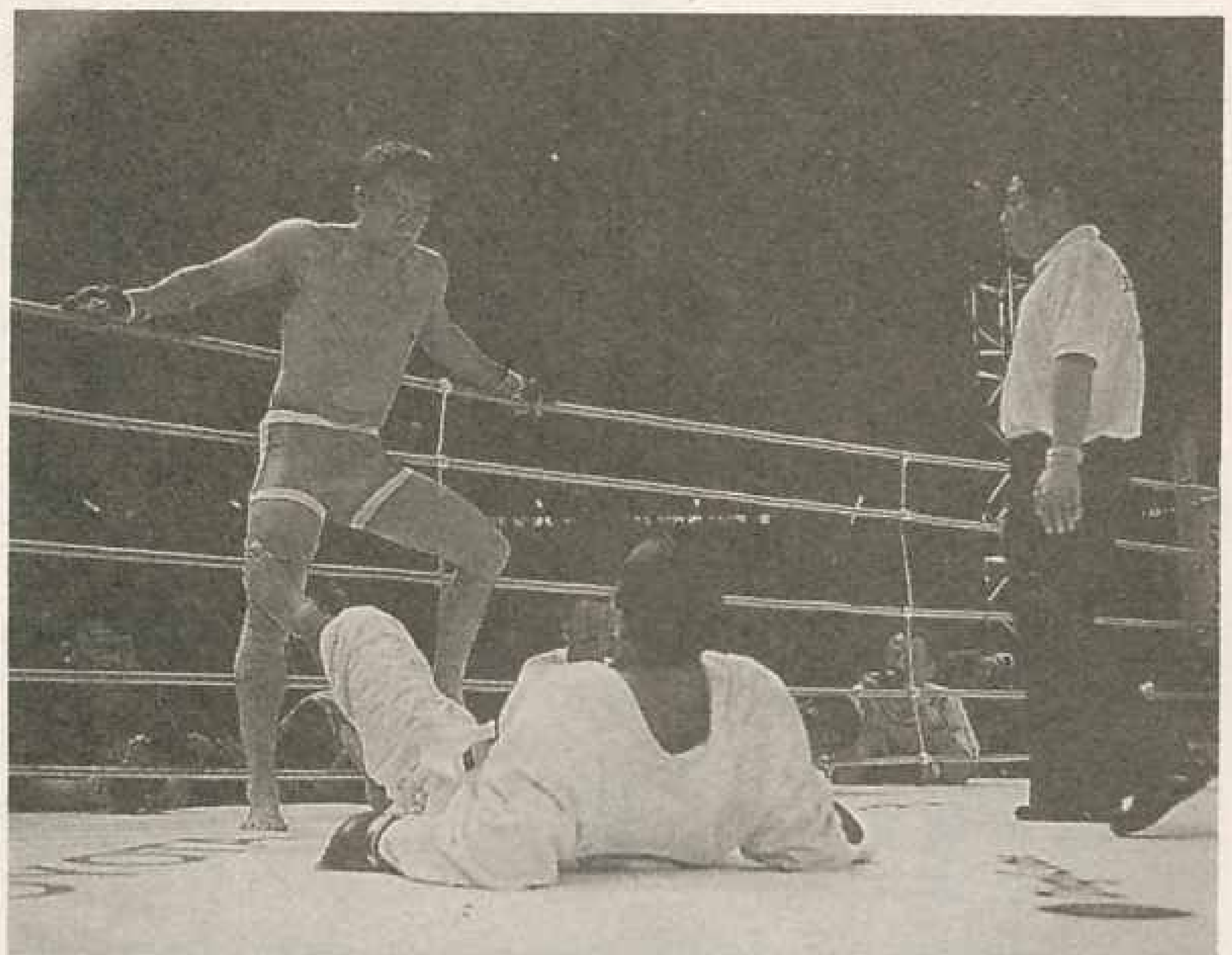
**井上** 最近で言うと……猪木!

——ズルッ! 最近で猪木ですか!(笑)。結局は猪木ですね。

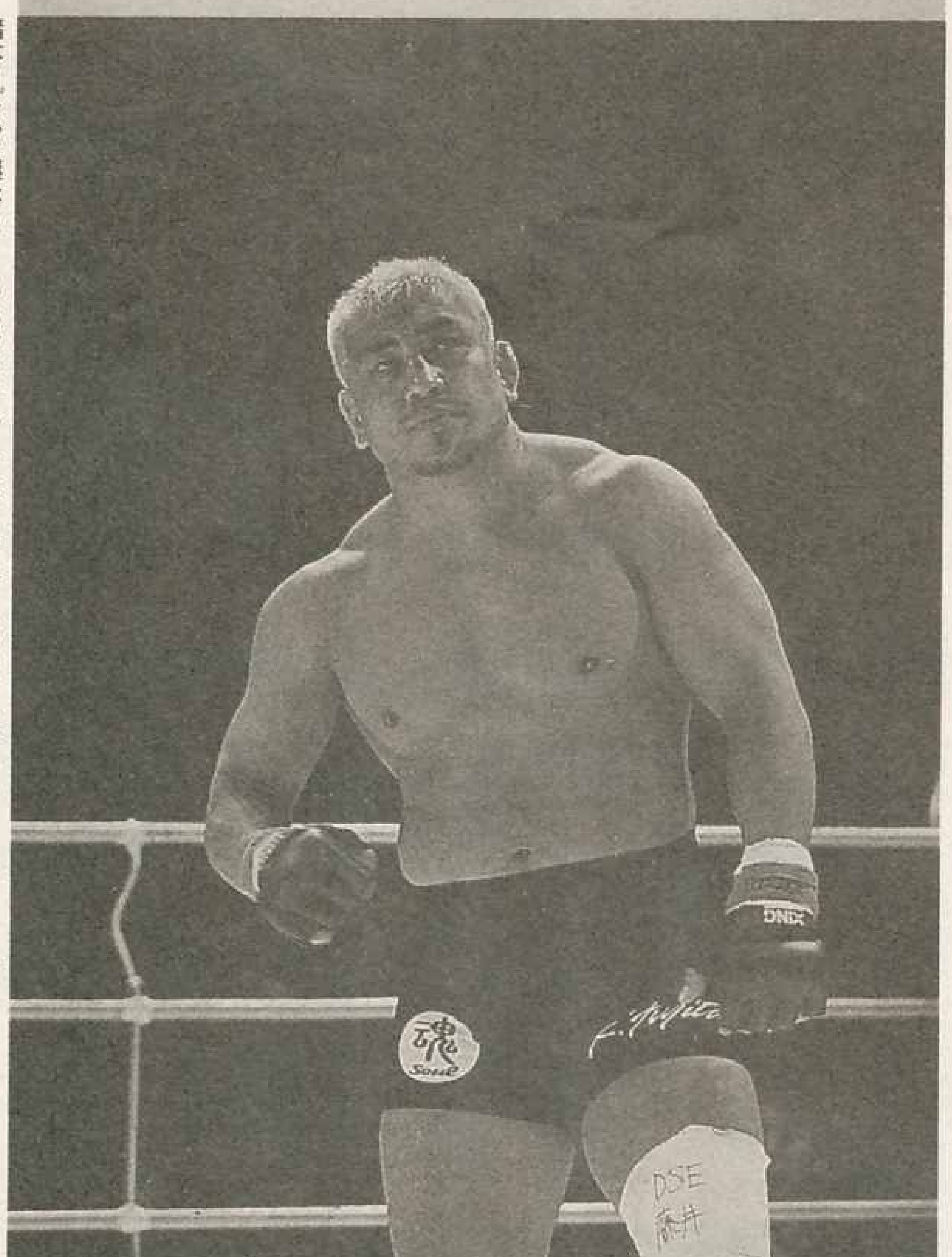
**井上** だからプロ格なんていうのはジョニー・バレンタインの時にだね……、すんません、ホットおかわり!

**店員** もう閉店です!!(怒)。

**【5月8日、大阪・茨木市駅付近の喫茶店で収録。ちなみにこの後、駅のベンチで1時間20分延長戦あり】**



井上さんをもうならせた桜庭のファイト。これからのプロ格時代を引っ張っていってくれるに違いない



猪木イズムを継承してくれる男として、これから井上さんの中でも浮上してくるであろう藤田。この連載では、これからも井上さんに現在のプロレスをブッた斬ってもらいます!!

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

# 実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

ロックファンの間では各方面から絶大な支持を集めるゆらゆら帝国。キャラの立ったメンバーの中でもひと際妖しく、クールなムードを醸し出してるベーシストの亀川さんだ。ライヴを見た事のある人ならば分かると思うが、その微動だにしないステージングといい、寡黙そうな空気をバリバリ発散させている。そんな彼が熱狂的なプロレス・ファンだというからビックリ。ならば確認じゃ、という事で直撃敢行っす。

「昨日の『PRIDE』、どうでした？　やっぱり凄かったんだ—。いや—……」

会ったとたんにこの勢い。どうですか、噂通りのフリークぶりは、早くもエンジン全開。あんまり喋んないんじゃないか、な—んて印象は木っ端微塵に粉砕だ！　話で聞いてた、打ち上げ会場でコブラツイストかけてたっていうのも、あながちウソじゃないな。

「はいはい、落としたりしてたやつですね」

笑顔で答える亀川さんに、こっちも思わずガッツポーズ。では、彼のファン歴をちょっと聞いてみよう。

「小学校からですね。新日の方が記憶してるなあ。タイガー・マスクが出てくる前ぐらいからかな。ダイナマイト・キッド好きでしたね。あのトンパチぶりが最高に。IWGPの猪木が舌出して倒れちゃったのとか、ドキドキして見てました。そのあとUWFが出てきて、地方に住んでたから見れないし、その頃は肩身が狭かったです。TVが中心でしたから、ロシア軍団とか巌流島、『ギブアップまで待てない』とか（笑）大迷走してましたよね。今見ると良いんですけど、当時はなんだかな—って（笑）。18、9才の頃は見てないですね」

なるほど亀川さんもプロレスを見ない時期があったんですね。その間はどうしてたかというと、今度は活字の方に行ったそうな。

「小さい版の『紙のプロレス』とか、本を読み始めると生のプロレスと距離が出てくるじゃないですか。パク・ソンナン見て—なとか、ペールワンとかのゴッチ直伝〝目ん玉抜き〟とか載ってるじゃないですか。やっぱりそうなると猪木になっちゃいますね。もともと最初に擦り込まれちゃってるし。『苦しみの中から立ち上がれ』とかね。偶然、渋谷で選挙演説見た時も面白かったですよ。落選した時、高田も出てて、『今、私の弟子がバカな事言ってるけど—』って（笑）」

アントンの影響はここでもビンビン！　そんな亀川さんが、バトラーツ石川社長の大ファンというのも思わず納得だ。

「インタヴュー読んだ時面白くって、じゃあ行こうかって、最初の後楽園に行ったんです。彼の文章も好きです、感情移入しますよね。琴線に触れるというか。『情念』も読みましたよ。石川選手の試合で印象に残ってるのですか？　あとバトラーツで好きだったのとかね。池田選手にKOされちゃったのは岡本魂（笑）。大塚選手もあんなになるなんて思わなかったなあ」

最近はどんな選手に注目してるんでしょう。

「小川とかUFO勢はやっぱり面白いですよね。猪木がらみの新日、プライドとか。リングスも山本宜久、高坂とか良いですね。キャラが立ってますよ。もったいないな—と思ってたら、この間の『KOK』トーナメントで引き立ちましたからね。アイブルもトンパチぶりを発揮してましたし。あとバトラーツの今後も気になりますね」

こんなナイスな亀川さんも、去年、病気でダウンし入院という大変な事になってしまったのだ。

「それこそ、猪木さんの糖尿病じゃないけどねえ。その間に本も読みました、『猪木自伝』（笑）。こんなんじゃいかんって思いましたよ」

## 生きていく上での影響はありますね、気にすることや遠慮することたねえよって。

さらには、本誌助っ人ツネ経由で石川社長に励ましのコメントもらったという。

「『病気なんか始めからなかったと思え！　神様は病気なんて作ってないんだから!!』、なんて素晴しい言葉だろうって。元気が一番、どうってことねえんですってなっちゃいますよね」

まさにファン冥利に尽きるって感じですね。そんな亀川さんが、ゆらゆら帝国を演ってく上で、プロレスというのはどのようにつながっているんでしょう。

「具体的にっていうのはないんですけど、でも頭ん中で『炎のファイター』が鳴ってると、オッシャオッシャ〜ってなりますよね。生きてく上での影響ですか？　それはありますね。気にすっことねえよ、遠慮するこたねえよって。音楽に関係あるか分かんないけど、へこたれてる時とかね。苦しみの中から立ち上がんなきゃ。どうするどうするばっかりだ。ミネラルだって（笑）」

亀川さんの猪木モードが暴走中だ。闘魂の遺伝子はここでも連鎖していたのでした、押忍！



### PROFILE

**No.4 亀川千代（ゆらゆら帝国）**

10年のアンダーグラウンド時代を経て、98年アルバム『3X3X3』でメジャー・デヴューを果たしたゆらゆら帝国。以来人気は急上昇。ヴォーカル、ギターの坂本慎太郎、ドラムの柴田一郎、そしてベースの亀川千代。3人が繰り出す、サイケデリック、ブルース、ロックンロール、様々な要素が良い所で昇華されてる強力で独特な日本語のロックは、一度聞いたら病みつき。さらに彼らの魅力が爆発するのがライヴ。そのカッコ良さゆえに最近は常に即ソールド・アウト。近い所では6月4日赤坂ブリッツ。7月29日フジロックの2日目に出演決定だ。そんなライヴ中、亀川さんは黒いサングラスで微動だにせず、黙々と演奏をこなしている。それってキャラ作りなんだろうか。「特にそれはないです。あんまり実感ないですからね、ああいう時。そんな余裕ないんですよ。気がつくと終わっちゃってるんですよね、ボーッとしてるから」どこまでもナイスな亀川さんでした。



### DISC REVIEW

**『太陽の白い粉』（MIDI）**

『3×3×3』『ミーのカー』に続く5曲入りミニ・アルバム『太陽の白い粉』。ヴェルヴェット・アンダーグランド風のタイトル・ナンバーに始まり爆走チューン『すべるバー』もありと、フル・アルバムと違って曲数も少なく、いろんなタイプの曲をテンポ良く一気に聴かせてくれる。あまりライヴでやらないような曲もやってみたり、実験的ということでは、女性バックコーラスの参加もあり。現在彼らは次のアルバムに向けてレコーディングの準備中。期待してます！

マット界のミクロな情報を小さい文字でお届けする情報エクスプレス

新連載!!

# 100%インディー!! NO格闘技!! そして、メジャー好きの方は決して読まないで下さい

# 狂い咲き インディーロード

いままでの『紙プロ』では、インディー団体は単発で何度か取り上げられるだけだった。だが、今回、本誌のスタッフから「店長がいつも見ている団体の話題を定期的に紹介してくださいよ」と言われ、このコーナーが登場することになった。私が見ている団体とは、そのほとんどがインディーであり、それも関東近郊の興行に限られている。プロ格ファンやメジャー団体のファンには、まったく目障りなページになるのはわかっているが、インディーを愛するファンも確かに存在するわけで、そんな人たちのためにも『紙プロ』内に無法地帯を設けさせてもらった。

私はマスコミ側の人間ではないため、もちろん会場には身銭を切って入場しており、記者的、評論家的束縛もなく、つまらないと感じた団体からは自然と足が遠のいてしまう。そんな私が現在面白いと思い、他人に勧めることが出来る団体、選手等を勝手なチョイスで取り上げる、誠に手前勝手なコーナーがこれである。

世の中は広く、インディー界も深い。専門誌にはあまり取り上げられないだけで、素晴らしい選手は多く、もっと多くの観客に入ってもらいたい興行も多い。残念ながらその反対も多くあるのは事実だが、見えないふりをするよりも、一度味わって自分の中に取り込んでから判断する余裕をマニアと呼ばれる人たちには持っていただきたい。

インディーの素晴らしい面を一人でも多くの人に紹介し、面白さを知って頂くのがこのコーナーの主旨である!

**Profile**

三浦店長■現在、バリバリの無職&37歳（※カタブツ君と同い年）。失業保険でプロレス観戦を続けているが、メジャー団体はほとんど観戦せずに、いわゆる「インディー」と呼ばれる団体ばかりである。ちなみに「店長」とは以前、大日本プロレス道場付近のレンタルビデオ店で「店長」をやっていたことから命名。大日本の選手とは顔馴染みだ。

## DDT 魔の前座戦線因果ロード

（文・三浦店長）



**WWF路線じゃないDDTにも凄いヤツらがゴロゴロしているぞ!**

DDTのハウスショーでは、その派手なサイドストーリーに目を奪われがちだが、インディーファンを自認するあなたには、是非そのアンダーカードに登場する、個性の溢れ出過ぎてしまった男たちに注目して欲しい。

下北沢のリングで掣圏道を啓蒙し続ける仮面シュータースーパーライダーもその1人。純白のスーツ型道着に緑のマスクのミスマッチがじつにカッコ良く、厳しい打撃としつこいサブミッションを「これでもか!」というぐらいに若手に叩き込むスタイルは、もっと多くの人に見ていただきたいシロモノだ。試合後の〝ちょっといい話〟系のトークもいい感じ。若手の強力すぎる壁であり、DDTのポリスマン的存在のライダーを一度は見ておいて損はない。

また、サブミッションといえば、忘れてはならないのが内藤恒仁だ。U系の確かな技術を武器に、時にはプロレスムーブを無視したシュート野郎ぶりを見せて観客を置いてきぼりにしてしまうことはあるが、この男は凄い! 不気味なポーカーフェイスと、関節技に入る瞬間だけ見せるハ虫類系の笑顔は素晴らしすぎる。UWFのスタイルはRINGS田村と内藤の2人によって静かに守られていたのだ。

そして、突然下北沢を主戦場にし始めた男がいる。ポイズン澤田だ。ユニオン流山の最後を覚えているコアなマニアは、その姿を久々に目撃して、そっと心の中で「お帰り」と呟いたに違いない。いまだにマムシギミックを使っているのも嬉しく、新しいファンはきっと理解していないだろうが、そんなヤツらは置いてきぼりにしてしまえ! 決め技の〝キャトル・ミューティレーション〟は相変わらず健在だ!

最近、姿を見なくなって、ちょっと寂しいのがアジアン・クーガーだ。常にムチャなギロチンドロップ一本で勝負するスタイルは、何度見ても、分かっていても衝撃を受けるぞ。その言葉通りのムチャリブレで飛びまくる、クールなクーガーのファイトは会場で見なければきっと後悔するのだ。カッコいいとは、こういう男のことを言うのだよ。

ニセモノばやりのマット界に登場したモノマネを超えた完全コピーを体現するのが藤沢一生だ。佐々木健介の外観、しぐさ、ただずまいをすべて完璧に再現している。湘南プロレスからDDTに移籍したいまは、第一試合を務めることが多いが、そのなりきりぶりは是非、北斗晶にも披露したいものだ。惚れるかな? でも、きっともの凄く怒るだろうな。私の想像のリングでは、本人とのツインズ・タッグマッチで、リアル版ブラックハーツ結成などを考えているのだが……。もし、本当に対面するようなことがあったら、本人はドッペルゲンガーだと思い、不気味な気分になるであろうことは想像に難くない。

その他にも、私好みの小さなブル・ファイター・西野勇喜。W☆INGゆかりのあの人だとバレバレなNEOウインガー（身体が戻って安心しています）。ほとんど試合には出ていないが、セコンド姿を見るだけで嬉しいキャノンボールKAZU。インディーの世界で藤波イズムを体現する男・ファントム船越。



そして、インディーの一番星といえば、二瓶組のタノムサク鳥羽だろう。ムエタイスタイルを意地でも貫き通し、その細い身体で身を削るようなファイトは、どこの団体に出場しても常にその日のベストマッチである。その単純明快な、殴り飛ばし、蹴り飛ばすファイトスタイルは観客ウケも抜群! しかも、キックボクサーのような細い身体で、20キロ以上重いプロレスラーの攻撃を「死ぬんじゃないか?」と心配になるぐらい受けまくる。そんな試合だから感情移入もしやすいし、気が付けば会場中が鳥羽を応援しているなんてこともある。その打たれ弱さも奇跡の逆襲も、破天荒なひらめきも、一度観たら目が離せなくなってしまう魅力がいっぱいだ。以前、そのやられっぷりの良さから自分の試合を「残酷ショー」などと言っていたが、現在ではDDTのトップを狙う位置までいつの間にか上がってしまった。鳥羽の試合にハズレなし!

DDT正規軍のエース候補だった三上恭平は、TAKAみちのくの洗礼でワルになって&日焼けしてプエルトリコから凱旋帰国。リングネームもMIKAMIに変更した。凱旋初日、観客の冷えきった歓迎をものともせずテングポーズでアピールする姿は、以前にも増してけなげであった。でもちょっとカッコいい。

そんなMIKAMIも仲間が欲しくなったのか、現在人気急上昇中のタノムサク鳥羽をパートナーに指名、〝チーム・テング〟、〝クラブ愛〟と、チーム名を毎回変えるという斬新かつ無意味なことを現在続けている。裏情報によると、〝クラブ愛〟もお気に召さない様子なので、次回のチーム名に注目だ!

どーですか、お客さんッ!? WWF路線ばかりが目立って取り上げられているが、こんなにも濃い男たちが下で支えているからこそ、興行が軽くならずに（まあ、重くもならないが）DDTの底力となっているのだ。

# 大日本プロレス 爆裂デスマッチロード

（文・三浦店長）

## 悪くてデカい男たちが大日本に夢を運んできた!!



最近ではメジャーシーンでもめったに見ることができない、シリーズ参戦の外人選手がなんと9名。ムチャというのかムダに豪華というのか、まさに大日本プロレスが社運を賭けたワールド・エクストリーム・カップ（WEC）が開幕し、列島に血の雨を降らせている。

何かと話題の多いシリーズだが、注目はやはりアメリカ最凶の団体『CZW』からやってきたザンディグとワイフビーターの2人。その外見からだけでもタダ者ではないデスマッチテイストを醸し出し、くどいほどに血の臭いをふりまきながらリングに上がっている。活字情報ではイメージが湧きづらかった凶器のアメリカ製芝刈機も、実際に会場でその巨大さを目撃すれば、その怖ろしさがわかるだろう。エンジンのノイズと排気ガスを充満させながら、実際に刃先をフル回転している芝刈機の恐怖はハンパではない。自ら『スィー・ズゥィー・ダブユゥー！』と連呼する気合一杯な姿はステキすぎる。かつてのFMWで大暴れしていたグラジエーターとスーパーレザーの大きさと凶暴さがデスマッチのリングに帰ってきたと喜ぶ反面、果たしてこの馬力に大日本勢は無事で済むのかと本気で心配してしまった。





『CZW』の2人はただずないからもヤバい雰囲気の魅力を発散させているが、実際に試合でも危険なアイテムを取りまくって平気な顔してクレイジーバンプを取りまくっている。デスマッチのリングでは臆病な気持ちを持ったレスラーは、すぐに観客に見破られてしまい試合自体が安っぽくなってしまうというゴマかしのきかない場所なのだが、ハートが強い『CZW』勢は私の想像の遥かに上を行っていた。デスマッチファンは、こいつらを見ておかないと後悔すること間違いなし。

その他にも、早くも常連となったマイク・サンプラス、どんどん日本に馴染んで実力を発揮しつつあるクレイジー・シーク、かつてはECWでニュー・ジャックとコンビを組んで暴れまくっていたムスタファ、巨大でなぜかオチャメなハーレー・ルイスとタワー・オブ・ドゥーム。そして外人勢を仕切るアブドーラ・ザ・ブッチャーなど、非常に粒ぞろいなのだが、その中でも一番の私のオススメは来日するまではまったく無印だったテリー・ブルだ。こいつは一体何者なんだと思いつつ試合を見たら、さあ大変！ いまでは見られなくなった70年代ムーブを1人で体現する男だったのだ。リック・フレアー、ハリー・レイス、テリー・ファンクらの古き良きNWAスタイルからロックンロール・エキスプレスまで、たった1人で（しかもモノマネで）表現してしまうお徳用ガイジンで一度見たら忘れられなくなること保証付き。最近、一部マニア達が昭和プロレスへと回帰していると聞くが、アメリカン'70プロレスは、すでにテリー・ブルにジャックされていたのだ。デスマッチのリングになぜか迷い込んでしまった、強烈な個性がまぶしくてたまらない。

鮮烈に自我を爆発させまくる外人勢に対する大日本軍も山川竜司の「アフロ」が爆発している。たぶん期間限定であろうから、早いとこ見ておかないと終わってしまうはずだ。以前のドチンピラが、正義の味方風に変わり、いよいよ説明不能な男になってきた。アフロ姿で踊り狂う竜司兄さんは生き生きしすぎている。本家のモハメド・ヨネも超えてしまっているのではないか？

日本勢には地味ながら面白い男がいる。アブドーラ小林である。大日本の旗揚げメンバーだから、キャリア的にはすでに中堅の位置になりつつある。デビュー以後、数々のキャラクターを与えられながらも、ファンにはあまり受け入れられず、厳しい時代を過ごしてきたアブドーラ。あまり自分を前に出さない性格によるものだと思うが、いよいよブッチャーとの親子タッグを解消してからは、いよいよ明確なキャラが作られ、表舞台にも顔を出すようになった。大日本のデスマッチ・トップ3人衆（シャドウWX、山川竜司、本間朋晃）と対戦する機会も増えている。それにつれて、ラフ殺法だけでなく、ジャーマン・スープレックス、ゴッチ式パイルドライバーなどの渋い技の使い手として、またコバヤシコブラ、コバドライバーなどのオリジナル技の開発など面白い面がドンドン出てきた。

最後に、前号に掲載された葛西純vs松永光弘のデスマッチ2連戦のリポートである。札幌での有刺鉄線蛍光灯ボード、東京・秋葉原でのファイアー・デスマッチと久々にデスマッチファンを狂喜させるセッティングで行われたこの闘い、松永の復帰戦としての注目もあったが、私の視線は小柄ながらもタフなデスマッチファイターの葛西に釘付けだった。本誌前号で意気込んで語ったように「W☆INGファンだった俺が、W☆INGの象徴を消す！」というわけにはいかなかったが、気迫と存在感でもデンジャーを追い詰めたことは間違いなし。今後、大日本でのデスマッチ戦線の主役に躍り出てくるカミカゼファイター・葛西純から目を離すな！



ファイアーに臆することなく攻めた葛西だったがデスマッチは松永のもの。火炎有刺鉄線バットの上でサソリ固めという拷問のようなフィニッシュで敗れた。

# キャプチャー 地下室炎上ロード

（文・ジャイ子）

## 地下室マッチに爽やかな風！ リアルブラッド増殖！

みんな、リアルブラッドはもう知ってるよね。なにぃ、知らない？ バッカじゃないのぉ？ リアルブラッドっていうのは、キャプチャーで結成された、ニーハオと石井智宏のユニット。じつはね、ジャイ子のパソコンの壁紙、いまニーハオなの。ファンなの。だから画面見るとドキドキして原稿が全然進まないのぉ。どうしよう？

ま、そんなことはいいとして、ニーハオは凄いんだよ。レスリング社会人全国大会二連覇してるし、掣圏道のSAボクシングに出てる唯一の日本人プロレスラーだし、キャプチャージムの師範代だし、あとなんかあったっけ？ あ、携帯の着メロは浜省で中国出身。かたや石井は元WARで、天龍の付き人を務めた酒豪。ね、二人とも強そうでしょ？

この二人がキャプチャーを活性化させるために組んだのよ。もうジャイ子のハートは活性化されまくりぃ。

そんなわけで、リアルブラッドのお二人にちょっと話を聞いてみましたぁ。

**ジャイ** リアルブラッドのみなさ〜ん、こんにちはぁ。まず2ショット写真撮りたいんですけど。

**石井** …………。

**ニーハオ** 取材ですか？

**ジャイ** 当ったり前じゃないですかぁ。はい、並んでくださ〜い。（二人、距離を置いて固まる）……ちょっとぉ、もっと寄ってくださいよ。「ノーフィアー！」みたいに、景気いいポーズとかつけて欲しいんスけど。

**石井** 嫌ッスよ。

**ニーハオ** ……。

**ジャイ** もういいです。撮りま〜す。あ〜あ、カメラ見てくださいよぉ。もういいや。なんか意気込みとか聞きたいんですけど。

**石井** ………。

**ニーハオ** ………。

以上、寡黙な二人のインタビューでした。で、5月4日の大田区大会でリアルブラッド加入を申し出たのがフリーの大作。試合内容を認められ、無事加入となりました。



巨大なタチを平気で倒して極めるニーハオ。ステキ。ちなみにこの日はGW真っ最中だったためか、タチ選手はお子さん連れで来てました。手をつないで歩いてる姿は、試合前の心温まる一場面でした。

そしてメインはリアルブラッドお披露目試合だったんだけど、相手が凄いよ、大刀光&荒谷信孝のチーム・ドスコイよ。実はリアルブラッドはふたりともチビッ子だから、ドスコイとは身長差70センチぐらいあるの（ウソ）。それでもニーハオは大刀光にタックル決めるし、石井は荒谷をガンガン蹴ってるし、体格差を感じない……そんなわけねえな。とにかく好勝負だったのよ。ジャイ子は写真撮るのも忘れて拍手して見てました。

最後は大刀光の腕十字でニーハオが破れたんだけど、試合後の石井のコメントがステキ。「最後に笑うのは俺たちだ！」だって。頼もしいね。残念ながらリアルブラッドはキャプチャー限定ユニットだから、しょっちゅう見れないの。他の団体にもリアルブラッドで出ればいいのにね、もったいない。



大会前。まだ元気なお二人



大会後。虚ろな目の二人に、新たに加入した大作。

# まだまだ満足できないヤツはこれでも喰らえ!! プチ情報満載のゴッタ煮インフォメーション!!

☆もっと多くの人々に見て欲しいのが、私の推すつぼプロモーションだ。小坪弘良が主宰する大会で、レスリング好きがレスリングのピュアなスタイルで闘う、地味ながらも熱さでは決して他に負けない、美しい〝場〟である。小坪代表は他団体ではケレン味たっぷりの試合を観せているが、つぼプロでは、その真摯な姿が美しくもあり感動ものなのだ。会場の雰囲気の良さは、たぶんNO．1だと思われるし、レスラーとはプロのレスリング技術を観せる人々だったのだということをいまさらながら再認識させてくれる数少ない団体（?）である。すれっからしのファンも「つぼプロ」を観て、たまには基本に返ってみよう。

（三浦店長）

次回のつぼプロ
**5月30日　北沢タウンホール**
1 小坪弘良vsケニー
2 内藤恒仁vsチャド・コリア
3 仲村由佳vsタニー・マウス
4 嵐vs竹村豪氏
5 小坪弘良＆アレクサンダー大塚 vs仲野信市＆タイガーマスク

☆む〜、ツボ原人がジャイ子に女性用バイアグラをプレゼントしてくれたのぉ。どういう効果があるのか、誰もわからないので、持て余してま〜す。使い方をご存知のかたは、『紙プロ』までご一報を。ジャイジャイ!

（ジャイ子）

☆ちょっと変わった大会が、毎月、神奈川県で行われているので紹介したい。インディプロレス道場・ターザン後藤一派が行う道場マッチがそれだ。〝鬼神〟ターザン後藤が相模原に設立した道場にファンを入れ、毎月3試合を提供している。所属の後藤、中村政則以外には、IWA JAPANの山下義也、新岩大樹、宇和野貴史がほぼレギュラーで、その他にはバイキングたにぐち、西野勇喜らも参戦している。道場であるから当然、イス席などはなく、客はリングサイドにオールスタンディング状態で取り囲んでいるのだが、この位置が嬉しい。普段の会場の最前列よりもさらに前、セコンドやカメラマンの位置から試合を観ることが出来るのだ。この迫力は一度味わったらクセになる。レスラーが試合で発する汗、音、振動などが薄まることなくビンビン伝わってくるのだ。一度は至近距離でプロの試合を観たい人には是非オススメ。交通の便が悪いのが難点だが、その苦労以上の体験はきっと出来る。休憩時間には、ターザン後藤から観客全員にイナリ鮨の差し入れがあったり、押し掛け新弟子の佐藤伸太郎君の身体を張ったミニ・コーナー（リングに1人で登場、ターザン後藤によるスクワット500回、歌を歌え等の無茶な指令を黙々とこなさなければならない）があったりと、意外に楽しめますよ。相模原のド田舎で30人しかいない観客の前では、こんな素敵なことが行われているのだ。全試合終了後には、客がリングに上って、後藤と記念撮影するのが恒例となっていて、ファンの「リングに上がりたい」という夢もかなえることが出来るのだ。いまはまだ、コアなマニアが多いが、一般の風通しの良いファンにも、もっと集まってほしいものだ。

（三浦店長）

☆4月23日、九州は小倉でとてつもないビッグマッチが開催された。『紙プロ』読者にはおなじみのジョージ高野率いるFSR主催で、『キングダム・エルガイツ』の大会が行われた。東京からの遠征組が続出するほど、静かに注目を集めていた。マニア的な注目は何と言っても、10数年を経て中野vs内藤の再戦だろう。ここ最近、インディーでシュート番長の名を欲しいままにしていた内藤ではあったが、結果的には10数年まえと同じシャチホコ固めで敗れる。藤原組長、入江秀忠、ジョージ高野など、すさまじいメンツが九州に集結したが、この日のベストバウトは村浜武洋vsタノムサク鳥羽の一戦であった。後日、タノムサクは「一発もパンチが当たらなかったですよ」と頭をポリポリとかいていたが、それでもベストバウトになってしまうのだから、おそるべしタノムサク! キングダムですっかりお馴染みとなった、入江の涙ながらのマイクアピールは延々と思いをブチまけた後、「皆さん! 街で見かけたら、声をかけてください! 一緒に飲みに行きましょう!」と絶叫。ズコッ!

☆二瓶組リングアナの伊藤こーへーさんが出演の舞台があります。興味のある方はいかがですか?

（ジャイ子）

**『おっ、ぺれった腹活公演』**
6月19日〜25日
東京芸術劇場小ホール2
【お問い合わせ】
03―5814―5163




大日本で猛威をふるうCZW勢とはどんなヤツだ!?

## ブラッド（血）、スウェット（汗）、ヴァイオレンス（暴力）!! 最狂ハードコア野郎どもに直撃インタビュー敢行!!

ウルトラヴァイオレント・レスリング、CZW（コンバット・ゾーン・レスリング）のエース、ザンディグとワイフビーターが遂に日本本格上陸。いやー、こういう得体の知れない、何をしだかすか分かんない外人勢ってホント久々。デスマッチもOKとなると、ヘタしたらW★ING以来かも知れないぞ。そういう意味でも、まさにインディ・フリークが待ちに待ったヤツらの登場だ。

空港の入国審査の時に、渡航目的は「マーダー（殺戮）!」と答えたり、税関では巨大芝刈機持ち込みで4時間止められたりと、イイ話バンバン作ってくれちゃうのが、またタマらんじゃないの。4月5日、名古屋での初来日6メン・タッグ戦で、早くもブチ切れぶりを披露してくれたCZW勢。WECトーナメント参加の2人は、CZWヘヴィー級チャンピオン（ザンディグ）、アイアンマン・チャンピオン（ワイフビーター）と、ともにタイトルを持ってる文句無しの活きの良さ。ウワサの芝刈機、巨大ホッチキスを始め、CZW特製スティール椅子（良い音が出るぞ）など、凶器のスレスレ感もグー! ザンディグ持参の凶器バッグ（普通のカバンにCZWのネーム入り!）にはミニくまで、ヤスリ、いろんなもんが詰まってる。日本でまだ使ってない、ネズミ取りやキッチン流し台、業務用ミシンなど、使用する凶器のメチャクチャっぷりもバッチリ。さらに敗者の傷口に擦り込む、レモン＆ソルト水・マッチ（!）も遂に解禁された! とにかくやり放題でかっこいい二人に直撃インタヴューだ!

――まずは、年はいくつなんですか。

ザンディグ　8月生まれの29だ。

ワイフビーター　5月4日生まれの24。

――24! 全然見えませんねぇ。しかも昨日が誕生日。それはおめでとうございます、ハッピー・バースデー!

ワイフ　……。

## 今月の名言

# （観客に向かって）大事な治療があるから今日はこれまでだ!!

by本間朋晃 5・5大日本新川崎大会にて

というわけで、インディーの会場で人知れず発せられた名言を拾ってご紹介するこのコーナー。

今回は最もイキのいい大日本の中心選手である本間朋晃。下で紹介しているワイフビーターとの試合で蛍光灯の上でハードな受け身をバンバン取って、背中をザクザクに刻まれながらも激勝した後、観客に囲まれて「俺は死なない」「WECカップは優勝だ!」等の威勢のいい大見得を切った後の一言がコレ。

じつは最近、大日本の大会には医師が必ずいる。首都圏だけなのかな? まあ、危険度にかけてはマット界で随一のことをやっている団体なので、当然だとは思う。だが、そんなお医者さんも、ブッチャーの投げたイスが当たって負傷するなど、大日本の闘いの輪にすっかり取り込まれているようだ。

治療があるから、とは言ったものの観客はなかなか帰ろうとしない。すると、消毒のために背中に水を掛けられて悶絶する本間。決してカッコいいとは言えない姿を客前でさらけ出してしまうのが、大日本らしいし、本間の凄いところだ。

さらに、そこへ登坂レフェリーがやってきて、CZW勢の要望により、レモン汁&塩水マッチが解禁されることが発表されると、さらに弱気な顔も見せてしまう。

常々思うが、試合後のコメントは観客に公開すべきだと思う。メイン後ならそれも可能だろうし、次回の興行への煽りにもなる。大日本の場合は野外の興行で、仕切りも何もないから観客が来てしまったというだけなのだが、いい雰囲気が出来ていた。

### インディー情報大募集!

え～、ここをお読みになっているインディーファンの皆様! 「取り上げて欲しいんだけど、『週プロ』にも『ゴング』にも載らないんですよ」という、団体や選手があったら、下記までタレ込みをください。特にインディー団体関係者からの要望もお待ちしています。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『狂い咲きインディーロード』係
e-mailでも受付中!
kamipro@mail4.alpha-net.ne.jp

【三浦店長のEYEコラム】

## イーンディーないかい?

風水ではないが、最近のプロレス団体と会場との相性について考えることがある。新日本にはドームが定番だし、全日には武道館がレギュラー、DDTは下北沢の北沢タウンホール以外では、あまりその仕掛けが活かされない。後楽園ホールがすべての団体の見本市となっている。だが、現在は団体カラーによって、舞台装置はドンドン変化しつつあるのだ。今回、取り上げたターザン後藤一派の道場は、その「空気」がよく活かされているし、キャプチャーは独自の設定で、ある意味"あやしい"場所を作り出している。

夏の全女は、屋外でヤキソバのソースの匂いをかぎながら観るのも楽しいし、爆破マッチはやはり川崎球場で観たい。

以前に、大日本の山川竜司選手に札幌テイセンホールで行われているブレーキの壊れたような過激な闘いは後楽園ホールで再現することは出来ないのかと聞いてみたことがあるのだが、その答えは「無理だ! 観たかったら札幌のテイセンまで来い!」と言い切られてしまった。その一言が悔しくて、GWに札幌まで観戦に行ってきたのだが、明らかに後楽園ホールや首都圏の会場とは違う客層と、空気がそこにはあった。

選手の背中を押し出してやるような雰囲気が試合する会場は美しいし、興行も成功する。RINGSと代々木第二は、いま一番フィットしているように思われるし、やはり試合も面白くなってきている。

プロレス団体として活動している限りは、何が何でも、月1回の後楽園ホール開催を目標にする気持ちもわかるが、その団体ごとに一番似合う独自の会場捜しと常設化も今後の課題ではないだろうか。




これから続々と日本にやってくるCZW勢は必見だ!! 大日本の次期シリーズ、大仁田興行にも来日決定!!



——あっ、すみません。えー、それではレスラーになってのキャリアを。

ザンディグ　俺は6年さ。

ワイフ　2年。

——ワイフビーター（=妻殴り! 山口日昇と同じギミック?）ってリングネームも凄いですね。その由来は何ですか。

ワイフ　……。

ザンディグ　そいつは聞かない方がイイぜ。

——わ、分かりました……では、今回の日本上陸の目的は?

ザンディグ　CZWを世界に広めるためだな。世界一ハードなCZWスタイルで大日本のヤツらなんかデストロイだぜ!

——アメリカで、試合の過激さでいったらECWよりもCZWの方が上を行ってるらしいですけど。

ザンディグ　オレ達のハードコアぶりに比べたら、今のECWなんてぜ～んぜんダメ、ハッハッハ。

ワイフ　CZWイチバーン!（中指を突き立てる!）。

——ご、ごもっとも! さて、日本の新聞でも報じられてる通り、あなたたちの団体でアメリカで初の電流爆破デスマッチ行なうそうですね。

ザンディグ　ああそうさ。オーニタとな。アイツが逃げなきゃ6月にでもやってやるよ。

——ではフェイヴァリット・レスラーを教えてください。

ザンディグ　ワイフビーター!

ワイフ　ザンディグ。

——おぉ、仲良し! 血で血を洗う抗争を繰り広げた2人だからこそ、お互いを認めあってるんでしょう。それにしてもワキ腹、凄い傷ですね。

ワイフ　芝刈機でロボ（まだ来日してない、CZWで3タイトルもとったことのある人気選手。見たい!）にやられた。

ザンディグ　俺は腕をコイツにやられたんだぜ（まだ傷跡が残ってる）。

——おそるべし芝刈機! 改めて大日本の選手はえらいのを敵にしてしまったようです。では今後の日本での展開を聞かせてください。

ザンディグ　かつては凄かったFMWのデスマッチは最近ダウンしてるじゃないか? 日本でもCZWが上がってるんだから大日本をどんどんアップさせてやるぜ! オーニタも覚悟しとけよ!

——じゃあ最後に日本のファンへのメッセージをお願いします。

ザンディグ　CZWが、見に来たファンを満足させて家に返してやるぜ!

ワイフ　オレ達がホンモノだ!

ザンディグ&ワイフ　ブラッド、スェット&ヴァイオレンス!!

['00・5・5　新川崎にて収録]



素晴らしく格好いい、ラテンアメリカタワー。そんなに高くないが、窓などデザインがきてます。




# ザ・検証

## プロレス点と線

**今回のザ・検証は合わせて何と6P！頼まれてもないのに書きました！　暇な人はじっくりと、そうじゃない人は、テキトーにお読みください。最後に、お亡くなりになった、ジャンボ鶴田選手に尊敬と追悼の意を表して、始めさせていただきます。**

闘龍門へ向かうために、メキシコ名物、ワーゲン・ビートルのタクシーに乗った。メキシコのタクシーはほとんどがビートルだ。なぜか、メキシコ人はビートルが、お好きらしくつい最近まで、メキシコのためだけにワーゲン社はビートルを製造していたという。きれいにペイントされて街を走る姿は、とても可愛く一度乗りたいと思っていた。ホテルからタクシーを呼ぶと、違うもっとまともな車が来てしまうので、わざわざ街に出てビートルをつかまえた。が、これが乗り心地最悪。シートの飛び出たバネに背中を押されながらのドライブとなった。運ちゃんに行き先の書いたメモを渡すと、結構遠いみたいだ。帰りの足を心配しつつ乗り込んだ。

ところで、読者の皆さんはメキシコ・シティーが、人口2000万人の世界最大の都市だということを知っているだろうか？　俺は恥ずかしながら、メキシコに向かう飛行機の中でガイド本を読んではじめて知った。メキシコは東京よりも、ニューデリーよりも、北京よりも人口が多い大都会なのだ。しかも、ラテンのお国柄。道路はとにかく、やかましい、やかましい。ただでさえ、道は一杯なのに、これは空港に着いてすぐに感じたことなのだが、メキシコ人は、どうも列を作って並ぶのが大嫌いらしく、割り込んで自分の道は自分で作るのが唯一のルール。鳴き喚くクラクションの中を縫いながら、やっとの思いで街を抜けて郊外に出る。

そうして、着いた街は中心部に比べて、下町も下町。やかましさもさらに倍。様々な店の問屋が並び、歩行者も自転車も車も同じペースで割り込みしあってひしめいている。いきなりアジアンテイスト溢れる、活気溢れる街に着いてしまった。メキシコの治安の悪さはさんざん聞かされていたので、深くネイティブな場所に着いてしまったことにビビった。運ちゃんが、何度も何度も大きな声で、通行人に道をたずねつつ、交通法規が無きに等しい、オクタゴンのごとき道を縫って、なんとか闘龍門の前に着けてくれた。

それは、よく見れば、確かに雑誌で見た覚えがある建物だった。「良く見れば」と書いたのは、俺の記憶では、闘龍門のビルには、ウルティモ・ドラゴンのマスクのデザインが、壁に描かれていたと思ったのだが、それが無かったからだった。しかし、闘龍門のビルは、周りの建物から比べると豪邸と言ってもいいくらいの立派さ。威圧するように、高い門、まさに闘龍門によって囲まれていた。俺は「日本人が誰も居なくて、スペイン語だったら、どうしよう」とビビりつつ、インターフォンのボタンを押した。返事がない。意を決して、もう一度押す。「このまま逃げちゃったら、ただのピンポンダッシュだよな」と逃げ出したい気持ちを押さえつつ、しばらく、そのまま待っていたら、ドタドタと足音が聞こえて来て門のドアが開いた。

出てきたのが、日本人の長髪の美少年。それが、練習生の森隆行選手であった。ホッと胸を撫で下ろしたが、ここからが大変。何せこの取材、松村邦洋ばりの今流行中の突撃取材。御存知、我らが敏腕編集者・坂井伸行氏に一応やんわりと取材許可は取ってもらってあったが、たどり着けないことも考えて、本当に一応にしてもらっていたため、当然、選手の皆さんには伝わっていない。使い慣れない、明らかに間違っていると思われる社会人語をどうにか駆使して、取材の旨を説明する。すると美少年、さすがスポーツマン、腕を後に組んで、直立不動で俺が恐縮するほど礼儀正しい。自分では判断しかねるということで、上の者を呼びに再び中に入って行った。そして、出てきたのが、さすらいのトラッカー・アラケンこと新井健一郎選手。アラケン選手は一度後楽園ホールで見て、そのタニー・マウスを彷彿させる、思いっきりの良い倒れ込みながらのヘッド・バットに魅了されていたので、ビックリ&感激。結局、アラケン選手の判断で中に入れていただいた。ありがとう&失礼しました。

高い門をくぐって中に入ると、ま



室内のいたるところに、このような格好いい写真ポスターが。しかし、プロレス会場でも実感したが、ウルティモ校長のメヒコでの人気はすごい。マスク売りもマスカラスとウルティモのマスクを一番いい場所に置いている。

## いずれ日本で活躍するので覚えておこう!!




**野村高司**（練習生）
**のむらたかし**■来墨日時――00・2・14　好きな女性タレント――加藤あい　一言――人に勝つより自分に勝つ!!




**照井章二**（練習生・イタリア人）
**てるいあきひと**■来墨日時――00・4・19　好きな女性タレント――浜崎あゆみ　一言――イタリアに帰ってアルマーニ、グッチ、ヴェルサーチの新作春物をチェックしたい。



**村上拓也**（練習生）
**むらかみたくや**■来墨日時――00・2・14　好きな女性タレント――財前直見　一言――木村どこだー？




**岩佐卓典**（練習生）
**わかさたかみち**■来墨日時――99・5・10　好きな女性タレント――水野美紀　一言――墨はハイソサエティー

# 現在メキシコ修業中の闘龍門 メキシコの精鋭13名をまとめてご紹介!!



## ビバ！メヒコ!!

ず最初1階はジムだ。リングとウエイトのマシンがズラリと並んでいる。それを素通りし靴を脱いで2階に上がった。2階はキッチン&食堂、そして居間だ。2階から3階は吹き抜けになっていて、3階の各自の部屋（2人1部屋）が食堂を取り囲むして連なっている。実に洒落た造りの建物だ。凄いぞウルティモ校長、太っ腹！　リビングに通され、チョコリと座る。アラケン選手が相手をしてくれた。「いや～、今モーニング娘。のビデオを見てたんですよ～」などという。修行中の異国で見る『ラブマシーン』。夢に見るハポネ・セリョリータ（日本の可愛い子ちゃん）。リアルじゃあぁ～りませんか、気持ちはわかる。しかし「誰が一番好きなんですか？」と訊ねたら「石黒彩です。一番しょっぱい奴なんですけどね」とプロレス用語。しょっぱいってねえ。そんなこんなしていると、次々と選手が挨拶に出てきてくれた。それがいるはいるは、13人！　正に男だらけのプロレス大会inメヒコ。皆、素晴らしく礼儀正しい。ただ、神田&望月のルード2人は別行動だし、ツラが恐いから威圧感がある。しばらく、恐縮しながら挨拶していると、森選手がお昼御飯を出してくれた。メニューは他人丼。日本を出てから十日あまり、日本食は一度も食べてなかったのでメチャクチャ嬉しい。ガッついて、ぼろぼろこぼしながらかき込む。飯の炊き方、そのセンス、米を汁でビチャビチャにして食う、甘辛の味。これぞリアル日本食。ごちそうさまでした。アラケン選手が「飯がうまく炊けないんですよねえ。気圧が違うせいか」というので、今まで南米で食ったお米のどれよりも、おいしく炊けていると伝えると「良かったなあ、森。うまいってよ」などという。森選手は相変わらず腕を後に組んで、直立不動で「ハッ」などと答えている。

　飯を食い終わり、軽く写真を撮らせていただいて、取材終了。すると、皆いそいそと出かける支度を始める。聞けば、5月にデビュー戦を迎える選手たちが、これからそのコスチュームを作りに行くという。そして、アラケン選手は5月にメキシコ闘龍門を卒業し、完全帰国するという。俺はどうやら、いい時に取材に来たようだ。出かけていく選手が輝いて見える。選手たちと入れ代わりで、メキシコ人のホセさんがやってきた。とても優しい人で、選手たちの面倒を見ているようだ。馬場とドリー・ファンクが来た時は、ホセさんが、会場まで車を運転しそうだ。奥が深い。

　そろそろ、おいとましようと、アラケン選手にどこか本物の試合用マスクが手に入る所がないか訊ねる。俺のメキシコ旅行最大の個人的目標はマスクのゲットにあった。すると、それを聞いていた、清水選手が「マルチネスなら売ってますよ」と教えてくれた。この清水選手、失礼な言い方だが、プロレスラーとは思えないほど、如才なく頭の回転が早いタイプで、スペイン語もうまい。結局この清水選手とアラケン選手が付き添ってくれて、ホセさんの運転でマルチネスに向かっていただけることになった。ありがとう、清水選手。

　マルチネスの店内には、壁に日本のあらゆる団体のポスターが貼りめぐらされていた。古い新日、全日、珍しいところでは、長谷川咲恵とスペル・デルフィンが手を組んだ、みちプロのポスターなんぞも貼ってあって笑える。そして、ガラスケースにあるでないの、素敵なマスクが。ブルーデーモン、サント、カネック、オクタゴン、マスカラス、



全員写真をパチリ。それを見ていたルード組。「あいつらまた仲良しこよしだぜ」とでも言いたげに、ニヤニヤ。




**あらいけんいちろう**■来墨日時——97・11・10　好きな女性タレント——ばってん荒川、イーデス・ハンソン　一言——巨人びいきの審判は殺す!!




**かんだやすし**■来墨日時——97・11・10　CMAXをリンチしてやる！




**ほりぐちげんき**■来墨日時——97・11・10　好きな女性タレント—内山理名　一言——一緒に海にいきませんか？




**すとーかーいちかわ**■来墨日時——97・11・13　好きな女性タレント——宍戸エリカ（アジャ・コング）　一言——戸締まりに注意!!




**もちづきすすむ**■来墨日時——98・5・11　好きな女性タレント——市井由理（T・P・D）　一言——あぁ～く、いいね！




**しみずもとつぐ**■来墨日時——98・5・11　好きな女性タレント——Chika（dps）　一言——アングラに生きる。




**さいとうりょう**■来墨日時——98・11・9　好きな女性タレン——PUFFY　一言——一緒に、サイクリングへ行きましょう。




**もりたかゆき**■来墨日時——99・5・10　好きな女性タレント——矢口真里　一言——頑張ってデビューします！




**どいしげき**■来墨日時——99・5・10　好きな女性タレント——常盤貴子　一言——一生懸命頑張ります。

※来墨日時とはメキシコに来た日のことです。

# ビバ！メヒコ!!



ソリタリオ。やった〜！　宝の山だ〜！　店にいたのは、二十歳くらいの若者。マスクは自分のお父さん・マルチネス父が作った物で、マルチネス祖父が元祖だという。「お前は作れないのか」と聞くと、「できない」という。修行せいよ、マルチネス息子。結局持ち合わせもなかったので、ティニエブラスとマスカラスだけ買って、明日もう一度来ることを伝えて帰る。



これが居間のビデオコレクション。モーニング娘。の他プッチモニも。それに混ざって、初代タイガーのビデオも。

　地下鉄に乗って、アラケン選手と清水選手と3人で、俺のホテルに向かう。アラケン選手は前の日の試合で、突然代打出場し負傷したという足を引きずって歩いていた。わざわざ、ありがとう。でも、電車を降りる時に、降り口でない開かない方のドアに立っていて、乗り込もうと待っていた、メキシコ人のチカ・グワパ・セリョリータ（超可愛い女の子）2人に笑われてしまった。「笑ってましたよ〜」と言うと「腹立つんですよねえ。メキシコ人に笑われるのは」などと言っている。「可愛い子でしたよ〜。俺なら嬉しいけど」と言っても、まだブツブツ言っている。まさにキャラクター通りの鬼瓦権造ぶり。とても20代とは思えぬ頑固おやじぶりに感心。

　ホテルに着いても、アラケン選手の鬼瓦権造ぶりは健在。旅行も終盤だったので、ある程度いいホテルに泊まっていたのだが「おっ廊下までいい匂いじゃねえか」などと、面白い台詞を連発。ホテルのレストランに行き3人で飯を食ったのだが、ビールを飲んでも「昼間からビールだなんて、お前これは最高だよ」なんて、清水選手に向かって言っている。でも、標高のせいか、本当にアルコールが効く。ほろ酔いで話す。とても楽しいひとときであった。







食堂で食事をする、選手たち。これが、今日のメニューの他人丼。ちゃんこは順番で作るそうです。




　2人が帰った後、俺は部屋に戻り、アレナ・メヒコにルチャを観戦に行く準備をする。セーフティー・ボックスをいじっていたら、壊れてブザーが鳴り止まなくなってしまった。仕方なくフロントに電話。すると、すぐにベルボーイのおじさんが来てくれる。そして、そのおじさん。ベットに放り出してあった、ティニエブラスを見て「ルチャが好きなのか？」とニッコリ。好きだと答えると「ビジャノ3を知っているか？　奴はメヒコでマスクを剥がされたのに、日本ではマスクを被ってファイトしている」などという。そして、タクシーで俺を送りだす時に「エンジョイ・グッドファイト！」などといいながら、拳を握ってみせた。世界に繋げようプロレスの輪！　で、ある。





これが選手の寝室。2段ベットで寝ている。大好きな松田優作の写真集に手を合わせる、野村選手。

　アレナ・メヒコの前は応援マスク露店が無数に開店。観客も集まってきて、すごい熱気。狂ったように、マスクとフィギュアを買い込んで、いざ観戦。入り口で警備員がボディーチェック。カメラと飲み物の持ち込みは禁止。メキシコのプロレス観戦といえば、後ろから紙コップに入れた小便が飛んでくると聞いていたが、とんでもない。会場は清潔だし、花道や電飾などの演出のセンスは新日よりいい。大ビジョンも設置されており、そこでドラマを見せてストーリーを説明する演出はWWF式で、むしろ日本より進んでいる。そのドラマであるが、突然オフィスの中、レイ・メンドーサだと思われるお偉方が、素顔のビジャノ3に、ポンチョを受け渡すシーンから始まった。ポンチョを受け取って、ビジャノ3は号泣している。まったく意味はわからぬが、観客は大騒ぎ。ポンチョですよポンチョ。ドラマが終わり、マリアッチっといった感じのザ・メキシコな音楽に乗って、ペロ・アグアヨ（引退してなかったの!?）らと共に、ビジャノ3が入場。観客は割れんばかりの大喝采。結局、試合はビジャノ3がフォールを奪って勝利。多分、あのベルボーイのおじさんは、このストーリーを知っていて、俺にあんな話をしたのだろう。ホテルに戻ると、出迎えてくれて、いきなり「どうだった？ビジャノ3」と聞いてくる。「ビジャノは素晴らしい。何よりハートがいい」というと、満足気に頷いた。そして「でも、一番いいのは、ネグロ・カサスだ」というと「I THINK SO」と頷いて、ハイタッチ！　大の大人2人が、ホテルのロビーでバチンッだって。いい国や、メヒコ。ビバ！　メヒコですよ。

　翌日、マルチネスに向かう。この日は、マルチネス父もいた。少しお話をする。「サトル・サヤマを知ってるか？」と訊ねると「友達だ」という。古い日本の雑誌を引っぱり出してきて、俺に見せてくれた。それには、マルチネスのお店と、マルチネス父、マルチネス祖父が載っていた。そして、マルチネス祖父が作ったという、革製のマスクの原形が掲載されていた。その革マスクを出してきて、このマスクが欲しければこの値段だと言って、紙にものすごい値段を書いた。「このマスクには歴史があるからね」と俺が言うと「そして、このマスクには未来がある」とマルチネス父は答えた。いい言葉だ。聞いていたか？　マルチネス息子。

　「歴史であり未来である」。それはそのまま、闘龍門の若者13人のことを言っているようだ。彼等は歴史を作り未来に繋げていくだろう。先のことなんてわからない。しかし、彼等がメキシコで修行し、闘ったことは、それだけで有意義だ。人生なんて自分で選んだ道が一つでもあれば、それでいい。見る前に跳べ（スイシーダ）！　青春の（闘龍）門は、常に開かれている。



ザ・検証

# 【今月の検証】新撰組とは何か？

by せき詩朗



**前回からのあらすじ……のようなもの**

インタビュー中、あるアクセサリーが目に付いた。斉藤選手の指にいくつかはめられた指輪である。それらの指輪には共通点があった。すべてがドクロの形をしたものだったのだ。じつに不良でロックなアイテムである。「ドクロがお好きなんですか？」という問いに斉藤選手はこう答えた。

「**好きですね。ドクロというか、死神が好きなんですよ**」

死神！　好きなものを聞かれ、死神を挙げる人などそういない。反骨心の塊のような斉藤選手に退廃的な死神、対照的であるが、なぜか違和感はない。だが、なぜ死神なのか？

「**死神には一度しか会えませんから……**」

かっこ良すぎる！　なかなかこんな台詞を言えるものではない。映画でも観ているようだった。死神に会うと言うことは死と同義である。死神に会ったその瞬間、すべてが終わってしまう。それでもその死神に恋焦がれるなんて、ロックだ！　永遠の不良だ！その時私は決めた。「死神が好き。なぜなら一度しか会えないから」という台詞を墓標に刻むと。もし私がトラック野郎だったならば、トラックの荷台に『覇』と書いていただろうが、その横にこの台詞もエアブラシで付け加える。女性を口説く時もこの台詞のみだ！

そういうわけで、前回から引き続き斉藤選手のインタビューを中心に書かせてもらう。おかげさまで前回は好評を博したようで、ありがたい話だ。で、今回は斉藤選手の良い意味で今でもその面影を残している数不良髙部分にスポットを当てつつ、伝説の集団『新撰組』について検証するとしよう。維震フリークはドクロの指輪をはめながら読め！　なければ今すぐ買いに行くこと！

# 斉藤彰俊 独占インタビュー パート2
# 今回は平成維震軍のルーツを大発見!!

先月号でお伝えした斉藤彰俊選手のインタビュー中、ある言葉が飛び出した。それは『新撰組』という、誰もが一度は耳にしたことがあると思われる単語である。しかし、この『新撰組』とはみなさんが知っているそれとは違う。

それはストリートファイトについて尋ねた時であった。

**斉藤**「**自分たちが高校時代に作ってたグループで『新撰組』っていうのがあったんですよ**」

今回検証する『新撰組』とは幕末時代のそれではなく、斉藤選手が若かりし頃、高校生時代に作り上げた不良グループのことである。まずは『新撰組』の構成について尋ねてみた。

**斉藤**「**大人数じゃなかったんですけど、全部で20人ぐらいいたと思うんですよ。入会資格とかは特になくて、同士が集まった感じだったんです。自分が誘ったのは松永（光弘）だけだったんですけどね。『一緒にやろうよ』って感じで。そう考えると面白いグループですよね**」

ここであのデンジャーこと松永選手が登場する。ご存知の方も多いと思うが、斉藤選手と松永選手は高校、大学と同級生。今現在でも友情は変わらず続いている。その松永選手の著書『ミスター・デンジャー～プロレス危険地帯』（長崎出版）の中でも、斉藤選手との関係について書かれてある。もちろん『新撰組』についてもだ。その記述を抜粋してみよう。

「斉藤とは高1の時に力比べさせられたことがあり、その時に引き分けに終わってから、何かコイツにはあんまり係わらない方がよさそうだなと思うようになり、それからお互いが敬遠して、口も聞かない関係だったが、その後人が間に入って、斉藤に会わされたのがきっかけで、話をするようになった」

「また斉藤は『新撰組』という20人ぐらいのグループを作って総長になっていた。その斉藤から『新撰組』に入んないか？といわれて、俺がOKすると、『新撰組』の証である新撰組のバッチを渡された」

こうして『新撰組』は松永選手曰く「斉藤、松永のいる中京高校最強のケンカグループ」になったわけだが、それよりも気になるのは〝バッチ〟の部分であろう。『新撰組』の証であるバッチ。これは聞かずにはいられない。

**斉藤**「**バッチはありましたね（笑）。作るのは僕じゃなくて別の子が担当してましたけど。『新撰組』ですから、こういう白と黒のバッチでした**」

新撰組の「誠」と書いてある旗、あのようなデザインであったらしい。センス的には維震軍の旗にも近い。そのことを斉藤選手に言うと、「**その頃からそういうのが好きだったんですかね**」と笑い、バッチ秘話を続けた。

**斉藤**「**新撰組は役割によってバッチが違ってたんですよ。こんな話をしてると子供みたいで、馬鹿みたいですね（笑）**」

バッチで思い出すのがドラえもんの『バッチを作ろう』という話。スネ夫がバッチを63個集め、自慢する。ジャイアンは18個で2番、しずかちゃんは6個で3番。のび太は1個しか持ってなく、「ぼく、1個で4番」と叫ぶのだが、みんなに無視されてしまう……。が、しかし、のび太のこの1個がもしも『新撰組』のバッチだったのなら、話は大きく変わっていたはずだ。無視されることもなかったであろう。

そんな漫画プラス空想の、現実からかけ離れ過ぎなことはどうでも良く、話を戻そう。

そんな維震軍テイスト満載のバッチを付けた『新撰組』は、一体どんな活動をしていたのだろうか？

**斉藤**「**パッと見て街には風紀を乱す人が**

## ザ・比較

| ▼新撰組 | ▼平成維震軍 |
| --- | --- |
| 誠 | 覇 |

# 維震軍じゃないですけど、高校時代"つるっパゲ"にヨンゴーでした

### 45度に傾いたサングラス

**いるじゃないですか？　そういう風紀を乱す方は名古屋の街にはふさわしくないだろうってことです。そういう人の服装を正すというか、そういう服はダメだから、その服は頂きましょうってことですね（笑）。まあ、世直しみたいな感じですかね」**

俗に言う"ボンタン狩り"、昔で言えば山賊に近い活動内容である。幕末の新撰組は京の治安を守るために結成されたが、こちらは名古屋の治安を守るためであったのだ。治安を守るためだ、山賊っぽくても仕方ない。その自称"世直し"のために数々の修羅場を『新撰組』はくぐり抜けた。中にはとても紙面には書けないようなケンカもあった。ケンカの内容は割愛させていただくが、松永選手の本でもケンカについて少し触れてあるので、参照するとよいだろう（というかあの本は面白すぎるので買うべきだ）。

斉藤選手曰く「**部活もやりつつケンカもする、れっきとしたスポーツ集団**」だった『新撰組』はバッチの話でもわかるようにチームワークはバッチリだったと想像できる。きっと維震軍のように一枚岩だったに違いない。それを裏付けるような話を斉藤選手はしてくれた。

**斉藤「自分たちのやり方としては、新撰組の中でパッ見て弱そうな奴がいますよね？　その子を1人で歩かせて、その後ろに15メートルぐらいの間隔をおいて他のメンバーが2人、3人といるわけです。先頭を歩いている一番弱そうな感じの子が誰かにボーンとぶつかったりすると、相手に何か言われますよね。その隙に他のメンバーがその人を囲むんです。そんな作戦があって、組織化されてましたね」**

全然"治安維持"でも"世直し"でもなく、自分たちからケンカを売っているわけだが、それは置いといて、『新撰組』はバッチによって分けられた、それぞれがそれぞれの役割を果たす、じつに組織的な集団だったのである。しかも、それらの作戦は愛読書が『五輪書』だという斉藤選手が考えていたと言うのだから、なかなかの策士ぶりだ。

ところで策士と言えば松永選手も負けてはいない。先に紹介した著書にこんな記述がある。




『週刊プロレス』NO.461より

「セントラルパークで別の高校と中京がケンカした時は、公園の監視員が通報したらしく、ケンカの途中で数人の警官が入ってきた。そして、一斉に逃げ出す学生の中で、俺が飛び出した出口が一番警官から近い所だった。（中略）その瞬間いいアイディアが浮かんだ。持っていたカバンを肩にかけて、一般の民衆に交じって、何気なく警官の方に向かって歩き、スレ違った時に、"あっ、あっちに行きましたよ"と惚けたのだ。そして、それがうまく成功した」

とりあえず策士2人はタッグを組んで、よく一緒にケンカしまくったらしい。余談だが、最初に小林邦昭に殴られた誠心会館の道場生も、じつは新撰組で特攻隊長をしていた松井という人物だったとか。いまは愛知県で『男塾』（！）という空手道場を開いているそうだ。

そんな個性派ぞろいの『新撰組』であったわけだが、高校生の頃というのは、真面目なタイプよりも少々悪い感じの方が女性にはモテるものだ。それだけ悪いとかなりモテたのではないかと思うのだが、その辺はどんなもんだったのだろうか？

**斉藤「自分の場合はモテなかったんですよ。松永が本に出した写真は卒業間近で結構髪の毛が伸びてちょっとはいいですけどね。それまでは維震軍じゃないですけど"つるっパゲ"にヨンゴー（45度に傾いたサングラス）、そして裸に学ランでしたからね。そんなだから女の子にはモテないですね。だって中京高校は男女共学だと思って入ったんですもん（笑）。そしたら男子校で、しかも願書を出しに行ったら3階の窓から瓶みたいなのが飛んできましたし。いい学校だなと思いましたね（笑）」**

スキンヘッドにサングラス！

まさに維震軍！

バッチのデザインといい、ネーミングといい、ルックスといい、斉藤選手は維震軍へ入るために生まれてきたと言っても過言ではないかもしれなくもない（弱気な断定）。しかも裸にガクラン！『BE—BOP』の世界を通り越して『ガクラン八年組』の域へと達している。そんな硬派な青春を過ごした中京高校であるが、今現在は進学校になり、そこにはもはや『新撰組』の面影は皆無らしい。しかし、願書を提出に行った生徒に瓶を投げつけるというエピソードひとつだけみても、昔はだいたいどんな学校だったかは想像つくであろう。そのような『スクールウォーズ』の川浜高校みたいな学校で、斉藤選手は『新撰組』をやりつつ部活の水泳にも精を出すという青春を謳歌していたのだ。

**斉藤「その頃読んでた本が長州力さんの『力しか信じない』なんですよ。水泳はあまり力は関係ないですけど、とりあえず力しか信じない（笑）。そして目指すのはロード・ウォリアーズと。全く水泳とは関係ないんですけど、とりあえず精神力**



斉藤選手のルーツのひとつに空手もあげられる。『新撰組』の多くは誠心会館の門を叩いたそうだ

**かなと思ってました。入場テーマは長州さんのパワーホールだったんです」**

とりあえず精神力。良い言葉である。我々の年代のプロレスファンは精神力に支えられ、精神力を多用する。これは猪木の影響に他ならないのだが、何かあるごとに精神力で乗りきろうとする。例えば、仕事先に謝罪の電話を入れなければいけないときや仕事をさぼろうと嘘の電話をするとき。電話は苦手なのだが、どうしてもかけなければいけない、そんなときは精神力の出番である。とはいっても、じつは精神力でもなんでもなく、ただの「もういいや。かけちゃえ!」という開き直りに近い力なのであるが、嫌なことに直面すると、それを乗り越えるために「猪木はもっと頑張っている」という訳のわからないモノを支えに行動する傾向あるのだ(もしかしたら私だけかもしれない。いや、椎名氏もそんなことをかつて言っていた)。であるから、何事にもとりあえず精神力という斉藤選手の言葉には共感できる。が、そんな私事はどうでもよく、それよりも入場テーマだ。水泳の大会で入場テーマなんてあるのだろうか?

**斉藤「予選を1位で残ると好きな曲をかけてもらえたんです。その頃は長州さんが好きでしたんでパワーホールをかけてましたね。当時ハルク・ホーガンの『イチバ～ンッ!』がありましたけども、地元のインターハイで優勝したときは『イチバ～ンッ!』って言わせてもらいました。あとNHKで全日本の放送があったんですけど、その時は自分は〝闘魂〟って言われてたんですよ。猪木さんが好きで、ビート板とかに〝闘魂〟って書いてたんです。そしたら、『あの人はアントニオ猪木のファンですね』とかNHKで流れましたからね(笑)。そのぐらいプロレスは好きでした」**

「相撲部に所属していた俺は、その頃からプロレスラーになりたいと考えていたが、同じ事を考えている人間が水泳部にもいた」と松永選手の本に書いてあるように、斉藤選手は大のプロレスファンだったのである。一番好きなのは長州力だった。

# 死神が好きなんですよ 死神には一度しか会えませんから


ドクロの指輪がビシッと決まっている斉藤選手。どこまでもカッコいい男だ!!

**斉藤「最初は猪木さんでしたが、途中からは長州さんですね。あの生き様とか何とも言えないものがありましたね。藤波さんに噛みついたりして、それは一般社会にはない下克上じゃないですか。それをやるのは格好いいというか、自分たちの持ってたストレスを発散させてくれるので応援してましたね。だから闘ったときは、『これがあのリキラリアットなのか!』って思ったんです(笑)。でも、その次の瞬間には意識がなかったんですけどね。気が付いたときにはフォール取られてました」**

前号のインタビューでもわかるように、斉藤選手はハングリー精神に溢れている。長州ファンになるのは当然だろう。長州と言えば、維新軍。維震軍とは字が違えども、同じ「イシングン」と発音する。『新撰組』のパッチデザインとそのルックス、憧れていた長州、そして平成維震軍。それぞれの点は「イシン」をキーワードに結ばれ、直線となる。やはり斉藤選手と維震軍は赤い糸で結ばれていたのか?

**斉藤「新撰組はちょうど自分たちの代から8年ぐらい続いたらしいんですよ。自分らが第1回というか、一期生だったんですけど、ちょうど僕が新日本に殴り込むぐらいまで続いたらしいんですよね。だから、よけいにいい伝説みたいな感じになったらしいですけどね」**

そう、やはり『新撰組』は維震軍の前身だったのである。新日に殴りこんだ頃、約8年続いた『新撰組』は消えた、かにみえた。しかし、消えてはいなかったのだ。代わりに維震軍が誕生したのだから。『新撰組』は維震軍へと形を変え進化したのである! オリジナルメンバーは斉藤選手だけとなったが、『新撰組』魂は残っていたはずだ。本人にそんな気はサラサラなかったと思うが、すべての流れは維震軍へ直結していたのである! などと、偶然を必然としてこじつけてみた。

その維震軍も消えたかに見えるが、消えてはいない。ただ今、またしても進化の途中なのである。斉藤選手が再びリングに立った時、さらに進化した『新撰組』が誕生するであろう。その時を我々維震ファンは心待ちにしながら、斉藤選手の更なる飛躍を願おう。

取材協力/IVYブックス

## 覇(ハ)ガキ出せよ!! PRESENT




1名様

Tシャツ先生ことせきしろ氏の力作!! インターネット上でしか買えない NO維震軍NO LIFE Tシャツ




2名様

せきしろさんとIVYブックスさんと斉藤彰俊選手のご厚意により読者プレゼント放出だ!! 募集要項はP159を参照すること。このページの感想も忘れずに書くべし! 書くべし!

斉藤彰俊直筆サイン入プロレスカード

# 比人

## 巨匠入魂第22回
# 真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

**前回までのあらすじ**
天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜き、プロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、そして異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。対戦交渉は難航したが、道場での非公開試合という形で、遂にヒクソンと運命の対峙を果たした無比人はヒクソン相手に互角の闘いを繰り広げたのだった――。
　しばらくして、ヒクソン対船木戦が正式決定したとの報を聞いた無比人は、広尾にあるバンクラスの道場へ出向き、半ば道場破りのような形で船木と相対峙した。数分が過ぎ、俄然プロレスらしい攻防になった頃、――「止めて下さい！」氷見子はおぼえず叫んでしまっていた。

（47）

マジソンスクエアガーデンに試合開始を告げるゴングが鳴り渡った。
　春の訪れが遅いニューヨークにも、ようよう膚にやさしい川風が立ちはじめた四月二十九日。WBC（世界ボクシング評議会）・IBF（国際ボクシング連盟）統一ヘビー級タイトルマッチが両団体のチャンピオンであるレノックス・ルイスと、両団体二位のマイケル・グラントとで行われる運びとなったのだった。
　リング上に相見えた両選手は、ルイスが百十二・一キロ、グラントが百十三・五キロとあって、総体重二百二十五・六キロの〝史上最重量戦〟と陰口を叩かれながら、挑戦者がいきなりジャブをクリーンヒットさせ、躍動感溢れる滑り出しを見せた。
　王者ルイスはしかし慌てず、この一発だけで後は老猾さに物を言わせて七歳下のグラントの若さを封じ込め、殆ど一方的に攻めたてた。スピード、パワーといずれも挑戦者を上回り、そして2分過ぎ、右のアッパーで最初のダウンを奪う。
　その後も手数は増す一方で、さらに二度立て続けにグラントはダウンを喫し、第一ラウンドで早くも大勢は決した。
　2R終了間際、フィニッシュの右アッパーを叩き込んでKO勝ちを収め、WBCで七度目、IBFとしては初の防衛にそれぞれ成功したルイスが万雷の拍手のなか、レフェリーに勝ち名乗りを受けているときに異変は起こった。
　ルイスの戦績36勝（28KO）1敗1引き分けに対し、31勝（22KO）1敗とプロ入りして初の負けを味わったグラントがすごすごと退場した青コーナーから、入れ違いに若い男が上がってきた。東洋人のようだ。
「リングへ入ったらいかん。退りなさい、さあ！」
　レフェリーが高声を張った。
　無視して男は、まっすぐに歩きだした。ルイスとの距離が詰まった。
「こら、それ以上近づいちゃ駄目だ！　ファン心理はわからないではないが、下でチャンプが下りるのを待って――」
「ファンだって？　冗談じゃないぜ。ルイスの奴に文句があってきたのさ」
　東洋人にしては滑らかな英語で、押しかぶせるように男が言い返した。
　中年のレフェリーは戸惑いを隠せず、
「文句？　文句なしのKOシーンだったのでは」
「ファイトマネーだよ。正味六分足らずで十億円はぼろ過ぎやしないかって、つまりはクレームを付けたいわけ」
　タイトル戦のファイトマネーはルイスが約一千万ドル（約十億六千万円）、グラントが約四百万ドル（約四億二千四百万円）と公表されていた。
「クレームというより言い掛かりだな、それは。二ラウンドで終わるか最終ラウンドまで縺れ込むかは神のみぞ知る、だ。ぼろい、ぼろくないと言ったって」
「とにかくこのままじゃ引き下がれない。ファン心理じゃなく、客の心理を理解してもらいたいね。大枚叩いてる客の心理をさ」
「あんまりしつこいと警官の手を借りることになるが。一体どうすりゃ気がすむんだ」
「初黒星を献上させられたグラントの無念を、代わって俺がここで晴らすというのは、どう？」
「チャンプを相手にするってことか、え！」
　男は涼しい顔で頷いて見せた。
　一度は席を起ったリングサイドの客たちも大方が坐り直し、好奇の目を注いでいる。
「寝言はリングを下りて言え！　退場しないと、本当に警察を――」
「日本人のようだが」
　傍らに佇ったままでいたルイスがキング・イングリッシュでレフェリーに言いかぶせ、興味をおぼえた様子で男をしげしげ

# 無上

## 虚構と現実が交錯する壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

**初黒星を献上させられたグラントの無念を、代わって俺がここで晴らすというのは、どう？**

見入った。ルイスは英、敗れたグラントは米国籍なのであった。

「きみ、名前は？」

「万無比人」

　そこだけが日本流の物言いに、ルイスは面妖そうに眉を寄せ、

「やはりボクシングを――」

「いや、レスラーだ。プロレスラー」

「レスラー……その躰で？」

　ルイスの鼻先に男の頭頂部があった。

「ライトヘビーでね。日本から一門の選手たちを連れてきて、ソーホーで三日間の興行を打って無事終了したところだが、聞いてないかい。結構評判になったんだけどな」

　男は得意げに胸を張った。

　ルイスは、わざとのように首を傾げて見せたところで、

「レスリングとボクシングと――つまりは異種格闘技戦が望みと、そういうことなのか」

「でなければ殴り合う、どちらでもいいよ。その場合も、こっちは素手でやらせてもらうが」

　グローブを着けたままのルイスは、その手を肩の辺まで上げるとともに頚を竦めるジェスチャーのうちに、こう語を継いだ。

「素人相手に打ち合うわけにもいくまい。そこで提案だが、私はボディをがら空きにして立っているだけで攻撃も避けもしないので、きみだけが好きなだけパンチを打ち込む。それでいいなら折角の申し出だし、例外的に付き合うことにするけれども」

　男はあっさり頷くと、間合いを測るかのような目色を見せつつ、一歩退った。

　ルイスはグローブの両手を腰のところで後ろへ回し、やや開き加減に足の位置を改めた。笑いの滲んだ目が誘い掛けている。

　男は腕をだらりとさせたまま、半身を切るでもなくルイスを見返したが、束の間、

「せえや！」

　気合一声、左の拳がストレート気味にボディへ伸びた。鞭で打つのにも似た鋭い響き。

　ルイスが皓い歯を剥き出しにした。笑ったような印象だったのが、見る見る苦しげな表情に変じていく。

　亀の腹を思わす筋肉の谷間に吸い込まれたまま静止したかに見えた拳が、やおら引かれ、擦れ違う如くに右のそれが今度はショートアッパーの軌跡を辿って同じくボディの寸分違わぬ箇所へ。肉の軋みが静まり返ったリング周辺の空気を震わせた。

　ルイスは王者の威厳をなんとか保とうとしたのだろうが、ボクシングのワンツーというには十全に過ぎるほど腰が入ったその左右の正拳突きによるダメージは我慢の限界を超えたか、すとんと膝からキャンバスへ崩折れた。前のめりとなりかかるのをグローブで支え、どうにか踏み堪えはしたものの、脂汗の一面に浮いた褐色の背中がなんとも切なげにせわしく波打った。

　男は無感動な面持ちで、世界王者を見下ろして立っていた。

　青コーナーを左手に見る側の最前列、その左端寄りの席でスーツ姿のマイク・タイソンが、口を半開きにした緊まりのない顔をリング上へ向けている。

　氷見子は、タイソンより二列後ろの席を千堂、真澄、グレート嵐に竜村勇らニュー東都プロレスの主力、合わせて十人余りと占めていた。恰も自分がパンチを浴びたように、息苦しくてならなかった。

　氷見子から見て左隣、千堂と真澄が肩を並べる一つ手前の席が空いており、無比人はそこにいたのが試合終了と同時にリング下へと起って行ったのだった。

（48）

　クイーンサイズのベッド。



そのヘッドボードに無比人が浅く腰掛けた格好で、四つん這いの真澄にペニスをしゃぶらせている。真澄は千堂と後背位で合体しながらであり、そしてベッドの際には乗馬鞭を手にした氷見子が。いずれも全裸だ。

「美味しいか、あーん」

ぺろぺろと犬のように舌を遣う真澄を真上の位置から打ち眺め、勿体らしく無比人が言う。

「美味しゅうございます〜」

と隷属しきった者の表情で真澄。エレクトした特大の肉棒で頬を嬲られ、

「あ、あ！　お赦しを！」

「もっといやらしく音を立てろ。さもないと果ててやらんぞ」

「果てて下さいまし！　お願い！　無比人さま〜」

ぴちゃぴちゃ。派手に舌を鳴らしだす。

無比人に目顔で促され、床に立つ氷見子は、ベッドの縁に片足を乗せると鞭を振りかぶった。千堂の尻を打ち据えた。

「わふうっ」

女のような高声が、ニューヨーク一の客室数を誇るウォルドーフ・アストリアホテルのスイートに弾けた。

二度、三度。しばかれるのと比例して、

「もっと！　もっと〜〜」

千堂は声を励まし、腰のピストン運動に拍車がかかる。

鞭を揮うち氷見子は、自分がプレイを愉しんでいるのか、はたまた憎悪の念に衝き動かされてのことなのか、そこのところが判然としなくなってきた。

ごく普通のサラリーマンの家庭に一人っ子として生まれ、長ずるにつれてサディストなのだと自覚するようになり、踊りの世界を志してこのニューヨークへやってきた辺りから、プライベートで鞭やボンデージとも親しむまでになった。そうして無比人に出会い、一緒に帰国して以来Sの女王としてネオンの巷に君臨していたところが、千堂の謀反に遭遇。一転してM奴隷に甘んじることを強制され、女王の矜持を根絶やしにされて逼塞するうち、突然また風向きが変わった。

（M男のなかでも上位にはランクされっこ

# 無比人はヒクソン・グレイシーに次ぐ獲物としてマイク・タイソンに的を絞った——

ない、こんな出来損ないにいいように弄ばれたばかりか、三億もの大金を差し出す羽目になるなんて……。金は無比人のために遣われるのであれば惜しくはないにしても、こいつにそれこそ腸までも曝け出して屈してしまった事実だけは、なんとしても消して置かないことには。それとこの牝豚、おばんのくせによくものさばってくれたこと！　じっくりと手間暇かけて、とことんいたぶってやらなくちゃ——）

東京ドームでの〝プライドGP2000・世界最強トーナメント開幕戦〟を観戦した帰り、食事を摂った水道橋の焼肉店で、

——氏家さんを今夜ひと晩借り受ける。それでちゃらだ。

と無比人にいきなり言い出され、驚きの余りか一瞬千堂は滑稽なほど間延びのした表情を見せた。

驚いたのは氷見子も同じで、千堂の顔を正視しかねる思いでいると、

——他人の女をおもちゃにしといて、よもや厭とは言わないよね。ねえ、部長、

無比人は畳みかけた。薄笑いを絶やさずにいるのが、氷見子にはなんとも空恐ろしく感じられた。

千堂は言葉を失くした様子であり、真澄も下を向いてしまっていた。

——黙っている、ということはオーケーなんだな。それじゃ行こうか、氏家さん。

無比人が手を伸ばして肩を掴んだ。

——待ってくれ。

と電気に打たれたような顔で千堂。胡坐をかいて炭火の焜炉を囲める小上がりの席だったが、立ち上がって無比人の傍へくると、改めて膝を揃えて坐り直し、

——北海さんとのことについては弁明の仕様もない。この通りだ。

手を突いて低頭した。

——謝ってすめば警察は要らない、なんて子供染みたことは言わないけれどもさ。そりゃないぜ、部長。

——慰謝料を払う。それでなんとか。

——金？　どうせ氷見子の預けた金だろうが。冗談おっぺすなよ。

言うと無比人は、真澄の肩を掴んだ手を二の腕へと滑らせ、

——あんたも同罪だろう。来るのか、来ないのか。

——参ります。

蚊の鳴くような声で真澄は応じた。

——同罪、そう！　同罪ということで、この私も連れて行かれる。そ、それならば。

千堂の申し出に無比人は意表を衝かれたか、ぽかんとした表情を見せたが、

——そうよ。二人は同罪なんだから、一緒に償いをさせるべきよ。

氷見子も横から助け船を出し、結局、四人して大森のマンションへ向かうこととなった。気持ちが落ち着いてみると、おぞましい事ごとが次から次から想起され、女も男もここでぎゅうぎゅうの目に遭わせてやらなくてはと、久方振りに破壊衝動に駆り立てられたのであった。

無比人といつもプレイしているベッドで、氷見子は裸に剥いた千堂を這わせ鞭で打って打って打ちまくり、ペニスバンドでアヌスを貫いた。女の言葉を吐き出させ続けた。

一方、真澄は、やはり全裸で無比人によってベッドの下で坐禅転がしにされ、前も後ろの穴も丸見え状態のまま、その京人形のような雅びな美貌を精液に塗れさせて啜り泣いた。挙句、千堂ともども奴隷誓約書にサインさせられた。

その翌日には余勢を駆って中目黒の絹子のところへ氷見子は無比人を案内し、湯を張ったバスタブに顔を漬けさせて死の恐怖を味わわせてやった。絹子は浣腸プレイを強いたときの残忍さもどこへやら、猫のようにおとなしくなってペニスを咥えプッシーを嘗め、二人に支配されることを涙ながらに志願した。

こうして三ヵ月。無比人は千堂を手足のように動かして巻道場へ入門し、そこでの短期集中特訓をこなした後、ヒクソンに次ぐ獲物としてマイク・タイソンに的を絞った——。

鞭の手を止めると、氷見子は、その柄の方で千堂のアヌスをめがけて突き上げた。

「ニューヨーク遠征最後の夜だ。ほら、ほら、派手にさっさと出しておしまい！」

鞴のように喉を鳴らし、千堂が射精したのがわかった。おっつかっつに真澄の頤も上がり、池の鯉にも似て口が開く。狙い澄ましたようにそこへすかさず無比人がペニスを押し込み、むん、と一つ唸りを発した。

女の肉は桜色に染まり、やがて腑抜けと化して平べったく臥した。その上に千堂も折り重なるように沈んで、身じろぎしない。鞭の柄は食い入ったままだ。

無比人がベッドを下りてきた。硬度を保ち続ける一物を扱き、氷見子の背後へ回る。

床に両手を突き、膝は伸ばした状態で迎え入れた。忽ち波に攫われた。

桜庭和志がホイス・グレイシーをTKOに降し、藤田和之もマーク・ケアー相手に文句なしの判定勝ち。〝プライドGP2000・決勝トーナメント〟の余韻の未だ冷めやらぬ格闘技界に、また一つ激震が奔った。

マイク・タイソン対万無比人戦正式決定——と。

〈以下次号〉

# CAT FIGHT WORLD

**第2回目** 「“ナマ”の魅力について」
バトル編集部　猫宮編集長

**キャットファイトとは?** 女性同士（一部男性相手の場合もあり）の格闘技のことです。レスリング、相撲、キックボクシング等、男性顔負けのセクシーファイトでアナタをトリコにします。

**今月の5月2日の夜に行われた、キャットファイトのライブイベントに行ってきました。なんと、前回紹介したバトルさんが協賛ということで、またもやお話を聞きに行ってきました！　今回インタビューに応えてくださったのは、バトル編集部の猫宮編集長です。**

―はじめまして、ライブの時はお疲れ様でした。

**猫宮**　ライブ、盛り上がって何よりですよ。我々も楽しませてもらいましたし。

―キャットファイトをビデオではなくリアルタイムで人前に出す魅力って何でしょうね？

**猫宮**　前回もそんなような事聞いてたよね？

―アハハ、仕事ですので。

**猫宮**　やっぱり「生」は違いますよ。何でも生は良い、うん！

―はぁ。生ですか。

**猫宮**　それに、大勢の人の前だとキャットファイター達も興奮するからね、迫力あると思うよ。

―なるほど。

**猫宮**　ライブ効果って奴だよ。場内の熱気に中てられちゃうんだろうね（笑）

―ははは、確かに場内は物凄い熱気と歓声でしたね。我々も興奮しちゃいましたし。

**猫宮**　でしょ？

―プロレスもテレビで観るのと生で観戦するのでは全然迫力が違いますもんね。

**猫宮**　うん、そうだね。だから、生なんだよ。生。自分の目で見て「これがキャットファイトなんだ」って認識して、世界にはまっていくわけだね（笑）

―なんだか、僕もはまりそう。

**猫宮**　ライブ見ちゃったら、確実にハマるよね。あの熱気と興奮はある種のスポーツだよ。

―女子プロレスみたいなもんですかね？

**猫宮**　それとはまた違うでしょ。ほら、途中途中にわざとお客さんにパンツ見えるように技を極めたりするじゃない。やられた方は屈辱的だよね。しかも大勢のお客さんの前なんだから。

―ええ、ええ！

**猫宮**　で、やられた方もやり返すじゃない。もう、本能だけで動いちゃってるって感じ？　これがキャットファイトだよ。

―うーん……分かったような、分からないような。曖昧です。

**猫宮**　深く考えたら駄目だよ（笑）自分で「これがキャットだ」と思ったものが、キャットなんだと俺は思うよ。

―（前回登場した）木根さんみたいな事を言いますね（笑）ところで、猫宮さんはどんなキャットファイターがお好きですか？

**猫宮**　どんな、かあ。可愛い娘。

―うわ、単純！



客席のジャイ子さんも大興奮の“女闘美”ビデオはバトルに揃っています!!

## 猫宮編集長が選ぶ、猫闘（キャットファイト）オススメビデオ!!




DWW120
￥9980
Late Night Lubrication
（68分）

チョークスリーパーはオイルレスリングでも有効なのか？　といった具合にプロレスファンも、いろんな楽しみ方が出来るはずです。



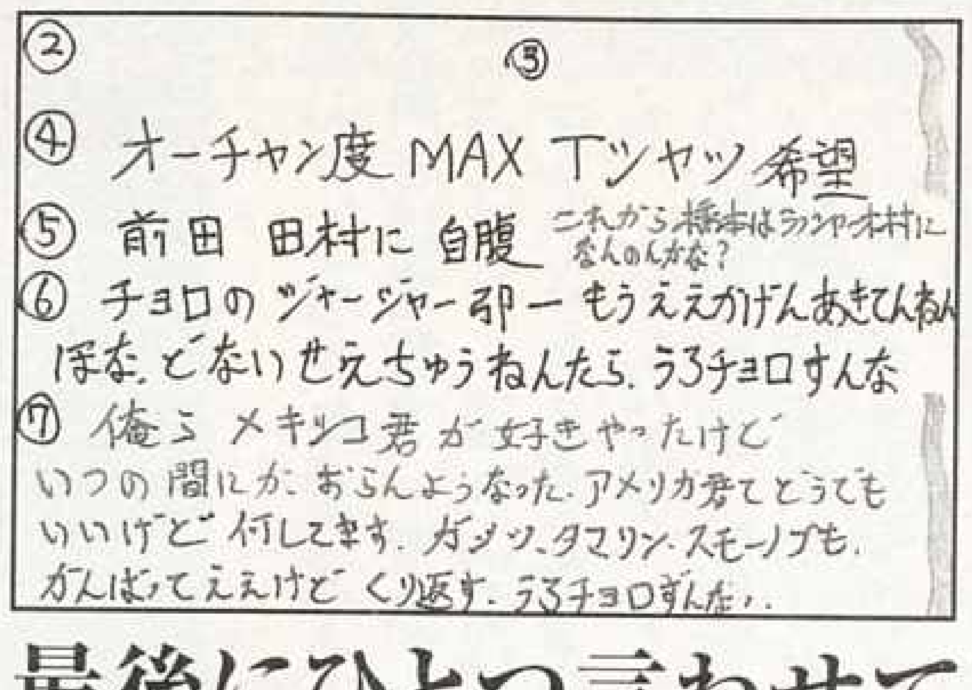

The Private Collection
￥8900
Angro American Topless Competitive Challenge
（60分）

桜庭がホイスにやった恥ずかし固めも拝めるぞ！　じつはキャット・ファイトの技だったのか？　格闘技ファンも必見だ！

# 突然ですが グレート・チョロの ハガキ劇場 改め・・・

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOUKOUPAGE

HAGAKING of KINGS


②
③
④ オーチャン度MAX Tシャツ希望
⑤ 前田 田村に 白腹 これから橋本はランヤー木村になんのんかな？
⑥ チョロのジャージャー邪ー もうええかげんあきてんねん ほな、どないせえちゅうねんたら、うろチョロすんな
⑦ 俺ら メキシコ君が好きやったけど いつの間にか おらんようなった。アメリカ君てどうでもいいけど 何してます。ガメツ、タマリン、スモーノブも、がんばってええけど くり返す。うろチョロすんな、、

最後にひとつ言わせてくれんかのぉ？

1、2、3、邪！（スッキリ）

左の西澤歩月ちゃん（0歳）のハガキにもあるとおり、確かに『ハガキ劇場』は、これまで「じゃあじゃあ、邪邪」うるさかったと思うん邪（失礼）。0歳の赤ん坊に言われるまでもなく自覚してるん邪（度々失礼）。『ハガキ劇場』の看板は下ろします。どなたさんに言われるまでもなくそれは決まっていたのです。前号で、中牧昭二さんがオーナーを務めるピンサロ「キャンキャン」に行ったのですが、その記事には「グレート・チョロ28歳キャンキャンでイッちゃったら即引退！スペシャル」というタイトルがつけられていました。そしてボクは「キャンキャン」でイッちゃいました。しかも「キャンキャン」言ってしまいました。だから即引退です。我ながら潔いなと思います。というわけで、読者ページはタイトルを変え続行！（しかも5P）

# ハガキングオブキングス誕生！

## 目指すは「世界制覇」（何の？）

## というわけで ハガキングオブキングスでは

**パンチの効いた投稿有り、笑底有り、**

**もちろん 膠着ナシ！**

**世界最高のルールで**

**最強の投稿戦士が闘う。**




（青森県／青木雄大／24歳・素人ポンチ絵師）5点　さすがランキング1位！

コピコピコピコピコピコピ
プレプレプレプレプレプレ







（青森県／青木雄大／24歳・素人ポンチ絵師）5点　誰も止められない。




（埼玉県／中川雅博／22歳・無職）5点　誰も止められない。

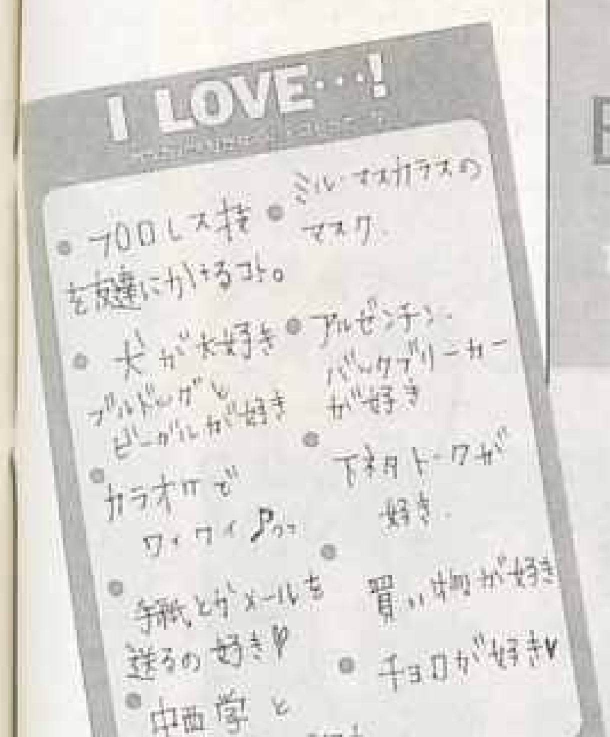
コピィロフTシャツを中川画伯が作ってくれました。地球上にたったの3枚しかないこのTシャツ（M）を3名様にプレゼント。ハガキングオブキングス宛に応募して下さい。中川画伯には10点あげます。

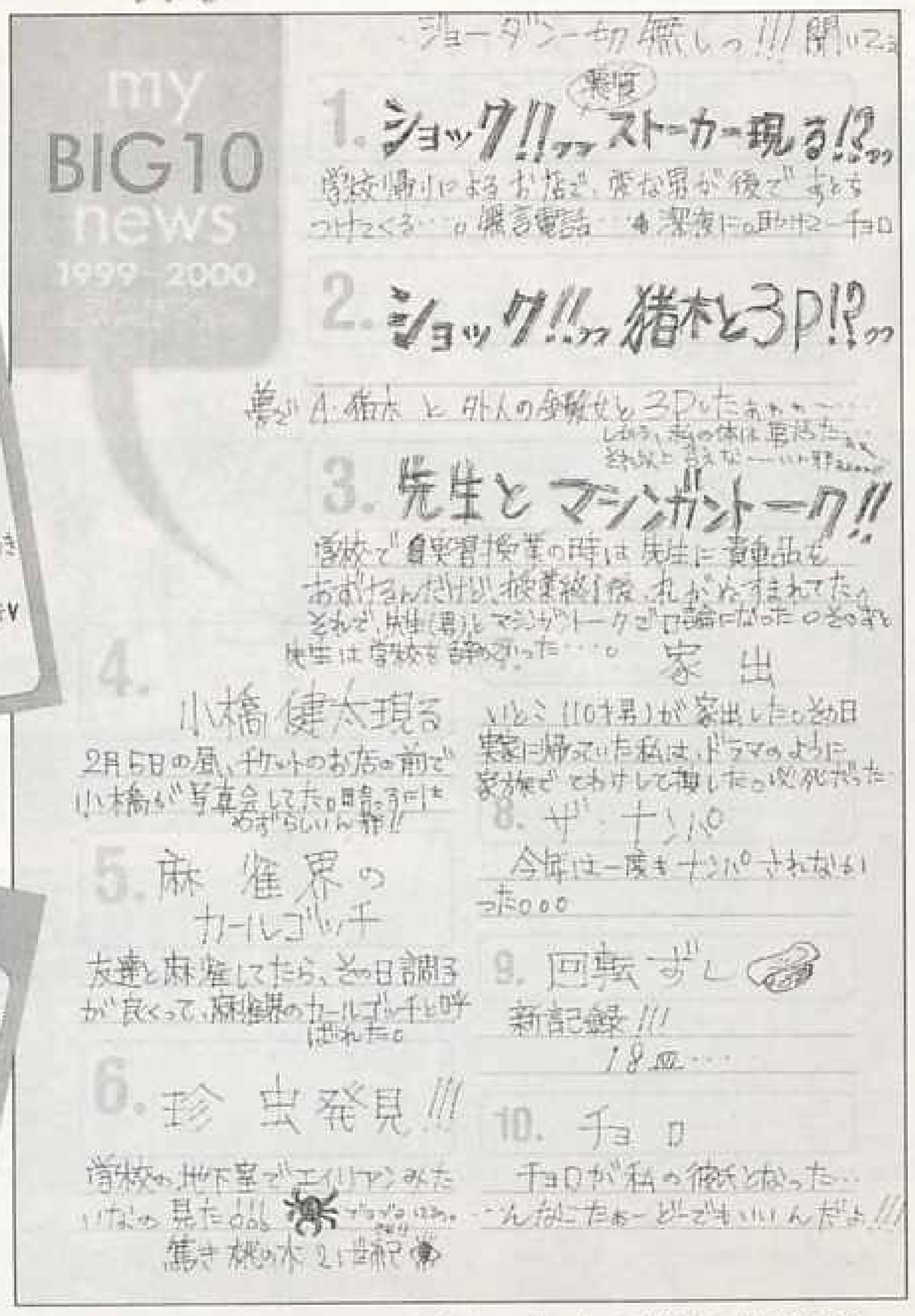
# 世界最強の投稿戦士はハガキングオブキングスが決める

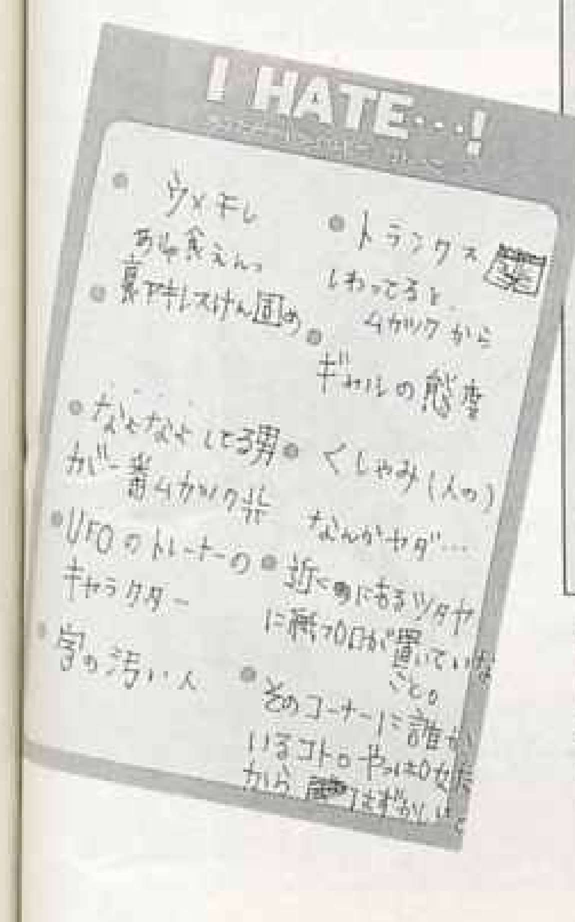





誰も知ったこっちゃねェだろうが『ハガキ劇場』を通じて俺に彼女（怜美17歳）が出来た（前号参照）。怜美とは電話で一度話しただけだ。代わりといっては何だが俺たちは恋文で愛を育んでいる。「チョロはさー、彼女いないんだね…そうかそうか、かわいそうに。私はまだまだチャンスはあるし…。まぁとりあえず、チョロに本当の彼女がデキルまDE私が彼女ね。よろしく。チョロは28歳かぁーくぅ→大人だねぇ。そんくらいが丁度良いワ。熟してるってカンジで」。もしかして俺は17の小娘にもて遊ばれてるのか？　と悩んだりもするが深く考えてもしょうがない。「チョロ君。キャンキャン記事、18未満だけど読ませてもらったさっ！　何ぼ良くっても『キャンキャン禁止令よ。わかった？』私がキャンキャンじゃわ（怒）」。も、もう行きません。俺はお前を愛してる。




たまたま編集部にあった『プチセブン』の付録を怜美に送ったらギッシリ書き込んできてくれた。夢とはいえ、怜美は猪木と3P経験有りの凄玉17才だ。俺ってホントに彼氏？「私は11才年下の座としたチョロの彼女であるワケDEして、岡山で男にひっかかれないよう気をつけたいと思いマス。たとえ、チョロがヨゴレであろ→が、ヤリMANであろ→が、性のやまいにかかろうがデス。たぶん…年の差なんてカンケ→無しっスヨ！」。OKです！　公私混同で25点あげまっちょ。



# 5・2恵比寿「みるく」でキャット（notブラック）と一緒に大騒ぎ！



ティーチャーまち子

身長163cm　B84W61H88　職業：高校女教師　趣味：読書　将来の夢：理想の女子校をつくること　得意技：体罰ビンタ　なぜキャットファイトをはじめたの？　間違った道を歩む子たちを正しい道に導くため



あい

20歳　身長152cm　B82W58H82　職業：ショーダンサー　趣味：歌う事、踊る事　好きな食べ物：アロエヨーグルト　チャームポイント：普通の人とはひと味違うところ　得意技：ドラゴンスリーパー、四の字固め



二階堂麗奈

23歳　身長156cm　B85W59H90　職業フリーター（元レディース総長）好きな食べ物：男　チャームポイント：全身　得意技：ウラ拳、ハイキック　なぜキャットファイトをはじめたの？　極妻になる為の花嫁修業



クィーンビー不死子

22歳　身長160cm　B88W60H90　職業：肉屋　趣味：ケンカ　将来の夢：女王（女だけの王国を作る）チャームポイント：冷たい一重の目　得意技：モンゴリアンチョップ、アイアンクロー、ジャイアントスイング

前号で襲撃予告をしていたものの、結局リングアナをやることになってしまった。無念。1試合目のまち子先生VSあいの一戦は、仲間の乱入から四の字固めであいの勝利。問題は第2試合の不死子VS麗奈戦で勃発！　元レディース総長・麗奈の蹴りが不死子の顔面に炸裂し前歯がブッ飛びレフェリーストップ。さすが地下室マッチ、戦慄のシュートマッチとなってしまったのだった。この模様は近々ビデオ化されるので是非ともチェキ〜ラサンライズ。

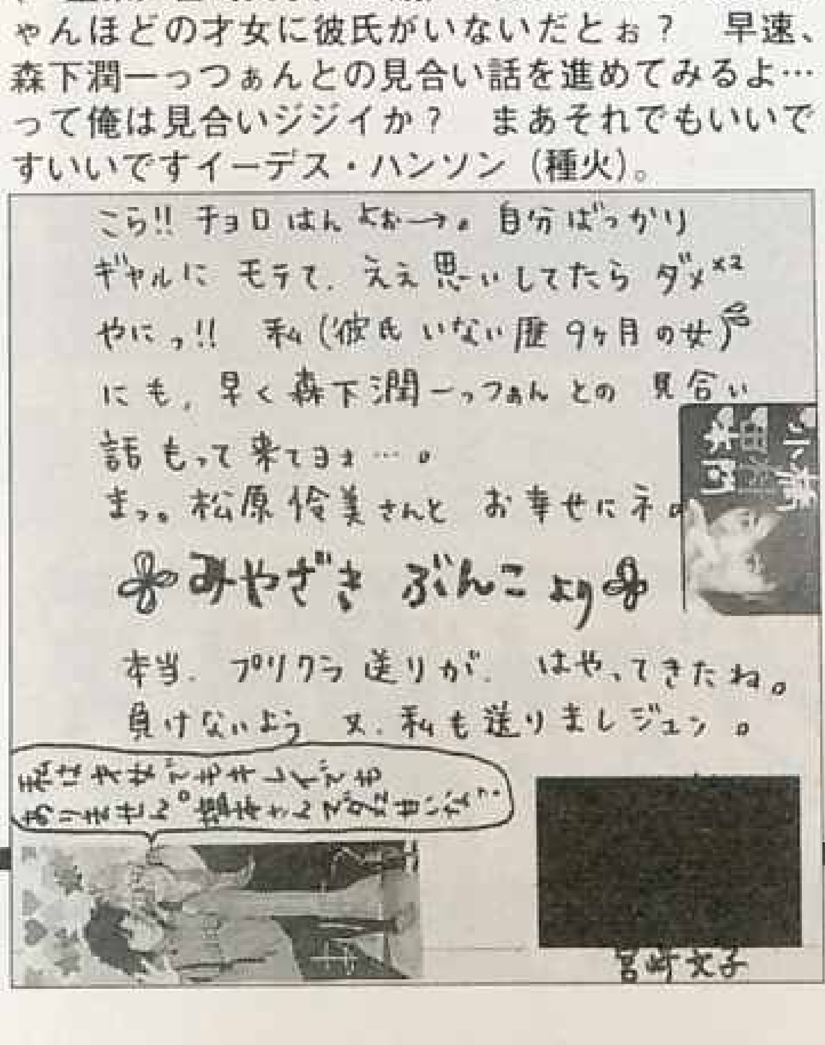
## ■前号の感想や！　おもしろいもの

●「才能ってえのは、発揮するモンじゃなくてあふれでるモンなんだ!!」若き日の我らが殿ビートたけしの言葉ですが、それにしても奇跡の90分でした。『世界が恐れるIQレスラー』サクは、『世界が欲しがる愛敬レスラー』ぶりを遺憾なく爆発させた上での完勝!!　藤田は藤田で、ケアーのド迫力ニーを顔面でディフェンス!!　中盤以降はデストロイヤーに指南してもらったと思われるニースタンプ（アメリカでの秘密特訓は、これだったのでしょう）とパンチでケアーの心とロッ骨（これは多分ウソ）をたたき折り、セコい格闘技関係者を「なぁ〜んでかっ!?」と堺すすむに仕立て上げて、うならせた上での圧勝!!　ここまで、オックスの客みたいにすわりションベンで半失神でしたが、DSEはこの程度じゃ許してくれないそうです、私を含めた全国3万人のサヤマーを完全失神に追い込んだ佐山聡（マカデミア・ナッツ早食いチャンピオン）のマイクです。「寝っ転がってゴロゴロして固まって、その上甘納豆食ってるのは、プライベートのおまえだろう（怒）」との反佐山派の心のツッ込みも10万光年先を

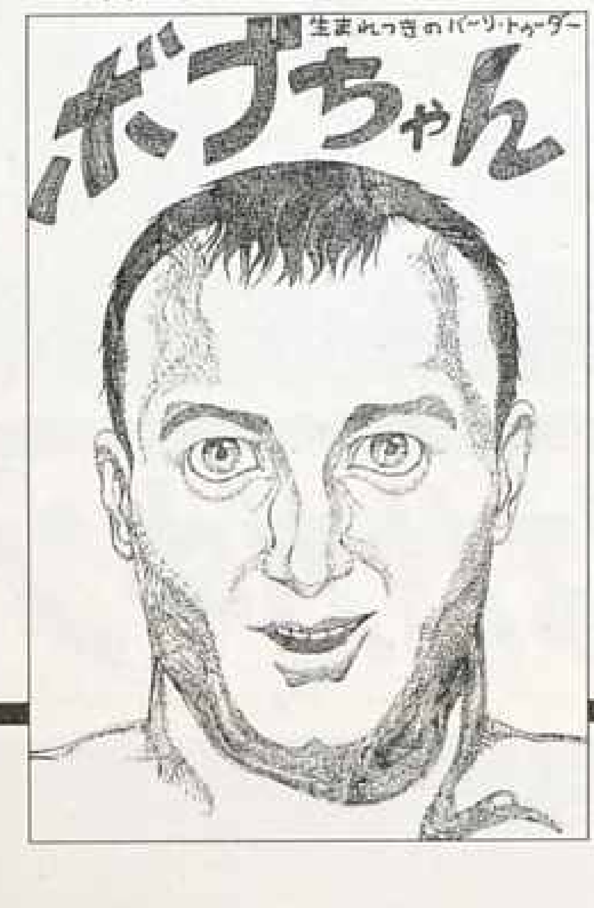



（東京都／キャプテン名倉ドランキンモンキー）4点★「橋本真也の新リングネーム『橋本真太郎』で政界へアクセス!!　もしくは『グラップラー土岐』でさらにさまよえ!!」

（三重県／宮崎文子／20歳）5点★なんだ、文子ちゃんほどの才女に彼氏がいないだとぉ？　早速、森下潤一っつぁんとの見合い話を進めてみるよ…って俺は見合いジジイか？　まあそれでもいいですいいですイーデス・ハンソン（種火）。




（横浜市／上杉太郎／29歳）5点★にらめっこがメチャメチャ弱いという噂のボブちゃん。♪ボブ、ボ〜ブ笑っちゃいますぅ（弱火）。

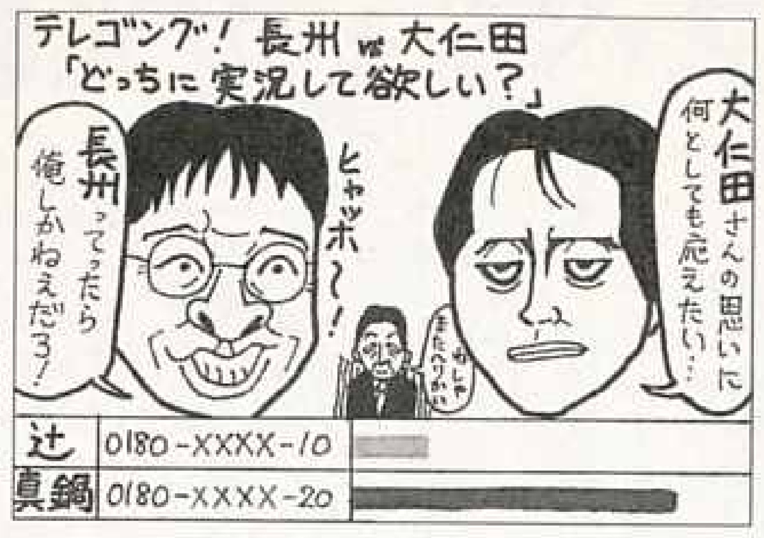


## ハガキオブキングスになっても メインイベンター 青木雄大やんけ！




（青森県／青木雄大／24歳・素人ポンチ絵師）各5点・計25点★コーナー名が変わってもランキングは変動しないんで安心してちょ。あっちょんぶりけ。

それと青木雄大さんに一言。ランキング1位のまま、他団体へ引き抜かれたりしないように！　発覚したら右へ左へ大暴れするぞぇ。













「某TV雑誌に『タモリ倶楽部』の「目指せ！　杉作J太郎」の回にスモーノブが出るって載ってたんですが……、ドタキャン？　それともガセネタ？」。え〜、お答えします。審議の結果、スモーノブは杉作さん本人の推薦があったにも関わらず面接で落ちてしまいましたとさ。だめだこりゃ。「今号はアントニオ文朱さんの作品が無くてさみしいなと思ってたら類似品発見！　それは『ターザンのFAX』。一瞬アラビア文字かと思ったよ」。同感です。

## トラトラトラ、死ぬまで虎ハンター コバクニ引退スペシャル




（東京都／キャプテン名倉）5点　リーゼント〜マッシュまで（右へ）




（三重県／エル・ナチョス）4点



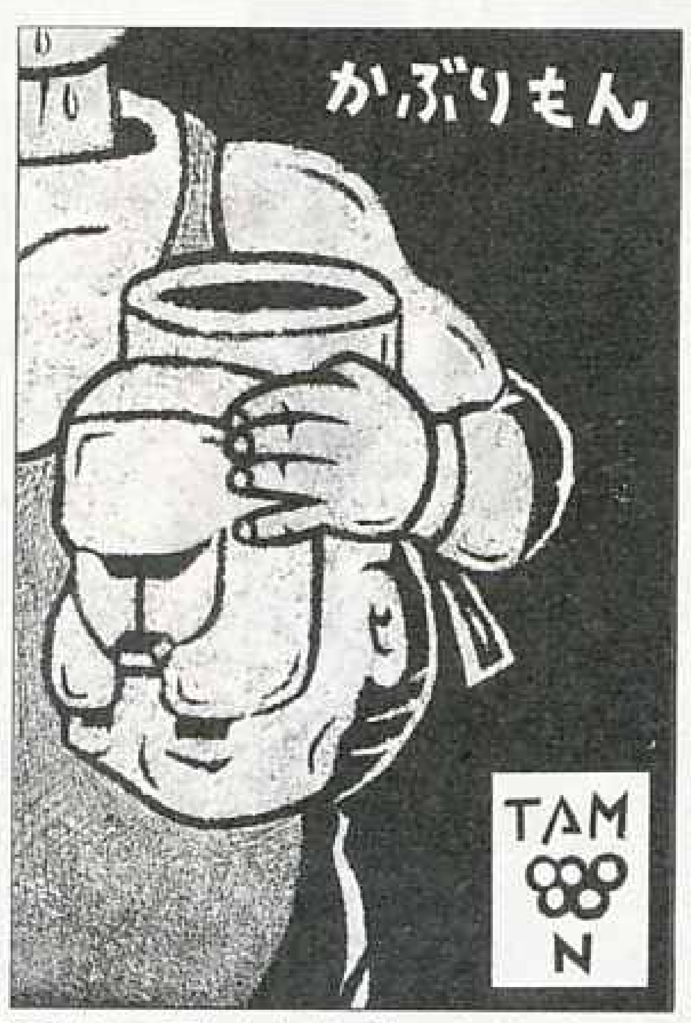

（愛知県／たっつあん）4点　おしゃレスラー引退

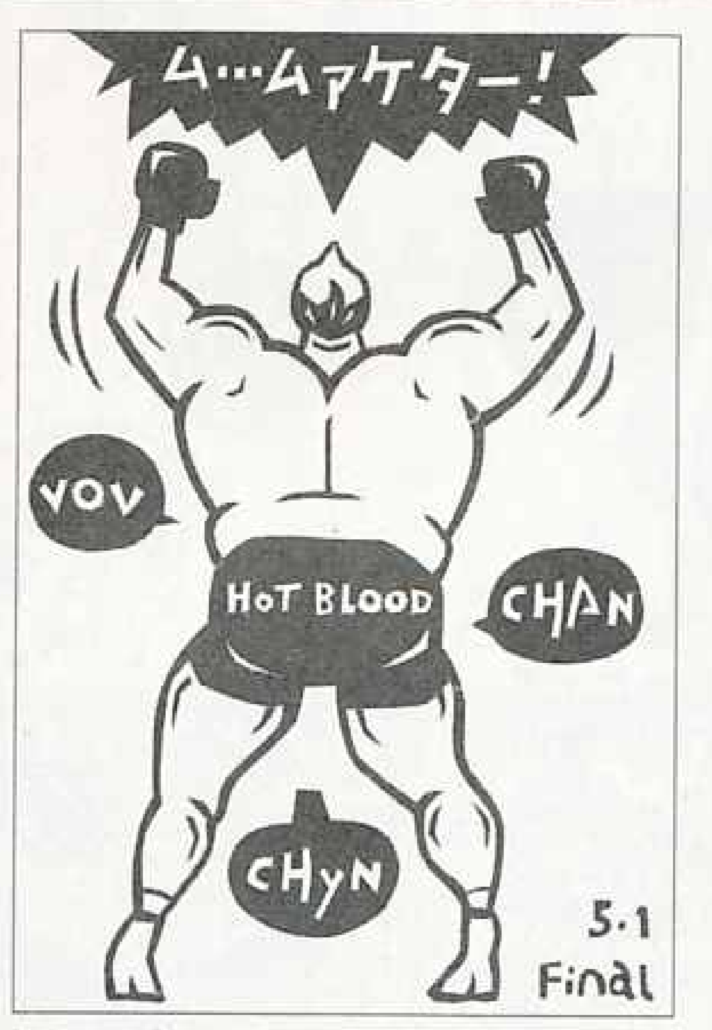



（埼玉県／中川雅博／22歳・無職）5点★「自分は家族会議じゃなくてホリオンが決めてると思います」と言う中川画伯。♪ホリオンなら毛糸洗いに自信が持てますぅ！（それを言うならアクロンじゃろbyエリオ爺）。

## ええか、ええかの英加さんやんけ！




（大阪府／英加直純）各5点・計15点★前号でリクエストしたボブちゃんが、やってきたやってきたぁ、やってきたぞぉ〜！『PRIDE.GP』では惜しくも決勝でム…ムァケテーしまったボブちゃんだが無問題！　ボブちゃんには明日がある！

行く彼には、届きません。後は覚えてませんが、多分この日の興行はこれで終わったんでしょう【END】（熊本県／塩本祐介／34歳）5点
★そういうことで〜す。押忍！（敬礼）

●「前田から田村にロレックス贈呈」。田村さんが（前田さんの前だからか）あんまりしゃべってないところ。はりMON！としゃべっているときとの差がおもしろかった（大阪府／渡辺彩／18歳）3点
★ハ、ハァ言うのは焦ってる証拠？

●「斎藤彰俊インタビュー」僕は維震の狂信的又は熱烈ファンではなかったのですが、せき氏の説得力溢れる熱い文章と彰俊選手本人の率直な〝維震への想い〟は読んでいて熱いモノがこみ上げてきました。ホント、彰俊選手の魅力を『紙プロR』で堪能できて幸せな気分です。最後に、並大抵の事では実現不可能な彰俊選手へのインタビューを見事〝実現〟してくれた、せき氏&編集部には感謝で一杯です（札幌市／藤原章男／27歳・自称無職兼仕掛け屋）5点
★予想通り反響大爆発の斎藤彰俊インタビュー。まさにせき氏ーダイナマイツ！

●「クラッシュ2000インタビュー」女子がカラー7ページなんて…どすこいスゴイ!!　でもクラッシュってリアルタイムで見た事ないですぅ。『毎度お騒がせします』に出てたのは知ってますぅ。ドラゴンも出てましたぁ。♪だれか、ロマンティック、止めて〜……。あと、好きな『紙プロ』関係者は堀江ガンツSAN。チョロさんも好きだけど、彼女できちゃったしィ…。17サイピチピチの…P121のチョロさん、なべやかん似ですね（山口県／ゆずっ子／21歳・会社員・ローソンGirl）4点
★金髪鬼・吉田豪にも、なべやかんミーツダンカン&はらたいらと言われました。とても嬉しかったどすぇ。

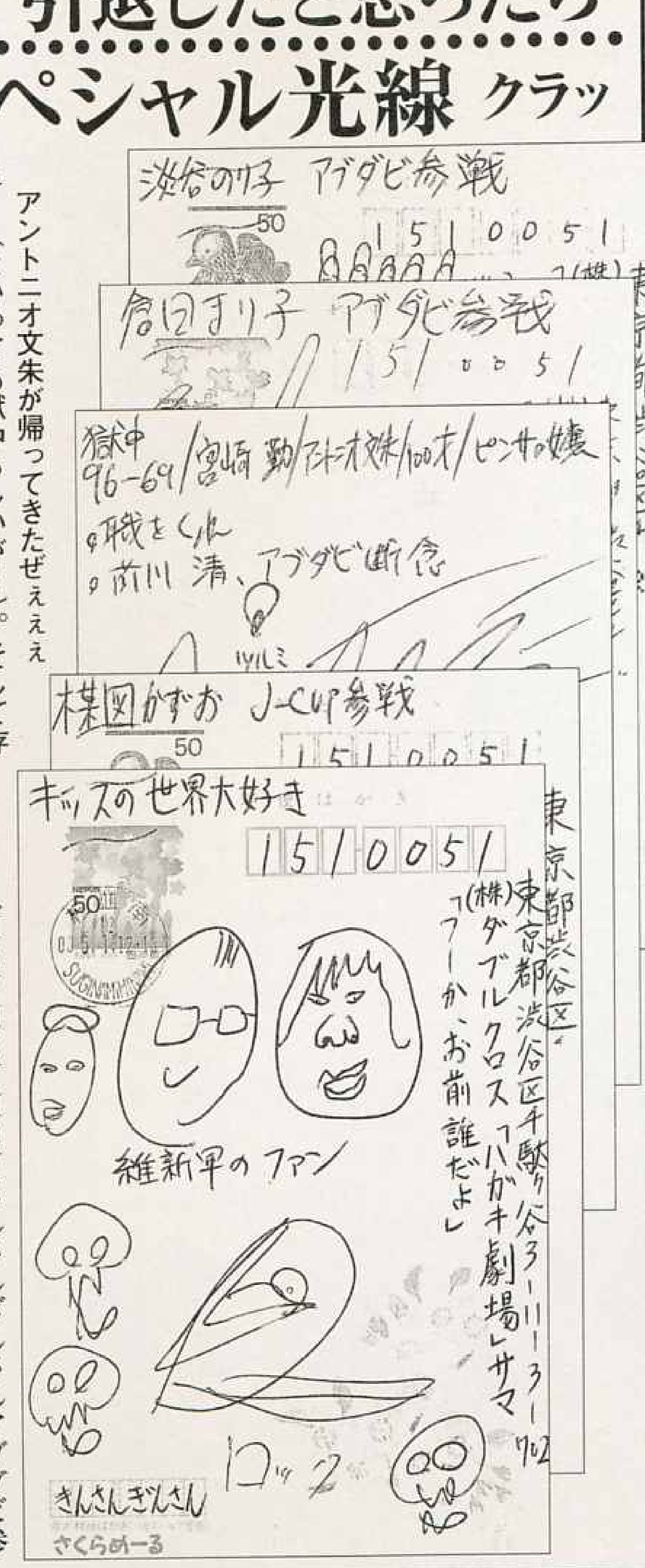
●「小川直也インタビュー」。うちの学校、オーちゃんfun異常（?）発生中。休み時間に今号を置いといたら、勝手に持ち去られかけた。理由を聞くと「…いや、オーちゃんのインタビュー読ませてもらおーかなと思って」。「買えばええやん！」って怒ったけどね（東京都／岩崎紗也香／14歳）5点
★頑張れ頑張れ 頼む頑張れ頑張って頑張ってくれ。

●痔ろうで手術した友達（フィリオ似）が26号を持って入院しました。お陰で退屈しなかったと言っています。治ったらキャンキャンに行くとか行かないとか（愛知県／真下純子／30歳／草むしり）4点
★迷わず行けよ、行けばイケるさ。しかも女の子はキャンギャル揃い（キャンキャンだけに）。

●「オーちゃんインタビュー」。小川選手のファンになったのは「4・7ドーム」の試合を見て。というプロレス歴（オーちゃんファン）のまだまだ浅い私ですが、今回のインタビューではオーちゃんのプロレスに対する考え方がたくさん書いてあって、しかもその内容にも、凄く感動しました♡　好きな『紙プロ』関係者は、『紙プロ』買ったのも今回が初めてで、良く分かってませんけど、やっぱりオーちゃんの「プロレス観」をいろいろ引き出して聞いて下さった山口日昇さんです！（山形県／本間直子／17歳）4点
★常日頃、「豪ちゃんと違って、オレには女性読者のファンがいない！　近づいてくるのは野郎ばっかりだ……ブツブツ

# アントニオ文朱（100歳）引退したと思ったら
# 即復帰スペシャル光線 クラッ

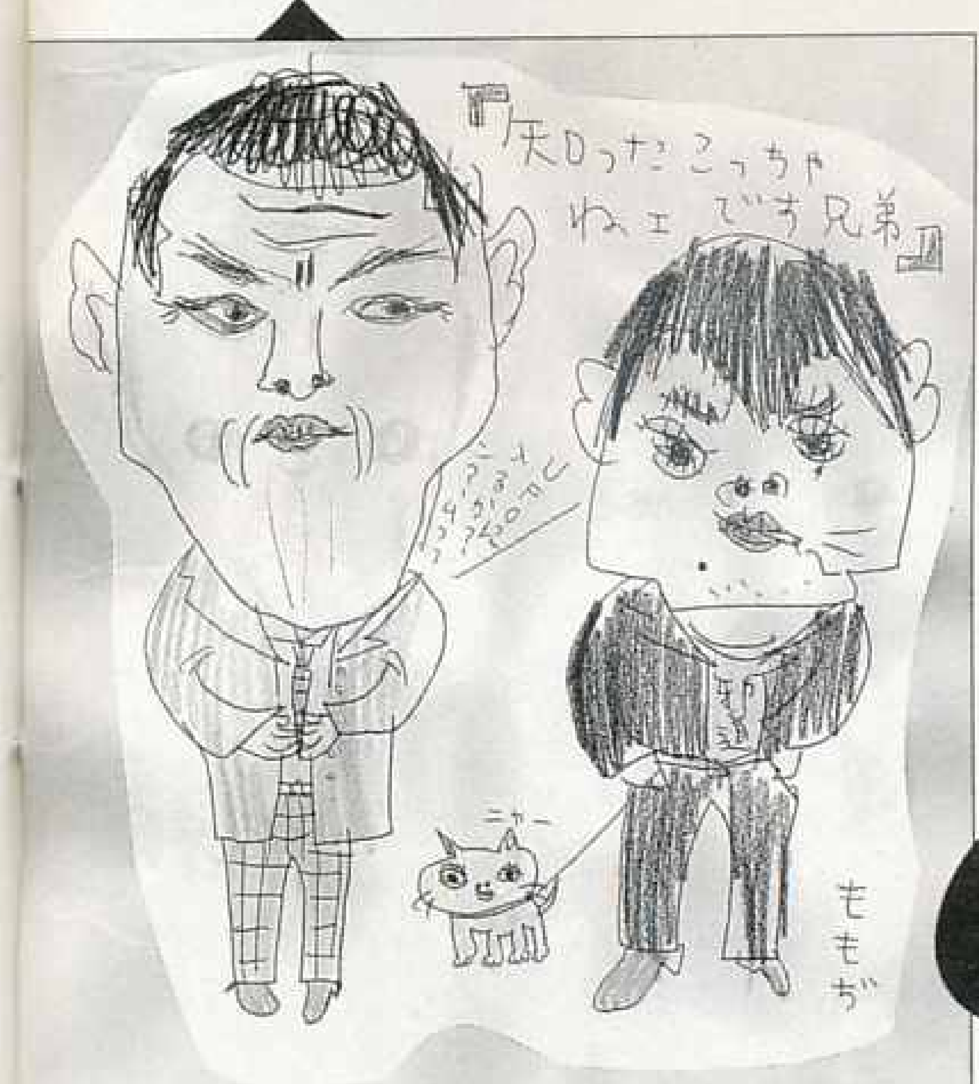


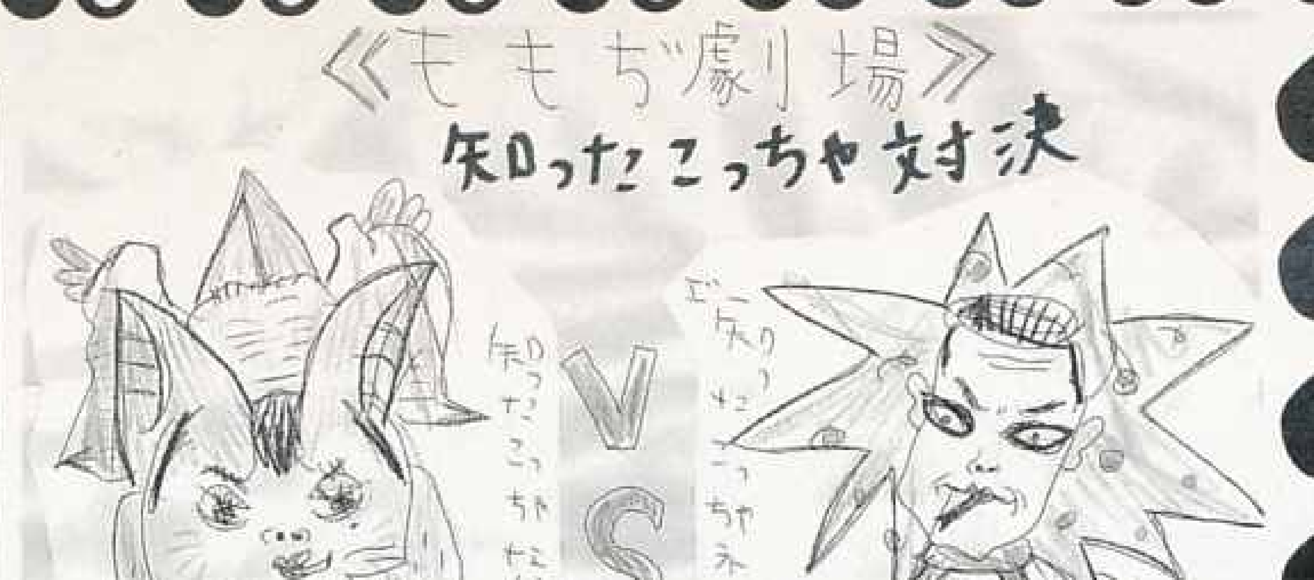




アントニオ文朱が帰ってきたぜぇぇぇぇ！（といっても獄中らしいが…）。そして存亡の危機にあった『PRIDE.0』にもゴキゲンなナンバーを投稿してきてくれたぜぇぇぇぇ！　タイトルは『プロレスの星座』。ヒップホップ調で一気に読んでくれぇぇぇぇ！

シュビドゥビ全日新日リングスHEY！　HEY！　ラッシャー木村、万引逮捕YO！　YO！　HOOO！　シュビドゥビ全日新日（×7）HEY！　マッハ隼人HEYHEYHEYきんさんぎんさんアブダビ参戦きんさんぎんさんアブダビ参戦ナンマイダ〜（×4）仮面ライダー1仮面ライダー1仮面ライダー1面白い面白い面白い（中略）きんさんぎんさんアブダビ参戦（×6）志村けんWWF入り志村けんWWF入り志村けん（×3）ドリフ志村けん（×3）ソード志村けんデスヴィレッジソード死村剣志村けん志村けん志村けんドラゴンアッシュ素股でデビュードラゴンアッシュけっこう仮面でデビュー全日バンザイ（×8）キッスの世界バンザイ（×3）キッスの世界に入りたいキッスの世界バンザイキッスの世界バンザイ天山バンザイゴキブリ殺し小島聡きんさんぎんさんアブダビ参戦（×4）きんさん全女入りきんさん全女入りきんさん全女入りぎんさんUWF入り（×7）きんさん全女入り（×10）【END】

ノビーではないが「右」に落ちれば、「コミックショー」、「左」に落ちれば大惨事である。アントニオ文朱の明日はどっちだ!?　各3点・計21点









ももぢからとびきりデカイ封筒が送られてきた。中には、アントン&大仁田の『知ったこっちゃねェです兄弟withネコ』と、同じくアントン&大仁田の『知ったこっちゃ対決』、それと『客寄せパンダはもうゴメンぢゃ』が入っていたんぢゃ（ももぢ流）。どいつもこいつも素晴らしい！　俺の邪道魂は全て『ももぢ劇場』に託した！　各5点・計15点

ツ」と嘆いてる、本誌鬼畜編集長だが、良かったですね（そーですね！【いいとも調】）。前号での「『紙プロ』関係者で1番好きなのは誰？」アンケートによると5月13日現在、山口日昇は2位の吉田豪に13票差を付けてブッチ斬りの1位です。やったね会長！　でも、よく見たら……やっぱり男ばっかりだ。カックン。

**●好きな『紙プロ』関係者は吉田豪。ダントツで（秋田県／佐藤香織／19歳）3点**
★ダントツってうまいの？　いいねぇいいねぇ寿司食いねぇ、もう一丁！　また女性読者からだよ。裏山C。

**●好きな『紙プロ』関係者はトメさん（福岡県／江川渉／15歳）5点**
★最近、10代前半のピチピチ読者が急増中だが、若さだけでなくモノの見方も素晴らしい。好きな関係者はトメさん？　君の将来は前途洋々！　文朱はYO！

**●好きな『紙プロ』関係者はスモーノブ。スモーノブさんとMake Loveしたいです！　私を横綱にして下さい♡　一度でいいからいつかどこかで会えないかと夢見てる毎日です。スモーノブさんはカッコイイですばい!!（愛知県／安原智子／18歳）5点**
★このハガキを読んだスモーノブは「（鼻息荒く）ごっつあんです！（ぜ〜ぜ〜）」と一言。智子ちゃん、夢はすぐ叶います。ただスモーノブは、行為中はほとんど動かないんで、智子ちゃん頑張りんこ。

**●好きな『紙プロ』関係者はましじゅん。ワープロ使用中、「〜しました」という文章を打っていると、つい変換キーを押して、「〜し真下」としてしまうほど好きです（広島県／豊岡伸隆／22歳）**
★その気持ちはよくわかります。ボクもホイス戦でのサクの入場を見て、「あっ、スーパーストロングマシジュンだ！」と言ってしまったほど好きです。あれ？　弱火でない？　こりゃまた失礼し真下。

**●好きな『紙プロ』関係者は大西タマリンさん。サスケ党という点で好感高し！　ちっちゃくてカワイイというイメージを持っておりマス（仙台市／紺野絵理／21歳）3点**
★一部ネット上でイジられまくっていたタマリン。やっぱ人気あるんですね。でもタマリンはちっちゃくないよ。

**●好きな『紙プロ』関係者は堀江ガンツ。俺はガンツに顔がそっくりな上で、なおかつ前田信者という点も一緒。はっきり言って双子かもしれん。年も同じやしさ（高知県／山岡正明／26歳）2点**
★『紙プロ』のフォーク番長・ガンツは双子だった!?　やっぱ山岡さんも、かなりの女好きですか？（しかも色白&もち肌）。

**●好きな『紙プロ』関係者はあまり知りませんがタコヤキくん。以前はジャイ子さんが好きでした（香川県／正木浩二／22歳）3点**
★あまり知らない人からも好かれるというところが人気者たる所以のタコ兄さん。さすがハイブリットボディずら。

**●好きな『紙プロ』関係者は松澤〝ファッション・リーダー〟チョロさん。本当は吉田豪さんなんだけど、みんな豪さんを選ぶと思うので、それ以外だと確か同郷のチョロさんということで（岩手県／小笠原幸二／27歳）2点**
★そんなのただのお情けやんけ！とも思ったが、1票は1票。有り難く受け取っておく。サスケ社長、エル・サムライ、

藤原組長、TAKAみちのく、佐々木貴、伊東竜二、大向美智子、角掛留造（後は自己申請）などに参加してもらって同郷シュガーベイブでも結成しますかーッ！プロデューサーは新沼謙治にお願いしよう、そうしよう！　鳩ぽっぽ〜。

## ■つまらんもの

●「ジャイジャイ日記」。だれも要望してないのになぜ復帰する（北海道／安倍正典／27歳）5点

★誰も要望してない？　言われてみれば、チョッチュね（それは用高）。でも、しょうがないよ。ジャイ子は頭がクラッシュしてるから。クラッシャー・ジャイジャイ・ジャイ子。

●「TAKAのインタビュー」。だってさぁー、『「好きになるなよ」って言ってる』ってあったけどさぁ、んなことぁ言われな







（熊本県／塩本祐介／34歳）各5点・計10点★『SRS・DX』のワンフー・マクダニエルに続いて、塩本師匠だけにそっと教えますシリーズ第2弾！　新装開店『ハガキングオブキングス』イラストの締切は毎月9日だ！　ヨロピコです！　内緒ずら。

かったしィ、『君がネットナンパをやめるストッパーになっちゃう』とか『ずっと惚れててネ』とか言われたもん。うそつきやん（爆）。彼にTAKAにあったのバレてネット禁止令中（笑）。すみま専務（流行中）（北海道／日高ちゃん／23歳・魅惑の保険屋）3点

★ぶっちゃけた話、日高ちゃんはTAKAとやってTAKA？……余計なこと聞いてごめんな西城秀樹（流行中）。

●「プロレスの可能性をナメるな座談会」。「蝶野対ムタ、ライガー対健介。この4者はプロとして頭悪いと思ったね（山口）」このコメントがつまらないというより腹が立ちました。蝶野対ムタもライガー対健介もおもしろいと思った私は頭が相当悪いのかしら（青森県／佐藤義裕／19歳）2点

★佐藤さん、そんな半チクに怒るなって！　復活したのはクラッシュ2000。真ん中通るは中央線。そんな私は頭が相当悪井の頭線（脱線）。

●我が家も遂にスカパー加入。さっそくWWFを見ました。「ロックってどんな人？」「ロックデナシ（ろくでなし）」……なんちゃって（ため息）。すいま戦争。そんなこんなでしばらくハガキ休ませていただきます（欠場）。そのうち戻ります。お元気で（千葉県／神子佳世／高3）5点

★衝撃の欠場宣言！（not血尿）悲しいこと言わないで早く戻ってきてクレヨンしんちゃん（弱火）。

●橋本真也の新リングネーム！「ビデオデッキ（VHS）」、「橋本真也ーっ」（青森県／赤松亮）3点

★ビデオデッキ（VHS）はどうかと思うけど、橋本真也ーっはグーです（バレーボム）。ケロちゃん、頼んだゾーッ！

●「橋本真也34歳」が引退ってことで、椿三十郎もうすぐ四十郎みたいに「橋本真也35歳」で復帰。次は「橋本真也36歳」（横浜市／甲下雅也／30歳）2点

★中村カタブツ君（37歳）方式ってことですね。時代を先取りブチパワー（ウォリアーwith北斗）。

# 俺は久しぶりに怒ってる!

**本誌鬼畜編集長・山口日昇が前号の『紙プロ』に物言い！怒りの激白10分（抜粋）**




本誌鬼畜編集長山口日昇が前号のスモーノブがやったエンセン井上の記事を読んで大激怒しているというので直撃！「俺は久しぶりに怒ってる！　前号の53ページを見て欲しいんだけど、『映像を見れば立つチャンスがなかったのは誰もが認めるところである』という最後のシメ！　俺は別に立つ立たないを技術的に言ってるわけじゃなくて、普段、大和魂とかそれをウリにしているエンセンが、残り何秒かでも勝ちに行くという気迫を見せることはできたはずじゃないかっていうことを言ってるわけだからね。スモーの、エンセンのところに行ったらエンセンの言うことを聞いて、俺の前では俺の言うことを聞いてっていう、その半チクな姿勢が気に入らない！　行く前になんで俺がこういうことを書いたのか確認するのがジャーナリストとしての基本だろ！　まあアイツはスモー取りだけどね、ンムフフフ。あと自分が書いたんじゃないってことを必要以上にエンセンに言って逃げてるんだけど、それについてエンセンが『編集長の雑誌なんだし、あの試合でホントにワタシにムカついて、ああいう記事を書きたいんだったらそれでもいいよ。ただ、嘘ついて、「アナタを応援してるから」って言うなら気持ち悪い！　こういう記事を書いた』って確認したいヨ！』とか、ホントの気持ち、直接会って確認したいヨ！』とか、長々とエンセンの言葉を引用しているにも関わらず、なんで企画会議で俺とエンセンの対談なりインタビューを出さねえんだ！　ホントに俺は怒ってるよ！　スモーノブはやりっぱなし、出しっぱなし！　チェックをしようにも校了日に原稿ができてくるからチェックのしようがねえんです！　とにかく半チクな記事は書くなって！　エンセンのことをプロだなんだと言う前にお前がプロになれ！　こうなったら俺は『紙プロ』をやめて新しい雑誌を立ち上げる！　ということで、すいません」と言い残し、成田空港へと向かった。いったいぜんたいどうなるんだ？

（次号に続く）

（愛知県／負け犬ヒデポン）4点★読者ページ界のMSGと言われる『ハガキングオブキングス』に新顔が登場！その名も負け犬ヒデポン。頼りないペンネームだけど腕は確かです。




（愛知県／負け犬ヒデポン）5点★元祖「俺は久しぶりに怒ってる!!」のアントンが今度はエンゼルコスプレに挑戦!?　負け犬ヒデポンさん、これからも元気なイラストを頼むゾーッ!!

## ★ハガキングオブキングス★ オフィシャルランキング2000

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 青木雄大 | 136点 |
| 2位 | 塩本祐介 | 57点 |
| 2位 | 中川雅博 | 57点 |
| 4位 | アントニオ文朱 | 50点 |
| 4位 | ももぢ | 50点 |
| 6位 | 英加直純 | 49点 |
| 7位 | たっつあん | 46点 |
| 8位 | キャプテン名倉 | 43点 |
| 9位 | 松原怜美 | 35点 |
| 10位 | 大石剛 | 31点 |

**得点が欲しい人はどんどんハガキを出して下さい!**

『ハガキングオブキングス』では、皆様からの、ご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文などなど、読者からの熱烈投稿を待ってます。
すべての宛先は… 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス『ハガキングオブキングス』係まで。
合い言葉は「オラにちからを!」です。

マコちゃん**アリガトーッ!** おかげさまで

## シロウト勝ち抜き筆自慢!

# PRIDE.0 ゼロ

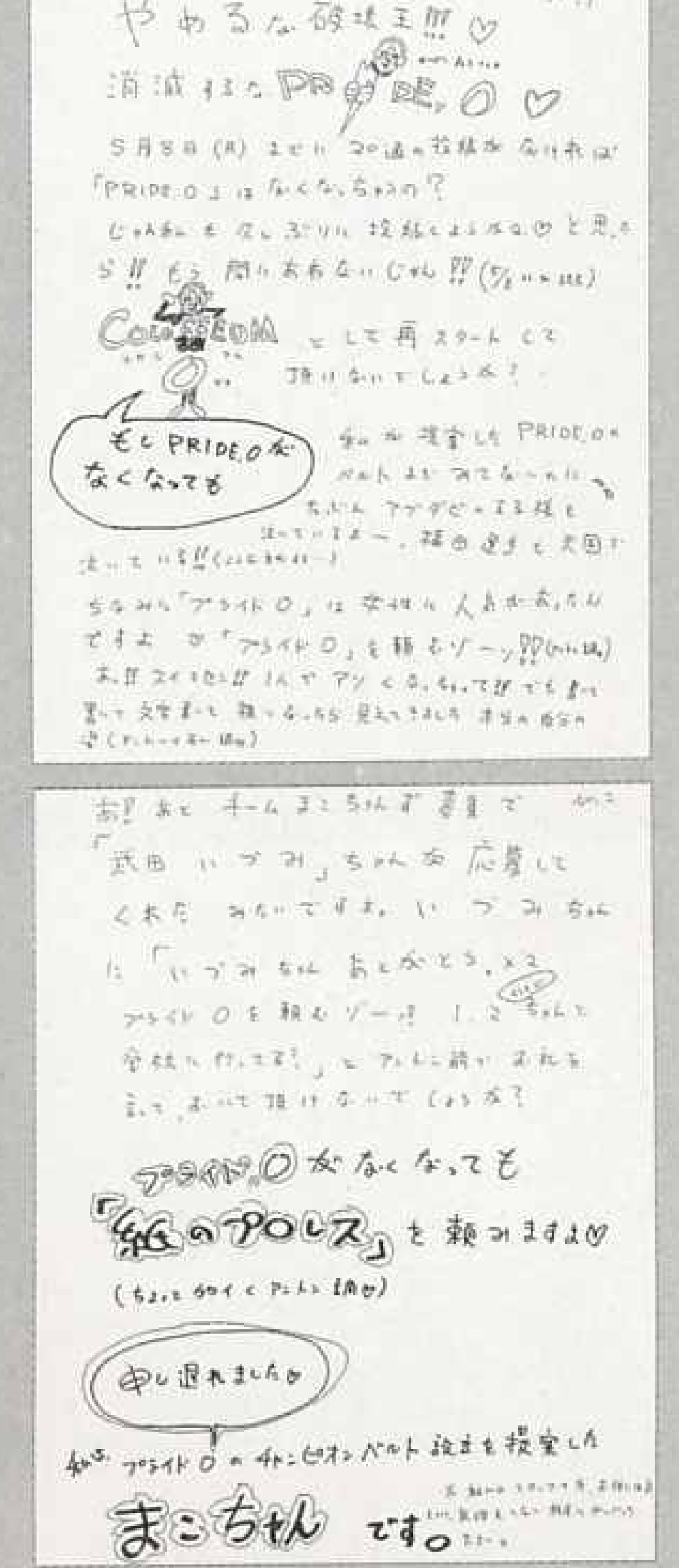
## 続行ーッ!!

**存亡の危機にあった『PRIDE.0』であったが、アントニオ文朱さん、柳沢諏訪郎さん、無軌道さん、トップヘビー5さん、山崎雅幸さん、浦野・ジーザス・ファーザーさん、吉岡泰平さん、関ん谷さん、市川修さん、ピストン富永、保田圭さん、ダイナミックTさん（2通）、村田卓実さん（2通）、還らざる時の終わりにさん（3通）、出渕“パパシャンゴ”誠さん、そして締切間際に、「『PRIDE.0』なくなったら痛いよ。『紙プロ』、雑誌生命やばいぞっ!! とりあえず5月8日までの20通突破の為の数の足しにして下はれ」という宮崎文子さんからの投稿で見事、20通クリアしました！ めでたしめでたし。とにもかくにも『PRIDE.0』リスタート！ 「ページ数減らしても続行して下さいネ♥何なら私が書きます!! 『PRIDE.0』ベルト設立提案者5段まこちゃん」。これでオッケー？**

## …というわけで今回は『PRIDE.0』

# 模範演文!!!

**▼やめるな！破壊王!!!**




**「PRIDE.0」初代殿堂娘**

**武田いづみ（19歳）**

## 『プロ』

「なぁ、コンベンションセンターの“コンベンション”って、どういう意味？」

幕張の地図を指して、英文科に通う学生の友達にきいてみた。

「え!? “コンベンション”!?」

「うん。受験のときに覚えたような気がするんだけど、なんだっけ？」

「そうだよねー、受験のときやったよね！」

どうやら、わからないらしい。話は「受験勉強の思い出」に流れていっている。

進学したりすると、進んだ先がその人の専門分野のように思われる。英文科なら「英語しゃべれるだろう」、国文科なら「文学作品たくさん読んでるだろう」、家政科なら「料理うまいだろう」などということを、周りは期待する。

だから英単語がわからない↓英文科にきけ、漢字書けない↓国文科にきけ、そういえば体調が悪い？↓医学部にきけ、となる。

そんなこと言ったって、学生は学生。質問されても、全て答えられるわけではない。それは学生に限らず、社会人でも同じことが言えるだろう。

それでも人は期待する。たとえば“コンベンション”という英単語がわからない状況で、周りに英文科がいたら、その人にきくのが近道のような気がするのだ。

ところで、「一億総プロフェッショナル」だと思うのだが、どうだろう。誰でも、絶対なにかのプロ。

私はプロのレスラーではないけれど、プロの学生ではある。あと、プロの女子。「誰でも、絶対なにかのプロ」というのは、「そう言えなくもない」ことで、ホントは絶対ではない。でも私は、そう考えると毎日の生活に、たやすく緊張感を出せるような気がするので、勝手にそう考える。

プロの学生を自称する以上、私（日文科）は周囲の期待にできる限り応えたいし、応えなくてはなるまい。

「好きな作家は？」の質問には、かるい能書きもまじえて答える、とか、熟語の意味をきかれたら即座に答える、とか。学校でそういう勉強をしているわけではないのだが。




プロって、自分のやりたいこと以外に、周囲の期待も引きうけていく人のことだと思う。

プロのレスラーが周りから期待されることってなんだろう。「酒」「女」「金」「ケンカ」等、ディープ（かつ重要）なものはおいといて、ごく簡単な期待って、「こわそう」「強そう」ではないだろうか。

ならば、テレビのバラエティー番組で芸能人をビビらせるプロレスラーは批判されるいわれはない。見ている人に「プロレスラーって、こえー」と思わせたら、プロなのだ。

よく、「○○はプロレスラーとは呼べない！」とか、「○○はプロレスラーなのか？」という意見を聞く。

しかし、「職業というのは、自称することから始まる」（©根本敬）のであって、「プロレスラー」を自称している人は、やっぱり「プロレスラー」なんだと思う。

ようするに、「プロレスラーか、否か？」なんてことは、この際どうでもいい。

「プロ」の「プロレスラー」なら、なおさら問題ねぇんです。

『PRIDE.GP2000決勝トーナメント』観た？

プロレスラーって、強ぇー。

**「PRI-DE.O」二代目殿堂夫人**

**真下純子（30歳）**

## 『ゴールデンウィーク』

**寝**っころがって・ゴロゴロして・固まっていた（by佐山聡）我が家のゴールデンウィーク。皆様はどうお過ごしになられましたか？

5月1日の『PRI-DE.GP決勝トーナメント』、PPVで拝見いたしました。桜庭和志選手対ホイス・グレイシー。一時間半もの試合という名の決闘、感動いたしました。

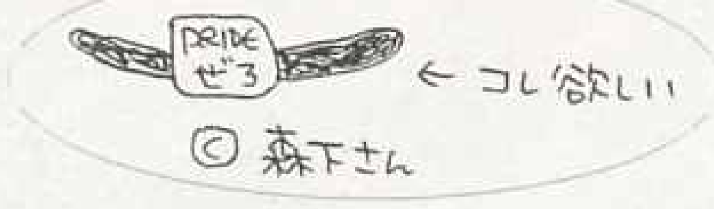
実はわたくし、桜庭選手と同じ昭和44年生まれです。

桜庭選手はわたしたち昭和44年生まれの星です。ほんとうにおめでとうございました。




さて、ここにひとりの男がおります。わたくしの学生時代の同級生・Wくんです。心優しく真面目な人柄で仕事の同僚や後輩の信頼も厚く、休日にはサーフィン等もたしなむ故・逸見政孝さんそっくりの爽やかな男性です。

健康そのものそうに見える彼ですが、実はこの数年間、とある病気と闘っていました。……痔瘻です。気丈に病魔と闘っていた彼ですが時が経つにつれ敵は手強くなるにも程がある成長を成し、自分の身体の一部とは思えない暴れっぷりに翻弄され疲れ果て、ついに4月27日、Wくんは手術に踏み切りました。ゴールデンウィークは丸々入院生活だったわけです。それでは寂しかろうと私たち家族と友達とでWくんのお見舞いに行きました。




小さい『紙プロ』時代、山口編集長は「他人に肛門を見られるっていうことは社会的な死も意味する」とおっしゃっていました。実際、場所が場所だけに診察や手術はまさにめくるめく恥ずかしさだそうで何度も何度も苦い涙を流したそうです。しかし、この涙を経て彼はわからずやの肛門との決別を果たしました。恥ずかしいやら痛いやらの激しい死闘の軌跡を語る彼の笑顔は、まさに勝利をもぎ取った（↑切除）勇者のそれでした。

泣いて笑って喧嘩して（肛門と）、Wくんは人生において持っていた損はない類の強さを身につけたと思います。これからはまっすぐ歩けますね。おめでとうWくん!!

……とここまで散々書いといて何ですが、この汚れ話とあの偉業を成し遂げた桜庭選手にいったい何の関係があるのだと皆様お思いでしょう。

実は偶然にもこのWくん、字こそ違いますが下の名前が「かずし」なのでございます。そう、桜庭選手と同じ「かずし」さんなのです。これが書きたいがために。

いい歳してやっていいことと悪いことの区別の付かないヒドイ女がいるもんでございます。

追伸・小路晃選手、コールマン戦お疲れ様でした！　最後まで決して諦めないお姿、感動いたしました。

---

**「PRI-DE.O」過去2戦出場**

ライセンスナンバー19

**出渕“パパシャンゴ”誠（25歳）**

## 『金原弘光を応援する会』

はじめまして。私は以前PRI-DE.0に二回ほど投稿させていただいた出渕パパシャンゴ誠といいます（清原とシヨーン船木についての文章でした）。PRI-DE.0がこのままでは消滅するというのを聞き、ついサボっていた筆をとることにしました。数々の名物読者や流行語を生み出したPRI-DE.0をなくすわけにはいきません！というわけで投稿します。

「**そ**の季節の旬のものを食べなさい」……そう雁屋哲が山岡士郎や海原雄山に言わせてるように、旬の人達は旬な時に見ておくものである。時間と金を費やしてでも。

過去の例なら、川崎球場でやった頃のI-WA JAPAN、最初のJ-CUP、凱旋直後の天山、凱旋直後の吉江（予想）……みんな旬な時はすごく脂がのってた。そして今旬なのは「PRI-DE」であるとかアブダビであるとか、まあそこに異存はない。でもしかし、今旬なのに漁師さんが獲りそこなったというか、農家の人達が収穫を怠っていたというか、それとも料理人が旬の素材なのに調理の仕方を間違ったとか、そういう悪運に見まわれたとしか思えない選手がいる。



金原弘光である。

食べられないのは金魚だから（弱火）ではないよ。彼は今旬なはずなんだよ。KOKでは優勝者のヘンダーソンに僅差の判定負け（そしてグチ）アブダビでも一回戦で対戦した相手が優勝（観光気分で行ったくせにグチ）、エンセン、桜庭、田村にもその実力を買われながらもブレイクしてない（さらにグチ）。まあそのグチも悲壮感がまったくないのが彼のいいところ。ビッグマウスにも聞こえないし。なんかだだっ子みたいでほほえましいでしょ。

Uインターというある意味人材の宝庫で揉まれ、新日との対抗戦でもふてぶてしく闘いリングスで世界の強豪にも勝っている（ナイマンにも勝ってるんですよ～）なのに、ツメが甘い（byドラゴン）のかアンラッキーなのか？明らかに今が旬な選手のはずなのに！だーれもおいしく食べれてないよ。KOK優勝してたかもしれんし、アブダビだって……。

でも、いまの総合格闘技ブームはバンドブームに酷似している。あの頃新人バンドが山のようにデビューし、そして消えて行った。今でいうと、世界のVT系の大会でちょっと活躍した選手をこれぞ本物とばかり日本の大会に呼びつけて負けるとそれっきり。いわゆる総合の青田買い。これってバンドブームそっくりだ（どこがブエノを呼ぶ？）。




しかしその中でブームのさなか苦汁を味わい、後になって本物と評価され成功した人達もいる。似たような例として、お笑いでは爆笑問題、俳優では堤真一、野球ではドラゴンズの関川（あ、ノーフィアー大森もそうかな、遅れてブレイクしたし）など。

というわけで金原に言いたい!!　あんたはマット界のブランキージェットシティになれ!!（エレカシでも可）。見た目は置いといて……。今さんざん苦汁をなめろ！　そしてブームが去ってから本当の最強は誰？ってなったとき必ず金原の名が出てくる！　いつか評価される時が来る。今は笑ってグチだ。「ジェレミー（ホーン）とやってなかったら、ヘンダーソンに勝ててたよー（笑）」って、それも神様の演出だ。

そして総合格闘技界にはニコニコのサク、うどんの田村、ヨガの船木、ボヤキの金原と役者が勢揃い。まさに三者三様。金原よ、お前はボヤキ格闘の第一人者でもあるのだ。アブダビ王子（竹内宏介）もマリオ・スペーヒー（デイリー宮本記者）もやっつけろ!!

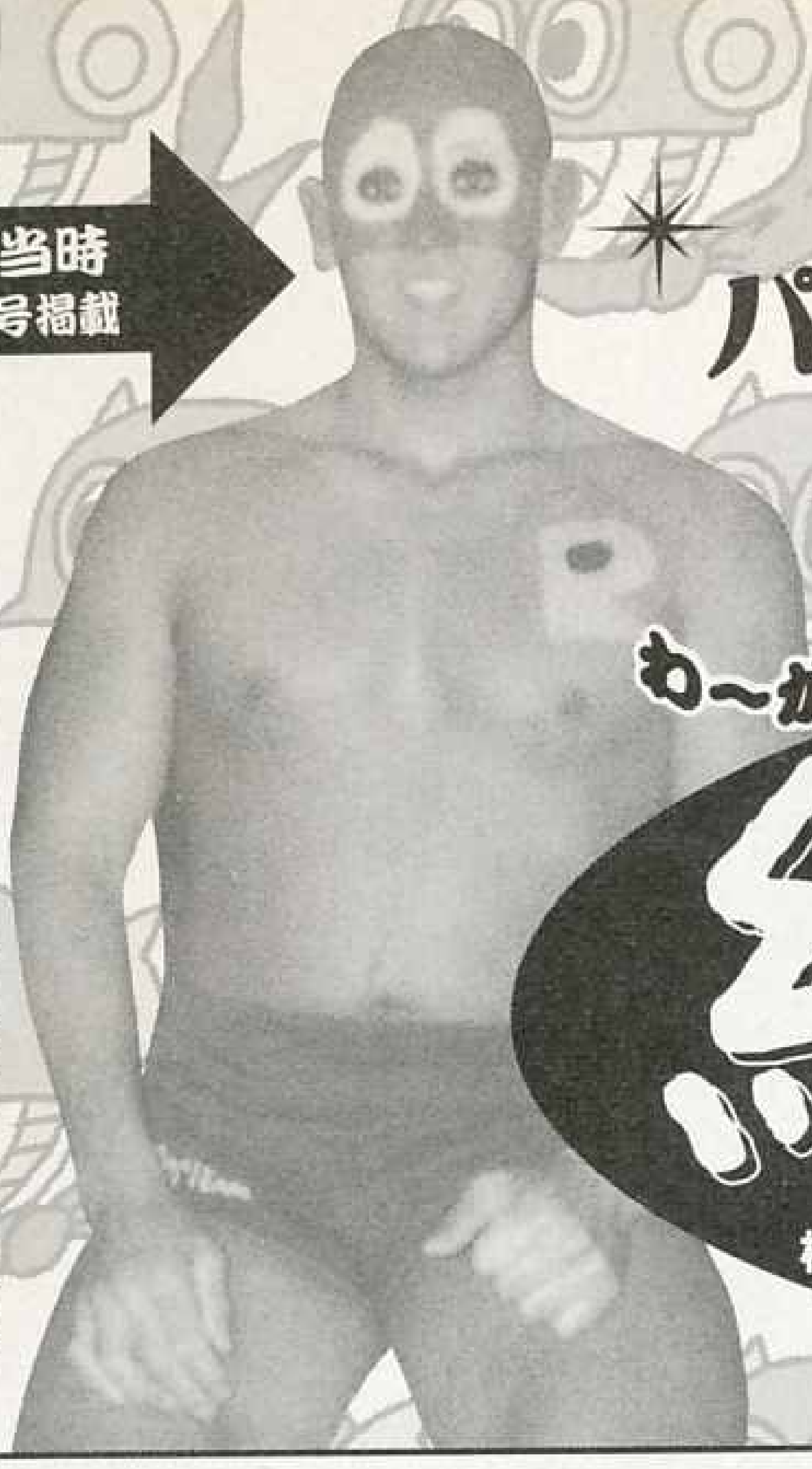
---

**今**回の『PRI-DE.0』見本演文はいかがでしたでしょうか？　さすがは殿堂娘＆殿堂夫人＆常連外人？って感じでしたね。さて今回のリスタートから『PRI-DE.0』のルールを大幅に変更したいと思います。これからは従来の勝ち抜き制を廃止し、面白い作品だけを掲載していきます。それが、**ディス・イズ・プライドゼロルール！**　もちろん掲載された方には素敵な賞品を差し上げますので、皆さんふるって応募して下さい。応募方法は400字詰原稿用紙に一言～5枚程度（内容はマット界関連のことなら何でもあり）、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（イラストでも可）を同封の上、

**〒151-0051**
**東京都渋谷区千駄ヶ谷**
**3・11・3・702**
**ダブルクロス『紙プロ』編集部**
**「クリス・どおくまん」係**

ただし、ページの都合上、文章を一部カットすることもありますのでご注意を！

●締切は6月10日（消印有効）



'95年当時
本誌17号掲載

▶デビューの日を待つ藤原組の若手選手



'98年当時
RADICAL12号掲載

シャムロックには負けてしまったが
立ちあがれ、アレク!!

プロレス界の救世主・アレクサンダー大塚が
**パーマン**だった頃、**紙のプロレス**は小さかった…

わ〜かるかなぁ〜? わ〜かんねぇだろ〜なぁ〜♪

…というわけで

# 紙のプロレス本誌

## 松鶴家千歳風 バックナンバー通販のお知らせ



**第5号**
**★特集「たたかいグランプリ」**
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



**第8号**
**★特集「さらば新日本プロレス」**
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



**第11号**
**★特集「狂気とは何か?」**
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



**第12号**
**★特集「色気とは何か?」**
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場



**第13号**
**★特集「道場破りとは何か?」**
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



**第14号**
**★特集「神秘とは何か?」**
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



**第15号**
**★特集「インディペンデントの逆襲」**
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



**第16号**
**★特集「新日本凸凹大学校」**
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談



**第17号**
**★特集「実況パワフル北朝鮮」**
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」



**第18号**
**★特集「高田延彦さんへ愛をこめて」**
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



**第19号**
**★特集「さようなら紙のプロレス」**
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



**第20号**
**★特集「劇的格闘技」**
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



**第21号**
**★特集「幻的格闘技」**
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場



**第22号**
**★特集「この人が喝っ!!」**
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号



**★猪木とは何か?**
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃! どうってことねぇよ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場! 新間のPKO発言を誌上再録



**★パンクラス公式読本**
**〜矛〜**
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



**★パンクラス公式読本**
**〜盾〜**
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



**★極真とは何か?**
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



**★紙の前田日明**
**〜インタビューという名のエネルギー史〜**
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

### 伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊〜4冊=450円、5冊=520円、6冊以上=700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

**[現金書留送り先]**
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

**[郵便振替振込先]**
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。絶対おつりのないようにお願いします!

ジャイアント馬場＆アントニオ猪木、
全日分裂騒動、長州力、
そして二人のプロレス観まで
大いに語りまくりの60分1本勝負！



国会議員と大学生が初遭遇！

# 馳浩×大仁田厚

## マット界 午後は○○おもいッきりTALK

プロレスラー兼参議院議員・馳浩。プロレスラー兼大学生＆タレント・大仁田厚。かたやエリート、かたや邪道。これまで正反対の道を歩んできた2人ではあるが、両者にとっての「プロレス観」「全日本プロレス＆新日本プロレス」「ＢＩ砲」「長州力」等々、語ってもらいたい共通のテーマは山ほどある。ポカポカ陽気の昼下がり、参議院議員会館からお届けする「午後は○○マット界おもいッきりTALK」スタートです！

進行＆構成／チョロ
text by Choro

撮影／黒田史夫
photographs Fumio Kuroda

●馳浩選手は取材時は参議院議員であったが、後日、次期衆院選にくら替え出馬のため辞職した



ありそでなかった夢の２ショットが実現！「馳さんには国会では邪道だって言われて欲しいね。どうせやるんだったら最大派閥を作って大統領かなんかになってよ（笑）」と邪道流エール。

**大仁田**　（テーブルに灰皿を置く馳を見て）あれっ、ここはタバコ吸っていいんですか？

**馳**　いいですよ。全っ然大丈夫ですから。俺もバカバカ吸いますから（笑）。

**大仁田**　そういえば馳さんはキャバクラも行くらしいじゃないですか？

**馳**　行かないって！（笑）。

**大仁田**　誰か言ってましたよ。

——黒須田（『プロレス激本』編集長）さんじゃないですか？

**馳**　違うよ！　黒須田が俺にキャバクラの相談をしてんだよ！　俺は行かない（笑）。

**大仁田**　行かない？　「うわぁ～、議員もキャバクラ行く時代かぁ」って思ってたのに。

**馳**　ハッハッハ！　今日はお忙しいところ、わざわざこんなところまで来て頂いて。

**大仁田**　あんまり好きじゃないところですよ。ホントは来たくなかったから（苦笑）。

**馳**　もう慣れましたけど、ネクタイ締めて仕事なんて、やったことないじゃないですか。

**大仁田**　でも、ハマってますよね。

**馳**　そりゃ、５年間もやれば、それなりには仕事させてもらってますからね。

——お二人は、いままで、ちゃんとお話しする機会っていうのはあったんですか？

**大仁田**　不思議となかったねぇ。（馳の身体を見て）まだまだいい身体してますよね。俺の方がいい身体してねえじゃん（笑）。

**馳**　やっぱりね、いくら忙しくても１日30分～１時間ぐらいは時間取れますから。皇居の周りを走ったり、官邸前の坂道をダッシュしたり、スクワット、腹筋、背筋ってやってますよ。汗流さないと頭がクリアにならないんですよ。俺はそういうタチだからね。

**大仁田**　それはわかるなぁ。これは聞きたかったんだけど、なんで全日本に入ったの？

**馳**　馬場さんが拾ってくれたんですよ。

**大仁田**　新日本は拾ってくれなかったの？

**馳**　新日本からアドバイザリー契約として月20万頂く代わりに、スカウトしたり新弟子を育成したりすると。お互い納得して契約をしたんですよ。試合をする時は、３ヶ月前に会社と本人の協議の上、ギャラも決めて、対戦相手についてもお互いに譲歩しながらやりましょうと決めたので納得したんですよ。国会開会中に出たらヒンシュク買いますから、閉会中ってことになると１月か７～９月、その間で出ましょうかって話し合いがあったにも関わらず、強引に私の知らない間に引退試合が決まったんです。「それはおかしいんじゃないか？」ということがあって。でも『引退試合』って表に出てしまったから、そこで俺がゴネても１回報道されたことを覆すとなると、プロレスの社会に傷がつくから……。

**大仁田**　あっそう。誤解してた部分もあるなぁ。じゃあ、謝っとかないといけないね。

**馳**　いやいや（笑）。だから俺は、アドバイザリー契約が切れるまで一切不平不満は言わなかった。そしたらその三日後に馬場さんが「会おう」と言って下さって、会ったら「どうなってんだ？」って言うから「契約は切れました。私は許して下さるんならば、馬場さんとご一緒したいです」。「金はいくら欲しいんだ？」。「おまかせしますが条件があります。道場を使わせて下さい。それと国会開会中は試合に出られません。この二つが条件で、あとは決めて下さい」って、それで二回馬場さんに会って、三回目に三沢選手とか、小橋選手、川田選手、和田（京平）さん、潤さん、みんな呼んで「こいつらがみんな『いい』って言ったらいいよ」って馬場さんが言って、みんなも「いいです」と。そこで「よしわかった、じゃあよろしく」ってなって入ることになったと。だから、馬場さんは馬場さんで筋を通して下さった。僕は僕で、そのあと全日本プロレスに入りたいと思ってはいたけれども、契約が切れる前から「お願いします」とは一言も言ってないの。それが事実なんです。


**大仁田**　ほぉ～。そういうことだったんだ。

——大仁田さんは、どう思ってたんですか？

**大仁田**　俺？　俺もいろんなもんを掛け持ちでやってる部分あるけど、ある種新日本の体制的な被害にあったんだなって思ってた。そういう中で渦の中に巻き込まれる、そこに組み込まれることが嫌になったと。それとともに、他のことを勉強したくなったのかなって。馳



**タバコ吸っていいですよ。俺もバカバカ吸いますから（笑）**



## どうなんですか？全日本はホントに分裂するんですか？

さんは地位を確保しに行くようには見えなかったからね。猪木さんが参議院に出た時は、そう見えたけどね（苦笑）。

**馳**　新日本プロレスにいれば毎月20万くれるわけだし、スペシャルでいい扱いもしてくれるんでしょうけど、新日本プロレスの1月って東京ドームしかないじゃないですか。それを考えると、新日本プロレスのいままでの仲間の中で試合をしていくよりも、自分の場所を全日本プロレスに置き換えた時に、巡業に出て小橋、三沢、川田と闘うってことの方が凄く魅力を感じたんですね。お金は別にどうでも良かったんですよ。

**大仁田**　でもファンの見方からすると「なんだ、議員がやってんじゃねえか」って、俺もそうなんだけどさ。新日本プロレスのファンからすると「お前はタレントやったり、あっちゃったり、こっちゃったりしてるだろ」って言われるけどさ。だから、そういう部分では立場が一緒かなっていうのはあるよ。

**馳**　それはね、簡単なことだなって思ってんの。リングに上がって動けば、すぐわかるんだから。1回目は許してくれるからね。ただ、2回続けてファンに「あんな身体でリングに上がりやがって」とかね、「しょっぱい試合しやがって」とか思われたら、これは静かにリングを降りないとね。練習して、いい試合していけば、参議院議員でもね、ただの一レスラーとして、全日本プロレスでいままで試合したことないような選手と試合ができるってことがワクワクするなって思ったんですよ。そしたら馬場さんは前座の第一試合からやらせてくれたわけでしょ。それで「この程度できるんだったら中堅と当てよう、外人と当てよう」って少しずつグレードを上げてってくれたから。最初、馬場さんの前でまず受身取って見せましたからね。前受身、後受身って（笑）。「お、できるじゃないか！」とか言われて。そういうことをやってくれたおかげで、馬場さんは自分のことを一レスラーとして見て判断して、それを他の選手に伝わるようにやった上で、馳の能力がわかれば上の試合で使うと。駄目ならば使わないと。

**大仁田**　馬場さんは周りに気を使ってそうやって順番立てるとこあるから。でもさ、全日本がさぁ、いま大揺れに揺れてんだけど。

――分裂の噂はなかなか消えないですね。

**大仁田**　ホントに分裂するんですか？

**馳**　わかんないですねぇ（苦笑）。

**大仁田**　どっちにつくの？

**馳**　えっ、俺？（笑）。

**大仁田**　三沢派ですか？

**馳**　俺はね、全日本プロレスのリングの上と、経営ってものと、両方ともニュートラルな立場じゃないですか。一員ですけども、契約書にサインしてないんですよ。馬場さんとの口約束でいままで出てるから。だから、全日本プロレスの一員としてニュートラルに見てようと思ってる。確かに三沢選手とも話しました。ここに（馬場）元子さんが来て、ゆっくり二人で話しました。僕は会社の経営ってこと考えれば、株主もおり経営陣もおり、どういう風に会社を運営していくか、テレビ局とはどういう関係を持つか、リングの中はどういう風に企画をし発展させていくか、新しい商品、選手をどうスカウトして、あるいは、いい選手をリサイクルして使っていくか、外人選手をどう使っていくかってことを株主と経営陣が腹を割って話し合った上で、どうしていったらいいか。それを最初に社長自ら自分の言葉でみんなを納得させていけば全てうまくいくと思ってるの。いまはその努力がちょっと足りないんじゃないかと思ってる。

**大仁田**　非常に難しい問題だよなぁ（苦笑）。

**馳**　でも、俺が喋ったこと聞いて大体わかったでしょ？

**大仁田**　俺はさ、流れがわかるからさ。どうしても馬場さんからの流れがずっとあって、三沢選手があれして、どうのこうのっていうのがわかるからさぁ。それに対して口も出したくないし出せないからね。やっぱりファンっていうのはさ、三沢選手とか新しい全日本も応援してるけど、馬場さんが作った全日本プロレスを応援してる部分っていうのは非常に大きいから。変な形で別れるのは、時代の流れで、しょうがないのかもしれないけどね。

**馳**　俺はね、しょうがないとは思わないんですよ。もっと、とことんぶつかって、罵り合って、喧嘩してでもね、うまくやらなきゃいけないと思うの。

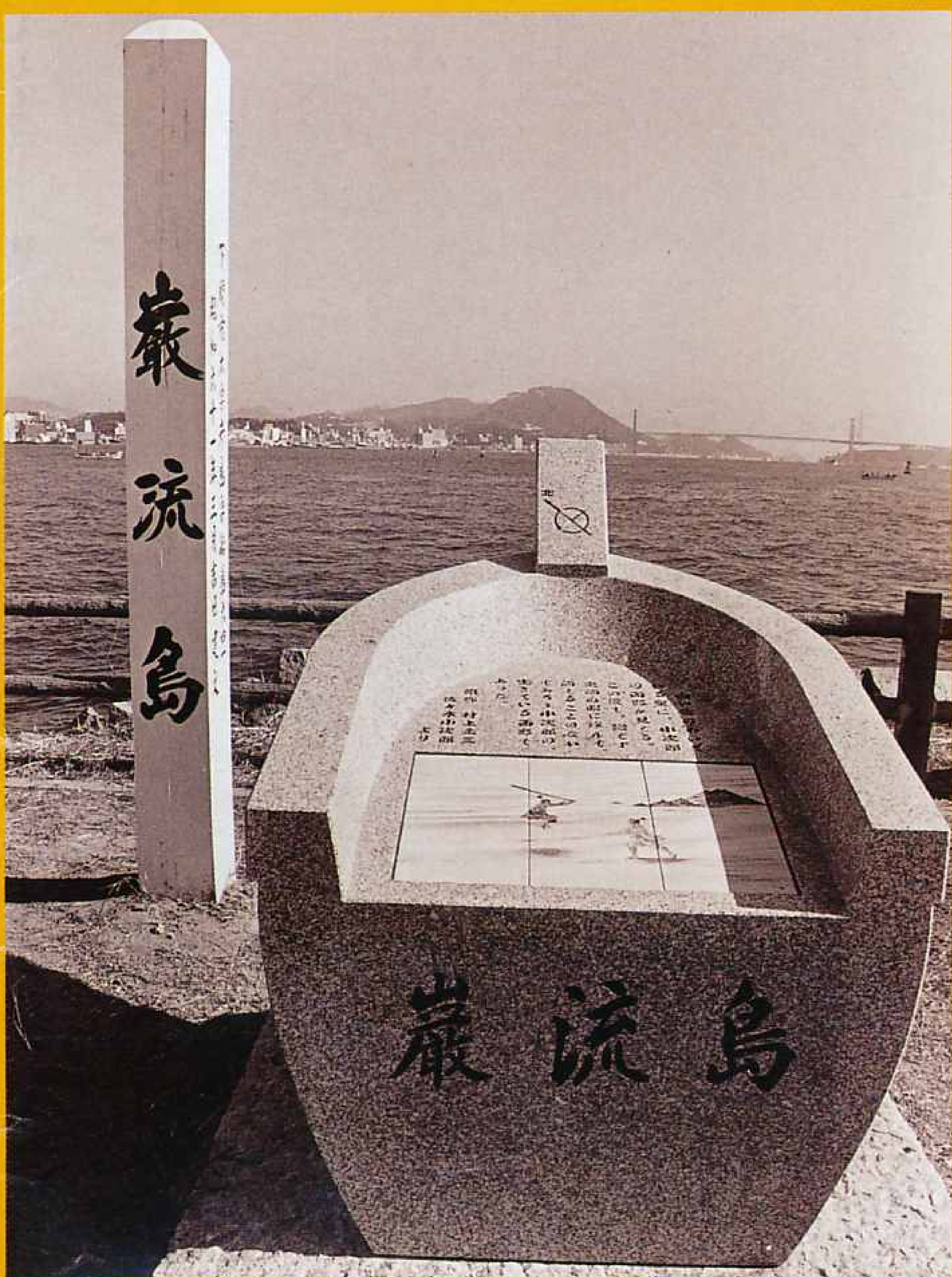
**大仁田**　罵り合うとね、根に持つから。俺はそういうこと言えないけどさぁ。これは男と男の話し合いとは違った深い部分があるからさ。読者もわかると思うけどさ（苦笑）。かたやね、（株を）持ちすぎてるから。持ってる人間と、持たない人間との話し方とかって違うわけですよ。馳さんから言わせると「大仁田、羨ましいね」って言うかもしれない。けど俺は俺でさ、背水の陣をいっつも構えてるわけ。「いつ売れなくなるだろう？　いつダメになるだろう？」って、常に危機感を持ちつつ闘い続けてるわけですよ。いろんなことに挑戦したり。それが面白いから、この業界から脱けきれないっていう部分もあるだろうし。

**馳**　そこですよ。俺はハッキリ言えば、三沢選手が自分のやりたいことを自分の手で全てやりたいっていうんであるならば、自分でスポンサーをつけるなり、テレビ局を使うなり、自分で選手を抱えて育てるなりする体制を整えてやればいいと思うし、そうではなくて、

馬場さんと、株主である元子さんと、日本テレビと、全国のスポンサーの皆さん方と、プロモーターとうまくやっていきたいっていうのであるならば、まさしく罵り合ってもいいから、一致点を見出してうまくやっていくと。そういう部分を見せないで、ファンの人に「さすが馬場さんだ。こんな素晴らしいスターたちを残していったんだ」っていう形でやって欲しいね。二つに一つしかないと思うんだよ。自分の思う通りに三沢選手がやりたいと言うんであるならば、自分で全てをやって独立するなり、あるいはたった一人でやっていくなりすればいいと思いますよ。

大仁田　ただね、可哀想なのは、ファンに元子さんを裏切った形にとられると三沢選手がヒールになるっていうかさ、悪役になってしまう部分っていうのは多少なりともあるわけだよ。それを自分で拭い去ることができるかって問題もあるわけよ。絶対そうだもん！　何の理由を立てても、どんな正論を吐いても。






巌流島といえば、長州力との決戦の舞台として大仁田がブチあげ視察に訪れたのが記憶に新しいが、馳にとってもタイガー・J・シンと血まみれの死闘を繰り広げた思い出の地である。果たして大仁田が再び巌流島へ足を踏み入れる日は来るのか？

## （今回の騒動は）全日本の一員としてニュートラルに見てようと思ってる



馳さんは「一致点を見つけてやっていけばいいじゃない」って言うけど、ある程度「これが真実なんだ！」ってことを突きつけても、悪役になるのはしょうがないと思うよ。

馳　行動したら、その姿をみんなが見てるわけだからね。

大仁田　でも、歴史の中でそうじゃないですか。猪木さんがいてどうのこうの、反体制が出てきた、ゴチャゴチャした世界があった、俺たちが新時代を築きたいって、馳さんたちもやったわけじゃないですか。それで猪木さん支持派もいたし、そちらの支持派もいただろうけど、その中でさ、葛藤しながら時代を生んでいくわけじゃないですか。これは自然の流れだと思うし。その中で、「自分だけきれいでいよう」と思ったら、三沢選手もダメだと思う。その中で泥まみれになりながらも、自分を確立するしかないよね。いままで泥まみれのタイプじゃなかったから。

馳　実際にこれからの行動が、リングの上でい



# 猪木さんがカムバックしてさ、橋本、小川と闘えばいいんだよ

い方向に向いて行けば、どちらを選ぼうともファンはついて行くと私は思ってるんですよ。リングの上が充実していればね。

**大仁田** でもね、馬場さんという偶像を描いているファンは一回は引きますよ。それを遠目で見て、これは良かったんじゃないかって思ったら戻って来る。その戻って来るまで耐えられるかどうかのせめぎ合いだと思うね。俺の知ったこっちゃないんだけどさぁ（苦笑）。

――やっぱり大仁田さんにとって全日本は古巣なだけに、見たくない部分もよく見えちゃうってところはあるんですか？

**大仁田** ていうかさぁ、プロレスと格闘技を一緒にする時点で間違ってるから。K-1とかなんとかと同じ雑誌に載せる自体が間違ってんだよ。分けろよ、そろそろ！

――いまの新日は、格闘技路線とエンターテインメント路線が同居してますけど、最近は格闘技路線に力を入れ始めてますよね。

**大仁田** だってさぁ、過保護な親父がいてさぁ、小川とか橋本とかも、「オイオイ、親父の言うことだけ聞いてさぁ、いまの時代に合ってねえだろ！」って感じだから。それを応援したらいかんだろう、みたいな。いつも親父がいるんだもん。いっつも親父の言うことだけ聞いてさぁ。だったら、もう一回猪木さんがカムバックしてさ、橋本、小川と闘えばいいんだよ。その方が面白いかもしんねぇよ。「親父を乗り越えろ！」って（笑）。それが嫌で馳さんとかは出て行ったんだろうからさぁ。

**馳** いや、俺が辞めた理由は、さっき言ったことが全てだから。ただ、自分で自分をプロデュースしたいなって部分はある。政治家にならなかったら、新日本プロレスの中にいて、若いのをスカウトして、いい選手を育ててね、リングの上での道を譲りながら、組織が円満に行けばいいなっていう役割を中間管理職として一生懸命やってました。その方が俺の性格にも合ってるし、それでいいと思ってましたけども、いざ自分がこういう立場になって、「プロレスラーとして、どこまでできるのかな」って考えた時に、やっぱり自分の可能性を見つけたかったんですね。そうしたらもう、橋本、武藤、蝶野、健介とはさんざんやったから、「古女房となんとか」って言うけども、新しい女性に行ってみたいなぁという（笑）。

**大仁田** だからキャバクラ事件が発覚するのよ（笑）。ホントにまだ行ってないの？

**馳** 行ってないっちゅうの！（笑）。その黒須田って奴に「要は擬似恋愛だろ？」って言ったら凄え怒ったんですよ。「なんで怒るのかな？」って思ったんだけど、話を聞いて、なんとなくわかるようになってきたんです。でも大仁田さんもそうでしょうけど、ほっといてもそこそこモテるじゃないですか？

**大仁田** 俺はモテねえよ！（笑）。

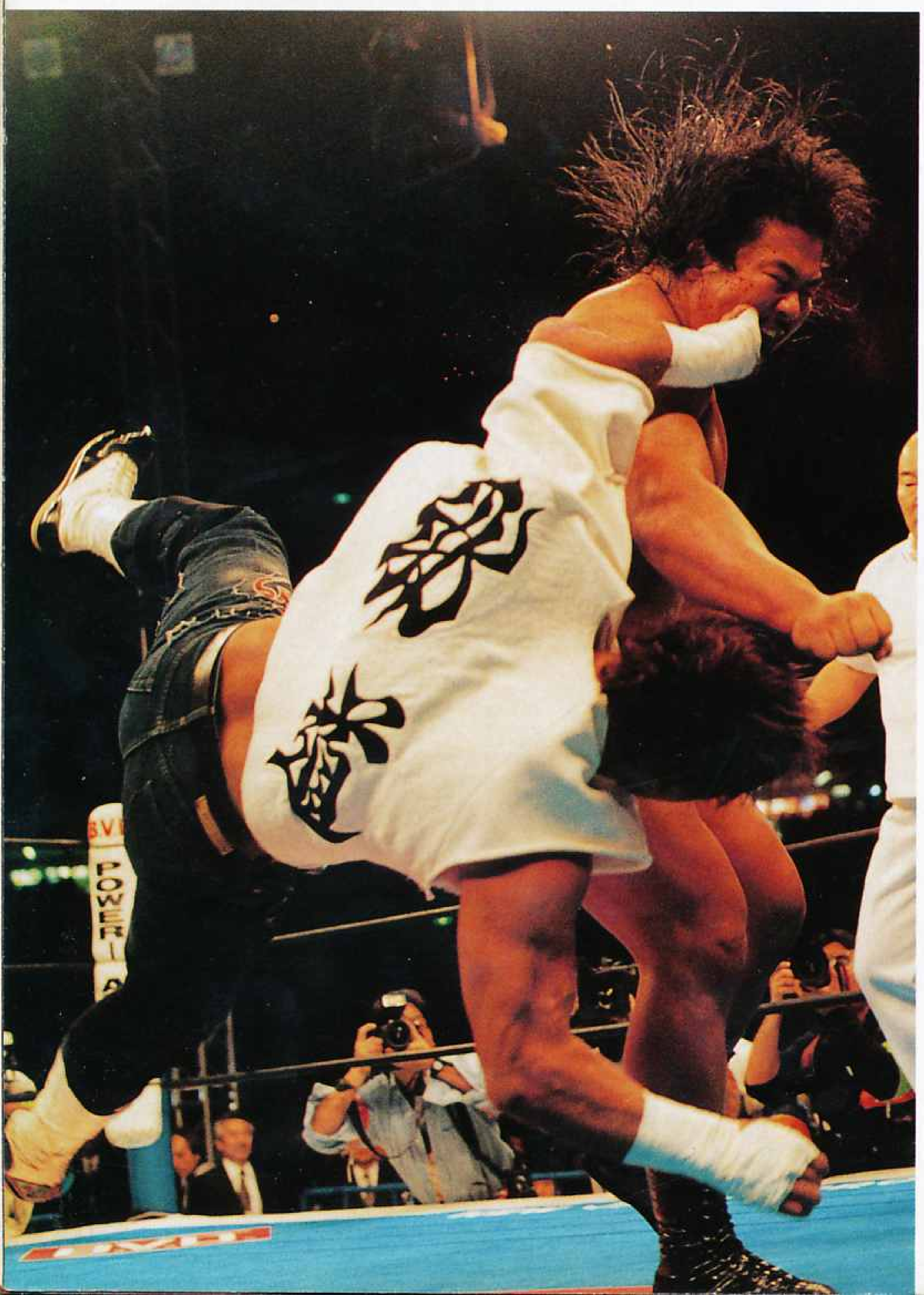
**馳** いや大仁田さんはどう見てもモテますよ。でも本人がそう思ってないとするならば、やっぱりスパーリングする場所が必要なんじゃないかと（笑）。キャバクラの女の子にバレンタインのチョコ貰ったとか、電話で誘ったとか、焼肉食いに行ったとか、そういうワクワクしたときめきをお金で求めてるんですよ。

**大仁田** 俺はお金が絡むと、ときめきがなくなっちゃう派だよ。

**馳** それを追求すればするほど、「お金を使わないと、恋愛は体験できないのか」っていうことにブチ当たるんですよ。そうなった時に、いままでのスパーリング、あるいはそれに使ったお金が生きてくると思うし、本当の恋愛の場所としては、キャバクラはあってもいいのかなと。じゃあそこはどういうところなのか、見に行きてえなとは思ってるんですよ。

**大仁田** だけど、俺たちが思うより、キャバクラとかで働いてる女の子って、もの凄くドライで金銭に対して割り切ってるからね。

**馳** その辺は女の子の方がプロだからね。だから、男の方が情報に翻弄されて、本当に自分



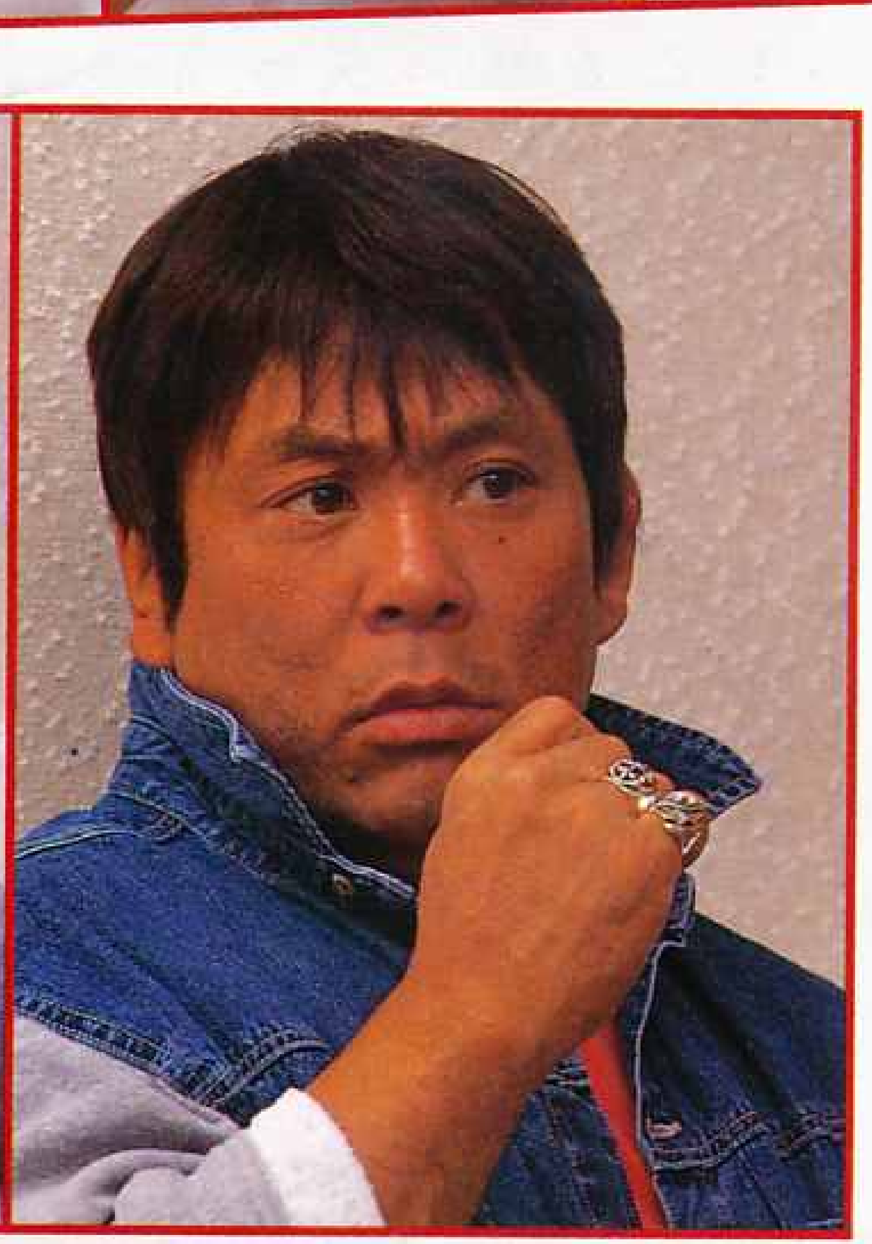
大仁田　ただ、感じるものはあるんですよ。

馳　全日本と新日本、両方経験して、受身は全

# 三沢選手が自分の手で全てやりたいっていうならやればいいと思う







は一人の男として女を愛するとか、自信を持って対人関係を築くことができない奴が多いってことがキャバクラが流行る理由なのかなって分析してるんですよ。でも俺は自分の目で見たり経験したことじゃないと信用しないタチだから、一回行ってみたいなって思ってるんですよ。一緒に行ってくれる？（笑）。

大仁田　なんで俺が一緒に行くんだよ（笑）。でも、それは確かに体験しないと語れないし、体験は大いなる財産じゃないけども、やっぱり新聞読んだりさ、ニュースで見たりしても、もの凄く架空のものじゃない。事実なんだけど、自分の中で自分が体験したかのように話す時があるんだよね。

馳　報道はね、他人の伝聞を聞いた上で、「こういうものだろう」という固定観念で話をしてしまいがちじゃないですか。だから俺も大仁田さんの試合は一回も見たことないし、肌を合わせたこともないし、話をしたこともないから、もし試合したら凄え批判するかもしれないし、凄え尊敬するかもしれない。でも、やってもいないのに相手のことをどうのこうの、なんで言えるのって思う。

大仁田　それが闘う理由なんですよ。長州戦もそうだし、新日本に上がったのもそうだし。インディーを批判する前に、インディーの奴と闘ってみてから言ってみろって。

馳　肌を合わせないとね、汗の匂いとかね…。

大仁田　俺はほとんど選手に触らないタイプですよ。ガハハハ！　だって火投げて「オイ、オイ、オイ、新日本プロレスファンよぉ、オイ、お前らこんなもんで反則負けか」って。自分でも「当たり前だろ」みたいな（笑）。

馳　俺は一回しか長州さんと試合してないですし、猪木さんとも一回しかしてないですけど、もの凄く大きいものを肌で感じましたから。やっぱりその体験は凄え財産ですよ。

大仁田　やっぱり違うんだね、対極なんだよね。対極なんだけど、真面目なプロレスラーと、ほら学校によくいる学級委員みたいなタイプ。俺はどっちかって言うとはぐれ者なんだけど、悪い奴じゃないんだぜ（笑）。たぶん教室でもあんまり話しないんだよ、馳さんと俺っていうのは。だけど、どっかで共通の部分があるかなっていうのはあるよね。ただ、それが常に友達関係でいられるかって言ったら、いられないみたいな。一生ダメなんだよ。

馳　俺はプロレス界に入って、まだ大仁田さんほど長くないですけど、ハッキリ言って俺、友達一人もいないんですよ、プロレス界に。俺、それは良かったなって思ってんですよ。

大仁田　俺もいないですね。

馳　こういう言い方しちゃ悪いけど、俺は凄えプライド持って仕事をしてると思ってるんですよ。だから、友達だとか仲いいとか、それはちょっと違うんじゃねえかなって。仲よしこよしでやってんじゃないんですよ。そういう意味では、大仁田さんとこうやって会ったとしても、心から理解して友達になれるかって言ったら、なれないですよ。

# 馳さんと俺は友達関係でいられるかっていったら、一生ダメなんだよ（笑）



**大仁田**　ただ、感じるものはあるんですよ。

**馳**　友達になろうとする必要は全然ないんですよ。俺は、ひとりひとりの生き様がね、リングの上にどう出るかっていうのが全てだと思ってるから。だから新日本プロレスにいた時も、誰も友達とは思ってないし、全日本プロレスに行っても、誰一人友達とは思ってない。けれども、みんな新弟子の頃から苦労してやってるっていうのを目の前で見てるから、全員を尊敬してますよ。「こいつらと試合できるなんて嬉しいな」と思って。

**大仁田**　でもね、俺は否定もパワーだと思うから。全日本で育って全日本でやってきたことが、いまになって凄く役に立ってると思うし、ラリアット受けたっていまだに怪我しないのは、そのおかげだと思うしね。なんだかんだ言ったって、受身はうまいから（笑）。

**馳**　全日本と新日本、両方経験して、受身は全日本の教え方の方が全然いいですよ。

**大仁田**　受身を重要視するからね。半年間ぐらい受身取らされて辞めようかなって思ったけど（笑）。でも、そういう部分では全日本で受身を教えてもらったっていうのは自分に染みついてるんだよ。俺、怪我しねえだろ？

―傷はただごとじゃなく多いですけど（笑）。

**大仁田**　気をつけてもらいたいのはさ、受身っていうのは基本だからさ。柔道でもそうじゃない？　勝たなきゃいけないわけだから、勝とうと思えば受身は必要ないわけだよ。じゃあなんで受身を取るかっていうね。乱取りで投げられた時に我慢しないで受身を取っちゃうみたいな時ってあるけどさ、それが八百長なのかって論じるとさぁ、じゃあプロレスは技を受けたら八百長なのがって話になるけど。そういう問題じゃないんだよ。そういうのを取り払ってさ、ある種のプロレスっていう確立したものを作っていかないと、21世紀もだんだん狭まってきてさ、わけのわからない世界になってくるよ。そこに格闘技を持ってきたらさ、プロレスラーはそこそこ対応できるから面白いよ。面白いけど、猪木さんみたいなことやってると、逆にプロレスの色がなくなっちゃって、全部格闘技色に染まっちゃうからな。蝶野選手とか武藤選手なんて、いまの立場は可哀想だしさ。

**馳**　いや、ルールが違うだけの話なんだよね。俺が全日本プロレスと新日本プロレスで覚えたプロレスのルールと、格闘技のルールは違うんだから。プロレスラーは世界最強だって言うんならば、格闘技のルールで試合して、勝てばいいだけの話。俺はレスリングでも全日本チャンピオンになって、オリンピックまで行って、世界のトップレベルでやってきたから、それはそれで、やり終えたっていうのがありますからね。でも、それを乗り越えたプロレスの凄さっていうものがわかったから、プロレスが面白くなったの。

**大仁田**　俺もプロレス好きですよ。だってね、こうやって正統派と呼ばれるレスラーがいて、俺みたいな対極なレスラーが存在するわけじゃない。それでもプロレスという広い世界の中でさ、多少の言い合いはするかもしれないけど、存在してるわけじゃん。プロレスの奥の深さっていうのはさ、俺はある種、人生の縮図みたいなところがあるから面白いし、残すべきものだと思うけどね。そこに人情があったりするわけだよ。それで、ほのかに友情が成立したりするわけじゃない？　男と男が汗をかいて抱き合ってさ、「いいじゃねぇか、こういう世界があってもよ」って。

**馳**　ホントにね、ぶつかり合って初めてね、理解しあえる部分もありますよ。国会でも一緒ですよ。お互い個人で来てるんじゃなくて、政党を代表して来てるから、その主義主張はハッキリ言葉でぶつけ合ってお互い傷つけ合う。でも最終的には納まるところに納まるようになってるんですけど（苦笑）。

**大仁田**　シャクにさわることないの？

**馳**　しょっちゅうですよ！　野党の方は揚げ足取りをしたりしますから。でも目的っていうのはひとつしかないんですよ。国民生活のためにお互いの信じる政策をもってして、その









主義主張をぶつけ合うっていうのは、やんなきゃいけないんだもん。やっぱり罵り合いをして、初めてお互いを理解し合えることってあるよね。だから言いたいことを言わないのが政治家として最悪なのよ。リングの上でもそうですよね。相手に合わせたりして、自分の人間性があるのに、それを押し殺して、型にはまって試合したりとか、マスコミの顔色うかがったり、長州力の顔色うかがったりしながら試合してるから、「そんなものは、つまらない！」って俺はいつも言うの。

**大仁田**　だから俺はマスコミの顔色もなんにもうかがわないんですよ。だから嫌われるんだけどな（苦笑）。邪道っていうのは己の道だから。他の奴らがガタガタ言おうと自分の道を極めろ、と。なにもドームでタバコ吸うことだけが邪道じゃないんだよって（笑）。長いものに巻かれるのって寂しいじゃない？

**馳**　それは許容範囲の問題ですよね。

**大仁田**　若者っていうか、まだエネルギーあるうちは、世間と社会と闘ってもらいたいですよね。それを自分の中で精神として打ち出した言葉が「邪道」なんだよね。

**馳**　俺なんて入った時点で異分子じゃないですか。「プロレスラーなんてダメだろう」と。

**大仁田**　そういうの、あるんですか？

**馳**　ありますよ！

――馳さんの前に、猪木さんがいましたから、そういう声も少なかったんじゃないですか？

**馳**　猪木さんのことをどうこう言いたくないけど、そういうイメージも残ってたんですよ、プロレスラーが政治やるのって。だから、それをいちいち「そうじゃないよ！」って言うよりも、勉強して筋道通った法案をどんどん通していって実績作れば「本当に馳さんってプロレスラーなんですか？」って言われるし、僕も良かったなって思える。それで一番悲しいのは無視されること。「あいつにはできないだろうな」って言われるのが一番辛いから。

**大仁田**　芸能界にもありますよ。だから俺も役者をやったり、いろんなジャンルに挑戦してるんだけど、それを君らマスコミはバックアップしないんだよ！

――（小声で）そんなことないですよぉ。

**馳**　見た目のまま評価してるんですよね。

**大仁田**　俺らはプロレスラーのハートを持ちながら、世間にアンチテーゼを投げかけてるわけだよ。「プロレスラーだから、こんな才能も、あんな才能もあるんだよ」って。

**馳**　プロレスラーだから、これだけの根性を持って、これだけの見識を持って、理解力を持って、政策に取り組んだり、タレントとしてやっていけるという風になっていけばいいの。それを最初から「プロレスラーだからできない」っていう否定的な見方でしか、みんな見てないんですよね。

**大仁田**　一つだけ共通点を見出したよ。俺達はハートの部分でプロレスが好きなんだよ。プロレスを世間に認めさせたいがために、議員をやったり、他の分野で力を発揮しようとしてる部分っていうのは共通するね。それを、もうちょっとファンもね、客観的に物事を見た方がいいよ。プロレスの小さな村社会の中だけで闘ってるのも確かにいいだろう。守られてるわけだから。だけど、そこから一歩プロレスラーというものが外に出た時に、どういう扱いを受けるかっていうのをシビアに見てやって、その闘いを自分たちで理解する目も持っていかないと。俺とか馳さんがいなくなったりした時に、次の世代が育たなくなるよ。世間と闘えるプロレスラーがいなくなるよ。それを最初にやったのが猪木さんだったんだよ。猪木さんだったんだけど、世間に負けてしまったわけじゃん。（チョロに向かって）そう思うだろ？

――世間に負けたことになるのかなぁ？

**大仁田**　お前が認めねえと、話になんねえんだよ！（笑）。

――（仕方なく）は、はい。そうですね。

**馳**　大仁田 vs 健介、大仁田 vs ムタ、大仁田 vs 蝶野ってやっても、やっぱり「大仁田がどうのこうの」としてしかマスコミは取り上げない。そうすると、健介にしても蝶野にしてもムタにしても、対世間という部分では、まだプロレスの範疇の人間でしかないの。

**大仁田**　それはしょうがないですよ。それがシビアな評価で。俺らは、その評価を感じつつ、外の世界で生きてきたんだから。その部分では馳さんと一杯ぐらい酒飲めるかなって（笑）。一緒にキャバクラ行けるかなぁ。二人でキャバクラ嬢に説教したりしてな（笑）。「俺らはまだ認められてないんだよ！」ってさぁ。

――アッハッハッ。それは嫌な客ですね（笑）。

**馳**　プロレスファンの目とか、プロレスマスコミの目の中で純粋培養されてると勘違いしちゃうんだよね。それが全く通用しない場所に来た時、一社会人としてどうなのかって時に、初めてプロレスという社会の中だけで井の中の蛙で動いているということがわかるんだけど、それがわからない人が多いんです。自分がチャンピオンだからってスーパースター気取りでいる人がたくさんいますからね。

# やっぱり橋本はスーパースターにはなれねえな。でも小川はなれるよ（馳）

**大仁田**　大仁田 vs 長州戦っていうのは、プロレスファンをやめた人を掘り起こしてしまうという作用なんだよ。小川 vs 長州戦は、単なる過保護の偉大な親父がいて、その範疇の中で試合やるわけだから、無意味じゃないの？範疇を広げなきゃいけないんだよ。人間には一人一人キャパシティがあって、受け付けない奴は受け付けないんだから。だったら掘り下げることが必要なんじゃない？「プロレスはもっと奥が深いんだよ」っていう。「なんでこの試合、こんなに盛り上ってんだろ？」「あ、プロレス何年も見てなかったけど、一回ぐらい見に行こうかな？」って、そういうことなんだよ、大仁田 vs 長州戦って。「インディーがあったおかげもあっただろうよ、お前らが栄えたのもよぉ！」っていう意地とさ、「バカヤロー！　メジャーはな、お前らインディーが出てくるから邪魔なんだ！」っていうのと、精神的な闘いもあり得るってことだよ。勝った負けただけじゃなくて、そこにさ、ぶつかった時に出てくるもんが面白いんじゃん。世間に対してアンチテーゼを投げかけるっていうのはさ、議員であっても一緒だろうし。俺みたいにNHKでドラマやったり、プロレスやったりしてると自分の中で屈折するよ。だけど、その屈折をエネルギーにして、またぶつけていくとかあるからさ。

**馳**　でも、長州さんとやってみたいですか？

**大仁田**　（タバコに火をつけて）それはねえ。

**馳**　長州さんは強いッスよ。あの人は狂ってるから（笑）。凄くいいですよ。

**大仁田**　もう、決断は長州さんに全て任せてんですよ。ただ、俺はしつこいよ。しぶといもん。どこの世界でもしぶとく生きたるよ、俺は。馳さんに聞きますけど、いま長州力は小川とやるべきなのか、大仁田厚とやるべきなのか、どっちだと思います？

**馳**　う～ん、困ったなぁ（苦笑）。……両方やればいいんじゃないかと思いますよ。

**大仁田**　両方でもいいんだけど、順番は？

**馳**　う～ん……順番はそんな気にしないな。両方見てみたいから。

**大仁田**　俺は順番にこだわりますよ。別に小川とやりたきゃ、やってもいいけど。あとは長州力さんの決断に任そうと思ってる。

**馳**　長州 vs 橋本とかよりも、長州 vs 大仁田の方が全然見たいですね。やったあとに二人からどういうコメントが出てくるのかっていうのも楽しみだし。

**大仁田**　でも、まだ盛り上ってないからさ。正直言って、「もういいかぁ」って思う時もあるんだけどさぁ。「めんどくせえな、自分ばっかり動いてよぉ」って時もあるんだけど、なんかプロレスが泣いてると淋しくなるわけよ。

**馳**　一回、長州さんの家に電話して、「遊びに行っていい？」って言えばいいじゃない？

**大仁田**　それ、いいかもしんない！　でも電話番号知らないよ。

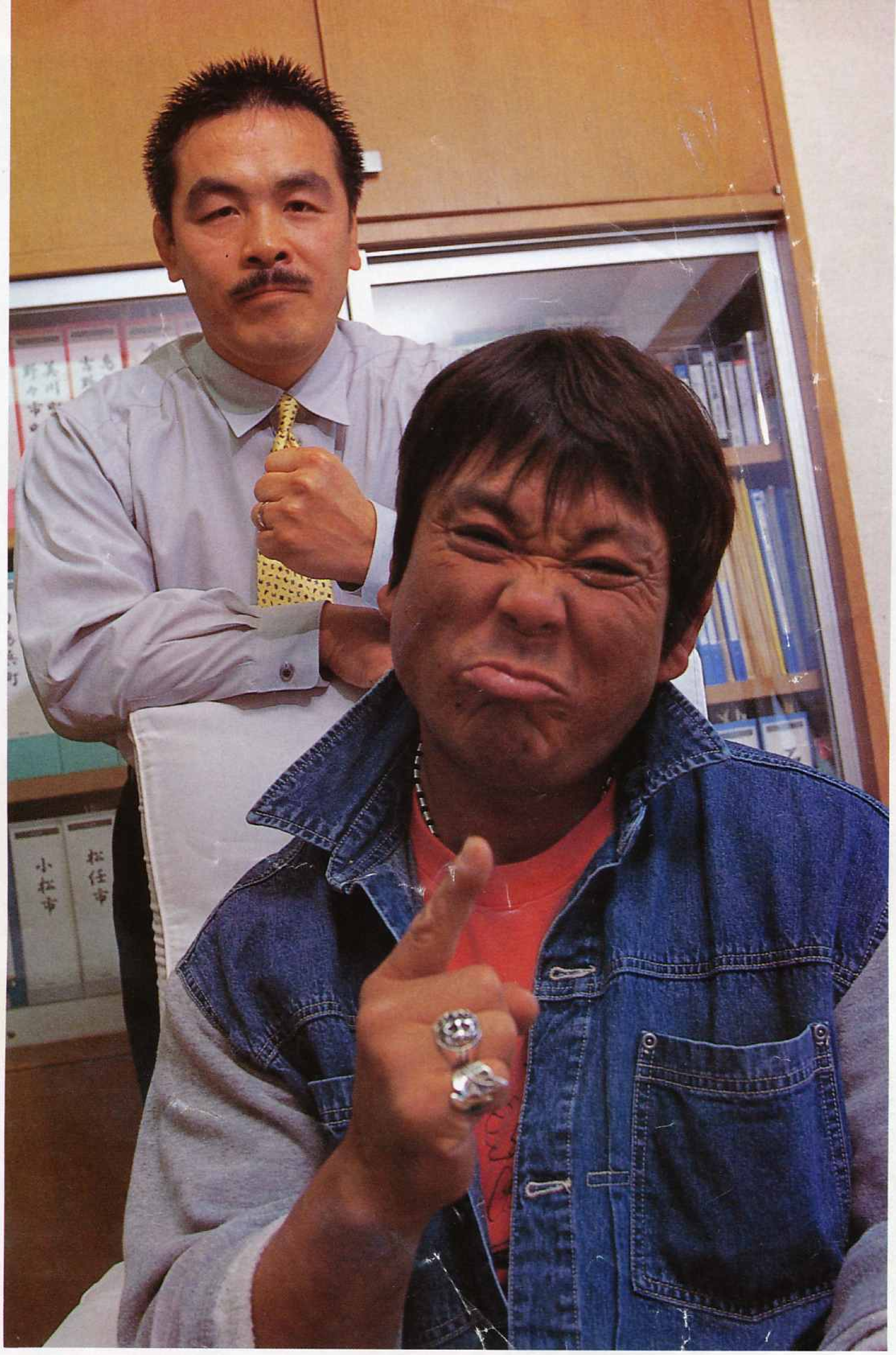
馳　調べればいいじゃん。永島のオヤジにでも
聞いて（笑）。俺は知らないから。

ると思うんですよ。プロレスファン以外の人

が定期的だったらまた違うよ。それに視聴率

でも小川はなれるよ。

# 俺らはプロレスラーとして世間にアンチテーゼを投げかけてるわけだよ（大仁田）



駲　調べればいいじゃん。永島のオヤジにでも聞いて（笑）。俺は知らないから。

大仁田　ハッハッハッハッ。

——話は前後しますが、先日のゴールデンタイムの小川vs橋本戦は世間に届いた試合になると思うんですよ。プロレスファン以外の人もよく話題にしてましたし、視聴率も抜群に良かったですからね。

大仁田　あれはあれでね、潜在的なもんで、久々にゴールデンだったってことでさ、あれが定期的だったらまた違うよ。それに視聴率が良かったからって、それでいいってもんじゃねえだろ！　いまの時代っていうのはさ、ライブに客を入れるのか、視聴率を上げるのか、どっちかに徹底しないと。そうでしょ？　ドームは観客動員は悪かったんだから。

駲　俺、思ったのは、スーパースターっていうのは作るもんだって。しかし、作るに相応しい能力のある人間じゃないとスーパースターになれないっていうのを改めて感じたね。やっぱり橋本はスーパースターにはなれねえな。でも小川はなれるよ。

——駲さんがスカウトした藤田選手は、『PRIDE・GP』でマーク・ケアーに勝ったり活躍してますけど、駲さんから見て藤田選手はスーパースターになれる人間ですか？

駲　そういうお膳立てっていうのは、そういう人物がいるからできるんであってね。ただ、お膳立てするにも、もの凄いエネルギーが必要なんですよ。それはファンの人の支えとか、それを理解できると同時に自分を持ってる人間じゃないとスーパースターになれない。小川とか藤田とかは自分でエネルギーを持ってるし、なれると思うよ。

大仁田　なんかで読んだけど、藤田はいいこと言ってたよ。「猪木さん、ありがとう」とかじゃないんだよ。「猪木さんを乗り越える」みたいなこと言っててね。「ストロングスタイルを超越する」みたいな。俺は藤田は力だけの人かと思ってたら違うんだなって。自分の世界をちゃんと確立しようとしてるから。

駲　プロレスの世界にはいろんなチャンスがいろんなとこに転がってんの。それを自分の哲学に生かせるかどうかっていうのは、その人次第ですからね。哲学のない人間はチャンスが生かせないの。でも俺はホントに大仁田さんに、長州さんとこに電話して「いまから行きますから」って言って欲しいな（笑）。

大仁田　マスコミがついてくるんだったら行くけどね。それが一番早いから。でも俺の忍耐力も限界にきてるからさ。俺は1年なんぼ待ってるからね。結局、自分の中でどうやってテンションを維持するかって問題があるわけでしょ。それにも限度っていうのがあるし、そこを長州さんも感じて欲しいよ。ま、そういうことで、今日はありがとうございました。

駲　ありがとうございました。（駲の携帯が鳴る）あ、女房からだ（笑）。「もしも～し。いま大仁田さんと対談してるんだよ。あ、よろしく言っとくよ。いま何してんの？　公園で寝てるの？　じゃあね～」。なんか原稿書けないから、公園で寝てるんだって（笑）。

大仁田　じゃあ、よろしく言っといてよ（笑）。

【00年5月8日／参議院議員会館にて収録】



# 何がシャムロックをそこまでかり立てるのか？

5・1『PRIDE．GP』で、アレクサンダー大塚に殴り勝って、ケン・シャムロックは見事に復活のノロシをあげた。VTの世界では"過去の人"になりかかっていた感もあったシャムロックだが、再びそこに足を踏み入れた意図は何なのか？ プロレスとVTを渡り歩く元祖・二刀流ファイターの実像に迫る！

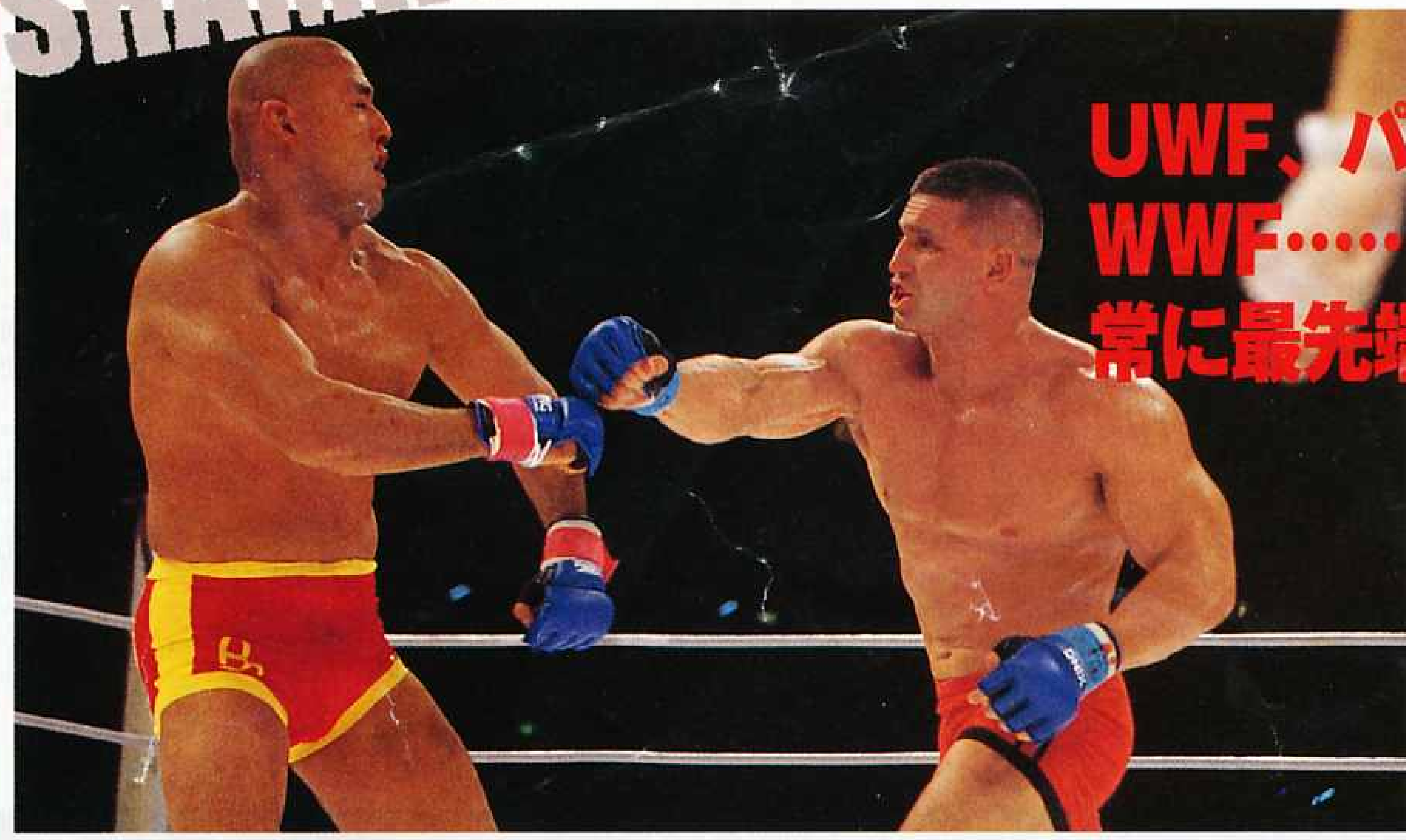
聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

## UFC、WWF、そしてPRIDEを渡り歩く 世界的スーパースターに急接近!!

# ケン シャムロック KEN SHAMROCK

# KEN SHAMROCK





## UWF、パンクラス、UFC、WWF……。シャムロックは常に最先端に身をおいてきた



試合開始早々、リング上の照明が落ちたときには、絶対にWWFの選手が乱入してくるものと期待したが何も起こらず。試合はライオンズ・デンの生徒たちと打撃の練習を重ねてきたシャムロックがスタンドでも、グランドでも終始パンチを叩き込んでいく。途中、アレクはロープの反動を利用したパンチやバックスピン・キックを出すが、シャムロックには通用せず。結局、シャムロックの左フックが炸裂してKO勝ち！　だが、試合後のなが〜いマイク・アピールには、桜庭への歓声と同じくらいのボリュームで大ブーイングが飛んだ。
（撮影・平工幸雄）



ケン・シャムロックはここ10年間、マット界で次々と新しい扉を開いてきたパイオニアである。その足跡をたどるだけで、いかに大変な男なのか、おわかり頂けると思うので、ご紹介しよう。

89年、なぜか全日本プロレスに初来日。だが、たいして印象を残せないまま、「もう少し練習してね」などとパンフレットには書かれてしまう。

その後はマレンコ道場でサブミッションを学び、UWFに参戦。U分裂後は、藤原組、パンクラスの常連ガイジンとなって、初代キング・オブ・パンクラスのベルトも巻いた。

93年のUFC第1回大会でシャムロックは、プロレスラーとしていちばん最初にグレイシー一族のホイスと闘った。ここで、シャムロックは何もできずに1分そこそこで惨敗を喫してしまう。この大事件が、その後のマット界を大きく揺れ動かすキッカケとなったことは、賢明な『紙プロ』読者なら誰もがご存知のことだろう。ここから「プロレス最強幻想」は崩れ始め、「グレイシー最強幻想」が始まったのだ。

UFC第5回大会ではホイスと30分フルタイムの激闘を戦い抜いて、シャムロックは全世界にその名を轟かせたが、拍車が掛かったグレイシー幻想はものすごい勢いで「プロレス」を浸食し始める。

まるで津波のようにグレイシー幻想が日本のマット界に押し寄せる中、シャムロックの運命は大きな転換期を迎える。

97年、パンクラスを離れた後に新日本プロレスの橋本真也と対戦が発表されたが、結局エンターテイメント・プロレスの総本山・WWFを選択して180度違う世界に飛び込んでしまったのだ。ちなみに、シャムロックの代わりに橋本と対戦したのは、プロデビュー戦の小川直也だったというのも因縁めいた話である。

そして今回、3年ぶりに『PRIDE』に参戦して、格闘技の世界に戻ってきた。それが「WWF」行きを熱望するアレクだったというのも、これまた因縁めいた話である。

このように、常にマット界の「最先端」といわれる団体に身を置いてきたことがおわかりいただけるだろう。

さて、話は変わるが「プロレス＝格闘技」という論調がボクにはさっぱり理解できない。UFCのシャムロックとWWFでのシャムロックを見比べて、果たして同じだと言い切れるのか？　相手の顔面をボコボコ殴るシャムロックと、妹を寝取ったAV男優レスラーの試合に乱入するシャムロックをとてもじゃないがボクは「イコール」では結べない。だからこそ、その正反対の世界を行き来するケン・シャムロックというファイターが何を考えているのか、非常に知りたい。

ケンと同じ道を歩んだVTの選手に、ダン・スバーンやタンク・アボットが挙げられるが、彼らは決してエンターテイメント・プロレスの世界で成功したとは言いがたく、ズバリ言って完全にズッコケてしまった。この差はいったい何なのか？

そんなことを聞こうと考えていた矢先、「今日、いまから取材があるなんて聞いてないよ」と言いながらシャムロックが部屋に入ってきた。1・30の『PRIDE．GP』での「2Rがあるなんて聞いてない」事件、再び！　ダダをこねるシャムロックをなんとか説得し

**て1時間だけ時間をもらい、インタビューは始まった。**

——今日は世界的スーパースターのケン・シャムロック選手にお会いできて光栄です。

**ケン**　ああ、ありがとう（微笑）。

——まず、前日のアレクサンダー大塚戦はおめでとうございます。アメリカでのプロモーションの際に顔を合わせたとき、アレクを「こんなグリーンボーイとやるのか？」と評したそうですね。

**ケン**　アメリカで『PRIDE』のPPV放送が始まる大会で、なおかつ私自身も久々のバーリ・トゥード（以下、VT）だったので、もっと有名な選手と当たるものだと思っていたんだが……でも、実際に闘ってみて、アレクは闘志と体力が素晴らしい選手だったと思うね。

**この人、ズバズバとものを言うようだ。アメリカでの自分のネームバリューがどの程度なのか、ちゃんとわかっている。だが、VTの実績で考えれば差はあまりないはず。ここ最近のアレクの活躍ぶりを考えれば、アレクの方が上と言ってもいいくらいだ。シャムロックは過去の男であり、アレクが勝つと思っていた人も多いはずだろう。**

——アレクの本領が発揮されたとは言いがたい試合内容だったんですが、ロープに飛んだりして観客を喜ばせようとするアレクの闘い方は、どう感じましたか？

**ケン**　VTでも、観客をエンターテインすることは必要だよ。ただ、VTの試合に関しては、試合の前と後に観客の興味を煽るようなことは必要だと思うけど、試合中は勝つことだけを考えればいいんじゃないのかな？　試合中にそういう攻撃をされたことによって、「バカにされてる」と感じて嫌う選手がいるかもしれないが、私は平気だったよ。バカにされてるとは思わなかった。

——では、あなたは試合中、頭の中に観客の存在はありましたか？



1・30の「PRIDE・GP」開幕戦で、弟子のガイ・メッツァーの試合で「1R契約しかしていない」と猛烈な抗議をするシャムロック。誰が悪いのかは不明だが、この時点でメッツァーを引き上げさせたシャムロックは明らかに「ヒール」だった。さすがに、あまりに印象が悪いと思ったのか、5・1には「私の抗議で気分を害した方がいらっしゃったら、それに関しては謝罪をしたいと思います」と語った。（撮影・平工幸雄）

## 今回も「気が狂ってる」といわれたよ

**ケン**　いや、ないね。今回はとにかく勝つことが第一だったから。

**これこそがアレクがやらなければいけなかったことである。自分の立場で、「何をすべきか？」という判断はシャムロックの方が正しく下していたのかもしれない。**

——じつは、あなたの試合後のマイクにブーイングが起こっていたのは知ってました？

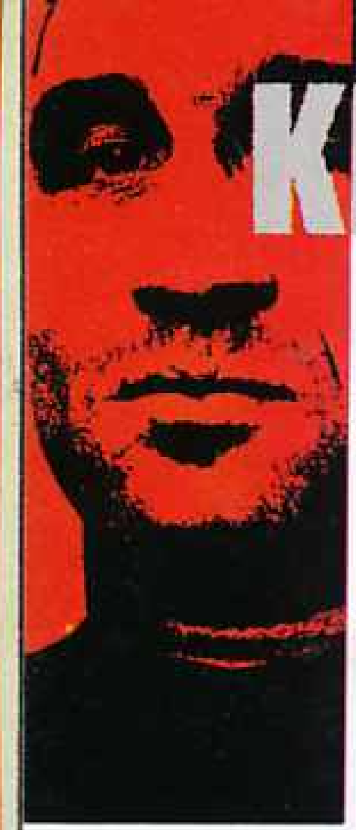
**ケン**　知ってるよ（笑）。でも、あれは私が復帰するにあたって、サポートしてくれた妻、子供、両親、ライオンズ・デンの仲間たちへの感謝の気持ちだから。それは、どうしてもリング上で言わなければならなかったんだ。

**桜庭VSホイスの激闘で、かなり時間が押していたこともあり、まるでアカデミー賞を受賞したハリウッド・スターのスピーチの如く、長々と家族やジム生に感謝の言葉を述べるケンに対して「早くしろ！」「とっとと帰れ！」といった怒号が飛び交ったのだ。**

**あそこまでスター気取りでマイクアピールが出来る人をボクは他に知らない。逆に言えば、あれはスターだけに許された行為であろう。WWFでのシャムロックを見たか否かによって、その評価は大きく分かれるところだろうが、あれだけの大物のやることなのだから仕方がない。ボクは許す！　一部では「WWFでエンターテイメントをわかってるはずなのに、どうして客の空気が読めないんだ！」という批判もあるようだが、どうやらアメリカのPPVではこの試合がメインで放送される模様。そういう事情であれば、あのアピールは非常に活きてくる。その場の空気よりも、放送を優先して考えるあたりに、WWF流のしたたかさを感じた次第である。**

**このようにシャムロックはWWFを経験したことによって、良くも悪くも大きく変わった。パンクラスに上がっていた頃の野暮ったさはすっかり消えている。**

——格闘技の世界からWWFのようなエンターテイメント・レスリングの世界に行くのは、非常に大変なことだと思うんですが？



は、非常に大変なことだと思うんですが？

**ケン**　私は常に新しいことにチャレンジしていたい人間なんだ。だから、WWF入りしたときは「なぜ、そんなことをするんだ？」とか「あいつは気が狂ってる」とかムチャクチャに言われたな（厳しい表情）。

——アハハ！　「気が狂ってる」って。

**ケン**　今回、WWFからVTに戻ってきたことに関しても同じように「アイツはバカだ」「収入を捨てるのか？」と、散々言われたさ。もう他人から何を言われても気にしないようにしている。そのときどきで、自分がどうすることがベストなのか常に考えているよ。

——なるほど。常にいろいろ考えた結果、あなたは90年代のマット界において、次々と新しい扉を開いてきました。いままでのキャリアの中で、その選択を誤ったと思ったことはないですか？

**ケン**　いままでのキャリアについて「正しい」とか「間違っている」といった観点で考えたことは一度もないね。すべての経験が私の血となり、肉となっているから。いちばん最初に全日本プロレスに上がったときも、直接言われたわけではないが、観客を喜ばせるとはどういうことか、Mr.ババから学んだよ。

——VTの世界から、ダン・スバーンやタンク・アボットがプロレスの世界に入ってきましたが、成功したとは言いがたいですよね。

**ケン**　彼らがどうだったかはわからないが、私の場合はプロレスラーとしてのキャリアがあったことが良かったのだろうと思う。

——いまは、VTの世界から、WWFに行きたがっている選手が多くいます。たとえば、日本では高田延彦選手やアレクサンダー大塚選手や佐竹雅昭選手といった選手です。

**ケン**　それは光栄なことだね。私が、VTの選手の新しい扉を開いて、みんながその道を通りたがっているのだとしたら、そんなに嬉しいことはないよ。

——「今後は、マーク・ケアーやマーク・コールマンがWWFに行く」という噂もあるが、そのことについてはどう思いますか？

**ケン**　ボクから彼らに言えることは、「難しいビジネスだ」ということだ。すべてが自分の思い通りになるわけじゃないからね。VTとWWFではやることもまったく違うし、求められることも違う。

**プロレスラーが土俵の違うVTで結果を出すことが難しいのと同じように、VTの選手がプロレスで成功することも難しい。どちらも同じように素敵なことだ。実際、いまのWWFではオリンピックで金メダルを獲った超一流のアスリートであるカート・アングルが、毎試合金メダルをブラ下げて来ては、非常に嫌味ったらしいマイクアピールでブーイングを浴びたり、80歳過ぎのお婆ちゃんをスープレックスで投げたりしている。ホントはバカ強いはずの男たちが繰り広げる、見てると頭が悪くなりそうな連続ドラマは非常にゼイタクだし、ホントに夢がある。だからケアーやコールマン、そしてシャムロックといったVTの選手がWWFに上がることに、ボクは大賛成だ。今後はこういったケースが増えることだろう。**

——根本的な質問をさせてください。なぜ、WWFに行ったのですか？

**ケン**　生活のためだよ。私には妻がいて、子供も2人いる。家族を養うためには、バーリ・トゥードでは生活していけなかったんだ。もちろん、前からWWFに出場することには興味はあった。

——WWFでやっていたことには満足していますか？

**ケン**　いや、100％満足はしていない。

**WWFでは”ブチ切れ男“のキャラクターだったシャムロックは、治療に来た救護班を相手に暴れたり、誰かれかまわず殴り掛かったりと、非常に面白いことをやっていた。**

——「世界で最も危険な男」というキャラクターが気に入らなかったんですか？



WWFではレフェリーとしても登場したケン・シャムロック。こちらではイスを使って攻撃した”ストーンコールド“スティーブ・オースチンに猛抗議!?　完全に吹っ切れたシャムロックは、WWFのリングでも非常に輝いていたのだが……本人は、VTの方がやりたかったようだ。いまだったら、カート・アングルとの試合が見てみたいのだが。

## WWFに入ったときも、VT（バーリ・トゥード）に復帰した



**ケン**　いや、そうじゃない。ただ、自分のキャラクターを100％発揮できたかというと、そうではなかったからね。やはりWWFでは一番になれないからだ。ストーンコールド、アンダーテイカー、ザ・ロック、ケインなど上にはたくさんの選手がいるからね。

**「トップに立てないから」――安定した収入を第一に考えていたら、こういう発想は出てこないだろう。**

――では、実力次第でトップに立てるから、あなたはVTの世界に戻ってきたんですか？

**ケン**　いや、これが本当にやりたいことだから。こうして、VTの世界と、エンターテイメント・プロレスの世界を行ったり来たり出来るといういまの状況は、本当に幸せだよ。ただ、ひとつわかってほしいのは、今回の試合で負けてしまうと、私はWWFにも帰れなくなってたはずだということだね。

――たしかに、アメリカでは無名の選手に負けてしまったら致命的なダメージですよね。じゃあ、いつでもプロレスに戻って来るつもりなんですか？

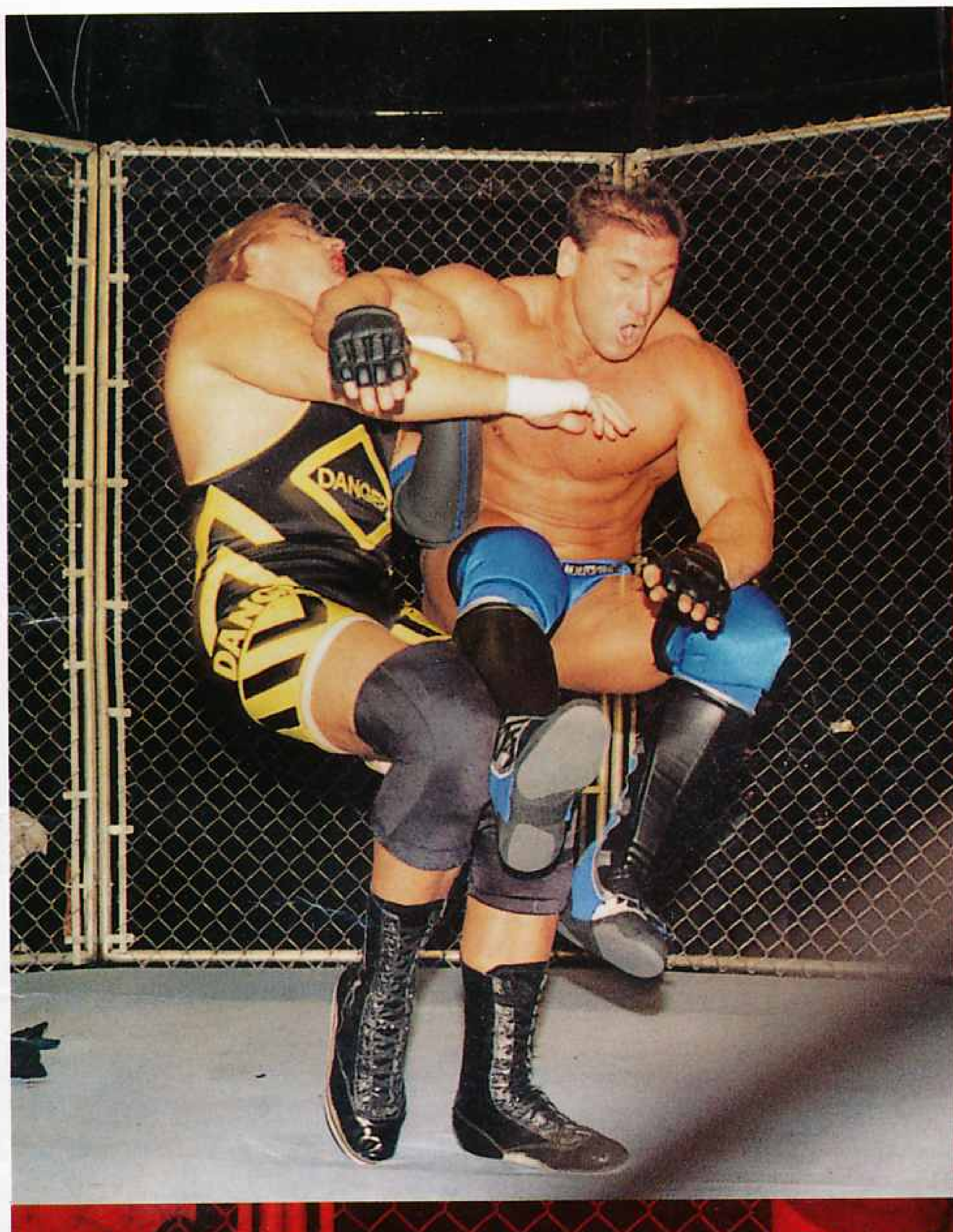
**ケン**　しばらくはVTの世界に取り組んでいくつもりだよ。格闘技の試合に出るにも、プロレスの試合に出るにはトレーニングのための準備期間は必要だよ。

**ケンほどの実力があれば、すぐに格闘技にコンバートしてもそこそこの結果は残せただろう。だが、それをせずにしっかり、いまのVTに対応するための準備を怠らなかった。それが結果につながったのである。さすが無人の荒野に道を開いてきた男である。世間の評価のモノサシは「結果」でしかないということを誰よりも知っているのだ。**

**ここで時間が来てしまった。もっと突っ込んで話を聞きたかったが、最後なので少し意地悪な質問をしてみた。**

――以前、本誌（NO．3）でカール・ゴッチさんが「ステロイドを打った鳥（チキン）は臭い」「マネーを作る筋肉は持っているかもしれないが、レッスルする筋肉は持っていない」とシャムロックさんのことを評していたんですが、それに反論はありませんか？

**ケン**　フフフッ。私は過去にいろんなことを言われてきたよ。それに対する反論は、何もないよ。実際、私はチキンでもないし、鳥の羽が生えてきたわけでもない（笑）。さっきも言ったように「気が狂ってる」とまで言われてきたんだから、いまさら何を言われても気にならないよ。自分の行動で示して行くしかないんだ。



# 今回のVSアレク戦でもし負けていたら、私はWWFに帰れなくなっていたはずだ

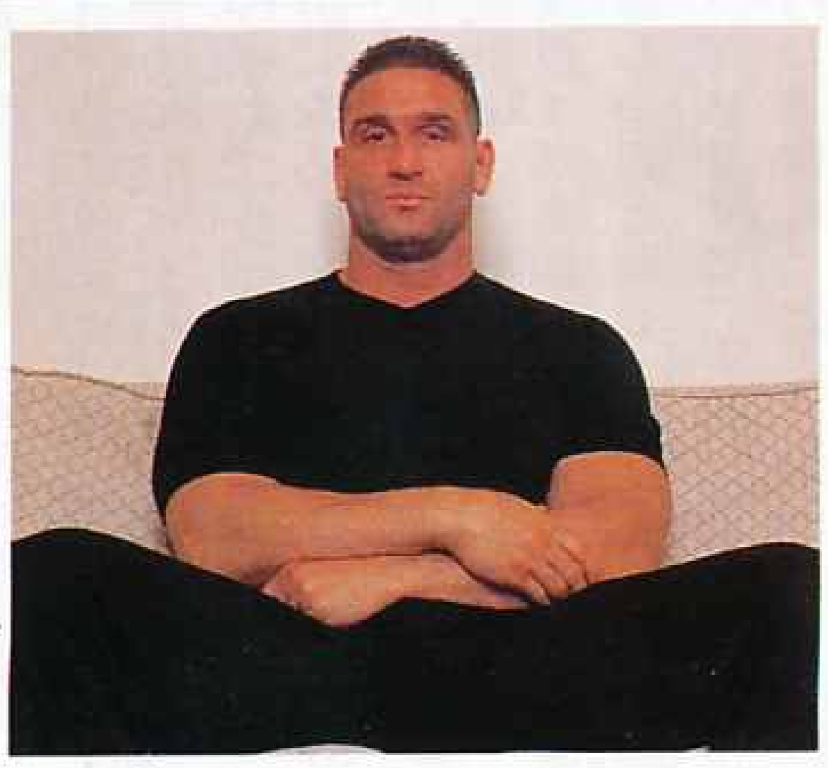
ライオンズ・デン・マッチと称して、WWFでもケージ・マッチに挑んでいたシャムロック。こういったものを取り込む懐の深さが、WWFの大きさである。新日本プロレスの武藤敬司vsペドロ・オタービオに近い試合展開だったが、WWFの試合として見れば何の違和感もない。他にも、車をサークル状に並べた中で闘うアイアン・サークルマッチや誰かの家の地下室での決闘など、そのシチュエーションにもいろんな変化があった。

**反論はなし！　潔いことこの上ないが、それって、ステロイドを暗に認めてるってことか？　しかも、マネーも稼いでるぜってこと？　だが、そんなことはどうだっていい。日明兄さんではないが、「打つところ見たんか？」という話だし、WWFで結果を出し続けてきただからマネーは稼いで当然！　ボクが言えることは、「ステロイドを打ったかどうかは知らないが、臭くはなかった」ということぐらいである。「鳥」という表現も「世界に羽ばたく」と意味なんだと、無理矢理だが好意的に解釈は出来る。**

**まあ、そんな声を封印すべく、「行動で示すしかない」と言い切るシャムロックが何を見せてくれるのか？　じつに興味深い。**

**さあ、シャムロックよ！　『PRIDE』で羽ばたけーッ！**

**【'00年5月2日、東京・ヒルトンホテルにて収録】**



## KEN SHAMROCK PROFILE

1964年2月11日、ジョージア州ハウストン出身。ネルソン・ロイヤルのコーチを受け、プロレスデビュー。その後、全日本～UWF～藤原組～パンクラスと渡り歩く。93年のUFC第1回ではホイスに敗れたものの、ダン・スバーン、キモ、ブライアン・ジョンストンなどから勝利を挙げている。97年にはWWF入り。過去、獲得したベルトは初代キング・オブ・パンクラス、UFC、WWFインターコンチネンタル王座など。節操はないが権威はあるものばかり。183センチ、100キロ。

ココバット2000 ブラジルの逆襲



## グレイシーが最強なんて単なるイメージだよ

### グレイシー幻想崩壊！<br>されどブラジルの脅威続行ッ!!

“世紀が変わる一戦”でホイスがサクに完敗を喫したことによって、長らくマット界を支配した「グレイシー幻想」が遂に崩壊した。しかし、グレイシーが敗れても、ブラジルにはもっと強いウォリアーがゴロゴロいることこの上なし！「幻想」ではなく「実像」が巨大な彼らこそが、本当の“黒船”なんである。そしていま柔術世界選手権4連覇という時間に劣化されない記録を持つ男、マリオ・スペーヒーが初降臨。ブラジルの脅威、続行ッ!!

# Mario Sperry

マリオ　スペーヒー


聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
助手／松澤チョロ
helper by Choro Matsuzawa
撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

# 私はアブダビの王子と非常に強い友情で結ばれているんだ

—待望の初来日となるわけですけど、スペーヒー選手ほどのビッグネームが、これまで日本に来なかったのはなぜなんですか？

**マリオ** いや、ただ単に日本からは一度もオファーが来なかったんだよ。

—そうなんですか。それは意外ですね。

**マリオ** あ、そういえば一度だけあったなぁ。1年ちょっと前に、パンクラスからフナキ（船木誠勝）との対戦オファーがね。

—え!? 船木戦ですか？ そういえば確か船木選手が（エベンゼール・）ブラガと闘ったとき、ホントは別の超大物選手との対戦がリストアップされていたという話がありましたけど、それがスペーヒー選手だったんですね。ちなみにどうして実現しなかったんですか？

**マリオ** ズバリ言ってギャラが安すぎる（キッパリ）。たった○○ドルだったからね。

—わっ！ 金額まで聞いてませんよ（笑）。

**マリオ** ハハハ。やはり私自身、道場運営にも資金がかかるし、より利益を生む闘いを選びたいからね。私がバーリ・トゥードをあまりやらないのも『アブダビ』の方がバーリ・トゥードの大会よりお金がいいからなんだよ。

—となると、やっぱりいま一番力を入れている競技は『アブダビ』なんですか？

**マリオ** いまのところはね。でも自分としては日本で成功したいという思いが強いんだ。だから将来的には日本でのファイトが中心になっていくかも知れないね。

—アブダビの王子様はスペーヒー選手のことがお気に入りというか、凄く評価していると聞いたんですけど、ご自身でもそれは感じますか？

**マリオ** 王子自らアブダビの街を案内してくれたり、アブダビの王家には非常によくしていただいているよ。私と王子はお互いに非常によい友情で結ばれているんだ。

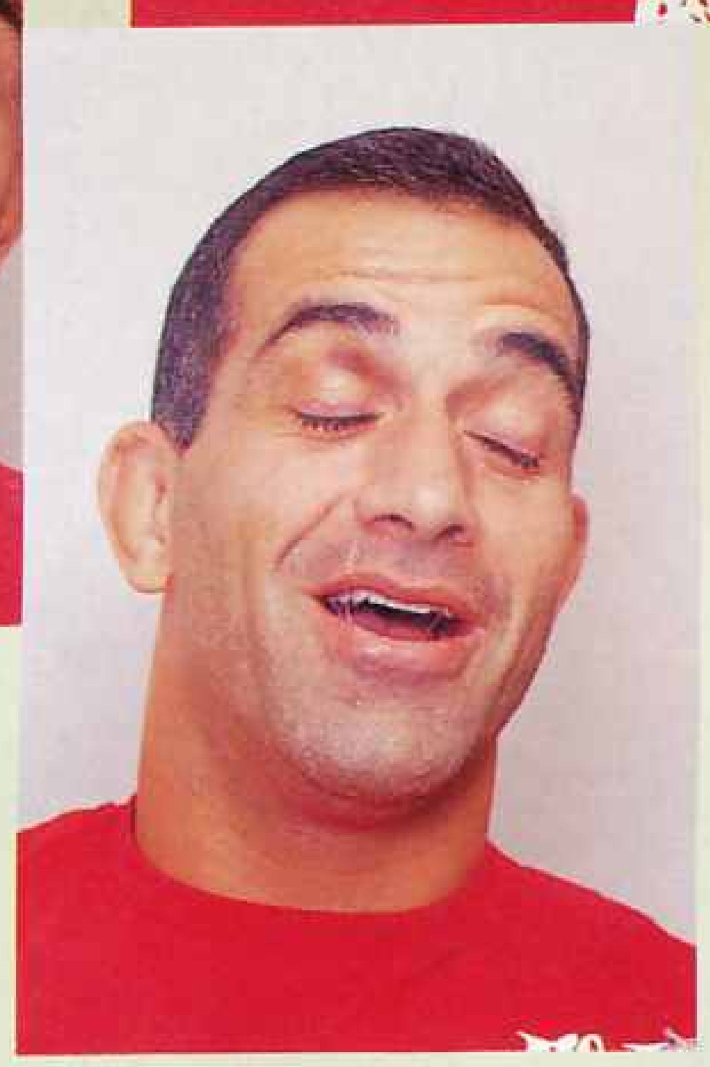
—実はその王子が5・26東京ドームに観戦にくるかもしれないんですよ。そうなると負けられませんね。

**マリオ** ゼヒ来ていただきたいね。王子は私に幸運をもたらしてくれると思うよ。









—では、その5・26東京ドームの金原（弘光）戦はリングスのルールで行われますけど、初めてのルールに不安はありませんか？

**マリオ** リングスについてはビデオをじっくり観てもう既に研究済みだし、このルールに沿った準備も十分積んできたつもりだよ。それにリングスルールはスピーディーな試合展開になるルールだろ？ 私は動きまわって闘う選手なので、そういった面で私に合っていると思うよ。

—え!? たくさん動くのが得意なんですか？ エンセン井上戦のイメージで言うと、有利なポジションをキープするだけのディフェンシブな選手というのが日本での評判なんですけど。

**マリオ** 『アブダビ』でのあの試合については、私の目的は勝利を奪うことだから、いいポジションを奪えたのでそれをキープしただけだよ。それに対してエンセンは抜け出す技術と努力が足りなかったんだ。だからもし彼に技術があってもっと動いてきたら、私もフィニッシュに持っていっていただろうね。

—日本では勝つことも当然大事なんですけど、一本勝ちを狙わないと観客は納得しないんでけど、闘い方は変わりませんか？

**マリオ** リングスのルールは、アグレッシブに闘わざるを得ないように作られたルールだから、当然そういう闘いになるよ。だから観客にとってはリングスのルールは非常にいいルールだと思うよ。

—なるほど。では金原選手の印象を教えて下さい。

**マリオ** 強くてアグレッシブだし、立ち技だけでなく、グラウンドの技術もしっかりしている。パーフェクトに近い選手だと思うね。彼のグラウンドについては、（ヒカルド・）アローナに意見を聞いて対策を立てようと思っているよ。

—アローナ選手が『アブダビ』勝っている選手なので、師匠のスペーヒー選手としたら当然勝つ自信があるわけですね？

**マリオ** でもルールが『アブダビ』とリングスでは全く違うから安心はできないよ。

—金原選手は打撃が非常に得意なんですけど、打撃対策の方は自信ありますか？

**マリオ** 確かに打撃は私のスペシャリティではないね。でも、私はペドロ・ヒーゾと練習をしているんだよ。カネハラの打撃がいくら凄いと言ってもペドロほどではないだろう。

—ペドロ・ヒーゾはTK（高阪剛）をKOするほどの打撃の使い手ですもんね。

**マリオ** 実はペドロは小さい時から家が近所でね、彼は子供の頃はものすごいデブだったんだよ（笑）。マルコ・ファスやビクトー・ベウフォートも近所なんだ。

—恐ろしい地区ですね（笑）。

**マリオ** 彼らとはいまでも仲が良くて、よく一緒に練習をしているよ。

—でも、マルコやペドロっていうのはルタ・リーブリの選手じゃないですか。柔術家とルタの選手は仲が悪いって聞いたんですけど、そんなことはないんですか？

**マリオ** 確かにお互いのライバル意識が強すぎて、いがみ合っていたことはあったね。でもそれは昔の話だよ。95年ぐらいからは柔術家もルタの選手も、ブラジルだけでなく日本やアメリカなど、外に出て闘うようになって、ブラジル国内でいがみ合っていることが馬鹿馬鹿しくなったんだ。要するに柔術もルタも世界を相手に闘うという意識に変わって、それから逆にお互いを応援し合うような関係になったんだよ。それが非常にブラジルの格闘技界にいい影響を与えていて、格闘技を始める人が以前より随分増えたね。

—ところで今回はリングスからのオファーだったらしいですけど、金原戦以降もリングスで闘いたいという希望はあるんですか？

**マリオ**　ミスター・マエダとファンが望むなら、ゼヒ出場したいね。

―ではリングスのビデオをご覧になって、印象に残った選手というのはいますか？

**マリオ**　そうだなぁ、まず第一にダン・ヘンダーソン。ミノタウロ（ノゲイラ）戦の判定はおかしいと思うが、それでも素晴らしい選手だと思ったね。あとは（レナート・）ババル、タムラ（田村潔司）の動きの良さも目についたね。

―いま、田村選手の名前が出ましたけど、ヘンゾ・グレイシーとの試合はどんな印象を持ちましたか？

**マリオ**　あの試合は田村が全てコントロールした試合だったよ。

―では、あの判定には納得できますか？

**マリオ**　全く正しいね。タムラとヘンゾが10回闘ったら、10回ともタムラが勝つだろう。

―そんなに実力差を感じましたか？

**マリオ**　タムラは立ち技が非常に優れているし、グラウンドでもヘンゾを完全に封じ込めていたからね。何度やってもヘンゾはあの展開は崩せないだろう。

―グレイシーの選手は、桜庭vsホイラー戦なんかでもそうですけど、なかなか負けを認めないんですけど、そういうのはスペーヒー選手から見てどう思いますか？

**マリオ**　いや、あの試合はどう見てもサクラバの勝ちだよ。

―では、あのレフェリーストップも妥当だと思いますか？

**マリオ**　あれ以上やったら死ぬだろ。

―アハハハ！「あれ以上やったら死ぬだろ」猪木さんみたいですね（笑）。いまのは訳さなくていいです（笑）。

**マリオ**　ホントにあの試合をストップなし、時間無制限で続けさせてたら、サクラバはホイラーを殺してたんじゃないかな。

―まさにキラー・サク（笑）。

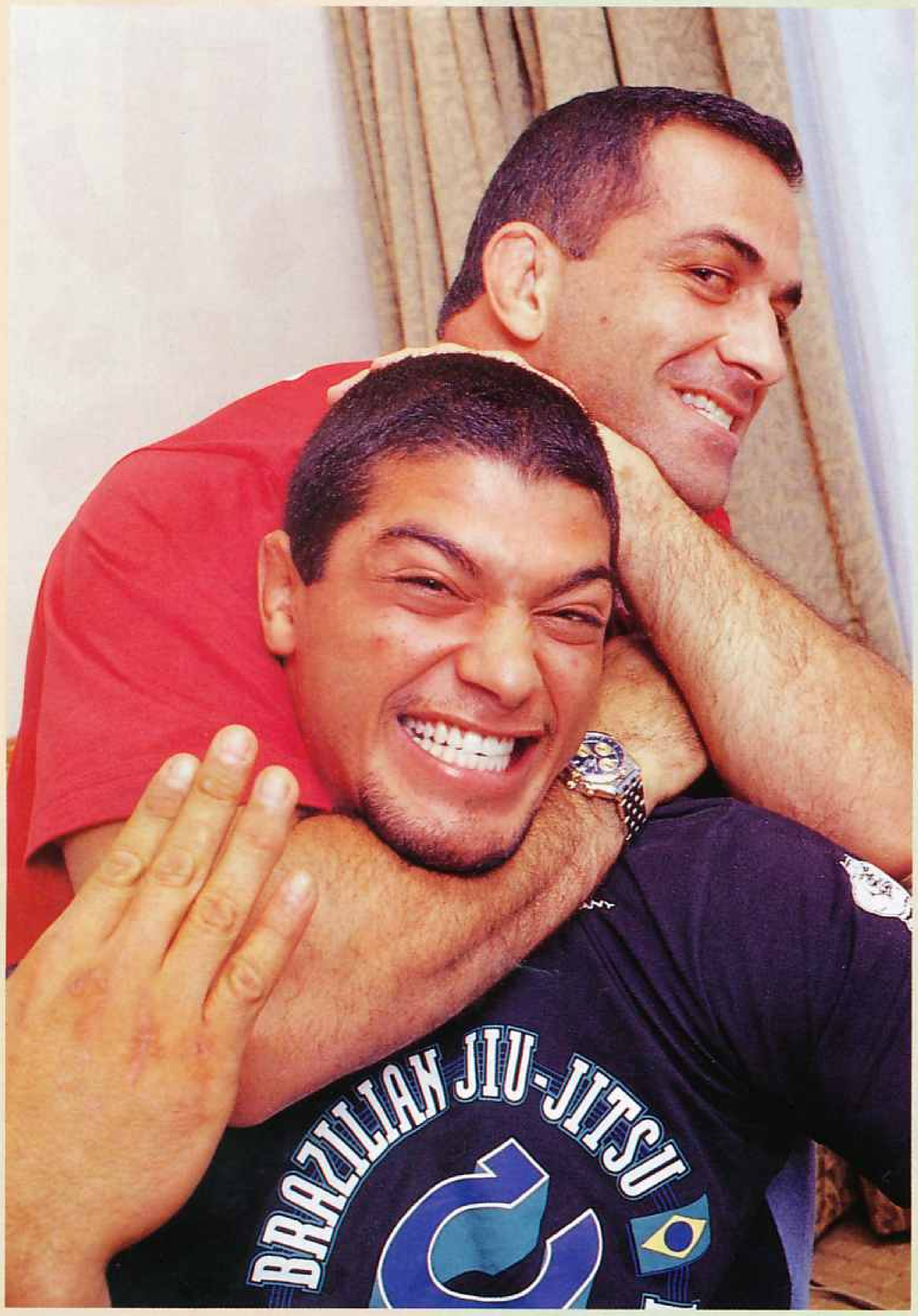
**マリオ**　ところで、ひとつ私の方から質問したいんだけど、日本人がグレイシーと闘うときは、いつもグレイシー側が主張するルールで闘うだろ。なぜ日本側がルールを決めないんだい？

―彼らのルールを飲まないと、試合をキャンセルしてしまうんですよ。で、なぜそれを受けるかというと、日本ではまだまだ「グレイシーが最強」というイメージが強いんです。だからファンはグレイシーを日本人が破るところを見たいという欲求が強くて、どんなルールでもとにかく引っぱり出して、彼らを倒してほしいというところがあるんですよ。

**マリオ**　（アキレ顔で）グレイシーが最強というのは、単なるイメージだけだね。

―だからおそらく桜庭選手がホイスに勝って、船木選手もヒクソンに勝ったら、そういうワガママはもう通用しないでしょうね。

**マリオ**　まぁ、この5月でグレイシーに折り返し地点が来たということだね。




【マリオ・スペーヒー】カーウソン・グレイシー柔術アカデミー所属。1966年9月28日、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身。188cm、95kg。96〜99柔術世界選手権4年連続優勝。99アブダビコンバット88〜98kg級、無差別級優勝、99、00スーパーファイト制覇と経歴だけで欄が埋まってしまいそうな程の実績を持つ、これまで日本に来た柔術家の中でも最大級の超大物。アローナとの師弟コンビは日本マット界に旋風を巻き起こすことだろう。

―では船木vsヒクソンはどちらが勝つと思いますか？

**マリオ**　私自身の予想では結論から言えば、ヒクソンが3Rか4Rでグラウンドで勝つだろう。でもヒクソンはかなり苦戦するんじゃないかな。非常にいい試合にはなるだろうが、最後はヒクソンが勝つだろうね。

―なんだか聞いていると、グレイシーに対して厳しい意見が多いんですけど、ぶっちゃけた話、彼らが嫌いなんですか？（笑）。

**マリオ**　いや、私は正直に話しているだけだよ。他のみんなも本当はそう思っているんじゃないかい（笑）。私は彼らは非常に技術的に優れていると思うし、敬意も抱いている。でも、彼らより強い選手がいることを正直に話しただけだよ。

―ではスペーヒー選手は、いまブラジルで一番強い選手は誰だと思いますか？

**マリオ**　う〜んたくさんいるけど、バーリ・トゥードならペドロ・ヒーゾじゃないかな。柔術ならムリーロ・ブスタマンチ、ヒカルド・リボーリオ、そしてここにいるヒカルド・アローナが強いと思うよ。でも、ひとりを選ぶというのは非常に難しい質問だね。

―スペーヒー選手は最強には入らないんですか？（笑）。

**マリオ**　まぁ、自分で言うのはね（笑）。

―スペーヒー選手は柔術での名声はあるし、顔も映画俳優みたいにカッコイイから凄くモテるんじゃないですか？（笑）。

**マリオ**　ハハハ。なんといってもブラジルは男性より女性の方が圧倒的に多いからね。

―（必要以上に身を乗り出して）え!?　ブラジルは女だらけなんですか!!

**マリオ**　そう。それで私は非常に広い心を持っているから、多くの女性を平等に扱っているのさ（笑）。

―アハハハ。結婚はしてないんですか？

**マリオ**　ブラジルではよく「長い人生の間に、結婚する機会が3度訪れて、その中の1回がゴールする」と言われるんだ。幸いなことに私は、いままでゴールする機会を逃れることができてるよ（笑）。

―まだまだたくさんの花嫁候補に囲まれているわけですね（笑）。ボクがブラジルに行った際には、是非、スペーヒー選手のお知り合いを紹介して下さい（笑）。

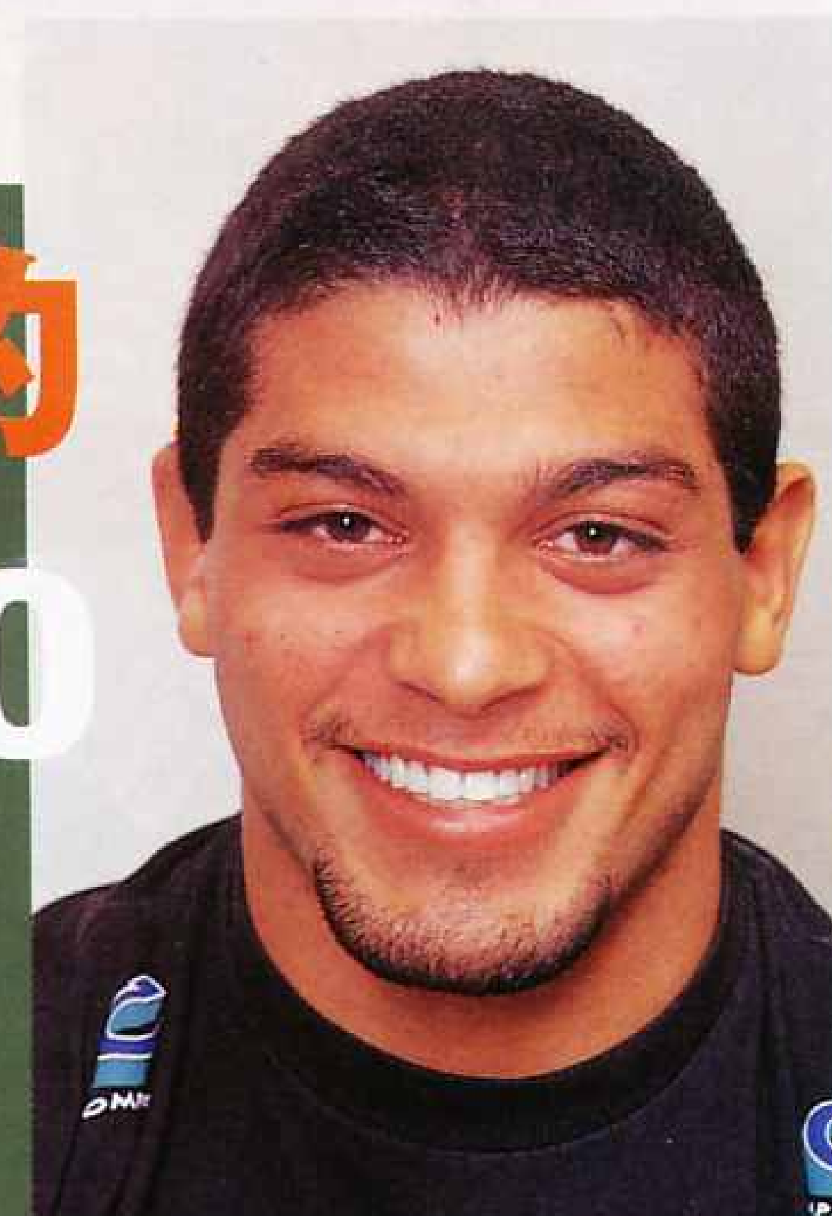
**マリオ**　ああ、もちろん構わないよ。でも一度ブラジルで女の子を知ってしまったら、日本に帰ろうとは思わなくなるよ。毎日毎日たくさんの女性が「どこか連れてって」って誘いにくるんだ。ブラジルでマジメに練習に打ち込むことが、どれほど大変なことかこれでわかるだろう？（笑）。

―アハハハハ！　グレイシー幻想が崩壊しても、ボクの中でブラジル幻想は極限まで巨大化してきましたよ（笑）。5・26東京ドーム、金原弘光危うし！（笑）。

# ヒカルド・アローナ

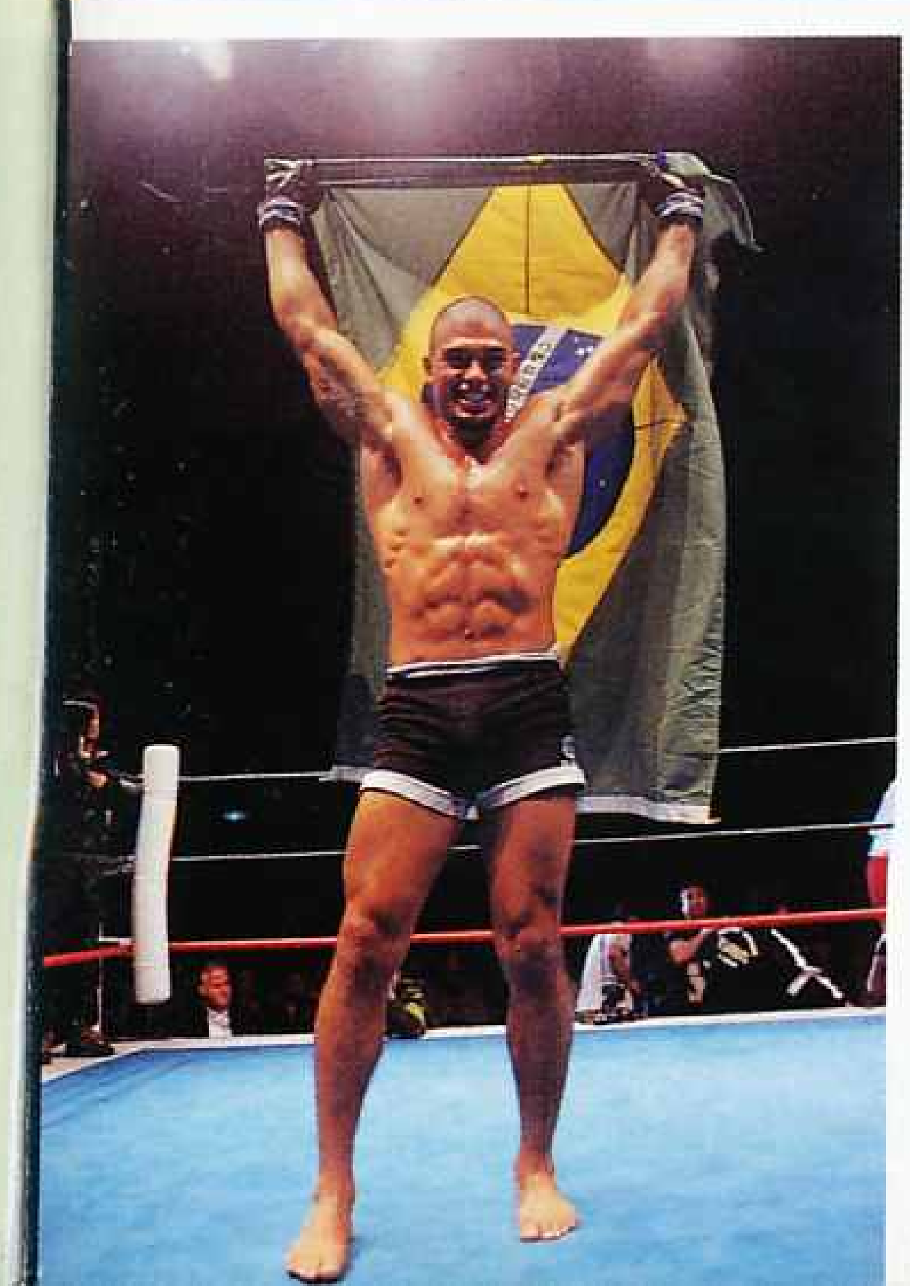


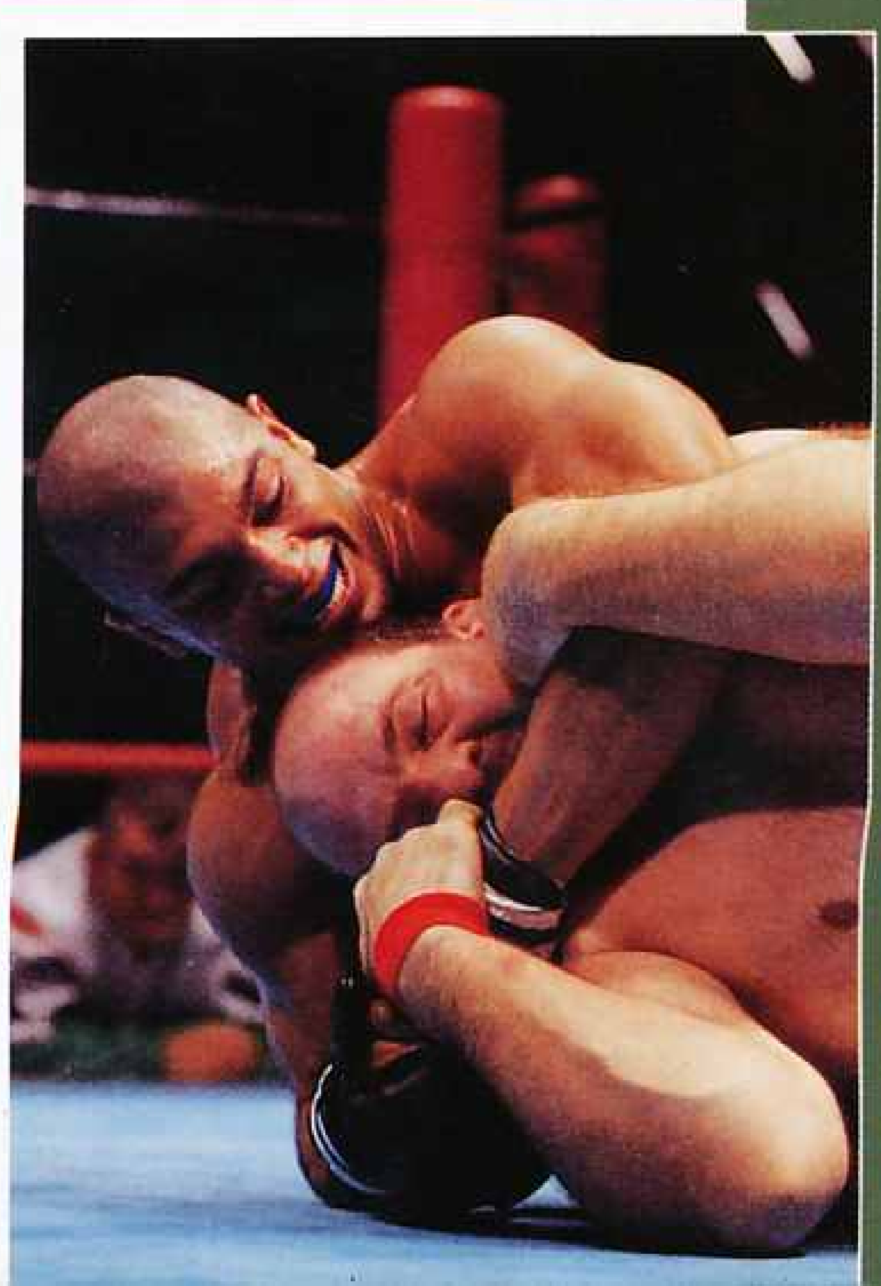
## 南米の黒豹
## Ricardo Arona



カーウソン・グレイシー柔術アカデミー所属。1978年7月17日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。180cm、93kg。前田総帥が「アブダビ」でスカウトしたブラジルの超新星。その「アブダビ」では98kg以下級で優勝。さらに伯柔術選手権3連覇、99年柔術世界選手権優勝と若干21歳にして、早くも「最強」の呼び声も高い逸材。







**本誌25号で『アブダビ・コンバット』現地取材を敢行した、椎名基樹前特派員が「今大会で最も輝いた男」と断言したのが、このヒカルド・アローナである。あの組技のオリンピックと言われる超豪華メンバーの中で一番目立ってしまうのだから、その技術レベルの高さがうかがえるだろう。この『アブダビ』優勝だけにとどまらず、99年には柔術世界選手権でも優勝しており、まさに組技世界一。しかも驚くべき事に、アローナはまだ若干21歳。これからどこまで強くなるのか見当もつかないではないか。リングスはとんでもない金脈を掘り当てたようである。**

——リングスにはどういったキッカケで参戦を決意したんですか？

**アローナ** 『アブダビ』での活躍をマエダさんが認めてくれたんだと思います。ボク自身日本で闘うことが夢でしたから、マエダさんから誘われたときは、本当に嬉しくて、それで今回の参戦が実現したんです。

——では、今回の来日はアローナ選手の夢が実現したことになるんですね。

**アローナ** そうです。ボクはずっと日本という国に憧れていたんですよ。ですから背中のタトゥーも日本語で入れたんです。

——「勝」と「兵」ですね。

**アローナ** 「ビクトリー」と「ウォリアー」「闘いに勝つ兵士」という意味で入れました。日本の皆さんがこのタトゥーを見てボクに親近感を抱いてくれたら嬉しいですね。

——アローナ選手はルックスもいいから、きっと人気がでますよ。

**アローナ** まだ、時間がなくて街には出てないんですけど、（テレながら）日本の女性とも是非お友達になりたいですね（笑）。

——みなさんそう言いますね（笑）。

**アローナ** ボク自身は男女問わず、いい友達を作ろうといつも努力しているんです。道場でも先生や仲間達と非常にいい付き合いをしています。だからボクは性格的にみんなと仲良くなるようにつとめているんです。

——アローナ選手の自己PRタイムでしたね（笑）。では、先ほどの『アブダビ』の話ですけど、あのメンバーの中を勝ち抜いて優勝とは凄いですね。

**アローナ** この大会のために非常に苦しい練習に耐えてきたからこそ、優勝できたんだと思います。それにブラジルでの予選大会は強敵が多くて、十分に準備をしないと闘えない選手ばかりなんですよ。その中を勝ち抜いてきたので自信もありました。ですからある意味『アブダビ』本戦はボクにとってはイージーでしたね。

——あの大会を「イージー」と言ってしまう選手がいるとは驚きですよ。

**アローナ** ボクは柔術の世界選手権でも優勝していますし、そういった意味で他の参加者より経験を積んできた自負があるんです。それにボクは非常にいい先生に恵まれたので、技術だけでなくて、闘いを通じて戦士としてのスピリットを養うことができましたから。

——今回の『アブダビ』でもほとんどの階級をブラジル勢が総なめにしたわけですけど、それは当然だと思いますか？

**アローナ** 確かに当然の結果と言えるところもあると思います。ブラジルの予選を勝ち抜くことは、それだけ大変なことですから。

——では、『アブダビ』の1回戦で当たったリングスの金原選手の印象を教えて下さい。

**アローナ** 非常に強いレスラーだと思いますが、あの試合で彼は開始早々にボクのタックルを許してしまったことが最後まで響いたのだと思います。

——金原選手はアローナ選手のことを「いままで闘った中で一番パワーがあった」と言ってましたよ。

**アローナ** そうなんですか。もし彼が望むなら今度はリングスで闘ってみたいですね。

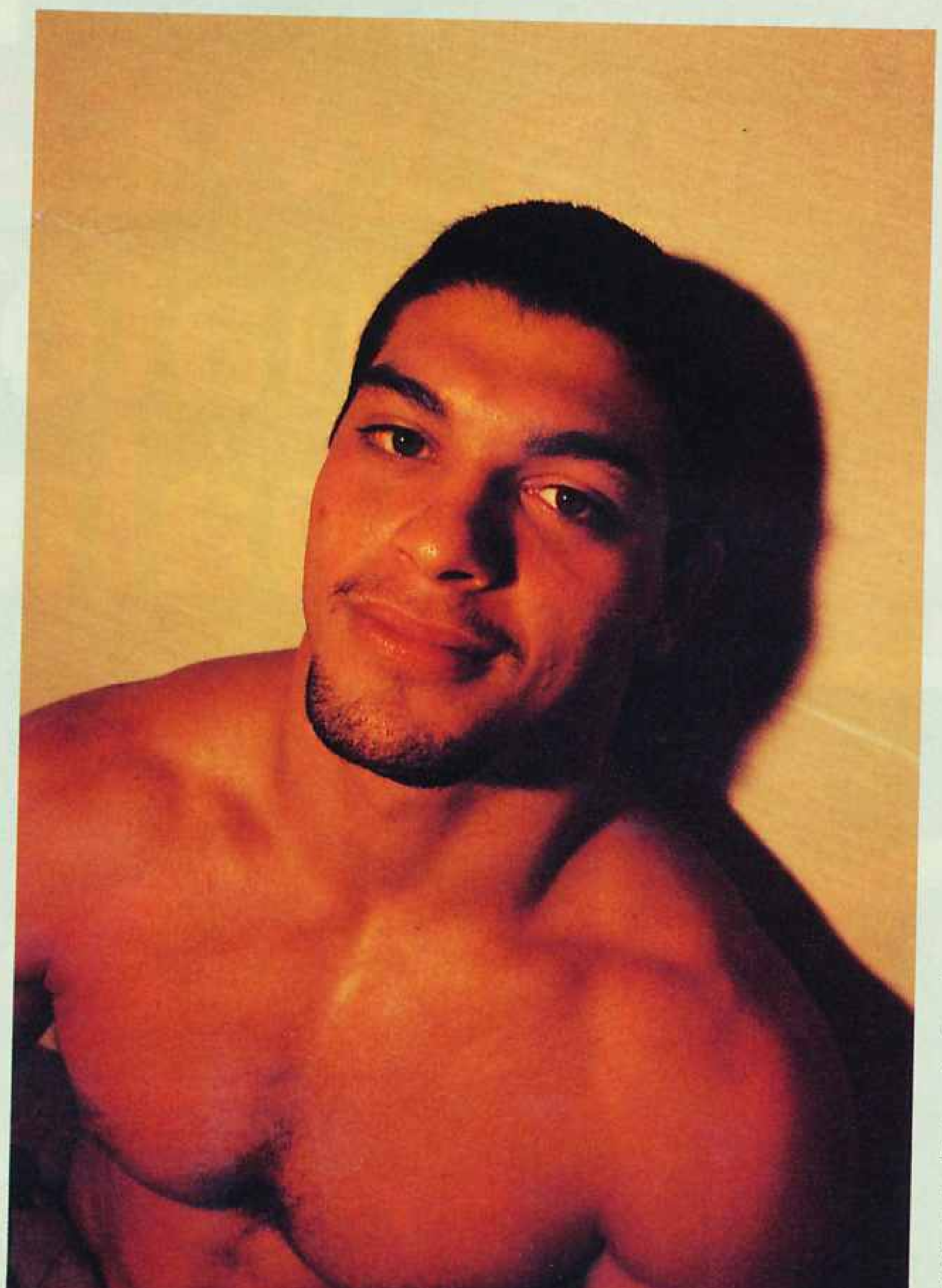
——ところでアローナ選手は、カーウソンの道場所属ということでいいんですか？

# ボクにとって『アブダビ』本戦で優勝することはイージーでした。

**アローナ** そうですね。カーウソンのチームにいます。

——インターネットではスペーヒー選手とアローナ選手はカーウソンから独立したという噂が流れていたんですけど。

**アローナ** 確かにカーウソンはボクたちに無理な要求をしてきたりすることはありました。でもボクたちは彼に敬意を持っているし、離脱というわけではないんです。ボクたちはいまでもカーウソン・グレイシー・アカデミーの一員ですよ。なんだか噂が先行してますね。



——そうだったんですか。前田さんが「アローナもリングス・ブラジル所属にする」と言っていたんで、リングスと長期の契約をする気があるのかと思ったんですけど。

**アローナ** 確かにその契約は非常に感心があります。でもその前にお互いをよく知り合う方が先決ですね。だから具体的な話はまだありませんけど、マエダさんからそういう話があれば前向きに考えたいですね。

——ところで〝プロ〟の試合に出場するのは、リングスが初めてなんですか？

**アローナ** ハイ、初めてですね。

——アマチュアとして闘うのと、入場料を支払ったお客さんの前で闘うのは、気持ち的に違いはありますか？

**アローナ** 「プロ」として闘う以上、確かにある程度の観客への責任はあると思います。でも、自分としては大会に出る以上は同じようにハードなトレーニングを積んで準備をして、いい試合を心掛けるということは、「プロ」でも「アマチュア」でも変わりません。

——では、これからの目標を教えて下さい。

**アローナ** まず、日本での実績作りが先決ですね。その後は先生と一緒にもっともっと練習を積んで、試合では素晴らしくスペクタクルなモノを観客に見せられるように、技も磨いていきたいと思います。

——では、これからの活躍期待しています。

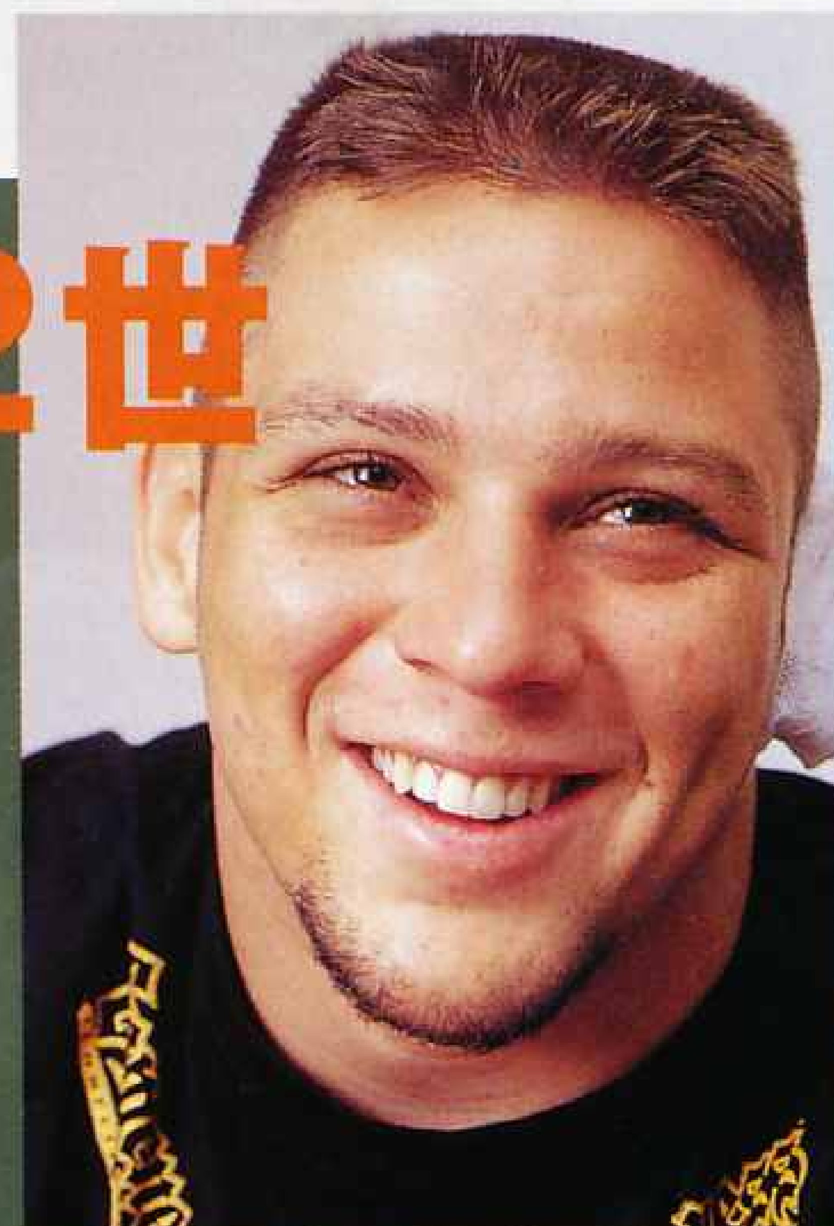
**アローナ** ありがとうございます。早くボクのファンを作れるように頑張ります。もちろん女性ファンも（微笑）。

# レナート・ババル



## 路上の王2世

## Renato Babalu



1975年9月7日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。185cm、108kg。マルコ・ファスを師匠に持ち、ルタ、レスリング（'98,'99南米王者）、ムエタイ（'92ブラジル王者）、をバックボーンに持つ、文字どおりのトータルファイター。KOKに準優勝し、リングス・ブラジル第1号選手となる。現在次期リングス無差別級王者の最有力候補。

ココバット2000
ブラジルの逆襲







**「今度来るババルって奴はねぇ、ブラジルのバーリ・トゥードのトップやで、トップ！」と、昨年の『KOK』開催前、日明兄さんが例によって自慢していたが、その言葉に嘘はなかった。KOKでは田村、ミーシャ、ザザ、ハスデルというリングス屈指の実力者を破って堂々の準優勝。リングス・ブラジル第1号選手となり、ランキングもいきなり2位に登場（このへんリングスらしくて良い）。"路上の王2世"ババルが21世紀のブラジルをリードする！**

# リングス・ブラジル所属として オリンピックに出たいんだ



——遅ればせながら、KOKトーナメント準優勝おめでとうございます。まず、その感想を聞かせて下さい。

**ババル**　悔しい、スッゲー悔しい！　決勝の判定はイーブンだと思ったんだけどね。とにかく悔しかったよ。

——あ、準優勝では満足していないんですね。では優勝する自信は当然あったんですか？

**ババル**　自信はあったよ（キッパリ）。ボクが練習をしているチーム（マルコ・ファス・バーリ・トゥード・アカデミー）は、どんな相手と闘っても充分勝てる内容の練習をしてるからね。でもホントに優勝できなかったのは残念だよ。なんせ優勝と準優勝では賞金が全然違うからね。

——優勝賞金20万ドル、準優勝1万ドルと一気に20分の1ですからね（笑）。それはさぞかし悔しかったでしょう。ところで大会前にババル選手の自宅の映像がTVで放送されて、その時に「おばあちゃんのために賞金を使いたい」って言ってましたけど、おばあちゃんは喜んでくれましたか？

**ババル**　（ニッコリして）もちろんさ。結果的には準優勝だったけど、「またチャンスはあるよ」って言ってくれて、それなりに満足してたみたいだね。

——「それなりに」ですか（笑）。おばあちゃんもなかなか欲深いですね（笑）。

**ババル**　機嫌は良かったんだけど、完全には満足してないみたいだね（苦笑）。

——ババル選手はおばあちゃんと二人暮らしなんですよね。おりいった話で申し訳ないですけど、御両親はどうなさってるんですか？

**ババル**　（険しい顔になり）両親は違う街に住んでるんだ。

——それはお仕事の関係とかですか？

**ババル**　（不機嫌そうに）ボク自身が両親とは一緒に住みたくないだけだよ。

——話したくないみたいなんで話題を変えます（笑）。KOKで闘ってみて一番印象に残った選手は誰ですか？

**ババル**　印象？　お客さんがたくさんいたってことかな（笑）。ボク自身ああいう熱気の中で闘った経験がなかったから凄く感動したよ。でも相手については特にないね。

——あの豪華メンバーでも特になし、と（笑）。では判定で勝った田村選手の印象を教えてほしいんですけど。

**ババル**　彼への声援が凄く多かったから悔しかったね（笑）。

——ここでもやっぱり悔しかった（笑）。

**ババル**　でもタムラは非常に強敵だと思ってたから、あの日の試合の中では一番良かったと思ってるよ。

——ババル選手はリングス・ブラジル所属第1号になりましたけど、リングスでの闘いが気に入ったわけですか？

**ババル**　ボク自身、リングス・ブラジルとして参戦できるということは幸せに感じてるよ。マエダサンがボクを信頼してくれたってことに感激してるんだ。KOKで闘う前はリングスについて（アレキサンダー・）カレリンが参戦したことぐらいしか知らなかったんだけど、いまはKOKの評判でブラジルでもだいぶ有名になったしね。

——ババル選手はレスリングでシドニーオリンピックを目指しているということでしたけど、リングス所属になってこれからはプロ一本で頑張っていこうという感じなんですか？

**ババル**　リングス所属になっても、シドニー行きは諦めてないよ（微笑）。5月19日に行われるパンアメリカン大会で選考あるんだよ。それを狙ってるんだ。

——プロの全然違う競技をやりながらオリンピックを目指すというのは大変でしょうね。

**ババル**　確かにレスリングには関係ないボクシングの練習もしなくちゃいけないしね。ただボク自身は、リングス・ブラジル所属としてオリンピックに出たいっていう気持ちが強いんで、選ばれることを望んでるよ。もしダメだとしても、それ以上にリングスで頑張るから大丈夫だよ。

——ババル選手は前から日本に来たいと思ってたんですか？

**ババル**　ボクには二つの夢があったんだよ。ひとつはオリンピックに出ること、もうひとつの夢は日本で闘うことだったんだ。

——日本で闘うっていうのはブラジルの選手にとって、そんなに憧れることなんですか？

**ババル**　日本は武道が生まれた国だからね。格闘家にとっては憧れの国だし、そこで闘うことは名誉なことなんだよ。だから最初は日本に来れただけで幸せでたまらなかったよ。たぶんこの国がサムライの国だったからボクにエネルギーを与えてくれるような、集中できるような気がするんだ。言葉ではうまく言えないけど、心にモノ凄く強く感じるね。

——具体的に前回の来日でどこか日本で観光したところはあるんですか？

**ババル**　（満面の笑みで）ロッポンギ（笑）。

——ガハハハハハ！　それは観光じゃないですよ（笑）。当然、ババル選手なんかだと女性にも大人気なわけですよね？（笑）。

**ババル**　アッハッハッハ！　でも日本では1人だから日本でも恋人を作りたいよ（笑）。

——ブラジルには何人いるんですか？（笑）。

**ババル**　ボクは独身だから欲しいだけ持つ権利があるんだよ（笑）。

——聞くところによるとブラジルの方はオッパイよりお尻が好きみたいですね（笑）。

**ババル**　（ゼスチャーしながら）ボ～～ン！イエ～イ！　やっぱりお尻が最高だよ（笑）。

——やっぱり尻（笑）。ではババル選手はどんなタイプの女性が好きなんですか？

ババルゥ　な～んでもいいよ（笑）。

——ガハハハハ！　根っからのバーリ・トゥーダーなんですね（笑）。

——最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

**ババル**　ボクは独身です（笑）。

——ガハハハ！　やっぱり女性ファンへのメッセージでしたか（笑）。

**ババル**　それとボクのコーチも日本で恋人を募集中だからよろしく（笑）。



この実にいい味を出しているオッチャンは、ババルの父親がわりと言っても過言ではないレイタウン・コーチ。インタビュー中もちょくちょく口を挟むお調子者でもある。

# 最強伝説よ、永遠に……

# 追悼 ジャンボ鶴田

文／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai

「某・元プロレスラーが亡くなったらしいんだけど、何か知らない？」という謎の電話が最初に入ってきたのは5月14日（日）のことだった。誰のことかもわからないし、第一そんな噂は聞いたこともなかったので、その時点では「知りません」と答えるにとどまった。だが、時が経つに連れて、その未確認情報の輪郭が次第にハッキリしていく中で、「どうやらジャンボ鶴田らしい」という情報が流れ始めた。

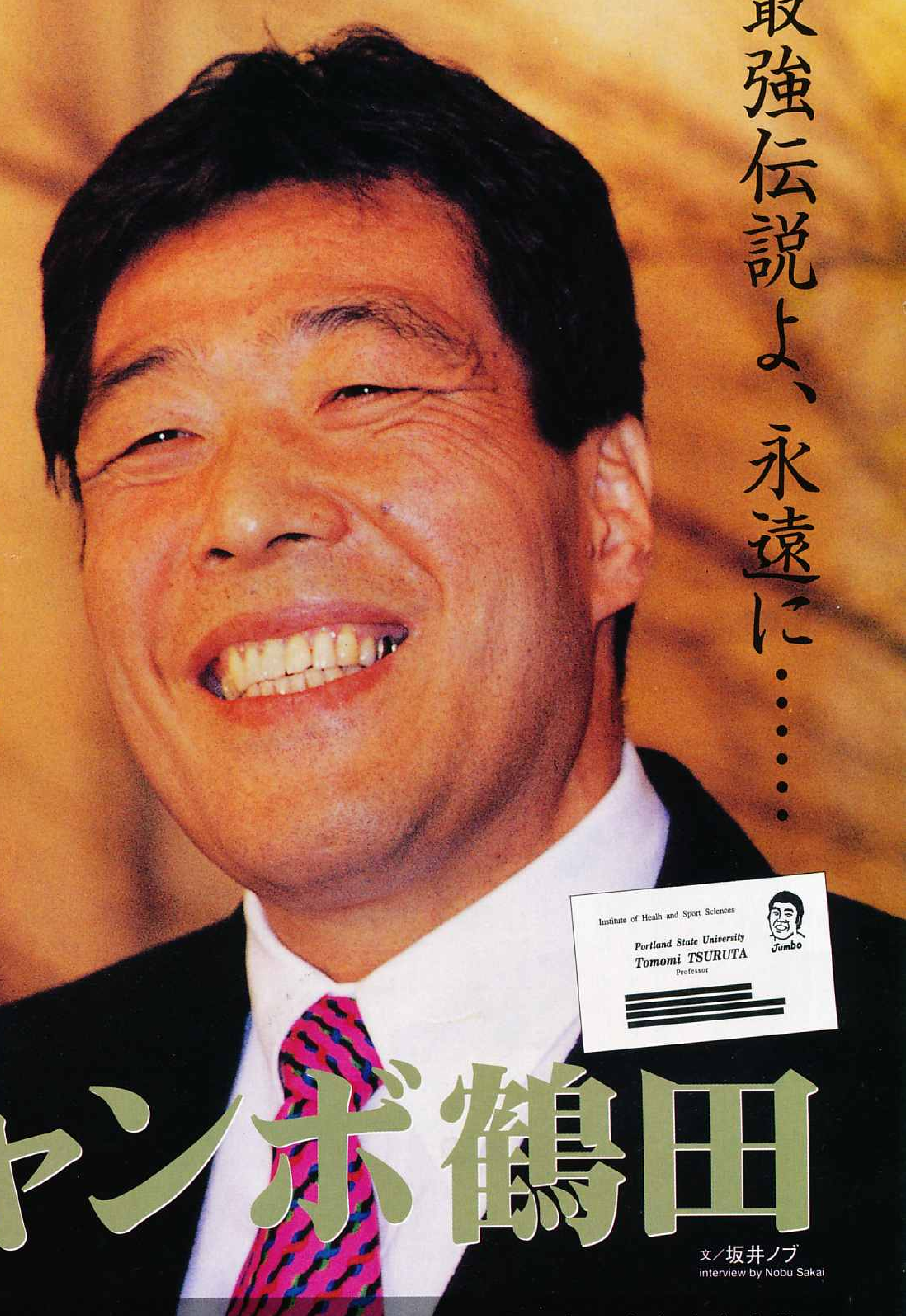
そして16日（火）の午前11時30分頃、日本テレビで「ジャンボ鶴田死去」の一報がテロップで流れ、ついにその情報が確実なものとなる。日本マット史上で空前絶後、そして完全無欠の怪物レスラーは、突然その生涯に幕を閉じた。5月13日（土）のことだった。

昨年の3月に現役引退後は、アメリカ・ポートランド州立大の客員教授として教壇に立っていたジャンボ。だが、昨年末に肝臓ガンが発見されたことで生活は激変してしまう。昨年末に帰国後、4月11日まで岐阜県内の肝臓治療に実績のある病院に入院し、肝移植を決意するとオーストラリアのプリンスベーンに転院。ドナー（臓器提供者）を待ったが、フィリピンの国立腎臓研究所でドナーが見つかったことから、急遽マニラ入り。ちなみに、ドナーは「事故で脳死状態の20歳の男性」という説と「銃で撃たれた17歳の男性」という2説ある。

だが、移植手術中にショック症状を起こして大量出血。5．8リットルもの輸血を行い最期まで戦い続けたが、手術開始から16時間後、帰らぬ人となってしまった。最後には自ら点滴を拒否したとも伝えられている。遺体は現地で茶毘にふされ、17日（水）に保子夫人とともに哀しみの帰国を果たした。

じつをいうと本誌では、スーパーバイザー・吉田豪の提案により今号でジャンボ鶴田vs前田日明というビッグ対談を企画していたところだった。ジャンボが引退の際に「闘いたかった相手」として前田の名を挙げ、あの前田が「光栄です」と答えたのは本誌の読者ならご存知のことと思う。プロレスに対して独自のスタンスを取り続ける両者が邂逅すれば、必ず新しい展開が生まれる！　そんな予感がビンビンする夢の顔合わせだった。ひょっとしたらリングスUSAのコーチに鶴田が就任？　あるいは、あの赤いブレザーを着てリングスのリングサイドにジャンボが!?　など妄想が膨らませつつさっそくボクは準備に取りかかった。

他誌の取材で日明兄さんにお会いした吉田が、さっそく対談の話を振ってみたところ「ええやん」と二つ返事で即答してくれた。さあ、あとはジャンボにコンタクトを取るだけだ！　以前、吉田が取材したときに渡米直前のジャンボから、右上の名刺をもらっていたので



連絡をしてみると……なんと、そこは大学の電話だった。てっきり自宅の名刺かと思っていたが甘かった。受話器の向こうから襲いかかってくる英語にすっかり呑まれてしまい、思わずボクは受話器を置いてしまった。結局、ジャンボとのコンタクトは取れず、企画は先送りとなった。いま思えば、その頃はすでにオーストラリアにいた時期だったのだが。

意外に思われるかもしれないが、本誌のスタッフの多くはジャンボ・ファンである。鶴田への熱い思いを語り合う座談会を掲載したこともある（本誌16号参照）。いまだにプロレスファンの間では「ジャンボ最強説」が根強く残っているが、ボクも鶴田が日本で一番強かったと思っている。だが、その決して疲れを見せない怪物的な強さとは裏腹な、ダジャレ好きで呑気すぎる性格もたまらなかった。それでいて、藤波の対戦要望をクールにいなしながら「結局、彼は社長になりたいだけなんでしょ」「マスコミを通じてああいうことを言ってくるのは間違ってる」と語ったタチの悪さに、ボクらは本気でシビれたものだ。このへんに、同じ中央大学出身でレスリング出身の桜庭和志と同じ匂いを感じる。さらに、「（プロレスは）どこまでが演技でどこまでが勝負なのか線を引けるところがないと、学問的に言ってスポーツとして認知できない」という独自のプロレス感にも驚かされること山のごとし。大学教授にまでなってしまう頭の良さには脱帽であった……もうジャンボのすべてがボクらを魅了してやまなかった。その実像は掴み所もないほどにスケールが大きい。




だが、「オリンピックに出たい」「プロレスに就職したい」「アメリカに住みたい」「教授になりたい」といった希望を自分の意志ですべてを叶えて、〝完全無欠〟の人生を歩んできたジャンボが、自分の意志ではなく、志し半ばでこの世を去ってしまっていいのか？ ジャンボ・ファンとしては憤懣やるかたない。誰よりも幸せに、誰よりも思うがままに生きてこそのジャンボのはずだ。ジャンボの人生はこんなもんじゃないだろう。マニラって何だ!? オイ！ 3日経ってもマニラの棺の前に置かれた芳名帳には、まだ誰も記帳していないそうだ。それはあまりにもさびしすぎる。

こうしてボクがジャンボの死亡記事を書いているのも、ジャンボがプロレス界にいたお陰だ。本当にジャンボが好きで良かったと思うが、「正直言って、ジャンボの死亡記事を書くぐらいだったら、自分の死亡記事でも書いていた方がまだマシだ」。そんなことを言ったら編集部で「何だ、それ」と突っ込まれだが、そんな心境である。どんな心境だ!? 意味不明だが、辛い。こんなことは信じたくない。

いまはただ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

心よりご冥福を
お祈り申しあげます（編集部一同）

### 三沢光晴
（全日本プロレス代表取締役）

僕の中では、まだ亡くなったとは考えたくない。あの人を上回るレスラーは将来出てこない。馬場さん、鶴田さんを忘れないようにやっていくしかない。見守っていてくださいというしか……。（涙ながらに思い出を振り返った）

### 藤波辰爾
（新日本プロレス代表取締役）

若い頃から何かと比較されていただけに、常に心のどこかに彼の存在がありました。「ジャンボ鶴田」がいたから、今の私がいるといっても過言ではありません。ついに対戦はかないませんでしたが（自分の）引退後にでもプロレス談義を交わしてみたいと思っていた矢先に……残念でなりません。（新日本のホームページより）

※今年の2月、藤波に宛てて「春には帰ります。そのとき一緒に食事をしましょう」という手紙をだしていたことが判明。

### 長州力
（新日本プロレス現場監督）

これからのプロレス界に力を発揮してもらいたい人だっただけに大変残念な思いです。（新日本のホームページより）

### 谷津嘉章
（SPWF）

あんなに完全無欠の人だったのにね。オレの方が少し若いけど、同世代の仲間がこんなことになってショックは大きいよ。手術してこんなことになるんだったら……な？（談）

### 前田日明
（RINGS代表取締役）

びっくりしましたね。鶴田さんといえば、アマレスのエリートですよ。大塚、桜庭、藤田といった選手たちが活躍できる先鞭を付けた人ですからね。所属団体は違いけど、何かと比較されて意識してましたよ。当時の全日本って、いまのグレイシーと一緒なんですよ。彼らがいたから強くなれたと思います。同じ時代を過ごしてきた者として、ジャンボ鶴田という名前を消さないためにも、この業界を発展させていきたいと思います。（5月17日の会見にて談）

### 黒瀬悦成
（読売新聞ニューデリー特派員・珠玉のジャンボ本『第二のゴング』著者）

第二の人生の幕を切ったばかりだった。大学教授として学究生活に打ち込みたいという夢に、ようやく手が届きかけた矢先だった。その無念さは、察するに余りある。

「リングから学窓へ華麗なる転身」……鶴田氏は、病を得ることで結果的に新しい〝顔〟を手に入れた。その真意が聞きたくて鶴田氏のもとを訪ねたのは、'96年の夏のことだった。そしてわかったのは、鶴田氏を鶴田氏たらしめているのは、プロレスラーとしての強烈なプライドだったということだ。

忘れられない出来事が二つある。

一つは、初対面の時、横浜にある全日本プロレス道場の練習用のリング内で写真撮影をお願いした際のことだ。初めて上がったリングのキャンパスは、薄いウレタンが敷き詰められた板の上に水色の布が張られている構造で、感触は意外に柔らかい。思ったままを口にしたら、鶴田氏は途端に顔色を変え、短く言い放った。

「だったら試しにトップ・ロープからリングに飛び込んでみますか？」

自分の仕事を軽く思われた、と感じたのだろう。〝プロレス村〟の外に住む人間に対し、とっさの防衛本能が働いたのかもしれない。その語気に気圧されていたら、鶴田氏は1、2秒後にはあの人なつこい笑顔に戻ってインタビューの開始を促した。

そのときの記事は、数日後の夕刊に大きめに掲載された。ただ、リング上でのやり取りが災いしたのか、本音に迫れた、という実感が今ひとつ薄かった。以降、足しげく鶴田氏のもとに通い、時間をかけて聞き取った話を『ジャンボ鶴田・第二のゴング』（朝日ソノラマ）という本にまとめ、鶴田氏が引退・渡米する直前に出版にこぎ着けることになるのだが、本の最終章を書くため、引退を決意した直後の鶴田氏に電話をしたときのやり取りもまた、頭から離れない。

「引退したくてするんじゃない。全日本プロレスの役員は退任するにしても、形だけでもレスラーのままでいたかった」

その声は、確かに怒っていた。だが、数秒後には、米国での研究生活の見通しを楽しげに話し始めた。まるで、リングへの未練を断ち切るように。だが、リング上での栄光こそが、鶴田氏が新天地を目指すバネになっていた。最後までプロレスを、そしてレスラーとしての自分を愛していたのだと思う。その意味で、鶴田氏は「天才」であり「天性のスター」であり、師匠のジャイアント馬場さんと同じ「生涯プロレスラー」だった。

### 桜庭和志
（高田道場・中央大学の後輩）

お会いして一度ごあいさつしたかったのですが、お会いする機会がなく残念でした。

（敬称略・順不同）

JPEC SYSTEM PRESENTS

# 女子総合格闘技 ReMiX WORLD CUP 2000

『トゥナイト2』などで美少女キックボクサーとして脚光を浴びているバンビちゃんが、『ReMiX』に参戦する!! というのを篠社長から「バンビがでますよ! 独占取材して下さい!!」と一報を受けた そして、5/8女子ボクシング『LADY GO! 2000part-Ⅱ』出場のため来日しているという ならば、行くしかない! キックボクサーのバンビちゃんがキック界からボクシング(惜しくも判定負け)のみならず、総合まで乗り込む心意気を知れ!

## ReMiX無差別級に 美少女キックボクサー バンビちゃん参戦表明!!

「うふふふ。無差別級で出場よ。だって楽しそうなんだもん! 今まで寝技なんてやったことないけど問題ないわ。だって、モーリス(・スミス)のジムで毎日勉強中よ。モーリスのことはトータルで尊敬してるわ。もちろん、TKもいるのよ。彼のことは大好き♥ナイスな人。TKが最初ジムに来た時って、なに喋ってるかわからなかったの(笑)。でも、彼は勉強家よ。今はコミュニケーションに困ることなんてないわ。私にとって凄い心強い先生たちよ。とにかく命懸けでやるわ。絶対、優勝よ!」

そしてバンビちゃんのマネージャーでもあり、フランシスコ・フィリオなど「K―1」戦士の指導もするカーク・ジャンセンが衝撃発言!

「TKとモーリスはこの大会ではバンビのセコンドにつくんだ! バンビに立ち技を教えてるのは私だ。そして、寝技を教えるモーリスとTK、この3人が指導していて負けるわけがないだろう。TKはもちろん、日本のファイターは優秀だ。特にサクラバはグレイトだ!」

あくまでも強気な姿勢を貫き通すカーク&バンビちゃん。母親はアメリカ生まれアメリカ育ちの日本人ということで、大和撫子魂も兼ね備えている。

モーリスジムのバンビ、女ヒクソンことレカ、エンセン井上率いるピュアブレッド大宮所属の山本姉妹、アニマル浜口の最強遺伝子・浜口京子などまだまだ交渉中ではあるが、もし実現すれば弟子たちによる代理戦争という別の見方でも楽しめそうだ。実際、八木淳子、レカ、バンビと無差別級出場者は8人枠のうち3人しか現段階では正式決定していないのだが……果たして『ReMiX』は女版『PRIDE』に成り得るのだろうか?

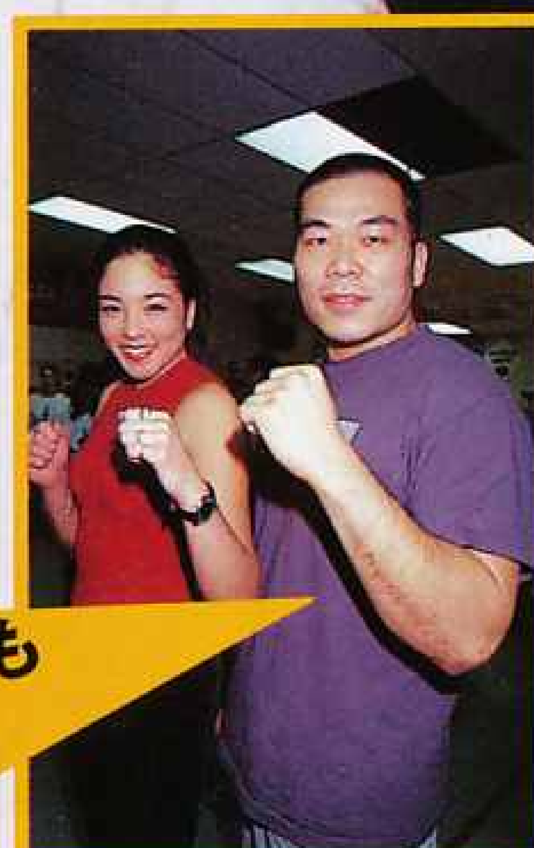
### たったひとりのカラー写真名鑑2000

### バンビ・バートンチェロ



❶バンビ・バートンチェロ❷1979・6・18❸アメリカ・ミシガン州❹わかんな～い♥❺164cm❻60kg❼1997・11・21、ワシントン州リンウッドvsモニカ・ディクソン(1R、1分12秒TKO勝ち)❽モーリス・スミスキックボクシング・センター❾UFCFインターコンチネンタル・フェザー級王座、ISKA・USフェザー級フリースタイル王座❿キック3年⓫右ストレート⓬ジェットスキー、バレーボール⓭ハリソン・フォード⓮パスタ、日本食では焼きそば&ラーメンが好き⓯バンビ⓰特にいないです。⓱「とにかく、優勝するわ」

①本名②生年月日③出身地④血液型⑤身長⑥体重⑦デビュー戦⑧格闘技歴⑨主要タイトル歴⑩スポーツ歴⑪得意技⑫趣味または特技⑬好きな有名人⑭好きな食べ物⑮ニックネーム⑯ライバル⑰抱負



TK、モーリスもセコンドに!?

バンビ・バートンチェロ
モーリス・スミス・キックボクシング・センター



◐バンビちゃんの師匠・カークさん



電撃参戦決定 女ヒクソンことレカ・ヴィエラ!!

### 篠社長はこう見る!!



ReMiX 篠 泰樹 代表

嬉しい悲鳴ですね。だって次々と選手からオファーがくるんですから。今回はレカとバンビが無差別級に出場することが正式決定したんですけど、女ヒクソンと女モーリスなんて幻想が膨らみませんか? でもまだまだアッと驚く強豪選手と交渉中ですから期待しててください。ボク、そのために近々アメリカへ飛ぶんですよ。あと試合当日に特別試合が何試合か組まれるんですけど、1試合で武道館クラスなら超満員にする選手が決まりそうなんですよ。もちろん、日本人vs外国人選手です。次号の『紙プロ』さんの発売日にはご報告できると思いますんで、みなさん楽しみにしていて下さい!

4/11 ➡ 5/15 マット界の1ヶ月丸わかり

# 紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所：(株) ダブルクロス

**5月号**

当『紙の新聞』マスコット・キャラクターであるユセフ・トルコさんが、とある事情により大激怒！　そんな事情とは関係ないところで、この『紙の新聞』も編集長が変わりました。さてさて、その真相や、いかに!?　詳報は次号を待て！

編集長／坂井“スモー”ノブ

本誌メインキャラクター「オレは久しぶりに怒っている」なユセフ・トルコさん（69＝シックスナイン）



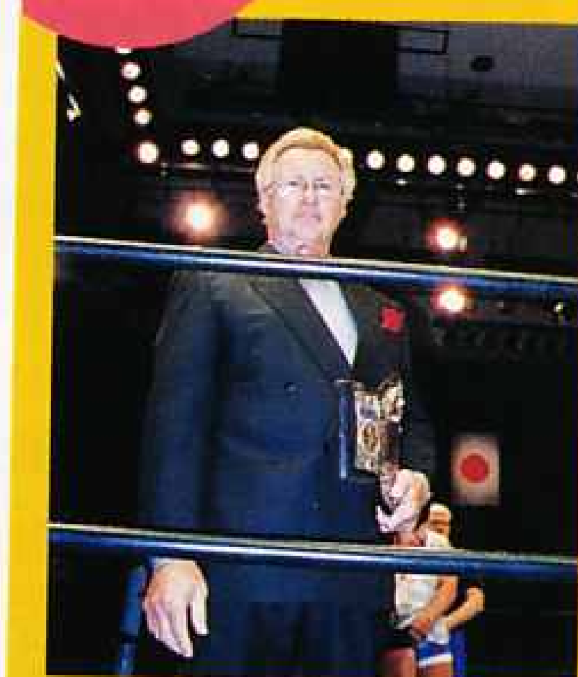
## 4/14 【UFC－J】東京・代々木第2
### 菊田激勝！ 美濃輪爆発！ されど…。




男にはやらなきゃならない時がある。そして載せなきゃならない写真がある。プライド・ガールズ、コロシアム・ガールズ、ロシア美女などなど格闘技界はラウンドガールばやりだが、UFCガールズのアルティメット・ブラジル風ファッションは文句なし！

【FMW】太田エースホテルで荒井社長全選手を対象にリストラ勧告。【新日本】気仙沼・福田雅一選手が試合中に意識不明の重体、緊急開頭手術。

## 4/14 【JPWA】東京・後楽園ホール
### なんとニックがAWAベルトを販売！



JPWAに来日した米国チームのニック・ボックウィンクル監督が、バーン・ガニアから奪ったAWAのベルトをオークションに出した。故・ジャンボ鶴田もスタン・ハンセンも腰にまいた由緒あるベルトである。テーズといい、ニックといい、やることが凄い！

【全日本】小橋からフォールを奪った高山が、「スーパーパワー・シリーズ」を「スーパー・ノーフィアー・シリーズ」に変更要求！

## 4/11 【掣圏道】東京プリンスホテル
### 沈黙を破り、掣圏道再始動



押忍！（敬礼）。“愛の格闘技”掣圏道SAボクシングが6・11横浜アリーナで『アルティメット・ボクシング』としての再旗揚げすることが発表された。今回は佐竹雅昭ら『PRIDE』との全面対抗戦となり、PPV放送も決定！　2010年の格闘技界を見よ！

【FMW】後楽園大会に久々、ハヤブサが登場。【全日本】金沢・CC準決勝で小橋が三沢を破り決勝進出を決定。

## 4/15 【全日本】東京・日本武道館
### 小橋が大森を破り、チャンピオンカーニバル初優勝

もし大森隆男が勝てば、全日に革命が起こるハズだった。「スーパー・パワーシリーズ」が「スーパー・ノーフィアーシリーズ」に改名！　ノーフィアーのグアム&サイパン慰安旅行！　次のシリーズで全てのタイトルに挑戦！　エースよりも大きなムーブメントが起こるはずだった……が、小橋の優勝ですべては夢と消えた。

## 4/13 【新日本】『東京スポーツ』
### 蝶野、悩める破壊王に友情のエール




「負けたら即引退スペシャル」という、どうにも重い十字架を背負わされてしまった破壊王に、極悪バタフライ（c辻アナ）がチラリと優しさを見せた。「お前は、オレと同じで遅刻の常習犯。次のシリーズでいきなり出てきたら面白い人に迷惑を掛けるのが橋本のキャラクターだろ？　お騒がせの迷惑野郎なんだから」と、『中学生日記』を見ているようなあったかい憎まれ口を叩く蝶野に、「この人、ホントは悪い人じゃない」幻想が高まったことは言うまでもない。一気にベビーフェイス転向か？

## 4/17 【PRIDE】東京・高田道場
### サクの左足を壊したのは…？

サクが『PRIDE』を前に「猪木入り」（by東スポ）した模様は前号でもお届けしたが、そこでとんでもない事態が起こっていた。猪木が、左足を痛めていた桜庭にアキレス腱固めを極めてしまったのだ。そんなことは知らない猪木はネクタイ&ワイシャツ姿のまま熱烈指導。本来ならばもっと楽に勝てたかもしれなかったのだ。

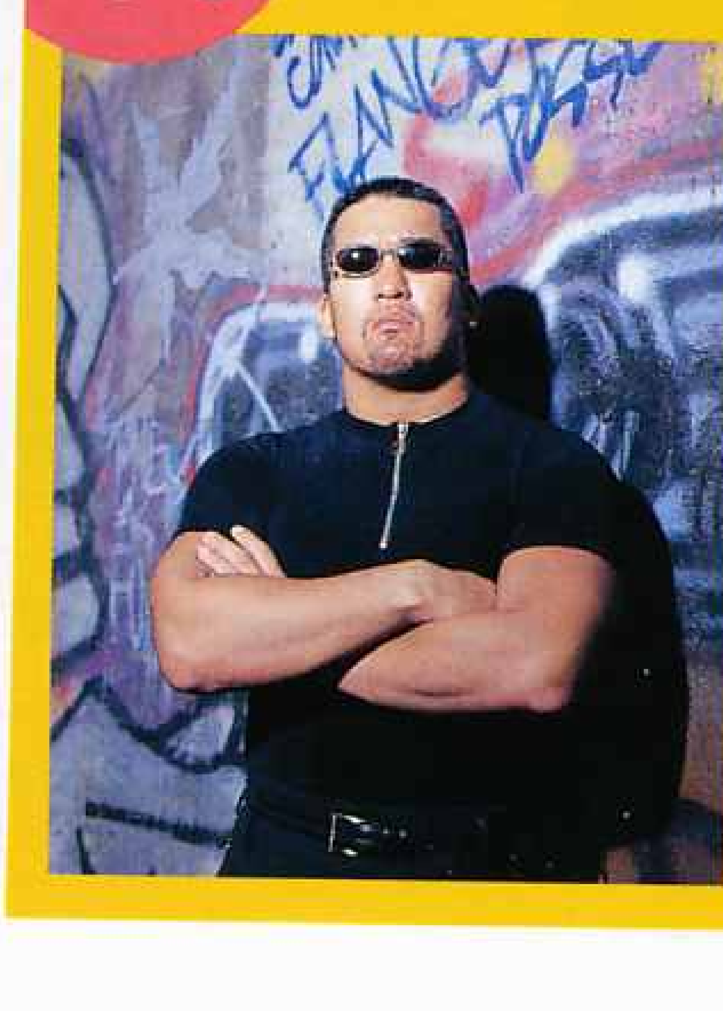
## 4/18 【新日本】『東京スポーツ』
### ダーク・ドラゴン出現!!




（16日からの続き）蝶野発言を聞いた藤波はポツリと一言――「蝶野はクビだ」ワァ～オ！　さらに「社長権限で潰してやる」とも語った！　いままで本誌が散々書いてきた、ドラゴンの“闇の部分”が、遂に白日の下に晒されることとなった。『ダーク・ドラゴン』の出現である。「生半可なことじゃ済まさないよ」――そう語ったにもかかわらず……5・5福岡ドーム大会では、自分自身が生半可な体調で出てきてしまい6分半で敗戦。

【JWP】美咲華菜がオープンフィンガーグローブを着用した。

## 4/16 【新日本】埼玉・吉川市総合体育館
### 蝶野、痛烈に藤波を批判!!



本音炸裂！　福岡ドームで、藤波社長の引退ロード第1戦の相手に決定した蝶野の不満が大爆発！　「4・7で見せた新日本の路線を俺は許さない。これもすべて藤波社長が無能なせい」とすべてを藤波の責任に！　さらに「意見はいつも玉虫色。上の人間にペコペコして、下の人間に滅法強い藤波社長は、まさしく腐敗した日本の政治家そのもの。藤波社長はプロレス界に必要のない人間だ」と一刀両断！　しかし、これが藤波の呪いの導火線に火をつけてしまったことは、この時点では誰も知る由はなかった……（18日に続く）

【OZアカデミー】Zepp Tokyoで第4回OZ主宰興行を開催。

## 4/19・20 【新日本】東京・霊源寺
### 福田雅一選手の通夜と告別式がしめやかにいとなまれた



「右脳、左脳、小脳、延髄と死んでいっても、福田の脈は動いていた。強い脈拍が何十時間も続いた。最期は血圧が上が30、下がひとケタ台まで落ちた。それでも福田は、血の一滴になるまで戦い抜いた」と最期を看取った破壊王は、福田の壮絶な「生き様」をかくもドラマチックに語った（日刊スポーツより）。福田がこれだけ壮絶な「闘い」をやってのけることができたのも、プロレスラーの強靭な肉体があったからこそだろう。この日は福田の戦友たちが数多く集まっていた。新日勢はもちろん全員、夢ファクの同僚たち、バトラーツや無我の選手たち、A・猪木、馳浩、藤田和之、北沢幹之さんなど、本当に多くの人々が福田選手と最期のお別れにやってきた。特に長州力現場監督と橋本のショックは非常に大きく、2人の憔悴しきった表情が印象的だった。月並みな言葉だが、こうした悲しい事故が二度と起きないことを本当に望みたい。福田選手のご冥福を心よりお祈り致します。

【リングス】田村がアイブルに敗れ、リングス無差別級選手権、初防衛に失敗。アイブルが第4代王者に。

## 4/19 【LLPW】東京・後楽園ホール
### イーグルG－MAX離脱！



カレリンとの接触に成功するなど、乗りに乗る風間社長。この日も貴子とのコンビでトーナメントを制し、返す刀で対戦相手のイーグルも仲間に引き込み勢力。試合後は観客の「セクシー」コールに応えてセクシーポーズを連発。もはや誰にも止められない状態であった。

## 4/23 【リングスタッフ】TOKYO—FMホール
### 史上初の別キャラ大会、開催



『お前、平田だろ！』と題されたこの日の大会は、普段は素顔や別のキャラクターで活躍する選手が、マット界のどこかで見たようなキャラクターに変身して登場する一夜限りの企画。さすがは、"プロレス界一の怪しいグッズ売り" そして、リングアナ史上最多団体出場記録更新中のパンチ田原！　あなどれませんな。メインには、ペプシ・ボーイ＆コーラ・キッドが関東地区初見参を果たし、対戦相手にはこれまた激シブのブラッディー・ブルースA＆Bが登場。マニアを狂喜させた。

## 4/21 【新日本】東京・後楽園ホール
### "虎ハンター"小林邦昭が引退

新幹線の食堂車のメニューを大阪→東京間で全て食い尽くした男・小林邦昭が、この日引退した。食堂車が姿を消した年に引退というのも何かの因縁か。本誌前号で久々に公の場に姿を現した斉藤彰俊を始め、青柳館長、カブキなどが登場して、リング上はほんの一瞬、維震ワールドに染まった。おつかれさまでした。

## 4/22 【キングダム・エルガイツ】福岡・西日本総合展示場
### "U"は死なず!!

この日、タノムサク鳥羽vs村浜武洋という格闘技ファンとインディーマニアと村浜ファンとタノムサクファン垂涎のカードが、キングダムのリングで実現！　さらに、中野vs内藤という10年越しのUWFマッチも実現！　田村以外にも、"Uの遺伝子" はキングダムにも残っているぞ。

## 4/26 【新日本】『東京スポーツ』
### ダーク・ドラゴンまたも吠える




5・5が近づくに連れて、新日は『東スポ』紙上で熱い舌戦を繰り広げている。昨年の社長就任以来、その発言のひとつひとつが注目せざるを得ない藤波社長が、この日も爆発！　肩の負傷を理由に欠場すれば、小川を新日から永久追放するという。ああ、ダーク・ドラゴン再び！　怖い！

【新日本】G－EGGSにブライアン・ジョンストン加入。

## 4/25 【FMW】東京・ON AIR EAST
### キップを売る者が勝つ！



「地方にキップを売りに行って見ろ。この3人以外は誰も名前を知らないんだから」と、エンターテイメント・レスリングの総帥らしい正論を語った冬木（パートナーはチョコ＆京子）。だが、それでいいのか、というツッコミも一応入れておかねばなるまい。アメリカでは大人気なわけだし。

【新日本】新日本隊vsT2000のイリミネーションマッチは、T2000の勝利。

## 4/23 【ガイア】東京・後楽園ホール
### GAEAの［RAW］またもや超満



植松の活躍で「卑彌呼」一矢報いて有明に弾みをつけた千種はコメント終了後、「ウチらは人気者だから、これからサイン会やるぞ」と宣言。この突然のサービスに後楽園のロビーは見たことない程の大混雑。何かがおこるGAEA後楽園。休憩中でも注意が必要だ。

## 4/27 【みちのく】バトラーツジム
### 平直行、サスケと共に公開練習




前田日明が海外遠征から帰国した際には12種類のスープレックスを引っ提げて鳴り物入りで凱旋したものだが、平が持っている12種類の必殺技のうち4つを公開した。そのうちのひとつ「キャプチュード」は前田公認だとか。テーマ曲ももらいたかったのだが、言い出せなかったようだ。「プロレス界に革命を起こしますよぉぉぉ～！　人生にはプロレスを教えるつもりで闘ってほしかったけど、この技を見たら平さんは絶対勝てますよ！」と、サスケが太鼓判を押すのも納得の仕上がりを見せてくれたのだった。

## 【猪木事務所】『東京スポーツ』
### 藤田アメリカで地下プロレスに挑戦！



アントニオ猪木周辺には、なぜかいつもドラマチックなことばかり起きる。アメリカでずっと調整していた藤田が、なんと酒場の地下プロレスに出場していたのだ。キャプチャーの地下室マッチではない。なぜか、「SAITO」という偽名で登場した藤田は、1日2試合をこなし、当然のように2連勝を遂げた。翌日の『東スポ』や今回の本誌のインタビューでも「あれはオレじゃない」と否定していたが、藤波社長が見ても「お前、藤田だろ!?」と正体をバラしてしまうことは間違いない。この調子で格闘ロマンの道を突き進めーッ！

## 4/29 【Jd'】後楽園ホール
## ライオネス飛鳥、CEOに!!



ストーンコールド、前田日明に続いて、マット界にまたひとりCEOが誕生。クラッシュ復活とは別に、Jd' で孤高の王者として君臨するライオネス飛鳥が、Jd' のCEOとなることが決定。果たして飛鳥は会議室でビールをがぶ飲みするのか、それとも赤いブレザーを着るのか?

【GAEA】ブラディーが登場!!

## 4/28 【アントン劇場】
## もうデブとは言わせない？ 橋本減量に成功!




あのオーちゃんが激ヤセした断食ダイエットに破壊王も挑戦、見事に体重を５キロ落としてみせた。食事は栄養バランスに考慮した野菜ジュースのみという超粗食で、体内の悪い物質を抜くのが目的だとか。まあ、『アントニオ猪木自伝（文庫版）』によれば、「彼がもし女だったら、正常な妊娠は望めない」というとてつもない体調だっただけに、橋本自身も「あと10回は通わないと」と、少しは身体に気を使い始めた模様。そんな破壊王を猪木はどんどん焚付けていく。「福岡ドームで10人掛けやれや！」「小川も、全員並べてやれ」とムチャクチャを言い出す猪木。橋本は「ボクは引退になってます」と立場をわきまえた発言。すると猪木は「そんなの……いいんたい！（＝引退)」と、４・７をまったく振り返らない、ダジャレで切り返す。やはり、新日本で最も「破壊王」の称号が相応しいのは、猪木なのかもしれない。

【アルシオン】板橋大会で、ビジュアル軍団「VIP」が初のそろい踏み。

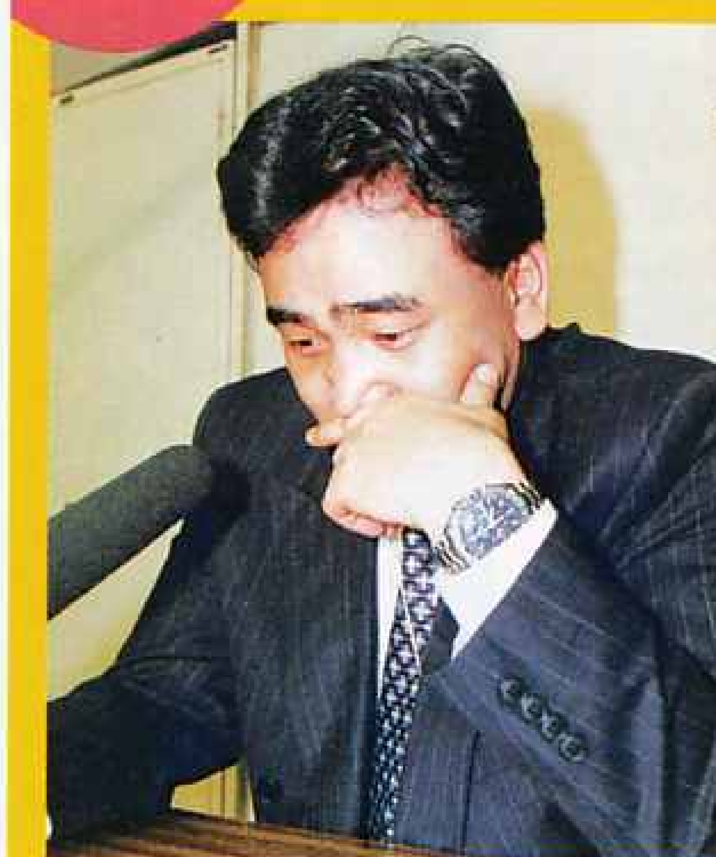
## 5/1 【PRIDE】東京ドーム
## 歴史的一戦をエリック・クラプトンが観戦



大の格闘技ファンということがいきなり判明したエリック・クラプトンが、１月に続いて今回もリングサイドで観戦した。試合終了後には桜庭の控室にまで訪問した。ちなみに、ドアを開けたのは高田延彦だった。この他、リングサイドには今田耕司（須藤元気Tシャツ着用)、松本人志、ドラゴン・アッシュ、佐藤浩市、石黒賢、本誌前号に登場してくれた伊賀大介さんなど、そうそうたるメンツが揃っていた。ちなみに、大刀光関にはチケットが送られず、なぜかスモーノブが言って急遽『PRIDE』に席を用意してもらった模様。

【LLPW】貴子と風間のユニットが大暴れ!!

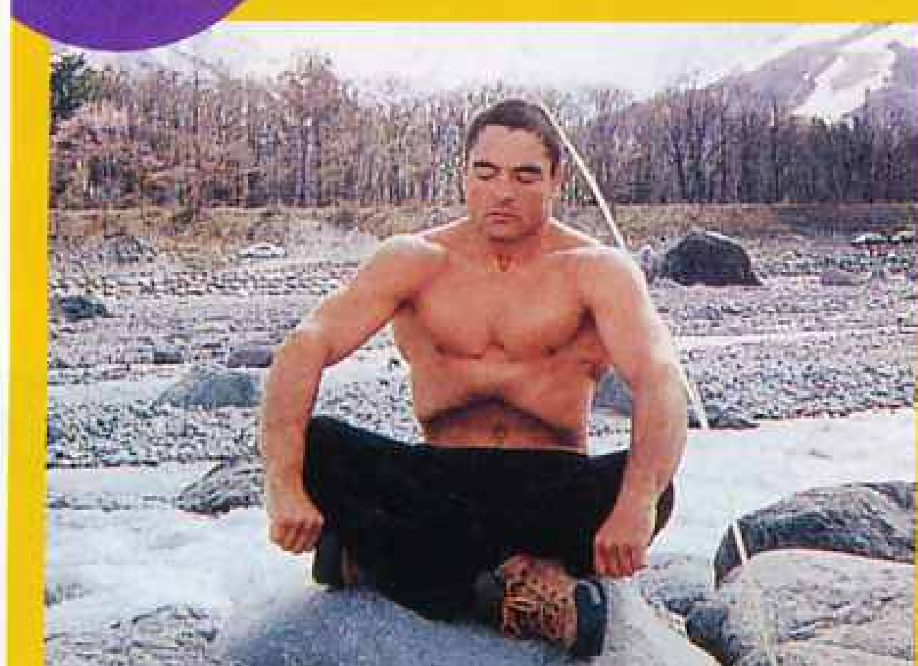
## 4/30 【パンクラス】横浜文体
## ヒクソンの横暴に尾崎社長号泣!



船木vsヒクソン開催危機！ この日の試合前、パンクラス尾崎社長が涙の会見を行った。これはヒクソン陣営の「ヒジ、頭突き禁止」という要求を全面的に認め、船木側の要求が全く受け入れられないことに対して、「船木、近藤、須藤のコロシアム出場を白紙に戻したい」ということを発表したもの。涙の会見という実に尾崎社長らしいアピールであるが、これが前田社長だったら「グレイシーはずるいんや!」と叫んで、机を叩き割っていたことだろう。まあ、グレイシーの理不尽要求は毎度のこと。そんなことに負けず、船木頑張れ。

【FMW】田中が冬木をブン殴りECWーJのドンに。H、京子にシングルでフォール勝ち。工藤あずさ、元川とユニット結成。

## 5/3 【コロシアム2000】長野県白馬村
## ヒクソン、山篭りスタート!



来日したヒクソンは、キム夫人、弟のホイラー、息子のハクソンを伴って恒例の山篭りをスタートした。座談会で書いてあるように、本誌と『SRS―DX』を除いた中でヒクソンの調整はスタートした。この日はマスコミ用の取材日だったらしく、比較的軽めのトレーニング（なのか?）に終始。川岸でヨガ式の呼吸法をヒクソンが披露すれば、相変わらずマナーの悪いハクソン君は二宮金次郎の銅像によじ登ってみたり、家族全員で日本食を箸で食べてみたりと非常にリラックスしたご様子。いつもと何ら変わらないヒクソンに死角はあるのか!?

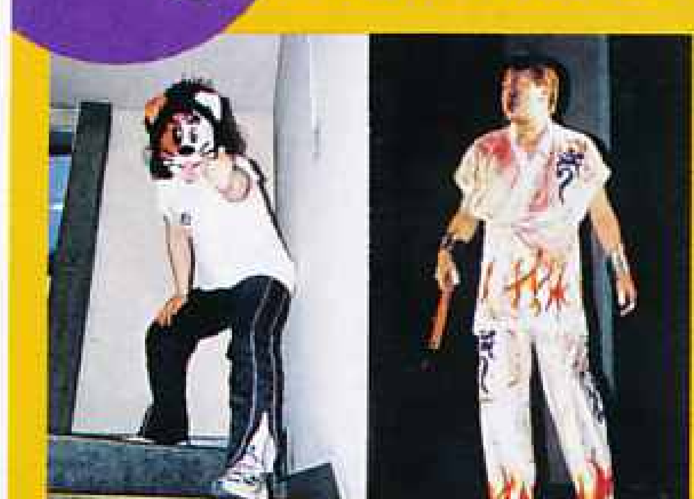
【全日本】新潟でのトークショーで「三冠獲ったらハワイ旅行だ！」と要求

## 5/2 【高田道場】東京・高田道場
## 高田道場に入門希望が殺到！




「こちらの主張が認められない」と泣く尾崎社長よりも、相手の主張をすべて呑んだ上で完勝した笑顔の桜庭に賞賛が集まるのは自然の摂理というものだろう。やはり、世間は結果でしか判断しない。というわけで、『PRIDE. GP』から一夜明けた5月2日、入門希望者、見学希望者、SSマシン風マスクやTシャツに関する問い合わせなどで高田道場の電話はひっきりなしに鳴り続けた。最近では、高田道場の周辺で出待ちまでして、桜庭にサインをねだる女子まで出現しているとか。

## 5/7 【大阪】大田区体育館
## 最初で最後のニセグレート・ニタ!



骨肉腫で引退してしまうニセ大仁田が、最初で最後とニセ・グレート・ニタに大変身。そういえばニタの復活も大阪南港だった。ちなみに相手は、犬仁田厚。もはやニセモノという概念すら飛び越えて小学1年生の漢字テストのレベルである。あるいはダ邪レ?

## 5/5 【新日本】福岡・福岡ドーム
## パワー・ウォリアーが久々に登場!



ムタvsパワー・ウォリアーの試合に、パワーは人生のタッグパートナー・北斗晶を同伴！ なんとムタにノーザンライト・ボムをお見舞いしてしまった。この流れで、この日リングサイドにいた藤波かおり夫人には、いずれ藤波のマネージャーとしての登場を願いたい。

【FMW】駒沢球技場にて、冬木が引退を撤回して天龍に挑戦表明。新崎人生が来場。

## 5/4 【新日本】『東京スポーツ』
## アントニオ猪木が長州抹殺を指令!




新日本の現場監督・長州力とアントニオ猪木の確執が表面化してきた。長州vs大仁田がなかなか正式決定しない隙に、小川vs長州が一気に実現しそうな動きが出てきた。5・5に出撃する小川には「抹殺指令」なるものまで下し、いよいよ猪木が長州征伐に乗り出す!

【みちのく】宮城大会で平直行が36歳にしてプロレスデビュー戦を行う。

## 5/11 【IWA】
### 今度の浅野社長の助っ人は“凄玉”だ！



ターザン後藤と果てしない抗争を続けるIWAの浅野社長に強力な援軍が現れた。その助っ人は、ゴージャス・ミッチェル・スターという何とも粘着質な名前で、得意技は股間モミモミとキスだという。ジェイソン・ザ・テリブルも「一目見て絶対気に入る」と太鼓判を押すほど。新宿2丁目近辺で興行を打てば大盛況間違いのないところだろうが、なぜか岩手&青森&北海道での3連戦だけに出場するのはもったいない話。あるいは、北のハッテン場を限定でサーキットしているのか？　謎は深まるばかりである。

【バトラーツ】臼田が田中稔に勝ち、インディーJr.ベルトを奪取

## 5/10 【新日本】『東京スポーツ』
### 藤波が断言！　長州は、小川に勝てない！


藤波 長州に辛口ゲキ

永遠のライバル

イバラの道だよ

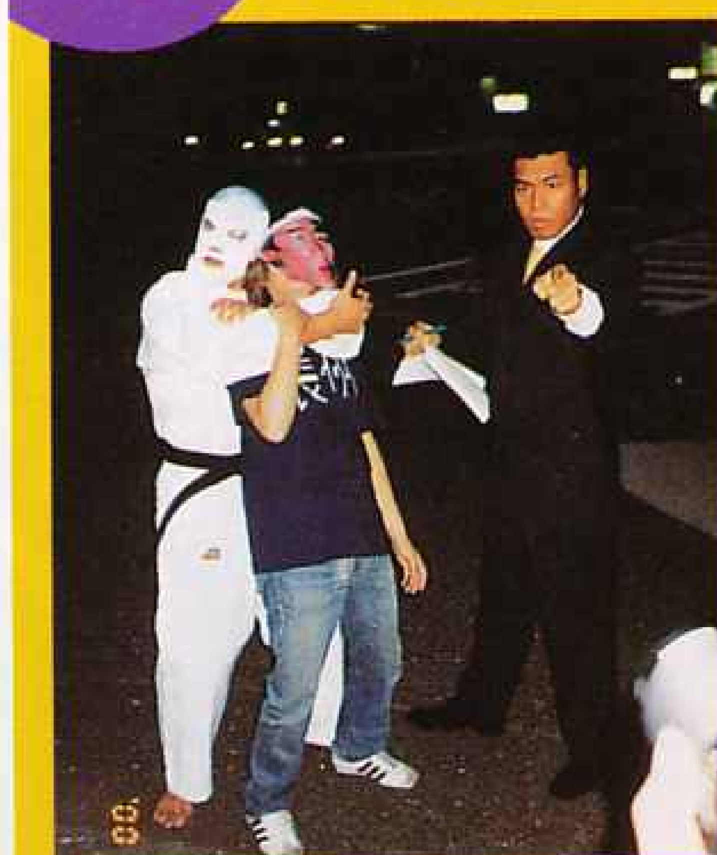
「絶対不可能」と言われた小川と橋本の一騎打ちを強権発動でフライング気味に実現させた藤波社長が、今度は「小川vs長州のバックアップ」を宣言。だが、長州が「やる」とも言ってない段階で、蚊帳の外から「長州は勝てない」と勝手に断言。「やる前から負けることを考える」のがダーク・ドラゴンなのか。さらに、「小川にプロレスラーの魂を叩き込めるのは猪木さん、長州、そしてボク」と力強く語った。現役にまだまだ未練たっぷりな藤波vs小川がもし実現したら、前田vs藤波をも凌駕する凄惨な試合になりそうな予感……。

## 5/13 【LLPW】中国・香港
### セクシーがテコンドー挑戦




秋に行われる格闘技大会を見据え、香港で行われたアジア・テコンドー選手権に風間社長が出場した。シュートボクシング出身だけに、活躍が期待されたが、左太ももの不調により1回戦でレフェリーストップ負け。足がダイナマイト・ボディを支えきらなかったのだろうか？

## 5/12 【UFO】『東京スポーツ』
### 白覆面Xが小川に「闇討ち」を伝授！



マット界にMr.ウォーリー以来の衝（笑）撃を与えた怪人・白覆面が、なんとUFO事務所に突然姿を現した！　まさに神出鬼没のUFOイズムが炸裂したわけだが、両者の共通の標的は、言わずと知れた長州である。「何の罪もないワタシまでチョーシューに殴られそうになった。チョーシューとはどういう人物なのか?」と白覆面が聞けば、「いつも“ねじりハチマギ”をして怒っているが結構、用心深い」「谷啓を長髪にしてゴツくした感じ」「動きはカブト虫のメスに酷似」と小川がムチャクチャかつ的確な説明。すると、「それは許せないヤツだ」と白覆面はあっさり納得。ホントかよ。そして「自分は闇討ちのプロ」であることを打ち明けると、路上の青年をいきなり闇討ち！　小川に闇討ちを伝授したという。なぜか他紙には載っていない発言も多かったのだが、『東スポ』の取材力は他の追随を許さないのである。VIVA!　『東スポ』！

【WWS】Mr.ポーゴが新団体「ワールド・ウイング・スピリット」旗揚げを発表

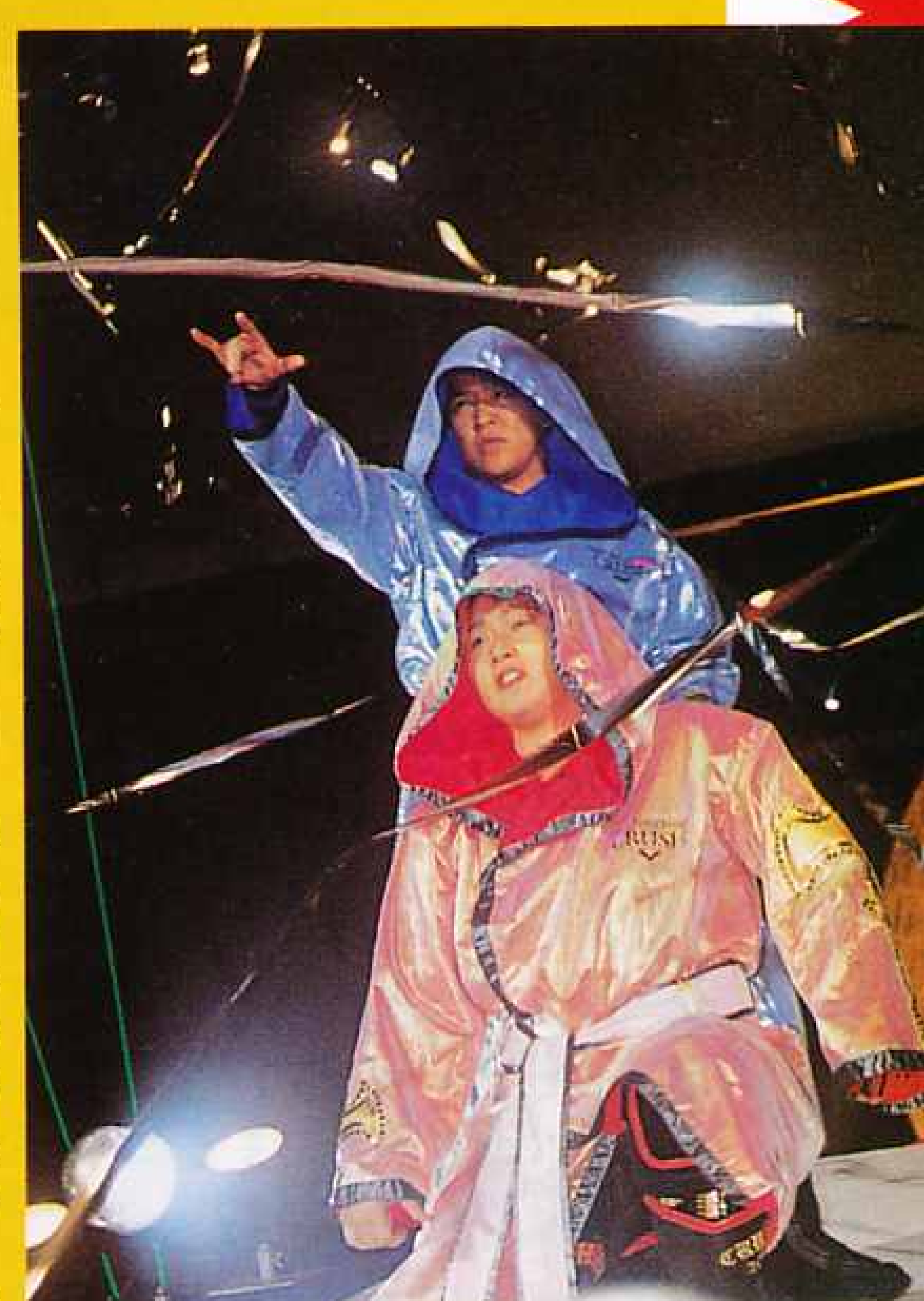
# とって出しスペシャル3本立て!!

## 5/14 【WEF】
### 山本宜久、タップアウト負け！　坂田亘は完勝！

ジェレミー・ホーンに負けたダメージが心配される山本は、ブランドン・リー・ヒンクルと対戦したが、１Ｒ２分21秒、チョークで失神負け。坂田はマンスール・ヘジダリに３－０で判定勝ち。他にはＷＥＦクルーザー級選手権で、デイブ・メネーがマッハの好敵手といわれるジョゼ・ペレ・ランジに２－０で判定勝ち。さらに『ＰＲＩＤＥ』参戦を控えたカーロス・ニュートンが復帰戦を飾った。スーパーヘビー級選手権はマーカス・コナン・シウヴェイラを１Ｒ４分46秒、肩固めで破ったダン・スバーンが新王者に！

【大日本】WECカップでザンディグを破り、シャドウWXが優勝！

## 【GAEA】東京・有明コロシアム
### ジャイジャイ日記　出張版　クラッシュ復活！



前号のクラッシュインタビューに無理矢理ついて行き大はしゃぎした結果、ＧＡＥＡ広報の中島さんより「寺島（ジャイ子の芸名）様はくれぐれも公私混同なさらないように、お願いします」という親切なファックスを頂戴しながらも、ついにこの日が来ました！　いや～、クラッシュ、カッコいいっつーの。『デラプロ』読みながら会場入り。ドキドキ。クラッシュ登場を控えたセミの里村vsアジャ戦では動悸が激しくなりロビーに回避して水をガブ飲みしたのも束の間、卑弥呼入場に続き、いよいよクラッシュ2000の入場。「Ｃ・Ｒ・Ｕ・Ｓ・Ｈ！」と懐かしのテーマが鳴り響く中、クラッシュ登場！　すっげー!!　カッコいい～!!　口開けっぱなしで見とれちゃったぁ。入場だけで気絶しそう。しないけどな。Ｗのサソリ固めで15年前の記憶がフラッシュバック、夢心地になってる間に試合が終わっちゃいましたぁ。しかし試合後が怖い！　飛鳥の「オレたちは時代の扉を開けた」とのアピールに、負けたデビルが「オマエらが開けたのは地獄の扉だ！」。え～っ？　マジ？　地獄の扉？　悪魔超人でも出て来んの？　当然ジャイ子は地獄までついて行きま～す。

## 5/15 【新日本】
### ダーク・ドラゴンにわずかな温情！


橋本よ 猪木なしで考えろ

ドタキャン食らっても
長が温情の結論先延ばし

ならブチ切れるか 2、3日待つ

ンのカウンター封じに自信

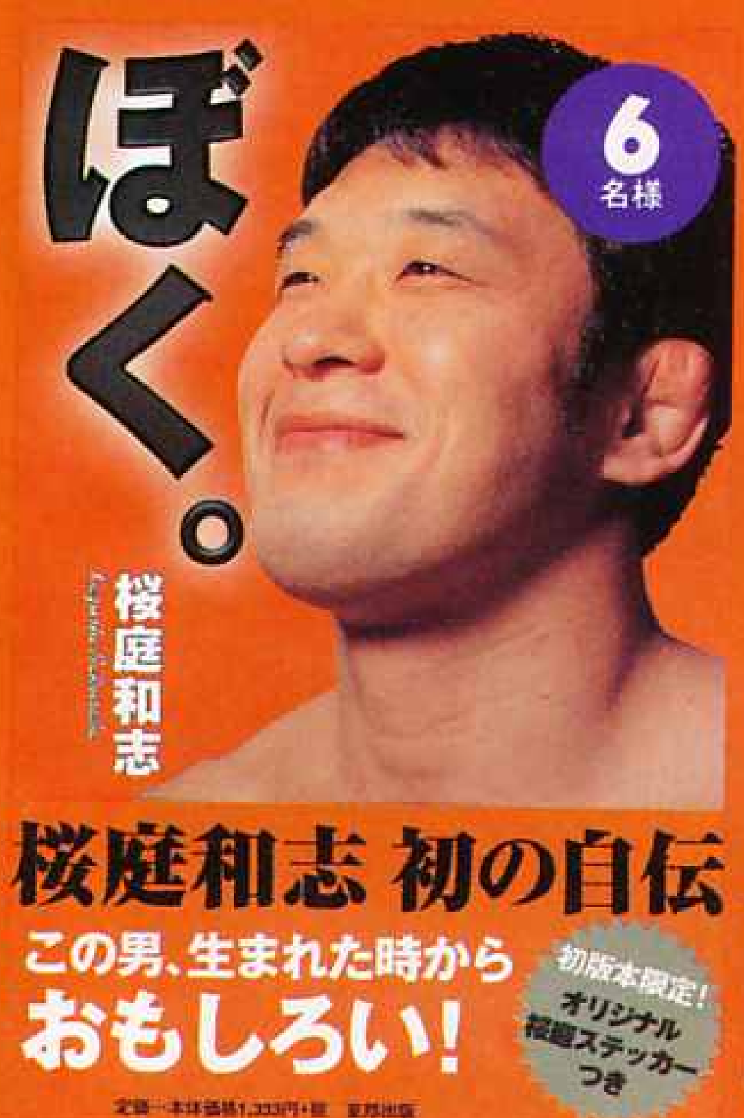
橋本の進退についてシビレを切らした藤波社長が、この日を期限に回答を要求した。場合によっては解雇も辞さないと強気な構えを見せていたのだが、健康診断が延びたため、破壊王はなんとドタキャン！　「個人的な事情ならオレもキレるところだが」と語り17日以降に結論は先送りとなった。相変わらず噛み合わない歯車を強引に回転させ続けるダーク・ドラゴンだが、わずかな優しさを見せた。猪木さんなしで、個人的な話がしたいというダーク・ドラゴンは、破壊王の心情にわずかな望みを託した形となった。

【リングス】前田日明がG・アイブル引き抜きの仕掛人K氏に「絶対逃さん！」と激怒。




# S.Sマシーン PRESENTS

祝、ホイス・グレイシーやっちゃった記念！　今回のプレゼントコーナーは驚くことこの上なし！　どうだい、見てくれ、すげえだろ。てなわけで、ドームで感動をくれたにも関わらず、読者諸君にもこんなステキすぎるプレゼントをくれたサク様。そりゃ、エリオも微笑み返しするさ。モチのロン！　エリオ&ホイス&ホリオンから応募があれば、被った写真を同封するというルール付きで優先的にプレゼントいたしますよ。




6名様

**桜庭和志の全てがわかる！**

**桜庭和志初自伝『ぼく。』**

一夜にして高田道場入門希望者を増殖させたサク。そのサク誕生からホイス戦まで全てがわかる！　というのにサクの人柄か？のほほ〜んとした気分で読めてしまうステキな自伝です。これを読んで桜庭和志を知れ。

【高田道場&東邦出版提供】

**高田道場も増殖だあーッ!!**




各4名様

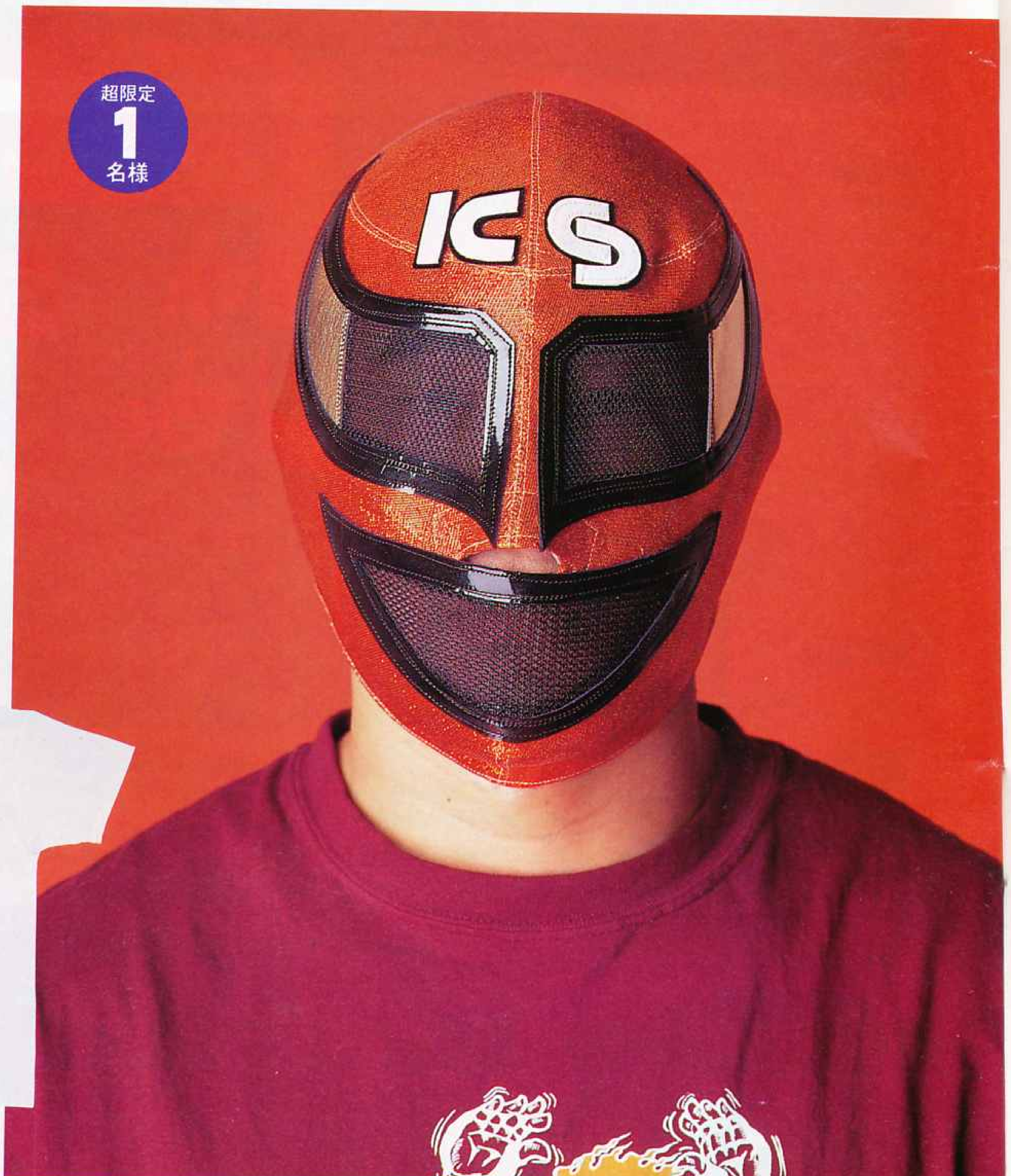
SIZE M　SIZE L

**高田道場Tシャツ**

ノブ兄さんもご愛用です。このTシャツを着てマシーンのみならず高田道場もろとも増殖しませう。高田道場ホームページアドレスhttp://www.takada.total.co.jp i モードオフィシャルサイトhttp://www.takada-dojo.com/iお問い合わせ☎03-5749-5030

【高田道場提供】

超限定1名様



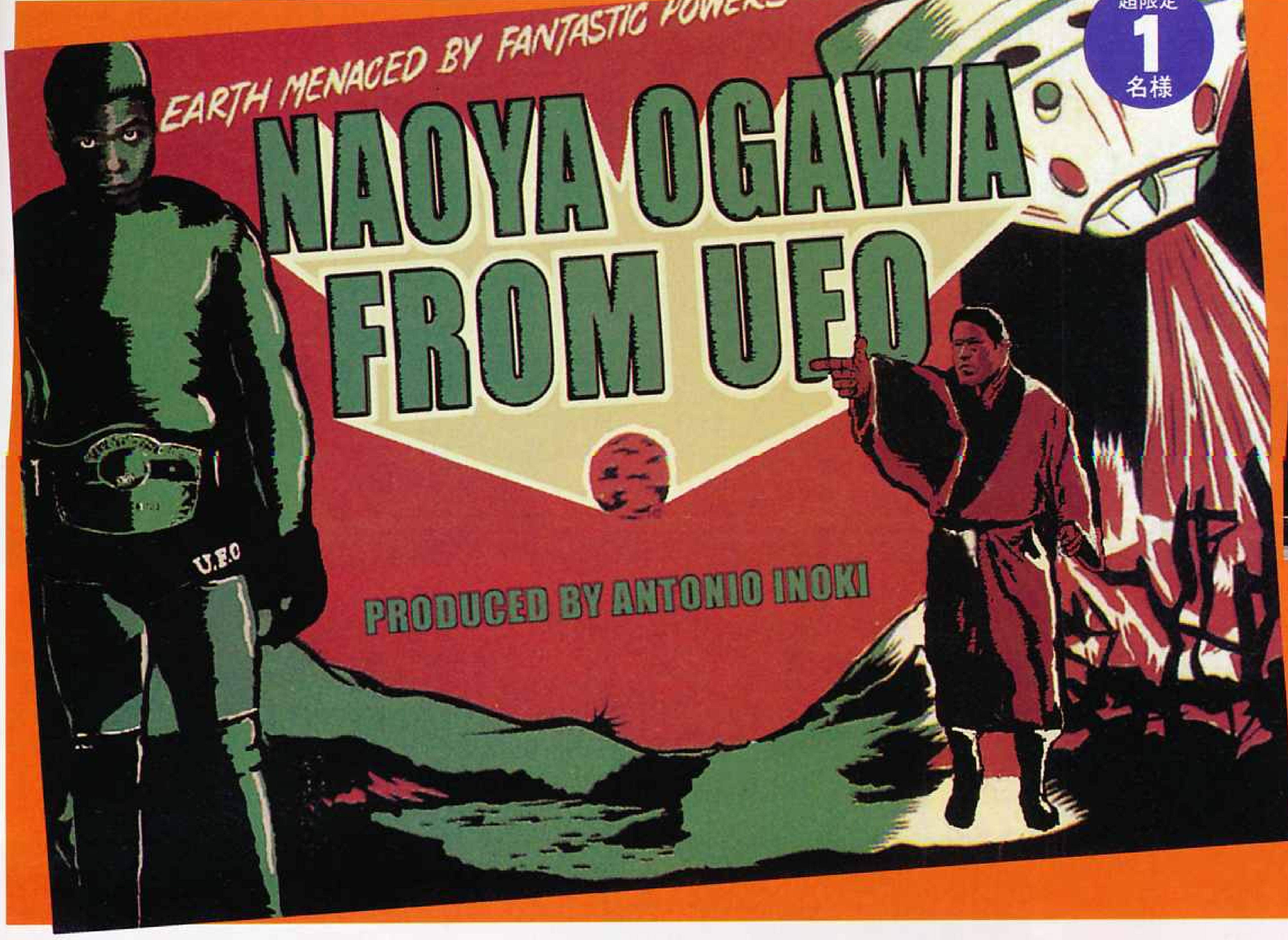
**ありがとう、サク!!**

**桜庭スーパーストロングマシンマスク**

♪ちゃんちゃちゃんちゃんちゃ……ぶぅお〜んと登場したオレンジのマスクマン3人衆。いやはや感動的でございました。その5・1東京ドーム対ホイス戦の時に着用したマスク（ボブチャンチン戦入場時着用の品）をプレゼントしちゃいます！　この日のために特注したマスクは全3枚。うち2枚は客席へ、ということは最後の1枚!?　サク様ありがとうございます。みなさまドシドシご応募くださいな。

【スーパーサクラバマシーン提供】

超限定
1
名様






## 天才画伯現る!

### 水道橋博士直筆『すばらしい絵画』

『NAOYA OGAWA FROM UFO』ですよ。間違いなく、博士直筆。そして、サイン入り! 激レアどころか世界に1枚! しかし博士画伯が絵心も兼ね揃えていらっしゃる慶応ボーイだったとは……。博士画伯ありがとうございます。

【水道橋博士提供】

## 花くま先生入魂!



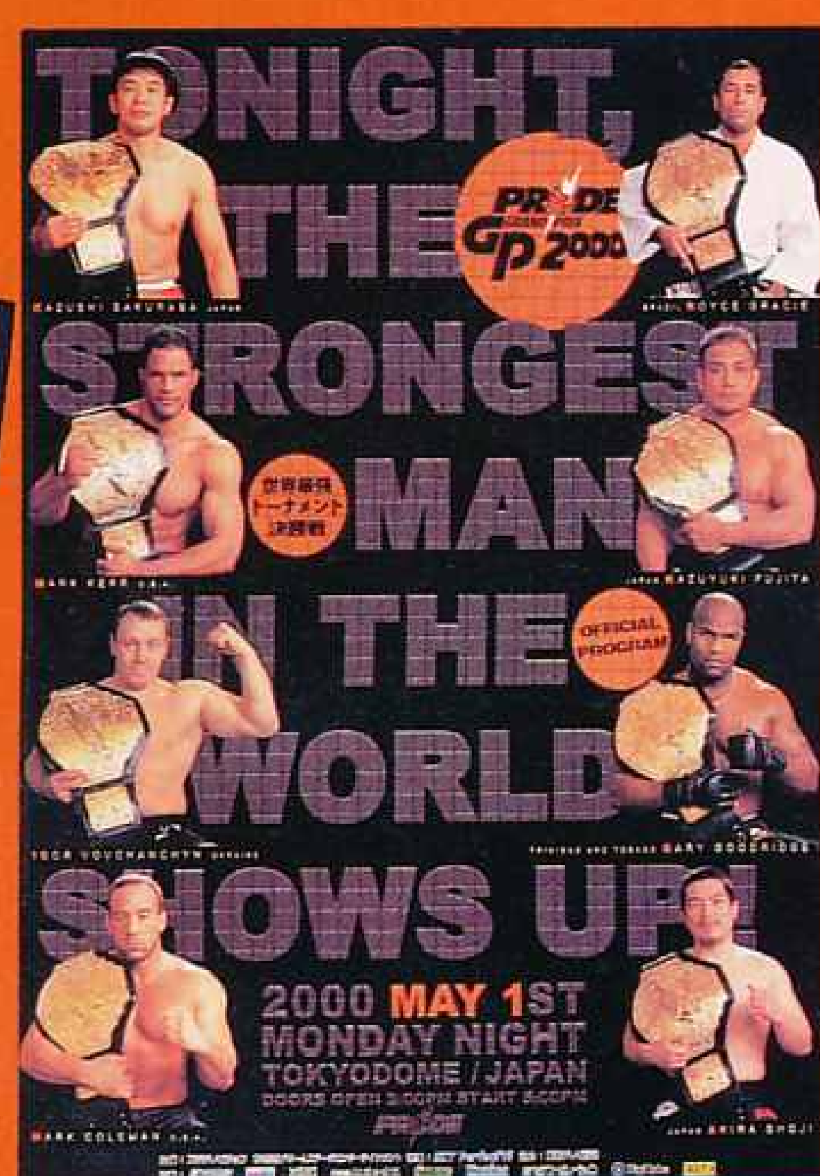

各
3
名様

### 『PRIDE』花くま先生『HOW TO WIN』Tシャツ、『目には目を2コマ』Tシャツ

花くまゆうさく先生書き下ろしの『PRIDE』Tシャツが登場! ハッキシ言ってメチャクチャかわいいです。¥3800(サイズはSMLXL)カラーは上の写真のみ。会場で手に入れられなかった人は、通信販売もやっちゃってくれます! お問い合わせ☎03-3552-6330

【ドリームステージエンターテインメント提供】

## 世界の『PRIDE・GP』を見ろ!







セットで
2
名様

### 『PRIDE』PPVポスター、吊り広告用ポスター

アメリカンではケン・シャムロックVSアレクサンダー大塚がメインで放送! しかも土曜日のゴールデンタイムだそうです。すげえよ『PRIDE』さん。

【ドリームステージテンターテインメント提供】

## ガンガン行ってくれ、アキラ兄ィ!!




1
名様

### 小路晃『AKLLER』Tシャツ

フラリとKINGSを訪れた晃兄さんが「ボクのTシャツも作ってよぉ~」ということで実現した、KINGS&バンバンビガロ最強タッグによるTシャツです。このカラーは慧舟會セコンド限定色。試合会場でも買えないKINGSのみの幻の1品。ブルーの他にレッド、グレー、ホワイト。サイズはMLXLあり。価格¥3900お問い合わせは藤田のところをご参照下さいな。

【ワールドスポーツプラザKINGS提供】

## 野獣魂、注入!




各
1
名様




### 藤田和之『#1魂』Tシャツ、『魂』CAP、『SOUL』CAP

ドーム を激震させたもう1人の男"野獣"藤田和之グッズ初登場! ブライアンジョンストンも着てますよん。お問い合わせ☎03-3407-7775

【ワールドスポーツプラザKINGS提供】

## 先着順でプレゼント!




**グランドコブラ『ブロディ』パーカー**
**(カラー白&ネイビー)**

待望のグランドコブラブランド『W=ARM FIGHTING ARTS』第1号! ブロディパーカー(¥13800)です。夏も目前ですが、今ならまだパーカーでもOKな季節のハズ……ということで急いでハガキを。お問い合わせ☎092-711-1021

【グランドコブラ提供】

## ワタシのフィギュアをアゲちゃうヨ!!







**エンセン井上&修斗くんフィギュア**

首の後ろの最新エンセンTATOOもちゃんと入っているフィギュア(Tシャツ&ランニング&スパッツ付き)。エンセンとくれば、やはり修斗くんの存在は忘れてはいけません(別売り)。ちなみにエンセンは腕にもTATOOを入れようと画策中らしい。エンセン¥12000、修斗くん¥2000。お問い合わせ☎03-5670-9283

【インスパイア提供】

**チーム死ぬまで大和魂Tシャツ、ピュアブレッドCAP、携帯ストラップ**

今回、『PRIDE』の会場でまだまだ大和魂Tシャツは不滅なんだなぁと感心。夏へ向けイーフォースさんからCAPまで頂いちゃった次第です。これで、エンセンの試合まで盛り上がってくださいまし。お問い合わせ☎047-3778-6400

【イーフォース提供】

## 打倒キッスの世界だ!!




**白鳥智香子デビューCD**
**『For YOU～孤高のヴィーナス』**

5・7大阪プロレスのリング上でも堂々披露していた白鳥智香子デビューシングルです。打倒キッスの世界! 売れたら即大阪戦士に焼き肉おごるスペシャルだそうです。ちなみに噂されている引退は否定しておりました。お問い合わせ☎03-3386-3324

【白鳥智香子オフィス提供】

## 世界のプロレスを見ないと死刑!




**『世界のプロレス』Tシャツ&コーラパワーズサイン**

イエーーイ、VIVAコーラパワーズ! 首都圏初見参記念つうことで頂きました。サイン&世界のプロレスTシャツのなです。カラーは白&黒。プリントは同じですよ。お問い合わせ☎093-203-5170

【世界のプロレス提供】

## これで猪木入り!?




**アントニオ猪木『THE AFTER』Tシャツ**

毎月1種類(全12種類)発売されるという猪木レジェンドTシャツ。しかも完全限定品とくれば、猪木信者のみならずGETしなくちゃ間に合いません! ワールドスポーツプラザKINGSは北は北海道、南は福岡までSHOPあり。お問い合わせ☎03-3407-7775

【ワールドスポーツプラザKINGS提供】

## ワシらが大阪新名物!!




**大阪プロレスせんべい**

お好み焼き味のせんべい(ソース&青海苔つき)。これ、正直に言うてごっついウマイ。ほんで、中を開けてビックリのオマケ付き(うちわ)というのも嬉しいねん。お問い合わせ☎06-6243-5131

【大阪プロレス提供】

## タイガーファンには涙もの……。




**『タイガーマスク』、『イエローデビル』、『グレートゼブラ』、『タイガーザグレート』、『ちびっこハウス』**

愛知といえばIVYブックスといわれるくらい有名な本屋さんから、ど～かんとタイガーシリーズが登場。『ちびっ子ハウス』まで作ってしまうのは脱帽です。問い合わせ☎0568-31-0727

SIZE L

【IVYブックス提供】

### 応募要項

希望商品が決まった方は、直ちにハガキに下記の要領で記入の上、送ってくださ～い。

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼本誌に対するご意見・ご要望をどうぞ!

【宛 先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「S・Sマシーン」係まで

※締切は6月15日です

## ヒャッ!? 最新最強読本




**『シュート・ザ・シュート弐**
**熱血プロレス＝格闘技読本』**

怒涛の勢いで単行本を生み落とすShow氏には脱帽です。山口以外あいさつもできずにすんまそん。恒例の本誌鬼畜編集長山口日昇インタビューですが、今回は「SRS DX」編集長谷川貞治氏との対談で～す。お問い合わせ☎03-5281-5248

【メディアワークス提供】

## この夏のマストアイテム!







**ジークンドー『IUMA水になれ』**
**『陰陽』(イエロー)Tシャツ**

最新ジークンドーTシャツ。茶目っ気たっぷりなプリントが可愛らしい1品です。格闘技Tシャツでちょいと毛色が違う物が欲しい! という人にオススメです。

【イーフォース提供】

# 紙のプロレス RADICAL

**No.27**

2000年6月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
大西タマリン
堀江ガンツ
八木賢太郎（サクに感動したため非番）

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
恒遠“おりこうさん”ツネ
中村愚乱
金田謙太郎
ジャイ子

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
海老沢 勇（ZERO graphics）
古賀ゆきえ

出前
出前持ち入江（TwoThree）

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
田中花海

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定
林ヘックション一枝

エロゲー三昧
中村カタブツ君（37歳）

フィニッシュ
ツー・スリー／さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）




編集内容等に関するお問い合せは
（株）ダブルクロスにするでごわす。はぁ～、どすこい!!

# みんなで広げよう!!

# 紙のプロレスTシャツの輪っ!!




見てみ、この笑顔！　なんと、『紙プロ』Ｔシャツは、ヘンゾ・グレイシー選手も愛用しています。前回の取材の時にプレゼントした『ＵＭＦ・Ｔシャツ』がことのほかお気に入りだったらしく、なんと来日時にそれを着用してきてくれたのです。こんな嬉しいことはないですな。地球の裏側で、ボクらと同じＴシャツを世界的スーパースターが着ているなんて！　そんな嬉しい話を聞いたら黙ってはいられません。本誌はＳＳＴシャツもプレゼントしちゃいました。大事に着てね、ヘンゾさん。というわけで、世界に羽ばたく『紙プロ』Ｔシャツは、これからもワールドワイドに展開していく予定です。そんなわけで、いま100枚や200枚しか作っていない限定Ｔシャツはいまのうちに買っておいてください。そのうちプレミアがつくはずです（ウソ）。




## SS Tシャツ半ソデ〈赤〉
**¥3,500**
**SorMorL**

すっかりおなじみになったプロレスＴシャツのNEWスタンダード！　花くまゆうさく先生・画。




## SS Tシャツ半ソデ〈紺〉
**¥3,500**
**SorMorL**

最近、某団体も似た色のＴシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ！同じく花くまゆうさく先生・画。




## SS Tシャツ長ソデ〈赤〉
**¥4,500**
**SorM**

この春はこれを着てプロレス観戦に出掛けよう！　花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！




## SS Tシャツ長ソデ〈紺〉
**¥4,500**
**SorM**

本誌のモットーであるスーダラ・スタイルを背負ってみよう！　花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！

### 通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも：ネックピースだけなら¥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！　これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。通販以外では『チャンピオン東京店＆大阪店』と札幌『リングパレス』で販売中なので、こちらもヨロシク！　こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

**〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702**
**株式会社ダブルクロス「買っていいとも!!」係まで**




## ジャイ子Tシャツ
**¥3,000　MorL**
**ホワイトorアッシュグレー**

スタイリストの伊賀大介さんもお気に入りの新作Ｔシャツ！　ハガキ劇場でおなじみの中川雅博画伯、入魂の作品です！

## 紙プロネックピース
**¥1,200**

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし！　こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ！　長そでＴシャツをお買いあげの方にはもれなくプレゼントします！



お問い合わせ先
（株）ダブルクロス
**TEL03-3403-5188**




## リングおじさんトレーナー
**¥5,500**
**MorL**

バックのロゴに見覚えが……!?　これからの季節、熱く燃えたい人はトレーナーを着てみよう！

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 138
2000 NO.27
「新プロレス」は連鎖する！ サク.ホイス完封記念号
平成12年6月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税




9784898296196
雑誌 69862-38
ISBN4-89829-619-X
C9476 ¥800E
1929476008008


印刷：図書印刷株式会社

# FLINDEX

| | | |
|---|---|---|
| 全日本プロレス | 03-3403-7344 | 〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12 |
| 新日本プロレス | 03-5468-3111 | 〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11 |
| FMW | 03-5496-0671 | 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F |
| リングス | 03-3461-0257 | 〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202 |
| WAR | 03-5477-0461 | 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F |
| みちのくプロレス | 019-626-1333 | 〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8 |
| SPWF | 03-3814-6371 | 〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル |
| パンクラス | 03-5792-0815 | 〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 |
| IWAジャパン | 03-3352-3366 | 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401 |
| 大日本プロレス | 045-937-0811 | 〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347 |
| バトラーツ | 0489-63-0005 | 〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町2-158-1 |
| DDT | 03-3356-8493 | 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内 |
| 髙田道場 | 03-5749-5030 | 〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1 |
| UFO | 03-5447-2121 | 〒108-0071 東京都港区白金台3-19-50 K白金台ビル7F |
| 大阪プロレス | 06-6243-5131 | 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301 |
| 闘龍門JAPAN | 078-362-0707 | 〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18 |
| ダイプロデュース(大仁田興行) | 03-5496-4900 | 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505 |
| 世界のプロレス | 093-203-5170 | 〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6 |
| 掣圏道 | 03-5456-7333 | 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607 |
| レッスル夢ファクトリー | 03-5828-8494 | 〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11 |
| キングダム・エルガイツ | 0423-31-2797 | 〒206-0822東京都稲城市坂浜2305 |
| キャプチャー | 044-959-3333 | 〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1 |
| 国際プロレス | 0467-86-0197 | 〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14 |
| メビウス | 03-5382-6991 | 〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15 |
| つぼプロモーション | 03-3498-4710 | 〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E |
| 華☆激 | 092-522-1901 | 〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302 |
| 喧嘩プロレス二瓶組 | 044-244-8942 | 〒212-0055 神奈川県川崎市川崎区南町18-17 第5大昭ビル502 |
| ZIPANG | 0427-54-8851 | 〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106 |
| T.A.M.A | 042-572-6795 | 〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5 |
| CMLL・JAPAN | 075-601-7816 | 〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151 |
| UNW | 03-3362-3014 | 〒164-0003 東京都中野区4-4-5-311 |
| 日本プロ・レスリング協会(JPWA) | 03-3351-2604 | 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-14-2F |
| 栗栖ジム | 06-6790-8896 | 〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7 |
| ドリームステージエンターテインメント | 03-3552-6300 | 〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9 新川第二ビル |
| K−1事務局 | 03-3796-2977 | 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14 |
| 修斗コミッション | 03-3961-2704 | 〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501 |
| WK/Network(和術慧舟會、A³GYM、RJW) | 03-5200-3546 | 〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F |
| シュートボクシング協会 | 03-3843-1212 | 〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F |
| UFC−J事務局 | 03-3343-2444 | 〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F |
| 怪獣王国 | 03-5952-1177 | 〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F |
| コロシアム2000 | 03-3432-1682 | 〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内 |
| 全日本女子プロレス | 03-3493-6541 | 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17 |
| JWP | 03-3839-4161 | 〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502 |
| LLPW | 03-3945-7926 | 〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105 |
| GAEA JAPAN | 03-3795-2555 | 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F |
| Jd' | 03-5561-0522 | 〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F |
| アルシオン | 03-5720-5217 | 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F |
| NEO | 03-5452-0344 | 〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-22-2-101 |

# TK & Okan





七五三のときに

## 見てみ この面(ツラ)ッ!!

小学校卒業時に

*to be continued........*

Jリーガーにもプロ野球選手にもいない素敵な顔のTKを生んだ“おかん”髙坂フミさんのインタビュー堂々掲載!!

## 衝撃の次号予告ピンナップ



マスクと道着は連鎖する!!　記念ピンナップ



5・1 桜庭和志＋ホイス・グレイシー
＝5・5白覆面X!?
お前、猪木だろ!?
（藤波調）

# AL CALENDAR

:30)
ター(時間未定)

(18:30)

)
)

(18:30)

0)
未定)
ル(18:30)♠
:30)

(18:30)

:30)

ホール(18:30)

館(18:30)

8:30)

0)
ングパレス(17:00)

ンボーホール(時間未定)★

:00)

LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■名古屋・ヤマギワソフト(14:00)
お問い合わせ☎052-265-2111

## 5 MON.

新日本■京都・亀岡市民体育館(18:30)
FMW■福島・福島市体育館(18:30)

## 6 TUE.

全日本■岩手・北上市和賀多目的催事場(18:30)
新日本■山口・宇部市俵田翁記念体育館(18:30)
FMW■福島・いわき市立総合体育館(18:30)
大阪■岩手・岩手県営体育館(18:30)
JWP■東京・JWPホール(19:00)
●『笑いは高年齢化社会を救えるか?』■東京・北沢タウンホール(19:00)
ゲスト ゆーとぴあ、マギー司郎、ポール牧 etc. そしてザ・グレート・サスケ特別参戦決定!! お問い合わせメインキャスト☎03-5459-8199

## 7 WED.

全日本■秋田・秋田県立体育館(18:30)
新日本■愛媛・今治市公会堂(18:30)
大阪■福島・福島国体記念体育館(18:30)
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)

## 8 THU.

新日本■香川・高松市総合体育館(18:30)

## 9 FRI.

全日本■東京・日本武道館(18:00)◎
新日本■大阪・大阪府立体育館(18:00)
FMW■千葉・多古町市民体育館(18:30)
大阪■宮城・仙台市泉総合体育館(18:30)

**『紙プロ』編集部おススメ興行**
★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
♥ 大西タマリン
◆ ガンツ堀江

## 10 SAT.

FMW■群馬・渋川市総合体育館(18:30)
みちのく■岩手・西根町ゲンデルランド(19:00)
バトラーツ■埼玉・所沢くすのきホール(18:00)
大阪■青森・青森県民体育館(18:30)
アルシオン■北海道・札幌テイセンホール(18:30)

## 11 SUN.

FMW■千葉・四街道市中央公園グラウンド(15:00)
みちのく■青森・弘前市河西体育センター(15:00)
掣圏道■神奈川・横浜アリーナ(18:00)♥
キングダム■東京・北沢タウンホール(アマチュア15:00、プロ17:00)
大阪■山形・山形県総合運動公園体育館(15:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(15:00)
アルシオン■北海道・小樽国際ホテル4F国際ホール(15:00)
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■東京・秋葉原ヤマギワソフト(14:00)
お問い合わせ☎03-5269-05513

## 13 TUE.

FMW■埼玉・深谷市民体育館(18:30)
みちのく■福島・小野町多目的研修集会施設(19:00)
Jd'■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■北海道・留萌市スポーツセンター(18:30)

## 14 WED.

FMW■千葉・流山市民総合体育館(18:30)
みちのく■宮城・蔵王町B&G海洋センター(18:30)
アルシオン■北海道・滝川市青少年体育センター(18:30)

## 15 THU.

リングス■東京・国立代々木競技場第二体育館(18:30)★◆
みちのく■岩手・宮古市千徳地区体育館(18:30)
JPWA■東京・後楽園ホール(19:00)♠

## 16 FRI.

FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■福島・塩川町民体育館(19:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■北海道・北見市立総合体育センター(18:30)

## 17 SAT.

みちのく■宮城・鹿島台町かまだ記念ホール(18:30)
アルシオン■北海道・網走市体育館(18:30)
●白鳥智香子CDキャンペーン■山口・プロレス喫茶ノーマ(15:00)
お問い合わせ☎083-924-7805

## 18 SUN.

みちのく■岩手・北上市多目的催事場屋内ゲートボール場(15:00)
バトラーツ■東京・TFMホール(13:00)
EAGLE■栃木・小山市文化センター(13:00)
アルシオン■北海道・鳥取ドーム(15:00)
JWP&全女■東京・後楽園ホール(12:30)
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■山口・テイクファイブ(15:00)
お問い合わせ☎0832-57-6111

## 20 TUE.

みちのく■秋田・大舘市民体育館(18:30)
アルシオン■北海道・根室市青少年センター(18:30)

## 21 WED.

FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■青森・六戸町民体育館(18:30)
アルシオン■北海道・帯広市総合体育館(18:30)

## 22 THU.

みちのく■山形・平田町民体育館(18:30)
アルシオン■北海道・苫小牧市総合体育館(18:30)

## 23 FRI.

みちのく■山形・尾花沢市体育館(18:30)
掣圏道■愛知・愛知県体育館(18:00)
アルシオン■北海道・旭川市大成市民センター(18:30)
●白鳥智香子CDキャンペーン■岡山・ぎんざやプレイガイド(18:30)
お問い合わせ☎086-222-3244

## 24 SAT.

みちのく■宮城・鳴子町スポーツセンター (18:30)
アルシオン■北海道・函館市民体育館(18:30)
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■香川・高松サティ(16:00)
お問い合わせ☎087-823-1012

## 25 SUN.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■福島・サンシャイン浪江(15:00)♥
GAEA■大阪・IMPホール(15:00)
アルシオン■北海道・岩見沢スポーツセンター(13:00)
●白鳥智香子CDキャンペーン■徳島・フクタレコード(14:00)
お問い合わせ☎088-652-7932

## 26 MON.

パンクラス■東京・後楽園ホール(19:00)

## 29 THU.

『P★MIX.GP』みちのく&バトラーツ&アルシオン■東京・後楽園ホール(18:30)★
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)

## 30 FRI.

バトラーツ■青森・青森体育館サブアリーナ(18:30)

# RADICAL CA

●はイベント情報です。

# 5 May

### 22 MON.
みちのく■鹿児島・川内市太陽パレス（18:30）
修斗■東京・後楽園ホール（18:30）

### 23 TUE.
全日本■秋田・大館市民体育館（18:30）
新日本■石川・石川産業展示会館1号館（18:30）
みちのく■鹿児島・串良平和アリーナ（18:30）

### 24 WED.
全日本■青森・総合運動公園体育館（18:30）
新日本■富山・高岡テクノドーム（18:30）
みちのく■宮崎・砂土原町立体育館（18:30）
IWA■岩手・一関文化センター体育館（18:30）

### 25 THU.
全日本■岩手・矢巾町民総合体育館（18:30）
みちのく■大分・竹田市勤労センター（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）◎
IWA■青森・むつ市民体育館（18:30）
全女■岐阜・岐阜産業会館（18:30）
アルシオン■茨城・鏡町民体育館（18:30）
●島田裕二プロデュースイベント『コロシアム2000はどうなる!?』■東京・渋谷ロックウエスト　（19:00）ゲスト谷川貞治（『SRS DX』編集長）本誌編集長山口日昇も参戦決定!!

### 26 FRI.
コロシアム2000■東京・東京ドーム（18:30）◆
全日本■新潟・新潟市体育館（18:30）
新日本■愛知・春日井市総合体育館（18:30）
みちのく■宮崎・都城市体育館（18:30）
アルシオン■長野・塩尻市立体育館（18:30）

### 27 SAT.
全日本■福島・ビッグパレットふくしま（18:30）
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館（18:30）
FMW■神奈川・伊勢原食品市場（18:00）
みちのく■福岡・甘木市甘木青果市場（18:30）
IWA■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
アルシオン■長野・諏訪湖スポーツセンター（18:30）
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■大阪・難波モーニングプロダクション（16:00）お問い合わせ☎06-6648-9512

### 28 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
新日本■長野・長野運動公園総合体育館（15:00）
FMW■東京・後楽園ホール（18:30）
みちのく■福岡・行橋市民体育館（17:00）
バトラーツ■東京・TFMホール（時間未定）
大日本■栃木・益子町陶芸広場特設体育館（14:00）
DDT■東京・葛飾区金町地区センター（15:00）
掣圏道■千葉・タラカタスポーツセンター（15:00）
大阪■大阪・梅田HEAT BEAT（17:00）
全女&JWP■東京・日本青年館（12:00）
Jd'■東京・アルーンホール（14:00）
アルシオン■大阪・はびきのコロセアム（18:30）
K－1■北海道・北海道立総合スポーツセンター（時間未定）

### 29 MON.
全日本■長野・飯田市勤労者体育センター（18:30）
新日本■長野・佐久市総合体育館（18:30）
みちのく■佐賀・唐津市文化体育館（18:30）
アルシオン■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）

### 30 TUE.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
新日本■茨城・つくばカピオ（18:30）
FMW■茨城・笠間市民体育館（18:30）
大日本■新潟・上越市厚生南体育館（18:30）
キャプチャー■静岡・キラメッセぬまづ（時間未定）
つぼプロモーション■東京・北沢タウンホール（18:30）♠
全女■静岡・藤枝市駅前南多目的広場（18:30）

### 31 WED.
全日本■京都・KBSホール（18:30）
FMW■青森・十和田市民体育館（18:30）
大日本■山形・酒田市営体育館（18:30）
NEO■東京・北沢タウンホール（19:00）

# 6 June

### 1 THU.
新日本■埼玉・久喜市総合体育館（18:30）
FMW■青森・青森県民体育館サブアリーナ（18:30）
闘龍門■愛知・豊橋市総合体育館（18:30）
Jd'■東京・北沢タウンホール（19:00）

### 2 FRI.
全日本■長野・諏訪湖スポーツセンター（18:30）
新日本■東京・日本武道館（18:00）
FMW■岩手・雫石町営体育館（18:30）
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋区立産文ホール（18:30）
闘龍門■神奈川・川崎市体育館（18:00）
アルシオン■長野・長野運動公園総合体育館（18:30）

### 3 SAT.
新日本■三重・津市体育館（18:00）
FMW■岩手・北上市加賀多目的催事場（18:30）
大阪■新潟・新潟フェイズ（19:00）
アルシオン■長野・駒ヶ根市民体育館（18:30）
●白鳥智香子CDデビューキャンペーン■北海道・リングパレス（17:00）お問い合わせ☎011-261-5580

### 4 SUN.
PRIDE.9■愛知・名古屋市総合体育館レインボーホール（時間未定）★
全日本■静岡・アクトシティ浜松（17:00）
FMW■茨城・古河市体育館（15:00）
闘龍門■兵庫・神戸ワールド記念ホール（17:00）
大阪■宮城・岩沼市民体育センター（15:00）
LLPW■東京
●白鳥智香子
お問い合わせ

### 5 MON.
新日本■京都
FMW■福島

### 6 TUE.
全日本■岩手
新日本■山口
FMW■福島
大阪■岩手・
JWP■東京
●『笑いは高年
ゲスト ゆーとひ
定!! お問い合

### 7 WED.
全日本■秋田
新日本■愛媛
大阪■福島・
アルシオン■

### 8 THU.
新日本■香川

### 9 FRI.
全日本■東京
新日本■大阪
FMW■千葉・
大阪■宮城・

### 10 SAT.
FMW■群馬・
みちのく■岩手
バトラーツ■埼
大阪■青森・
アルシオン■北

### 11 SUN.
FMW■千葉・
みちのく■青森
掣圏道■神奈
キングダム■東
大阪■山形・
GAEA■東京
Jd'■大阪・N
アルシオン■北
●白鳥智香子C
お問い合わせ☎

### 13 TUE.
FMW■埼玉・
みちのく■福島
Jd'■東京・後
アルシオン■北

### 14 WED.
FMW■千葉・
みちのく■宮城
アルシオン■北

### 15 THU.
リングス■東京
みちのく■岩手